

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成18年6月

松江工業高等専門学校

目 次

I	対象高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	2 5
	基準3 教員及び教育支援者	5 5
	基準4 学生の受入	8 5
	基準5 教育内容及び方法	1 1 1
	基準6 教育の成果	1 6 9
	基準7 学生支援等	2 1 3
	基準8 施設・設備	2 4 7
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	2 7 7
	基準10 財務	3 1 3
	基準11 管理運営	3 4 9
IV	選択的評価事項に係る目的	3 8 3
	選択的評価事項A 研究活動の状況	3 8 7
	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	4 0 3

I 対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

松江工業高等専門学校

(2) 所在地

島根県松江市西生馬町14-4

(3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気工学科，
電子制御工学科，情報工学科，
環境・建設工学科(土木工学科)

専攻科：生産・建設システム工学専攻，
電子情報システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成18年5月1日現在）

学生数

単位：名

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	43	42	41	40	39	205
電気工学科	44	48	42	51	44	229
電子制御工学科	43	41	42	47	35	208
情報工学科	44	43	45	38	44	214
環境・建設工学科	43	40	43			126
土木工学科				47	41	88
計	217	214	213	223	203	1070

専攻科課程	1年	2年	計
生産・建設システム工学専攻	8	12	20
電子情報システム工学専攻	27	23	50
計	35	35	70

教員数

単位：名

区 分	教授	助教授	講師	助手	計
一般科目	7	14	1	0	22
機械工学科	5	4	0	2	11
電気工学科	5	2	2	1	10
電子制御工学科	6	5	0	1	12
情報工学科	4	4	1	2	11
環境・建設工学科	4	4	0	2	10
計	31	33	4	8	76

2 特徴

本校は、島根県と松江市の多大な支援によって、本県における唯一の工学系高等教育機関として、昭和39年4月に設置された。当初は、機械工学科，電気工学科，土木工学科の3学科であったが、昭和44年4月に、制御工学・生産管理・塑性加工学を柱とする生産機械工学科が設置された。その後、社会のニーズに対応するため、昭和62年4月に生産機械工学科を発展的に改組して、メカトロニクス・システム制御を柱とする電子制御工学科を設置、平成4年4月に、情報工学科を新設、さらに、平成16年4月に、土木工学科を環境・建設工学科に改称して現在に至っている。また、平成14年4月には、生産・

建設システム工学専攻と電子情報システム工学専攻の2専攻からなる専攻科が設置された。各専攻は、それぞれ、準学士課程の機械工学科・土木工学科，電気工学科・電子制御工学科・情報工学科が母体となっている。

本校では「学ぶ姿勢，創る意欲，エンジニアとしての意志」を兼ね備えた技術者を最終的な目標とし、その下で全学科共通の目標，学科ごとの目標及び専攻科の目標を段階的に設定してカリキュラムを編成している。学生一人一人がその個性・能力・興味に相応しい講義を選択受講して，修得単位を積み上げていく，学年制と単位制を併用したシステムをとっている。1年生では学科の垣根を設けない混成学級とし，上級学年においても他学科と共通の専門科目を数多く用意して，幅広い専門知識の修得を可能としている。さらに，学生が取得した様々な資格を「特別学修」として単位認定し，余暇を活用した，向上心のある学生の取り組みを評価できるようにしている。

一方，本県唯一の工学系高等教育機関であるという立地条件に鑑み，本校では地元企業や自治体との連携を強化し，産官学共同研究も積極的に進めている。平成13年10月には約100社の地元企業との連携組織「松江テクノフォーラム」を立ち上げ，平成18年3月には環境・建設工学科が島根県土木部と協力協定を結ぶなど，「地域共同テクノセンター」を核とした連携活動を発展させてきた。このような実績に基づいて，平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に「地域ニーズ対応型教育の実践」を申請し採択された。このプログラムは，卒業研究などに技術的な地域ニーズを取上げて地域密着型の実践教育を実施することにより，本校の教育自身を活性化・高度化すると同時に，地域の活性化にも貢献することを目指している。

工業高等専門学校という性格上，本校でも「ものづくり教育」に力を入れており，その成果は，プログラミングコンテストで平成15，16年度文部科学大臣賞受賞，ロボットコンテストで平成16年度優勝などとして現われている。また，体育系，文科系の部活動も活発で，学生の加入率も高い。平成17年度は全国高専体育大会で団体競技三種目，個人競技一種目で優勝するなど，毎年のように好成績を収めている。

Ⅱ 目的

本校は、高等専門学校の「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」の目的に沿い、健全な心身を保ち、自己を常に向上させようとする「学び」の姿勢、新たな形をいかなる困難にも負けず「創り」上げようとする意欲、そして技術の進化や地域・国際社会、福祉、地球環境保全に貢献する意志、以上の3点を兼ね備えた「エンジニア」の育成を図るため、次の教育理念及び教育目標を掲げ教育を行う。

《松江高専教育理念》（準学士卒業生及び専攻科修了生の将来的目標）

『創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア』

学校とは、人間的成長を促す場である。

「学ぶ」ことは、その成長の核心にあり、生涯持ち続けるべき姿勢である。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするからこそ「学ぶ」ことにほかならない。本校は、工学を学ぶ志を持った学生に対し、人間的成長はもとより、創造的な「エンジニア」をめざした教育を行う使命を持つ。

「創造力」とは、新たな形をつくり上げる力である。ただし、ただ創造的であるだけでは、本校がめざすべき「エンジニア」とはいえない。人工物は、利用者との相互作用によって絶えず進化していく。そのため、エンジニアには、地域あるいは世界中の人々との視点の共有が必要となる。多角的な視点を確保するための教養、他者との対話力、協働するための団結力、協調性が求められるのである。そして、真に創造的であるためには、情報を収集し分析する能力、および、確実な基礎に裏打ちされた技術を駆使し、対象によってさまざまに異なる問題を解決しようとする意欲が不可欠となる。

さらに、21世紀を生きる人間として、欠いてはならない倫理観がある。すなわち、単に自己や所属する組織の利益にもとづく行動ではなく、時にはそれらに反しても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民としての倫理観がそれである。それは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を内包するものでもなければならぬ。その視線は、地球環境への配慮を当然の帰結とする。

自己を成長させるだけでなく、技術の進化や地域・国際社会、地球環境保全に貢献できる「エンジニア」こそが、われわれの理想である。本校における教育は、このような「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」をめざすものである。

《松江高専教育目標》

『学んで 創れる エンジニア』の育成

ま：教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢

つ：さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

え：世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

上述の松江高専教育目標を基に、準学士課程各学科及び専攻科各専攻において、次のような能力を育成する目標を設定し、教育を行う。

I 準学士課程

〈全学科共通目標〉

- 1 日本語による記述・理解・発表等の基礎能力がある。
- 2 日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。
- 3 外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。
- 4 自然科学に関する基礎的な知識がある。

- 5 社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。

〈機械工学科教育目標〉

- 1 機械工学に関する基礎的な専門知識がある。
- 2 モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。
- 3 コンピュータを、機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。
- 4 実験・研究の結果を解析，考察できる基礎能力がある。

〈電気工学科教育目標〉

- 1 電気・電子機器を扱うための基礎的な専門知識がある。
- 2 電気・電子機器を作るための専門的な基礎能力がある。
- 3 コンピュータを用い，情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。
- 4 データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。

〈電子制御工学科教育目標〉

- 1 電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。
- 2 機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。
- 3 制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。
- 4 各分野の知識を，ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。
- 5 データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。

〈情報工学科教育目標〉

- 1 コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎的な専門知識がある。
- 2 コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎的な専門知識がある。
- 3 コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎的な専門知識がある。
- 4 データを解析・考察し，説明できる基礎能力がある。
- 5 コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。

〈環境・建設工学科（土木工学科）教育目標〉

- 1 構造力学，土質工学，水理学，建設材料学，環境工学に関する基礎的な知識がある。
- 2 実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。
- 3 設計製図，情報処理，測量に関する基礎的な技術がある。
- 4 災害を防ぎ，環境を守る技術の基礎的な知識がある。

II 専攻科

〈生産・建設システム工学専攻教育目標〉

- 1 機械工学，環境・建設工学いずれかの分野を基礎として，それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。
- 2 基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。
- 3 他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。

〈電子情報システム工学専攻教育目標〉

- 1 電気・電子工学，制御工学，情報工学いずれかの分野を基礎として，それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。
- 2 基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。
- 3 他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校は，学校教育法第 70 条の 2 に基づき，独立行政法人国立高等専門学校機構法第 3 条により設置された高等専門学校であり，その目的は，学校教育法において「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する」ことであり，また，独立行政法人国立高等専門学校機構法において「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに，我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」と定められている。

本校の準学士課程は，昭和 39 年 4 月に設置され学則第 1 条において，専攻科課程は，平成 14 年 4 月に設置され学則第 41 条において，それぞれ目的を定めている。(資料 1-1-①-1)

「教育理念」を『創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア』と，「教育目標」を『「学んで 創れる エンジニア」の育成』とそれぞれ定めている。(資料 1-1-①-2)

中期計画においては，「養成すべき人材像」を準学士課程と専攻科課程との違いを明確にしている。(資料 1-1-①-3)

資料 1-1-①-1

学則 (抜粋)

第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 本校は，教育基本法にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 8 章 専攻科

(目的)

第 41 条 専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，更に高度な専門知識と技術を教授し，創造力豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(出典 松江工業高等専門学校規則集)

資料 1 - 1 - ① - 2 A

教育理念・教育目標

教育理念・教育目標

Educational Principles, Educational Objectives

松江工業高等専門学校 教育理念(本科卒業生および専攻科修了生の将来的目標)

Matsue National College of Technology Educational Principles

「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」

We aim to educate students to be international engineers, with creative ability and well versed in practical techniques

学校とは、人間的成長を促す場である。

「学ぶ」ことは、その成長の核心にあり、生涯持ち続けるべき姿勢である。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするところこそ「学ぶ」ことにほかならない。本校は、工学を学ぶ志を持った学生に対し、人間的成長はもとより、創造的な「エンジニア」をめざした教育を行う使命を持つ。

「創造力」とは、新たな形をつくり上げる力である。ただし、ただ創造的であるだけでは、本校がめざすべき「エンジニア」とはいえない。人工物は、利用者との相互作用によって絶えず進化していく。そのため、エンジニアには、地域あるいは世界中の人々との視点の共有が必要となる。多角的な視点を確保するための教養、他者との対話力、協働するための団結力、協調性が求められるのである。そして、真に創造的であるためには、情報を収集し分析する能力、および、確実な基礎に裏打ちされた技術を駆使し、対象によってさまざま異なる問題を解決しようとする意欲が不可欠となる。

さらに、21 世紀を生きる人間として、欠いてはならない倫理観がある。すなわち、単に自己や所属する組織の利益にもとづく行動ではなく、時にはそれらに反しても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民としての倫理観がそれである。それは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を内包するものでもなければならない。その視線は、地球環境への配慮を当然の帰結とする。

自己を成長させるだけでなく、技術の進化や地域・国際社会、地球環境保全に貢献できる「エンジニア」こそが、われわれの理想である。

本校における教育は、このような「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」をめざすものである。

A school should be a place where students can realize their potential as human beings.

Learning is at the root of human development and a desire to learn is something we should sustain throughout our lives. We should all try to develop ourselves with a sound mind and body. Therefore our mission is to provide education aimed at fostering not only the development of engineers but also the human development of students exhibiting the will to become engineers.

We place great emphasis on creativity, the ability to produce something innovative. However we don't want to educate engineers at this school who have only creative abilities. We aim to produce graduates who can also cope with continuous industrial progress. Manufacturers are continually required to modify products to meet changing customer demand. Therefore engineers need to share a common view with people from their community or from all over the world. To acquire such a universal perspective, engineers should have sophistication, communicative ability, team spirit and be able to work cooperatively. Also they need the ability to gather information and analyze it, and the enthusiasm to solve various problems using basic skills. This is a measure of true creativity.

Moreover people living in 21st century cannot ignore ethical considerations. Even though we sometimes take inappropriate or inefficient actions work against the good of ourselves or the institutions we belong to, we should always work with the vision of global citizenship. By adopting this ethos, we are able to influence current and future generations to work towards protection of the global environment.

The ideal engineer is not one who is willing to work only to develop themselves, but the one who can contribute to technical revolution and community or global environmental preservation activities.

Therefore, the education at this college aims to educate such international engineers with creativity and practical skills.

教育理念に基づいた本校(本科および専攻科)の教育目標

Educational Objectives for Matsue National College of Technology

『学んで創れるエンジニア』の育成

Our college aims to educate students to be creative engineers with the ability to learn.

ま
MAtsue

教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢

To give students the desire to improve their expertise and communication skills, and widen their cultural perspectives.

つ
MaTSUe

さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

To give students a zest for creativity, making observations with a broad, sound and sensitive view.

え
MatsUE

世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

To give students the motivation to advance technologies that will facilitate the natural environment, and to contribute to international society.

- 2 -

(出典 学校要覧 2006)

資料 1 - 1 - ① - 2 B

教育目標

【松江工業高等専門学校 本科・専攻科 教育目標】

Matsue National College of Technology Educational Objectives

教育理念に基づいた本校の教育目標を基に、本科(各学科)及び専攻科の教育目標が定められています。(11・13・15・17・19・21・30 頁参照)

These all objectives are prescribed based on our educational principles. (Cf. p11,p13,p15,p17,p19,p21,p30)

【松江工業高等専門学校 JABEE「システム技術教育プログラム」の教育目標】

Matsue National College of Technology JABEE Program Accreditation Educational Objectives

本科・専攻科の教育目標を基に、JABEE「システム技術教育プログラム」の教育目標が定められています。(5・6 頁参照)

These all objectives are prescribed based on our educational objectives.(Cf. pp5-6)

【松江工業高等専門学校における研究に関する目標・方針】

Matsue National College of Technology Research Objectives and Policy

本校の教育目標を達成するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。

このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

It is essential that we develop faculty who cope with social and industrial progress and advances in order to achieve our educational objectives. Therefore all the faculty make efforts to develop and strengthen their educational and research ability through attending international conferences or programs of faculty development, and implementing collaborative research projects with other tertiary educational institutes or companies to keep abreast of the latest educational or research trends.

【松江工業高等専門学校における社会との連携及び国際交流に関する目標・方針】

Matsue National College of Technology Cooperation with Community and International Affairs

本校では、社会・地域に貢献できる創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニアを教育理念として掲げている。このことから教育研究活動において、地域のニーズに即した課題に積極的に取り組み、成果を地域社会に還元するとともに、本校学生に校外実習等の機会を積極的に提供し、実践的技術力の向上と社会性の養成につとめる。また、本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる。国際交流についても留学生を積極的に受け入れるとともに本校学生の海外研修を推進する。

This college aims to educate international engineers with creativity and practical skills who can contribute to community. Therefore we focus on solving problems in the community and try to feed achievements back into the community. We hold open classes to contribute to the enhancement of our community. Also we give our students the opportunity to take up internships to improve their practical skills and foster their sociability.

We maintain a very positive attitude to international students and also send our students to programs abroad.

教育目標に込めた松江工業高等専門学校の「人づくり」への思い

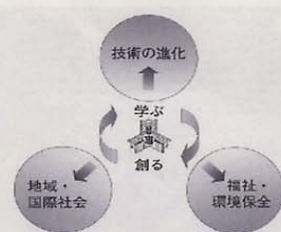
The Principles of our Educational Objectives:

本校章のモチーフは、所在地島根県の県木「黒松」です。中心に置かれた高専の文字から若芽が三方に伸びて、さらに大きく成長しようとする力強さを表しています。また、三方に伸びた芽が、「人づくり」の「人」の字を形成し、人としての成長だけでなく、人に役立つ人材の育成をも表しています。

本校では、健全な心身を保ち自己を常に向上させようとする「学び」の姿勢、新たな形をいかなる困難にも負けず「創り」上げようとする意欲、そして技術の進化や地域・国際社会、福祉、地球環境保全に貢献する意志、以上の3点を兼ね備えた「エンジニア」の育成を目標として教育を行っています。

The prefectural tree of Shimane, the site of our college, is the Japanese black pine. In the symbol of our college, the young needles of the black pine are growing in three directions from the center, forming the Japanese character HITO, meaning "people". This character symbolizes our school principle, that we develop good personalities beneficial to society. The expression in Japanese is "HITOUZUKURI".

We train engineers of sound mind and body who are willing to learn, who have creative energy, who do not yield to difficulties, and who desire to work to benefit society and to advance technologies to conserve the globe and the environment.



資料 1 - 1 - ① - 3

松江工業高等専門学校中期計画（抜粋）

（前 文）

○教育理念

夢づくり、ものづくりを主体として、自己実現能力を備えた国際的にも活躍できる実践的技術者を養成する。

○養成すべき人材像

本科においては、自己を常に向上させようとする「学び」の姿勢、さまざまな視点から対象を観察し新たな形を「創り」あげようとする意欲、技術の進化や地域・国際社会、福祉、地球環境保全に貢献する意志の3点を兼ね備えた実践的技術者を養成する。

専攻科においては、より高度な専門的知識を学修することによって、産業界や地域が期待する幅広い分野で活躍できる技術開発能力を持った実践的技術者を養成する。

（出典 松江工業高等専門学校「中期計画」）

準学士課程の学科は、機械工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境・建設工学科の5学科で構成されている。環境・建設工学科は、平成16年4月に時代の要請に応え土木工学科を改称したものである。各学科に共通する一般科目を含め、各学科の教育目標を定めている。（Ⅱ 目的 参照）

専攻科課程の専攻は、生産・建設システム工学専攻と電子情報システム工学専攻の2専攻で構成されている。いずれの専攻も複合型専攻であり、各専攻の教育目標を定めている。（Ⅱ 目的 参照）また、キーワードとして、「研究開発能力」、「専門知識」、「職業倫理」、「国際性」の4項目を定めている。（資料1-1-①-4）

資料 1 - 1 - ① - 4

専攻科教育目標キーワード

★ 研究開発能力

特別研究・特別実験を通して、エンジニアに求められる創造性、独創性を養う。

★ 専門知識

専門分野を深く掘り下げて学修することはもとより、関連する分野の基礎と本質を理解し、多角的視野に立脚した実践力・応用力を身につける。

★ 職業倫理

人間性を考慮し、環境に配慮するエンジニアとしての行動規範・倫理観を持つ。

★ 国際性

国際的に価値ある情報発信を目指し、グローバル社会において必要不可欠である英語コミュニケーション能力を身につける。

（出典 専攻科履修ガイドブック 平成18年度入学生用）

(分析結果とその根拠理由)

本校は、『「学んで 創れる エンジニア」の育成』を教育目標に掲げている。これは、機械、電気、電子制御、情報工学、環境・建設に関連する様々な専門技術を活用しながら分野を超えて社会に貢献し、地球環境を守るシステムを構築できる国際的なエンジニアを育成することを目指すものであり、それぞれの頭文字は、所在地の松江市を意識したものである。

また、これを受け各学科及び各専攻においては、育成する目標をより具体的に設定している。

以上のことから、本校は高等専門学校として目的を明確に定めている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

本校の目的及びそれにかかる教育目標は、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に規定されている目的に基づいて設定したものである。又、教育課程は5学科とも、技術者として必要な知識と職業に必要な能力を5年間一貫教育の特徴を最大限活かして展開している。以上のことから高等専門学校一般に求められる目的に合致している。

学校教育法に定められている目的と本校の教育目標、各学科の目標を比較したものが(資料1-1-①-5)である。

(2) 専攻科課程

専攻科課程の教育理念、学習・教育目標及び各専攻の教育方針に基づき、両専攻において個々の専門科目の深化とその融合領域に関する教育、並びに特別研究指導が行われている。又、社会から要請される能力等に対しても、育成すべき技術者像を明らかにしている。(前掲 資料1-1-①-3)以上のことから高等専門学校一般に求められる目的に合致している。

学校教育法に定められている目的と本校の教育目標、各学科の目標を比較したものが(資料1-1-①-5)である。

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

学校教育法、独立行政法人国立高等専門学校機構法に規定されている目的の達成を明確に意識したうえで策定した本校の教育目標は、高等専門学校一般に求められる目的から外れるものではない。

(2) 専攻科課程

専攻科課程の教育理念、学習・教育目標及び各専攻の教育方針に基づく教育内容や育成すべき技術者像からあきらかなように、高等専門学校の目的から外れるものではない。又、学校教育法第70条の6第2項に規定された専攻科課程の目的「精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導する」からも外れるものではない。

資料 1 - 1 - ① - 5

「学校教育法における高等専門学校の目的と本校の目的」

「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成」に対応
<p>教育目標のうち 学んで：教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢</p>	<p>教育目標のうち 創れる：さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲 エンジニア：世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志</p>
<p>機械工学科目標のうち ・機械工学に関する基礎的な専門知識がある。</p>	<p>機械工学科目標のうち ・モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。 ・コンピュータを、機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。 ・実験・研究の結果を解析、考察できる基礎能力がある。</p>
<p>電気工学科目標のうち ・電気・電子機器を扱うための基礎的な専門知識がある。 ・電気・電子機器を作るための専門的な基礎能力がある。</p>	<p>電気工学科目標のうち ・コンピュータを用い、情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。 ・データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。</p>
<p>電子制御工学科目標のうち ・電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。 ・機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。 ・制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。</p>	<p>電子制御工学科目標のうち ・各分野の知識を、ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。 ・データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。</p>
<p>情報工学科目標のうち ・コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎的な専門知識がある。 ・コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎的な専門知識がある。 ・コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎的な専門知識がある。</p>	<p>情報工学科目標のうち ・データを解析・考察し、説明できる基礎能力がある。 ・コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。</p>
<p>環境・建設工学科目標のうち ・構造力学、土質工学、水理学、建設材料学、環境工学に関する基礎的な知識がある。</p>	<p>環境・建設工学科目標のうち ・実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。 ・設計製図、情報処理、測量に関する基礎的な技術がある。 ・災害を防ぎ、環境を守る技術の基礎的な知識がある。</p>
<p>専攻科目標のうち 〈生産・建設システム工学専攻〉 ・機械工学、環境・建設工学いずれかの分野を基礎として、それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。 〈電子情報システム工学専攻〉 ・電気・電子工学、制御工学、情報工学いずれかの分野を基礎として、それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。</p>	<p>専攻科目標のうち 〈生産・建設システム工学専攻〉 ・基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。 ・他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。 〈電子情報システム工学専攻〉 ・基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。 ・他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。</p>

(出典 カリキュラム委員会 資料)

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

(1) 準学士課程

準学士課程の教育目標、各学科の教育方針、求める学生像、育成すべき技術者像は、学校要覧（前掲 資料 1-1-①-2）、学生ガイドブック及びホームページ（資料 1-2-①-1）、松江高専 GUIDE（資料 1-2-①-2）、学生募集要項（資料 1-2-①-3）、Learning Handbook（資料 1-2-①-4）に記載し周知している。教職員に対しては、学校要覧、学生ガイドブック、学生募集要項を配付している。さらに、教育目標は各教室や廊下にも掲示している。（資料 1-2-①-5）

新任教員に対しては、採用時の「新任教員ガイダンス」（資料 1-2-①-6）で本校の教育目標及び高等専門学校創設の趣旨等について、校長等から説明している。又、新入生にたいしては、入学時の「新入生オリエンテーション」（資料 1-2-①-7）で教育目標、教育課程、学生生活等について 3 主事（教務・学生・寮務）を中心として説明している。

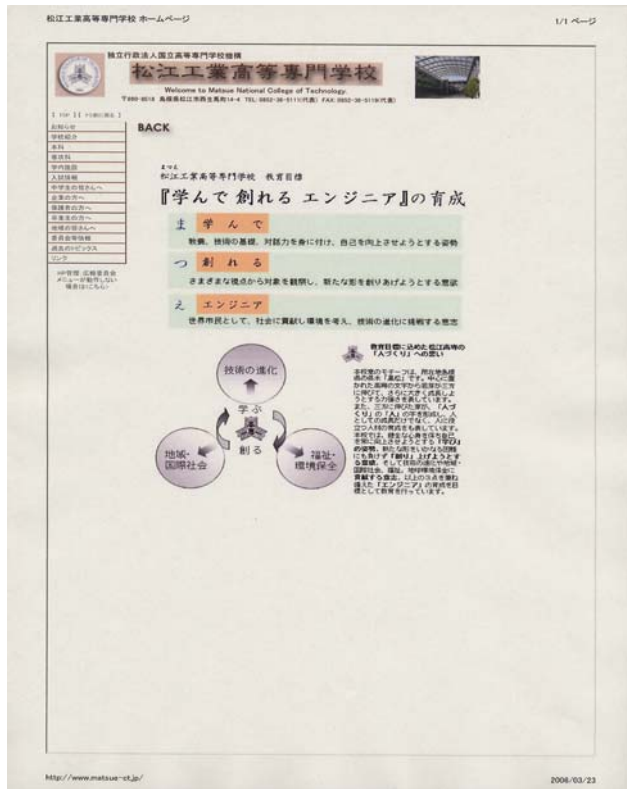
教職員アンケート結果（資料 1-2-①-8）をみると、約 8 割の教職員が本校の教育目標を理解していることがわかる。

学生アンケート結果（資料 1-2-①-9）をみると、約 9 割の学生が本校の教育目標を理解していることがわかる。

(2) 専攻科課程

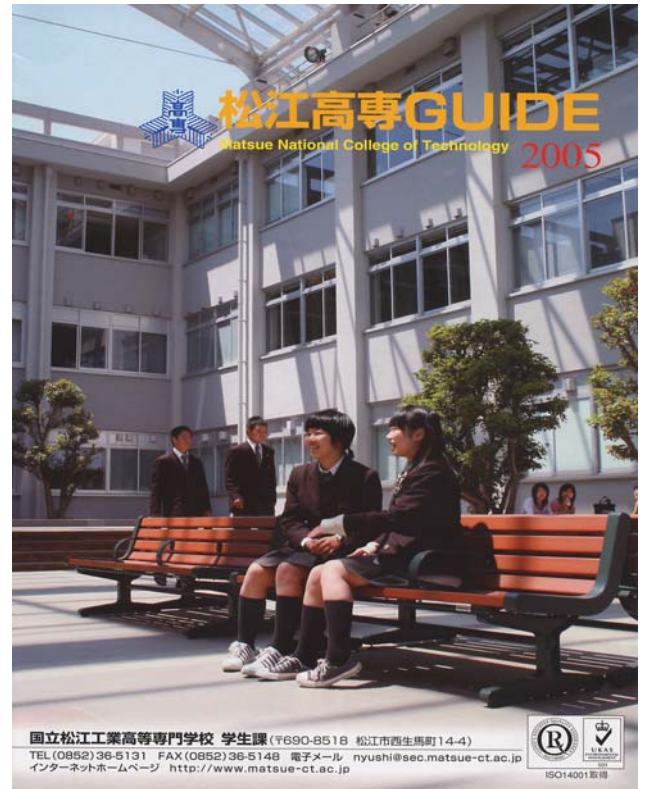
専攻科課程の教育理念、学習・教育目標、および教育方針等は、学校要覧（前掲 資料 1-1-①-2）、専攻科履修ガイドブック（前掲 資料 1-1-①-4）、専攻科学学生募集要項（資料 1-2-①-10）に記載されている。また、ホームページにも掲載している。教職員に対しては、学校要覧、専攻科履修ガイドブック、専攻科学学生募集要項を配付している。また、学生に対しては、新入生オリエンテーション等において、専攻科履修ガイドブックをもとに説明している。

資料 1-2-①-1



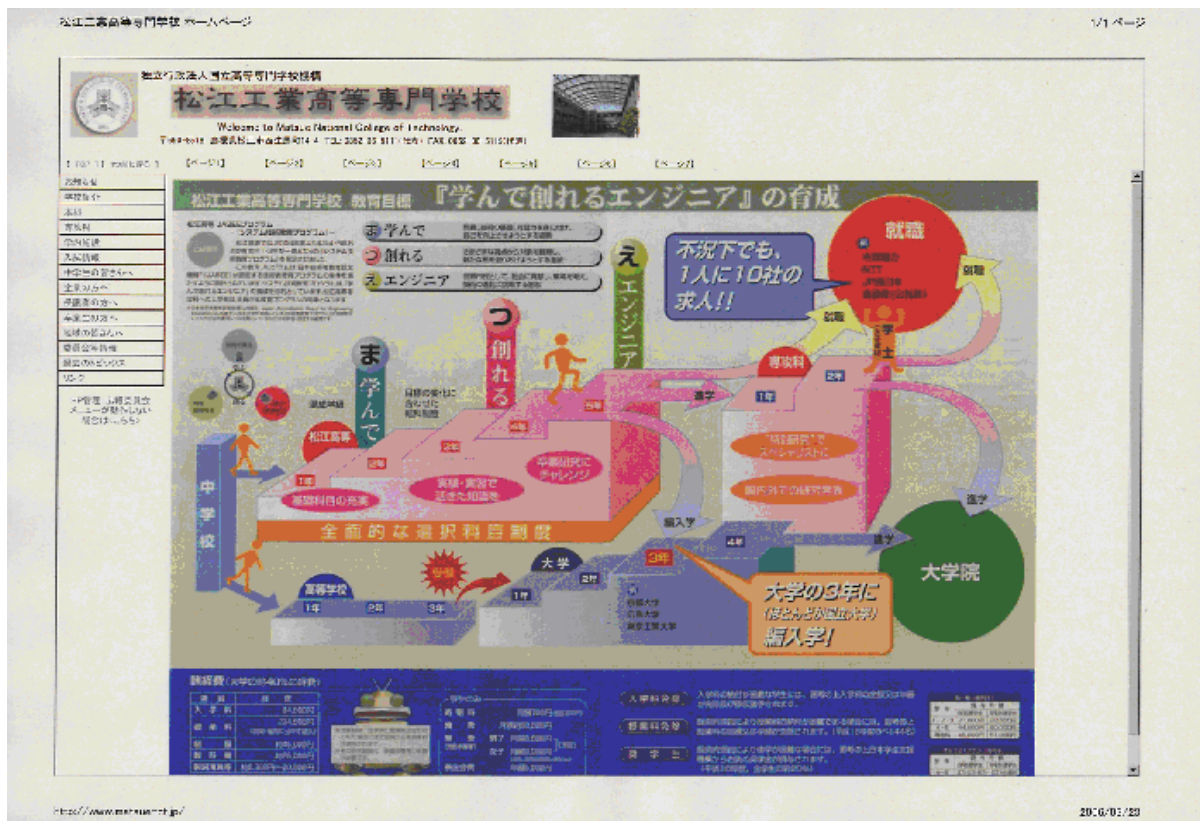
(出典 学生がトブブック 平成 18 年度及び HP)

資料 1-2-①-② A



(出典 松江高専 GUIDE 2005)

資料 1-2-①-2-B



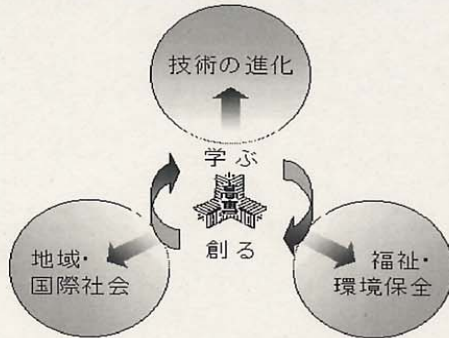
(出典 松江高専 GUIDE 2005 及び HP)

資料 1 - 2 - ① - 3

平成18年度学生募集要項

I 教育目標と求める学生像

松江工業高等専門学校は、「**学んで創れるエンジニア**」の育成を教育目標としています。



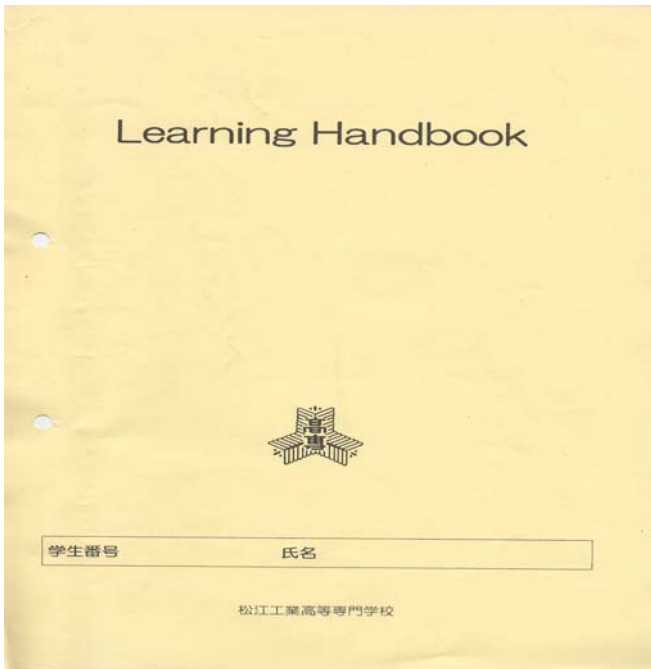
「学ぶ」とは、成長のコア（核）であり、生涯持ち続けるべき姿勢です。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするのが「学ぶ」ということです。そして、「創れる」とは、新たな形をつくり上げる力であり、その困難に立ち向かおうとする意欲を持つことです。また、「創る」ことによって、新たに「学ぶ」べきことも広がっていくのです。ただし、ただ「学ぶ」「創れる」だけでは、あるべき「エンジニア」の姿だとはいえません。

エンジニアには、世界中のさまざまな社会で生活しているユーザ（利用者）の視点を共有できることが必要なのです。そのためには、さまざまな角度からものを見るための教養と、他者の意見を聞き入れ、自分の意見を表現できる対話力を持つことが求められます。また、実際の「ものづくり」は、多くの場合チームで行われます。そこでは、チーム内で意見を交わす対話力、チームワークでものを完成させるための団結力や協調性が必要になります。そして、実際に「創る」場面では、基礎的な学力をもとにした情報収集能力やその情報を分析する力、確実な基礎に裏打ちされた技術などを駆使し、対象によってさまざまに異なる問題を解決していこうとする意欲と、それを支える気力・体力を持つことが大切になるはずです。

また、単に自己の利益や所属する組織の利益にもとづいて行動するのではなく、時にはそれに反するとしても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民として行動できるための倫理観を欠いてはなりません。そのことは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を持つことにもつながっています。自己の成長だけでなく、**技術の進化**や**地域・国際社会**、そして**福祉**や**環境保全**にも貢献できてはじめて、「エンジニア」だと私たちは考えます。

「学ぶ」姿勢、「創る」意欲、未来社会に貢献しようとする意志、以上の三点を兼ね備えた「エンジニア」を育成しようとする教育目標に共感し、本校で「エンジニア」を目指して勉強したいという強い意志を持ち、必要な資質を備えた人が数多く入学されることを期待しています。具体的には「ものづくりに興味がある人」、「こつこつと物事に取り組める人」、「自分から行動を起こせる人」、「数学や理科に興味のある人」、「人の話がきちんと聞ける人」、「自分の意見がきちんと言える人」を求めています。

資料 1 - 2 - ① - 4



❀ ❀ ❀ ❀ ❀ Contents ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

<p>1. 松江高専教育目標</p> <p>2. 学科教育目標</p> <p>3. 各委員会・低学年会の今年度重点目標</p>	<p>これらの目標に沿った科目指導、学生指導を全教官が行います。</p>
<p>4. 学校行事カレンダー</p>	<p>1年間の行事予定です。</p>
<p>5. 今年度自己目標・反省と展望</p>	<p>各自目標を持ち、それに向かって進みましょう！</p>
<p>6. 授業時間割表・日課時限表</p>	<p>各自の授業時間割を記入しましょう。又、平成14年度から日課時限表が変更になっていますので注意しましょう。</p>
<p>7. 教育課程</p> <p>8. 授業科目系統図</p> <p>9. シラバス</p>	<p>5年間に受ける授業科目の一覧です。それぞれの科目がどのように結びついているのかよく見てみよう！又シラバスには、各科目の学習目標、学習計画が書かれています。じっくり読んでください。</p>
<p>10. 成績表綴り</p>	<p>成績表は各試験毎に送付されます。きちんと綴って保管し、自分の目標を達成できるように自己管理を行いましょう。</p>
<p>11. 欠課・欠席・遅刻届</p>	<p>授業時間の1/3を越えたら欠課となります。欠課数が総授業数の1/3を越えると単位が認められません。授業は休まないことを基本に、自己管理をきちんと行いましょう。</p>

(出典 Learning Handbook)

資料 1 - 2 - ① - 5 A

松江高専◎JABEE 学習・教育目標◎2005 年度版
「システム技術」教育プログラム学習・教育目標

学んで創れるエンジニア

教養 教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢

- 日本や地域の文化や社会、歴史に対する理解がある
- 他者の文化や社会、価値観に対する理解がある
- 技術者に必要な数学、自然科学の知識がある

対話力

- きちんとした日本語で記述、発表ができる
- 外国語を用いて基礎的なコミュニケーションができる

技術

- 測定機器やコンピュータを使いこなすことができる
- 実験等のデータを適切に評価、解析、考察できる

自己の向上

- 自主的な計画に沿って、持続した学習ができる

さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

つくる

- 「システムづくり」のための基礎的な工学能力がある
- 実践的な「システムづくり」を考案することができる
- 社会の要求を解決するための「システムづくり」を考案することができる

エンジニア

世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

- 技術が社会や自然環境に与える影響を認識できる
- 倫理的な側面から、技術者の行動について考察できる
- 地域や社会とのつながりを意識し、常に専門技術の向上をめざす

Matsue National College of Technology

資料 1 - 2 - ① - 5 B

「教室、廊下に示した学習・教育目標」



(出典 各教室及び廊下の掲示)

資料 1 - 2 - ① - 6

平成17年度松江工業高等専門学校新任教員研修実施要領

1. 目的
新任教員に対し、教育職員としての使命と心構えを自覚させ、松江高专における教育・研究に必要な基礎的知識を習得させることを目的とする。
2. 対象者 8名
平成16年度新規採用者
人文科学科 名原 千絵
数理科学科 武邊 勝道
環境・建設工学科 寺本 敦子
平成17年度新規採用者
数理科学科 高橋 弘
機械工学科 本間 寛己、山根 清美
電子制御工学科 幸田 憲明
情報工学科 田邊 喜一
3. 研修日程及び内容
平成17年8月5日(金) 第2会議室
9:30~10:30 校長：教育方針、高专を取り巻く状況、松江高专の生きる道
10:30~11:00 藤原副校長：高专教育について、中期計画・目標について
11:00~12:00 教務主事：教務委員会の所掌業務と松江高专での教育上の留意点
(休憩)
13:00~13:30 築谷副校長：専攻科について、研究活動について
13:30~14:30 学生主事：学生委員会の所掌業務と松江高专での学生指導上の留意点
14:30~15:30 寮務主事：寮務委員会の所掌業務と寮での学生指導上の留意点
(休憩)
15:45~16:15 事務部長：事務組織について
16:15~17:15 学生相談室長：現代の学生の特徴と対応方法
4. 備考
本研修の事務は、庶務課人事係において担当する。

(出典 庶務課 新任教員研修実施要領)

資料 1 - 2 - ① - 7

平成17年度 新入生オリエンテーション実施要項

- 1 目的
入学当初に合宿研修をさせることによって、本校学生としての自覚を持たせ、学校生活への適切な導入をはかるとともに、新入生相互の親密度を深めさせることを目的とする。
- 2 期日および場所
(1) 期日：平成17年4月15日(金)~4月16日(土)
(2) 場所：島根県立青少年の家 SUN・LAKE (出雲市平田町小境1991-2) TEL.(0853)-69-1316
- 3 対象
1年生全員(ただし、病気その他やむを得ない事情で参加できないと認められた者及び留年生を除く)
- 4 日課
裏面のとおり
- 5 参加職員
教務主事 福岡真澄【代表者】
学級担任：〈1組〉山根繁樹〈2組〉飯島睦美〈3組〉箕田充志〈4組〉中村元〈5組〉森山恭行
教務委員会：若田淳【研修担当者】・勝部豊・渡部徹
学生委員会：東原哲男
事務部：教務係 内藤秀作
注：【 】内は、「青少年の家」指定の職名
- 6 輸送：
借上バス(大型)各号車担任同乗
- 7 班編成
宿泊施設の部屋単位に班を編成し、各班に生活委員2名を置き連絡にあたらせる。
- 8 服装(登校時より体操服で可。学校で着替える場合は制服をきちんと保管のこと。)
所定のトレーニングウェア(上下)、運動靴(登山があるので、はき慣れたもの)
- 9 携行品
学生ガイドブック、Learning Handbook、筆記用具、雨具、運動靴(体育館用)、洗面用具、寝間着、健康保険証(コピー可)、薬(必要があれば)、着替え用トレーナー(長袖・長ズボン)
- 10 経費
学生負担：3,000円
内訳：食費 2,230円 シーツクリーニング代 170円
写真代 400円 予備費 200円

(出典 学生課 新入生オリエンテーション実施要項)

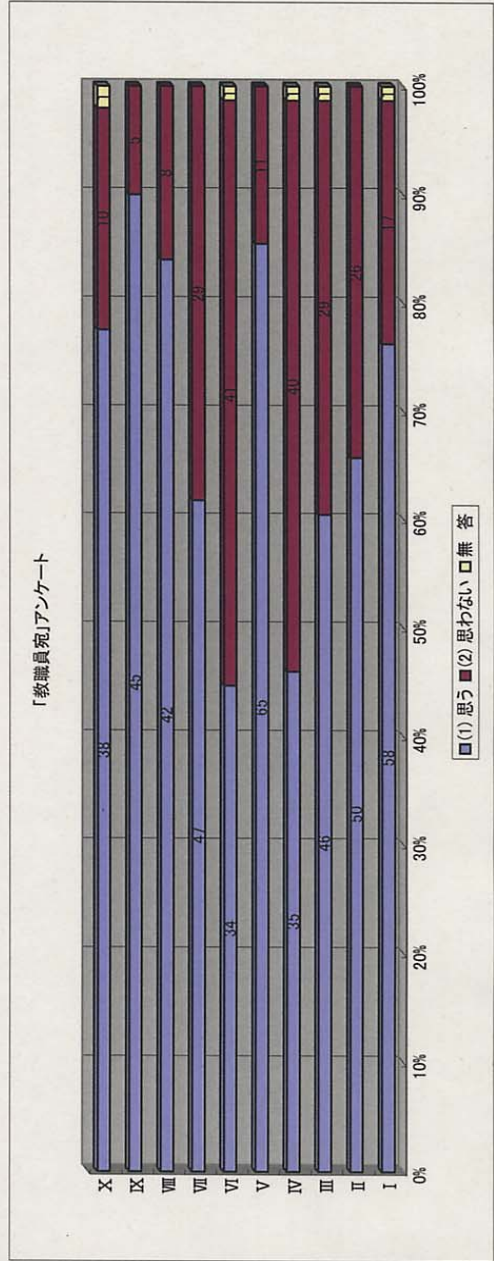
松江高专「教職員」アンケート

平成 17 年 9 月 26 日～9 月 30 日の間で実施

教職員数 141 回答数 76

質問事項	(1) 思う	(2) 思わない	無答	備考
I 本校の教育目標は、「『学んで 創れる エンジニア』の育成」となっています。この教育目標は、教職員及び学生に周知されていると思いますか。	58	17	1	
II 本校の教育課程を遂行するために、必要な教員が適切に任用され、適切に配置されているとしますか。	50	26		
III 本校の教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員が適切に配置されているとしますか。	46	29	1	
IV 本校の教育目標に沿って、求める学生像や入学選抜の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが教職員及び学生に周知されていると思いますか。	35	40	1	
V 本校の FFD（ファカルティ・テイロップメント）が、教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると思いますか。	65	11		
VI 本校の教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む。）に対し、適切な予算配分がなされていると思いますか。	34	41	1	
VII 本校の管理運営に関する各種委員会及び事務組織は、その役割を適切に分担し、効果的に活動していると思いますか。	47	29		
VIII 本校の教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているとしますか。	42	8		教員のみ回答
IX 「学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する規則」に従って、成績評価、単位認定、進級認定及び卒業認定が適切に実施されていると思いますか。	45	5		”
X 研究活動が教育の質の改善に寄与していると思いますか。	38	10	1	”

(注) 質問 X について、1 名は本科 (2) 専攻科 (1) と回答



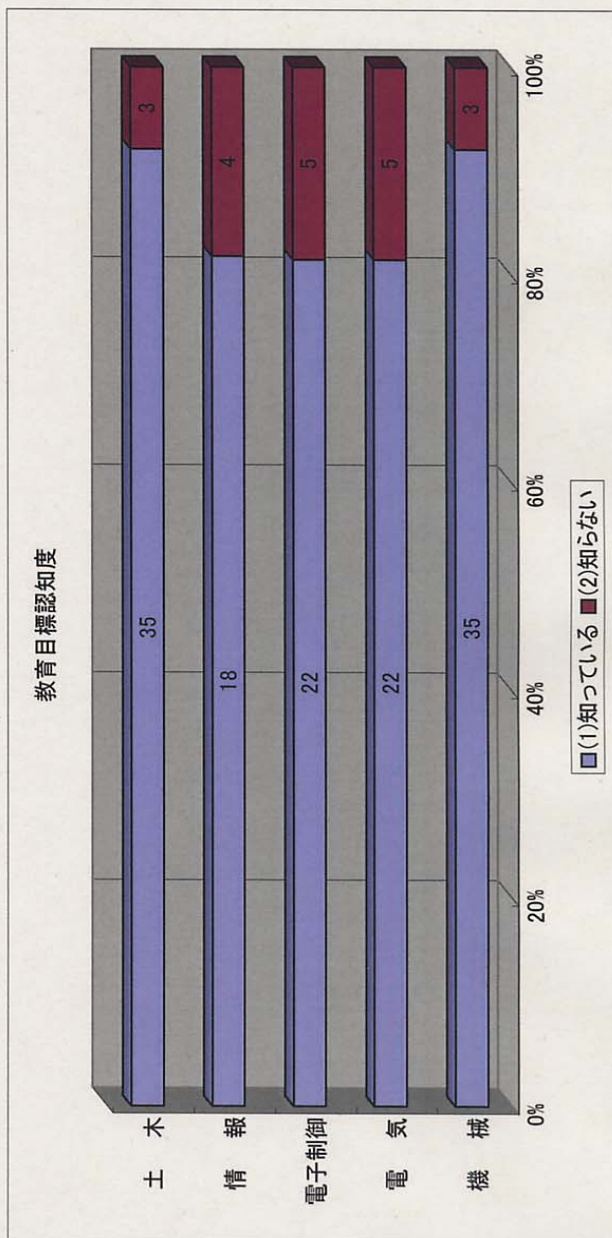
(出典 教職員アンケート 報告)

資料 1 - 2 - ① - 9

平成 17 年度準学士卒業予定者「満足度、重要度」アンケート

平成 18 年 2 月 2 日～ 2 月 22 日の間で実施

番号	質問内容	(1)知っている	(2)知らない	該当学生数	回答数
8	機械では、『学んで 創れる エンジニア』を目指す人材育成のために、教育目標（質問10参照）を掲げています。この教育目標があることを (1) 知っている (2) 知らない	35	3	38	38
		22	5	32	29
		22	5	28	27
		18	4	38	22
		35	3	36	24



(出典 学生アンケート 報告)

資料 1 - 2 - ① - 10

松江高専 専攻科

MaTsuE

M: Maximum Cultivation T: Technological Innovation

E: Excellent Academic Institute

【教育理念】

『創造性と実践的技術力を兼ね備えた

国際的エンジニアの育成』

★研究開発能力

特別研究・特別実験を通して、エンジニアに求められる創造性、独創性を養う。

★専門知識

専門分野を深く掘り下げて学修することはもとより、関連する分野の基礎と本質を理解し、多角的視野に立脚した実践力・応用力を身につける。

★職業倫理

人間性を考慮し、環境に配慮するエンジニアとしての行動規範・倫理観を持つ。

★国際性

国際的に価値ある情報発信を目指し、グローバル社会において必要不可欠である英語コミュニケーション能力を身につける。

【求める学生像】

『専門的技術開発に意欲がある学生』を求めています。

(出典 平成 18 年度 専攻科学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、次の根拠により学校構成員に十分に周知されていると判断される。

全教職員及び全学生に対して、冊子の配付等によって目的を周知しており、教職員アンケート及び学生アンケートの結果も上の結果を裏づけている。教職員の中に「学生の理解度が低いのではないか。」と懸念するものが一定数居るが、学生アンケート結果は、この懸念を否定している。

観点 1 - 2 - ②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

準学士課程、専攻科とも教育目標は、ホームページ（前掲 資料 1 - 2 - ① - 1）に掲載することによって広く内外に対して公表している。学校要覧、学生募集要項、専攻科学生募集要項は、関係機関に送付されている。企業に関しては、求人のために来校される企業や企業訪問の折に、学校要覧を配付している。

本科の志願者確保を目的として、中学生を招いて実施するオープンキャンパス（資料 1 - 2 - ② - 1）、近隣地域の中学校に出向いて説明する中学校訪問（資料 1 - 2 - ② - 2）の機会に松江高専 GUIDE、学生募集要項を配付している。また、県内約 40 校から参加要請のある中学校主催「高校説明

会」においても説明している。

資料 1-2-②-1

松江高専オープンキャンパス

平成 17 年 8 月 18 日(木)・19 日(金)

スケジュール

第 1 日 8 月 18 日 (木)	
12:20 ~ 12:50	受付
13:00 ~ 15:30	全体説明 (本校概要・教育環境・学生会), 校内 見学 (5 学科, 教室など), 質疑応答
15:40 ~ 17:10	進路相談 (希望者)
15:50 ~ 16:10	学生寮見学 (")
16:20 ~ 17:00	学生寮夕食 (")
第 2 日 8 月 19 日 (金)	
8:20 ~ 8:50	受付
9:00 ~ 9:50	ミニ授業 (1 回目)
10:00 ~ 10:50	ミニ授業 (2 回目)
11:00 ~ 12:00	全体説明 (本校概要・教育環境・学生会), 質疑応答 (希望者)
12:10 ~ 13:40	進路相談 (")
12:20 ~ 12:40	学生寮見学 (")
12:50 ~ 13:30	学生寮昼食 (")

(出典 オープンキャンパス 説明資料)

資料 1 - 2 - ② - 2 B

入試説明会・学校説明会・中学校主催学校説明会・中学校訪問配布資料等一覧
先生

日 時:16年 月 日()00:00~00:00 会場:

配 布 資 料 等	入試説明会	学校説明会	中学校主催 学校説明会	中学校訪問
学生募集要項	○	○		○
卒業後の資格				
松江高専GUIDE	○	○	○別途送付	○
次年度大学編入学合格一覧	○	○		○
前年度卒業生進路先一覧	○	○	○	○
直野寮のしおり	△	○	△	○
清涼飲料(ウーロン茶) (ペットボトル@150円)	○			
学校紹介ビデオ		△	△(縮少版)	
入試問題	○	△		
高専だより(103号)	○	○(104号も)		○
オープンキャンパスのご案内			○	
高専の報道資料			○	
入試説明CD				○
入試用参考資料 Q&A集				○
※ 訪問中学校出身者一覧 (訪問教官用)			○	○
※ 訪問中学校出身者入試成績一覧 (訪問教官用)			○	○
※ 16年度入学者入試成績 (最高・最低・平均点)(訪問教官用)	○		○	○
※ 次年度大学編入学合格一覧(記名あり) (訪問教官用)				○
※ 前年度卒業生進路先一覧(記名あり) (訪問教官用)			○	○
※ 訪問中学校報告書				○
※ 入試説明会参加者名簿	○			○
※ 入試説明会質疑事項	○			

(出典 AO委員会 中学校訪問 説明資料一覧)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的はホームページや文書で広く公開している。学生募集要項，専攻科学生募集要項は，本来の目的である志願者からの請求に基づき送付（手交）することに加え，積極的にオープンキャンパス，中学校訪問の機会を利用し，中学生，保護者，中学校関係者へ配付している。松江高専 GUIDE は，島根県下全ての中学校へ送付し，3年生だけでなく2年生へも配布してもらうよう依頼している。また，隣県の広島県・鳥取県の中学校へも10部程度を毎年送付している。

ホームページの外部からの閲覧状況については，カウンターを設けている。その件数は一月あたり3,650件となっている。

以上のことから，本校では目的を社会に対して広く公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校は、『「学んで 創れる エンジニア」の育成』を教育目標に掲げている。これは，機械，電気，電子制御，情報工学，環境・建設に関連する様々な専門技術を活用しながら，分野を超えて社会に貢献し，地球環境を守るシステムを構築できる国際的なエンジニアを育成することを目指すものである。このように目標を高く掲げながら各学科，各専攻の目的に繋げ，学生，教職員及び社会に対して広く公表している。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校は，学則において準学士課程の目的を「教育基本法にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する。」と，専攻科課程の目的を「高等専門学校の基礎の上に，更に高度な専門知識と技術を教授し，創造性豊かな技術能力を育成することを目的とする。」とそれぞれ定めている。

教育理念を『創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア』，教育目標を『「学んで 創れる エンジニア」の育成』として明確に定めている。教育目標のそれぞれの頭文字（ま つ エ）は，所在地の松江市を意識したものである。

全学の教育目標の下に，準学士課程の各学科（一般科目を含む。）及び専攻科課程の各専攻ではそれぞれの教育目標を定めている。これらはいずれも学校教育法第70条の2に規定された高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものではない。

本校の教育目標は各種パンフレット等に明示されており，学校の構成員に対して，教員会議，ホームルーム，新入生オリエンテーション等の機会を通じて周知徹底を図っている。また，教室に教育目標のパネルを掲示して日常的に目に触れさせる機会をつくっている。

中学校に対しては教育目標を掲載した各種パンフレット等を県内外の中学校に配布したうえで，中学校での学校説明会，中学生や保護者に対する入試説明会等の機会を通して公表している。

さらに本校Webサイトにも教育目標を掲示して社会に公表している。

以上のとおりさまざまな方法を通して，本校の目的を社会に公表している。

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の学科名、学級数及び入学定員は、学則第7条に定めている。（資料2-1-①-1）

工学の基礎となる機械工学科と電気工学科は、昭和39年に設置され現在に至っている。電子制御工学科は、昭和44年設置の生産機械工学科を昭和62年に改組し現在に至っている。これは、メカトロニクス分野の技術者に対する社会的要請を考慮したものである。情報工学科は、情報化社会の到来を受けて平成4年に設置され現在に至っている。環境・建設工学科は、昭和39年設置の土木工学科を平成16年に環境系技術分野へも対応できるよう改称し現在に至っている。

本学が教育目標として掲げている『「学んで 創れる エンジニア」の育成』をうけ、5学科それぞれが教育目標を掲げその整合性を保っている。（資料2-1-①-2）

学級編成の特徴として平成10年度より、第1学年は学科別クラスではなく5学科をばらばらにした混成学級で編成している。これは5年間同じクラスメートと交わるよりも、もっと幅広い交友関係と広い視野を期待したものである。また、学科によって入試成績や男女の人数に偏りがあるが、混成学級によって成績を平準化したクラス編成をすることで、クラス間の競争など学習意欲を高める効果が上がっている。

資料2-1-①-1

学則（抜粋）

第3章 学科、学級数、入学定員及び職員組織

（学科、学級数及び入学定員）

第7条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機 械 工 学 科	1	40 人
電 気 工 学 科	1	40 人
電 子 制 御 工 学 科	1	40 人
情 報 工 学 科	1	40 人
環 境 ・ 建 設 工 学 科	1	40 人

2 前項の規定にかかわらず、校長は、教育上有益と認めるときは、異なる学科の学生をもって学級を編成することができる。

（出典 松江工業高等専門学校規則集）

資料 2 - 1 - ① - 2 A

機械工学科

Department of Mechanical Engineering

本学科では、従来の「技術の高度化を目指した研究・開発」にくわえて、近年重要性を増している「創造的な技術・製品開発」、の将来を担いうる人間性豊かな一流の機械技術者の養成を目標としています。

機械工学は、物理学を基礎とする「ものづくり」の骨格となる学問です。21世紀の日本国が目指すべき創造的(独創的)な製品開発の根幹を支える重要な学問分野でもあると考えます。その実践には、「理論」と「技術」の両方を身につける事が必須です。机上の学問だけでなく、実技を上手く組み合わせた講義を行っています。材料力学・流体力学などの機械工学の基盤理論に加えて、例えば、第2学年では、工作機械を操作する工作実習や設計製図の履修、第3学年の創造演習では、習得知識を基に独創的のものづくりに挑戦します。第4学年の工学実験では、自らで現象を検証して、理論予測の凄さとその限界を学びます。また、夏休みには企業での長期校外実習(インターンシップ)で「実際」を体験します。第5学年の卒業研究では、教員の指導の下で本格的に研究します。成果を学会などで外部発表して、プレゼンテーション能力の向上と重要性を学ぶ事ができます。

The Department of Mechanical Engineering educates students to be prominent engineers with the capacity to adapt to rapid technological innovation.

We believe that manufacture is an outcome based on a variety of theories and practices, with an emphasis on practical training. The students learn drawing and design and undertake practical experiments using machinery. Further they can enrich their knowledge through off-campus practice in the fourth grade. In the third grade, engineering experiments examining the relationship between theories and phenomena lead them to a deeper theoretical understanding. Through their graduate research, the students are expected to integrate their knowledge, develop their ability to analyze results, and to improve their presentation skills.

[機械工学科教育目標]

1. 機械工学に関する基礎的な専門知識がある。
2. モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。
3. コンピュータを、機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。
4. 実験・研究の結果を解析、考察できる基礎能力がある。

Educational Objectives of Department of Mechanical Engineering:

- 1: Basic technical knowledge of Mechanical Engineering.
- 2: Basic ability in design necessary for innovation.
- 3: Basic ability to use computers for the design and production of machinery.
- 4: Basic ability to analyze and consider the results of experiments and exercises.

電気工学科

Department of Electrical Engineering

電気・電子工学全般にわたる5年の一貫した教育により、専門知識と技術を身に付けるようにします。また、卒業後に自己の素質・能力・適性に応じて、あらゆる産業分野の研究開発・設計・生産などの方面で活躍できるように、電力エネルギー関係、電子・通信関係並びに電子計算機・情報処理関係などの教育課程の編成にいろいろ工夫をこらしています。

そして、第4学年では夏季校外実習を、第5学年では卒業研究を行うことによって、修得した専門知識の理解とその応用力を深めるようにしています。

The curriculum of the Department of Electrical Engineering aims to educate its students to gain both a wide range of expertise, and the practical techniques of electrical engineering. This department has been making a great effort to encourage the students to be successful in their future professions in the fields of research, development, design and manufacture through our well-balanced courses in electronics and communication engineering, electrical engineering, and information engineering. Off-campus training in the fourth year and graduation research in the fifth year foster their ability to apply their expertise to practical applications.

[電気工学科教育目標]

1. 電気・電子機器を扱うための基礎的な専門知識がある。
2. 電気・電子機器を作るための専門的な基礎能力がある。
3. コンピュータを用い、情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。
4. データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。

Educational Objectives of Department of Electrical Engineering:

- 1: Basic expertise to utilize electric and electronic equipment.
- 2: Basic technical ability to produce electric and electronic equipment.
- 3: Basic ability to utilize computers for gathering, applying and presenting information.
- 4: Basic ability to gather, analyze and evaluate data.

(出典 学校要覧 2006 抜粋)

資料 2 - 1 - ① - 2 B

電子制御工学科

Department of Control Engineering

電子制御工学科はメカトロニクスやシステム制御など革新技術に対応できる、実践的な工業技術者の育成を目的とした学科です。メカトロニクスとエレクトロニクスのそれぞれの分野の最も重要な部分を中心に、これからのエンジニアにとって不可欠な科目を有機的に結びつけて勉強します。

そして、第 4 学年では最先端の技術動向を知るため、3 日間の見学旅行を実施します。同じく第 4 学年の夏季校外実習とあわせて自らの進路を考え、決定する機会が豊富にあります。

The aim of the Department of Control Engineering is to educate its students to be practical control engineers who can adapt themselves to technological innovations in mechatronics and control of integrated systems. Control engineers are expected to have a wide range of knowledge, not only of control engineering, but also of electronics and mechanical engineering. The curriculum of this department is designed to integrate mechatronics and electronics. Off-campus training and a study tour to factories in the fourth year give opportunities to observe the latest trends at the frontiers of technological society.

[電子制御工学科教育目標]

1. 電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。
2. 機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。
3. 制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。
4. 各分野の知識を、ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。
5. データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。

Educational Objectives of Department of Control Engineering:

- 1: Basic knowledge of the fields of electricity and electronics
- 2: Basic knowledge of the fields of mechanism and dynamics.
- 3: Basic knowledge of the fields of control and information.
- 4: Ability to apply various fields of knowledge to mechatronics and to creative innovation.
- 5: Basic ability to gather, analyze and consider data.

情報工学科

Department of Information Engineering

情報工学科は、情報化社会に対応できる専門的な知識と技術を身につけた情報技術者の育成を目的とした学科です。優れた情報技術者には、コンピュータのソフトウェアだけでなく、ハードウェアおよび情報通信・ネットワークに関する知識・技術が必要不可欠です。

そこで、低学年では、ハードウェアおよびソフトウェア技術の基礎に重点をおき、講義だけでなく、実験や演習を通して技術者としての基本的な資質を養成します。高学年では、ネットワーク技術に関する科目などを加え、専門科目を中心に、情報技術者として必要な知識・技術を実践的に修得できるよう指導します。さらに第 5 学年では、第 4 学年までに修得した知識・技術の集大成として、問題解決能力および応用能力を養うために卒業研究を実施します。また、技術者としての自覚と視野の広さを持たせるため、県内企業への工場・会社見学、大企業等への見学旅行、企業や官公庁等での夏季校外実習も行っています。

The Department of Information Engineering aims to educate its students to be engineers with sufficient expertise and skills, and capable of adapting to the information-oriented society. Leading information engineers should have knowledge and skills not only of the software, but also of the hardware, network systems, and information correspondence. The early years provide students with a fundamental grounding in the theories of software and hardware. Through various experiments and programming exercises, they learn the basic theories essential to an information engineer. The later years offer advanced software theory combined with practical exercises.

Fourth-graders undertake three-weeks off-campus training during summer. Fifth graders learn advanced modern techniques of information engineering through selective courses. Graduation research projects are assigned to develop problem-solving abilities.

[情報工学科教育目標]

1. コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎的な専門知識がある。
2. コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎的な専門知識がある。
3. コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎的な専門知識がある。
4. データを解析・考察し、説明できる基礎能力がある。
5. コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。

Educational Objectives of Department of Information Engineering; Students having:

- 1: Basic technical knowledge of hardware to make computers.
- 2: Basic technical knowledge of software to operate computers.
- 3: Basic technical knowledge of network to link computers.
- 4: Basic ability to analyze, consider and explain data.
- 5: Basic ability to utilize computers for gathering, applying and presenting information.

(出典 学校要覧 2006 抜粋)

資料 2 - 1 - ① - 2 C

環境・建設工学科(土木工学科)

Department of Civil and Environmental Engineering

環境・建設工学科は、景観や生態系などの自然環境や上・下水道などの生活環境に関する「環境系」技術分野、社会に役立つ施設の計画や設計および建設に関する「建設系」技術分野など、実社会の様々な分野で活躍できる技術者を育成することを目的としています。

そのために、構造力学、土質工学、水理学、測量学などの土木工学の基礎学問を共通のベースに置きながら、高学年において環境工学コースと建設工学コースのコース制を取り入れ、学生が希望する技術分野の学問を主体にしなが、自主的に学習する教育システムを計画しています。

また、技術者となる自覚や専門分野の新しい工法を体感し視野を広めるため、技術講演会の開催、建設現場の見学、夏季校外実習(第4学年)を実施しています。そして、第5学年では学習成果のまとめとして、学生が選んだ研究テーマによって自発的に取り組む卒業研究を必修としています。

Through our well-organized curriculum the Department of Civil and Environmental Engineering aims to educate students to be civil engineers prominent in various fields of technical environmental work (for example ecosystems, and water-works) and construction work. The early years provide basic subjects such as structural mechanics, soil mechanics, hydraulics, and surveying. The later years offer advanced technical subjects, divided into 2 courses, environmental and construction. To expand their awareness of engineering and broaden perspective of new developments, we have technical lectures, field trips to construction sites, and practical summer training for fourth grade students. The graduation research projects undertaken by fifth year students are indispensable in heightening their personal commitment to research and development.

[環境・建設工学科(土木工学科)教育目標]

1. 構造力学、土質力学、水理学、建設材料学、環境工学に関する基礎的な知識がある。
2. 実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。
3. 設計製図、情報処理、測量に関する基礎的な技術がある。
4. 災害を 방지、環境を守る技術の基礎的な知識がある。

Educational Objectives of Department of Civil and Environmental Engineering (Civil Engineering);

- 1: Basic knowledge of structural mechanics, soil mechanics, hydraulics, constructional engineering materials and environmental engineering.
- 2: Basic ability to analyze the essential structure of phenomena through experimental and practical exercises.
- 3: Basic skills in drawing and design, information processing and surveying.
- 4: Basic knowledge of the technologies available to prevent disaster and preserve the environment.

(出典 学校要覧 2006 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の5学科(機械工学科, 電気工学科, 電子制御工学科, 情報工学科, 環境・建設工学科)は, いずれも社会的要請に基づき現在の学科に編成されており, 工学の進展に合わせたものになっている。教育目標及び規模から設置基準の規定に充分適合している。本学が教育目標として掲げている『「学んで 創れる エンジニア」の育成』は, 機械, 電気, 電子制御, 情報, 環境・建設工学に関連する様々な専門技術を活用しながら, 分野を超えて社会に貢献し地球環境を守るシステムを構築できる国際的なエンジニアを育成することを目指しており, 学科組織はその目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-②: 専攻科を設置している場合には, 専攻科の構成が, 教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程の専攻名及び入学定員は, 学則第40条に定めている。(資料 2-1-②-1)

専攻科課程は, 生産・建設システム工学専攻と電子情報システム工学専攻の2専攻から構成されている。生産・建設システム工学専攻は, 準学士課程の機械工学科及び環境・建設工学科を母体としている。また, 電子情報システム工学専攻は, 準学士課程の電気工学科, 電子制御工学科及び情報工学科を母体に構成されている。いずれの専攻も複合型専攻として, 修業年限は2年間で構成されている。

(資料 2-1-②-2)

教育課程は, 準学士課程からの継続性を重視し, より専門性を深めた授業科目やその融合領域に関連した授業科目により編成されている。また, 教員も準学士課程と兼任であり, 準学士課程との連携のもとに教育・研究指導を行っている。

資料 2-1-②-1

学則 (抜粋)

第8章 専攻科

(設置)

第40条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第41条 専攻科は, 高等専門学校の基礎の上に, 更に高度な専門的知識と技術を教授し, 創造力豊かな技術能力を育成することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第42条 専攻及び入学定員は, 次のとおりとする。

生産・建設システム工学専攻 8人

電子情報システム工学専攻 12人

(出典 松江工業高等専門学校規則集)

資料 2-1-②-2

専攻科

Advanced Engineering Faculty

設置の趣旨 Establishment Aims

科学技術の高度化とシステム化が急速に進む中、産業界では絶え間ない技術革新への対応が迫られています。また、一方では、企業活動の国際化が進んでいます。このような社会状況にあつて、創造性豊かな学生の育成と地域社会との連携による新技術の創出が求められています。

そのために

- (1) 創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニアの育成
- (2) 社会人への門戸開放と再教育
- (3) 産学共同研究等による研究成果の社会への還元

という使命を担い、平成 14 年 4 月、生産・建設システム工学専攻と電子情報システム工学専攻の 2 専攻が設置されました。

In these times of rapid progress in technology and systems development, the industrial world is forced to cope with technical innovations all the time. Moreover, globalization of business is proceeding. In such a social situation, development of creative students and creation of new technology by collaboration with community is required. For these purposes,

- 1: We aim to educate students to be international engineers, with both creativity and practical techniques.
- 2: We aim to be open to the public and to promote re-education of members of society.
- 3: We aim at that fruits of research with the community are returned to society.

To accomplish the missions listed above, two advanced courses were established in April, 2002: Advanced Production and Construction Systems, and Advanced Electronic and Information Systems.



専攻科棟
Building of Advanced
Engineering Faculty

専攻科教育目標 Educational Objectives for Advanced Engineering Faculty

生産・建設システム工学専攻

Advanced Production and Construction Systems

1. 機械工学、環境・建設工学いずれかの分野を基礎として、それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。
2. 基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。
3. 他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。
 1. To achieve integrated knowledge based on either mechanical or civil and environmental engineering.
 2. To be able to solve problems in other fields with basic skills.
 3. To be able to cooperate with engineers of other fields.

電子情報システム工学専攻

Advanced Electronic and Information Systems

1. 電気・電子工学、制御工学、情報工学いずれかの分野を基礎として、それぞれの分野を融合した境界領域の知識がある。
2. 基礎分野の技術を生かして他分野での問題を解決できる能力がある。
3. 他分野のエンジニアとの共同作業を行う能力がある。
 1. To achieve integrated knowledge based on either electrical, control or information engineering.
 2. To be able to solve problems in other fields with basic skills.
 3. To be able to cooperate with engineers of other fields.

平成 17 年度 活動記録 Activity record in 2005

学会等発表 Presentation at domestic conferences

国際会議 International conferences	研究会 Work shops	学会 Domestic conferences	研究交流会・セミナー等 Exchange meetings for research, Seminars
5 件	4 件	37 件	39 件

平成 17 年度 受賞 Awarded the prize in 2005

平成 17 年度土木学会中国支部 優秀発表賞 3 名 Good Presentation Award in Japan Society of Civil Engineers the Chugoku branch, three students awarded.
第 4 回キャンパスベンチャーグランプリ CHUGOKU 佳作 2 名 Award to Fine Works in Chugoku Campus Venture Grand Prix, two students awarded.

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の二つの専攻は、準学士課程の各学科を母体に構成されている。また、教育課程は、準学士課程からの継続性を重視し、より専門性を深めた授業科目やその融合領域に関連した授業科目により編成されている。教員も準学士課程と兼任で教育・研究指導を行っており、教育の目的を達成するために適切な専攻科課程の構成になっている。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校では、その教育目的を達成するため、メディア教育センター、地域共同テクノセンター、実践教育支援センター及び環境センターの4センターを設置し、(資料2-1-③-1) (資料11-1-①-1) それぞれ次の活動を行っている。

(1) メディア教育センター

平成16年度に従前の図書館及び総合情報処理センターを統合したものであり、図書館業務及び情報処理関連教育の業務を一元化して有機的に運営している。(資料2-1-③-1) (資料2-1-③-2)

(2) 地域共同テクノセンター

本校における新技術・高度技術の教育研究機能の充実を図り、産官学共同研究など地域との連携交流による研究開発を推進している。

研究分野として、材料開発分野、生産システム分野、計測制御分野、環境・建設分野及び情報・通信分野の5分野を設けている。

また、本センターの外部組織として「松江テクノフォーラム」を設置して、技術相談、共同開発などの種々の事業を行うことにより、地域産業の活性化に貢献するとともに、本校の教育・研究の向上に資している。(資料2-1-③-1) (資料2-1-③-3)

(3) 実践教育支援センター

本校における技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するとともに、技術職員の能力及び資質等の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資している。(資料2-1-③-1)

(資料2-1-③-4)

(4) 環境センター

本校は、その教育目標「学んで 創れる エンジニア」の資質として地球環境保全に貢献できることを求めている。この目標達成の一つの手段として、環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格 ISO 14001 認証を2005年2月14日に取得した。

認証取得後、学校全体で「地球環境に対する負荷の低減と汚染の予防を目指した活動」、「地球環境や地域環境の保全・維持向上のための積極的な教育・研究の展開」を続けている。本センターはこれらの活動の中心となっている。(資料2-1-③-5) (資料2-1-③-6)

資料 2-1-③-1

松江工業高等専門学校メディア教育センター規則

(平成16年4月1日 制 定)

(設置)

第1条 松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校共同利用施設としてメディア教育センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、本校における図書及びデジタルメディア等を活用した教育研究及び事務処理を支援し、本校の学生及び職員並びに学外利用者の学習、調査、研究等に資することを目的とする。

(施設)

第3条 センターの施設は、次のとおりとする。

- 一 図書館
- 二 PCワーキングエリア（第一・第三演習室、マルチメディア演習室、情報処理実習室）
- 三 サーバ・ネットワーク管理室
- 四 事務用電子計算機室

2 前項各号の施設の利用については、別に定める。

(業務)

第4条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 図書館資料の収集、管理及び利用に関すること。
- 二 研究紀要の編集及び発行に関すること。
- 三 情報処理に関する教育及び研究の支援に関すること。
- 四 コンピュータ及び情報ネットワークシステムの構築及び運用管理に関すること。
- 五 ネットワークを利用した情報公開支援に関すること。
- 六 ネットワークを利用したマルチメディア教育の推進支援に関すること。
- 七 事務の情報化に関すること。
- 八 その他センターが必要と認める業務に関すること。

(委員会)

第5条 センターに次の委員会を置く。各委員会は、センターの業務を分担し、相互に連携協力してセンターの業務を円滑に遂行しなければならない。

- 一 図書委員会
- 二 情報ネットワーク委員会
- 三 マルチメディア教育委員会

2 前項各号の委員会に関する事項は、別に定める。

(職員)

第6条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 図書委員長
- 四 マルチメディア教育委員長
- 五 情報ネットワーク委員長
- 六 その他校長が必要と認める者

(センター長及び副センター長)

第7条 センター長及び副センター長は、校長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌握する。

3 副センター長は、センター長を補佐する。

4 センター長及び副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第8条 第6条第3号から同条第6号までの職員（以下「センター員」という。）は、校長が任命する。

2 センター員は、センターの業務にあたる。

3 センター員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第9条 センターの円滑な運営を図るため、メディア教育センター運営委員会を置く。

2 メディア教育センター運営委員会に関する事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センターの事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関する必要な事項は、別に定める。

2 センターの情報機器の利用について必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 松江工業高等専門学校総合情報処理センター規則（平成9年4月1日制定）、松江工業高等専門学校総合情報処理センター運営委員会規則（平成9年4月1日制定）及び松江工業高等専門学校総合情報処理センター部門に関する細則（平成9年4月1日制定）は、廃止する。

松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(平成17年4月1日 制 定)

(目的)

第1条 松江工業高等専門学校に、新技術・高度技術の教育研究機能の充実に図り、地域との技術交流による研究開発を推進するため、学内共同利用教育研究施設として、松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学外との共同研究、受託研究等の実施に関すること。
- 二 地域社会への技術指導、情報サービスの提供に関すること。
- 三 学内共同研究の推進に関すること。
- 四 技術講演会、技術講演に関すること。
- 五 卒業研究の支援等に関すること。
- 六 公開講座に関すること。
- 七 教育研究のための機器の計画、利用に関すること。
- 八 その他センターが必要と認める業務に関すること。

(組織)

第3条 センターに、前条に掲げる業務を処理するため、次の室、担当及び部門を置く。

- 一 産学連携室
- 二 技術相談・支援担当
- 三 研究開発・支援担当
- 四 材料開発部門
- 五 生産システム部門
- 六 計測制御部門
- 七 環境・建設部門
- 八 情報・通信部門

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 産学連携室長
- 四 その他校長が必要と認める者

(センター長、副センター長及び産学連携室長)

第5条 センター長、副センター長及び産学連携室長は、校長が任命する。

2 センター長は、センターの業務を掌握する。

3 副センター長及び産学連携室長は、センター長を補佐する。

4 センター長、副センター長及び産学連携室長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第6条 第4条第四号の職員（以下「センター員」という。）は校長が任命する。

- 2 センター員はセンターの業務にあたる。
- 3 センター員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第7条 センターの運営に関し、必要な事項を審議するため、松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - 一 第4条に掲げる者
 - 二 機器整備委員長
- 3 運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。
- 4 運営委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させることができる。

(機器整備委員会)

第8条 教育研究のための機器の整備、管理に関し必要な事項を審議するため、松江工業高等専門学校機器整備委員会（以下「機器整備委員会」という。）を置く。

- 2 機器整備委員会に関する規則は、別に定める。

(センターの利用)

第9条 センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

(センターの事務)

第10条 センターの事務は、庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 松江工業高等専門学校新技術教育研究センター規則（平成8年10月16日制定）及び松江工業高等専門学校新技術教育研究センター運営委員会規則（平成8年10月16日制定）は、廃止する。

松江工業高等専門学校実践教育支援センター規則

平成14年4月1日 制 定
平成17年4月1日 最終改正

(設置)

第1条 松江工業高等専門学校に、教育及び研究に対する技術支援を行うため、松江工業高等専門学校実践教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、技術に関する専門的業務を円滑かつ効果的に処理するとともに、技術職員（施設系の技術職員を除く。以下同じ。）の能力及び資質の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に努めることを目的とする。

(業務)

- 第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。
 - 一 教育及び研究に対する技術支援の基本計画の策定に関すること。
 - 二 技術の継承及び保存並びに技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施等に関すること。
 - 三 学生の実験、実習、卒業研究の技術指導及び安全確保に関すること。
 - 四 教育及び研究に対する技術支援に関すること。
 - 五 技術資料の作成、保管及び提供等に関すること。
 - 六 機器等の保守・管理並びに災害防止に関すること。
 - 七 所掌業務の調査統計及び諸報告に関すること。
 - 八 その他センターの技術分野について必要な事項に関すること。

(組織)

- 第4条 センターは、センター長及び技術室をもって組織する。
 - 1 センター長は教務主事をもって充て、センターの業務を統轄する。
 - 2 技術室は、センターの業務を遂行する。
 - 3 第一技術班は、第3条の業務のうち機械系に関する業務を分掌し遂行する。
 - 4 第二技術班は、第3条の業務のうち電気、電子及び情報系に関する業務を分掌し遂行する。
 - 5 第三技術班は、第3条の業務のうち土木系に関する業務を分掌し遂行する。

(センター運営委員会)

第5条 センターの運営に関し、必要事項を審議するため、松江工業高等専門学校実践教育支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 センター長

二 技術室長

三 主査

四 その他校長が必要と認める者

3 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させることができる。

(センターの利用)

第6条 センターの利用に関して必要な事項は、別に定める。

(センターの事務)

第7条 センターの事務は、技術室において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、センターに必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 松江工業高等専門学校テクノ教育支援センター規則（平成14年4月1日制定）は、廃止する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 2 - 1 - ③ - 2 A

メディア教育センター
Media Education Center

平成16年度より図書館、総合情報処理センターを統合し、「メディア教育センター」が発足しました。「メディア教育センター」は、次の業務を一元化し有機的に運営する体制作りを目指しています。
In 2004, the college library and Information Processing Center were integrated into the Media Education Center. The Media Education Center has taken over the following roles.

- (1) 図書の収集と利用業務 Library Management.
- (2) 情報処理教育 Information-processing education.
- (3) ネットワークの運用と管理 IT operation and management.
- (4) ネットワークを利用した事務処理支援 Network-based business processing.
- (5) マルチメディア教育の推進 Promotion of IT education.
- (6) マルチメディア教育機器の運用と管理 Management of educational equipment.

施設は母体となった図書館、PCワーキングエリア(旧総合情報処理センター第1および第3演習室、第2棟マルチメディア演習室、第5棟情報処理実習室)から構成されています。
The facilities of the Media Education Center consist of the library and the PC Working area.



閲覧室
Reading Room



入口(ブックディテクションシステム設置)
The Book Detection System

1. 図書館 Library

本校図書館には、約64,000冊の図書を備え付けており、自由に利用できるようになっています。また、書籍・雑誌だけでなく、AVコーナーではビデオ、DVDなども視聴できます。さらに、パソコンコーナーでは図書の検索やWebページの閲覧も可能です。

平日は8:45から20:00(休業期間中17:00)まで、土曜日は10:00から16:00(ただし休業期間中は閉館)まで開館しており、日曜・祝日、年末年始、月の月末(館内整理休館日)、休業期間中の土曜日が休館日となっています。

昭和63年度より、本校の教職員・学生以外の一般利用者にも開放しています。
The library has a collection of 64,000 books. Students can borrow these books and also watch videos and DVDs in the AV section. The computers are available for students to search for books or view web sites. It opens from 8:45 to 20:00 on weekdays and from 10:00 to 16:00 on Saturdays. It is closed holidays and Sundays. Since 1988, people from outside the college have been able to use this library.

蔵書冊数 Books 平成18年3月31日現在 As of March 31 2006

区分 Classification	総記 General Collection	哲学 Philosophy	歴史 History	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	工学 Engineering	産業 Industry	芸術 Arts	語学 Languages	文学 Literature	計 Total	
図書の冊数 Books	和書 Japanese	5,492	1,695	3,902	3,638	11,477	19,623	405	1,555	1,935	9,041	58,763
	洋書 Foreign	207	38	52	86	2,743	1,050	1	40	724	571	5,512
計 Total	5,699	1,733	3,954	3,724	14,220	20,673	406	1,595	2,659	9,612	64,275	

利用状況 Use of Library

入館者数 (人) Total Visitors	開館日数 (日) Total Open days	貸出図書数 The number of books borrowed										
		総記 General Collection	哲学 Philosophy	歴史 History	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	工学 Engineering	産業 Industry	芸術 Arts	語学 Languages	文学 Literature	計 Total
62,300	244	487	128	59	157	482	1,196	2	96	108	2,071	4,786

学術雑誌及び視聴覚資料 Journals and Audio-Visual Materials

区分 Classification	保有数 Number in Collection
和雑誌(種) Japanese	381
洋雑誌(種) Foreign	40
ビデオテープ(タイトル) Video Tapes	391
DVD(タイトル) DVDs	182

資料 2 - 1 - ③ - 2 B

2. PCワーキングエリア PC Working area

PCワーキングエリアの構成図
Organization of PC Working Area

第一演習室(PC46台)、第二演習室、第三演習室(PC46台)、マルチメディア演習室(PC60台)、情報処理実習室(PC48台)を有しています。平日の放課後には学生に開放しており、教育・研究活動に成果を上げています。

We have 46 computers in the 1st seminar room, 46 computers in the 2nd and 3rd seminar rooms, 60 computers in the Multimedia Seminar room and 48 computers in the Information Processing Practice room. These are available to students on weekdays after classes, to use for study and research.

第一演習室でのプログラミング演習
Programming in the 1st seminar room

3年生を対象とした第一演習室でのプログラミング授業の様子。学生は一年次からメールアドレスを所有し、教員や学生間でコミュニケーションを取っているほか、インターネットを学業・研究に利用しています。

The third grade students are learning programming in the 1st seminar room. They have mail addresses for communication with teachers and students. They also use computers to access the internet for study and research.

マルチメディア利用の語学演習
Multimedia-Assisted Language Learning

校内のネットワーク環境を活用した英語学習システム「Web-CALL」「Net Academy」が授業や自主学習で利用されています。学生は英検やTOEIC受験のための演習を自分のペースで行うことができます。

English learning systems, Web-CALL and Net Academy, making use of the internal network, are utilized in classes and for individual study. Students can study for Standard Test of English Proficiency and Test of English for International Communication at their own pace.

電子掲示板システム
Electronic bulletin board system

平成14年にプラズマディスプレイが校内5ヶ所に設置されました。この電子掲示板は、授業変更連絡、学生の呼び出し、イベント情報、各種連絡等の最新情報が校内ネットワークを通じて掲示されています。

We had five plasma displays set up in school buildings. This electronic bulletin boards are connected via the internal network and display the latest news, changes in classes, administrative calls for students and event information.

福利厚生施設, 保健室・学生相談室
Welfare Facilities, Health Center, Student Counseling Room



福利厚生施設 Welfare Facilities

学生と教職員のために福利厚生施設が設置されており、1階には食堂・売店、2階には保健室・学生相談室などがあります。なかでも、学生相談室では、専門のカウンセラーを含む7名の相談員が学生の個人的な悩みなどについて相談に応じ、必要な助言を行っています。

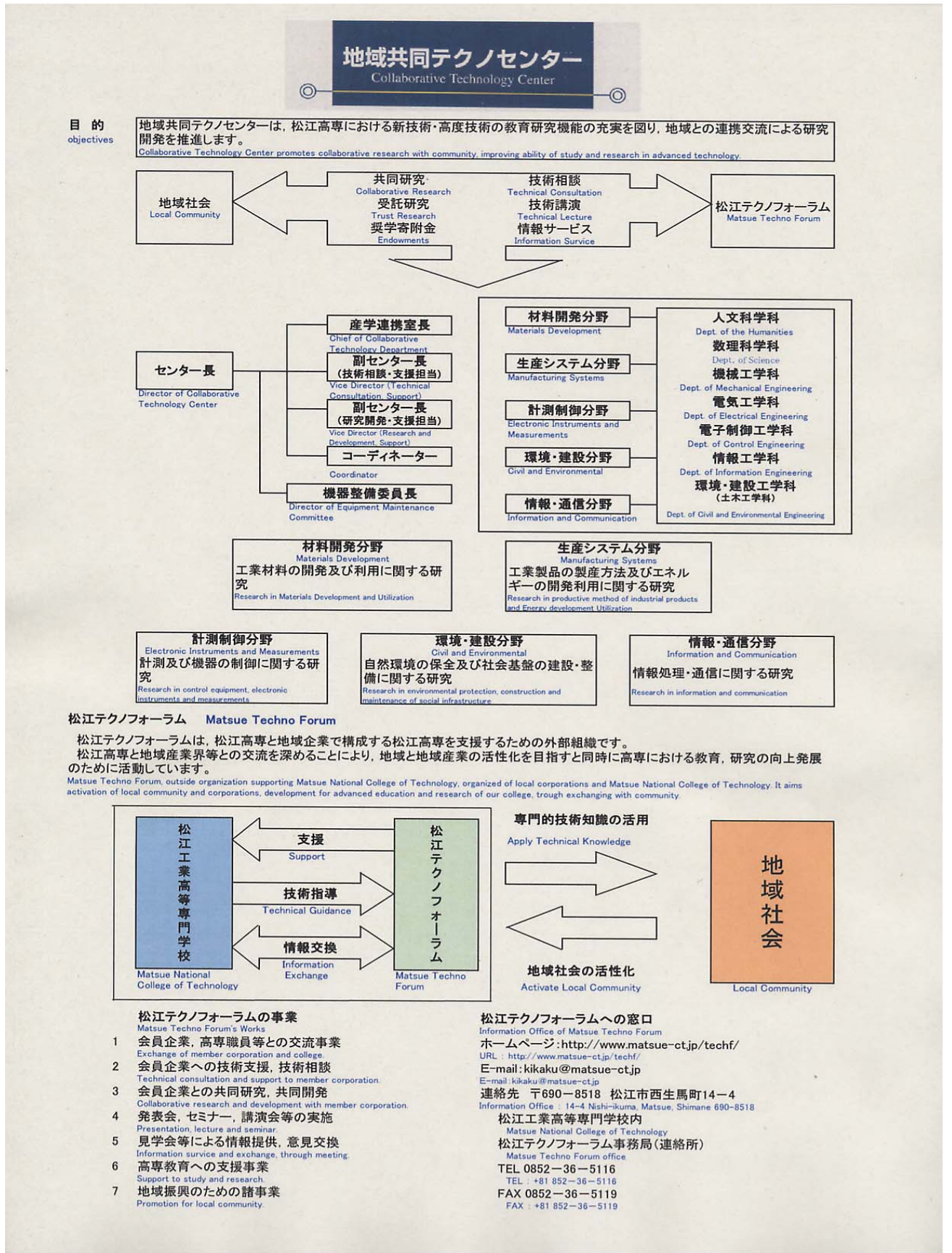
We have Welfare Facilities for students and teaching staff, a cafeteria and a store on the 1st floor. The Health Center, Student Counseling Room and other facilities are on the 2nd floor.

In the Student Counseling Room, 7 staff including a professional counselor give advice and consultation about private concerns.

平成17年度学生相談件数 Number of Consultations (2005)

進路 Course	学業 Study	精神衛生 Personality	対人関係 Relationships	生活全般 Everyday Life	その他 Others	計 Total
12	30	53	25	10	17	147

資料 2 - 1 - ③ - 3



資料 2 - 1 - ③ - 4

実践教育支援センター

Support Center for Practical Education

目的 Objectives

松江工業高等専門学校の技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するとともに、技術職員の能力及び資質等の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資する。

Specially works about techniques in Matsue National College of Technology, carry out smoothly and effectively, and attempt to improvement in technical support staff's skills and tendencies, and enrich the contribution in support systems of research and education.

主な業務内容 Main Works

1. 教育及び研究に対する技術支援に関すること。
1: Technical support about research and education.
2. 学生の実験・実習、卒業研究の技術指導に関すること。
2: Technical guidance to students about experimental, practical exercises and graduation researches.
3. 技術の継承及び保存並びに技術向上のための研修会・発表会・講演会の企画・実施に関すること。
3: Planning and enforcement about presentation, lecture and seminar for the succeed to the techniques, preservation and improvements

目的・業務を達成するための内部組織 Organization

実践教育支援センター長
Director of Support Center for Practical Education

技術室長
Chief of Technical Support

技術室会議
Staff meeting

支援委員会
Support Committee

研修委員会
Training Committee

評価委員会
Evaluation Committee

(構成人員：センター長以下 14 名) Members: Director and other fourteen staffs.

前年度の主な活動 Main activities of last year


- ・学科・情報処理センター(実験・実習)及び公開講座・オープンキャンパス・ロボコン等の業務支援。
Technical support about experimental and practical exercises to the department and the Information Processing Center, and Extension lectures, Open college, Robot Contest, etc.
- ・「学校開放事業」3 件の実施
(チャレンジ！電子工作、竹とんぼをつくって飛行機が飛ぶわけを学ぼう、金属加工に挑戦しよう)
The Wider Community Access to College effected to three times.
"Challenge to the electronic handicraft", "Studying for grounds to flight of airplanes by making the propeller-shaped flying toy made of bamboo", "Challenge to the metal works".
- ・平成 17 年度奨励研究に 11 名が申請し、2 件が採択された。
In 2005, eleven staffs adoption to Encouragement, adoption of two cases.
- ・「技術室事業報告集」発行
Report of the Technical Support Groups issued.

技術室の充実・発展をめざして

Aiming at the substantially and development of Technical Support Groups.


技術室は、「機能する技術集団」を目標に、職員の資質の向上を図るため、月 2 回の技術室会議、各種技術研修会の参加、自己啓発等を通じ技術室の充実・発展をめざしている。

We set own objectives about "Functionally Technical Groups", for the attempt to improvement in staff's skills and tendencies, and aiming at the substantially and development of Technical Support Groups, throughout staff meeting in twice a month, every kind of technical training, and self-enlighten.



学校開放事業(竹とんぼをつくって飛行機が飛ぶわけを学ぼう)

The Wider Community Access to College
"Studying for grounds to flight of airplanes by making the propeller-shaped flying toy made of bamboo"



技術室研修会
Technical Training

(出典 学校要覧 2006)

環境センター/国際交流委員会・留学生委員会

Environmental Center / International Affairs Committee,
International Students Affairs Committee

環境センター Environmental Center

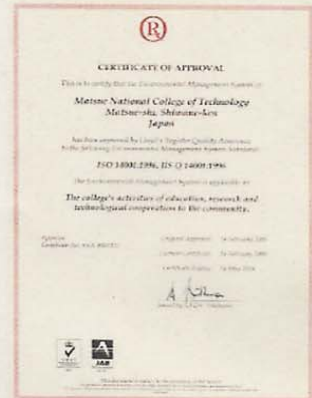
ISO14001 認証取得と今後のエコキャンパス活動

松江高専は、教育目標として『学(ま)んで創(つ)れるエ(え)ンジンニア』を掲げ、地球環境保全に貢献できる「エンジニア」を育成することを宣言しています。この教育目標を達成するための一つの手段として、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を2005年2月14日に取得しました。

今後は、環境センターが中心となり学校全体で「地球環境に対する負荷の低減と汚染の予防を目指した活動」、「地球環境や地域環境の保全・維持向上のための積極的な教育・研究の展開」を進めていきます。

The purpose of our "System Engineering Education Program" is to develop students as engineers who are creative and who can continue to learn. We also train them to devote themselves to the good of society and to protect the global environment as truly international engineers. As a means of meeting our educational objectives, we achieved the international certification standard ISO14001 on Feb.14, 2005.

In the future, we will establish environmental issues as a core component of on-going programs and we will further "activity aimed at reduction of load and prevention of pollution for the global environment" and "positive development of education and studies to raise awareness of protection for the global and local environment" throughout the whole school.



ISO14001 認証
Certificate of Approval ISO14001

国際交流委員会・留学生委員会 International Affairs Committee, International Students Affairs Committee

本校では、平成16年度より海外の大学、ポリテク等の学校と教育及び学術交流をより活発にかつ円滑にするため国際交流委員会を設置しました。また、平成18年度より国際交流委員会から独立した留学生委員会を設置し、留学生の支援、及び日本人学生との交流を促進しています。

The International Affairs Committee was established in 2004 to promote academic exchange with overseas universities and technical colleges. The International Student Affairs Committee was newly established in 2006, as independent from the International Affairs Committee, for the support and care of International students. Also the committee promotes exchange between International and Japanese students.

国際交流委員会

International Affairs Committee



武漢科技大中南分校との研究交流
Research exchange at Wuhan University of Science and Technology Zhongnan Branch, China



ニュージーランド、ワイカト工科大学との交流
Exchange activities at Waikato Institute of Technology in New Zealand

留学生委員会

International Students Affairs Committee



ベトナムの揚げ春巻の模擬店(高専祭)
International students prepared food and presented displays about their home countries for the school festival



留学生と日本人学生の文化交流フォーラム
International students presentation in 3rd year LHR to promote international understanding

資料 2 - 1 - ③ - 6

E-mail: ecotown@web-sanin.co.jp
月刊・環境街かど情報紙
1月号 No.46

世界の環境を考えるエンジニアに!

~ISO14001 認証取得の松江高専~

松江高専は全国の高専で初、また島根県の学校としても初めて、環境マネジメントの国際標準規格 ISO14001 の認証を取得。環境への取り組み、産学官連携の研究などを紹介します。
(担当記者・田中昌子・藤井雅美)

独立行政法人 国立松江工業高等専門学校
宮本武明校長
松江市西生馬町14-4
学生1,045人、うち寮生390人、教職員128人

教育目標「ま」学んで「つ」創れる「え」エンジニア

島根県、松江市とも環境が財産。行政も環境保全に重点を置いています。ここで学ぶ学生には、環境への認識を高めてもらいたい。世界の環境を考え、貢献するエンジニアに育ってほしい。松江高専環境センター長の東原哲男教授は、環境教育への方針を話しました。

平成十三年度に中期教育目標として「ま」学んで「つ」創れる「え」エンジニアを掲げています。さらに環境教育の充実と客観的評価を得るため、ISO14001の認証取得を目指しました。

取得に向けて環境センターを設置。マニュアル、手順書、マネジメントプログラムを作成。教育、研究、地域連携などの実際の活動が審査され、二〇〇五年(平成十六年度)二月に認証取得しました。

取得後も、養成した内部監査委員の教職員と学生が、環境に関する法規制の遵守状況やごみの排出量、電気の使用量などを定期的にチェック。半年に一度実施される、ISOを統轄する外部の審査機関の検査に備えます。

「環境保全」に貢献する研究成果

これまで松江高専ではソーラーカーや水環境モニタリング装置の開発、そして廃ガラスを使用した資材の研究など多く

の研究を手がけてきました。それらは高く評価され実用化されています。今、力を注いでいる研究は、瓦の廃材の活用。島根県は石州瓦の産地です。「屋根の葺き替えで廃棄される大量の瓦を「新たな建材」に有効活用できないか」との要望を受け、同校の設立した地域共同テクノセンターで研究が進められています。一般的なコンクリートに調合する骨材(砂や碎石)の一部に粉砕した瓦を再利用。今後、タイルや化粧材などへも活用が期待されます。

清掃と「三分別」の徹底

ISO取得後の日々の取り組みとして実施しているのが、学生による毎日の清掃です。毎日集められる一般的なごみは、校内に設置されたリサイクルステーションに持ち込まれ、分別されます。持ち運びのためのごみ袋も、「繰り返し使

農学博士の高田龍一教授は同センター長も兼任。「建築は環境負荷が大いと言われます。これらの研究を通じ、資源循環型社会に貢献したい」と熱く語りました。

毎年一月には学校行事として「クリーンデー」を実施。学生、教職員が松江高専周辺地区の清掃活動をしています。「多くの寮生が松江市の「クリーン松江」に参加した」と寮務主事の高橋栄教授。新しい校舎の照明器具には、人が入ると点灯する省エネタイプが取り入れられています。

ISO取得は、スタート地点

東原教授は「ISO取得の維持とともに、環境に関する教育、研究、地域連携などの活動を継続的に進め、改善していくことが今後の課題。これらが本番です!」と意欲的です。

同じく松江市の島根大学もISO14001の取得を計画。これから産学官が連携し、環境保全への活躍が期待できます。

学生から募集した節電・節水標語
「冷房は地球にとって暖房だ」

「クリーンデー」で活動する学生たち

(出典 月間環境街かど情報紙)

(分析結果とその根拠理由)

各センターは、全体組織のなかで各々の役割を責任もって担い、教育上の効果も充分にあげていることから適切に設置されている。

- 41 -

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

(1) 学校全体

教育課程を含めた学校全体の事項を検討・調整するために、校長の下に学校協議会（資料 2-2-①-1）、運営委員会（資料 2-2-①-2）を設置し、また具体的な計画、立案及び点検・評価作業を行うために副校長の下に企画総務室（資料 2-2-①-3）を設置している。また、決定事項を周知するため全教員を集めて教員会議を開催している。

(2) 準学士課程

準学士課程の教育課程に関する全般的事項については教務委員会（資料 2-2-①-4）で、教育課程の詳細事項にかかる部分の検討についてはカリキュラム委員会（資料 2-2-①-5）でそれぞれ審議している。両委員会とも委員長には教務主事を充てている。教務委員会は年間10回程度、カリキュラム委員会は必要に応じて開催している。それぞれの委員会での決定事項は記録に残し（資料 2-2-①-6）、運営委員会での協議（資料 2-2-①-7）を経て教員会議に報告（資料 2-2-①-8）され実行に移している。

(3) 専攻科課程

専攻科課程における教育課程は、専攻科委員会（資料 2-2-①-9）で検討されている。毎年、教育課程等の検討が行われ、必要があれば、教育課程の改訂がなされている。専攻科委員会は年6回程度開催し、決定事項は、運営委員会での協議を経て教員会議に報告され実行に移している。

資料 2-2-①-1

松江工業高等専門学校学校協議会規則

(平成16年4月1日 制定)

(目的)

第1条 松江工業高等専門学校の運営に関し、学校の発展のために教育職員と事務職員が対等な立場で協議するため、学校協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 協議会は前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 一 本校の管理・運営に関すること。
- 二 その他校長が指定する事項。

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 企画総務室長
- 三 専攻科長
- 四 教務主事、学生主事、寮務主事
- 五 事務部長及び各課長

(会議)

第4条 協議会は、校長が招集し、その議長となる。

2 校長が必要と認めるときは、委員以外の者を協議会に出席させ、その意見を求めることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は校長が定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 2-2-①-2

松江工業高等専門学校運営委員会規則

平成 13 年 4 月 1 日 制 定
平成 18 年 4 月 1 日 最終改正

(目的)

第 1 条 松江工業高等専門学校の管理、運営に関する事項について校長が意見を聞くため、運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 企画総務室長及び専攻科長
- 三 教務主事、学生主事及び寮務主事
- 四 各学科長
- 五 地域共同テクノセンター長
- 六 メディア教育センター長
- 七 広報委員長
- 八 事務部長
- 九 庶務課長、会計課長及び学生課長
- 十 技術室長
- 十一 その他校長が必要と認める者

(会議)

第 3 条 委員会は、校長が招集し、その議長となる。

2 校長が必要と認めるときは、第 2 条に掲げる者以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

(事務)

第 4 条 委員会に関する事務は、庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 松江工業高等専門学校主事主任会議規則（平成元年 3 月 27 日施行）は廃止する。

附 則

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 2-2-①-3

松江工業高等専門学校企画総務室規則

平成 15 年 10 月 1 日 制 定
平成 18 年 4 月 1 日 最終改正

(設置)

第 1 条 松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、企画総務室を置く。

(審議事項)

第 2 条 企画総務室は、次に掲げる事項を審議し、校長に報告する。

- 一 本校の長期目標、中期目標、中期計画及び各事業年度の業務運営に関する計画策定に関すること。
- 二 新規の事業の企画立案に関すること。
- 三 地域又は社会に対する貢献事業の企画立案に関すること。
- 四 「システム技術」教育プログラムの点検に関すること。
- 五 「システム技術」教育プログラムにおける担当教員の教育に関する貢献の評価に関すること。

六 その他校長が必要と認める事項

2 本校の教育計画の立案に関することは、松江工業高等専門学校学則第9条第2項の規定にかかわらず、企画総務室が行う。

(職員)

第3条 企画総務室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 室長
- 二 副室長
- 三 その他校長が必要と認める者

(室長及び副室長)

第4条 室長は、校長が任命する。

- 2 室長は、企画総務室の業務を掌理する。
- 3 室長の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 副室長は2名とし、教務主事及び専攻科長をもってこれに充てる。
- 5 副室長は、室長を補佐する。

(会議)

第5条 企画総務室の会議（以下「会議」という。）は、室長が招集し、議長は室長をもってこれに充てる。

- 2 室長が必要と認めるときは、会議に第3条に定める職員以外の者を出席させることができる。

(専門部会)

第6条 第2条第1項第二号及び三号に掲げる事項を円滑に実施するため専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会は、イベント担当及び新企画担当とする。
- 3 イベント担当及び新企画担当の業務及び実施組織については、室長が別に定める。

(事務)

第7条 企画総務室の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、企画総務室に関し必要な事項は、会議の議に基づき別に定める。

附 則

この規則は、平成15年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料2-2-①-4

松江工業高等専門学校教務委員会規則

平成13年4月1日 制 定
平成17年4月1日 最終改正

(目的)

第1条 松江工業高等専門学校の教務に関する事項を審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 二 授業計画に関すること。
- 三 学生の転学、転科、退学等身分に関すること。
- 四 学生の修学指導及び成績に関すること。
- 五 教務の行事に関すること。

六 その他必要な事項に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 教務主事補
- 三 学生課長

2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

(会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(報告)

第5条 委員長は、委員会で審議された事項を総括調整し、校長に報告するものとする。

(専門委員会)

第6条 委員会に専門的事項を審議するため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

2 松江工業高等専門学校教務補導委員会規則（昭和40年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料2-2-①-5

松江工業高等専門学校カリキュラム委員会規則

平成16年6月1日 制 定

平成18年4月1日 最終改正

(目的)

第1条 松江工業高等専門学校の教育改善に関する事項を審議するため、カリキュラム委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 カリキュラムの作成、変更、実施に関する事
- 二 各科目の内容、科目相互関係の調整に関する事
- 三 授業科目体系の整備、改善に関する事
- 四 「システム技術」教育プログラムにおける各科目間の連携、教育効果改善に関する事
- 五 その他必要な事項に関する事

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 一般科目及び各学科の代表委員
- 三 学生課長

2 前項第三号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第5条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、副校長（教務主事）が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年6月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 2-2-1-6

平成18年度第1回教務委員会議事要旨

日 時 平成18年4月3日(月) 13時30分～14時30分
 場 所 教務主事室
 出席者 畑田教務主事、勝部、岩田、渡部主事補、学生課長、
 教務係長、学生課専門職員、教務主任(内藤)

議題に入る前、教務委員と新課長の間で自己紹介が行われた。
 松尾教務主任が専門職員となられた旨、報告があった。

議 題

- 1 教務部業務分組について
・教務主事から資料1に基づき説明があり、了承された。
- 2 在籍学生数について
・教務主事から資料2に基づき報告があった。
- 3 入学者の成績について
・教務主事から資料3に基づき報告があった
- 4 前期選択科目使用施設一覧について
・教務主事から資料4に基づき報告があった。
・一部変更あり
- 5 教室配当表について
・教務主事から資料5に基づき報告があった。
- 6 学籍名簿について
・教務主事から資料6に基づき報告があった。
- 7 新入生オリエンテーションについて
・岩田主事補から資料7に基づき説明があり、了承された。
- 8 教育課程並びに学業成績評価に関する手引について
・教務主事から資料8に基づき説明があった。
- 9 学校行事のホームルーム活動・授業時間数の読み替えについて
・教務主事から資料9に基づき説明があり、了承された。
- 10 ラーニングハンドブックについて
・岩田主事補から資料10に基づき説明があり、了承された。
- 11 担任のしおりについて
・岩田主事補から資料11に基づき説明があり、了承された。
・各担任と3部の教員に配付することとした。
- 12 平成17年度転科枠可について
・教務主事から資料12に基づき報告があった。
- 13 編入学前に取得した資格の単位認定について
・教務主事から資料13に基づき説明があり、了承された。
・中学校での取得は、認めないこととした。

以上

(出典 教務委員会 議事録)

資料 2-2-1-7

運営委員会議事要旨

1 日 時 平成18年3月15日(水) 14時10分～14時58分
 2 場 所 第2会議室
 3 議 題

【審議事項】

- (1) 校長講話
- (2) 諸規則の制定及び一部改正について
- (3) 平成18年度当初の会議日程について
- (4) 平成18年度校務分組(案)について
- (5) 外部資金の受入状況について
- (6) その他

【報告事項】

- (1) 平成19年度概算要求(特別教育研究経費)について
- (2) コンピュータソフトウェアの適正な運用・管理の徹底について
- (3) 入学式、始業式、対面式当日の行事について
- (4) 入寮式日程について
- (5) その他

(出典 運営委員会 議事録)

資料 2-2-1-8 A

第 60 回教員会議議事要旨

日時 平成 18 年 4 月 4 日 (火) 15 時 03 分～16 時 30 分
場所 共通 C A D 室 (2 号棟 3 階)

議事要旨

1 教職員会議

1 新校長及び新事務部長の紹介
企画総務室長から荒木光彦新校長の経歴を含めた紹介があった。
続いて荒木光彦新校長から着任の挨拶があった。
庶務課長から相原重昭新事務部長の経歴を含めた紹介があった。
続いて相原重昭新事務部長から着任の挨拶があった。

2 新任教員等、昇任人事及び配属換の紹介
校長から新任教員、昇任人事及び配属換の紹介があった。

(1) 新任教員 2 名

① 松下眞也 (採用・情報工学科助手)
② 久間実樹 (電子制御工学科助教、広島商船高等専門学校から配属換)

(2) 昇任人事 5 名、配属換 1 名を紹介

① 宮下眞也 (外国語教授・昇任)
② 高木健司 (物理教授・昇任)
③ 越田高志 (情報工学科教授・昇任)
④ 渡部 徹 (情報工学科助教・昇任)
⑤ 大塚 誠 (環境・建設工学科助教・昇任)
⑥ 武邊勝道 (環境・建設工学科助手、教理工学科助手から配属換)

3 事務部長から退職・兼職(兼職七)及び採用者の紹介
事務部長から事務部の転出者の紹介、採用者の紹介があった。

(1) 転出者 6 名

① 藤井純朗 (庶務課長) 国立山口徳地青少年自然の家事業支援課長に
② 米田安延 (会計課総務係総務主任) 島根大学教育・学生支援部学務課
係長に
③ 宮崎貴子 (庶務課庶務係) 島根大学総務部総務課に
④ 寺坂雄司 (会計課施設係) 島根大学財務部財務課に
⑤ 安達幸子 (庶務課人事係長) 定年退職
⑥ 小原良司 (学生課事務係長) 辞職

(2) 採用者 5 名

(出典 教員会議議事録)

資料 2-2-1-8 B

① 門城祐司 (学生課長) 国立山口徳地少年自然の家から
② 足立哲男 (学生課学生係長) 島根大学から
③ 山田信一 (会計課出納係出納主任) 島根大学から
④ 細川祥子 (庶務課庶務係) 島根大学から
⑤ 福島志斗 (学生課技術職員) 新規採用

II 教員会議
校長から、議長は河原健次教員に依頼したい旨報告があり、異議なく承認された。

1 校長講話
法人化以降の高専の目的に従来の教育に加えて研究、外部資金の獲得も盛り込まれている。より良い教育を行うために最新の研究を把握し、地域貢献を成すような研究・活動を行うことにより可能となる。自分の経験から御協力できるところで、先先生には是非御相談したい。

2 企画総務室関係

(1) 平成 18 年度教育関係行事予定案について
企画総務室長から、資料(企) - 1 に基づき、説明があった。

(2) 平成 18 年度校務分組について
企画総務室長から、資料(企) - 2 に基づき、説明があった。

(3) 現代 GP について
企画総務室長から、平成 17 年度に採択された「地域ニーズ対応教育の実践(担当: 高田先生、期間: 平成 17 年度～19 年度の 3 年)」は、2 年目に当たると今年度も予定通り予算配分されることとなった。また、平成 18 年度の応募は今年度から新規に盛り込まれたテーマ(①持続可能な社会に繋がる環境教育の推進②実践的総合キャリア教育の推進)のうち、①持続可能な社会に繋がる環境教育の推進について、を東原先生が中心にして取り纏め、申請を行った旨、併せて報告があった。

(4) その他
○ 平成 19 年度概算要求(特別研究経費)について
企画総務室長から、平成 19 年度概算要求(特別研究経費)について全 6 区分のうち、①教育の進捗に関する経費(担当: 招間先生) ③課外教育に関する経費(担当: 高橋栄先生) ④研究の推進に関する経費(担当: 別府先生) の 3 区分に絞って申請することとした旨の報告があった。

(出典 教員会議議事録)

資料 2-2-①-9

松江工業高等専門学校専攻科委員会規則

平成 14 年 4 月 1 日 制 定
平成 18 年 4 月 1 日 最終改正

(趣旨)

第 1 条 この規則は、松江工業高等専門学校専攻科規則第 4 条の規定に基づき、松江工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 二 授業計画に関すること。
- 三 入試方法の改善に関すること。
- 四 学生の休学、復学、退学、留学等身分に関すること。
- 五 学生の学業成績に関すること。
- 六 教育及び研究に関すること。
- 七 その他委員会において必要と認められた事項に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 教務主事
- 三 副専攻科長
- 四 各学科で、専攻科を担当する教員若干名
- 五 学生課長

2 前項第四号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(報告)

第6条 委員長は、委員会で審議された事項を総括整理し、校長に報告するものとする。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程については、教務委員会及びカリキュラム委員会において、専攻科課程については、専攻科委員会において、それぞれ教育課程等の検討が行われ、必要があればその都度、改訂がなされている。これら全体を統括するために学校協議会及び運営会議が、また、中・長期的視野から諸企画の具体案を検討するために企画総務室が置かれ、それぞれの機能を果たしている。

これらの会議・室における検討結果は、全教員が出席する教員会議で説明され、目的・趣旨及び具体的事項の周知が図られている。

観点2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

教育課程を構築・展開するうえで一般科目と専門科目の連携が必要となる場合には、観点2-2-①で示したカリキュラム委員会で検討・審議することとなる。(前掲 2-2-①-5 第2条第1項第4号)一般科目及び5学科(機械, 電気, 電子制御, 情報, 環境・建設工学)からの代表で構成しているが、場面によっては授業科目担当教員間で協議することとなる。

また、カリキュラム委員会は教員間ネットワークを作り、一般教育と専門教育の科目間連携を密にする工夫をしている。たとえば、数学での教授内容・時期と各専門科目で必要となる数学的知識の関連を示す表を学内専用ウェブに公開し、教員間の連携を促進している。

中間試験や期末試験の成績集計が終わった段階では、教員連絡会を教務委員会が開催し、各学級担任が成績結果を中心にクラス状況を説明するなど、全教員が全校の状況を把握するよう努めている。これとは別に、各学科においてはその学科の1年から5年の担任及びアドバイザーを中心に成績検討会を開催し、一般科目教員と専門科目教員が学習指導・生活指導などに踏み込んだ話し合いを行っている。

(分析結果とその根拠理由)

カリキュラム委員会において、一般科目と専門科目の相互関係調整を必要に応じて行っている。

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

管理運営に関わる役職(副校長, 三主事, 学年主任, 各学科長, 専攻科長, 施設長)は教授を充て、主事補, 学級担任, 各種委員会委員及び講義担当教員は原則講師以上を割り当てている。(資料2-2-③-1)

1年から3年の担任は、毎週学年会を開催し、学生の授業や生活に関する状況を把握し、担任同士がお互いにアドバイスをし合っている。この学年会には、教務・学生・寮務各委員会からの主事補と学生相談室員も出席している。また、各学科においては適宜学科会議を開催し、教育活動の円滑化を図っている。さらに、毎日「朝の連絡会」を開催し、教務・学生・寮務あるいは他の委員会からの連絡事項などを伝え、学生指導に役立てている。

また、学生課を中心として教育活動支援体制が整っている。教務係は教務委員会と連携を取りながら、授業実施・成績処理及び進学などを担当している。学生係は学生委員会と連携し、学生の厚生補導及び就職など、寮務係は寮務委員会と連携し寮務全般について様々な支援を行っている。(資料2-2-③-2)

資料2-2-③-1 A

学校運営役割等分担表（平成18年4月1日 現在）

学科	氏名	職名	役職（各委員会委員長）	各委員会委員	学級担任(70+ハイパー)	課外活動顧問	専攻科担当
	荒木 光彦	校長					
人文 科学 科	河原 健次	教授				ラグビー部	
	高橋 栄	教授		教員人事構想委員, FD委員, 図書委員		剣道部	
	宮下 真也	教授	学科長, 国際交流副委員長			女子バレーボール部	一般
	松井 秀宣	助教授			1年1組	高専野球部	
	黒田 祐一	助教授	図書館長, 学生相談副室長			社会奉仕部, 郷土研究同好会	一般
	森山 恭行	助教授			機械2年	バスケットボール部	
	森田 正利	助教授	寮務主事補			陸上競技部	
	飯島 睦美	助教授	A0委員長, 広報副委員長	学生相談員		社会奉仕部, 弓道部	一般
	山根 繁樹	助教授	広報委員長	A0委員, イベント委員		高野連野球部, サッカー部	一般
	鳥谷 智文	助教授	副専攻科長	専攻科委員, カリキュラム委員, 地域共同プロジェクト員	1年2組	吹奏楽部, 郷土研究同好会	一般
	岩田 淳	助教授	マルチメディア教育委員長, 教務主事補	国際交流委員		サッカー部	一般
	マロウ P J	助教授		広報委員, 留学生委員		ESS部	一般
	山崎 真克	助教授	学生主事補			ハンドボール部	一般
服部 真弓	助教授	留学生副委員長		電子制御3年	ESS部, 女子バレーボール部	一般	
数理 科学 科	勝部 豊	教授	学科長, 教務主事補	教員人事構想委員		数学同好会, ラグビー部	一般
	岡本 信之	教授			電気2年	高専野球部, 高野連野球部	一般
	東原 哲男	教授	学生主事, 環境センター長	安全衛生委員		ボート部	P
	高木 健司	教授		FD委員	1年4組	柔道部, スキー同好会	
	中村 元	助教授			1年5組	数学同好会, 柔道部	一般
	中村 賢仁	助教授	寮務主事補	JABEE委員, 機器整備委員, 情報ネットワーク委員		ボート部	一般
	村上 享	助教授		A0委員, カリキュラム委員	環境・建設2年	バレーボール部	一般
	高橋 弘	講師			1年3組	高野連野球部	
機 工 学 科	渡部 正気	教授			機械4年	文芸部, 漫画研究同好会	P
	坪倉 公治	教授			機械3年	古典音楽同好会	P
	郡原 宏	教授		教員人事構想委員		アーチェリー部	P
	門脇 健	教授	学科長			無線部, 男子テニス部	P
	利光 和彦	教授	FD委員長, 副専攻科長	JABEE委員		男子ソフトテニス部	P
	天野 順	助教授		情報ネットワーク委員	機械5年	バレーボール部	P
	高尾 学	助教授	学生主事補	地域共同プロジェクト員		学生会, 高専野球部	P
	藤岡 美博	助教授	イベント委員長	A0委員, 施設管理委員, カリキュラム委員		卓球部	P
	山根 清美	助教授				卓球部	P
	新野 遼幸市	助手		安全衛生委員, 機器整備委員		男子ソフトテニス部	
本間 寛己	助手		広報委員		ロボット研究部, ボート部		
電 気 工 学 科	築谷 隆雄	教授				陸上競技部	S
	飯塚 育生	教授	学科長, 施設管理委員長, 機器整備委員長			水泳部	S
	恒次 秀起	教授	留学生委員長, 安全衛生委員長, 環境副センター長		電気4年	ハンドボール部	S
	福岡 真澄	教授	教務主事(副校長), 実践教育支援センター長, カリキュラム委員長			バスケットボール部	S
	別府 俊幸	教授	専攻科長, JABEE委員長			郷土研究同好会	S
	宮内 肇	助教授		FD委員	電気5年	無線部	S

(出典 庶務課作成資料 教員会議資料取纏)

資料2-2-③-1 B

学 科	箕田 充志	助教授		地域共同テックセンター員		ラケット部	S
	衣笠 保智	講 師	イベント副委員長	A0委員, 学生相談員, カキユム委員, 情報ネットワーク委員		女子ソフトテニス部	S
	渡邊 修治	講 師		広報委員	電気3年	剣道部	S
	片山 優	助 手				バスケットボール部	
電 子 制 御 工 学 科	吉田 剛	教 授	学生相談室長	図書委員		写真部, テニス部	S
	板倉 邦輔	教 授				文芸部, 漫画研究同好会	P
	堀江 克明	教 授				ロボット研究部	
	藤原 豊	教 授	国際交流委員長	評価委員	電子制御4年	テニス部	S
	高橋 信雄	教 授	副校長(企画総務室長), 評価担当委員長, 教員選考委員長			ハンドボール部, 女子バスケットボール部	S
	亀谷 均	教 授	学科長, 産学連携室長	機器整備委員		写真部	S
	長澤 潔	助教授			電子制御5年	サッカー部	
	今尾 浩也	助教授	寮務主事補	JABEE委員, FD委員, 安全衛生委員		社会奉仕部, 弓道部	S
	松本 浩介	助教授		イベント委員, 専攻科委員, 環境センター員, 広報委員, 地域共同テックセンター員		陸上競技部	S
	幸田 憲明	助教授		カキユム委員	電子制御2年	テニス部	S
情 報 工 学 科	久間 英樹	助教授		地域共同テックセンター員			
	戴 鳳智	助 手		国際交流委員, 留学生委員		水泳部	
	岡本 裕幸	教 授			情報5年	吹奏楽部, 美術同好会	S
	藤井 諭	教 授	学科長, マテリアル教育センター長	教員人事構想委員		テニス部	S
	福岡 久雄	教 授	地域共同テック副センター長			女子ソフトテニス部	S
	越田 高志	教 授		地域共同テックセンター員	情報4年	高野連野球部	S
	原 元司	助教授	情報ネットワーク委員長	JABEE委員, 専攻科委員		吹奏楽部	S
	堀内 匡	助教授		FD委員, 学生相談員, カキユム委員	情報2年	情報科学研究部	S
	田邊 喜一	助教授		イベント委員, 留学生委員	情報3年	男子ソフトテニス部	S
	渡部 徹	助教授	教務主事補			吹奏楽部, 弓道部	S
環 境 ・ 建 設 工 学 科	和田守美穂	講 師	学生主事補			学生会, 女子バスケットボール部	S
	加藤 聡	助 手		機器整備委員		情報科学研究部, バスケットボール部	
	松下 慎也	助 手				剣道部	
	金子大二郎	教 授	学科長	JABEE委員		女子バレーボール部	P
	宇野 和男	教 授	寮務主事	教員人事構想委員		スキー同好会	
	高田 龍一	教 授	地域共同テックセンター長	FD委員		柔道部	P
	小島 肇	教 授				文芸部, 漫画研究同好会	
	河原莊一郎	助教授	学生主事補		土木4年	囲碁将棋同好会	P
	浅田 純作	助教授	環境副センター長		土木5年	卓球部	P
	木村 一郎	助教授		専攻科委員, カキユム委員		吹奏楽部, フェアリー部	P
環 境 ・ 建 設 工 学 科	大屋 誠	助教授		施設管理委員, 機器整備委員, マテリアル教育委員, 地域共同テックセンター員, 環境センター員	環境・建設3年	ラケット部	P
	柴田 俊文	助 手		イベント委員		ハンドボール部	
	武邊 勝道	助 手		広報委員, 安全衛生委員		女子ソフトテニス部	

注 研究科担当欄の「P」は生産・建設システム工学専攻を、「S」は電子情報システム工学専攻をそれぞれ表す。

(出典 庶務課作成資料 教員会議資料取纏)

資料 2 - 2 - ③ - 2

II 学生課窓口ガイド

5年間を通して学生諸君と最も関わりの多いところが学生課の窓口です。色々な相談にも適切に対応してくれます。以下に窓口業務の説明と諸手続きが一覧表にまとめてあります。

教 務 係

- ① 教育課程の編成及び授業に関する事。
- ② 学生の募集及び入学者の選抜に関する事。
- ③ 学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業に関する事。
- ④ 学生の進級及び卒業の認定に関する事。
- ⑤ 学生の学業成績並びに定期試験等に関する事。
- ⑥ 学生の指導要録の整理記録及び保管に関する事。
- ⑦ 学生の修学における諸行事の編成に関する事。
- ⑧ 学生の校外実習に関する事。
- ⑨ 教科書及び教材に関する事。
- ⑩ 学生の諸届及び諸証明に関する事。

学 生 係

- ① 学生の生活指導及び生活相談に関する事。
- ② 学生の課外教育に関する事。
- ③ 学生会その他学生団体の指導に関する事。
- ④ 学生の厚生施設の管理運営に関する事。
- ⑤ 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- ⑥ 独立行政法人日本スポーツ振興センターの事務及び学生の安全管理に関する事。
- ⑦ 学生の就職あっせん及びアルバイトに関する事。
- ⑧ 独立行政法人日本学生支援機構及びその他奨学金に関する事。
- ⑨ 入学料、授業料の免除及び徴収猶予に関する事。
- ⑩ 学生の表彰及び懲戒に関する事。
- ⑪ 学生の集会、掲示及び印刷物の配布に関する事。
- ⑫ 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関する事。
- ⑬ 外国人留学生に関する事。

寮 務 係

- ① 寄宿舍（寮）の施設・設備の保全等に関する事。
- ② 学生の入寮及び退寮に関する事。
- ③ 寮生の生活指導及び生活相談に関する事。
- ④ 寮生の健康管理に関する事。
- ⑤ 寮生の安全管理に関する事。
- ⑥ 寮の宿日直に関する事。
- ⑦ 寄宿料の免除及び徴収猶予に関する事。
- ⑧ 寮食堂の管理運営に関する事。
- ⑨ 寮生会の指導に関する事。

(出典 学生ガイドブック 平成 18 年度)

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動を実践教育支援センターの技術職員が支援するとともに、学生課を中心に教育・課外活動・生活指導などさまざまな教員の活動を有効的に支援している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学科の構成は、教育目標を達成する上で適切である。また、全学的なセンターも教育を達成する上で、有効に機能している。教育活動の運営体制は、準学士課程については教務委員会、専攻科課程においては専攻科委員会が企画調整の中心的役割を果たしている。実施に当たって、運営委員会及び教員会議を経て学内的に方針が周知徹底できている。

教育活動の円滑な実施に当たっては、実践教育支援センターの支援体制が有効に機能しており、学生課を中心とした事務部の支援体制も機能している。

(改善を要する点)

一般科目と専門科目を担当する教員間の連携組織をさらに機能させていくことが今後の課題である。

(3) 基準2の自己評価の概要

準学士課程の学科は、機械工学科、電気工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境・建設工学科の5学科で構成されており、また、専攻科課程では、生産・建設システム工学専攻、電子情報システム工学専攻で構成されている。これらの構成は時代的な要請あるいは地域社会の要請に応じた適正なものとなっている。

全学的な組織として、図書館も含めた情報関連の教育研究を支援するメディア教育センター、教育研究機能の充実と共同研究など地域連携を進める地域共同テクノセンター、教育及び研究を支援する実践教育支援センター、地球環境や地域環境の保全・維持向上のために積極的な教育・研究を進める環境センターが設置されており、教育目標を達成する上で適切に整備されていると評価できる。

教育課程を有効に展開するための運営体制は、準学士課程については教務委員会、専攻科課程においては専攻科委員会が企画調整の中心役割を果たしている。実施に当たって、運営委員会及び教員会議を経て周知徹底している。

教育活動を円滑に実施するための支援体制として、教員間では教務・学生・寮務各委員会及び学生相談室も参加し毎週開催される学年会、毎日開催される「朝の連絡会」、学科会議などが整備され、教育サービスの充実が図られている。また、事務部においては、学生課を中心として教育活動支援体制が整備されている。学生課教務係は教務委員会と連携を取りながら、授業実施・成績処理及び進学などを担当している。学生課学生係は学生委員会と連携し、学生の厚生補導及び就職など、学生課寮務係は寮務委員会と連携し寮務全般について様々な支援を行っている。

実践教育支援センターの技術職員は、実験・実習の支援、卒業研究や特別研究などにおける製作支援、さらにはロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテストなど各種コンテストにおいて、当該分野の技術的支援を積極的に行うなど、支援体制を整えている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①: 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の準学士課程全学科共通教育目標(前掲 II目的 参照)を達成するために必要な、人文科学系及び数理科学系の一般科目カリキュラムを構成し、(資料5-1-①-1 AB及び資料6-1-①-1参照)それぞれに質の高い教員が適切に配置され、1学年の混成学級及び2学年以降の学科の要請に対応できるよう教員配置が考慮されている。(資料3-1-①-4)

なお、一般科目担当教員は常勤22名、非常勤23名、計45名で構成されており、基準数22名(14+4+4)を下回ってはいない。(資料3-1-①-1)(資料3-1-①-2)(資料3-1-①-3)。

資料3-1-①-1

教員定員・現員表(平成18年4月1日現在)

(名)

	校 長		教 授		助 授 授		講 師		助 手		計		非常勤 講師
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	
人文科学科				3		1 1						1 4	1 5
数理科学科				4		3		1				8	8
機械工学科				5		4				2		1 1	
電気工学科	1	1	3 5	5	3 3	2		2	8	1	7 7	1 0	1
電子制御工学科				6		5				1		1 2	
情報工学科				4		4		1		2		1 1	2
環境・建設工学科				4		4				2		1 0	3
合 計	1	1	3 5	3 1	3 3	3 3		4	8	8	7 7	*① 7 7	*② 3 2

(注) 1 *①77名には、校長1名を含む。

(注) 2 *②32名には、全学科に渡る選択科目担当3名を含む。

(出典 庶務課 作成資料)

資料3-1-①-2

一般科目担当教員配置表(平成18年4月1日現在)

(名)

	教 授	助 授 授	講 師	助 手	計	非常勤講師
国 語		3			3	3
社 会		2			2	3
数学(応用数学含む)	2	2	1		5	5
理 科	物理	1	1		2	
	化学	1			1	2
	生物					1
保健・体育	1	2			3	1

外国語	英語	2	4		6	2
	ドイツ語					1
	中国語					1
	韓国・朝鮮語					1
芸術	音楽					1
	書道					1
	美術					1
合計		7	14	1	22	23

(出典 庶務課 作成資料)

資料 3-1-①-3

平成 18 年度 非常勤講師 一覧

学科等	氏名	担当科目	担当学科・学年	時間数	前	後	通	計	雇用期間	講師資格
人文(国語)	石原 亨	日本語Ⅰ、Ⅱ	全1年、1年2クラス	前期2*5、後期2*2	10	4	224	224	通年	元高専教授
人文(国語)	三浦清雄	日本語Ⅲ、Ⅳ	全2年、1年2クラス	前期2*5、後期2*2	10	4	224	224	通年	元高専教授
人文(国語)	西村良昭	日本語(留学生)	留学生3年、3年、4年、E5、J5、C5	前期2、後期2、前期2、前期1、後期1、前期1、後期1、前期1	7	4	176	176	通年	元高専教授
人文(社会)	飯塚雅一	法学Ⅰ、法学Ⅱ、経済学	全5年、全5年、全4年	前期2、後期2、後期2	2	4	96	96	通年	元高専教授
人文(社会)	原 崇久	現代社会	1年4クラス	後期2*4	8	8	128	128	後期	元高専講師
人文(社会)	古津康雄	世界史Ⅰ、世界史Ⅱ	2年3クラス、2年4クラス	前期2*3、後期2*4	6	6	224	224	通年	元高専教授
人文(体育)	井山 英弘	体育Ⅲ、Ⅳ	全4年、全4年	前期2、後期2	2	2	64	64	通年	元高専教授
人文(外国語)	小栗 尚子	英語表現Ⅰ、Ⅱ、英語特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、英語Ⅴ、Ⅵ	1-5、1-5、全1年、全1年、全2年、全2年、M3-J3、M3-J3	前期2、後期2、前期2、前期2、前期2、後期2、後期2、前期4、後期4、前期4、後期4	14	14	448	448	通年	文学修士
人文(外国語)	福田 紗子	英語Ⅳ、英語表現Ⅲ、Ⅳ、英語特別演習Ⅲ、Ⅳ	E2-C2、E2-D2、M2-C2、M2-C2、全2年、全2年	前期2、後期2	12	14	416	416	通年	元高専教授
人文(外国語)	浅野和也	ドイツ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	全4年、全4年、全5年、全5年	前期2、後期2、前期2、後期2	4	4	128	128	通年	元高専教授
人文(外国語)	叶 玉虹	中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	全4年、全4年、全5年、全5年	前期2、後期2、前期2、後期2	4	4	128	128	通年	博士(医学)
人文(外国語)	植文香	ハンガールⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	全4年、全4年、全5年、全5年	前期2、後期2、前期2、後期2	4	4	128	128	通年	文部大臣認定(H12.12.14)
人文(芸術)	池田亮治	音楽	全3年	前期2	2	32	32	32	前期	元高専教授
人文(芸術)	北 野弘	書道	全3年	前期2	2	32	32	32	前期	元高専教授
人文(芸術)	石野 真	美術	全3年	前期2	2	32	32	32	前期	大学教授
数理(数学)	伊藤敬彦	数学ⅤB、ⅥB、ⅦB、ⅧB	3年2クラス、2年2クラス	前期2、後期2、前期2、後期4	4	6	160	160	通年	元大学教授
数理(数学)	森山茂明	数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB、ⅤA、ⅤB	1年2クラス、1年2クラス、2年2クラス、2年2クラス、3年2クラス、3年2クラス	前期4、前期4、後期4、後期4、前期4、後期4	12	12	384	384	通年	元高専教授
数理(数学)	木下昌俊	数学ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB	1年4クラス	前期4、前期4、後期4、後期4	8	8	256	256	通年	元高専教授
数理(数学)	山崎祐嗣	数学ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB、数学特別演習ⅤB、ⅥB、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ	2年2クラス、2年1クラス、2年2クラス、2年2クラス、1年1クラス、3年1クラス、3年1クラス、4年1クラス、4年1クラス	前期4、前期2、後期4、後期4、後期2、前期2、後期2	12	12	384	384	通年	元大学教授
数理(数学)	秦野 薫	数学ⅢA、ⅣA、ⅤB、応用数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	2年2クラス、3年2クラス、3年1クラス、4年1クラス、4年1クラス、5年1クラス	前期4、後期4、後期2、前期2、後期2	8	8	256	256	通年	元大学教授
数理(理科)	黒崎行雄	化学Ⅰ、Ⅱ	1年3~5組、1年3~5組	前期2*3、後期2*3	6	6	192	192	通年	元高専教授
数理(理科)	清原 泰	化学Ⅲ、Ⅳ	J2-C2、J2-C2	前期2*2、後期2*2	4	4	128	128	通年	大学助教授
数理(理科)	初見真知子	生物Ⅰ、Ⅱ	全3年、全3年	前期2、後期2	2	2	64	64	通年	大学助教授
電気	東村正巳	無線通信工学	E5	前期2	2	32	32	32	前期	元高専教授
5年生学科	小谷 充	工業デザイン	全5年	前期2	2	32	32	32	前期(集中)	大学助教授
5年生学科	奥谷 健	企業経営基礎	全5年	前期2	2	32	32	32	前期	大学助教授
5年生学科	田辺善博	知的財産権	全5年	前期2	2	32	32	32	前期	修士(理学)
情報	河野英太郎	ネットワーク技術	E5-D5-J5	前期2	2	32	32	32	前期(集中)	大学助手
情報	日野和久	システム工学Ⅰ、Ⅱ	J5、J5	前期2、後期2	2	2	64	64	通年	元高専教授
環境・建設	寺本竜雄	景観工学	C5	前期2	2	32	32	32	前期	工学修士(横浜国立大学)
環境・建設	栗木 悟	環境生態学	C5、C5	前期2、後期2	2	2	64	64	通年	博士(地球環境科学)
環境・建設	上田 務	衛生工学Ⅰ、Ⅱ、応用水理学、水理学Ⅰ、Ⅱ	C4、C4、C5、C3、C3	前期2、後期2、前期2、後期4	6	6	192	192	通年	元高専教授

(出典 庶務課 作成資料)

資料3-1-①-4

人文科学科 Department of the Humanities

職名 Title	氏名・学位 Name・Degrees	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field
助教授 Associate Professor	松井秀宣 MATSUI, Shusen	日本語 Japanese	1年1組担任(学年主任) 1-1 Homeroom Teacher	国文学 Japanese Literature
助教授 Associate Professor	山根繁樹 YAMANE, Shigeki 修士(文学) M.A.		広報委員長 Chairperson of Public Bulletin Committee	日本近代文学 Modern Japanese Literature
助教授 Associate Professor	山崎真克 YAMAZAKI, Masakatsu 修士(文学) M.A.		学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs 内地研究員(広島大学) Temporary study within Japan (HIROSHIMA UNIVERSITY)	和歌文学 Japanese Poetry
助教授 Associate Professor	黒田祐一 KURODA, Yuichi 理学修士 M.Sc.	社会 Social Studies	図書館長(図書委員長) Library Manager メディア教育センター副センター長 Vice Chairperson of Media Education Center 学生相談室副室長 Vice Chief of Student Counsellors	地理学 Geography
助教授 Associate Professor	鳥谷智文 TOYA, Tomofumi 修士(文学) M.A.		1年2組担任 1-2 Homeroom Teacher	日本史 Japanese History
教授 Professor	河原健次 GOBARA, Kenji	保健・体育 Health & Physical Education		保健体育 Physical Education
助教授 Associate Professor	森山恭行 MORIYAMA, Yasuyuki		機械工学科2年担任(学年主任) HR Teacher of Dept. of Mechanical Eng. 2nd Grade	コーチ学 Sports Coaching
助教授 Associate Professor	森田正利 MORITA, Masatoshi 体育学修士 M.Ph.		寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory Affairs	コーチ学 Sports Coaching
教授 Professor	高橋 栄 TAKAHASHI, Sakae	英語 English		アメリカ文学 American Literature 英語教育 TEFL
教授 Professor	宮下真也 MIYASHITA, Shinya 教育学修士 M.Ed.			認知言語学 Cognitive Linguistics 英語教育 TEFL
助教授 Associate Professor	飯島睦美 IIJIMA, Mutsumi 修士(文学) M.A.		AO委員長 Chairperson of Admissions Committee	英語教育 TEFL 英語学 English Linguistics
助教授 Associate Professor	岩田 淳 IWATA, Jun 修士(文学) M.A.		教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs マルチメディア教育委員長 Chairperson of Multimedia Education Committee	英語教育 TEFL アメリカ文学 American Literature
助教授 Associate Professor	パトリシア・マロー Murrow, Patricia J. 理学修士 M.A.			英語教育 TEFL 環境学 Environmental Studies
助教授 Associate Professor	服部真弓 HATTORI, Mayumi		電子制御工学科3年担任(学年主任) HR Teacher of Dept. of Control Eng. 3rd Grade	英語教育 TEFL 英語学 English Linguistics

数理科学科 Department of Science

職名 Title	氏名・学位 Name・Degrees	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field
教授 Professor	勝部 豊 KATSUBE, Yutaka 理学博士 D.Sc.	数学、応用数学 Mathematics, Applied Mathematics	教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs	位相幾何学 Topology
教授 Professor	岡本信之 OKAMOTO, Nobuyuki 教育学修士 M.Ed.		電気工学科2年担任 HR Teacher of Dept. of Electrical Eng. 2nd Grade	代数学 Algebra 数学教育 Mathematical Education
助教授 Associate Professor	中村 元 NAKAMURA, Gen 博士(理学) D.Sc.		1年5組担任 1-5 Homeroom Teacher	関数解析学 Functional Analysis
助教授 Associate Professor	村上 享 MURAKAMI, Akira 修士(教育学) M.Ed.		環境・建設工学科2年担任 HR Teacher of Dept. of Civil and Environmental Eng. 2nd Grade	統計学 Statistics 数学教育 Mathematical Education
講師 Lecturer	高橋 弘 TAKAHASHI, Hiroshi 博士(理学) D.Sc.		1年3組担任 1-3 Homeroom Teacher	確率過程論 Probability Theory
教授 Professor	東原哲男 HIGASHIHARA, Tetsuo 理学博士 D.Sc.	理科 (物理、化学) Science (Physics, Chemistry)	学生委員長 Chairperson of Student Affairs Committee	気相化学反応 Gas Kinetics
教授 Professor	高木健司 TAKAKI, Kenji		1年4組担任 1-4 Homeroom Teacher	流体工学 Fluid Engineering
助教授 Associate Professor	中村賢仁 NAKAMURA, Kenji 博士(理学) D.Sc.		寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory Affairs	宇宙物理学 Astrophysics

(分析結果とその根拠理由)

全学科共通教育目標を達成するために必要な一般科目が計画され、教育課程運営及び実施に必要な一般科目担当教員は確保され、適正に配置されている。

科目区分ごとの配置状況は、表のとおりであり概ね適切であるが、英語以外の外国語（ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語）及び芸術分野（音楽、書道）については、その特殊性から外部者を非常勤講師に任用して教育している。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の各学科教育目標（前掲 II 目的及び資料2-1-①-2 A～C 参照）を達成するために必要な、各学科の専門科目カリキュラムを構成し、（資料5-1-①-1 C～G及び資料6-1-①-1参照）それぞれに質の高い教員が適切に配置され、教育課程運営及び実施に必要な教員は、確保されている。

なお、専門科目教員配置状況は、教員定員・現員表（前掲 資料3-1-①-1）、平成18年度非常勤講師一覧（前掲 資料3-1-①-3）のとおり常勤54名、非常勤9名、計63名で構成されており、専門科目担当専任教員54名は基準数36名（ $8 + 7 \times 4$ ）を下回ってはいない。また、専門科目を担当する専任の教授及び助教授の数は43名で、基準数39名（ $78 \times 1/2$ ）を下回ってはいない。

専門科目担当教員の担当教授業科目及び専門分野等は、学校要覧において公表されている。

- ・ 機械工学科（資料3-1-②-1）
- ・ 電気工学科（資料3-1-②-2）
- ・ 電子制御工学科（資料3-1-②-3）
- ・ 情報工学科（資料3-1-②-4）
- ・ 環境・建設工学科（資料3-1-②-5）

学科によって配置されている教員人数に偏りがあるが、授業担当時間数については、資料3-1-②-6に示すとおり、教授は16コマ以上、助教授・講師は12コマ以上、助手は10コマ以下となるようにしており、教員の負担は職階ごとに平準化されている。この中では、卒業研究や専攻科特別研究などの指導、実験・実習での実質的な負担なども授業担当時間数に換算して、計算をしている。

本校の教育課程では、専門科目においても複数学科共通の授業も数多く開講されている。この場合には学科の枠を取り払って、その科目を教育する上で最も適切な教員が授業担当をすることになっており、配置されている学科以外の学生へも教育を行っている。所属学科以外の教員から学ぶことは、学生にとっては新鮮で視野が広がることに繋がっている。一方、教員にとっても教育の視点が学科内にとどまらず、学校全体へと向くという効果も生まれてきている。

資料3-1-②-1

機械工学科 教員一覧

職名 Title	氏名・学位 Name・Degrees	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field
教授 Professor	渡部正氣 WATANABE, Seiki 工学博士 D.Eng.	材料力学1・2・3・4 設計製図3 機械工学実験1・2	Strength of Materials 1, 2, 3, 4 Design and Drawing 3 Experimentation in Mechanical Engineering 1, 2	機械工学科4年アドバイザー Adviser of Dept. of Mechanical Eng. 4th Grade 材料力学 Strength of Materials 機械材料 Machinery Materials
教授 Professor	坪倉公治 TSUBOKURA, Koji 博士(工学) D.Eng.	機械工学概論 機械工作法1・2 工業力学1・2 設計製図4 機械工作実習1 機械工学実験1	Introduction to Mechanical Engineering Manufacturing Technology 1, 2 Engineering Mechanics 1, 2 Design and Drawing 4 Manufacturing Practice 1 Experimentation in Mechanical Engineering 1	機械工学3年担任 HR Teacher of Dept. of Mechanical Eng. 3rd Grade 機械要素 Factors in Mechanics 機械工作 Manufacturing
教授 Professor	郡原宏 GUNBARA, Hiroshi 博士(工学) D.Eng.	機械工学概論 機械要素設計1・2・3 機械工作実習2 機構力学 機械工学実験1・2	Introduction to Mechanical Engineering Design of Machine Elements 1, 2, 3 Manufacturing Practice 2 Dynamics of Machinery Experimentation in Mechanical Engineering 1, 2	機械要素 Factors in Mechanics
教授 Professor	門脇健 KADOWAKI, Ken 博士(工学) D.Eng.	機械工学概論 熱力学1・2 熱機関 機械工作実習2 機械工学実験1・2	Introduction to Mechanical Engineering Thermodynamics 1, 2 Heat Engine Manufacturing Practice 2 Experimentation in Mechanical Engineering 1, 2	進路指導委員長 Chairperson of Guidance Counseling Committee 内燃機関 Internal Combustion Engine 熱工学 Thermal Engineering
教授 Professor	利光和彦 TOSHIMITSU, Kazuhiko 工学博士 D.Eng.	物理 機械工学概論 流体工学2・3 機械工学実験1・2	Physics Introduction to Mechanical Engineering Fluid Engineering 2, 3 Experimentation in Mechanical Engineering 1, 2	副専攻科長 Vice Dean of Advanced Engineering Faculty FD委員長 Director of Faculty Development Committee 熱流体工学 Thermal and Fluid Engineering 航空宇宙推進工学 Aeronautical and Space Propulsion Engineering
助教授 Associate Professor	天野順 AMANO, Jun 博士(工学) D.Eng.	テクニカルR&W デザイン設計製図 設計製図6 数値計算演習1 制御工学1・2 機械工学実験2	Technical Reading and Writing Advanced Design and Drawing Design and Drawing 6 Information Processing 1 Control Engineering 1, 2 Experimentation in Mechanical Engineering 2	機械工学科5年アドバイザー Adviser of Dept. of Mechanical Eng. 5th Grade 材料力学 Strength of Materials
助教授 Associate Professor	高尾学 TAKAO, Manabu 博士(工学) D.Eng.	基礎専門 創造演習2 機械工学実験2 工作実習4・5 流体工学1 流体機械	Special Seminar Project Practice 2 Experimentation in Mechanical Engineering 2 Manufacturing Practice 4, 5 Fluid Engineering 1 Fluid Machinery	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs 流体工学 Fluid Engineering
助教授 Associate Professor	藤岡美博 FUJIOKA, Yoshihiro 博士(工学) D.Eng.	計測工学1・2 機械力学1・2 機械工学実験1 創造演習1 工作実習4	Instrument and Measurement 1, 2 Dynamics of Machine 1, 2 Experimentation in Mechanical Engineering 1 Project Practice 1 Manufacturing Practice 4	計測・制御工学 Instrument and Control Engineering
助教授 Associate Professor	山根清美 YAMANE, Kiyomi 博士(工学) D.Eng.	物理 創造演習1・2 数値計算演習2 機械工学実験1・2 CAD シミュレーション力学	Physics Project Practice 1, 2 Information Processing 2 Experimentation in Mechanical Engineering 1, 2 Computer Aided Design Simulation Dynamics	流体工学 Fluid Engineering
助手 Research Associate	新野邊幸市 NIINOBE, Koichi 博士(工学) D.Eng.	基礎専門 材料学1 機械工学実験1・2 機械工学演習1 工作実習4	Special Seminar Engineering Materials 1 Experimentation in Mechanical Engineering 1, 2 Practical Training in Mechanical Engineering 1 Manufacturing Practice 4	機械材料 Machinery Materials
助手 Research Associate	本間寛己 HONMA, Hiroki 博士(工学) D.Eng.	テクニカルR&W 工作実習5 機械工学演習1 機械工作実習1・2	Technical Reading and Writing Manufacturing Practice 5 Practical Training in Mechanical Engineering 1 Manufacturing Practice 1, 2	熱工学 Thermal Engineering 伝熱工学 Heat Transfer

(出典 学校要覧 2006)

資料3-1-②-2
電気工学科 教員一覧

職名 Title	氏名・学位 Name・Degrees	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field	
教授 Professor	築谷隆雄 TSUKUTANI, Takao 博士(工学) D.Eng.	基礎電気回路3・4 電気工学特別演習1・2 電気回路1・2 計測工学1・2	Basic Circuit Theory 3, 4 Electrical Engineering Exercise 1, 2 Circuit Theory 1, 2 Instrument and Measurement 1, 2	電子回路 Electronic Circuits アナログ信号処理 Analog Signal Processing	
教授 Professor	飯塚育生 IIZUKA, Ikuo 工学博士 D.Eng.	情報通信工学1・2・3・4 電気工学実験 情報処理3・4	Communication Engineering 1, 2, 3, 4 Electrical Experiments Information Processing 3, 4	施設管理委員長 Chairperson of Facilities Management Committee 機器整備委員長 Chairperson of Equipment Maintenance Committee	通信工学 Communication Engineering
教授 Professor	恒次秀起 TSUNETSU, Hideki 博士(工学) D.Eng.	電子工学1・2 半導体工学 マイクロエレクトロニクス 電気工学実験	Electronics 1, 2 Semiconductor Engineering Microelectronics Electrical Experiments	留学生委員長 Chairperson of International Student Affairs Committee 安全衛生委員長(総括管理者) Chairperson of Safety and Sanitation Committee 電気工学科4年アドバイザー Advisor of Dept. of Electrical Eng. 4th Grade 環境センター副センター長 Vice Director of Environmental Center	光通信工学 Optical Communication マイクロエレクトロニクス工学 Microelectronics
教授 Professor	福岡眞澄 FUKUMA, Masumi 博士(工学) D.Eng.	物理III, IV 電気磁気学1・2 エレクトリックマテリアル 電気工学実験	Physics III, IV Electromagnetics 1, 2 Electrical Materials Electrical Experiments	カリキュラム委員長 Chairperson of Curriculum Committee 企画総務室副室長 Assistant Dean of General Coordination and Planning Department 教務委員長 Chairperson of Academic Affairs Committee 安全管理委員長 Chairperson of Safety Management Committee 情報公開委員長 Chairperson of Freedom of Information Committee 実践教育支援センター運営委員長 Chairperson of Support Center for Practical Education Management Committee	電気・電子材料工学 Electrical Materials
教授 Professor	別府俊幸 BEPPU, Toshiyuki 博士(医学), 博士(工学) D.Med., D.Eng.	技術者倫理 電子回路1・2 電気デザイン1・2	Engineering Ethics Electronic Circuits 1, 2 Electronic Circuits Design 1, 2	JABEE委員長 Chairperson of JABEE Committee 企画総務室副室長 Assistant Dean of General Coordination and Planning Department 専攻科委員長 Chairperson of Advanced Engineering Faculties Committee	計測・制御工学 Instrument and Control Engineering
助教授 Associate Professor	宮内肇 MIYAUCHI, Hajime 工学修士 M.Eng.	テクニカルR&W 基礎電気磁気学1・2 基礎電気回路1・2 電気工学特別演習2・3・4 電気工学実験	Technical Reading and Writing Basic Electromagnetics 1, 2 Basic Circuit Theory 1, 2 Electrical Engineering Exercise 2, 3, 4 Electrical Experiments	電気工学科5年アドバイザー Advisor of Dept. of Electrical Eng. 5th Grade	電力工学 Electric Power Engineering
助教授 Associate Professor	箕田充志 MINODA, Atsushi 博士(工学) D.Eng.	電気工事特別演習 電力工学1・2 高電圧工学 電気工学実験	Electrical Work Electric Power Engineering 1, 2 High Voltage Engineering Electrical Experiments	在外研究員(オーストラリア) Temporary study overseas (Australia)	高電圧工学 High Voltage Engineering 電気・電子材料工学 Electrical Materials 電力工学 Electric Power Engineering
(兼) 助教授 Associate Professor	鳥谷智文 TOYA, Tomofumi 修士(文学) M.A.	卒業研究	Graduation Research	1年2組担任 1-2 Homeroom Teacher	日本史 Japanese History
(兼) 助教授 Associate Professor	山根繁樹 YAMANE, Shigeki 修士(文学) M.A.	卒業研究	Graduation Research	広報委員長 Chairperson of Public Bulletin Committee	日本近代文学 Modern Japanese Literature
(兼) 助教授 Associate Professor	中村元 NAKAMURA, Gen 博士(理学) D.Sc.	卒業研究	Graduation Research	1年5組担任 1-5 Homeroom Teacher	関数解析学 Functional Analysis
講師 Lecturer	衣笠保智 KINUGASA, Yasutomo 博士(工学) D.Eng.	電気製作・実験 情報処理1・2 電気回路1・2 デジタル回路 電気工学実験	Electric Manufacture and Experiments Information Processing 1, 2 Circuit Theory 1, 2 Digital Circuits Electrical Experiments		信号処理 Signal Processing 電子回路 Electronic Circuits
講師 Lecturer	渡邊修治 WATANABE, Shuji 博士(工学) D.Eng.	専門基礎特別演習A 電気情報工学基礎実験1・2 電気工学実験 エネルギー変換工学1・2 パワーエレクトロニクス 電気デザイン1	Special Seminar A Electric and Information Engineering Basic Experiments 1, 2 Electrical Experiment Energy Transduction Engineering 1, 2 Power Electronics Electronic Circuits Design 1	電気工学科3年担任 HR Teacher of Dept. of Electrical Eng. 3rd Grade	パワーエレクトロニクス Power Electronics
助手 Research Associate	片山優 KATAYAMA, Masaru 博士(学術) D.A.	専門基礎特別演習C 電気情報工学基礎実験1・2 情報処理3・4 電気工学実験	Special Seminar C Electric and Information Engineering Basic Experiments 1, 2 Information Processing 3, 4 Electrical Experiments		制御工学 Control Engineering

資料3-1-②-3

電子制御工学科 教員一覧

職名 Title	氏名・学位 Name・Degrees	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field	
教授 Professor	吉田 剛 YOSHIDA, Takeshi 工学博士 D.Eng.	電子制御基礎1,2 工業力学1,2 制御工学概論1,2 制御工学3,4	Basic Control Engineering 1, 2 Engineering Mechanics 1, 2 Introduction to Control Engineering 1, 2 Control Engineering 3, 4	計測・制御工学 Instrument and Control Engineering	
教授 Professor	板倉 邦輔 ITAKURA, Kunisuke	材料工学 工学実験4,5 専門基礎特別演習A 物理 I, II 物理特別演習 I, II 材料学2	Engineering Materials Experiments on Control Engineering 4, 5 Special Seminar A Physics I, II Physics Seminar I, II Engineering Materials 2	機械材料 Machine Materials	
教授 Professor	堀江 克明 HORIE, Katsuaki	機械設計 材料力学 機構学 創造設計製作1,2,3 電子制御デザイン1 工学実験3,5	Machine Design Strength of Materials Mechanism Creative Design and Production 1, 2, 3 Control Engineering Design 1 Experiments on Control Engineering 3, 5	機械システム Mechanical Systems 自動化技術 Automatization Systems	
教授 Professor	藤原 豊 FUJIHARA, Yutaka 博士(工学) D.Eng.	プログラミング1 計算機工学2 経営工学1,2 工学実験3	Programming 1 Computer Engineering 2 Management Science 1, 2 Experiments on Control Engineering 3	国際交流委員長 Chairperson of International Affairs Committee 電子制御工学科4年アドバイザー Adviser of Dept.of Control Eng. 4th Grade	経営工学 Management Science
教授 Professor	高橋 信雄 TAKAHASHI, Nobuo 博士(工学) D.Eng.	コンピュータ制御1,2,3 プログラミング2 計算機工学1 創造設計製作2 工学実験3	Computer Control 1, 2, 3 Programming 2 Computer Engineering 1 Creative Design and Production 2 Experiments on Control Engineering 3	教員選考委員長 Chairperson of Personnel Committee	電力工学 Electric Power Engineering 電子機器工学 Electronic Apparatus Engineering
教授 Professor	亀谷 均 KAMETANI, Hitoshi 工学博士 D.Eng.	電気磁気学1, 2 計測工学1,2 創造設計製作2 光エレクトロニクス 工学実験3 電気・電子工学1(M) 基礎情報処理 基礎計算機工学1,2	Electromagnetics 1, 2 Instrument and Measurement 1,2 Creative Design and Production 2 Optoelectronics Experiments on Control Engineering 3 Electric and Electronic Circuits 1 Computer Literacy Basic Computer Engineering 1, 2	産学連携室長 Chief of Collaborative Technology Department	計測工学 Instrument and Measurement 応用計測 Applied Optical Measurement
助教授 Associate Professor	長澤 潔 NAGASAWA, Kiyoshi 工学修士 M.Eng.	制御工学1,2 メカトロニクス1,2 振動学 ロボット工学 工学実験1,2,4	Control Engineering 1, 2 Mechatronics 1, 2 Vibrations Robotics Experiments on Control Engineering 1, 2, 4	電子制御工学科5年アドバイザー(学年主任) Adviser of Dept.of Control Eng. 5th Grade	制御工学 Control Engineering ロボティクス Robotics メカトロニクス Mechatronics
助教授 Associate Professor	今尾 浩也 IMAO, Hiroya 博士(工学) D.Eng.	電子制御基礎1,2 基礎電気回路1,2,3,4 基礎電気磁気学1,2 工学実験1,3	Basic Control Engineering 1, 2 Basic Electric Circuits 1, 2, 3, 4 Basic Electromagnetics 1, 2 Experiments on Control Engineering 1, 3	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory Affairs	超電導工学 Superconductive Engineering 電気・電子材料工学 Electrical materials
助教授 Associate Professor	松本 浩介 MATSUMOTO, Kousuke 博士(工学) D.Eng.	電子工学1,2 電気回路1,2 創造設計製作1,2 工学実験1 電気・電子工学3(M)	Electronics 1, 2 Circuits Theory 1, 2 Creative Design and Production 1, 2 Experiments on Control Engineering 1 Electric and Electronic Circuits 3		超伝導工学 Superconductive Engineering 電気・電子材料工学 Electrical materials
助教授 Associate Professor	幸田 憲明 KOUHA, Noriaki 博士(工学) D.Eng.	電子回路1,2 工学実験2,3 電気・電子工学2(M) 電子制御デザイン2	Electronic Circuits 1, 2 Experiments on Control Engineering 2, 3 Electric and Electronic Circuits 2 Control Engineering Design 2	電子制御工学科2年担任 HR Teacher of Dept.of Control Eng. 2nd Grade	知能制御 Knowledge Control
助教授 Associate Professor	久間 英樹 KUMA, Hideki 博士(工学) D.Eng.	基礎情報処理	Computer Literacy		機械加工学 Manufacturing Processes 認知工学 Cognitive Engineering
助手 Research Associate	戴 鳳智 DAI, Fengzhi 博士(工学) D.Eng.	基礎情報処理 基礎計算機工学1,2 物理特別演習2 工学実験1,2	Computer Literacy Basic Computer Engineering 1, 2 Physics Seminar II Experiments on Control Engineering 1, 2		制御・情報工学 Control Information Engineering

資料3-1-②-4
情報工学科 教員一覧

職名 Title	氏名・学位 Name・Degree	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field
教授 Professor	岡本裕幸 OKAMOTO, Hiroyuki 博士(工学) D.Eng.	テクニカルR&W1・2 論理回路1・2 情報工学演習1・2 情報工学実験3 プログラミング言語1・2	Technical Reading and Writing 1, 2 Logic Circuits 1, 2 Exercise on Information Engineering 1, 2 Experiments on Information Engineering 3 Programming Language 1, 2	情報工学科5年アドバイザー Adviser of Dept. of Information Eng. 5th Grade 画像情報工学 Image Information Engineering
教授 Professor	藤井 諭 FUJII, Satoru 博士(情報学) D.Info.	プログラミング3 アルゴリズムとデータ構造1 情報工学演習1・2 ソフトウェア工学1・2・3 データベース概論 情報工学実験3	Programming 3 Algorithms and Data Structures 1 Exercise on Information Engineering 1, 2 Software Engineering 1, 2, 3 Introduction to Database Experiments on Information Engineering 3	技術士(情報工学部門) Prof. Engineer メディア教育センター運営委員長 Chairperson of Media Education Center Management Committee 情報工学 Information Engineering
教授 Professor	福岡久雄 FUKUOKA, Hisao 博士(工学) D.Eng.	情報工学実験2 計算機工学1・2 オペレーティングシステム1・2 情報工学実験4 コンパイラ1	Experiments on Information Engineering 2 Computer Engineering 1, 2 Operating Systems 1, 2 Experiments on Information Engineering 4 Compiler 1	地域共同テクノセンター副センター長 Vice Director of Collaborative Technology Center 情報工学 Information Engineering
(兼) 教授 Professor	飯塚育生 IIZUKA, Ikuo 工学博士 D.Eng.	情報通信工学1・2・3・4 卒業研究	Communication Engineering 1, 2, 3, 4 Graduation Research	通信工学 Communication Engineering
教授 Professor	越田高志 KOSHIDA, Takashi 博士(工学) D.Eng.	基礎電磁気学1・2 情報数学1・2 プログラミング言語1・2 情報工学実験4 電磁気学1・2 情報理論1・2	Basic Electromagnetics 1, 2 Discrete Mathematics 1, 2 Programming Language 1, 2 Experiments on Information Engineering 4 Electromagnetics 1, 2 Information Theory 1, 2	情報工学科4年アドバイザー(学年主任) Adviser of Dept. of Information Eng. 4th Grade 技術士(情報工学部門) Prof. Engineer 情報システム工学 Information System Engineering
助教授 Associate Professor	田邊喜一 TANABE, Kiichi 博士(工学) D.Eng.	電気情報工学基礎実験1 基礎計算機工学1・2 情報工学実験1・2・4	Electric and Information Engineering Basic Experiment 1 Basic Computer Engineering 1, 2 Experiments on Information Engineering 1, 2, 4	情報工学科3年担任 HR Teacher of Dept. of Information Eng. 3rd Grade 画像情報工学 Image Information Engineering
助教授 Associate Professor	原元司 HARA, Motoshi 博士(工学) D.Eng.	プログラミング3 情報ネットワーク1・2 情報ネットワーク	Programming 3 Computer Network 1, 2 Computer Network	情報ネットワーク委員長 Chairperson of Information Network Committee 情報ネットワーク Computer Network
助教授 Associate Professor	堀内匡 HORIUCHI, Tadashi 博士(工学) D.Eng.	テクニカルR&W1・2 プログラミング1・2 情報工学実験3 アルゴリズムとデータ構造2 情報工学創造演習1・2	Technical Reading and Writing 1, 2 Programming 1, 2 Experiments on Information Engineering 3 Algorithms and Data Structures 2 Creative Exercise on Information Engineering 1, 2	情報工学科2年担任 HR Teacher of Dept. of Information Eng. 2nd Grade 知能情報学 Knowledge Information Engineering
助教授 Associate Professor	渡部 徹 WATANABE, Toru 博士(工学) D.Eng.	テクニカルR&W1・2 基礎電気回路1・2 情報工学演習1・2 情報工学実験1・2・3 電子工学1・2	Technical Reading and Writing 1, 2 Basic Circuits Theory 1, 2 Exercise on Information Engineering 1, 2 Experiments on Information Engineering 1, 2, 3 Electric Engineering 1, 2	教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs 知能情報学 Knowledge Information Engineering
講師 Lecturer	和田守美穂 WADAMORI, Miho 博士(工学) D.Eng.	テクニカルR&W1・2 電気情報工学基礎実験1・2 基礎電気回路3・4 プログラミング1・2 情報工学演習1・2	Technical Reading and Writing 1, 2 Electric and Information Engineering Basic Experiment 1, 2 Basic Circuits Theory 3, 4 Programming 1, 2 Exercise on Information Engineering 1, 2	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs 知能情報学 Knowledge Information Engineering
助手 Research Associate	加藤 聡 KATO, Satoru 修士(情報科学) M.InfoSci.	専門基礎特別演習C 情報工学演習1・2	Special Seminar C Exercise on Information Engineering 1, 2	知能情報学 Knowledge Information Engineering
助手 Research Associate	松下慎也 MATSUSHITA, Shinya 博士(理学) D.Sc.	情報工学演習1・2 電気情報工学基礎実験1・2	Exercise on Information Engineering 1, 2 Electric and Information Engineering Basic Experiment 1, 2	最適化理論 Optimization Theory 非線形関数解析学 Nonlinear Functional Analysis

資料3-1-②-5

環境・建設工学科 教員一覧

職名 Title	氏名・学位 Name・Degrees	担当科目 Teaching Subjects	備考 Notes	専門分野 Specialized Field
教授 Professor	金子 大二郎 KANEKO, Daijiro 博士(工学) D.Eng.	環境・建設セミナー 水理学 環境と人間 水工学 水資源工学 港湾計画学 環境システム工学	Seminar for Environment and Construction Hydraulics Environment and Human Hydraulics Engineering Water Resources Engineering Harbor Planning Environmental System Engineering	水圏環境学 Hydrospheric Environmental Studies 都市環境学 Urban Environmental Engineering リモートセンシング Remote Sensing
教授 Professor	宇野 和男 UNO, Kazuo	環境・建設セミナー 図学 土木製図 専門基礎特別演習B CAD 応用測量学1・2 土木計画数理1・2 工学実験	Seminar for Environment and Construction Descriptive Geometry Civil Engineering Drawing Special Seminar B Computer Aided Design Applied Surveying 1, 2 Infrastructure Planning 1, 2 Experiments	寮務委員長 Chairperson of Dormitory Affairs Committee 土木環境システム Civil and Environmental Systems 土木計画学 Infrastructure Planning
教授 Professor	高田 龍一 TAKATA, Ryuichi 農学博士 D.Agr.	環境・建設セミナー 建設材料学1・2 鉄筋コンクリート工学1・2・3・4 土木設計製図2・3 工学実験	Seminar for Environment and Construction Civil Engineering Materials 1, 2 Reinforced Concrete Engineering 1, 2, 3, 4 Civil Engineering Design and Drawing 2, 3 Experiments	地域共同テクノセンター運営委員長 Chairperson of Collaborative Technology Center Management Committee 知的財産委員長 Chairperson of Intellectual Properties Committee 環境材料学 Environmental Material Engineering 材料工学 Engineering Materials 生物資源工学 Agricultural Civil Engineering
教授 Professor	小島 肇 KOJIMA, Hajime	環境・建設セミナー 地球科学1 測量学及び実習1・2 土木設計製図5 工学実験	Seminar for Environment and Construction Earth Science 1 Surveying & Field Practice 1, 2 Civil Engineering Design and Drawing 5 Experiments	土木材料 Civil Engineering Materials 応用地質 Applied Geology
助教授 Associate Professor	河原 荘一郎 KAWAHARA, Soichiro 博士(工学) D.Eng.	環境・建設セミナー 土質力学1・2・3・4 応用土質工学 土木工学実験2	Seminar for Environment and Construction Soil Mechanics 1, 2, 3, 4 Applied Soil Engineering Experiments on Civil Engineering 2	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs 土木工学科4年アドバイザー Adviser of Dept. of Civil Eng. 4th Grade 土質工学 Soil Engineering 地震工学 Earthquake Engineering 土木施工 Construction Engineering
助教授 Associate Professor	浅田 純作 ASADA, Junsaku 博士(工学) D.Eng.	環境・建設セミナー 専門基礎特別演習B 土木施工 都市計画 交通工学1・2 土木設計製図4	Seminar for Environment and Construction Special Seminar B Execution of Work City Planning Traffic Engineering 1, 2 Civil Engineering Design and Drawing 4	土木工学科5年アドバイザー Adviser of Dept. of Civil Eng. 5th Grade 環境センター副センター長 Vice Director of Environmental Center 災害社会工学 Disaster Social Engineering 地域計画 Regional Planning
助教授 Associate Professor	木村 一郎 KIMURA, Ichiro 博士(工学) D.Eng.	環境・建設セミナー 水理学3 環境工学 環境工学1 情報処理演習1 工学実験 土木工学実験3	Seminar for Environment and Construction Hydraulics 3 Environmental Engineering Environmental Engineering 1 Information Processing 1 Experiments Experiments 3	水理学 Hydraulics 河川工学 River Engineering 数値流体力学 Computational Fluid Mechanics
助教授 Associate Professor	大屋 誠 OHYA, Makoto 博士(工学) D.Eng.	環境・建設セミナー 構造力学 橋梁工学 応用構造力学1・2 土木設計製図6 専門基礎特別演習B	Seminar for Environment and Construction Structural Mechanics Bridge Engineering Applied Structural Mechanics 1, 2 Civil Engineering Design and Drawing 6 Special Seminar B	環境・建設工学科3年担任 HR Teacher of Dept. of Civil and Environmental Eng. 3rd Grade 構造工学 Structural Engineering 災害社会工学 Disaster Social Engineering
助手 Research Associate	柴田 俊文 SHIBATA, Toshifumi 博士(工学) D.Eng.	構造力学 工学実験 土木設計製図1 環境・建設セミナー	Structural Mechanics Experiments Civil Engineering Design and Drawing 1 Seminar for Environment and Construction	衝撃工学 Impact Engineering 計算工学 Computational Engineering 地盤工学 Geotechnical Engineering
助手 Research Associate	武邊 勝道 TAKEBE, Masamichi 博士(理学) D.Sc.	地球科学2 環境・建設セミナー 工学実験 物理特別演習	Earth Science 2 Seminar for Environment and Construction Experiments Physics Seminar	地球化学 Geochemistry 地質学 Geology

資料3-1-②-6

授業担当時間数について

1. 講義時間数（週あたり）について

平成16年度より、前後期の平均授業担当数（コマ数）を以下の通りとする。

教授	16コマ以上
助教授・講師	12コマ以上
助手	10コマ以内（実験、実習、演習科目および卒研のみ）。

2. 講義数の計算方法

- (1) 本科および専攻科の講義、実験実習、演習科目の週あたりのコマ数を数える。
- (2) 複数教官が1つの講義科目を分担している場合は \times （講義回数/15）とする。
- (3) 講義人数が1クラスを越える場合は $\times 1.25$ とする。（人数が1クラスよりも少ない場合には、 $\times 1$ のままとする）。
- (4) 実験実習、演習科目は
 - (ア)（教官+技官） ≤ 6 人の場合は、コマ数をそのまま数える。
 - (イ)（教官+技官） > 6 人の場合は、 \times （コマ数 $\times 6$ /（教官+技官）数）とする。
 - (ウ) 空き日が生じる場合は、 \times （実験回数/15）倍とする。
- (5) 演習科目は特別演習、演習、情報処理、製図、テクニカルR&W他とする。
- (6) 卒業研究は、学生を受け持っている教官に限り4コマと数える。
- (7) 専攻科特別研究は、学生を受け持っている教官に限り2コマと数える。（実質的な指導教官とする）。
- (8) 専攻科特別実験および専攻科英語講読はカウントしない。

(例)

2コマの実験を8人で実施の場合 2 （コマ） $\times 6 / 8 = 1.5$

2コマの実験を4人で実施するが、5週間空きとなる場合

$$2$$
（コマ） $\times 10 / 15 = 1.33$

2コマの講義を2人で実施し、そのうちの7回を担当する場合

$$2$$
（コマ） $\times 7 / 15 = 0.93$

（一般科目）3人以下の卒研を複数人の教官で指導している場合

4コマを指導割合で分割する

助手が専攻科生の実質的な指導教官である場合

名目指導教官でなく、その助手が2コマとする

3. 実施に際して

- (1) 実質的な指導をしている時間のみをカウントする。実験で出席を取るだけなど、実質的な指導を伴わない教官はカウントしない。
- (2) 助手は講義科目を担当しない。卒研、実験、実習などの演習科目のみとする。
- (3) コマ数は前後期の平均数として、半期毎のアンバランスは認める。
- (4) 一般科目の卒研は5専門学科に対し、卒研テーマ及び募集要項を示す。
- (5) 卒研発表は公開する。

(出典 教務委員会 議事要旨 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成に照らして各学科の教員は適切に配置されている。教育課程は時代の要請等に応じてその都度見直され、時代にあった適切なカリキュラムとなっている。これに対する教員配置も高等専門学校設置基準はもとより本校の目的を達成すべく、教員が適切に配置されている。教育課程の実施では、担当するのに最も適切な教員を充てるため、学科の枠を取り払って、他学科の学生にも多くの教員が教えている。

なお、専門学科教員の採用にあたり企業等経験者の採用を積極的に行っており、現在企業等経験者は、機械工学科4名、電気工学科4名、電子制御工学科4名、情報工学科4名、環境・建設工学科4名の計20名である。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程を担当する教員は準学士課程と兼任であり、一般科目、専門共通科目及び各専攻の専門展開科目を担当している。表(資料3-1-③-1)に、学科別の教員数を示しているが、全教員の3分の2以上の教員が専攻科課程を担当している。また、各学科の担当者数にも大きな隔たりがなく配置されている。

なお、現在は、常勤の教員のみが担当しており、担当授業科目は学校要覧で公表している。(資料3-1-③-2)

専攻科課程を担当する教員は、高等専門学校設置基準第6条及び大学評価・学位授与機構の審査基準を満たしている。また、新規に担当する教員に対しても、前述の基準に準拠した学内基準を設け、厳格かつ適正に選考している。(資料3-1-③-3)

資料3-1-③-1

専攻科課程学科別担当教員		(名)
学 科	現員数	担当教員数
人文科学科	14	9
数理学科	8	6
機械工学科	11	9
電気工学科	10	9
電子制御工学科	12	8
情報工学科	11	9
環境・建設工学科	10	6
合 計	76	56

(出典 庶務課 作成資料)

資料 3-1-③-2 A

教員 Teaching Staff

一般共通科目 General Subjects Common to Both Courses

職名 Title	氏名 Name	担当科目 Teaching Subjects	学位 Degrees
教授 Professor	宮下 眞也 MIYASHITA, Shinya	言語学概論, 総合英語コミュニケーション Linguistics, English Communication	教育学修士 M.Ed.
助教授 Associate Professor	黒田 祐一 KURODA, Yuichi	地図文化概論 Cultural Geography	理学修士 M.Sc.
助教授 Associate Professor	飯島 睦美 IJIMA, Mutsumi	時事英語, 総合英語コミュニケーション Current English, English Communication	修士(文学) M.A.
助教授 Associate Professor	山根 繁樹 YAMANE, Shigeki	日本現代文学概説 Modern Japanese Literature	修士(文学) M.A.
助教授 Associate Professor	鳥谷 智文 TOYA, Tomofumi	地域社会史論, 技術環境史 Regional Societies of Japanese History, Environment and Engineering History	修士(文学) M.A.
助教授 Associate Professor	山崎 真克 YAMAZAKI, Masakatsu	日本古典文学概説 Classical Japanese Literature	修士(文学) M.A.

専門共通科目 Technical Common Subjects

職名 Title	氏名 Name	担当科目 Teaching Subjects	学位 Degrees
教授 Professor	勝部 豊 KATSUBE, Yutaka	応用代数学 Applied Algebra	理学博士 D.Sc.
教授 Professor	岡本 信之 OKAMOTO, Nobuyuki	応用代数学 Applied Algebra	教育学修士 M.Ed.
助教授 Associate Professor	中村 元 NAKAMURA, Gen	応用解析学 Applied Analysis	博士(理学) D.Sc.
助教授 Associate Professor	村上 享 MURAKAMI, Akira	応用解析学 Applied Analysis	修士(教育学) M.Ed.
助教授 Associate Professor	中村 賢仁 NAKAMURA, Kenji	計算物理学 Computational Physics	博士(理学) D.Sc.
助教授 Associate Professor	パトリシア・マロー MURROW, Patricia J.	総合英語コミュニケーション, 環境科学 English Communication, Environmental Science	理学修士 M.A.
助教授 Associate Professor	岩田 淳 IWATA, Jun	総合英語コミュニケーション English Communication	修士(文学) M.A.
助教授 Associate Professor	服部 真弓 HATTORI, Mayumi	総合英語コミュニケーション English Communication	

生産・建設システム工学専攻 Advanced Production and Construction Systems

職名 Title	氏名 Name	担当科目 Teaching Subjects	学位 Degrees
教授 Professor	渡部 正氣 WATANABE, Seiki	材料強度学, 工業材料学 I, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Fracture Mechanics, Industrial Materials Engineering I, Thesis Work, Seminar I, II	工学博士 D.Eng.
教授 Professor	板倉 邦輔 ITAKURA, Kunisuke	工業材料学 I, 工学ゼミナール I, II Industrial Materials Engineering I, Seminar I, II	
教授 Professor	東原 哲男 HIGASHIHARA, Tetsuo	燃焼工学, 環境科学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Combustion Engineering, Environmental Science, Thesis Work, Seminar I, II	理学博士 D.Sc.
教授 Professor	坪倉 公治 TSUBOKURA, Koji	機械要素学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Machine Elements, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	郡原 宏 GUNBARA, Hiroshi	機械運動解析学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Mechanical Motion Analysis, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	門 脇 健 KADOWAKI, Ken	熱エネルギー工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Thermal Energy Engineering, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	利光 和彦 TOSHIMITSU, Kazuhiko	高速流体力学, 特別研究, 特別実験 II, 工学ゼミナール I, II Compressible Fluid Dynamics, Thesis Work, Experiments II, Seminar I, II	工学博士 D.Eng.
教授 Professor	金子 大二郎 KANEKO, Dajiro	水文・水資源学, リモートセンシング概論, 特別研究, 特別実験 II, 工学ゼミナール I, II Hydrology and Water Resources, Remote Sensing, Thesis Work, Experiments II, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	高田 龍一 TAKATA, Ryuichi	工業材料学 II, 生物資源工学概論, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Industrial Materials Engineering II, Agricultural Civil Engineering, Thesis Work, Seminar I, II	農学博士 D.Agr.
助教授 Associate Professor	天野 順 AMANO, Jun	機械数値シミュレーション, 特別研究, 特別実験 I, 工学ゼミナール I, II Numerical Simulation for Mechanical Systems, Thesis Work, Experiments I, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	山根 清美 YAMANE, Kiyomi	特別研究, 工学ゼミナール I, II Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	河原 荘一郎 KAWAHARA, Soichiro	建設機械学, 地盤防災工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Construction Machinery, Geotechnical Disaster Engineering, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	浅田 純作 ASADA, Junzaku	都市と交通の計画学, 災害社会工学, 特別研究, 特別実験 I, 工学ゼミナール I, II Urban and Transportation Planning, Planning for Disaster Mitigation, Thesis Work, Experiments I, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	木村 一郎 KIMURA, Ichiro	環境共生水理学, 環境流体数値解析, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Environmental Hydraulics, Environmental Fluid Computations, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	高尾 学 TAKAO, Manabu	流体力学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Fluid Dynamics, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	藤岡 美博 FUJIOKA, Yoshihiro	応用機械力学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Applied Machine Dynamics, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	大屋 誠 OHYA, Makoto	マトリックス構造解析力学, 振動解析, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Matrix Structural Analysis, Dynamics of Structures, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.

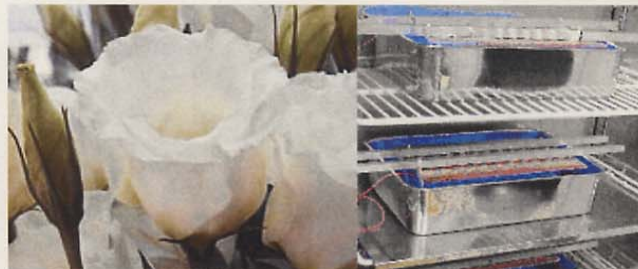
資料 3-1-③-2 B

電子情報システム工学専攻 Advanced Electronic and Information Systems

職名 Title	氏名 Name	担当科目 Teaching Subjects	学位 Degrees
教授 Professor	築谷 隆雄 TSUKUTANI, Takao	アナログ信号処理, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Analog Signal Processing, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	飯塚 育生 IZUKA, Ikuo	通信回路工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Digital Communication Circuits, Thesis Work, Seminar I, II	工学博士 D.Eng.
教授 Professor	恒次 秀起 TSUNETSUGU, Hideki	光応用計測, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Applied Optical Measurement, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	福岡 眞澄 FUKUMA, Masumi	電子材料物性工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Physical Properties of Electronic Materials, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	別府 俊幸 BEPPU, Toshiyuki	医用電子工学, 技術論, 技術環境史, 特別研究, 特別実験 I, 工学ゼミナール I, II Medical Electronics, Professional Engineering, Environment and Engineering History, Thesis Work, Experiments I, Seminar I, II	博士(医学), 博士(工) D.Med, D.Eng.
教授 Professor	吉田 剛 YOSHIDA, Takeshi	デジタル制御, 人間工学, 工学ゼミナール I, II Automatic Digital Control, Human Engineering, Seminar I, II	工学博士 D.Eng.
教授 Professor	藤原 豊 FUJIHARA, Yutaka	統計解析法, 生産システム工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Data Analysis, Manufacturing Systems, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	高橋 信雄 TAKAHASHI, Nobuo	パワーエレクトロニクス, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Power Electronics, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	亀谷 均 KAMETANI, Hitoshi	応用計測工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Applied Instrument and Measurement, Thesis Work, Seminar I, II	工学博士 D.Eng.
教授 Professor	岡本 裕幸 OKAMOTO, Hiroyuki	デジタル画像処理, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Digital Image Processing, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	藤井 諭 FUJII, Satoru	メディア情報処理, 技術論, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Multimedia Information Processing, Professional Engineering, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	福岡 久雄 FUKUOKA, Hisao	分散システム論, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Distributed Systems, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
教授 Professor	越田 高志 KOSHIDA, Takashi	システム設計技術論, 特別研究, 工学ゼミナール I, II System Design, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	宮内 肇 MIYAUCHI, Hajime	ソフトコンピューティング, 工学ゼミナール I, II Soft Computing, Seminar I, II	工学修士 M.Eng.
助教授 Associate Professor	箕田 充志 MINODA, Atsushi	高電圧絶縁工学, 特別研究, 特別実験 II, 工学ゼミナール I, II High-Voltage and Electrical Insulation Engineering, Thesis Work, Experiments II, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	今尾 浩也 IMAO, Hiroya	固体電子物性論, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Solid Electronics, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	松本 浩介 MATSUMOTO, Kousuke	固体電子物性論, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Solid Electronics, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	幸田 憲明 KOUDA, Noriaki	センサネットワーク, 特別研究, 特別実験 I, II, 工学ゼミナール I, II Sensor Network, Thesis Work, Experiments I, II, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	田邊 喜一 TANABE, Kiichi	ヒューマンインターフェイス, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Human Interface, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	原 元司 HARA, Motoshi	オートマトン・自然言語処理論, 技術論, 特別研究, 特別実験 I, II, 工学ゼミナール I, II Automata and Language Theory, Professional Engineering, Thesis Work, Experiments I, II, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	堀内 匡 HORIUCHI, Tadashi	知能情報処理論, ソフトコンピューティング, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Intelligent Information Processing, Soft Computing, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
助教授 Associate Professor	渡部 徹 WATANABE, Toru	神経数理工学, 特別研究, 工学ゼミナール I, II Neural Network Theory, Thesis Work, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
講師 Lecturer	衣笠 保智 KINUGASA, Yasutomo	回路網工学, 工学ゼミナール I, II Circuit Theory, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
講師 Lecturer	渡邊 修治 WATANABE, Shuji	パワーエレクトロニクス, 工学ゼミナール I, II Power Electronics, Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.
講師 Lecturer	和田 守美穂 WADAMORI, Miho	工学ゼミナール I, II Seminar I, II	博士(工学) D.Eng.



地盤の常時微動測定
Measurement of Ground Microtremor



人工光源によるトルコギキョウの育苗
Growing a Bellflower Seedling by Artificial Light Radiation System

資料 3 - 1 - ③ - 3

専攻科担当教員の資格

2002.12.9

1. 特別研究

職名	学位(博士)	資格
教授	有	査読付論文 6 編以上 (過去 10 年間に 3 編以上) 英文論文, あるいは国際会議での発表があること
	無	査読付論文が多数あり, 学位取得者と同等以上であること
助教授	有	査読付論文 3 編以上 (過去 5 年間に 1 編以上) 英文論文, あるいは国際会議での発表があること
	無	査読付論文が多数あり, 学位取得者と同等以上であること

2. 講義

専門科目

職名	学位(博士)	資格
教授	有	査読付論文 1 編以上 (過去 10 年間)
	無	査読付論文 3 編以上 (過去 10 年間に 1 編以上)
助教授	有	査読付論文 1 編以上 (過去 5 年間)
講師	無	査読付論文 2 編以上 (過去 5 年間に 1 編以上)

一般自然科学系 (専門科目に準じる)

一般人文系

職名	学位(博士)	資格
教授	有	査読付論文 1 編以上 (過去 10 年間)
	無	査読付論文 2 編以上 (過去 10 年間に 1 編以上)
助教授	有	査読付論文 1 編以上 (過去 10 年間)
講師	無	査読付論文 1 編以上 (過去 5 年間に 1 編以上)

備考

- 査読付論文との対応
書籍: 査読付論文と同等, 国際会議: 査読付論文の 1/3, 登録特許: 考慮
高専教育: 考慮
- 技術研究報告, 学会発表等は参考程度とする。
- 最近の研究業績を重視する。
- 学士の場合, 修士プラス 1 編とする。

(出典 庶務課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程を担当する教員は, 高等専門学校設置基準第 6 条及び大学評価・学位授与機構の審査基準を満たしている。また, 新規に担当する教員に対しても, 学内基準に示すように特別研究担当又は講義のみ担当と資格基準を明確にし, 厳正な選考が行われている。学科別教員数から明らかなように, 各学科とも相当数の教員が専攻科課程の運用に携わっており, 適切な教員の配置がなされている。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校の教員組織にかかる年齢構成は、年代別にほぼ均衡しておりバランスがとれている。女性教員は、77名中4名で近年増えつつあり、これは女子学生増加傾向も一つの要因であると考えられる。

企業等の実務経歴者は、総教員数の58%にあたる45名であり、そのうち半数の23名が教育経歴を有する者である。

学位取得者は、総教員数の86%にあたる66名（そのうち博士号取得者は53名）であり、未取得者に対しては内地研究員制度や大学院の社会人入学制度利用などできるだけ配慮をしている。

外国人教員は、人文科学科に1名（英語担当 助教授 女）、電子制御工学科に1名（助手 男）をそれぞれ配置している。（資料3-1-④-1）

内地研究員等の派遣については、積極的に制度を活用している。その状況については学校要覧で示している。（資料3-1-④-2）

資料3-1-④-2

在外・内地研究員

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
海外先進教育研究 実践プログラム		1 アメリカ合衆国		
在外研究員	2 英国、フランス		1 オーストラリア	
内地研究員	1 慶応義塾大学	1 奈良先端科学技術 大学院大学	1 東京大学	1 広島大学

（出典 庶務課 作成資料）

資料3-1-④-1

教員年齢構成・実務経験者・学位取得者一覧表（平成18年4月1日現在）

(名)

		25～29歳		30～34歳		35～39歳		40～44歳		45～49歳		50～54歳		55～59歳		60歳以上		合計		実務経験者		学位取得者	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人文科学科	教授											1		1		1		3		2(2)		1	
	助教授					3	1	2	1	2		1			1			8	3	7(6)	3(3)	6	2
	講師																						
	助手																						
	計					3	1	2	1	2		2		1	1	1		11	3	9(8)	3(3)	7	2
数理科学科	教授											1		2		1		4				3	
	助教授					2				1								3		2(1)		3	
	講師			1														1				1	
	助手																						
	計			1		2				1		1		2		1		8		2(1)		7	
機械工学科	教授									1		1		2		1		5		3		5	
	助教授			1		1		1		1								4		2(1)		4	
	講師																						
	助手			2														2		1(1)		2	
	計			3		1		1		2		1		2		1		11		6(2)		11	
電気工学科	教授									2		1		2				5		4(1)		5	
	助教授					1				1								2		1		2	
	講師			1		1												2				2	
	助手			1														1				1	
	計			2		2				3		1		2				10		5(1)		10	
電子制御工学科	教授											2		1		3		6		2		4	
	助教授					2		2			1							5		3(2)		5	
	講師																						
	助手					1												1		1		1	
	計					3		2			3		1		3			12		6(2)		10	
情報工学科	教授											2		1		1		4		4(1)		4	
	助教授					2		1			1							4		2(1)		4	
	講師						1											1				1	
	助手	1				1												2				2	
	計	1				3	1	1			3		1		1			10	1	6(2)		10	1
環境・建設工学科	教授													2		2		4		4(1)		2	
	助教授					1		2		1								4		4(3)		4	
	講師																						
	助手			2														2				2	
	計			2		1		2		1				2		2		10		8(4)		8	
合計	教授									3		8		11		9		31		19(5)		24	
	助教授			1		12	1	8	1	6		3			1			30	3	21(14)	3(3)	28	2
	講師			2		1	1											3	1			3	1
	助手	1		5		2												8		2(1)		8	
	計	1		8		15	2	8	1	9		11		11	1	9		72	4	42(20)	3(3)	63	3

(注)1 76名のうち2名(人文科学科 助教授 女 55歳, 電子制御工学科 助手 男 36歳)は, 外国人教員である。

(注)2 年齢は, 平成18年度末現在のものである。

(注)3 実務経験者欄の()は, 実務経験者のうち教育経歴のある者を内数で表したものである。

(出典 庶務課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育組織の年齢構成は各学科において若干の差異があるものの、各年代にわたってバランスのある構成になっている。実務経歴、教育経歴、学位取得状況、外国人任用状況は、資料のとおり適切である。

内地研究員等の派遣状況数値に、これまで教育・研究活動の活性化に取り組んできた実績が反映されている。

観点 3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

教員の採用については、設置基準をうけ人事構想委員会規則(資料3-2-①-1)及び教員選考規則(資料3-2-①-2)により適切な人事管理のもと、原則公募としている。応募者からの書類を審査し、候補者を絞り込み模擬授業等による面接審査の後、最終的に一人の候補者に絞り込んでいる。公募に必要な書類は「教員選考手続きについて」(資料3-2-①-3)のとおりである。

教員の昇任については、設置基準をうけ人事構想委員会規則及び教員選考規則により適切な人事管理のもと、「教員選考評価表」(資料3-2-①-4)に示す6項目(学位、経歴、研究業績、教育業績、学校運営貢献度、社会貢献度)ごとに評価のうえ、可否を判断している。

教員の採用及び昇任のいずれについても経過を人事構想委員会の議事録(資料3-2-①-5)に留めている。

真にやむを得ない事情がある場合に限り非常勤講師の任用を行うが、新規採用については設置基準をうけ「非常勤講師の任用に関する取扱いについて」(資料3-2-①-6)により、本人の教育業績、研究業績をもとに当該授業科目の担当資格有無の審査を行っている。

資料 3-2-①-1

松江工業高等専門学校教員人事構想委員会規則

平成13年11月1日 制定
平成16年 4月1日 最終改正

(設置)

第1条 松江工業高等専門学校に、教員人事構想委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 教員候補者に要請される専門分野の基本方針等に関すること。
- 二 教員候補者募集の具体的方法に関すること。
- 三 その他教員人事に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 企画総務室長
- 三 専攻科長
- 四 教務主事
- 五 前二号、三号及び四号委員の所属しない学科より校長の指名する教員若干名

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

附 則

この規則は、平成13年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年 4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年 4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料3-2-①-2

松江工業高等専門学校教員選考規則

平成13年11月1日 制 定
平成16年 4月1日 最終改正

(趣旨)

第1条 松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考は、その他の法令に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(選考)

第2条 校長は、松江工業高等専門学校教員選考委員会（以下「委員会」という。）の議を尊重し、教員の選考を行うものとする。

(委員会)

第3条 本校に、教員の採用及び昇任に係る選考について審議するため、委員会を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 企画総務室長

二 専攻科長

三 関連する学科長

四 校長が指名する教員 若干名

3 委員会に委員長を置き、企画総務室長をもって充てる。

4 委員会は、委員長が召集し、その議長となる。

5 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させることができる。

6 委員長は、委員会において審議された事項を校長に報告するものとする。

7 校長は、本校の教員人事の方針を踏まえ、委員会に出席し、意見を述べることができる。

(事務)

第4条 この規則に係る事務は、庶務課において処理する。

(その他)

第5条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成13年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年 4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年 4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 3-2-①-3

松江工業高等専門学校教員選考手続について

平成 13 年 1 月 1 日
校 長 裁 定

本校の教員（教授，助教授，講師及び助手をいう。）の選考は，次の方法により行う。

- 1 採用は，原則として公募により行う。
- 2 公募方法は，関連学会，科学技術振興事業団，大学及び高専への依頼により行う。
- 3 公募に必要な書類は，次の掲げるものとする。
 - 一 履歴書
 - 二 研究業績目録
 - 三 主要論文 3 編の別刷り（又はコピー）
 - 四 教育，学生指導及び管理運営等の業績
（担当科目，課外活動等の指導，各委員会委員等に携わった業績があれば記載）
 - 五 高専の教育，研究，学生指導等に関する抱負（1，000 字程度）
 - 六 推薦状又は紹介状（自薦も可）
 - 七 その他必要とする書類
- 4 選考は，書類審査及び模擬授業等による面接により行う。
- 5 昇任についても，採用に準じて行う。

（出典 松江工業高等専門学校 規則集）

資料 3-2-①-4

H17. 4. 1
教資料(校)-2
教員選考評価表(昇任人事)







選考候補者： _____

委員氏名： _____

(選考基準)		(採 点)
1. 学位： _____ (理工系＝博士，文科系＝修士) <無い場合は減点>		点
2. 経歴(10点)	(特記事項) 昇任予定者が記載する。	点
(i) 教育歴		
(ii) 資格		
(iii) 学術表彰		
(iv) 留学経験など		
3. 研究業績(30点)	(特記事項) 選考委員が特記事項を参考に採点する	点
(i) 学術論文(査読付)		
(ii) 特許		
(iii) 学会発表		
(iv) 著書・訳書		
(v) 紀要，査読のない論文		
(vi) 外部研究費など		
4. 教育業績(30点)	(特記事項)	点
(i) 教育方法		
(ii) 研究指導		
(iii) 自己点検評価		
(iv) 学生による評価		
(v) 課外活動など		
5. 学校運営(20点)	(特記事項)	点
(i) 各種校内委員会委員		
(ii) 担任など		
6. 社会貢献(10点)	(特記事項)	点
(i) 地域活動		
(ii) 国際活動		
(iii) 学会活動など		
合 計		点

（出典 教員会議配付資料）

資料3-2-①-5

校 長	事務部長	庶務課長	庶務課長補佐	人事係長	人事係
					

主画・総務室長



教員人事構想委員会議事要旨

平成17年12月6日(火) 17:40~18:50 (特別会議室)

出席者 校長, 藤原, 築谷, 福間, 高橋米, 東原, 郡原, 藤井, 高田
オブザーバー庶務課長

決定事項

- 平成18年4月1日付け昇任について

昇任候補者

- ・人文科学科 助教授 宮下真也 (H18. 4. 1付け教授昇任)
- ・数理科学科 助教授 高木健司 (H18. 4. 1付け教授昇任)
- ・情報工学科 助教授 越田高志 (H18. 4. 1付け教授昇任)
- ・情報工学科 講師 渡部 徹 (H18. 4. 1付け助教授昇任)
- ・環境・建設工学科 講師 大屋 誠 (H18. 4. 1付け助教授昇任)

各候補者の推薦者は次のとおり決定した

宮 下: 高橋米, 河原健, 福間教務主事
高 木: 東原, 勝部, 岡本信
越 田: 藤井, 福岡, 藤原
渡部徹: 藤井, 岡本裕, 福岡
大 屋: 高田, 宇野, 金子

また, 教員選考委員会委員については後日校長が指名を行うこととなった

- 平成19年3月31日付け定年退職に伴う技術職員2名の欠員補充について
1名の補充は, 平成18年4月1日付けで事務職員の定員を使用し先取りで採用する事が決まっている 福島志斗 を充てることとし, 残りの1名の補充については, 再度会議を開催して協議することとする
- 平成19年3月31日付け定年退職する2名(河原, 板倉)の後任について
次回の会議で協議する

(出典 教員人事構想委員会 議事録)

資料3-2-①-6

松江工業高等専門学校における非常勤講師の任用に関する取扱いについて

平成17年4月1日

校長 裁定

松江工業高等専門学校の非常勤講師の任用に関する取扱いについては、次によるものとする。

第1条 本校で開設する授業科目については、専任教員が専門分野を拓げることによって担当できるよう努めるものとする。ただし、これにより難く真にやむを得ない事情がある場合に限り非常勤講師を任用することができる。

第2条 非常勤講師は、次の各号の一に該当する授業科目について担当することができる。

- (1) 専任教員がない授業科目
- (2) 専任教員の休職・病気休暇
- (3) 教育上、授業内容の特定分野について学識を有する者に講義を依頼する必要があると認められる授業科目
- (4) 本校教員の授業負担が過大になるため、講義を依頼する必要があると認められる授業科目
- (5) 前各号に掲げるもののほか、特に校長が非常勤講師の任用を必要と認める授業科目

第3条 非常勤講師は、次の各号に該当する者でなければならない。

- (1) 高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23条）に定められた講師以上の資格を有すること。
- (2) 優れた見識をもち、本校の教育方針に添った教育指導のできる者であること。
- (3) 採用時において、年齢満70歳未満であること。ただし、校長が特に必要と認めた場合はこの限りでない。
- (4) 健康で勤務に支障がないこと。

第4条 採用の期間は1年以内とする。ただし、校長が必要と認めたときは、任用を更新することができる。

第5条 各学科長は、非常勤講師を任用しようとするときは、非常勤講師任用計画書（別紙様式）を作成し、校長に申し出るものとする。

2 前項の申し出に際し、履歴書、業績目録、修了証書等非常勤講師としての資格を確認できる書類を添付するものとする。ただし、前年度から継続して任用する者にあつては、添付を省略することができる。

第6条 校長は、各学科長から提出された任用計画書を元に、人事構想委員会を開催し、非常勤講師任用計画の策定を行うものとする。

第7条 人事構想委員会は、前条の任用計画の策定に際し、非常勤講師の資格審査を教員選考委員会に付託するものとする。

2 教員選考委員会は資格審査を行い、人事構想委員会に審査結果を報告する。

附 則

この取扱いは、平成17年4月1日から適用する。

（出典 松江工業高等専門学校 規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用及び昇任は、関連規則及び審査基準が適切に定められ、それに則り教員人事構想委員会を中心に適切に運用されてきた。任用手続きには特に問題もなく、スムーズに教員の任用がなされている。

教職員アンケート結果（前掲 資料1-2-①-8）をみると、66%の教職員が「必要な教員が適切に任用され、適切に配置されている。」と判断していることがわかる。

観点 3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点到に係る状況)

教員の教育に関する評価は、学生による評価、教員相互による評価及び教員による自己評価の三つの方法で行っている。

学生による評価は、「教育に熱心な先生」「分りやすく教えてくれる先生」「勉強の意義を良く教えてくれる先生」「人生に夢を抱かせてくれる先生」「部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生」の観点から、全ての学生が自分の所属学科の教員 3 名以内、一般科目及び他学科の教員 5 名以内を挙げるものであり、平成15年度より実施している。

教員相互による評価は、各教員が「教育に熱心な教員」を 1 名挙げるものであり、平成15年度より実施している。

教員による自己評価は、FD委員会の基本方針のもと「年間職務の自己評価」としてより総合的、客観的に評価できるようになっている。(資料 3-2-②-1)

なお、優れた卒業研究を指導した教員については、表彰を行っている。(思料 3-2-②-2)

資料 3-2-②-1 A

2004年度 教育に対する自己評価

所属・職名 _____

氏名 _____

1. 授業

2004年度に行った全ての授業(実験実習を含む、卒業研究・専攻科特別研究を除く)について、「学生にどの程度実力を付けることができたか」を判断基準として、科目毎に、学生からの授業評価アンケートも考慮に入れて記述してください。

- 担当科目が多数あるときは、表をコピー&ペーストしてお使いください。
- 多数のクラスで同じ科目を担当されている場合は1つの表としてください(例、M2、E2、D2日本語3)
- 1つの科目を複数の人数で担当している場合は、実際に授業に出講したコマ数を記入してください(90分を1回と数えます)。
- 概要欄には、授業で工夫した点、改善した点、反省点などを具体的に示してください。
- 正規の授業時間外に行った補習などがありましたら記入してください。
- 試験・レポートの返却欄は、返却の有無、方法などを記載してください。
- 成績の通知欄は、学期途中で何らかの通知(個人面接を含む)を行った場合に記載してください。

科目名	学期		学科・学年	単位数	担当人数
	前期・後期				
コマ数	学生アンケート 平均点		受講者数	優取得者数	不合格者数
概要					
試験・レポート の返却					
成績(途中経過) の学生への通知					

(出典 FD委員会 資料)

資料 3-2-②-1 B

2. 教育活動

(1) 授業

2004年度に行った全ての授業において、授業を担当したコマ数

	座学	実験・実習	演習	HR
前期				
後期				

(2) 卒研・専攻科研究

指導学生数、学外発表回数、その他の特記事項(テレビ、新聞報道なども)を記入してください。

学年	卒研	専攻科1年	専攻科2年
指導人数			
学外発表回数			
特記事項			

(3) その他

正規の授業以外の教育活動(補習、学習相談、就職試験指導など、クラブ活動を除く)について、概要、時間数、得られた成果、問題点を記入してください。

概要	
年間指導 時間数	

3. クラブ活動

指導した全てのクラブ(ロボコンなどのコンテストを含む)について「学生にどの程度の充足感を与えることができたか」を基準として、指導全般の概要、活躍、特筆すべき事項を述べてください。また、平日に指導した日数・指導した日における平均時間、休日に指導した日数・指導した日における平均時間を記入して下さい。

クラブ名	
概要	
日数・平均指導時間	平日 休日

(出典 FD委員会 資料)

資料3-2-②-1 C

4. その他（学生指導、厚生補導など）

上記の1～3に該当しない教育活動があれば、「本校の教育にどの程度等与することができたか」を基準として記入してください。

--

5. 校務（各種委員）

関係した全ての校務について「本校の発展にどの程度等与することができたか」を基準として、特筆すべき事項を中心に従事した概要を述べてください。また、校務に費やした日数・平均従事時間を記入して下さい。

校務概要	
日数・平均従事時間	平日 休日

6. 教育に対する抱負など

担当科目、学科カリキュラム、本校の教育全体などについて、「よりよい教育を学生に受けさせるためにどうするか」を基準として述べてください。

--

7. 研究活動に対する自己評価

論文数などの数字は Annual Report にまとめられています。ここでは、数字に表れなかった特記事項、研究実施状況があれば、「学問的評価」「教育的評価」「社会貢献」の面から自己評価を記入してください。

--

8. JABEE に対する理解

JABEE についての理解・意見を記述してください。

--

(出典 FD委員会 資料)

資料3-2-②-2 A

松江工業高等専門学校原義書

取扱標識： 秘 部外秘 普通	記号番号： 松高専 第 号
決 裁： 平成 17 年 2 月 28 日	起 案： 平成 17 年 2 月 23 日
校 長 事務部長 課 長 係 長 係 長	庶務課人事 係
校長 事務部長 課長 係長 係長	起案者 5112 電話
合 議 専任科長 監査係長 会計課長 総務係長	
先方文書 日付： 平成 年 月 日 記号番号： 第 号	
件 名 教員表彰「創造性教育特別賞（ベスト卒業研究賞）」について	
受信者 別紙のとおり	発信者 別紙のとおり
上記のことについて、別紙 案 のように 実施 してよろしいか伺います。セマテ。	
施行上の注意 表彰式 平成17年3月16日(水) : ~	
施 行：平成 年 月 日	普通郵便 速達郵便 書留郵便
発 送：平成 年 月 日	発送種別： 郵便小包 宅配便
完 結：平成 年 月 日	ファックス 電 報
起案文書フロッピー	保存ファイル 大分類 中分類 小分類

松江工業高等専門学校 (1)

(出典 庶務課 作成資料)

資料3-2-②-2 B

参考事項

- 平成17年2月4日付け高機総第238号により、高専機構が『創造性を育む「卒業研究」集』を作成のため、各学科毎に選考した優れた卒業研究各1件を機構本部あてに提出することとなった。
- 平成17年2月22日の運営委員会の席上で、校長から機構に提出する卒業研究を指導した教員を表彰したい旨話があったもの。(運営委員会了承済)

表彰者は以下のとおり

- 機械工学科：中村賢仁
研究テーマ：「二重振り子の製作と運動の解析」
- 電気工学科：箕田亮志
研究テーマ：「高電圧を用いた脱臭処理システムの開発」
- 電子制御工学科：長澤 潔
研究テーマ：「創立振子のノンフィードバック安定化制御」
- 情報工学科：福岡久雄
研究テーマ：「抑揚の視聴覚表現によるコミュニケーションツールの開発」
- 環境・建設工学科：浅田純作
研究テーマ：「松江市での防災まちづくりイベントによる調査意識 - 前震診断普及の阻害要因 -」

- 副賞として、委任経理金（松江高専教育研究助成金）より1人あたり3万円を研究費として配分する。
- 表彰式は進級・卒業認定会議の前に行う。

(出典 庶務課 作成資料)

資料3-2-②-2 C



(出典 庶務課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動の定期的な評価は、学生による評価、教員相互による評価及び教員による自己評価の三つの方法による実施体制が整備され詳細な評価がなされている。

また、校長は全教員の教育活動を適切に評価し、意見をくみ上げ改善の必要があれば適切に指導・助言をしている。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育課程をスムーズに展開してうえで必要な事務系職員は、定員・現員、配置表(資料3-3-①-1)及び組織図(資料3-3-①-2)のとおり配置されており、運営上特に問題はない。

技術者教育支援については、教務主事の下に「技術室」を配置した実践教育支援センター(前掲資料2-1-③-1 4)を設けている。技術室は制度上、学生課の下に置かれているものであるが、教務主事の下の実践教育支援センターの中に位置づけたことによって、極めて能動的に教育支援を行うようになった。現在は分野を3区分にわけて技術専門員を含め12名の技術系職員を配置している。

一方、「技術室」としても、法令上の要件から技術職員の組織等に関する内規(資料3-3-①-3)及び技術室運営に関する内規(資料3-3-①-4)を定めているが、その内容は実践教育支援センター規則と整合している。技術室員の業績は技術室事業報告書(資料3-3-①-5)として公表している。

学生課教務係は、授業実施、成績処理及び進学面について支援している。

図書館の管理運営については、庶務課内に学術情報係(2名配置)を設置し、勤務場所を図書館と定め支障のないようにしている。

資料3-3-①-1

事務系職員定員・現員，配置表

(名)

	定員	現員	庶務課	会計課	学生課	技 術 室		
						第一技術班	第二技術班	第三技術班
事務部長	1	1	1					
課 長	3	3	1	1	1			
専門職	専門員	1	1					
	専門職員	1	1		1			
係 長	職制係長	9	9	3	3	3		
	技術系係長	1	1		1			
主 任	職制主任	14	14	4	6	4		
	施設系主任	0	0					
技術専門職	技術専門員	1	1				1	
	技術専門職員	6	6				1	3
技術職員	7	6				3	3	
図書館職員	図書館専門員	0	0					
	図書系係長	1	0					
	図書系係員	1	0					
一般職員	2	3	2		1			
技能職員(乙)	1	1	1					
看護師	1	1			1			
合 計	50	48	12	11	11	4	6	2

(出典 庶務課 作成資料)

資料 3-3-①-3

松江工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する内規

(平成13年4月1日 制 定)

(目的)

第1条 この内規は、松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）の技術に関する専門的業務を円滑かつ効果的に処理するとともに、技術職員（施設系の技術職員を除く。以下同じ。）の能力及び資質等の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に資するため、本校における技術職員の組織等に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(技術室)

第2条 前条の目的を達成するため、本校に「技術室」を置く。

(技術室の業務)

第3条 技術室の所掌業務は、次のとおりとする。

- 一 教育及び研究に対する技術支援の基本計画の策定に関すること。
- 二 技術の継承及び保存並びに技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施等に関すること。
- 三 学生の実験、実習、卒業研究の技術指導に関すること。
- 四 教育及び研究に対する技術支援に関すること。
- 五 技術資料の作成、保管及び提供等に関すること。
- 六 機器等の保守・管理並びに災害防止に関すること。
- 七 所掌業務の調査統計及び諸報告に関すること。
- 八 その他技術室の技術分野について必要な事項に関すること。

(技術班)

第4条 技術室に、第一技術班、第二技術班及び第三技術班を置く。

- 一 第一技術班は、主に次の業務を分掌する。
 - ア 前条第一号から第八号までの業務で、機械系に関する業務。
 - イ その他第一技術班の管理運営に関すること。
- 二 第二技術班は、主に次の業務を分掌する。
 - ア 前条第一号から第八号までの業務で、電気、電子、情報系に関する業務。
 - イ その他第二技術班の管理運営に関すること。
- 三 第三技術班は、主に次の業務を分掌する。
 - ア 前条第一号から第八号までの業務で、土木系に関する業務。
 - イ その他第三技術班の管理運営に関すること。

(組織)

第5条 技術室に、技術室長、主査、主任、技術職員を置く。

- 一 技術室長は、技術専門官又は技術専門官を置かない場合は技術専門職員をもって充て、上司の命を受けて、技術室の業務を掌理し、各班の連絡調整及び統括を行い、極めて高度の専門的な技術に基づく教育支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。
- 二 主査は、技術専門職員をもって充て、上司の命を受けて、班の業務を整理し、特に高度の専門的な技術に基づく教育支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。
- 三 主任は、技術専門職員をもって充て、上司の命を受けて、高度の専門的な技術に基づく教育支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。
- 四 技術職員は、上司の命を受けて、教育支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行う。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、技術職員の組織等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成13年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 3-3-①-4

技術室運営に関する内規

(平成 14 年 2 月 19 日 決定)

(目的)

- 1 「機能する技術集団（技術室）」を達成するため、技術室に次の会議・委員会を置く。室員は、支援委員会、研修委員会、評価委員会のいずれかに所属し、各委員会で委員長を互選する。委員の任期は当面 1 年とする。
 - (1) 技術室会議（全員、議長は室長）
 - (2) 支援委員会
 - (3) 研修委員会
 - (4) 評価委員会
(会議)
- 2 会議及び各委員会は、次の会務を掌る。
 - (1) 技術室会議
本会は技術室運営に関する最高決議機関とし、全室員をもって構成する。議長は、室長とする。室長事故あるときは主査が代行する。議事録は評価委員会が処理する。
 - (2) 支援委員会
支援業務を円滑且つ効率的に処理するため、次の会務を処理する。
 - イ 学科・教員・学内組織等からの支援業務依頼の受付・処理（依頼者との打合せも含む）に關すること。
 - ロ 派遣者の人選等を連絡・調整し、「技術室会議」に提案する。
 - ハ 学外組織との共同技術開発・研究等の受付・処理に關すること。
 - ニ 室員の均衡ある仕事量の調整に關すること。
 - ホ 支援終了後の依頼者に対しての評価に關すること。（アンケート等により今年の自己点検評価）
 - ヘ その他必要な事項（学校行事等）
 - (3) 研修委員会
技術室、室員の能力・資質の向上を図るため、次の会務を処理する。
 - イ 技術研修会・技術講習会・技術発表会等を企画・立案し「技術室会議」に提案する。
 - ロ 外部でのイ、等の行事についての連絡・調整に關すること。（個人研修旅行等も含む。）
 - ハ 技術室、室員の地位確立について検討する。特に室員の日常研修による各種技術認定資格の取得についての啓蒙及び「技術室と資格」に關する検討（資格取得の講習会参加者の旅費補助等）
 - ホ その他必要な事項
 - (4) 評価委員会
技術室が学内外から評価を得るため、又、技術の伝承・保存を確保するため、次の会務を処理する。
 - イ 技術室の年間業務の総括を行い、自己点検・自己評価の資料を技術室会議に提案する。（自己評価）
 - ロ イの項を、技術室ホームページに掲載し情報公開する。（外部評価）
 - ハ イの項を、「年次報告」として冊子を作成し保存する。（技術の伝承・保存）
 - ニ 技術室の広報的業務に關すること。（ホームページ等にて）
 - ホ 技術室会議の書記及び議事録の処理に關すること。
 - ヘ 技術室の予算、親睦に關すること。
 - ト 技術室員の人事記録に關すること。
 - チ その他必要な事項

庶務

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料3-3-①-4



(出典 松江工業高等専門学校 技術室 平成17年度事業報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目標を達成すべく組まれた教育課程をスムーズに展開してうえで必要とされる事務系職員は、その支援内容が事務系と技術系で異なるものの適切に配置されている。技術室は、事業報告書にみられるとおり教育支援のみならず学校開放等の社会貢献にも十分成果を上げている。

教職員アンケート結果(前掲 資料1-2-①-8)をみると、61%の教職員が「教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員が適切に配置されている。」と判断していることがわかる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教員は教育活動実施に対して、適切に配置されている。学科によってばらつきはあるが、ほぼバランスのとれた年齢構成であり、さまざまな教育経歴や実務経験を持った教員を各学科ともに適切な人数を有している。教育課程の実施では、担当するのに最も適切な教員を充てるため、学科の枠を取り払って、他学科の学生にも多くの教員が教えている。また、教員の授業担当時間数については、職階ごとに平準化されている。

博士号取得者は専門学科全体では87%である。教育活動に対する評価システムも整えられており、また、教員の採用や昇格についても透明性が高い。教育支援者とのコミュニケーションもスムーズで、効率の良い支援体制が構築されている。

(改善を要する点)

様々な取り組みを行い改善に対する意欲は高いが、システムの運用方法についてはまだ改善の余地

がある。女性教員が少なく、女性教員を増やすことが今後の課題である。また、外国人教員2名を教育において積極的に生かす方策も考えていく必要がある。

(3) 基準3の自己評価の概要

本校の教育目標を達成するために必要な科目が計画され、教育課程運営及び実施に必要な教員は、確保され、適正に配置されている。教育課程の実施では、担当するのに最も相応しい教員を充てるため、学科の枠を取り払って、他学科の学生にも多くの教員が教えている。所属学科以外の教員から学ぶことは、学生にとっては新鮮で視野が広がることに繋がっている。教員にとっても教育の視点が学科内にとどまらず、学校全体へ向くという効果も生まれてきている。専攻科においても、高等専門学校設置基準第6条及び大学評価・学位授与機構の審査基準を満たしている常勤の教員で担当している。

教員はほぼバランスのとれた年齢構成であり、各学科ともさまざまな教育経歴や実務経験を持った教員を配置している。また、教員の授業担当時間数については、職階ごとに平準化されている。

教員の採用や昇格については、規則で明文化し、候補者の公募を行った上で選考委員会において選考するなど、適切な運営がなされている。教育活動に対する評価システムについては、学生のみならず教員間でも相互評価するなど、整えられている。

教育課程を展開するのに必要な事務職員と技術職員などの教育支援者の配置は適切に行われている。特に、技術職員は非常に幅広い業務を担当しており、本校の教育・研究を実施する上で大きな力となっている。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

(1) 準学士課程

① 学科への受入

学生募集及び入学者選抜の方法については、AO委員会が中心となって立案し、入試委員会（委員長：校長）が最終決定している。中学校やその生徒・保護者などへの募集活動はAO委員会が行うが、入学選抜の試験業務は教務委員会、合否判定は入試委員会が行っている。

準学士課程の入学者選抜に係るアドミッション・ポリシーは、平成 17 年 6 月に制定し、ホームページで公表している。（資料 4-1-①-1）それまでの学生募集要項には、「アドミッション・ポリシー」という文言は使用していないが、「教育目標と求める学生像」（前掲 資料 1-2-①-3）として掲載してきた。

教職員に対しては、学生募集要項を配付し、周知に努めている。また、中学生や中学教諭に対しては、入試説明会等（前掲 資料 1-2-②-2 B）の機会に、入学者選抜に関連した事項として説明している。推薦選抜志願者には、募集要項に記載されている「教育目標と求める学生像」を踏まえて志望動機や抱負を願書の裏面に記入させるようにしている。

選抜は推薦選抜と学力選抜の二つの方法で行っている。

② 編入学生の受入

学生募集及び入学者選抜の担当部署は準学士課程入学者と同じである。選抜は推薦選抜と学力選抜の二つの方法で行っている。

募集要項は、ホームページへ掲載すると共に県内全高校と近隣県の工業高校へ郵送している。

(2) 専攻科課程


専攻科課程の入学者選抜に係るアドミッション・ポリシーは、平成 17 年 11 月に制定した。（資料 4-1-①-2）。それまでの学生募集要項には、「教育理念と求める学生像」（前掲 資料 1-2-①-10）として掲載してきた。

教職員に対しては、専攻科学生募集要項を配付し、周知に努めている。また、学生に対しては、専攻科説明会の機会に、入学者選抜に関連した事項として説明している。

社会人学生については、ホームページによる公表や各学科の教員が対象の学生に説明している。


資料 4 - 1 - ① - 1

松江工業高等専門学校 ホームページ 1/1 ページ



松江工業高等専門学校

Welcome to Matsue National College of Technology.
〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 TEL 0852-36-5111(代表) FAX 0852-36-5119(代表)



Admission Policy

松江高専準学士課程入学受け入れ方針

教育目標

「学んで創れるエンジニア」の育成

学習目標

- ① 教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢
- ② さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲
- ③ 世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

松江工業高等専門学校は、「学んで創れるエンジニア」の育成を教育目標としています。
【学ぶ】とは、成長のコア(核)であり、生涯持ち続けるべき姿勢です。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするのが「学ぶ」ということです。そして、**【創れる】**とは、新たな形をつくり上げる力であり、その困難に立ち向かうとする意欲を持つことです。また、**【創れる】**ことにより、新たに「学ぶ」べきことも広がっていくのです。ただし、ただ「学ぶ」だけでは、あるべき「エンジニア」の姿だとは言えません。
 エンジニアには、世界中のさまざまな社会で生活しているユーザ(利用者)の視点を共有できる必要があります。そのためには、さまざまな角度からものを見るための教養と、他者の意見を聞き入れ、自分の意見を表現できる対話力を持つことが求められます。
 また、実際の「ものづくり」は、多くの場合チームで行われます。そこでは、チーム内で意見を交わす対話力、チームワークでものを完成させるための団結力や協働性が不可欠になります。そして、実際に「創る」場面では、基礎的な学力をもとにした情報収集能力やその情報を分析する力、確実な基礎に裏打ちされた技術などを駆使し、対象によってさまざまな異なる問題を解決していこうとする意欲と、それを支える気力・体力を持つことが大切になるはずです。
 また、単に自己の利益や所属する組織の利益にもとづいて行動するのではなく、時にはそれに反するとしても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民として行動するための倫理観を欠いてはなりません。そのことは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を持つことにもつながっています。自己の成長だけでなく、技術の進化や地域・国際社会、そして福祉や環境保全に貢献できてはじめて、**【エンジニア】**だと私たちは考えます。
 本校に集った学生が、**【学んで創れるエンジニア】**を目指して目を輝かせ、将来に対する希望を持ち、出会った友人や教職員とともに充実した学生生活を送ることで、本物の**【エンジニア】**になっていく、そんな「人づくり」を本校の教育目標としています。

求める学生像

「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」になる資質を備えた生徒が数多く入学することを期待する。
 具体的には、

- ものづくりに興味がある人
- こつこつと物事に取り組める人
- 自分から行動を起こせる人
- 数学や理科に興味のある人
- 人の話がきちんと聞ける人
- 自分の意見がきちんと言える人

を求める。

入学選抜方法

推薦による選抜と学力試験による選抜の二つの方法で行なう。推薦による入学人数は各学科とも定員の30%程度。
 詳細は募集要項にて9月に発表する。

募集人員

機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境・建設工学科	計
40	40	40	40	40	200

BACK

http://www.matsue-ct.jp/ 2006/04/13

資料 4-1-①-2

H17. 11. 30

運営委員会資料

専攻科アドミッション・ポリシー

科学技術の高度化が進む中、産業界における技術革新と国際化に対応するために、松江高専専攻科では

『創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア』

を教育理念として定め、研究開発能力、専門知識、職業倫理、国際性を身につけることを目指しています。

また、松江高専では、本科4、5年と専攻科で編成される JABEE『システム技術』教育プログラムを定め、『学んで創れるエンジニア』を学習・教育目標としています。

ま：教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢

つ：さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

え：世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

よって、専攻科では

『基礎学習能力があり、専門的技術開発に意欲がある人』

を受け入れます。そのために、推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜を実施します。

(出典 運営委員会 資料)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

本校の教育目標は中学教諭を対象とした入試説明会、中学生や保護者を対象とした学校説明会・オープンキャンパスなどで詳しく説明を行っている。学校説明会やオープンキャンパスへ参加した中学生の多くが実際に本校を受験していることから、アドミッション・ポリシーが理解され、入学へ繋がっていると考える。

また、編入志願者は近年増えてきている。また、受験資格を工業系学科のみならず全科へ広げてから、普通高校出身者が過去二名入学してきた。専門科目の補習などの学習指導をすることで一名は本科卒業後就職、一名は専攻科へ進学した。

なお、教職員アンケート（前掲 資料 1-2-①-8）からみると、教職員及び学生に対してアドミッション・ポリシーが周知されていると回答した教職員状況は、46%とやや低い結果となっている。これは平成17年6月制定して間がない時点でアンケートを実施したことが一つの原因と考えられる。

(2) 専攻科課程

専攻科課程の入学者選抜に係わるアドミッション・ポリシーについては、「求める学生像」が定められている。そして、専攻科学生募集要項やホームページに掲載し、教職員、学生等に公表・周知を図っている。

観点 4-2-①： アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

① 学科への受入

準学士課程入学者選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜の二つの方法を用いて、その方法を学生募集要項（資料 4-2-①-1）に明記し公表のうえ実施している。

推薦選抜において具体的にどのように生徒を選抜するかについてアドミッション・ポリシーと関連付けながら検討を重ね、i) 技術を学ぶ上での必要な基礎学力は「内申点」、ii) 対人的な能力は「面接点」、iii) 技術を身につけるための能力については「小論文点」で判断し、志願者を多面的に評価することとした。

面接では「積極性」「意欲」「コミュニケーション能力」の観点で学科長を含めた 3 名の面接者が判断する。推薦入学志願者には、願書の裏面に「本校の教育目標をふまえ、本校を志願した動機や抱負」と「自己アピール」を各 200 文字以内で記述させている。記載された内容は面接時の参考資料とする。一方、面接者には調査書の評点の欄は公開せず、志願者の人物評価に当たって予断を排除するようにしている。（資料 4-2-①-2）

小論文は「数理的分野」から AO 委員会が記述式の問題を作り、「理解力」「論理的思考力」「説明能力」の観点で 4 名の採点者が評価する。（資料 4-2-①-3）面接及び小論文の観点は募集要項にも明記している。

学力試験の問題は全国共通で、地元県立高校の入学試験問題に比較して難しいとされている。一方、中学校での「絶対評価」導入時には、評価に地域差・学校差があることが懸念された。本校へは地元島根県を中心に、近隣の広島県や鳥取県など約 80 の中学校から受験がある。そこで、合否判定で用いる総合点に占める内申点と試験点の割合を再検討し、同時に内申点の算出方法についても見直した。

② 編入学生の受入

準学士課程への編入学者選抜は、推薦による選抜及び学力検査による選抜の二つの方法を用いて、その方法を編入学生募集要項（資料 4-2-①-4）に明記し公表のうえ実施している。

推薦選抜及び学力選抜共に面接者は当該学科の学科長を含めた 3 名が担当する。学力選抜の試験問題は、英語・数学・物理は各学科共通試験で一般科目教員が作成する。工業系からの受験生を想定した A コースの問題と、工業系以外からの受験生を想定した B コースの問題は異なっている。専門科目は当該学科の教員が作成する。推薦選抜・学力選抜ともに、4 年生以降の本校の学習に適応できるか否かを中心に判断する。

(2) 専攻科課程

専攻科課程への入学者選抜は、推薦選抜、学力選抜及び社会人特別選抜の三つの方法を用いて、その方法を専攻科学生募集要項（資料 4-2-①-5）に明記し公表のうえ実施している。

推薦選抜は、基礎学習能力を出願資格として準学士課程の学習状況に関する推薦基準を設け、面接結果と併せて選考している。面接は、「専門的技術開発への意欲」を判定する内容で行っている。

学力選抜は、基礎学習能力を判定するために、数学、英語、専門科目の試験を行っている。また、社会人特別選抜については、面接のみである。選考は、専攻科学生募集要項に記載された選抜方法に基づき、専攻科入試委員会で行っている。

資料 4 - 2 - ① - 1

学生募集要項（平成 18 年度 主要部分）

募 集 人 員

学科別の募集人員は、下表のとおりとします。ただし、推薦による募集人員は、各学科とも入学定員の 30%程度とします。

学 科	入 学 定 員	
機 械 工 学 科	40 名	計 200 名
電 気 工 学 科	40 名	
電 子 制 御 工 学 科	40 名	
情 報 工 学 科	40 名	
環 境 ・ 建 設 工 学 科	40 名	

選 抜 方 法

入学者の選抜は「推薦選抜」と「学力選抜」の二つの方法で行います。

推薦選抜は、在学中学校長から提出された推薦書、調査書、小論文の成績並びに面接の結果を総合して行います。学力選抜は、学力試験の成績並びに調査書を総合して行います。

推薦選抜

1 出 願 資 格

平成 18 年 3 月中学校卒業見込みの者で次の各条件のいずれにも該当し、在学中学校長の推薦を受けた者としてします。

- (1) 人物及び健康ともに優れていると認められること。
- (2) 将来エンジニア（技術者）になろうという意志が強く、その適性を備えていると認められること。
- (3) 調査書「学習の記録」欄の第 3 学年の成績（1・2 学期の総合）が、5 段階評定で合計 36 以上であること。

学力選抜

1 出 願 資 格

- (1) 平成 18 年 3 月中学校を卒業する見込みの者
- (2) 中学校を卒業した者
- (3) 外国において、学校教育における 9 年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) その他相当年齢に達し、本校が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

4 選抜の実施

- (1) 学力試験は、筆記試験とし、出題する教科は、国語、社会、数学、理科及び英語の 5 教科とします。

資料 4-2-①-2

平成 18 年度入学者選抜試験 (推薦選抜) 面接実施要領

1 面接場所 2号棟2階

学 科	面 接 室	面 接 委 員
機 械 工 学 科	C-2 教室	○郡原 宏, 門脇 健, 利光 和彦
電 気 工 学 科	M-2 教室	○恒次 秀起, 築谷 隆雄, 飯塚 育生
電 子 制 御 工 学 科	J-2 教室	○亀谷 均, 吉田 剛, 藤原 豊
情 報 工 学 科	E-2 教室	○岡本 裕幸, 藤井 諭, 福岡 久雄
環 境 ・ 建 設 工 学 科	D-2 教室	○宇野 和男, 金子大二郎, 高田 龍一

2 面接委員集合場所及び集合時刻

場 所 試験会場本部 (学生課室)

時 刻 平成 18 年 1 月 21 日 (土) 午前の部 9 時 45 分, 午後の部 12 時 50 分

- ① 試験会場本部にて必要書類を受け取り, 各学科面接室で待機する。
- ② 各学科面接室において, 面接を実施する。
- ③ 面接終了後, 面接評価表に記入漏れがないか確認後, 試験会場本部へ書類一切を返却する。

3 面接順

原則として, 各学科共, 本校より遠隔地に在住する受験者から順に面接を実施する。

4 面接時間

午前 10 時から開始し, 1 人あたり 10 分以内とする。

午後の部は, 午後 1 時 00 分から開始する。

5 質問内容

推薦書を参考にして, 面接評価表を用いて行う。

6 評価

面接時の態度・応答から「積極性」, 「意欲」, 「コミュニケーション能力」の各項目について評価 (5 点満点) を行う。

7 評価点

各項目について, 面接委員ごとに評価 (5 点満点) とする。

8 面接委員打合会場所及び時刻

場 所 第 2 会議室

時 刻 平成 18 年 1 月 20 日 (金) 16 時 20 分

- ① 受験者より提出された書類 (推薦書・調査書) の審査を行う。
- ② 終了後, 各自が審査した書類一切は, 教務主事補 (勝部) 又は教務係長に返却する。
(17 時 00 分以降に終了する場合は学生課に持参し, 学生課長に返却する。)

(出典 平成 18 年度推薦選抜 面接実施要領)

資料 4 - 2 - ① - 3

平成 18 年度入学者推薦選抜 小論文 問題

図 1 には、たけし君の家、薬屋、花屋、肉屋、本屋、きよし君の家と、それぞれの場所をつなぐ道 (A~J) が示してあります。それぞれの道の距離はすべて 2 km で、図 1 に示してある道以外は通れないこととします。次の各問に答えなさい。解答に際しては、同級生にわかりやすく説明するつもりで記述して下さい。また、解答用紙の線は無視して書いてもかまいません。

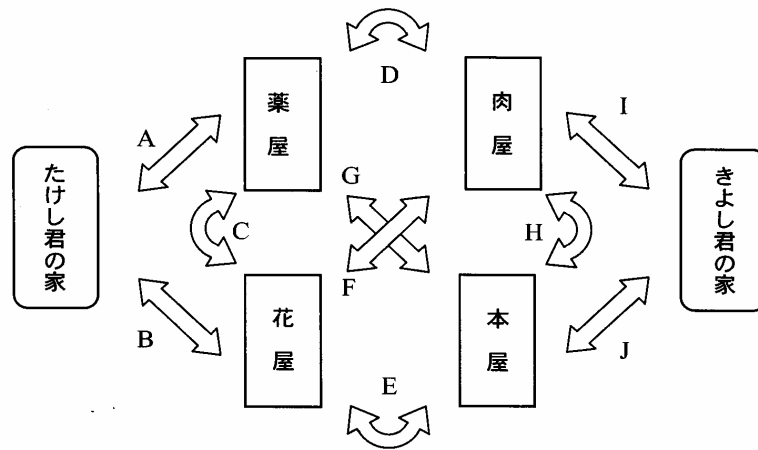


図 1

- (1) たけし君が、友人のきよし君の家に遊びに行こうとしています。たけし君は、きよし君の家に行く途中で、薬屋、花屋、肉屋、本屋の 4 軒のお店それぞれで買い物をしなければなりません。一度寄った店に二度は行かないこととして、最短距離(一番短い距離)できよし君の家に行くには、何通りの方法がありますか。答えを導くための考え方をわかりやすく示しながら、何通りの方法があるかを説明して下さい。
- (2) 今度は、たけし君が、お父さんと車できよし君の家に行こうとしています。今度もまた、たけし君の家から、薬屋、花屋、肉屋、本屋の 4 軒それぞれで買い物をした後、きよし君の家に行きます。一度寄った店に二度は行かないこととして、最短距離できよし君の家に行くのですが、A の道と J の道には大きな踏切があり、これらの道を通るには、それぞれ、他の道より 20 分ずつ多く時間がかかります。さて、今、たけし君とお父さんは、できるだけ早くきよし君の家に行こうとしています。どのような道順を選んだらよいか、考え方を示しながらわかりやすく説明して下さい。

(出典 平成 18 年度推薦選抜 小論文問題)

資料 4 - 2 - ① - 4

編入学生募集要項（平成 18 年度 主要部分）

I 募集人員及び編入学年次

学科別の募集人員及び編入学年次は、下表のとおりとする。

学 科	募 集 人 員	編 入 学 年 次
機 械 工 学 科 電 気 工 学 科 電 子 制 御 工 学 科 情 報 工 学 科 土 木 工 学 科	各学科とも若干名	第 4 学 年

II 選 抜 方 法

編入学生の選抜には、「推薦選抜」と「学力選抜」の二つがある。

推薦選抜は、在学高等学校長から提出された推薦書、調査書並びに本校で実施する面接の結果を総合して行う。

学力選抜は、学力試験の成績、調査書並びに本校で実施する面接の結果を総合して行う。

推 薦 選 抜

1 出 願 資 格

平成 18 年 3 月高等学校卒業見込みの者で次の各条件のいずれにも該当し、在学高等学校長の推薦を受けた者

- (1) 健康で人物が優れていること。
- (2) 本校の教育を受けるにふさわしい資質を有し、入学の意志が強固なこと。
- (3) 在籍する学科において、第 2 学年の成績及び第 3 学年の 1 学期の成績が共に在籍学科の定員に対し上位 15 パーセント以内であること。

2 志 望 学 科

- (1) 前項に該当する者の志望できる学科は、次のとおりとする。

志望できる学科	志 願 者 の 在 籍 し て い る 学 科
機 械 工 学 科	機械科, 電子機械科
電 気 工 学 科	電気科, 電子科, 電子機械科, 情報科学科, 電子情報科, 情報技術科
電 子 制 御 工 学 科	電気科, 電子科, 電子機械科, 電子情報科, 情報技術科
情 報 工 学 科	電子科, 情報科学科, 電子情報科, 情報技術科
土 木 工 学 科	土木科, 建築科, 農業土木科, 環境土木科

学 力 選 抜

1 出 願 資 格

高等学校を卒業した者、又は平成 18 年 3 月高等学校卒業見込みの者、並びに学校教育法施行規則第 69 条の規定により高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められる者とする。

なお、高等学校の卒業した学科及び在籍学科は問わない。

4 選 抜 の 実 施

- (1) 学力試験は筆記試験とする。志願者は、次に示す学力試験コースを選択し、受験する。

試 験 科 目	学 力 試 験 コ ー ス	
	A コ ー ス	B コ ー ス
専 門 又 は 物 理	専 門	物 理
数 学	数 学 (A)	数 学 (B)
英 語	英 語 (A)	英 語 (B)

(出典 平成 18 年度 編入学生募集要項)

資料 4 - 2 - ① - 5

平成 18 年度 専攻科学生募集要項

I 募集人員

生産・建設システム工学専攻	8名
電子情報システム工学専攻	12名

II 選抜方法

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び社会人特別選抜とし、下記により行う。

選 抜 区 分	選 抜 期 日	選 抜 人 数
推 薦 選 抜	平成 17 年 6 月 4 日 (土)	各専攻とも募集人員の半数程度
学 力 選 抜	平成 17 年 6 月 25 日 (土)	各専攻とも募集人員の半数程度
社 会 人 特 別 選 抜	平成 17 年 12 月 3 日 (土)	若干名

推 薦 選 抜

1. 出願の資格

下記の各号に該当し、専門的技術開発への意欲がある者で、在学高等専門学校長の推薦を得たものとする。

- (1) 高等専門学校を平成 18 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 学業成績及び人物が優れていると認められる者
- (3) 本校に合格した場合、確実に入学する意志がある者

2. 願書の受付

(1) 期 間	平成 17 年 5 月 26 日 (木) ~ 平成 17 年 5 月 30 日 (月) (郵送の場合も、期間内に必着のこと)
(2) 時 間	9 時 ~ 16 時まで (土・日曜日は受け付けない。)
(3) 場 所	松江工業高等専門学校 学生課 〒690-8518 松江市西生馬町 14-4 電話 (0852) 36-5131

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

① 学科への受入

推薦選抜におけるこの試験方法導入の狙いは、i)受験生・保護者および中学校教諭に対して本校がどのような学生を受け入れたいのかを明確に示すこと、さらにii)仮に合否判定について問われたとき明確に説明できるようにすること、にある。中学教員からは小論文問題に対して肯定的な反応が比較的多い。島根県下の高校入試においては作文による試験はあっても、このような小論文試験は皆無であることから注目されている。ただ、推薦選抜で不合格となった受験生のほとんどは、学力選抜試験によって合格している現状にある。そのため、小論文試験や面接試験が入学者選抜において有効に働いているかは疑問であるが、制度導入の狙いは達成できていると考えられる。

学力選抜については、試験問題が全国共通であるため、アドミッション・ポリシーに沿った選抜になっているか検証できない。ただ、「求める学生像」に記載している人物像は調査書の記載内容からある程度は推測できると考えられ、今後とも調査書の内容を数値化していく努力を続けていく必要がある。

② 編入学生受入

推薦選抜・学力選抜ともに近年受験生は増える傾向にある。合格者に対しては、秋に「高専での勉強」に対するガイダンス、3月には二泊三日で数学を中心とした学習指導を行ない、本校での学習へスムーズに入っていけるよう事前指導している。学力の状況は個人差や学校差が大きく、より有効な受入方法を検討しつつしていく必要がある。

(2) 専攻科課程

アドミッション・ポリシーを考慮して、推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜が実施され、専攻科入試委員会において適正に選考されている。

準学士課程の基礎学習能力だけでなく、多面的な観点からの推薦基準やその選考方法について検討する必要がある。

観点 4-2-②： アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

① 学科への受入

平成 14 年度に従来の「入試検討ワーキンググループ」を企画総務室の下に常設のAO委員会を設置し、入学者選抜の改善に取り組んできた。平成 18 年度からは教務委員会の下に配置し、「AO委員会規則」(資料 4-2-②-1)も整備して業務にあたっている。学生募集活動の検証は「学生募集活動のまとめ」(資料 4-2-②-2)として行っている。

AO委員会では、入学試験結果と入学後の成績との関係を調査するなど入学者選抜の方法について継続して検討している。また、推薦が内定した段階及び学力での入学が決定した段階で、学習課題を入学予定者へ送り、入学直後に課題テストを実施して、新入生の学力をチェックしている。

平成 15 年度入学選抜以降、調査書から得られる内申点の算出方法を変更した。また、合否判

定における内申点と試験成績との割合を、推薦選抜においては内申点：試験点＝6：4、学力選抜においては内申点：試験点＝4：6と変更した。

志願の動機、広報活動の有様及び入学後の学生指導に繋げるため、毎年新入生に対してオリエンテーション時にアンケートを実施している。（資料4-2-②-3）本アンケートは、アドミッション・ポリシーに記載された求める学生像の入学後の検証について、役立っている。

② 編入学生の受入

出身学科は多くの場合工業系の学科であるが、カリキュラムや学習内容が学校により大きく違う。観点4-2-①で既述したように「4年生以降の本校の学習に適応できるか否か」が基本的な判断基準であるが、同じ高校あるいは同じ学科からの受験生は非常に少なく、一般的な傾向について確認できない状況である。そのため、編入学してきた学生の状況を編入学選抜の改善へ有効に役立っているとはいえない。

(2) 専攻科課程

本校では、現在までに、前述の選抜方法により5回の入学者選抜を実施している。（資料4-2-②-4）入学者選抜や学生の学習・研究活動の状況等については、専攻科委員会、専攻科入試委員会で検討を行っている。その結果、学力選抜については、各専攻で定員以上の入学者が見込めることから、平成18年度の選抜において、前期・後期の2回の選抜を1回の選抜とした。また、社会人特別選抜に関しても、企業を退社しての入学希望があり、門戸を広げるために出願資格の一部を改正している。

資料4-2-②-4

専攻科年度別入学者

(名)

	生産・建設システム工学専攻			電子情報システム工学専攻			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成14年度	6	1(1)	7(1)	14	0	14	20	1(1)	21(1)
平成15年度	9(1)	1	10(1)	18	1	19	27(1)	2	29(1)
平成16年度	6	2	8	13(1)	3	16(1)	19(1)	5	24(1)
平成17年度	11	1	12	19(1)	3	22(1)	30(1)	4	34(1)
平成18年度	8	0	8	25	2	27	33	2	35

注1：()は社会人入学者で内数である。

注2：平成16年度、平成17年度の社会人は、出願区分は一般選抜で出願

(出典 学生課 作成資料)

資料 4 - 2 - ② - 1

松江工業高等専門学校 A O 委員会規則

(平成 1 8 年 4 月 1 日 制 定)

(目的)

第 1 条 松江工業高等専門学校の入試方法改善及び入試広報に関する事項を審議し、実行するため、A O 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 一 本科の入試方法の改善に関する事。
- 二 学生募集の広報に関する事。
- 三 オープンキャンパスに関する事。
- 四 学校説明に関する事。
- 五 その他必要な事項に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 校長が指名した教員 若干名
- 三 学生課長

2 前項第二号に規定する委員(以下「第二号委員」という。)は、校長が任命する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置き、校長が任命する。

(運営)

第 4 条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を求めることができる。

(任期)

第 5 条 第二号委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。

2 第二号委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(付議)

第 6 条 委員長は、委員会で審議された事項を総括調整し、必要がある場合において本科入試委員会に上程するものとする。

(事務)

第 7 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会に必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成 1 8 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 4 - 2 - ② - 2 A

学生募集活動のまとめ（平成 16 年度報告）

今年度の島根県内中学から上級学校への志願者数は 7,473 人と推計され、昨年よりさらに 320 人減っている。17 年度は松江北・松江南共に 1 クラス削減されるなど県立高校の入学定員も減ってきてはいるが、今後とも中学生数の減少は止まらず、松江高専を巡る状況は年々厳しくなっている。

松江高専では、中学生を対象とした

- 1) 中学校主催の「高校説明会」への出席：約 40 箇所
- 2) 「オープン・キャンパス」の開催：表 1
- 3) 松江市内中学生の学校参観受入
- 4) 「学校説明会」の開催：表 2
- 5) 「入試問題説明会」の開催：表 3

あるいは、中学の先生を対象とした

- 6) 「中学・高専連絡会」の開催：6 月
- 7) 「入試説明会」の開催：島根県内 5 箇所
- 8) 中学校訪問：109 中学校

などの行事を通して学生募集活動を行っている。

「高校説明会」は少し前までは二学期に開催されることが多かったが、中学校側の進路指導が早まってきたこともあり、最近では 6 月下旬～7 月上旬での開催が多くなってきた。今年度も多くの教員が協力し、約 40 箇所に出かけた。一昨年までの「体験入学」から名称を変更して 8 月に実施した「オープン・キャンパス」へは、2 日間で近年最高の中学生・保護者を迎えることができた。しかし、11 月を中心に各地で開催した「学校説明会」への参加者は昨年より減少し、特に広島会場には一人の参加者もないという残念な結果に終わった。一方で、11 月末に開催した「入試問題説明会」には、生徒 177 名＋保護者 94 名を迎え、昨年の総数約 150 名を大幅に超える予想以上の参加があった。

今年度より「中学・高専連絡会（教務&AO 主催）」として、中間試験の結果が出た 6 月中旬に、一年生の出身中学校の先生方に高専に来ていただき、入学後の様子をお知らせしたり、中学時代の様子を聞く会を開催した。遠くは広島の日市市中、石見の大和中からの出席もあり、計 26 名の参加があった。11 月から 12 月にかけては、AO 委員、一般学科長、広報副委員長で手分けをし、島根県内 90 校、広島県北部 19 校の計 109 中学校を訪問した。県内で訪問していない中学校は、小規模校 7 校、分校 2 校と隠岐地区の 9 校である。昨年までは鳥取県内 29 校、兵庫県北部 5 校にも訪問していたが、例年極わずかな志願者しかなく、今年度から中止した。

中学訪問では、来年の進路希望状況や中学校の様子を伺ったり、松江高専の教育内容や入試関連情報を伝えたりしている。基本的には 3 年部進路担当の先生と話をするが、校長先生とお話することも結構多い。訪問時期は様々で、来年度の高専志願者数の推定は不確かではあるが、松江高専第一志望の中学生は 260～280 名位で、昨年を少し下回る程度ではないかと考えている。

表 1. オープン・キャンパス参加者数

地 区	H 1 4	H 1 5	H 1 6
松江市内	104	141	136
出雲地方（松江以外）	121	136	151
石見および隠岐地方	35	26	57
広島県	19	14	18
鳥取県	9	2	2
その他	1	1	2
合 計	289	320	361

（出典 AO 委員会 資料）

資料4-2-②-2 B

表2. 学校説明会参加者数

開催地区	H14	H15	H16
松江(本校)	62	90	85
安来(安来商工会議所)	16	15	9
出雲(サイクリングターミナル)	19	21	19
大田(あすてらす)	7	3	13
三刀屋(農村改善センター)	18	16	6
浜田(いわみーる)	18	16	6
益田(あすなろ館)	3	12	4
三次(カルチャーセンター)	9	14	0
合計	143	181	143

表3. 入試問題説明会参加者数

地区	中学生	保護者
松江市内	89	29
出雲地方(松江以外)	65	46
石見および隠岐地方	18	14
広島県	4	4
鳥取県	1	1
その他	0	0
合計	177	94

(出典 AO委員会 資料)

資料 4-2-②-3 A

新入生アンケート調査結果

新入生オリエンテーション時に毎年実施

1. 高専を知るきっかけ、イメージについて

(1) 松江高専を知ったのはいつ頃でしたか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 小学1・2・3年の頃	9	4.2%	13	6.3%	10	5.0%
2. 小学4・5・6年の頃	50	23.6%	35	16.8%	49	23.3%
3. 中学1年のころ	76	35.8%	66	31.7%	63	31.2%
4. 中学2年の頃	56	26.4%	67	32.2%	60	29.7%
5. 中学3年の頃	22	10.4%	27	13.0%	20	9.9%

(2) 松江高専を受験することを決意したのはいつ頃ですか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 小学生の頃	12	5.7%	10	4.8%	14	6.5%
2. 中学1年生の頃	23	10.8%	18	8.7%	15	7.0%
3. 中学2年生の頃	51	24.1%	67	32.2%	78	36.4%
4. 中学3年生の()月頃 (4.と回答した場合月名を記入してください)	127	59.9%	113	54.3%	107	50.1%

	H17	H16	H15
4月	5	9	19
5月	4	5	5
6月	14	9	5
7月	8	4	6
8月	14	11	15
9月	19	19	13
10月	27	17	11
11月	11	15	11
12月	14	12	18
1月	9	6	4
2月	2	3	*

(3) 松江高専を知るきっかけとなったのは主にどんなことですか、該当するものを5つまで選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 学校参観	31	14.6%	25	12.0%	34	16.8%
2. 体験入学	63	29.7%	57	27.4%	100	49.5%
3. 公開講座	10	4.7%	12	5.8%	16	7.9%
4. 松江高専のホームページ	49	23.1%	42	20.2%	46	22.8%
5. 学校紹介ビデオ	17	8.0%	23	11.1%	28	13.9%
6. 募集案内、ポスター	24	11.3%	30	14.4%	23	11.4%
7. 松江高専学校説明会：隠岐・松江・安来・出雲・雲南・大田・浜田・益田・三次地区	50	23.6%	57	27.4%	48	23.8%
8. 出身中学校での高校進学説明会	76	35.8%	57	27.4%	58	28.7%
9. 「進路決定のための情報」誌(松江、八東、安来、能義、大原地区)	27	12.7%	36	17.3%	28	13.9%
10. 小・中学校の先生から紹介	57	26.9%	55	26.4%	25	12.4%
11. テレビで「ロボット・コンテスト」を視聴	64	30.2%	47	22.6%	88	43.6%
12. 映画『ロボコン』を鑑賞	4	1.9%	2	1.0%	*	*
13. 松江高専に関するスポーツ、研究活動等の報道(新聞記事・テレ)	15	7.1%	17	8.2%	12	5.9%
14. 家族、親戚	111	52.4%	108	51.9%	78	38.6%
15. 先輩、知人	79	37.3%	95	45.7%	38	18.8%
16. その他(具体的に記入してください。)	8	3.8%	8	3.8%	15	7.4%

総合学習での高校調べ(3)、テレビ、ソーラー堀川遊覧船、塾の先生、高専祭、近所だった

(出典 AO委員会 資料 教員会議配付)

資料4-2-②-3 B

(4) 松江高専を志望した主な動機は何ですか、該当するものを5つまで選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 工学の勉強をしたかったから	147	69.3%	133	63.9%	128	63.4%
2. 大学に編入できるから	33	15.6%	27	13.0%	13	6.4%
3. 専攻科があるから	12	5.7%	12	5.8%	*	*
4. 就職率がいいから	164	77.4%	166	79.8%	*	*
5. 友人が志望していたから	7	3.3%	17	8.2%	*	*
6. 家族・親戚に薦められたから	68	32.1%	72	34.6%	78	38.6%
7. 先輩・知人に薦められたから	14	6.6%	26	12.5%	38	18.8%
8. 小・中学の先生に薦められたから	25	11.8%	26	12.5%	25	12.4%
9. 施設・設備が整っているから	78	36.8%	75	36.1%	*	*
10. 習いたい先生がいたから	2	0.9%	5	2.4%	*	*
11. 本校の教育目標に共感したから	20	9.4%	13	6.3%	*	*
12. 特定の部活動がしたかったから	5	2.4%	15	7.2%	*	*
13. ロボコン、プロコンに参加したかったから	33	15.6%	42	20.2%	*	*
14. オートバイ・自動車通学ができるから	45	21.2%	44	21.2%	42	20.8%
15. 校風が気に入ったから	62	29.2%	30	14.4%	*	*
16. 制服が気に入ったから	16	7.5%	13	6.3%	*	*
17. 経費が安いから	57	26.9%	43	20.7%	*	*
18. 公務員を志望しているから	14	6.6%	20	9.6%	*	*
19. その他（具体的に記入してください。）	11	5.2%	10	4.8%	*	*
夢の実現(2)、寮に入れるから(2)、休みが長いから、体験入学して行きたくなった、大学受験がないから、機械いじりの趣味を仕事にしたかったから、同じ中学の人と離れたかったから、学校がきれいだから、エコランに出たいか						

(5) 高専をどのような学校だと思っていますか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 工業高校と同じような学校	8	3.8%	17	8.2%	12	6.0%
2. 短期大学と同じような学校	28	13.2%	26	12.5%	41	20.5%
3. 大学の工学部と同じような学校	32	15.1%	32	15.4%	25	12.5%
4. 高校とも大学とも違う学校	143	67.5%	131	63.0%	122	61.0%

(6) 松江高専について主にどんなイメージをもっていますか、該当するものを5つまで選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 就職に強い	184	86.8%	178	85.6%	86	42.6%
2. 編入学・進学に強い学校	45	21.2%	37	17.8%	9	4.5%
3. 教育・研究レベルの高い学校	134	63.2%	109	52.4%	51	25.2%
4. 施設・設備の整った学校	110	51.9%	91	43.8%	27	13.4%
5. 競争率が高く入学が難しい学校	102	48.1%	114	54.8%	65	32.2%
6. 勉強が難しい	164	77.4%	181	87.0%	*	*
7. 勉強が楽である	2	0.9%	4	1.9%	*	*
8. 規則が厳しい	7	3.3%	7	3.4%	*	*
9. 規則が緩い	55	25.9%	79	38.0%	*	*
10. 大学と比べると経費が少なくてすむ学校	73	34.4%	56	26.9%	20	9.9%
11. 校風が自由な学校	78	36.8%	51	24.5%	60	29.7%
12. その他（具体的に記入してください。）	3	1.4%	2	1.0%	*	*
ロボットについて学べる、女子が少ない、視野が狭くなる						

※2つ回答

(出典 AO委員会 資料 教員会議配付)

資料 4 - 2 - ② - 3 C

2. 入試・志望学科について

(7) (推薦入学試験で入学した人のみ回答) 小論文問題にはどのような感想を持ちましたか、一つ選んでください。

回 答	H17 (N=62)		H16 (N=73)		H15 (N=63)	
1. 思っていたより簡単だった	33	53.2%	37	50.7%	42	66.7%
2. 問題は簡単だったが、時間が足りなかった	2	3.2%	10	13.7%	4	6.3%
3. 思っていたより難しかった	16	25.8%	21	28.8%	14	22.2%
4. とても難しかった	11	17.7%	5	6.8%	3	4.8%

(8) (推薦入学試験で入学した人のみ回答) 面接試験にはどのような感想を持ちましたか、一つ選んでください。

回 答	H17 (N=75)		H16 (N=77)		H15 (N=61)	
1. リラックスして対応ができた	33	44.0%	25	32.5%	38	62.3%
2. 緊張したが何とか対応ができた	35	46.7%	37	48.1%	16	26.2%
3. 緊張してうまく対応ができなかった	7	9.3%	15	19.5%	7	11.5%

(9) (学力試験で入学した人のみ回答) 入学試験のそれぞれの科目(国語、英語、数学、社会、理科)の問題についてどのような感想を持ちましたか?

回 答	H17 (N=133)				
	国語	英語	数学	社会	理科
1. とても簡単	6.0%	1.5%	0.0%	7.5%	11.3%
2. 簡単	18.7%	3.8%	3.8%	13.5%	32.3%
3. 普通	50.0%	14.3%	9.8%	46.6%	31.6%
4. 難しい	17.2%	33.8%	36.1%	20.3%	18.0%
5. 大変難しい	8.2%	46.6%	50.4%	12.0%	6.8%

3. 志望学科について

(10) 第一志望の学科を選んだ主な理由は何ですか、該当するものを3つまで選んでください。

回 答	H17	H16	H15	※
1. その学科の勉強がしたかったから	179	177	156	78.4%
2. その学科に習いたい先生がいたから	3	3	*	*
3. 前年度の入学倍率を参考にして	45	40	9	4.5%
4. 中学校の先生の薦めによって	25	30	11	5.5%
5. 家族・親戚の薦めによって	44	44	13	6.5%
6. 知人の薦めによって	17	14	*	*
7. その他(具体的に記入してください)	18	23	10	5.0%

※1つ回答
ロボコンに関心があるから(E) (4), エコランに出たいから(M) (2), 将来の職業を考えて(M,E) (2), 自分の意志で(D), ロボコンが強かったから(E), 体験入学が面白かったから(M), 様々な分野で活躍できるから(D), 全体的に学びたいから(D), 家業が関係しているから(C), 気分で(E)

(11) 第一志望と違う学科に入学した人は、現在そのことをどう感じていますか、一つ選んでください。(該当者のみ回答)

回 答	H17 (N=31)		H16 (N=23)		H15 (N=32)	
1. 全く気にしていない	22	71.0%	7	30.4%	10	31.3%
2. 合格時は幾分気になったが、今は気にしていない	2	6.5%	7	30.4%	8	25.0%
3. まだ幾分気になってはいるが、今の学科で頑張ろうと思ってい	4	12.9%	9	39.1%	12	37.5%
4. 現在も気にして悩んでいる(転科を考えている)	3	9.7%	0	0.0%	2	6.3%

資料 4 - 2 - ② - 3 D

4. 現在の状況について

(12) 現在、主に不安を感じていることは何ですか、該当するものを3つまで選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 友達とうまくやれていけるかどうかということ	79	37.3%	84	40.4%	16	7.9%
2. 先輩とうまくやれていけるかどうかということ	56	26.4%	43	20.7%	3	1.5%
3. 教員とうまくやれていけるかどうかということ	11	5.2%	8	3.8%	0	0.0%
4. 勉強についていけるかどうかということ	178	84.0%	174	83.7%	112	55.4%
5. 寮生活がうまくいけるかどうかということ	12	5.7%	36	17.3%	*	*
6. 留年しないだろうかということ	115	54.2%	101	48.6%	65	32.2%
7. 部活と勉強の両立がうまくいけるかどうかということ	81	38.2%	77	37.0%	*	*
8. どのような進路を選択すべきかということ	24	11.3%	36	17.3%	*	*
9. 特に不安なことはない	8	3.8%	2	1.0%	5	2.5%
10. その他（具体的に記入してください。）	2	0.9%	1	0.5%	*	*
何部に入るか(2)						*1つ回答

(13) 現時点で進路についてどのような希望をもっていますか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 本科を卒業後就職したい	107	50.5%	110	52.9%	94	46.5%
2. 本科を卒業後専攻科に進学したい	26	12.3%	39	18.8%	*	*
3. 本科を卒業後大学に編入学したい	29	13.7%	29	13.9%	14	6.9%
4. 進路については全く未定である	51	24.1%	30	14.4%	*	*

(14) 現時点で課外活動についてどのような考えをもっていますか、一つだけ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 体育系の部活動に参加したい	137	64.6%	136	65.4%	*	*
2. 文科系の部活動に参加したい	22	10.4%	27	13.0%	*	*
3. 部活動に参加しようか迷っている	47	22.2%	37	17.8%	*	*
4. 部活動に参加するつもりはない	7	22.2%	8	3.8%	*	*

(15) 入学してから、自宅あるいは寮で毎日どれくらい勉強していますか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. ほとんどしていない	14	6.6%	14	6.7%	*	*
2. 1時間未満	55	25.9%	50	24.0%	*	*
3. 1～2時間	126	59.4%	117	56.3%	*	*
4. 2～3時間	17	8.0%	25	12.0%	*	*
5. 3時間以上	2	0.9%	1	0.5%	*	*

4. 中学校での生活について

(16) 中学3年生の時、自宅で毎日どれくらい勉強していましたか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. ほとんどしていない	92	43.4%	82	39.4%	111	55.2%
2. 1時間未満	68	32.1%	55	26.4%	21	10.4%
3. 1～2時間	31	14.6%	43	20.7%	39	19.4%
4. 2～3時間	16	7.5%	17	8.2%	22	10.9%
5. 3時間以上	6	2.8%	11	5.3%	8	4.0%

(出典 AO委員会 資料 教員会議配付)

資料 4 - 2 - ② - 3 E

(17) 中学3年のとき、学習塾へはどれくらい通っていましたか、一つ選んでください。

回 答	H17		H16		H15	
1. 全く通っていない	92	43.4%	106	51.0%	104	51.5%
2. 長期休暇（夏休み、冬休み、春休み等）の時のみ	8	3.8%	6	2.9%	12	5.9%
3. 週に1日程度	18	8.5%	16	7.7%	20	9.9%
4. 週に2, 3日程度	86	40.6%	69	33.2%	56	27.7%
5. 週に4日以上	9	4.2%	11	5.3%	10	5.0%

(18) 中学生時代に部活に参加していましたか。

回 答	H17		H16		H15	
1. 体育系の部活に参加していた	172	81.1%	167	80.3%	*	*
2. 文科系の部活に参加していた	32	15.1%	28	13.5%	*	*
3. 体育系、文科系の両方の部活に参加していた	1	0.5%	1	0.5%	*	*
4. 部活に参加していなかった	8	3.8%	11	5.3%	*	*

(19) 中学生時代に松江高専について知るために、して欲しかったことがあれば書いてください。

回 答	H17	H16
ホームページの充実と更新	8	2
学科の詳細な説明	5	4
課外活動について情報提供	4	7
パンフレットの充実	3	2
授業見学	2	
中学校で学校説明会	2	
入試倍率の公開	2	
ロボコンデモ	2	1
高専祭の宣伝	2	1
校風について	2	1
カリキュラム表の公開	1	
高専生の一日の様子の説明	1	1
高専のロケーションやキャンパス内設備についての情報提供	1	1
ロボコンはどの学科なのかについての情報	1	
中学校で早い段階（2年生頃）での情報提供	1	
寮の施設・生活について情報提供		7
授業内容・風景の公開		2
説明会の充実		3
高専生のお話を聞く機会		2
説明会の回数を増加		2
ポスター		2
高校との違いの説明		2
入試の得点状況の公開		2
留年者の数		1
CM		1
高専の悪いところ		1
将来の職種についての情報提供		1
先輩と話す機会		1
入寮体験		1
バイクについての情報		1
勉強について		1

(出典 AO委員会 資料 教員会議配付)

資料 4 - 2 - ② - 3 F

6. 新入生オリエンテーションについて

(20) 今回の新入生オリエンテーションで主に達成できたと思うことは何ですか、該当するものを3つまで選んでください。

回 答	H17		H16	
1. 松江高専の学生としての自覚を持つ	66	31.1%	50	24.0%
2. 学生生活に適應する	29	13.7%	31	14.9%
3. 学校の規則や履修方法について理解を深める	98	46.2%	119	57.2%
4. 所属する学科について理解を深める	109	51.4%	118	56.7%
5. クラスの同級生との親睦を深める	156	73.6%	139	66.8%
6. 新入生相互の親睦を深める	84	39.6%	74	35.6%
7. 教職員との親睦を深める	10	4.7%	8	3.8%

(21) オリエンテーションで有意義だったと思われる行事は何ですか、該当するものを全て選んでください。

回 答	H17		H16	
1. 教務主事, 学生委員会, 学年主任の講話	42	19.8%	57	27.4%
2. 一畑薬師登山 (雨の場合紙飛行機大会)	79	37.3%	61	29.3%
3. クラス別ミーティング I・II	130	61.3%	125	60.1%
4. 学科別ミーティング	123	58.0%	121	58.2%

(22) オリエンテーションに対して、希望、意見があれば書いてください。

回 答	H17	H16
登山はやめたほうがいい	16	20
もっと自由・休憩時間がほしい	11	14
学生の親睦を深めるような企画をしてほしい	10	7
楽しかった	7	4
登山は疲れる	6	19
球技	6	4
土曜日はやめてほしい	4	
課題テストはしてほしくない	4	4
登山のコースやペースを楽にしてほしい	3	
違う場所がいい	3	1
紙飛行機大会が良かった	2	2
疲れた	2	2
二泊三日くらいがよかった	2	2
ミーティングが楽しかった	2	1
先生の話が長い	2	1
今後もやったほうがいい	2	
食事について	1	2
2, 3年生でもやってほしい	1	1
紙飛行機大会をやめてほしい	1	1
本格的な登山をすべき	1	1
消灯時間が早い	1	1
起床時間が早い	1	
夜が騒がしい	1	1
秋に開催すれば景色を楽しめる	1	
やらなくていい	1	
仲良くなれてよかった		3
学科別ミーティングの時間を増やしてほしい		1
ビデオが見たかった		1
ミーティングがつまらない		1
生活委員を勝手に決めないでほしい		1
部屋割りを自分たちで決めたかった		1

(出典 A O委員会 資料 教員会議配付)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

学科については、AO委員会がアドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜が実施されているか検証し、その結果を選抜方法の改善に繋げることによりよく対応できていると判断されるが、編入学生の受入については、改善の余地があると判断される。

(2) 専攻科課程

本校では、現在までに5回の入学者選抜を実施しているが、学生の単位取得や修了の状況、研究活動の状況から判断して、大きく問題となる点は見受けられない。しかし、より多くの入学生を確保するという観点から、推薦選抜の出願資格については検討する必要があると思われる。また、社会人特別選抜に関しても、企業を退社しての入学希望があり出願資格の一部を改正している。現在も2名の学生が在籍しているが、社会人のリフレッシュ教育を推進するためにも、入学後の学習環境を含め、門戸を広げる方向で検討する必要があると思われる。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

① 学科への受入

入学者の状況（入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学者内訳）は、表のとおりである。（資料4-3-①-1）

準学士課程は、各学科とも40名の定員である。ここ数年、推薦・学力選抜を合わせて50名前後の合格者を発表している。これは、本校を第二志望校としている合格者のほとんどは第一志望の県立高校に合格し、入学を辞退するためであり、最終的な入学者は42名前後でスタートしている。なお、高専の合格発表は県立高校の入学試験より時期的に早いため、本校を第二志望校としていながら合格によって志望が変わり、本校へ入学してくる受験生も極わずかある。そのため、過去には45名でスタートした学科もある。

② 編入学生の受入

編入学は定員化されていないため、クラスの人数によっては40名を超える可能性もある。編入学試験を7・8月に実施しており、次年度の第4学年の人数は不確定の状態であるため、優秀な受験生は合格としている。

編入学生を合格させたことで増えた人数が教育的な問題を発生させているとは考えていない。

編入学生は、平成14年度10名、平成15年度7名、平成16年度10名、平成17年度11名となっている。

(2) 専攻科課程

入学者の状況（入学定員、志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学者内訳）は、表のとおりである。（資料4-3-①-2）

年度別の入学者数から明らかなように、各専攻ともに定員が満たされている。特に、電子情報システム工学専攻は、入学者が増える傾向にあり、定員を大きく上回っている。また、本校の卒業生であるが、例年、企業経験を経た社会人学生も入学している。

資料4-3-①-1

準学士課程入学状況表 (名)

		入学 定員	志願者			受験者			合格者			入学者			入学者の内訳	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	学力	推薦
平成 14 年度	機械工学科	40	45	2	47	44	2	46	45	4	49	39	2	41	32	9
	電気工学科	40	75	6	81	75	6	81	47	4	51	39	2	41	28	13
	電子制御工学科	40	59	6	65	59	6	65	45	10	55	31	10	41	31	10
	情報工学科	40	69	38	107	69	38	107	36	24	60	24	19	43	29	14
	土木工学科	40	60	14	74	60	14	74	41	12	53	31	10	41	27	14
	計	200	308	66	374	307	66	373	214	54	268	164	43	207	147	60
平成 15 年度	機械工学科	40	44	1	45	43	1	44	46	2	48	42	1	43	34	9
	電気工学科	40	71	7	78	71	7	78	44	6	50	38	4	42	26	16
	電子制御工学科	40	39	8	47	39	8	47	42	14	56	33	10	43	34	9
	情報工学科	40	80	31	111	80	31	111	44	16	60	31	11	42	27	15
	土木工学科	40	53	13	66	52	13	65	43	14	57	31	11	42	28	14
	計	200	287	60	347	285	60	345	219	52	271	175	37	212	149	63
平成 16 年度	機械工学科	40	86	4	90	86	4	90	45	4	49	40	2	42	26	16
	電気工学科	40	58	6	64	58	6	64	44	4	48	38	4	42	31	11
	電子制御工学科	40	64	7	71	64	7	71	48	7	55	36	6	42	27	15
	情報工学科	40	65	31	96	64	31	95	34	24	58	30	14	44	28	16
	環境・建設工学科	40	52	15	67	51	14	65	40	13	53	28	13	41	27	14
	計	200	325	63	388	323	62	385	211	52	263	172	39	211	139	72
平成 17 年度	機械工学科	40	75	1	76	75	1	76	49	2	51	40	2	42	26	16
	電気工学科	40	62	2	64	62	2	64	51	1	52	42	1	43	32	11
	電子制御工学科	40	58	7	65	57	7	64	46	7	53	37	5	42	27	15
	情報工学科	40	74	31	105	74	31	105	34	21	55	26	19	45	29	16
	環境・建設工学科	40	45	17	62	45	17	62	34	18	52	29	13	42	28	14
	計	200	314	58	372	313	58	371	214	49	263	174	40	214	142	72
平成 18 年度	機械工学科	40	70	1	71	70	1	71	50	2	52	41	2	43	28	15
	電気工学科	40	79	4	83	79	4	83	46	4	50	39	3	42	27	15
	電子制御工学科	40	69	14	83	69	14	83	42	8	50	38	5	43	28	15
	情報工学科	40	56	31	87	56	31	87	37	22	59	24	19	43	28	15
	環境・建設工学科	40	61	20	81	60	20	80	38	12	50	31	11	42	27	15
	計	200	335	70	405	334	70	404	213	48	261	173	40	213	138	75

(注) 合格者数には、第2志望以下での合格者を含む。

(出典 庶務課 作成資料)

資料 4 - 3 - ① - 2

専攻科課程入学状況表

(名)

		入学 定員	志願者			受験者			合格者			入学者			入学者の内訳		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	学力	推薦	社会人
平成 14 年度	生産・建設システム工学	8	9	1	10	9	1	10	7	1	8	6	1	7			
	電子情報システム工学	12	16	0	16	16	0	16	16	0	16	14	0	14			
	計	20	25	1	26	25	1	26	23	1	24	20	1	21			
平成 15 年度	生産・建設システム工学	8	14	1	15	12	1	13	9	1	10	9	1	10	2	7	1
	電子情報システム工学	12	26	1	27	24	1	25	20	1	21	18	1	19	4	15	0
	計	20	40	2	42	36	2	38	29	2	31	27	2	29	6	22	1
平成 16 年度	生産・建設システム工学	8	8	3	11	8	3	11	7	3	10	6	2	8	4	4	0
	電子情報システム工学	12	28	3	31	24	3	27	18	3	21	13	3	16	3	13	0
	計	20	36	6	42	32	6	38	25	6	31	19	5	24	7	17	0
平成 17 年度	生産・建設システム工学	8	14	4	18	14	3	17	13	1	14	11	1	12	4	8	0
	電子情報システム工学	12	26	3	29	24	3	27	22	3	25	19	3	22	4	18	0
	計	20	40	7	47	38	6	44	35	4	39	30	4	34	8	26	0
平成 18 年度	生産・建設システム工学	8	9	0	9	9	0	9	8	0	8	8	0	8	2	6	0
	電子情報システム工学	12	32	2	34	30	2	32	27	2	29	25	2	27	5	22	0
	計	20	41	2	43	39	2	41	35	2	37	33	2	35	7	28	0

(出典 庶務課 作成資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程においては、中学生や保護者を対象としてオープンキャンパス、学校説明会、入試問題説明会あるいは松江市内中学生の学校参観を通して松江高専の特長を説明すると共に、教育目標やアドミッション・ポリシーの周知を図ってきている。また、中学の先生を対象としても中学・高専連絡会、入試説明会あるいは中学校訪問を通して、積極的に学生募集を行ってきている。最近では県下の中学生が減少する中、松江高専への志願者は微増するという成果となって現れている。

専攻科においても入学志願者が増加傾向にあり、実入学者数は定員を超過している。しかし、教育には支障のない指導教員・講義室・実験室・施設があり、研究成果などのプラス要因が多く、定員を超過していることによる教育上の直接的マイナスの影響は全く無い。

(改善を要する点)

今後のさらなる発展のためには、常勤教員数を増加させることが最も望ましい。また、一方では競争的資金・外部資金による有期教員の雇用、県や民間企業人材の教育への活用といった方策を考えることが期待される。

(3) 基準 4 の自己評価の概要

準学士課程の入学者選抜に係るアドミッション・ポリシーは平成 17 年 6 月に制定し、ホームページや学生募集要項に記載、あるいは各種説明会で中学生・保護者・中学教諭を中心に周知を図り、アドミッション・ポリシーに適う、優秀な中学生の確保に積極的に取り組んでいる。

準学士課程及び編入生は本科入試委員会で、専攻科課程は専攻科入試委員会で、それぞれのアドミッション・ポリシーに沿った適切な入学者選抜を実施している。準学士課程の推薦選抜においては、基礎学力は中学校からの調査書、対人能力については面接試験、技術者としての可能性は小論文で評価するなど、志願者を多面的な観点から総合判定する方式にしており、アドミッション・ポリシーに沿った選抜が適正になされている。また、AO委員会は毎年入試状況の報告会を行ない、本校の教員が新入生の指導上で留意すべき点など学内の情報共有化を図っている。さらに入学者の入学後の成績の追跡調査も継続的に行い、入試改善へ活かすべくデータの分析を行っている。

準学士課程の実入学者は入学辞退者を見込んで合格者を決定しているため、結果的に定員を 5%程度上回っているが、教育には支障のない範囲で、適切である。編入学の入学者は設備など教育には支障のない範囲内に定めており適切である。専攻科課程の実入学者数については、大幅に定員を超過している専攻が存在する。しかし、それに応じうる指導教員・講義室・実験室・施設があり教育上の直接的支障は現れていない。逆に多数の学生が相互に切磋琢磨するため学力・技能の向上にプラスの効果がみられる。また、単独で扱うのが難しい大きな課題に分担・協力して取り組むことが出来るため研究成果の面でもプラスの効果が認められる。ただし、以上の効果をあげるため教員が多大な努力をしているので、さらなる発展を目指す上では、教員側のパワーを量的に増加させることが望まれる。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到る状況）

本校の教育理念、教育目標、学科ごとの教育目標に基づいて各学科の教育課程が体系立てて構成されている。

教育課程 （資料5-1-①-1 A～G）

科目系統図 （資料5-1-①-2 A～G）

シラバス （資料5-1-①-3 見本）

授業時間割表（資料5-1-①-4）

たとえば、機械工学科においては専門科目は7つの科目系列から構成されている。その特徴は以下の通りである。

- ① 実践的な能力を有する機械技術者を育成するために必要な科目系列が過不足なく配置されている。
- ② それらの科目を有機的に結び付けるための総合科目が全学年に配置されている。
- ③ モノ作り実践教育の重点化のために、1学年から実習、創造演習等の体験的学習科目が開設されている。
- ④ 早期専門教育を展開する高専本来の特長を生かし、1学年に3科目、2学年に4科目の専門科目が開設されている。
- ⑤ 低学年では基礎的な内容の専門科目が開設されていて、高学年になるにしたがってより高度な内容の専門科目が配置されている。
- ⑥ 1学年は「基礎情報処理」、3学年では「制御情報」といった情報関連科目が配置されていて、ここで学んだコンピュータの利用技術を4学年の機械要素設計・設計製図・工学実験ならびに5学年の卒業研究等に応用できるカリキュラムとなっている。

（他学科の詳しい特徴は、資料「自己点検・自己評価書」参照）

（分析結果とその根拠理由）

低学年の一般科目での履修内容を基礎とし、学年進行に伴って専門学科ごとに特色ある専門課程を体系立てて編成している。教育目標と各授業科目の関連が明確にされていることから、授業内容が教育課程編成の趣旨に沿っており、教育目標を達成するために適切なものになっている。

資料5-1-①-1 A

別表第1
一般科目(人文科学系) [各学科共通]

授業科目	単位数	学年配当					JABEE科目	コア科目	学修科目	教育目標番号	備考	
		1年	2年	3年	4年	5年						
日本語	12	日本語 I	2					○		G1	一般科目75単位以上かつ専門科目82単位以上を含む合計167単位の修得を卒業要件とする。	
		日本語 II	2					○		G1		
		日本語 III		2					○			G1
		日本語 IV		2					○			G1
		日本語 V			1				○			G1
		日本語 VI			1				○			G1
社会	15	日本文学史概説				1	G			G1	コア科目以外では、同時に複数の科目が開講されることがある。	
		日本語表現				1	G			G1		
		地理 I	1					○		G2		
		地理 II	1					○		G2		
		現代社会	1					○		G2		
		世界史 I		1					○	G2		
		世界史 II		1					○	G2		
		日本史 I			1				○	G2		
		日本史 II			1				○	G2		
		倫理哲学				1		G		G2		
		哲学概論				1		G		G2		
		法社会学 I				1		G		G2		
		法社会学 II				1		G		G2		
		現代歴史学				1		G		G2		
		地域社会論			1					G2		
地域産業論				1		G		G2				
体育	12	保健・体育 I	2					○		G5		
		保健・体育 II	2					○		G5		
		保健・体育 III		2					○	G5		
		保健・体育 IV		2					○	G5		
		体育 I			1				○	G5		
		体育 II			1				○	G5		
		体育 III				1				G5		
		体育 IV				1				G5		
外国語	38	英語 I	2					○		G3		
		英語 II	2					○		G3		
		英語表現 I	1						○	G3		
		英語表現 II	1						○	G3		
		英語 III		2					○	G3		
		英語 IV		2					○	G3		
		英語表現 III		1					○	G3		
		英語表現 IV		1					○	G3		
		英語 V			2				○	G3		
		英語 VI			2				○	G3		
		総合英語 I				2		G	○	G3		
		総合英語 II				2		G	○	G3		
		技術英語				1		G		G3		
		英語プレゼンテーション				1		G		G3		
		ビジネス英語 I				1		G		G3		
		ビジネス英語 II				1		G		G3		
		ビジネス英語 III				1		G		G3		
		ビジネス英語 IV				1		G		G3		
		ドイツ語 I				1		G		G3		
		ドイツ語 II				1		G		G3		
ドイツ語 III				1		G		G3				
ドイツ語 IV				1		G		G3				
中国語 I				1				G3				
中国語 II				1				G3				
中国語 III				1				G3				
中国語 IV				1				G3				
ハンガール I				1				G3				
ハンガール II				1				G3				
ハンガール III				1				G3				
ハンガール IV				1				G3				
芸術	3	音楽			1					G5		
		美術			1					G5		
		書道			1					G5		
		特別演習 I	1							G3		
科目特別演習	4	英語特別演習 I	1							G3		
		英語特別演習 II	1							G3		
		英語特別演習 III		1						G3		
		英語特別演習 IV		1						G3		
開設単位合計	84	19	18	14	21	12						

JABEE区分
G：人文社会・語学
N：数学・自然科学・情報技術
T：専門分野
(なし)：専門工学
(B)：基礎工学
(B1)設計・システム系
(B2)情報・論理系
(B3)材料・バイオ系
(B4)力学系
(B5)社会技術系

ドイツ語 I・II の合格を履修の条件とする。

中国語 I・II の合格を履修の条件とする。

ハンガール I・II の合格を履修の条件とする。

資料5-1-①-1 B

一般科目(数理科学系) [各学科共通]

授業科目	単位数	学年配当					JABEE 科目	コア 科目	学修 単位 科目	教育 目標 番号	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年					
数 学	22	数 学 I A	2					○		G4	コア科目以外では、同時に複数の科目が 開講されることがある。
		数 学 I B	2					○		G4	
		数 学 II A	2					○		G4	
		数 学 II B	2					○		G4	
		数 学 III A		2				○		G4	
		数 学 III B		1				○		G4	
		数 学 IV A		2				○		G4	
		数 学 IV B		2				○		G4	
		数 学 V A			2			○		G4	
		数 学 V B			1			○		G4	
		数 学 VI A			2			○		G4	
		数 学 VI B			1			○		G4	
代 数 ・ 解 析 特 論					1		N		G4		
理 科	16	物 理 I	1					○		G4	
		物 理 II	1					○		G4	
		物 理 III		1				○		G4	
		物 理 IV		1				○		G4	
		物 理 V			1			○		G4	
		物 理 VI			1			○		G4	
		化 学 I	1					○		G4	
		化 学 II	1					○		G4	
		化 学 III		1						G4	
		化 学 IV		1						G4	
		化 学 V			1					G4	
		化 学 VI			1					G4	
		生 物 I			1					G4	
		生 物 II			1					G4	
化 学 特 論					1		N		G4		
環 境 と 人 間					1	T(B5)		○	G4, G5		
特 別 演 習	4	数 学 特 別 演 習	1							G4	
		物 理 II 特 別 演 習	1							G4	
		物 理 III 特 別 演 習		1						G4	
		物 理 IV 特 別 演 習		1						G4	
開 設 単 位 合 計	42	14	13	12	2	1					

資料5-1-①-1 C

別表第2
機械工学科

授 業 科 目	単位数	学 年 配 当					JABEE 科目	コア 科目	学 修 単 位 目 標	教 育 目 標 番 号	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年					
テクニカルリーディング&ライティング	1	1						○		2	一般科目75単位以上かつ専門科目82単位以上を含む合計167単位の修得を卒業要件とする。
工業力学	1		1					○		1	
機械工学概論	1		1					○		2	
材料学	1		1					○		1	コア科目以外では、同時に複数の科目が開講されることがある。
材料学	2		1					○		1	
材料学	3			1		T(B3)		○		1	
材料学	4				1	T(B3)		○		1	
材料力学	1		1					○		1	「電気工事特別演習」については、2年又は3年のいずれかの1単位を修得することができる。
材料力学	2			1				○		1	
材料力学	3				1	T(B4)		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	
材料力学	3					T		○		1	
材料力学	4					T		○		1	
材料力学	1				1	T(B4)		○		1	
材料力学	2				1	T(B4)		○		1	

資料5-1-①-1 E

電子制御工学科

授業科目	単位数	学年配当					JABEE科目	コア科目	学修科目	教育目標番号	備考
		1年	2年	3年	4年	5年					
応用数学Ⅰ	1	1				1	N	○	G4	一般科目75単位以上かつ専門科目82単位以上を含む合計167単位の修得を卒業要件とする。	
応用数学Ⅱ	1				1	N	○	G4			
応用数学Ⅲ	1				1	N	○	G4			
応用数学Ⅳ	1				1	N	○	G4			
応用物理学Ⅰ	1				1	N	○	G4			
応用物理学Ⅱ	1				1	N	○	G4	コア科目以外では、同時に複数の科目が開講されることがある。		
応用物理学Ⅳ	1				1	N	○	G4			
応用物理学Ⅴ	1				1	N	○	G4			
電子制御基礎Ⅰ	1	1					○	1,3			
電子制御基礎Ⅱ	2	1	1				○	5			
コンピュータ制御Ⅰ	1		1				○	3			
コンピュータ制御Ⅱ	2		1				○	3			
コンピュータ制御Ⅲ	3		1				○	3			
制御工学Ⅰ	1	1			1	T(B1)	○	3			
制御工学Ⅱ	2	1			1	T(B1)	○	3			
制御工学Ⅲ	3	1			1	T(B1)	○	3			
制御工学Ⅳ	4	1			1	T(B1)	○	3			
メカトロニクスⅠ	1	1			1	T(B4)	○	4			
メカトロニクスⅡ	2	1			1	T(B1)	○	4			
ロボット工学Ⅰ	1				1	T(B4)	○	4			
計測工学Ⅰ	1				1	T(B1)	○	4			
計測工学Ⅱ	2	1			1	T(B1)	○	4			
基礎情報処理Ⅰ	1	1					○	3			
プログラミングⅠ	1		1				○	3			
プログラミングⅡ	2	1			1	T(B2)	○	3			
知能情報工学Ⅰ	2	1			1	T(B2)	○	4			
情報通信工学Ⅰ	1	1			1	N	○	3			
情報通信工学Ⅱ	2	1			1	N	○	3			
基礎計測機工学Ⅰ	1	1			1		○	3			
基礎計測機工学Ⅱ	2	1			1		○	3			
計測機工学Ⅰ	1	1			1	T(B2)	○	3			
計測機工学Ⅱ	2	1			1	T(B2)	○	3			
情報ネットワークⅠ	1	1			1	T(B1)	○	3			
情報ネットワークⅡ	2	1			1	T(B1)	○	3			
基礎電気回路Ⅰ	1	1			1		○	1			
基礎電気回路Ⅱ	2	1	1				○	1			
基礎電気回路Ⅲ	3	1			1		○	1			
基礎電気回路Ⅳ	4	1			1		○	1			
電気回路Ⅰ	1	1			1	T(B1)	○	1			
電気回路Ⅱ	2	1			1	T(B1)	○	1			
電子工学Ⅰ	1	1			1		○	1			
電子工学Ⅱ	2	1			1		○	1			
電子回路Ⅰ	1	1			1	T	○	1			
電子回路Ⅱ	2	1			1	T	○	1			
基礎電気磁気学Ⅰ	1	1			1		○	1			
基礎電気磁気学Ⅱ	2	1			1		○	1			
電気磁気学Ⅰ	1	1			1	N	○	1			
電気磁気学Ⅱ	2	1			1	N	○	1			
デジタル回路Ⅰ	1				1	T	○	1			
光エレクトロニクスⅠ	1				1	T(B3)	○	4			
材料工学Ⅰ	1				1		○	2			
材料工学Ⅱ	2	1			1	T(B3)	○	2			
工業力学Ⅰ	1	1			1	T(B4)	○	2			
工業力学Ⅱ	2	1			1	T(B4)	○	2			
材料力学Ⅰ	1				1		○	2			
材料力学Ⅱ	1				1		○	2			
電子制御デザインⅠ	1	1			1		○	2			
電子制御デザインⅡ	2	1			1	T(B1)	○	4			
工業熱力学Ⅰ	1	1			1	T(B1)	○	2			
工業熱力学Ⅱ	1	1			1	T(B4)	○	2			
振動学Ⅰ	1	1			1	T(B4)	○	2			
経営工学Ⅰ	1	1			1	T(B5)	○	4			
経営工学Ⅱ	2	1			1	T(B5)	○	4			
技術者倫理Ⅰ	1	1			1	T(B5)		G2			
知的財産Ⅰ	1	1			1	T(B5)		G2			
工業デザインⅠ	1	1			1	T(B1)		4			
企業経営基礎Ⅰ	1	1			1	T(B5)		G2			
ネットワーク管理Ⅰ	1	1			1			5			
ネットワーク技術Ⅰ	1	1			1			5			
プログラミング言語Ⅰ	1	1			1	T(B2)	○	3			
プログラミング言語Ⅱ	2	1			1	T(B2)	○	3			
機械設計Ⅰ	1	1			1			2			
創設設計製作Ⅰ	1				1		○	4			
創設設計製作Ⅱ	2	1			1		○	4,5			
創設設計製作Ⅲ	3	2			2	T	○	4,5			
工学実験Ⅰ	1	2			2		○	5			
工学実験Ⅱ	2	1			1		○	5			
工学実験Ⅲ	3	2			2		○	5			
工学実験Ⅳ	4	1			1	T	○	5			
工学実験Ⅴ	5	2			2	T	○	5			
工学実験Ⅵ	6	1			1	T	○	3,4,5			
卒業業務研究Ⅰ	12				12	T	○	4,5			
校外実習Ⅰ	1				1		○	4,5			
専門基礎特別演習A	1	1						2			
専門基礎特別演習B	1				1			5			
専門基礎特別演習C	1				1			5			
電気工事特別演習Ⅰ	2				1			1			
開設単位合計	103	4	9	19	30	41					

創設設計製作3の合格を履修の条件とする。

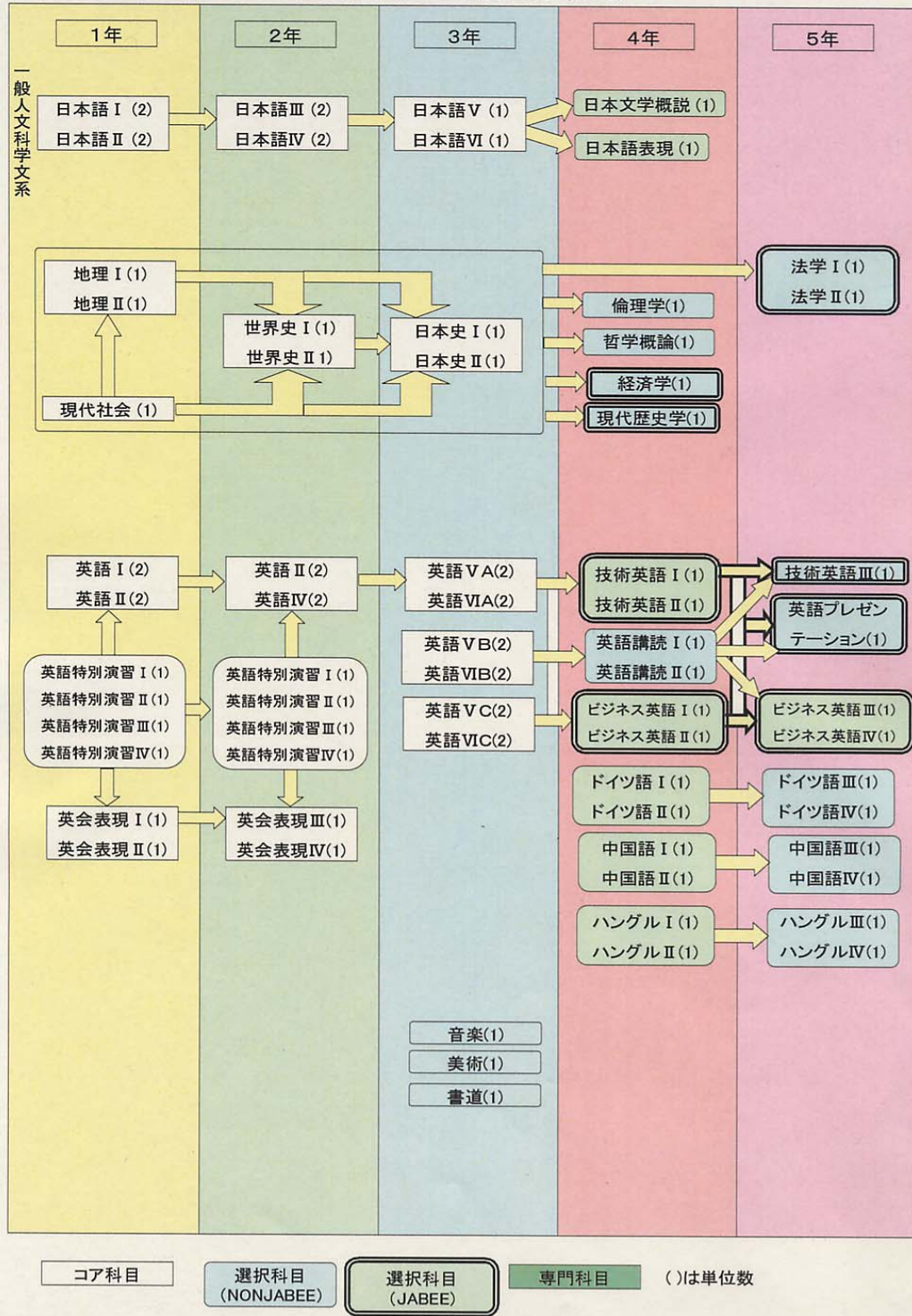
資料5-1-①-1 G

環境・建設工学科

授 業 科 目	単位数	学 年 配 当					コ ア 科 目		JABEE 科目	学修 単位数	教育 目標 番号	備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	環 境 工 学 コ	建 設 工 学 コ				
基礎情報処理	1						○	○			3	一般科目75単位以上かつ専門科目82単位以上を含む合計167単位の修得を卒業要件とする。
環境・建設	1	1					○	○			1	
土木製図	1	1					○	○			3	
地球科学	1		1				○	○			1	
測量実習	1		2				○	○			3	
測量実習	2		2				○	○			2,3	
測量実習	2		2				○	○			3	
情報処理演習	1			1			○	○			3	
建設材料学	1			1			○	○			1	
建設材料学	2			1			○	○			1	
構造力学	2			2			○	○			1	
構造力学	2			2			○	○			1	
土木力学	2			2			○	○			1	
土木力学	2			2			○	○			1	
土木力学	3			1			○	○	T(B3)	○	1	
土木力学	4			1			○	○	T(B3)	○	1	
土木力学	3			1			○	○	T(B3)	○	1	
土木力学	4			1			○	○	T(B3)	○	1	
土木力学	1			1			○	○	T(B1)	○	3	
構造力学	2			2			○	○	T(B4),N	○	1	
コンクリート工学	1			1			○	○	T(B3)	○	1	
コンクリート工学	1			1			○	○	T(B3)	○	1	
応用材料学	1			1			○	○	T	○	3	
応用材料学	3			3			○	○	T	○	2	
土木工学	3			3			○	○	T	○	2	
土木工学	2			2			○	○	T	○	2	
環境・建設工学演習	1			1			○	○			1,2	
衛生工学	1			1			○	○	T	○	1	
衛生工学	2			1			○	○	T	○	1	
建設都市計画	1			1			○	○	T	○	1,4	
建設都市計画	2			1			○	○	T	○	1,4	
環境工学	1			1			○	○	T	○	4	
環境工学	1			1			○	○	T	○	1,4	
応用物理学	1			1					N	○	G4	
応用物理学	1			1					N	○	G4	
応用物理学	1			1					N	○	G4	
応用物理学	1			1					N	○	G4	
情報処理	1			1					T(B2)	○	3	
情報処理	1			1					T	○	1,4	
応用材料学	2			1					T	○	3	
コンクリート工学	1			1			○	○	T(B3)	○	1	
コンクリート工学	4			1			○	○	T(B3)	○	1	
コンクリート工学	1			1			○	○	T(B1)	○	1	
土木工学	2			2			○	○	T(B1),N	○	1	
土木工学	3			3			○	○	T	○	2	
土木工学	1			1			○	○	T	○	4	
土木工学	1			1			○	○	T	○	1	
土木工学	1			1			○	○	T	○	4	
土木工学	1			1			○	○	T	○	4	
土木工学	1			1			○	○	T	○	4	
土木工学	1			1			○	○	T	○	1,4	
土木工学	1			1			○	○	T	○	1,4	
土木工学	1			1			○	○	T(B2)	○	4	
土木工学	1			1			○	○	T	○	4	
土木工学	1			1					N	○	1	
土木工学	1			1					T(B1)	○	2,3	
土木工学	1			1					T(B1)	○	2,3	
土木工学	2			2					T(B1)	○	2,3	
土木工学	2			2					T(B1)	○	2,3	
土木工学	1			1					N	○	G4	
土木工学	1			1					N	○	G4	
土木工学	1			1					N	○	G4	
土木工学	1			1					N	○	G4	
土木工学	1			1					N	○	G4	
土木工学	1			1					T(B5)	○	G2	
土木工学	1			1					T(B5)	○	G2	
土木工学	1			1					T(B1)	○	4	
土木工学	1			1					T(B5)	○	G2	
土木工学	12				12		○	○	T	○	2,4	
土木工学	1			1					T	○	2,4	
土木工学	1	1							T	○	2	
土木工学	1		1						T	○	2	
土木工学	1		1						T	○	2	
土木工学	2		1	1					T	○	1	
開設単位合計	111	4	10	18	33	46						

資料5-1-①-2 A

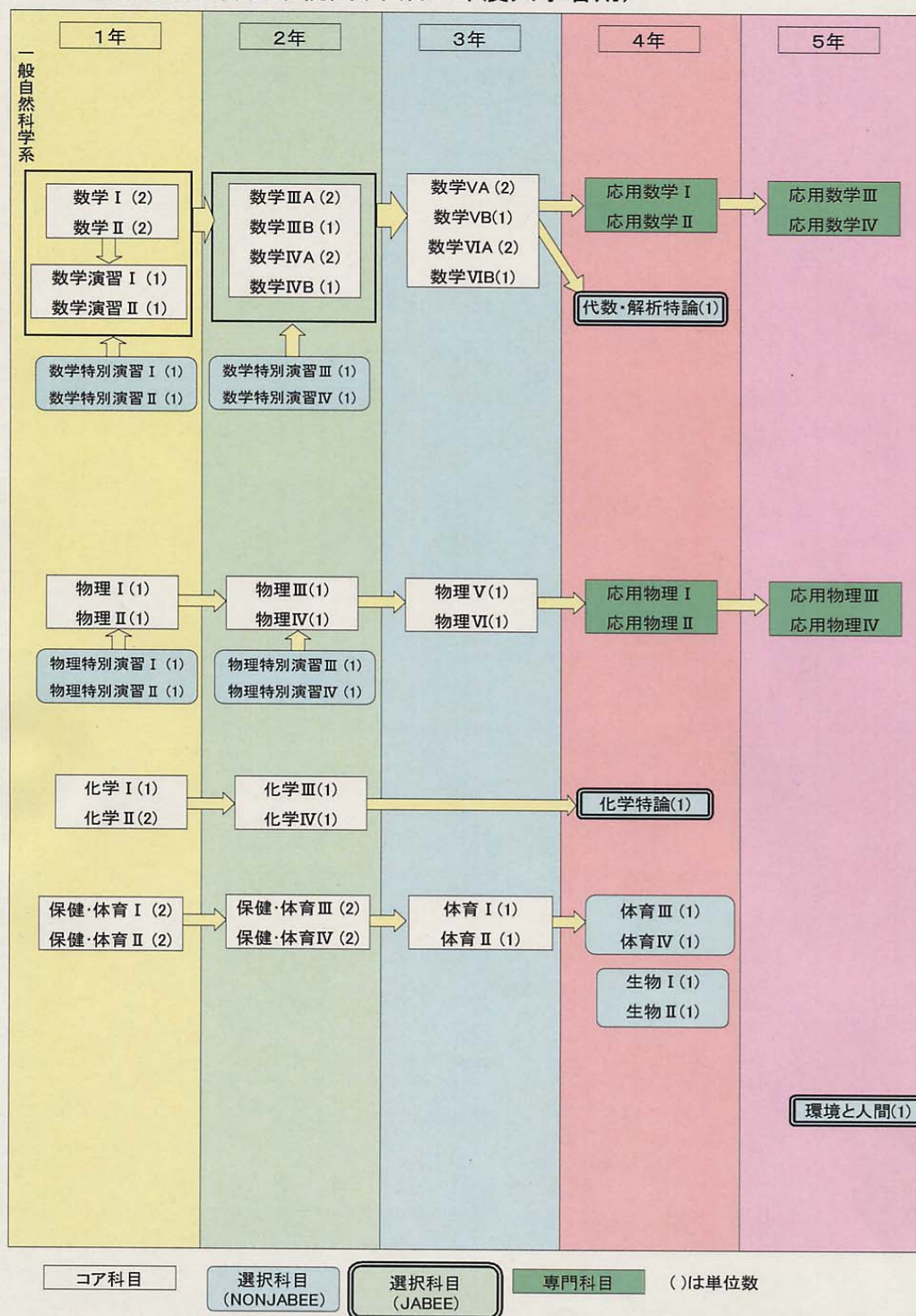
一般科目授業科目系統図(平成16年度入学者用)



(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料 5-1-①-2 B

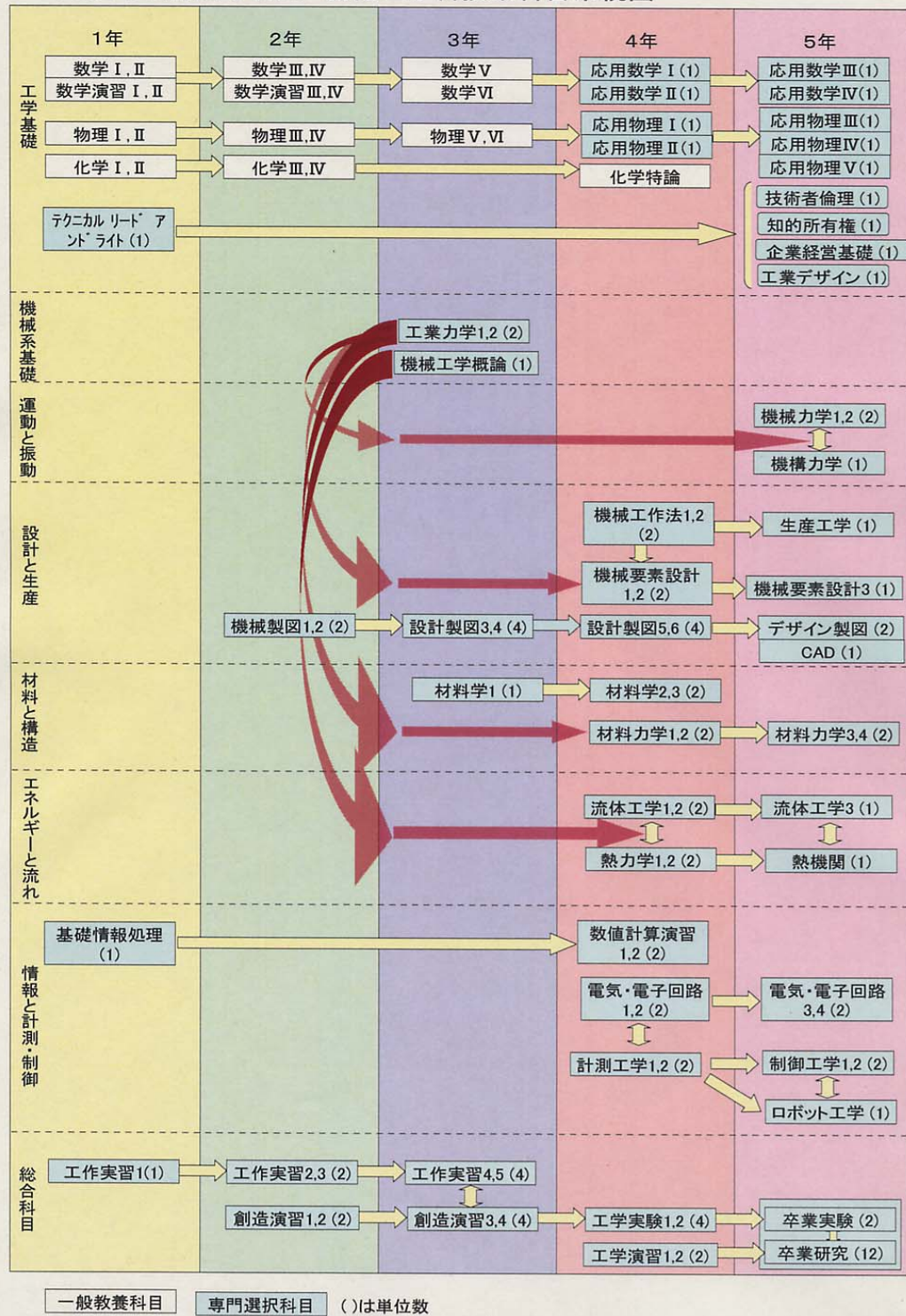
一般科目授業科目系統図(平成16年度入学者用)



(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料5-1-①-2 C

平成16年度入学者用 機械工学科授業科目系統図



(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料5-1-①-2 D

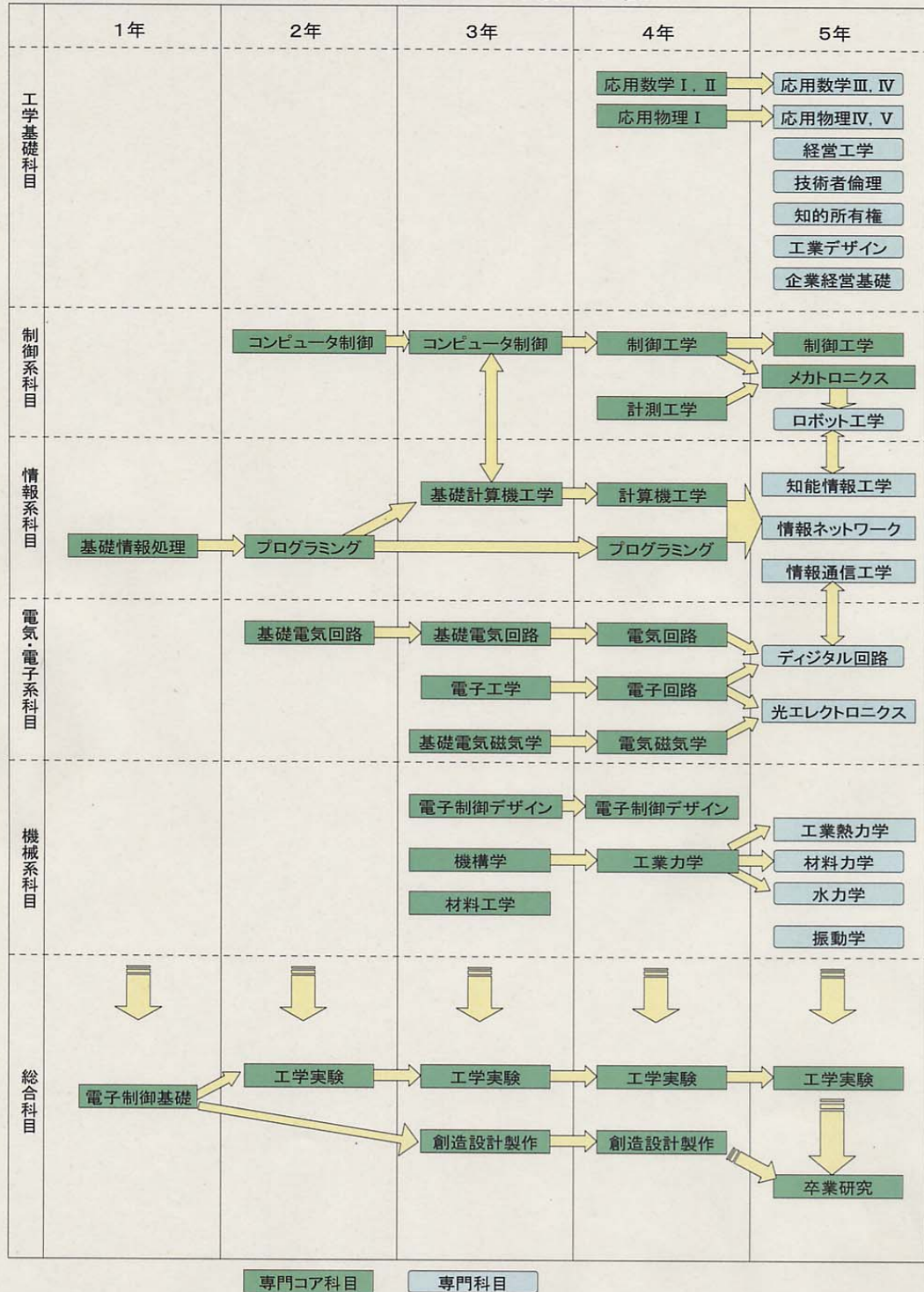
電気工学科授業科目系統図(平成16年度入学者用)



(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料5-1-①-2 E

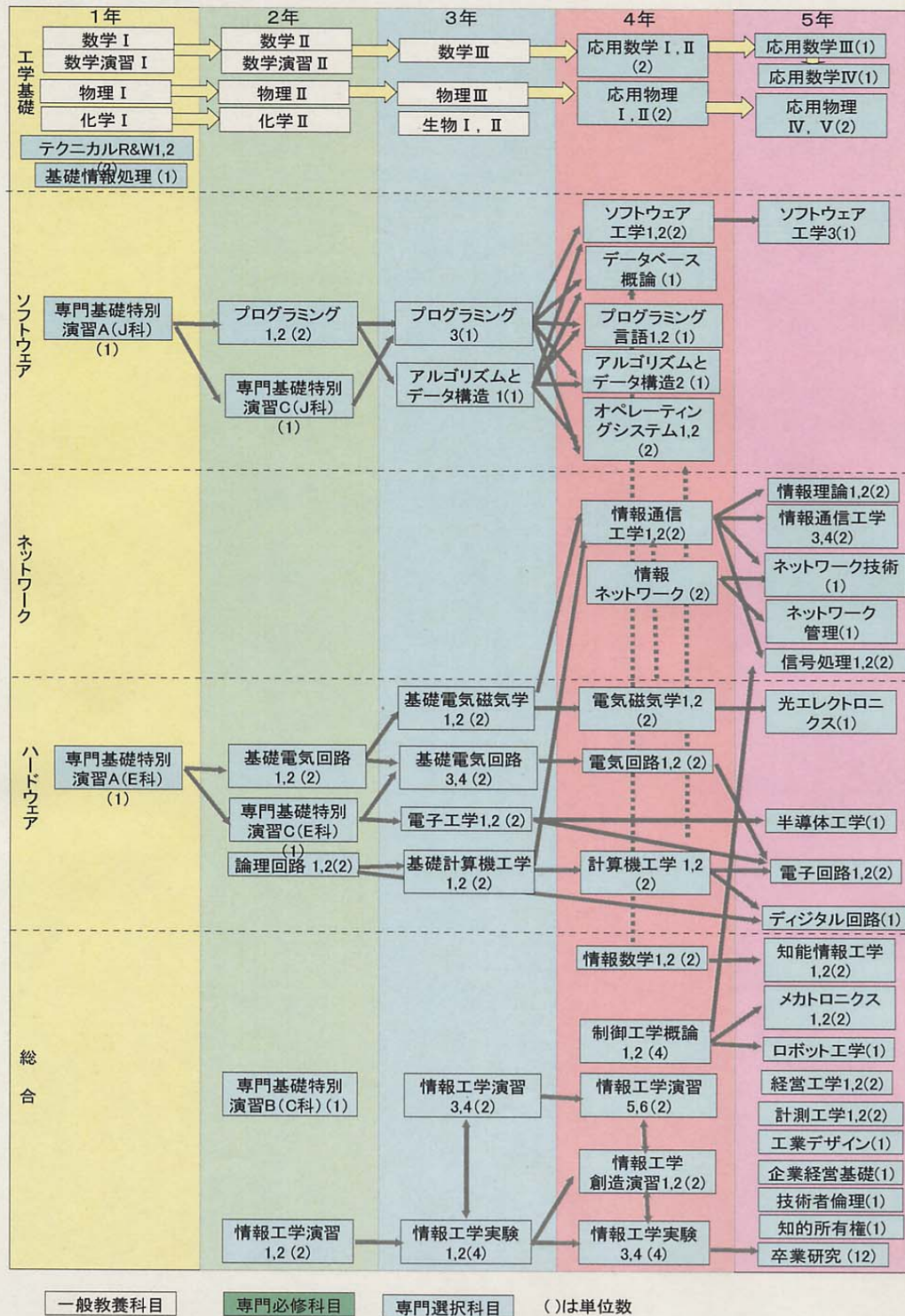
電子制御工学科授業科目系統図(H16年度入学者)



(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料5-1-①-2 F

情報工学科授業科目系統図(平成16年度入学者)

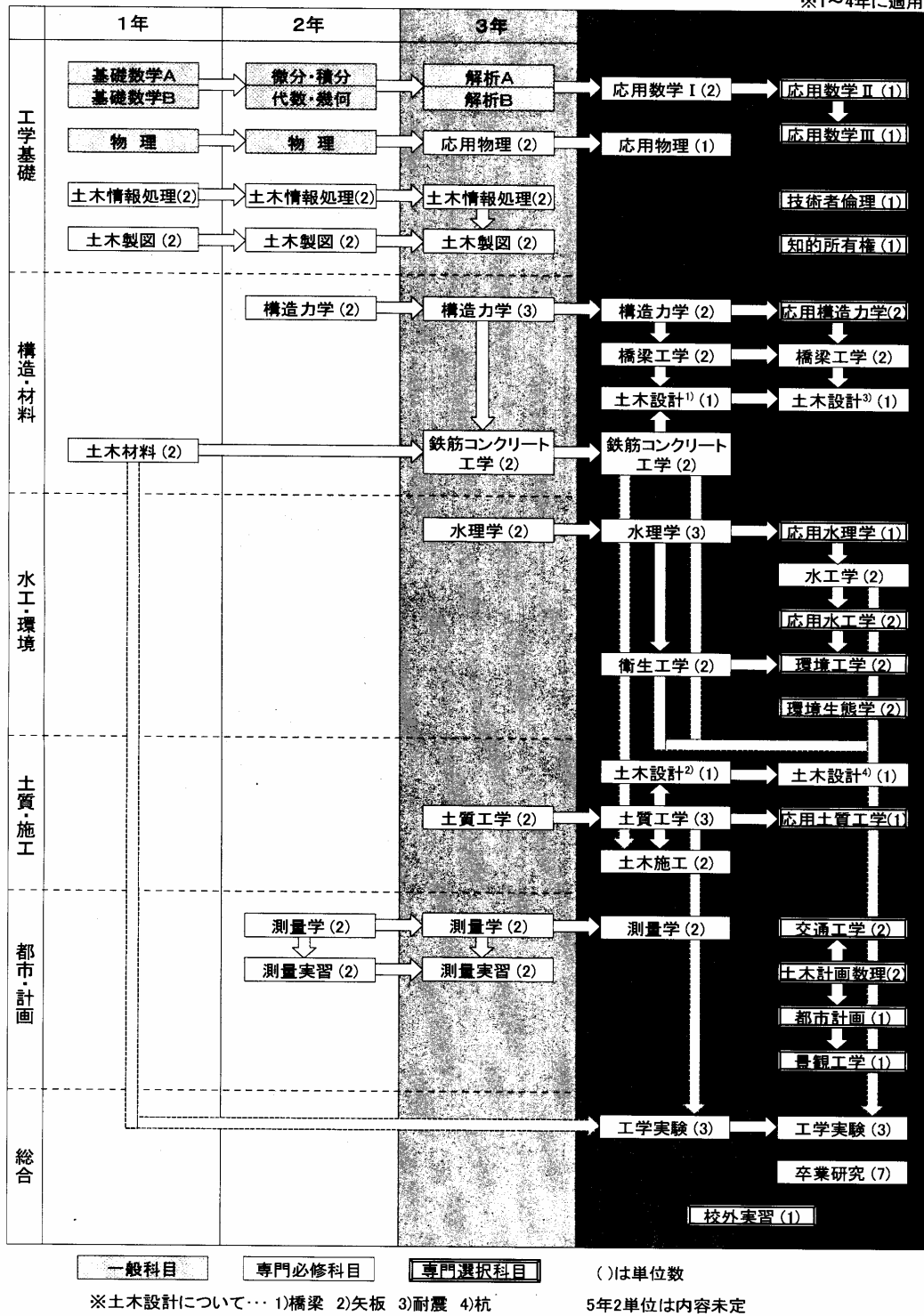


(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料5-1-①-2 G

環境・建設工学科専門科目授業系統図(平成16年度入学者)

※1~4年に適用



(出典 学生課作成資料 教員・学生配付)

資料 5 - 1 - ① - 3 A

授業科目名	基礎電気回路 I	科目コード	ES150
科目区分	専門科目・選択	履修年次・学期	2006・E2・前期
単位数	1	オフィスアワー	火曜日を除く放課後
担当教員名	福岡 眞澄	授業点検教員名	別府 俊幸
学習・教育目標との対応	<p>I. 電気・電子機器を扱うための基礎知識がある。</p> <p>電気回路は電気工学の基礎科目の一つであり、電力工学、電子工学、通信工学、情報工学、制御工学、電気電子材料等の分野を学習していく上で、必要不可欠な教科である。本講義では、電気電子工学に関連する専門科目の基礎となる電気回路の概念や解析法について解説する。電気・電子系の技術者に求められる能力の一つに回路設計がある。この回路設計を行うには、まず、回路の解析ができることが必要である。回路の解析とは、与えられた回路の各所の電流、電圧を計算できることである。与えられた回路の電圧や電流がどのようになるかが解析できないようでは回路設計は到底できない。この授業では直流回路に限定して回路解析について講義を行う。</p> <p>(1) 直流の電気回路 (直流回路) で使われる用語の説明ができる。(例：電源、抵抗、回路、電流、電圧、合成抵抗など)。 (2) (電流が単数の場合) 直流回路の単並列回路の解析ができる。 (3) (電流が複数の場合) 直流回路の回路網の解析ができる。 (4) 電流が複数の回路に含まれるやや複雑な回路における回路解析ができる。この回路解析には、キルヒホッフ、テブナンの定理が使いこなせることが卒業の条件である。</p> <p>到達目標 (1) と (2) について中間試験で、(3) および (4) について期末試験で評価する。成績は「テスト=80% (中間 40%、期末 40%)、レポート=20%の割合」で評価する。</p>		
到達目標	<p>ただし、レポートの未提出が一つでもあれば、試験成績とは無関係に不合格とします。これは、3年以下の場合には、年度の勉強習慣を身に養うてもらうことも大切と考えられているためです (Process 重視)。</p>		
成績評価方法・評価基準	<p>「電気回路の基礎 第2版」西巻正郎、森 武昭、荒井俊彦共著、森田出版</p> <p>(学習) 学習の必要はありません。(復習)に重点を置いて学習が大切です。 (授業中) 授業中は、電卓を使用します。必ず関数電卓を用意してください。また、回路を描くための定規も用意ください。レポートとして、出題した章末問題の疑問点があれば解説しますので質問してください。(授業中は、各項目の解説が早めに終わった場合には、演習として教科書の章末の演習問題を実施します) (復習) 中間試験、期末試験では教科書章末の問題を出題します。そして、課題として、各章の読解が終了した場合にレポート提出を義務付けています。この章末の問題を何度も解くという復習を行ってください。中間、期末試験で出題される問題のレベルが章末の問題ですから章末の問題が理解できなければ必ず合格点が取れません。</p>		
教科書 (参考書)	<p>但し書きがない場合は教科書とします。 教科書と共に参考書を用いるときは、 教科書：*** 参考書：*** 参考書のみでも構いません。</p>		
学修の手引き	<p>その他： 各自必要と認められる情報を記入する 例えば、特に事項・学修の手引きなどを記入する タイトル欄を「その他」から「学修の手引き」と変更してもよい。</p>		

記入欄について
 * フォント→明朝体、サイズ→10.5pt
 * 英数字→半角
 * 必要に応じて下線や()、強調文字を利用してください

* 1~3年生の科目および nonJABEE 科目は空欄

合格できる最低ラインを明示する。
 例の表記では、4つの到達目標についてそれぞれに達成することを求めているのではなく、試験及びレポートの点が6.0(5.0)点に達すれば合格することを意味する。

3年以下の講義科目は、出席数について言及しない(2/3以上出席は原則)。
 3年以下の実験実習などで2/3以上の出席を要求する科目は明記する。

1~3年生の科目および nonJABEE 科目は学科教育目標を記入する

この科目を履修すれば、どのような力が身に付くのかを見えるように要約する。関連する科目があれば言及する。
 JABEE 科目 (専攻科を含む) については、科目の履修が社会の要請する水準、または国際的な相互認識以上の水準にあることを必ず言及する。

具体的にこの科目 (に合格すると) 身に付く力を箇条書きにする。

但し書きがない場合は教科書とします。
 教科書と共に参考書を用いるときは、
 教科書：***
 参考書：***
 参考書のみでも構いません。

その他：
 各自必要と認められる情報を記入する
 例えば、特に事項・学修の手引きなどを記入する
 タイトル欄を「その他」から「学修の手引き」と変更してもよい。

資料 5 - 1 - ① - 3 B

授業計画・内容	
第1回	講義ガイダンス・電気回路と基礎電気量 (1 章) 電気回路で用いる用語の説明を行う。オームの法則を解説する。
第2回	直流回路の基本 (3 章) 直列回路の電流、電圧、抵抗についての説明とオームの法則を解説する。
第3回	直流回路の基本 (3 章) 直列回路の電流、電圧、合成抵抗の計算を行う。
第4回	直流回路の基本 (3 章) 直並列回路について電流、電圧、合成抵抗の計算を行う。
第5回	直流回路網 (4 章) 直並列回路について電流、電圧、合成抵抗の計算を行う。
第6回	直流回路網 (4 章) 直並列回路について電流、電圧、合成抵抗の計算を行う。
第7回	中間試験 (電圧が単独の場合) 直並列回路の解析ができるかを試験する。
第8回	直流回路網の基本定理 (5 章) キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理について説明する。
第9回	直流回路網の基本定理 (5 章) キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理について説明する。
第10回	直流回路網の基本定理 (5 章) キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理について説明する。
第11回	直流回路網の超定理 (6 章) ノースマンの定理についての説明を行う。
第12回	直流回路網の超定理 (6 章) ノースマンの定理についての説明を行う。
第13回	直流回路網の超定理 (6 章) キルヒホッフの法則とノースマンの定理の比較
第14回	直流回路網の超定理 (6 章) 直流回路網に関する諸定理に関する演習
第15回	前期期末試験 (電圧が複数の場合) 直流の回路網の解析ができるかを試験する。
第16回	期末試験の解答・演習 期末試験の解答もしくはこの科目のレビュー、演習

* 単位は16回の計画とする
* 実験科目および期末試験を免除しない科目は15回の計画とする。

校外実習など16回の計画に乗らない科目は、適宜、欄を変更して記入する。

(出典 教務委員会)

資料5-1-①-4 A

印刷は事務用紙 18x10 25.52 版 No.1

平成18年度前期教員別時間割表

松江工業高等専門学校

日	教 学										課 外									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
火	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
木	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
金	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

(出典 学生課 作成資料)

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

「他の高等専門学校での修得単位等の認定並びに高等専門学校以外の教育施設等における学修等の単位認定及び単位認定申請」及び「校外実習に係る単位認定及び単位認定申請」については、「学業成績評価並びに課程修了及び卒業認定等に関する規則」（資料5-1-②-1）に規定している。

各科目について，授業案内（シラバス）にその内容が明記されている。カリキュラムは，中学校の学習過程の変更を配慮し，高専1学年における専門科目の一部を2学年以降に移行し，その分，数学などの基礎科目の演習を充填させている。また4，5学年はJABEE対応のプログラムへの配慮を加えている。

（各学科ごとの詳しい特徴は，資料「自己点検・自己評価書」参照）

（分析結果とその根拠理由）

学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応したカリキュラムを有していると考えられる。学生へ多様な科目を提供することで自主性や意欲を生み出せるよう，学科間で協力し合い専門科目のいくつかは学科横断的に開設されている。また，インターンシップや各種資格試験も積極的に勧め，単位認定もしている。中学校の指導要領の変更に対応して，下級生では数学・英語・物理に特別演習を入れるなど，基礎学力の充実に努めている。

資料 5-1-②-1

学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する規則

平成 4 年 4 月 1 日 制 定
平成 1 7 年 4 月 1 日 最終改正

(趣旨)

第 1 条 この規則は、松江工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 1 4 条第 2 項の規定に基づき、学業成績の評価並びに課程修了及び卒業の認定等について、必要な事項を定める。

(授業科目の履修)

第 2 条 単位を修得しようとする授業科目（校外実習及び学則第 1 3 条の 3 第 1 項の文部科学大臣が定める学修等（以下「特別学修」という。）は除く。以下同じ。）は、履修しなければならない。

2 履修を希望する授業科目については、履修届（様式 1 号）を所定の期日までに当該学級担任及びアドバイザー（以下「学級担任等」という。）を経て、学生課教務係に提出しなければならない。

3 同時に複数の授業科目が開講される場合、履修できる科目は 1 科目とする。

(授業科目履修の特例)

第 3 条 第 5 学年においては第 4 学年の授業科目を履修することができる。

(学業成績の評価)

第 4 条 学業成績は、授業科目ごとに試験の成績及び平素の学習状況を総合して評価する。ただし、授業科目によっては試験の全部又は一部を実施せず、平素の学習状況によって、学業成績を評価することがある。

2 学業成績の評価は、各学期ごとに行いこれを学期成績とし、学年末に総合して学年成績とする。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期成績を学年成績とする。

3 特別学修の単位を認定した場合の評価は、「優」とする。

4 校外実習の単位を認定した場合の評価については、校外実習報告書、校外実習証明書及び校外実習報告会等に基づき評価を行う。

第 5 条 第 1 学年から第 3 学年においては、履修届が受理された各授業科目について、授業時数の 3 分の 2 以上の出席をもって、その授業科目を履修したものと認定する。この場合、遅刻及び早退の扱いについては、3 回をもって欠課（授業時間を欠いた場合をいう。以下同じ。）1 単位時間に算定する。

2 第 1 学年から第 3 学年においては、授業科目の欠課時数が、病気療養その他やむを得ない理由により、授業時数の 3 分の 1 を超えた場合には、教務委員会の議を経て履修を認定することがある。

第 6 条 学業成績は、100 点を満点として評価するものとし、第 1 学年から第 3 学年においては 50 点以上を合格、50 点未満を不合格、第 4 学年及び第 5 学年においては 60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。

2 合格した授業科目については、その単位の修得を認める。

(学業成績の記録及び証明書等)

第 7 条 学生指導要録に記録する学業成績は、学年成績とする。

第 8 条 成績証明書、調査書及び成績通知票等に記載する学業成績は、原則として次の評語とする。

第 1 学年～第 3 学年

成績評価	評 語
100 点 ～ 80 点	優
79 点 ～ 60 点	良
59 点 ～ 50 点	可
49 点 ～ 0 点	不可

第 4 学年・第 5 学年

成績評価	評 語
100 点 ～ 80 点	優
79 点 ～ 70 点	良
69 点 ～ 60 点	可
59 点 ～ 0 点	不可

(学業成績の通知)

第9条 学業成績は、学期末ごとに保護者に通知する。

2 前項の成績通知は、当該学期の成績並びに入学後の一般科目及び専門科目の修得累計単位数とする。

(試験)

第10条 試験は、学期末ごとに実施する。ただし、必要があるときは、学期の中途に中間試験を実施する。

(追試験)

第11条 追試験は、傷病その他やむを得ない理由により試験を受けられなかった者について、実施することがある。

2 追試験を受けようとする者は、所定の手続きを経なければならない。

(再試験)

第12条 再試験は、定期試験又は中間試験の成績が良好でない者について、必要に応じて実施することがある。

(不正行為者等に対する措置)

第13条 試験中不正行為を行った者は、当該授業科目の学年成績を不合格とする。

(課程修了の認定)

第14条 各学年における課程修了の認定は、教務委員会の議を経て校長が行う。

2 課程修了の認定は、次の各号の全てに該当する者について行う。

一 第1学年から第3学年においては、特別活動の出席状況が良好（授業時数の3分の2以上の出席）であり、かつ履修状況が良好な者

二 当該学年までの修得累計単位数が次の基準を満たしていること。

① 第1学年においては修得累計単位数が24単位以上であること。

② 第2学年においては修得累計単位数が58単位以上であること。

③ 第3学年においては修得累計単位数が94単位以上であること。

④ 第4学年においては修得累計単位数が129単位以上であること。

(原級留置)

第15条 学年の課程修了が認定されない者は、原級留置とする。

第16条 第1学年から第3学年においては、同一学年に在学できる期間は、休学の期間を除き2年を超えることができない。

(原級留置者の履修)

第17条 原級留置者においては、原学年で修得を認められた科目を再履修することができる。この場合、前年度の成績は、無効となる。

2 第1学年から第3学年までに留められた者においては、特別活動を再履修しなければならない。

3 第4学年に留められた者においては、第5学年の授業科目を履修することができる。

(追認試験)

第18条 追認試験は、不合格の授業科目を有したまま進級した者について、実施することがある。

2 追認試験は、原則として翌年度前期中に実施する。

3 追認試験を受けようとする者は、所定の手続きを経なければならない。

(休学・復学した場合の成績評価)

第19条 学年の途中で休学し、復学後同一学期を学期の始めから再び履修した者の学業成績は、復学後の学業成績をもって評価する。

2 前項において、復学の時期が学期の中途であるときは、教務委員会の議を経て復学後の学業成績に休学前の学業成績を考慮することができる。

第20条 第1学年から第3学年においては、学期の途中で休学し、復学後同一学年を学期の始めから再び履修した者の出席時数は、復学後の出席時数をもって計算する。

2 前項において、復学の時期が学期の中途であるときは、休学前に出席した期間から復学後に重複して出席した期間を除いた期間における出席時数と復学後の出席時数との和とする。

(他の高等専門学校での修得単位等の認定並びに高等専門学校以外の教育施設等における学修等の単位認定及び単位認定申請)

第21条 学則第13条の2に規定する修得単位及び同第13条の3に規定する学修について、本校における履修により修得したものとみなす授業科目及びその単位数の認定は、教務委員会の議を経て校長が行う。

2 特別学修の単位の認定は、別表1のとおりとする。

3 校長は、本校在学中に別表1の資格を取得し単位認定を申請した者（以下「資格取得に伴う単位認定申請者」という。）には、教務委員会の議を経て同表に定める単位を認定するものとする。

4 資格取得に伴う単位認定申請者は、当該年度学年成績提出締切日までに当該学級担任等及び当該学科長を経て資格取得単位認定願（様式2号）を校長に提出するものとする。なお、資格取得単位認定願については、合格証または認定証の写しを添付しなければならない。

5 校長は、前項の申請に基づき単位を認定した場合は、資格取得に伴う単位認定申請者に対し資格取得単位認定通知書（様式3号）を交付するものとする。

6 校長は、第3項により単位を認定した場合は、当該学級担任等及び当該学科長に対し資格取得単位認定者一覧（様式4号）により通知するものとする。

（校外実習に係る単位認定及び単位認定申請）

第21条の2 校外実習に係る開設単位数は、学則第13条第2項の別表第2のとおりとする。

2 校長は、校外実習を履修し単位認定を申請した者（以下「校外実習に伴う単位認定申請者」という。）には、教務委員会の議を経て前項別表2に定める単位を認定するものとする。

3 校外実習に伴う単位認定申請者は、当該年度11月末日までに当該アドバイザー及び当該学科長を経て校外実習単位認定願（様式5号）を校長に提出するものとする。なお、校外実習単位認定願については校外実習報告書（様式6号）及び校外実習証明書（様式は任意）を添付しなければならない。

4 校長は、前項の申請に基づき単位を認定した場合は、校外実習に伴う単位認定申請者に対し校外実習単位認定通知書（様式7号）を交付するものとする。

5 校長は、第2項により単位を認定した場合は、当該アドバイザー及び当該学科長に対し校外実習単位取得者一覧（様式8号）により通知するものとする。

（卒業の認定）

第22条 卒業の認定は、教員会議の議を経て校長が行う。

2 卒業の認定は、第5学年において修得累計単位数が167単位以上（そのうち、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）の者について行う。

（雑則）

第23条 この規則の実施について必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。

2 この規則の施行前に在学している者については、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 この規則第13条の規定により原級留置となった者で、平成15年度入学者と同一の学年となった者は、当該学年に係る「学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する規則（平成15年度以降の入学者用）」を適用する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

別表1
特別学修

区分	資格名	科目名	認定学年	単位数
一般科目	漢字能力検定準2級	特別学修(漢字)	1~5	1
	〃 2級		1~5	2
	〃 準1級		1~5	3
	〃 1級		1~5	4
	実用英語技能検 2級	特別学修(実用英語)	1~5	1
	〃 準1級		1~5	2
	〃 1級		1~5	3
	T O E I C 350点	特別学修(国際英語)	1~5	1
	〃 400点		1~5	2
	〃 600点		1~5	3
	〃 800点		1~5	4
	ドイツ語技能検定 2級	特別学修(ドイツ語)	1~5	1
	〃 1級		1~5	3
	中国語検定 2級	特別学修(中国語)	1~5	1
	〃 準1級		1~5	2
	〃 1級		1~5	3
ハングル能力検定 2級	特別学修(ハングル)	1~5	1	
〃 準1級		1~5	2	
〃 1級		1~5	3	
海外の大学等における語学プログラム	特別学修(海外実習語学)	1~5	2	
専門科目	技 術 士 補	特別学修(技術士補)	1~5	4
	乙種危険物取扱者(第1~6類全て合格)	特別学修(危険物取扱)	1~5	1
	機 械 設 計 技 術 士 3 級	特別学修(機械設計)	1~5	1
	エネルギー管理士(熱管理士又は電気管理士)	特別学修(エネルギー管理)	1~5	1
	第3種電気主任技術者(2科目合格)	特別学修(電験)	1~5	1
	第3種 〃		1~5	2
	第2種 〃 (2科目合格)		1~5	3
	第2種 〃		1~5	4
	第2種陸上無線技術士	特別学修(陸上無線)	1~5	1
	第1種 〃		1~5	2
	第1種電気工事士	特別学修(電気工事)	1~5	1
	基本情報技術者	特別学修(情報処理)	1~5	1
	ソフトウェア開発技術者		1~5	2
	テクニカルエンジニア(ネットワーク)	特別学修(ネットワーク)	1~5	2
	〃 (データベース)	特別学修(データベース)	1~5	2
	初級システムアドミニストレーター	特別学修(シスアド)	1~5	1
	電気通信主任技術者2種	特別学修(電気通信)	1~5	1
	〃 1種		1~5	2
	工事担任者(アナログ第2種)	特別学修(アナログ工事)	1~5	1
	〃 (アナログ第1種)		1~5	2
	〃 (デジタル第2種)		1~5	1
	〃 (デジタル第1種)		1~5	2
	測 量 士 補	特別学修(測量)	1~5	1
	測 量 士		1~5	4
	CAD利用技術者補(2級)	特別学修(CAD)	1~5	1
	CAD利用技術者(1級)		1~5	2
	2級土木施工管理技士	特別学修(土木施工)	5	1
	環 境 計 量 士	特別学修(環境計量)	1~5	4
	公 害 防 止 管 理 者	特別学修(公害防止管理)	1~5	2
	環 境 管 理 士	特別学修(環境管理)	3~5	1
ビオトープ施工管理士2級	特別学修(ビオトープ施工)	1~5	1	
ビオトープ計画管理士2級	特別学修(ビオトープ計画)	1~5	1	
CG(エンジニア又はクリエイター又はマルチメディア)検定3級	特別学修(CG)	1~5	1	
〃 2級		1~5	2	
CG(エンジニア又はクリエイター)検定1級		1~5	3	

※ 既に特別学修の単位を認定された学生が更に上位の等級の技能審査に合格した場合は、当該上位の等級の単位数と既に認定された単位数との差を修得単位として認定する。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

各科目の授業形態は、シラバスに明示されている。原則的に講義科目では授業及び演習によって、授業科目の目標を実現している。講義・演習科目と実験・実習科目はバランスよく配置できており、講義室での演習では学習できない事柄については実験・実習により実体験を通じて取得できるようになっている。

専門科目における講義・演習・実験実習の各授業形態別の単位数の配分は、資料5-2-①-1や資料5-2-①-2に示すとおり演習・実験実習に十分な量を確保している。下級生では一般科目の数学・英語・物理などで「特別演習」科目も配置し、基礎学力の向上に努めている。また、数学や英語では習熟度別学級編成をし、きめの細かい学習指導をしている。

また、教育内容に応じて様々な学習指導方法の工夫も行っている。1学年の専門科目は全ての学科が複数名の教員が担当し、学生個人と密度の濃い関わりを持つことで専門の勉強への意欲を喚起している。また、数名のグループ編成で3～5名の教員の指導下で実施する、電子制御工学科の「ミニロボコン（科目名：創造設計製作）」、情報工学科の「ミニプロコン（科目名：情報工学演習）」、環境・建設工学科の「ブリッジコンテスト（科目名：専門基礎特別演習）」などがある。1学年の「基礎情報処理」は全学科共通の専門科目とし、授業は混成学級の編成で行っている。ここで学ぶ情報リテラシーがベースとなり、上級生での情報機器を利用した科目の学習に役立っている。環境・建設工学科では、本校の所在地である松江市の市街地や周辺へ出かけ、水環境調査あるいは景観の写真撮影をするなどのフィールド型授業にも取り組んでいる。

（分析結果とその根拠理由）

教育目標に沿ったカリキュラムが編成され、各科目ごとにその目的およびふさわしい授業形態が考慮されている。講義、演習、実験、実習等の授業形態はバランスよく配置されており、またそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされていると考える。

資料5-2-①-1

	講義（単位）	演習（単位）	実験・実習（単位）
1学年	3	1	
2学年	4	3	2
3学年	13		5
4学年	19	1	6
5学年	26		13

（出典 電子制御工学科 作成資料）

資料5-2-①-2

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	合計
講義	1	2	12	19	27	61
演習	2	2	1	1	7	13
実験・実習	0	4	4	10	15	33
合計	3	8	17	30	49	107

(出典 環境・建設工学科 作成資料)

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

本校のシラバス（前掲 資料5-1-①-3）には、教育課程の編成趣旨に沿って表面に項目として「授業科目名」、「科目区分」、「履修年次・学期」、「単位数」、「オフィスアワー」、「担当教員名」、「授業点検教員名」、「学習・教育目標との対応」、「JABEE科目区分」、「授業概要」、「到達目標」、「成績評価方法・評価基準」、「教科書（参考書）」欄を設けるとともに、「その他」の欄に担当教員からのメッセージ（学習の仕方、予習や復習の仕方など）を記載できるようになっている。裏面には、第1回～16回の授業計画・内容欄を設けている。

学生はLearning Handbookにシラバスを綴じ込み、常に持参しているよう指導している。また、本校ホームページに学科ごとの授業科目一覧に並列する形で、学生がいつでも閲覧できるように掲載している。（資料5-2-②-1）また、科目担当教員は、授業ガイダンスを通じてシラバス記載内容を学生に周知している。学期末の学生による授業アンケートだけでなく、授業時間ごとにクラスの学習態度や理解度及び教員の教授方法について、3段階評価することとし、その結果が教員の資質向上及び授業方法改善に繋がるシステムとしている。（資料5-2-②-2）

(分析結果とその根拠理由)

本校のシラバスは、教育課程の編成趣旨に沿って、授業概要、到達目標、成績評価方法・評価基準等を明記するとともに、JABEE基準対応、担当教員以外の者の点検、学生自身の学習態度や理解度改善、教員の教授方法改善に繋がることを留意したうえで毎年作成している。したがってシラバスを活用するシステムは十分に整備されている。

資料 5 - 2 - ② - 1

電気工学科 ホームページ 1/1 ページ

Web シラバス 2005

左のメニューから学科を選択してください。

検索ブラウザ: Internet Explorer 5 以上 (Netscape の旧バージョンは表示が崩れる可能性があります)

ブラウザの推奨サイズ: 1024 x 768 (全画面表示)

文字コード: 日本語(EUC)

必須ツール: Adobe Acrobat Reader (シラバス), ガリキュラム表の参照と印刷に必要) Microsoft Word (シラバスの参照・編集に必要 -- 登録者向け)

シラバス内容について

2002年度版シラバス
2003年度版シラバス
2004年度版シラバス

http://www.matsue-ct.ac.jp/ee/index.htm 2006/04/18

(出典 松江工業高等専門学校 HP)

資料 5 - 2 - ② - 2

学生によるFDチェックシート (平成 年 月 日 ~ 月 日)

●FDチェックシート記入のお願い
学力向上には、教員によるFD(授業内容・方法の改善)推進と、学生の主体的な学習が不可欠です。松江高専では積極的にFD推進を行っていますが、学生による日々の授業評価を教員のFDに活用したいと思しますので記入への協力をお願いします。また、授業評価と同時に、クラス全体が主体的に学習に取り組んでいたが評価し、今後の取組みに役立ててください。

●記入の仕方
日直は授業終了後、「時間」が守られているか、「授業内容」・「板書・資料」・「話し方」が分かりやすかったか、クラス全体の授業の取組みが熱心であったかについて評価し、該当欄に○を入れて下さい。また、必要に応じてコメント欄にコメントを記入して下さい。

年	クラス	開始時間	授業終了	授業内容(板書・資料)	話し方	学生の取組	コメント		
1	1・2・3・4・5	1時開始	1分前	1分前	1分前	1分前	1分前		
2	M・E・D・J・C	2時開始	2分前	2分前	2分前	2分前	2分前		
3		3時開始	3分前	3分前	3分前	3分前	3分前		
日	時間	科目名	担当教	開始時間	授業終了	授業内容(板書・資料)	話し方	学生の取組	コメント
記入例	英語II	生馬先生	中 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3						
	1-2			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	3-4			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	日 5-6			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	(月) 7-8			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	1-2			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	3-4			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	日 5-6			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	(火) 7-8			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	1-2			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	3-4			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	日 5-6			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	(水) 7-8			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	1-2			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	3-4			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	日 5-6			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	(木) 7-8			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	1-2			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	3-4			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	日 5-6			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
	(金) 7-8			1 2 3 中 1 2 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3 中 1 2 3 3					
授業時間数()H		合計欄							

※全曜日の担当者は集計欄に○の合計数を記入して下さい。

(出典 FD委員会)

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

(1) 創造性を育む教育方法

創造教育は、一概に、実験実習、創造演習、卒業研究に限定されるものではないが、ここでは創造が関係する授業として以下にその概要等を示す。しかし、実際にはこれらの範囲以外にも、学生の創造力を養う授業科目も開設している。卒業研究もこの創造教育の範疇にある。

電子制御工学科のカリキュラムの中から創造教育に関係する科目を取り出したものを示す。（資料5-2-③-1）専門科目の中でその創造教育に関係する専門科目の割合を算出すると、電子制御工学科の場合には創造教育/専門科目・単位＝38%である。学年進行で見るとその単位数の変化は、1学年＝1単位、2学年＝7単位、3学年＝9単位、4学年＝8単位、5学年＝13単位となっている。学年進行とともにその創造教育を強化している。他の学科の比率を同様に算出すると、機械工学科39%、電気工学科30%、情報工学科58%、環境・建設工学科43%となっている。準学士課程での平均は41%である。各学科の代表的な創造教育科目の様子を紹介する。（資料5-2-③-2）

本校の創造教育の成果としては、ロボットコンテストやプログラミングコンテスト全国優勝などが挙げられる。（資料5-2-③-3）また、この創造教育を支える組織として、技術室の役割が大きく、本校の技術職員により強力な支援を受けている。（資料5-2-③-4）

(2) インターンシップの活用

インターンシップについては、第4学年において「校外実習」（1単位）を実施しカリキュラムに組み込まれている。実施規則は学生ガイドブックの「学業成績評価並びに課程修了並びに卒業の認定に関する規則」で規定されている。（前掲 資料5-1-②-1）

校外実習は、開校当初から実施しており、主に卒業生の就職先、官公庁の機関・研究所、大学でのインターンシップ、ふるさと定住財団に受け入れをお願いしている。（資料5-2-③-5）5年前よりは、経済通産局が進めるインターンシップ（島根では島根県経営者協会、しまね学生職業相談室（学生ハローワーク））などにも参加している。（資料5-2-③-6）4学年の在籍学生数に対する参加学生の割合は80%以上であり、かなりの学生が参加している。

平成16年度の校外実習先の例を示す。（資料5-2-③-7）参加学生が単位認定を受けるためには、5日以上期間の校外実習を実施し、実習報告書、企業先からの校外実習証明書（実習期間、評価）を提出するとともに、校内では学科単位での校外実習報告会を実施し、成果レポート＋校外実習証明書＋報告の3点で評価を行う。

参加学生の感想等は、「学校だより」で紹介している。（資料5-2-③-8）

資料5-2-③-1



クラス全員で電子制御工学科(3年生)

授業科目	単位数	学年配当					コア科目
		1年	2年	3年	4年	5年	
コンピュータ制御1	1		1				○
コンピュータ制御2	1			1			○
コンピュータ制御3	1				1		○
プログラミング1	1		1				○
プログラミング2	1				1		○
電子制御デザイン1	1			1			○
電子制御デザイン2	1				1		○
創造設計製作1	1			1			○
創造設計製作2	1			1			○
創造設計製作3	2				2		○
工学実験1	2		2				○
工学実験2	1			1			○
工学実験3	2			2			○
工学実験4	1				1		○
工学実験5	2				2		○
工学実験6	1					1	○
卒業研究	12						12
校外実習	1				1		○
専門基礎特別演習A	1	1					
専門基礎特別演習B	1		1				
専門基礎特別演習C	1		1				
電気工事特別演習	2		1	1			
開設単位合計(人文)	84	19	18	14	21	12	
開設単位合計(数理)	43	16	14	10	2	1	
開設単位合計(人文&数理)	127	35	32	24	23	13	
開設単位合計(専門)	100	4	9	19	25	43	
創造教育単位合計	38	1	7	9	8	13	
専門科開講比率	38	25	78	47	32	30	

(出典 電子制御工学科作成資料 学生配付)

資料5-2-③-2 A



機械工学科 3年 創造演習1 (2004/10/27 産経新聞 掲載記事)

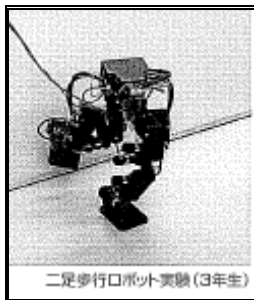
(出典 産経新聞)

資料 5 - 2 - ③ - 2 B



電気工学科・3年・電気工学実験 2

情報工学科・3年・情報工学創造演習 1, 2



電子制御工学科 5年 コンピュータ制御実験

環境・建設工学科 4年 衛生実験, 水理構造実験

(出典 学生課 作成資料)

資料 5 - 2 - ③ - 3

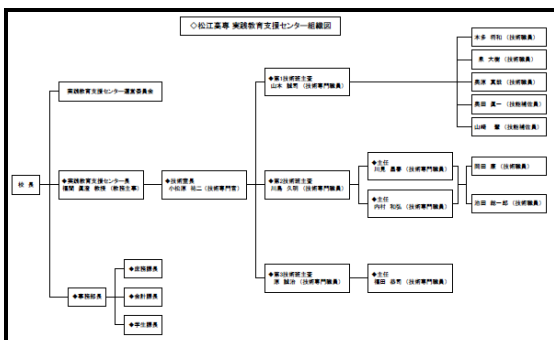


電気工学科 ロボコン全国優勝 (H16)

情報工学科 プロコン全国優勝 (H15, 16) 準優勝 (H17)

(出典 学生課 作成資料)

資料 5 - 2 - ③ - 4



■技術室研修会

■第4回技術室職員研修会

日 時:平成17年9月13日(火)・14日(水)

場 所:松江工業高等専門学校

参加者:技術室職員,その他

■日 程 ■研修風景

技術室、室員の能力・資質の向上を図るため、本年度の重点目標は、支援業務の充実・発展を目指すことを目的とする。

1日目の午前、「実験実習等支援業務の取り組みについて」の個人発表会、午後から、昨年度奨励研究採択者による報告発表、そして、機械工作として文鏡の製作を行いました。

2日目は引き続き、文鏡製作を行い、午後から「もの作りから見る子供の育ち」と題し、しまね自然の学校の岡野正美さんから公演いただきました。

(出典 学生課 作成資料)

資料 5 - 2 - ③ - 5

平成17年6月 日

第4学年保護者 各位

松江工業高等専門学校長
宮本 武明
(公印省略)

学生の校外実習について

本校教育について、平素から種々御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

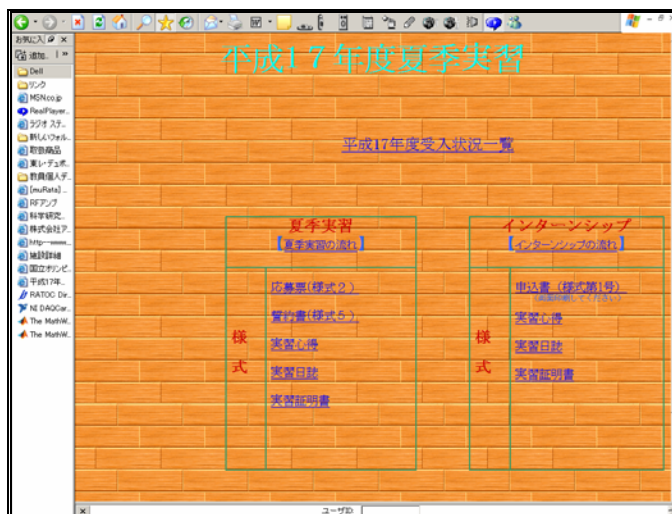
さて、例年本校では夏季休業期間中に第4学年学生を対象に、卒業の学習意欲の向上を図るために、希望する学生に校外実習を実施しています。また、本校ではこの校外実習を学修に準じるものとして、参加した学生には単位1単位を認定しています。

この実習期間中は平常と異なる環境において生活することになります。生活環境の維持及び災害の予防等について、本校としても学生の注意を喚起しますが、保護者各位におかれても十分御指導くださるようお願いいたします。

つきましては、本校では、この実習期間中に企業に対して損害を与えた場合に補償する「賠償保険」に加入することとしております。また、学生各自の実習期間に応じて「傷害保険」にできるだけ加入していただきますようお願いいたします。

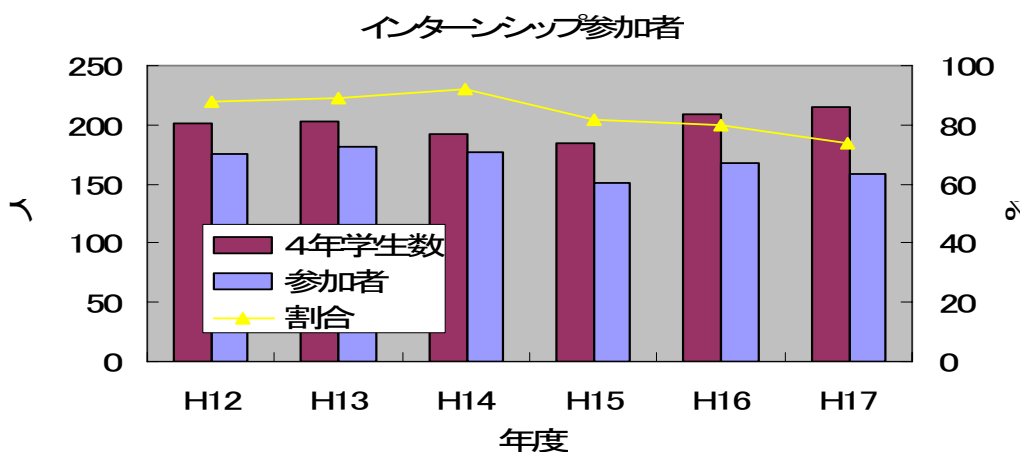
なお、実習期間中(実習前夜の旅行日を含む)の事故については、通常の授業の場合と同様に、独立行政法人日本学生支援センターによる補償はありますが、今回加入していただきたい「傷害保険」は、これで補償されない部分(実習時間外)をも補償するものです。決して強制するものではありませんが、加入されることをお勧めいたします。

また、詳しい内容及び手続きにつきましては、学生に対して7月15日(金)に説明会を開催する予定にしております。



(出典 学生課 作成資料)

資料 5 - 2 - ③ - 6



(出典 学生課 作成資料)

資料 5 - 2 - 3 - 8

ホシザキ電機株式会社島根工場
機械工学科4年 河角 知美

私は、夏季実習でホシザキ電機株式会社島根工場に行きました。ホシザキ電機は、業務用厨房機器の開発・生産などを行う会社で、実習では主に、製氷機の性能を計る試験を行いました。製氷機の仕組みや、レポートの書き方などたくさんのお話を教わりましたが、その中には授業で教わったこともあり、学校での勉強がいかに大切かが分かりました。社会に出るにはそれなりの知識を身につけることが必要であり、これからはそういうことを意識した学校生活を送っていきたいと思いました。

島根県松江土木建築事務所
土木工学科4年 大塚 祐貴

この夏季実習で、島根県松江土木建築事務所にお世話になりました。丘や排水路、海浜の浸食状況をポール樹断という方法で横断測量し、横断面図を作成したほか、ため池整備工事地盤改良見学や、道路の現況写真の撮影などをしました。現場に行き、植物が川の流れを止めている様子や、台風の影響を受けた海浜の状況を見て、自然の力が及ぼす影響はとて大きいと感じました。この実習で、授業では体験できない貴重な経験を積むことができ、今何を学ぶべきなのか、今の自分に欠けているものは何なのか明確になりました。

島根電工株式会社
電気工学科4年 福岡 大樹

僕は校外実習で、島根電工株式会社に世話になりました。実習の内容には、「CADによる設計・積算」と書いてあったので、学校の授業で習ったからできないことはないだろうと思っていました。しかし、実習が始まり、使用すると判明された「CADEWA」という設計・電気図面を引く専用のソフトは、これまで聞いたことも使ったこともないものでした。社員の方にそのことを話すと、「僕も最初は使い方が分からなかったけど、勉強して使えるようになった」とおっしゃいました。僕はそれをお聞きして、学校で習ったことがそのまま仕事に役立つのではなく、習ったことを基本にして、企業で何を学んでいるかが大切なのだと感じました。

(出典 平成16年度 校外実習報告(学校だよりより第105号))

資料 5 - 2 - ③ - 7

平成16年度インターンシップ受入先

受入事業所

アースサポート株式会社	中電プラント株式会社山陰・原子力支社
株式会社 荒谷建設コンサルタント山陰支社	株式会社 中電工島根支店
アロカ株式会社	中央建設株式会社
株式会社出雲村田製作所	株式会社テクノプロジェクト
出雲科学館	鳥取県総務部
出雲自動車整備事業協同組合	鳥取県中部教育事務所
岩谷瓦斯株式会社	鳥取県企業局西部事務所
ヴァエルシー株式会社	鳥取県日野総合事務所県土整備局
有限会社 WIIさんいん	株式会社 豊島製作所
国土交通省中国地方整備局境港湾・空港整備事務所	株式会社西島製作所
国土交通省 国土技術政策総合研究所	長岡技術科学大学
エヌ・ティ・ティネオメイト中国島根支店	株式会社中筋組
株式会社NTTフアシリティーズエンジニアリング 中国島根支店	合資会社 中村組
株式会社NSデザイン	有限会社 長崎モーターズ
株式会社 エフテック	株式会社ニッポー島根工場
株式会社 エフエムいずも	日信電子サービス株式会社
大林道路株式会社中国支店松江営業所	日本放送協会 松江放送局
オムロンワールドエンジニアリング株式会社大阪事業所	日本道路公団中国支社
カナツ技建工業株式会社	日本道路公団中国支社 松江工事事務所
株式会社キグテクニクス	株式会社ネットワーク応用通信研究所
キン・エンジニアリング株式会社	株式会社 野原熱線工作所
株式会社きもと	株式会社ハタシ
K-SYSTEM	有限会社 早川電機
国土交通省中国地方整備局	広島日野自動車株式会社 三次支店
国土交通省中国地方整備局 松江国道事務所	広島県情報政策室・情報ネットワーク管理室
国土交通省中国地方整備局 浜田河川国道事務所	有限会社福島商事
国土交通省中国地方整備局 日野河川事務所	富士通サポート&サービス株式会社
幸陽建設株式会社	復建調査設計株式会社
有限会社 黒潮社	古野電気株式会社
株式会社 後藤組	ホシザキ電機株式会社島根工場
小松電機産業株式会社	ポディーショップヤマモト
株式会社サノヤス・ヒシノ明昌	株式会社前川製作所
山陰中央テレビ放送株式会社	松江市役所
山陰三菱ふそう自動車販売株式会社	松下モーターエキスパート株式会社
山陽精機株式会社	松江市総務部総務課防災・交通対策室
山陰ナショナル株式会社	松江市下水道部下水道工務課
有限会社 サンコーオート	株式会社 松江東急イン
株式会社ジェット中国	独立行政法人水資源機構徳山ダム建設所
航空自衛隊美保基地	三菱農機株式会社
株式会社 シティプラスチック	三菱重工業株式会社広島製作所
島根電工株式会社	三井ミーンハナイト・メタル株式会社
島根県土木部	ミナミモーターズ
島根県土木部松江土木建築事務所	有限会社ムーブ
島根県土木部出雲土木建築事務所	株式会社メディアトーク
島根県土木部隠岐支庁土木建築局	株式会社 吉田村ふるさと村
島根県農林水産部	リョービミラサカ株式会社
島根県農林水産部松江農林振興センター	YCスタジオ
島根県農林水産部木次農林振興センター	
島根陸上競技協会審判部	
株式会社 島根CSK	
株式会社 太陽電機製作所	
有限会社 ダイハツ横田カーショップ	

(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 創造性を育む教育方法

本校の創造教育については、専門科目の約4割相当に工夫がなされている。また、創造教育を推進する支援体制として、実践教育支援センター（技術室）の存在があり、有効に機能している。センターではFD活動も活発になされており、今後も創造教育の質的向上が期待できると考えられる。

(2) インターンシップの活用

本校では、4学年に8から9割の学生がインターンシップに参加している。短期のものが多いが、短期でも多くの学生に参加させる方がよいと考えている。受入れ先と学生の希望の双方を考慮した実施体制を維持する必要がある。資料（資料5-2-3-8）から、学生の校外実習の効果は、学生の学習意欲向上やキャリア教育に対する観点で効果があると判断できる。

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校では、「学業成績評価並びに課程終了及び卒業の認定等に関する規則」（前掲 資料5-1-②-1）を定め、試験、論文、レポート、平素の学習状況等から判断を行い、優、良、可、不可の4段階評価を設定している。また、可以上を合格とする基準を明示し、進級、卒業に必要な取得単位数を規定している。

この規則に基づき、シラバスにおいて科目ごとに評価方法を明示し、これに沿って具体的な成績評価を行うこととなる。観点5-2-②で述べたように、科目ごとの評価方法の明示にあたっては、どのような視点から、どのような評価方法を用いるのかを明示することが求められることから、適切かつ厳正な成績評価を行っている。このことは、学生アンケートの「シラバスどおりに成績評価が行われているか。」の回答結果が高いこと及び実際の試験答案等（期末、中間試験、小テスト）からも分かる。（本学の主要科目の試験答案等については、訪問調査時に提示可能）また、進級については進級判定会議を、卒業については卒業判定会議を、それぞれ設け、慎重に判定を行っている。（資料5-3-①-1）。

本校では、仮進級に係る規定を設けているが、学年制の趣旨を損なわないためにも、この規定の運用は特に厳格かつ慎重に行われている。

これらの規則は、学生ガイドブック及びシラバスに掲載し、年度当初のガイダンスでは必ず説明することとしており、学生への周知を図っている。進級等にかかわることから、実際の学生の認知度が非常に高い。

本校の授業内容は教育の目的との整合性に十分留意して定められているため、個々の教員による出題や採点に極端なばらつきはないと認識している。（資料5-3-①-2）

一方で、社会からは、学校として学生の質を保証することも求められる。こうした視点から、ある程度共通の性質を持つ科目については、具体的な成績評価基準の策定に着手しており、既に数学と物理については、相当程度具体的な案にまとめられている。

資料5-3-①-1

平成 16年度 学年成績 情報工学科 年 在籍数: 42人 担任

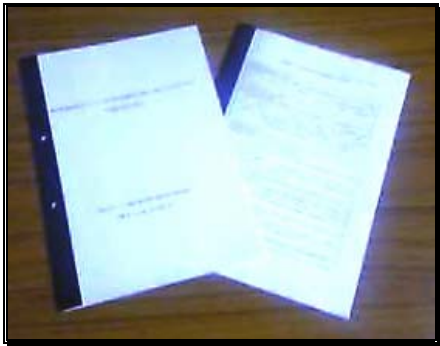
学籍番号	氏名	科目														総合科目 合格数	総合科目 不合格数	総合科目 合格単位数	総合科目 不合格単位数	総合科目 未履修科目数	特許取得者単位数			前年度での修得単位数			修得累計単位数	平均点											
		英語	数学	物理	化学	生物	地学	歴史	地理	政治	経済	社会	外国語	情報	総合						一般科目	専門科目	合計	一般科目	専門科目	合計													
70	70	51	70	-	71	62	93	82	80	-	80	61	69	77	62	67	64	66	28	28	0	27	7	34	0	0	2	0	32	3	35	62	10	72	73.2				
81	81	69	84	76	79	82	83	91	91	80	-	85	71	70	79	84	80	72	80	50	82	0	31	7	38	0	0	2	0	32	3	35	68	10	76	81.0			
71	84	55	89	72	72	80	90	87	92	-	75	-	73	71	84	80	82	66	92	29	29	0	31	6	37	0	0	2	0	32	3	35	65	9	74	79.5			
81	71	71	68	70	83	66	64	75	61	-	70	-	75	62	60	59	77	65	71	62	77	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	32	3	35	64	10	74	70.8	
63	57	67	67	71	55	70	63	86	78	-	-	-	64	68	66	70	78	50	56	-	27	27	0	28	7	35	0	0	1	0	32	3	35	61	10	71	66.3		
88	59	70	71	-	60	57	69	72	57	-	-	-	52	50	61	58	60	59	68	-	50	27	29	1	27	6	33	1	0	2	0	32	3	35	61	9	70	60.9	
67	76	87	87	77	67	72	71	77	67	-	-	-	65	60	68	66	62	88	66	-	27	27	0	28	7	35	0	0	2	0	32	3	35	62	10	72	78.4		
70	84	84	86	80	80	74	83	85	85	-	-	-	82	69	82	82	83	80	88	-	27	27	0	28	7	35	0	0	2	0	32	3	35	62	10	72	83.0		
87	81	78	83	75	74	82	88	90	89	80	-	-	80	77	69	72	83	77	87	-	64	78	30	30	0	31	7	39	0	0	2	0	33	3	36	66	10	76	80.4
79	71	72	79	80	74	64	66	81	74	-	67	-	68	69	70	68	80	79	82	-	74	82	30	30	0	31	7	39	0	0	2	0	33	3	36	66	10	76	74.9
79	87	91	89	75	70	85	88	96	93	-	93	-	84	86	93	88	93	82	93	95	29	29	0	31	6	37	0	1	2	0	32	3	35	65	9	74	86.6		
80	80	87	88	73	68	69	69	69	82	-	67	-	82	74	69	78	80	81	83	66	80	30	30	0	31	7	39	0	0	2	0	32	3	35	65	10	75	75.8	
81	78	81	84	68	66	69	71	88	67	-	68	-	70	67	66	75	82	85	82	-	70	85	30	30	0	31	7	39	0	0	2	0	32	3	35	65	10	75	79.8
68	68	68	88	77	74	72	72	82	80	-	-	-	78	87	78	75	84	70	84	-	28	28	0	29	7	36	0	0	2	0	32	3	35	66	10	76	78.4		
76	78	93	84	76	72	72	78	88	89	-	77	-	76	76	80	79	75	84	70	84	-	28	28	0	29	7	36	0	0	2	0	32	3	35	63	10	73	75.0	
76	67	69	66	73	58	67	62	64	60	-	60	-	66	63	62	58	57	58	65	-	28	28	0	30	7	37	0	0	2	0	33	3	36	65	10	75	80.1		
80	84	91	86	78	74	84	87	94	91	80	-	-	83	86	96	96	88	67	88	-	28	28	0	30	7	37	0	0	2	0	32	3	35	65	10	75	89.9		
79	66	68	85	70	62	62	65	82	89	-	-	-	68	66	78	73	77	71	-	28	28	0	30	7	37	0	0	2	0	32	3	35	65	10	75	86.9			
72	38	57	38	68	-	57	29	75	37	-	-	-	68	74	45	52	65	44	62	38	28	15	11	16	3	19	14	2	0	2	0	32	3	35	61	10	71	73.2	
69	83	88	84	72	78	92	93	100	91	-	-	-	88	88	88	83	88	94	91	28	28	0	27	7	34	0	0	0	0	0	0	0	31	3	34	58	6	68	68.1
64	83	64	79	72	63	90	80	96	96	86	-	90	-	68	77	64	76	77	82	64	62	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	32	3	35	66	10	76	77.2	
62	27	56	83	73	68	66	40	81	47	68	-	20	62	50	51	42	64	54	62	43	38	20	10	22	4	28	12	0	2	0	32	3	35	57	7	64	53.0		
76	74	72	68	79	61	67	75	81	84	-	-	-	64	66	66	86	62	74	62	82	28	28	0	30	7	37	0	0	2	0	33	3	36	65	10	75	70.4		
72	74	63	71	74	66	77	75	81	71	78	-	-	61	63	66	63	67	73	75	64	28	28	0	30	7	37	0	0	2	0	33	3	36	65	10	75	70.4		
58	-	60	-	65	-	41	-	92	-	-	-	-	46	43	-	49	-	49	-	28	-	12	6	4	3	7	3	17	2	0	2	0	32	3	35	38	8	44	46.8
78	79	80	90	82	83	73	77	83	80	-	80	-	63	61	72	63	63	71	65	50	-	28	28	0	31	6	37	0	0	2	0	32	3	35	65	9	74	72.7	
73	77	78	92	75	78	74	82	88	81	-	-	-	66	82	71	84	88	69	63	64	82	28	28	0	31	6	37	0	0	2	0	33	3	36	68	9	75	78.5	
76	76	88	68	75	75	73	79	74	70	-	-	-	77	77	85	67	67	79	70	-	27	27	0	28	7	35	0	0	2	0	32	3	35	62	10	72	78.7		
86	85	88	97	73	74	91	95	97	94	88	-	-	82	80	88	92	80	80	86	85	28	28	0	30	7	37	0	0	2	0	33	3	36	66	10	76	84.9		
78	82	86	92	78	77	61	66	91	87	-	-	-	63	71	73	64	63	84	79	-	27	27	0	28	7	35	0	0	2	0	31	3	34	61	10	71	78.2		
82	66	68	82	80	88	78	80	87	88	-	-	-	68	74	63	64	69	62	61	72	27	27	0	28	6	34	1	0	2	0	31	3	34	61	9	70	73.8		
76	74	73	82	75	72	75	82	88	81	80	-	-	82	80	88	82	84	80	72	68	82	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	32	3	35	65	10	75	80.5	
68	73	70	78	73	79	60	62	88	85	-	64	-	54	73	60	71	84	67	82	64	62	30	30	1	31	6	37	1	0	2	0	33	3	36	68	9	75	78.4	
78	83	80	79	78	62	60	60	67	54	-	-	-	54	51	62	64	74	76	60	-	42	27	0	29	6	35	0	0	1	0	32	3	35	62	9	71	65.0		
78	86	83	83	72	70	71	74	80	80	-	81	-	66	57	65	57	62	61	80	60	86	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	33	3	36	67	10	77	72.2	
88	81	86	91	70	69	74	73	83	88	89	-	-	63	53	72	79	69	77	80	83	29	29	0	31	6	37	0	1	2	0	32	3	35	65	9	74	74.7		
88	94	86	95	76	69	88	90	100	97	88	-	-	79	78	96	92	82	83	84	81	80	30	30	0	31	6	37	0	0	2	0	32	3	35	65	9	74	74.7	
68	68	87	82	81	80	68	68	81	68	-	73	-	54	70	83	72	61	76	61	76	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	33	3	36	68	10	78	87.6		
79	82	86	86	75	81	73	73	78	78	-	72	-	44	72	62	63	76	61	62	60	74	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	33	3	36	67	9	78	72.7	
88	92	98	67	76	69	78	81	88	88	-	-	-	81	85	91	82	67	89	89	-	27	27	0	28	7	35	0	0	2	0	33	3	36	69	10	78	72.6		
63	50	45	77	76	60	72	60	75	82	-	76	-	44	75	76	74	60	80	70	74	30	30	0	31	7	38	0	0	2	0	33	3	36	69	10	78	73.8		
66	61	81	80	75	72	72	78	83	73	-	79	-	73	84	74	77	78	67	64	77	28	28	0	30	6	36	0	0	2	0	33	3	36	65	9	74	78.5		

科目合計	5131	2994	3166	3297	2977	2724	3028	3048	3488	3205	269	1066	90	1486	2963	3098	2985	3232	3086	3238	2606	2358										
科目平均	74.5	73.1	75.4	82.6	74.4	66.6	72.1	74.1	83.3	78.2	81.3	71.1	90.0	67.6	70.5	73.7	72.8	78.8	73.3	79.0	68.8	76.1	クラス平均: 76.1									

1枚目

科目	合格単位数		不合格単位数	未履修科目数	特許取得者単位数		前年度での修得単位数			修得累計単位数		平均点
	一般科目	専門科目			一般科目	専門科目	合計	一般科目	専門科目	合計		
7	34	0	0	2	0	32	3	35	62	10	72	73.2
7	38											

資料 5 - 3 - ① - 2



9. 記録保存

9.1 JABEEと第三者評価

内容	備考
1. JABEE受審 Paper資料で受審 (対象 JABEE科目のみ)	教務係で用意する紙ファイルに資料を整理し保存する。 A4サイズを基本
2. 第三者評価受審 基本的にe-fileで受審 (対象 全科目)	教務係で用意するコンピュータにe-fileを整理し保存する。 A4サイズを基本 教科書、レポート等の電子化できないものはPaperで保存

9.2 記録保存データ

内容	備考
1. 教科書、配布資料等、実験指導書(Paper) 望ましくない場合によっては複製ノートのCopy(Paper)	FD委員会点検
2. シラバス(別紙資料P13参照)(Paper&e-file word or PDF) 教育目標との対応を明記	FD委員会点検
3. 最終成績表(Paper&e-file PDF) 欠席時数についても記載されていること 受講者リストを兼ねる	現状の成績評価表 FD委員会点検
4. 成績評価詳細(Paper&e-file excel)(別紙資料4参照) ○シラバスに記載された評価基準に従って評価されていることを証明できる資料(最終成績の計算式がわかるもの) (FD委員会がいくつかのパターンに分けたe-fileを参考又は利用) ○追試験、再試験、追認試験についても評価を明示すること	FD委員会点検
5. 模範解答(Paper&e-file PDF) 論文形式の問題については、評価項目と内容を記載 定期試験答案 ○各試験60点台の全答案のCopy(最終成績が60点台の学生のものではないことに注意)(Paper) ※60点台の評価をした学生がいない場合は合格最低レベルのもの2点を提出する ○全学生の答案(e-file PDF 最終成績表順)(名簿順) ○追試験、再試験、追認試験の合格者の答案(Paper&e-file PDF)	A4サイズに縮小 FD委員会点検 A4サイズに縮小 FD委員会点検
6. 実験実習、卒業研究、特別研究レポート (7)レポートの1部(Paper&e-file PDF)(名簿順) (9)全てのレポート(7)を除く、最終成績表順)(Paper)	FD委員会点検
7. 卒業研究、特別研究コンタクトタイム表 学生が実際に研究を行った時間(実研究時間 ^{※1})及び教員が研究指導を行った時間(コンタクトタイム ^{※2})を証明す	FD委員会点検

7

(出典 教育課程並びに学業成績評価に関する手引き(教員用)及び試験答案等)

(分析結果とその根拠理由)

「学業成績評価並びに課程修了及び卒業認定等に関する規則」を定め、学生ガイドブック及びシラバスに掲載することによって学生への周知を図っており、実際の学生の認知度は高い。各科目ごとの成績評価の適切性を担保するため、シラバスの記載事項及び内容に注意を払っているほか、進級、卒業判定については、判定会議をそれぞれ設けて、慎重かつ厳格な運営を行っている。以上のことから、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点 5 - 4 - ①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点到係る状況)

準学士課程 1～3 学年においては、特別活動の実施が進級条件として規則(前掲 資料 5 - 1 - ② - 1)で規定されている。内容については、各担任が計画を立てるが、学年主任がまとめ役になって調整を行い、シラバスを作成する。(資料 5 - 4 - ① - 1)各担任には「担任のしおり」が配付されており、この中の「学級経営の方針・計画」などを基に計画を立てている。

本校では、特別活動の目的に合致する学校行事は特別活動に振り替えている。(資料 5 - 4 - ① - 2)その例としては、1 学年・新入生オリエンテーション(1泊2日)、2 学年・合宿研修(1泊2

日), 3学年・研修(1日), 1~3学年・ロードレース大会がある。資料はその内容の様子である。

資料5-4-①-1

科 目 代 号		授業科目名	ロングホームルーム
科 目 区 分	特別活動	履修年次・学期	2005年・2年・前期
単 位 数		授業形式・形態	
担当教員名	高見 昭彦	授業点検教員名	高橋 亨、藤部真弓、松井秀智、高木謙司
レベル		オフィスアワー	S/R・昼休み・放課後
授業概要	<p>学生の自主性・協働性を育てるとともに、ホームルームや学校生活への関心を高め、学生が当面する課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うことを目的とする。また、学ぶことの意義を認識させ、主体的な学習態度及び望ましい職業観・勤労観の確立を図る。</p> <p>第2学年後期では具体的に次のことを計画している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学業生活の充実に関して 定期試験対策勉強会や反省会、面談を行う。 2. 健康・安全に関して クラス対抗スポーツ大会を行う。交通安全防犯について講話を受ける。(学生係との連携) 3. ホームルーム内の自主的な活動に関して 山政委員を立候補によって選出し、各学期数回限りの山政を計画・立案・実施させる。 4. 奉仕的行事 クリーニング等で、校外への美化に努める。 <p>その他、突発的事態が生じた際には、必要に応じて、学年会で指導を行うことがある。</p>		
到達目標	授業概要1~4の活動にクラスの一員として参加する。		
テキスト・参考書	無し		
成績評価方法	週一回の山政及び学校行事の振り返り暨え分の出席(5分の出席)及び参加状況をもって単位を認定する。また低学年については毎学期的に参加することが望ましい。		
学習の学習意			

(備考) 授業の計画および内容が記載されています。点検日によって、自己の学習態度や理解度、先生の教授方法について評価して下さい。皆さんでより良い学習環境を作りましょう。

() 工学科 学生番号 () 氏名 ()

教育目標「学んで創れるエンジニア」の育成		(良好←5・4・3・2・1→不足)		
授業計画・内容		学習態度	職業態度	教授方法
第1回	担任講話 第2学年重点目標、年度当初の留意事項の連絡			
第2回	学生会役員決め 学級委員長等を決める			
第3回	前期履修登録			
第4回	前期履修表を配布し、登録をする			
第5回	担任講話 担任との個別面談を実施する			
第6回	担任講話 担任との個別面談を実施する			
第7回	学級委員長選出 就職状況等について学科長の講話を受ける			
第8回	交通講話(学生委員会・学年会主催) 松江警察署から講師を招いて交通に関する講話を受ける。			
第9回	中間試験前勉強会(学年会主催) 主に英・数・理の試験対策勉強会を実施する(30・31日試験)			
第10回	試験反省会 試験およびこれまで学習・生活について反省する。(用紙記入)			
第11回	担任講話 担任との中間試験成績について個別面談を実施する			
第12回	除雪についての講話(学生委員会・学年会主催) 高橋尚書者ゼンセンから講話を受ける。 題目「金銭トラブルにあわないために」 http://www.prof.shimane.jp/section/shohi/			
第13回	クラス対抗スポーツ大会 各クラスの山政委員が曜日、対策方法を協議し実施する			
第14回	クラス対抗スポーツ大会 各クラスの山政委員が曜日、対策方法を協議し実施する			
第15回	担任講話 夏季休業中における留意事項の連絡(8月4日(木)より夏季休業)			

(出典 特別活動ロングホームルームの活動状況を示すシラバス(機械工学科2年))

資料5-4-①-2 A

表1 特別活動への時間読み替えの取り決め事項

	学校行事で行う特別活動	特別活動への読み替え
(1)	新入生オリエンテーション(1泊2日)	1年生ホームルーム(10時間)
(2)	2年生合宿研修(1泊2日)	2年生ホームルーム(10時間)
(3)	3年生研修(1日)	3年生のホームルーム(4時間)
(4)	1-3年生・ロードレース大会	1-3年生のホームルーム(2時間)

(出典 特別活動への時間読み替えの取り決め事項の資料)



校内ロードレース大会を実施

11月18日(木)午後、1~3年生による校内ロードレース大会を実施しました。道路工事のため、例年とは多少異なるコースとなりましたが、必死に力を振り絞ってゴールへと向かう学生たちの姿はとても印象的でした。学級別および個人成績は下記のとおりです。

(学級別順位)

1位 土木工学科3年
2位 1年1組
3位 機械工学科2年
1年2組

第2学年スキー研修

1月18日(火)・19日(水)に大山において2年生の合宿研修が行われました。暖冬のため雪があるのか心配されましたが、当日は天候にもまずまず恵まれました。教員が指導にあたるこの研修は、学生との交流を図ることのできる機会でもあります。最初こわごわとした様子だった学生も、2日目の午後には楽しく滑れるまでに上達していました。

思うように進めない…初日の様子です

(出典 学生課 作成資料)

資料 5-4-①-2 B



(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

学級経営が円滑に行えるように、「担任のしおり」が学級担任に配付されている。特別活動の計画は、学年主任と担任を中心に立案され、シラバスに記載されている。各種行事と併せて、人間の素養の涵養がなされるよう配慮している。

観点 5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点到に係る状況)

準学士課程第1～3学年の指導については担任教員と教務、学生、寮務、学生相談室の委員会が協力体制を築き、学習や生活指導を行っている(リメディアルシステム)。教員の連携をもとに第3学年以下の学生の指導体制を強化することは、人間の素養向上と準学士課程第4、5学年における教育目標にある自主性の育成に繋がると考えている(準学士課程第1～3学年での生活指導をしっかり行い、準学士課程第4、5学年では自ら考え行動しなければならない環境にしておくことが必要と考えている)。

このような観点から準学士課程においては、毎朝の教員による連絡会や毎週行われる各学年会での学生指導に関する議論を行っている(資料5-4-②-1)。また、学校は公的空間であることを全学生に認識させ、社会人としてのルールとマナーが身につくように指導を行っている。特に朝の教員連絡会(毎朝 8:30-8:40)では、担任、アドバイザー、教務・学生・寮委員会から、毎日の教育行事に関することや校内で起こっている学生の問題行動、寮での学生生活の状況把握がなされている。この朝の教員連絡会では、担任・アドバイザーの学生生活指導の統一を図り、学生に対して平等な指導を実施している。この朝の連絡会の他に、担任、教務、学生、寮務、学生相談室の委員会が学年会を毎週、週一回(50分程度)実施している。学年会では、特別活動を有効に活用するためのロングホームルーム活動の内容検討や生活面で指導が必要な学生の状況と問題点を検討し、担任の生活指導の支援を行っている。(資料5-4-②-2)

大学1・2年生と同年である第4、5学年生には自主的な学習姿勢と行動を求めている。学生の自主性を育てる具体的対策として、ホームルームで授業を受ける体制から、大学と同様に、授業が開講される教室に学生が移動する体制に変更した。また、学生に必要な情報の連絡方法についても、「言

<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科課程は、生産・建設システム工学専攻と電子情報システム工学専攻から構成されている。(資料5-5-①-1)

資料に示すように、生産・建設システム工学専攻は、準学士課程の機械工学科と環境・建設工学科を母体としている。また、電子情報システム工学専攻は、電気工学科、電子制御工学科、情報工学科を母体に構成されている。準学士課程と専攻科課程との科目関連図を資料に示している。(資料5-5-①-2 A~E)

資料5-5-①-1

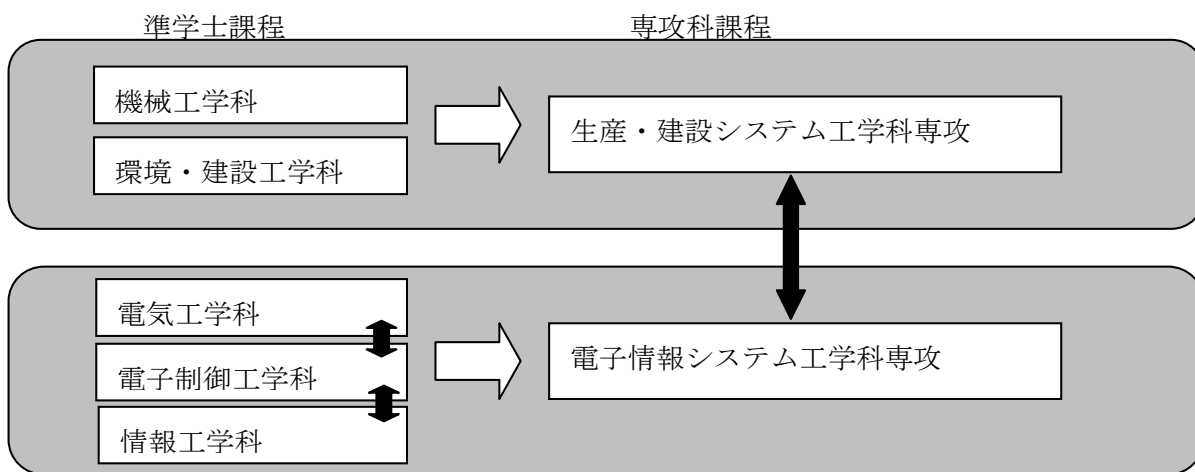
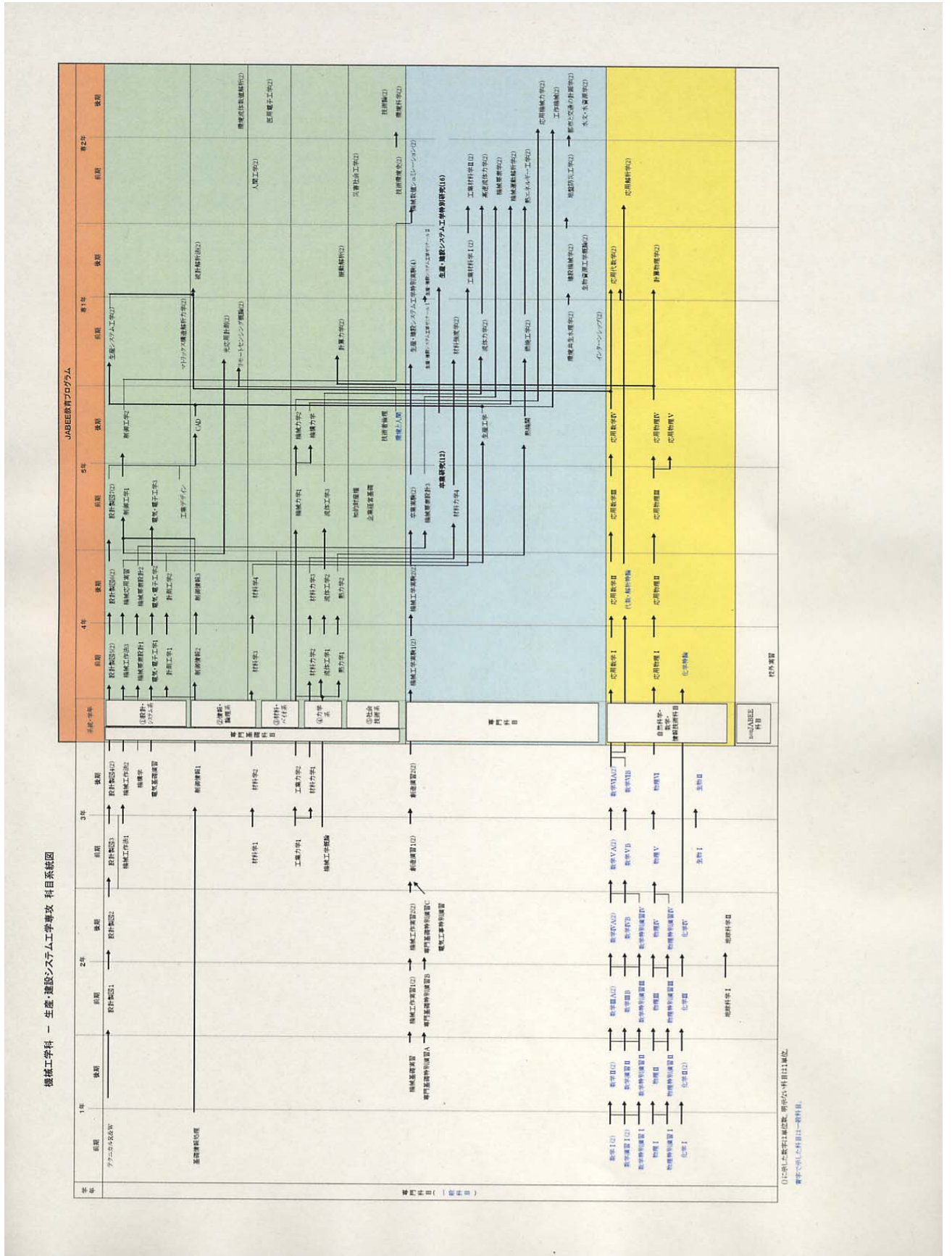


図 5.5.1 準学士課程・専攻科課程関連図 (印は学科横断科目，専攻横断的科目を示)

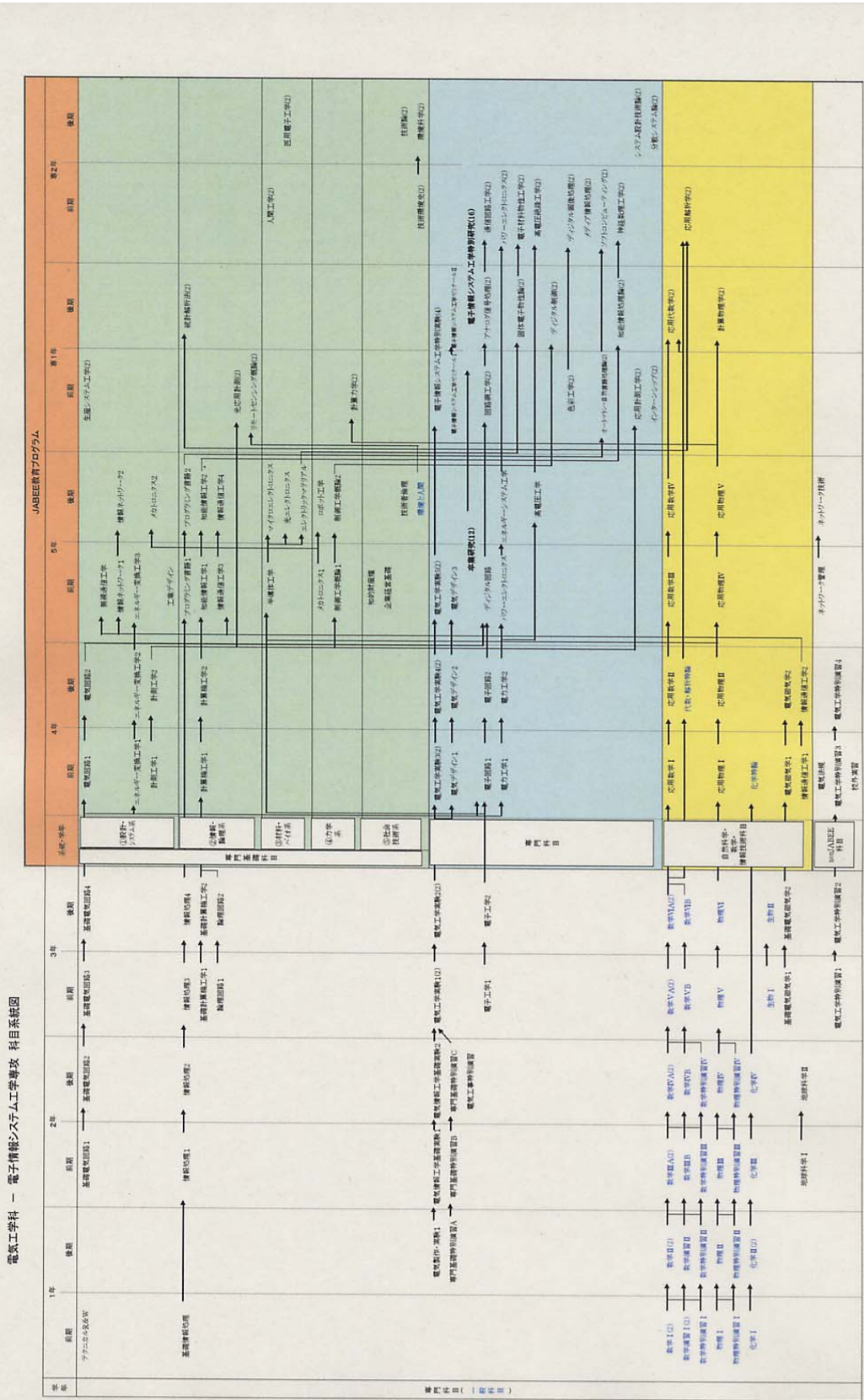
(出典 専攻科説明資料 学生配付)

資料5-5-①-2 A



(出典 専攻科説明資料 学生配付)

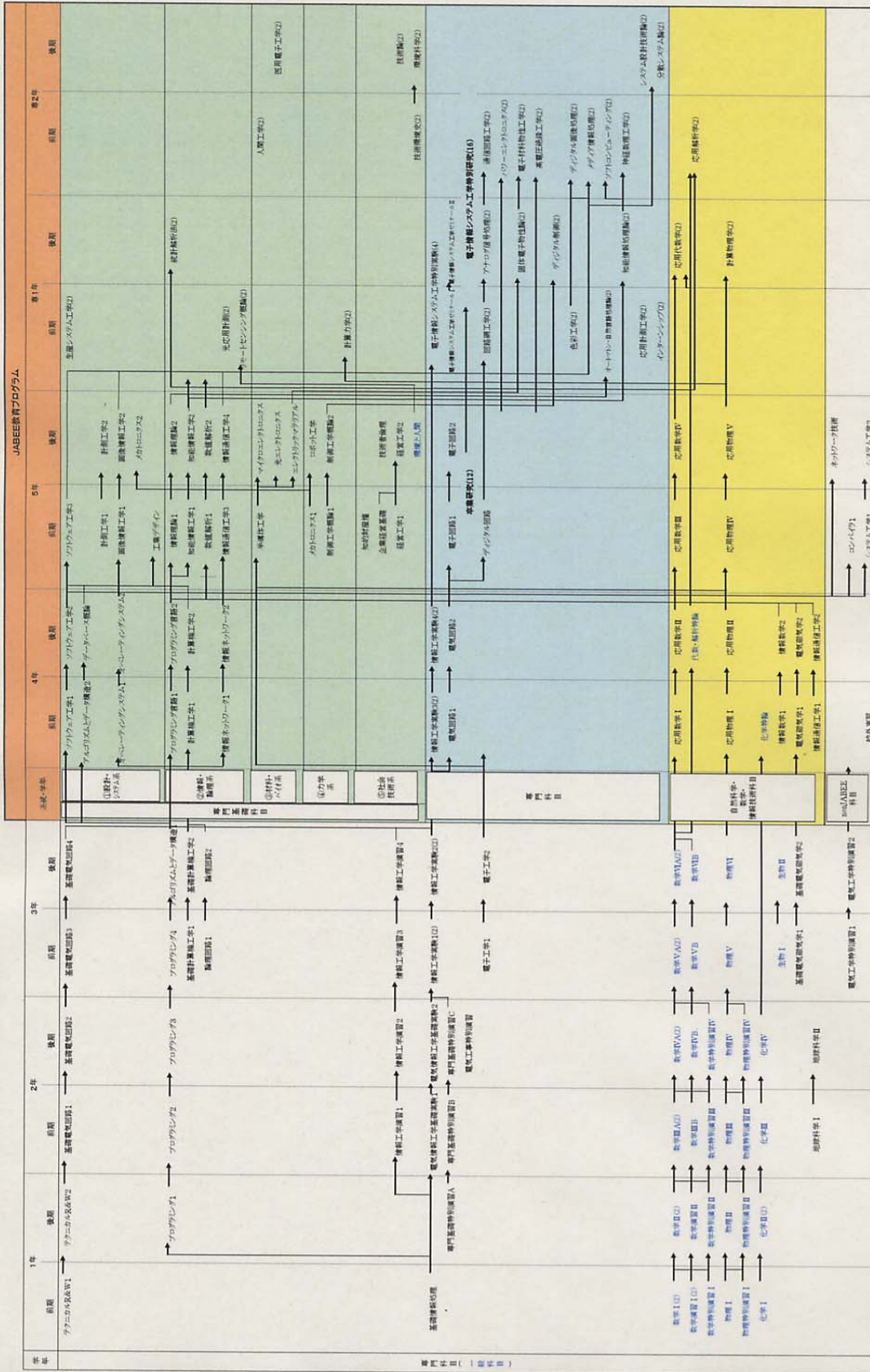
資料5-5-①-2 C



(出典 専攻科説明資料 学生配付)

資料 5-5-①-2 E

情報工学科 - 電子情報システム工学専攻 科目系統図



○に示した科目は編入生、留学期間科目は単位取得後、専攻科目として履修する。○に示した科目は1科目履修する。

(出典 専攻科説明資料 学生配付)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程の二つの専攻は、準学士課程の各学科を母体に構成されている。教育課程の科目関連図から明らかなように、準学士課程との連携を重視した教育課程となっている。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程の教育課程は、一般科目、専門共通科目、専門展開科目から構成されている。一般科目は、社会性や国際性を備えた技術者育成のための基盤となる科目として開設されている。専門共通科目は、高度技術者教育の基礎となる科目や職業倫理観を育てる科目で構成されている。専門展開科目は、各専攻の専門性を高めるための科目が開設されている。

各授業科目は、学生のニーズに対応するために、多くの科目を選択科目としている。また、専攻科課程では、特別研究を重視しているために、2年間を通じて16単位を配置している。専攻科課程の修得単位数を表に示しているが、62単位を修了要件としている。これは大学評価・学位授与機構が規定する要件（積み上げ単位62単位）を満たしていることから、学士の学位取得にも対応した教育課程になっている。このように、本教育課程は、エンジニアに必要な能力等を体系的に修得できるよう編成されている。（資料5-5-②-1 A～B）

なお、授業科目の内容については、シラバスに明記されている。

専攻科課程は、その教育理念として、「研究開発能力」、「専門知識」、「職業倫理」、及び「国際性」を掲げている。「研究開発能力」は、特別研究や特別実験により問題抽出・解決能力や創造力と併せて養うことができる。「専門知識」については、技術者教育の基礎となる専門共通科目、及び各専攻の専門性を深める専門展開科目により身につけるように配慮されている。「職業倫理」は、技術論、環境科学、技術環境史を学修することで、エンジニアとしての行動規範や倫理観を養うことができる。「国際性」については、一般科目の時事英語、専門共通科目の総合英語コミュニケーション、また、専攻ゼミナールや特別研究により身につけることができる。このように、本専攻科課程では、教育理念を実現するための教育課程が編成されている。

(分析結果とその根拠理由)

状況で示したように、授業科目が適切に配置され、教育課程の体系性が確保されている。また、授業内容より明らかなように、教育課程は、専攻科課程の教育理念を達成するために適切なものになっている。

資料5-5-②-1 A

別表第3
一般科目（各専攻共通）

区分	授業科目	単位数	学年別配当				JABEE科目	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
一般科目	時事英語	2	2				G	JABEE区分 G：人文社会・語学 N：数学・自然科学・情報技術 T：専門分野 (なし)：専門工学 (B)：基礎工学 (B1)設計・システム系 (B2)情報・論理系 (B3)材料・バイオ系 (B4)力学系 (B5)社会技術系
	日本現代文学概説	2		2			G	
	地域社会史論	2		2			G	
	日本古典文学概説	2	2				G	
	日語学概論	2			2		G	
	地函文化概論	2		2			G	
開設単位数	12	4	6	2				
修得単位数		4	単位以上					

別表第4
専門科目（生産・建設システム工学専攻）

区分	授業科目	単位数	学年別配当				JABEE科目	備考
			1年		2年			
			前期	後期	前期	後期		
専門共通科目	必修科目 総合英語コミュニケーション	2				2	G	
	開設単位数	2				2		
	修得単位数	2				2		
	応用代数学	2		2			N	
	応用解析学	2			2		N	
	統計学	2		2			T(B2)	
	計算力学	2	2				T(B4)	
	光応用計測学	2	2				T(B2)	
	生産システム工学	2	2				T(B1)	
	生産システム工学	2		2			N	
	人間工学	2			2		T(B3)	
	リモートセンシング概論	2	2				T(B2)	
	技術環境学	2			2		T(B5)	
	技術環境学	2				2	T(B5)	
開設単位数	24	8	6	6	4			
修得単位数	12	単位以上						
専門展開科目	必修科目 生産・建設システム工学特別研究	16		4		12	T	演習
	開設単位数	16		4		12		
	修得単位数	16		4		12		
	生産・建設システム工学特別実験Ⅰ	2	2				T	
	生産・建設システム工学特別実験Ⅱ	2		2			T	
	生産・建設システム工学ゼミナールⅠ	1	1				T	
	生産・建設システム工学ゼミナールⅡ	1		1			T	
	材料強度学	2	2				T	
	マトリックス構造解析力学	2	2				N	
	機械数値シミュレーション	2			2		T(B2)	
	工業材料学Ⅰ	2		2			T(B3)	
	工業材料学Ⅱ	2			2		T(B3)	
	機械要素学	2			2		T(B1)	
	機械運動解析学	2			2		T	
	建設機械学	2		2			T	
	工機作機学	2			2		T	
	熱エネルギー工学	2			2		T(B4)	
	燃焼工学	2	2				T	
	流体力学	2	2				T(B4)	
	都市交通の計画	2				2	T	
	振動解析学	2		2			T(B4)	
	災害社会工学	2			2		T(B5)	
	地盤防災工学	2			2		T	
	水文・水資源学	2				2	T	
	高速流体力学	2			2		T	
	生物資源工学概論	2		2			T	
環境共生水理学	2	2				T		
環境流体数値解析学	2				2	T(B2)		
応用機械力学	2				2	T		
インタラクション	2	2				T		
開設単位数	52	15	11	16	10		1年後期及び2年の履修も可	
修得単位数	24	単位以上						

資料5-5-②-1 B

専門科目（電子情報システム工学専攻）

区分	授業科目	単位数	学年別配当				JABEE 科目	備考	
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
専門 共通 科目	必修科目 総合英語コミュニケーション	2				2	G		
	開設単位数	2				2			
	修得単位数	2				2			
	選択 科目	応用代数	2		2			N	
		応用解析	2			2		N	
		統計解析	2		2			T(B2)	
		計算力学	2	2				T(B4)	
		光応用計測	2	2				T(B2)	
		生産システム工学	2	2				T(B1)	
		計算物理学	2		2			N	
		人間工学	2			2		T(B3)	
		リモートセンシング概論	2	2				T(B2)	
	技術環境史	2			2		T(B5)		
	環境科学	2				2	T(B5)		
技術論	2				2	T(B5)			
開設単位数	24	8	6	6	4				
修得単位数		12 単位以上							
専門 展開 科目	必修科目 電子情報システム工学特別研究	16		4		12	T		
	開設単位数	16		4		12			
	修得単位数	16		4		12			
	選択 科目	電子情報システム工学特別実験Ⅰ	2	2				T	
		電子情報システム工学特別実験Ⅱ	2		2			T	
		電子情報システム工学ゼミナールⅠ	1	1				T	
		電子情報システム工学ゼミナールⅡ	1		1			T	演習
		回路網工学	2	2				T	
		アナログ信号処理	2		2			T	
		通信回路工学	2			2		T	
		固体電子物性論	2		2			T	
		電子材料物性工学	2			2		T	
		医用電子工学	2				2	T(B3)	
		高電圧絶縁工学	2			2		T	
		デジタル制御	2		2			T	
		応用計測工学	2	2				T	
		パワーエレクトロニクス	2			2		T	
		メディア情報処理	2			2		T	
		オートマトン・自然言語処理論	2	2				T	
		知能情報処理論	2		2			T	
		ソフトコンピューティング	2			2		T	
		神経数理工学	2			2		T	
	システム設計技術論	2				2	T		
デジタル画像処理	2			2		T			
分散システム論	2				2	T			
色彩工学	2	2				T			
インターンシップ	2	2					1年後期及び2年の履修も可		
ヒューマンインターフェイス	2		2			T			
センサネットワーク	2				2	T			
開設単位数	50	13	13	16	8				
修得単位数		24 単位以上							

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点到に係る状況）

学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成を目的として，以下の項目について実施している。

- ① 他専攻の授業科目の履修については，6単位まで履修することができる。（資料5-5-③-1）
- ② 大学や他の高等専門学校専攻科等における授業科目は，専攻科の修了に必要な単位数として10単位まで履修することができる。
- ③ インターンシップは，選択科目（2単位）として，夏季休業中に2週間以上の期間で実施している。（資料5-5-③-2）

資料5-5-3-1

松江工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

平成14年 4月1日 制定
平成17年10月1日 最終改正

（趣旨）

第1条 この規程は，松江工業高等専門学校学則第50条の規定に基づき，松江工業高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定めるものとする。

（授業）

第2条 専攻科の授業は，単位制とし，講義，演習，実験及び実習のいずれか，又はこれらの併用により行うものとする。

（単位の計算方法）

第3条 各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については，15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については，30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については，45時間の授業をもって1単位とする。

（履修方法）

第4条 専攻科に開設する授業科目の履修にあたっては，別に定める「授業科目履修届」を所定の期日までに校長へ提出しなければならない。

（指導教員）

第5条 専攻科の学生は，各専攻の指導教員から授業科目の履修及び特別研究の指導を受けるものとする。

- 2 専攻科の学生は，専攻科委員会の承認を得て他専攻の指導教員の指導を受けることができるものとする。

（試験）

第6条 専攻科の試験は，定期試験，追試験及び再試験（以下「定期試験等」という。）とする。

- 2 定期試験は，各学期末に実施する。
- 3 追試験は，病気その他特別の事情により定期試験を受験しなかった者に対し実施する。なお，追試験を受けるにあたっては，別に定める「追試験受験願」を校長へ提出し，その許可を得るものとする。
- 4 再試験は，成績が不良の者について行うことがある。

(成績評価)

第7条 授業科目の成績評価は、原則として当該科目担当教員が定期試験等の成績及び平素の学修状況等を総合して行うものとする。ただし、授業科目によっては、定期試験を実施せず、平素の学修状況等により評価することがある。

第8条 成績の評価は、優・良・可・不可をもって、次の評価区分により行う。

評価	評点	100～80	79～70	69～60	59～0
	評語	優	良	可	不可

2 特別研究，総合英語コミュニケーション及びインターンシップは，優・良・可・不可で評価する。

第9条 学業成績の成績原簿への記載は、評点で行う。ただし、特別研究，総合英語コミュニケーション及びインターンシップについては、優・良・可・不可とする。

2 成績証明書への記載は、優・良・可の表記とする。

(単位認定)

第10条 評点が60点以上又は優・良・可に評価された授業科目については、当該科目を修得したのものとして単位を認定する。

(再履修)

第11条 評点が60点未満又は不可に評価された授業科目は、再履修することができる。

2 前頁で定める再履修は、第4条の規定を準用する。

(他専攻における授業科目の履修)

第12条 他専攻の専門展開科目のうち選択科目を履修することができる。

2 履修にあたっては、あらかじめ科目担当教員の承認を得たうえで、別に定める「授業科目履修届」を所定の期日までに校長へ提出しなければならない。

3 前2項の規定に基づき修得した単位は、6単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(大学等における授業科目の履修)

第13条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等で開設されている授業科目の履修にあたっては、あらかじめ別に定める「大学等における学修許可願」を校長へ提出し許可を得たうえで、別に定める「授業科目履修届」を校長へ提出しなければならない。

2 前頁の規定に基づき修得した単位は、別に定める「大学等における学修単位認定申請書」の提出により10単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

3 前項の規程に基づき単位の修得を認定された授業科目の成績証明書への記載は、認定と表記する。

(JABEE基準修了のための授業科目の履修)

第14条 JABEE基準において修了に必要な単位の修得が困難な場合にあつては、別に定める授業科目を履修することができる。

(修了認定)

第15条 修了の認定は、本校学則及び本規程に基づき、専攻科委員会の議を経て校長が行う。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年10月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 5-5-③-2

松江工業高等専門学校専攻科インターンシップ実施要項

(趣旨)

- 1 この要項は、インターンシップの履修等に関して、必要な事項を定める。

(目的)

- 2 インターンシップは、学生がインターンシップを通じて、専攻科で修得した知識・技術の一層の発展と向上を目指すとともに、技術者としてのあり方について学ぶことを目的とする。

(授業科目)

- 3 インターンシップは、専攻科の授業科目（選択科目）として実施する。

(実習期間)

- 4 インターンシップは、原則として夏季休業期間中に2週間（実質 10 日間）以上実施する。ただし、特別な事情がある場合は、他の休業期間中に実施することができる。

(履修手続)

- 5 インターンシップを履修しようとする者は、「インターンシップ履修届」（様式-6）を提出しなければならない。

(単位の認定申請及び認定)

- 6 インターンシップを履修した者は、原則として当該年度 11 月末日までに、副専攻科長を経て、インターンシップ単位認定願（様式-7）を校長に提出するものとする。なお、インターンシップ単位認定願については、インターンシップ報告書（様式-8）及びインターンシップ証明書（様式-9）を添付しなければならない。

- 7 校長は、インターンシップ単位認定願を申請した者に対し、専攻科委員会の議を経て単位を認定するものとする。

- 8 インターンシップの単位認定については、インターンシップ報告書、インターンシップ証明書及びインターンシップ報告会等に基づき、専攻科委員会において行う。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

(分析結果とその根拠理由)

前述したように、他専攻の授業科目の履修、大学や他の高等専門学校専攻科等における授業科目の履修やインターンシップを実施している。

観点 5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

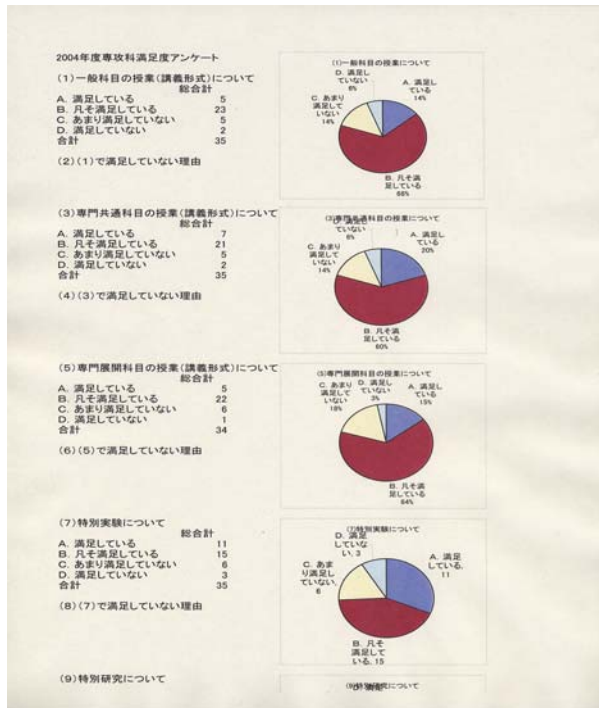
(観点に係る状況)

教育課程表から明らかなように、修了要件を考慮すれば、講義科目40単位、演習科目2単位、実験実習科目20単位で構成されている。講義形式の授業においては、講義のみならず、講義と演習の組合せや対話・討論型の授業も行われている。また、一般科目においては、フィールド型授業も行われている。情報機器は、多くの授業科目で活用されている。

指導法の工夫に繋げるために満足度アンケートを実施している。（資料 5-6-①-1）

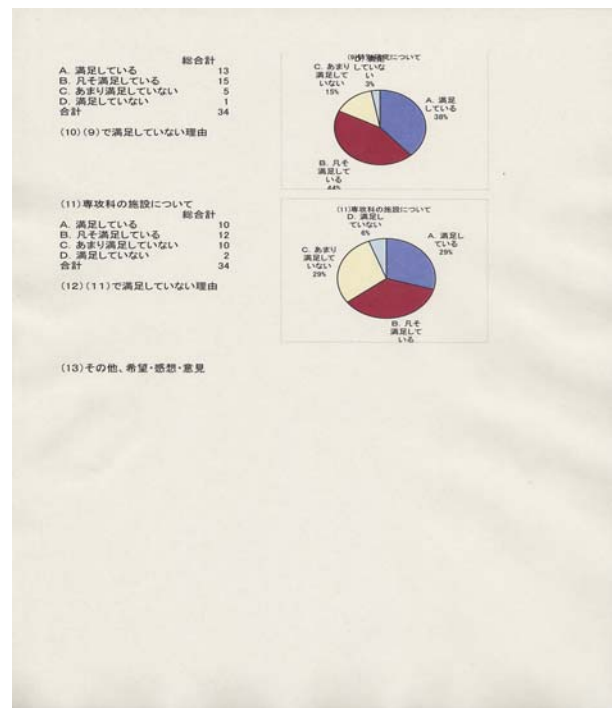
なお、専攻科課程は、元来、少人数授業である。

資料 5-6-①-1 A



(出典 専攻科委員会)

資料 5-6-①-1 B



(出典 専攻科委員会)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程表から明らかなように、講義、演習、実験実習のバランスは適切であると思われる。少人数授業、講義と演習の組合せによる授業、対話・討論型の授業やフィールド型授業が行われており、適切な授業の工夫がなされていると思われる。今後、授業形態に関する具体的な状況について把握する必要がある。

観点 5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

創造性の育成は、主に特別実験や特別研究で行われている。特別実験においては、4～5名でグループを編成し、ブリッジコンテスト、ピンポン玉発射機や紙/プラスチック分離器などの課題を与え、課題解決型の実験を行っている。

インターンシップについては、平成17年度より選択科目（2単位）として、2週間以上の期間で実施している。（前掲 資料 5-5-③-2）

(分析結果とその根拠理由)

創造性の育成は、特別実験や特別研究で行われている。インターンシップについては、平成17年度より、2週間以上の期間で実施している。状況が許せば、長期インターンシップ（1ヶ月以上）を実施したいと考えている。

観点 5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

専攻科シラバスには、授業概要、到達目標、使用テキスト、成績評価法、および授業計画と内容等が記載されている。(資料 5-6-③-1 A~B) 新入生オリエンテーションにおいて、全員に配付し、有効に活用するように指導している。また、HPにも掲載し、必要に応じ閲覧できるようにしている。(資料 5-6-③-2)

資料 5-6-③-1 A

授業科目名	医用電子工学	科目コード	G414
科目区分	専門展開科目・選択	履修年次・学期	2007・S2・後期
単位数	2	オフィスアワー	授業後の休憩時間 月～金：放課後
担当教員名	別府俊幸	授業点検教員名	宮内肇
教育プログラムの学習・教育目標との対応	5-1 「システムづくり」のための基礎的な工学能力がある	JABEE 科目区分	工学基礎 (③材料・バイオ系)
授業概要	生体計測の基礎を学ぶためには、医学的知識が必要である。工学システムとは異なり、変動を前提として、ホメオスタシスと呼ばれる総合的なフィードバックによって活動を維持されている生体では、当然、計測方法、センサなども、工学分野とは異なった要求がある。しかし、生体の基礎的知識なしには、生体計測を学ぶことはできない。講義では、解剖生理学の基礎を学び、生体計測の基礎的な方法について紹介する。講義によって、生体計測に関わるために最低限度必要な医学的知識の修得を目指す。		
到達目標	(1) 人体解剖の基礎的な理解 (2) 生理学の基礎的な理解		
成績評価方法・評価基準	レポートにて評価		
教科書(参考書)	『ヒューマン・ボディ』尾岸、片桐、エルゼビア・ジャパン、6600円		
その他			

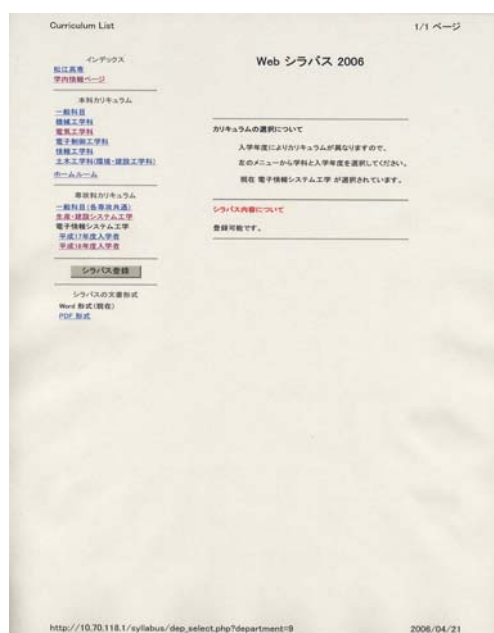
(出典 専攻科 シラバス)

資料 5-6-③-1 B

授業計画・内容	
第1回	細胞から人体へ、 器官、ホメオスタシス、用語、物質、イオン、化学反応
第2回	細胞 細胞、細胞膜、細胞膜を越える動き
第3回	代謝 炭水化物、タンパク質、DNA
第4回	微生物、組織と膜 病原体、感染、ウイルス、組織、膜
第5回	外皮系と体温調節、骨格系 皮膚、皮膚の機能、骨の種類、関節
第6回	筋系 筋肉、収縮
第7回	神経組織と脳 神経系、ニューロン、神経インパルス、脳、構造
第8回	神経系 脊髄、末梢神経系
第9回	感覚系 受容体、体性感覚、特殊感覚
第10回	内分泌系 腺、ホルモン
第11回	血液、心臓 血液の組成、酸素運搬
第12回	循環系と循環 循環、動脈、静脈、血圧計測
第13回	医用計測1 血圧、心電図、脳波、呼吸機能、トモグラフィ
第14回	医用計測2 X線、トモグラフィ、超音波エコー
第15回	医用計測3 生化学検査、センサ
第16回	

(出典 専攻科 シラバス)

資料 5-6-③-2



(出典 松江工業高等専門学校 HP)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科シラバスには、授業概要、到達目標、使用テキスト、成績評価法、および授業計画と内容など必要な事項が記載されている。シラバスの活用については、新入生オリエンテーション時に指導している。また、活用状況については、授業アンケートにより把握している。

観点 5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

(観点到に係る状況)

専攻科課程では、2年間の特別研究を行っている。研究指導は、主査・副査の2人教員体制により、研究の企画・遂行や大学評価・学位授与機構への学修レポートの作成を行っている。また、英語科教員（ネイティブスピーカー）による英文 abstract や邦文論文の作成指導、国際会議での発表に関する指導も行っている。さらに、実践教育支援センターの技術職員による技術支援も、必要に応じて行われている。（資料 5-7-①-1）

特別研究では、指導教員の指導のもとに、2年次当初の中間報告会、2年次2月の特別研究報告会、ならびに特別研究論文の作成が行われている。また、本校では、学会等での学外発表を専攻科過程の修了要件として義務付けているため、積極的に学外発表も行われている。（資料 5-7-①-2）

さらに、2年次2月、松江テクノフォーラム主催の新技术創出セミナーにおいて、学外関係者に対して研究成果の紹介も行っている。（資料 5-7-①-3）

資料 5-7-①-1 A

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

4.10 専攻科生研究業績および受賞者一覧

生産・建設システム工学専攻

論文集論文
木村一郎, 寺本敦子, 小畑めぐみ, 細田 尚: 連結系汽水湖に遡上する高塩分水塊の挙動とその制御に関する基礎的研究, 水工学論文集, 第50巻, 2006年2月

国際会議
C. Yasui, M. Nagamitu, R. Takata, M. Ohtya, S. Sato, T. Nonaka: Examination of ASR in Waste Waste Glass Materials, Proceedings of The 30th Conference on OWCS, Singapore, pp.499-504, August 2005
D. Kaneko, T. Iudhara, M. Ohnishi, T. Ishiyama: Early warning method for rice production using remote sensing and meteorological data - Photosynthetic Crop Production Index -, Sustainable Developing and Planning, Bologna, Italy, 2, pp.815-824, September 2005
J. Asada, M. Ohtya, R. Matsubayashi, N. Harada, R. Takata, M. Naito, M. Waga, T. Katada : Preposal of an Immediate Action Support System to Operate in Real Time During Disaster, Proceedings of the International Symposium on Management System for Disaster Prevention (ISMD 2006), Kochi, Japan, March 2006
M. Ohtya, J. Asada, N. Harada, R. Matsubayashi, M. Hara, R. Takata, M. Naito, M. Waga, T. Katada : Disaster Information-gathering System using Cellular Phones with a Global Positioning System, Proceedings of the International Symposium on Management System for Disaster Prevention (ISMD 2006), Kochi, Japan, March 2006

口頭発表 (学協会等)
永光雅二, 高田龍一, 佐藤周之, 野中賢博: リン吸着型コンクリートの植生基材材としての転用効果に関する基礎的研究, 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要録, pp.425-426, 2005年5月
安食正太, 大塚 誠, 松崎靖彦, 麻生裕彦: 島根県における既設耐震性橋梁の実態調査, 第 57 回土木学会中国支部研究発表会要録, pp.523-524, 2005年5月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅二, 野中賢博: 腐ガラスの粒度別置換率がモルタルの性能に及ぼす影響, 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要録, pp.449-450, 2005年5月
安井千尋, 高田龍一, 永光雅二: 各種微粉末による ASR 抑制効果に関する基礎的研究, 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要録, pp.463-464, 2005年5月
吉持拓哉, 高田龍一, 安井千尋: 人口砂を利用したモルタルの強度特性に関する基礎的研究, 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要録, pp.463-464, 2005年5月
小畑めぐみ, 木村一郎, 松崎 健, 寺本敦子, 園野結貴: 湖に遡上する高塩分水塊の制御に関する数値解析的研究, 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要録, 2005年5月
金子大二郎・糸原俊広: GMS 日射量と世界気象データを用いた光合成型穀物生産指標の中国への試験的適用, システム農学会 2005 年度春季シンポジウム一般研究発表会要録, pp.68-69, 2005年5月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅二, 野中賢博: 発泡ガラス微粉末のコンクリートへの有効利用に関する基礎的研究, 平成 17 年度農業土木学会大会講演会要録, pp.578-579, 2005年8月
木村一郎, 小畑めぐみ, 松崎 健, 寺本敦子, 細田 尚: 連結系汽水湖に遡上する高塩分水塊の挙動とその制御について, 日本流体力学会年會 2005 講演論文集, 2005年8月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅二, 野中賢博, 佐藤周之: 無機微粉末による ASR 抑制効果に関する

(出典 Annual Report 2005)

資料 5-7-①-1 B

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

平成 17 年度土木学会中国支部研究発表会 (平成 17 年 5 月: 呉高専)

電子情報システム工学専攻

国際会議
Y. Takahashi, M. Koike, S. Fujii: Development of Ubiquitous Historical Learning System, Proceedings of the 2005 International Conference on Active Media Technology, p.272, May 2005
T. Katoh, T. Tsukutani, Y. Sumi, M. Higashimura, Y. Fukui: Versatile Current-Mode Translinear-C Biquadratic Circuit, Proceedings of The 2005 International Technical Conference on Circuits, Systems, Computers and Communications, Vol.1, pp.11-12, July 2005
T. Tsukutani, Y. Sumi, S. Edassaji¹, M. Higashimura, Y. Fukui: Electronically Tunable Current-Mode OTA-C Oscillator, Proceedings of The 2005 International Technical Conference on Circuits, Systems, Computers and Communications, Vol.3, pp.1021-1022, July 2005
¹ 現在 朝ゼイ・エム・エス
S. Fujii, Y. Takahashi, H. Fukuoka: Development of Ubiquitous Historical Tour Support System, 9th International Conference on Knowledge-Based Intelligent Information and Engineering Systems, pp.412-417, September 2005
T. Tsukutani, Y. Sumi, S. Iwanari, Y. Fukui, Novel Current-Mode Biquad Using MO-CCII's and Grounded Capacitors, Proceedings of The 2005 IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems, pp.433-436, December 2005
J. Hayashida, F. Dai, Y. Fujihara: Fundamental Study of Dielectric Elastomer as Artificial Muscle, Proceedings of The 11th International Symposium on Artificial Life and Robotics, on CD-ROM, January 2006
T. Nakamura, F. Dai, Y. Fujihara: Research on Autonomous Mobile Robot for Visually Handicapped Humans, Proceedings of The 11th International Symposium on Artificial Life and Robotics, on CD-ROM, January 2006

技術研究報告
加藤俊也, 築田隆志, 藤井 裕: 特性可変型カレントコンペアによる電流モードバイカッド回路の実現, 第 7 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文集, pp.47-48, 平成 17 年 11 月
岡村一徳, 亀谷 均: CO₂ を利用した非接触呼吸計測法に関する研究, 第 7 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文集, pp.109-110, 平成 17 年 11 月
森山拓介, 加藤 聡, 堀内 匠: 古文書を対象にした文字認識に関する研究, 電子情報通信学会技術研究報告, 平成 18 年 3 月

口頭発表 (学協会等)
野畑敏彦: 視覚キーボードを用いた自律移動ロボット搭載マニピュレータの研究, 第 32 回日本経営工学会学生論文発表会, 平成 18 年 3 月
根津康博: 愛動歩行を利用した歩行ロボットの試作, 第 32 回日本経営工学会学生論文発表会, 平成 18 年 3 月
福高志斗, 箕田志志, 恒次秀起, 栗原亮次, 田中博一: LED を用いた花の成長システム, 平成 17 年度電気学会産業応用部門大会, Y-64, 平成 17 年 9 月
栗原亮次, 箕田志志, 稲若和昭, 松本康雄, 川中 学, 米田和彦: 水質監視システムの開発, 平成 17 年度電気学会産業応用部門大会, Y-67, 平成 17 年 9 月

(出典 Annual Report 2005)

資料 5-7-①-2 A



(出典 松江工業高等専門学校 HP)

資料 5-7-①-1 B



(出典 松江工業高等専門学校 HP)

資料5-7-①-3

しまね新技術創設セミナー

松江テクノフォーラム・松江工業高等専門学校
第5回 しまね新技術創出セミナー

■日 時
平成18年2月17日(金) 14:30~

■場 所
島根県民会館 中ホール

入場無料

あいさつ 14:30~14:40
松江テクノフォーラム 会長 稲塚 公郎

講演 1 14:40~15:40
講師：株式会社プレス・オールターナティブ 代表取締役 片岡 勝
演題：現代社会とチャレンジ精神
(プロフィール)
慶應義塾大学卒業後、三菱信託銀行を経て85年同社を設立。発展途上国の商品を輸入して地域自立を助ける第三世界ショップを展開するほか、89年市民バンクを立ち上げ、社会的に意味のある事業を対象に無担保・低利の融資をし、起業を支援。

講演 2 15:40~16:10
講師：松江工業高等専門学校長 宮本 武明
演題：島根の未来と松江高専

松江高専 専攻科生特別研究・5年生卒業研究 16:25~17:35
プレゼンテーションコンテスト & 研究テーマ相談会
●最新の研究のうち、特に優秀な研究について、ポスターや講演などによるプレゼンテーションコンテスト(参加者全員の投票)を行います。
●企業・一般市民の皆様での実施が困難な研究を平成18年度の特別研究・卒業研究として実施いたしますので、気軽にご相談ください。

お問い合わせ先 **松江テクノフォーラム事務局** 島根・芦田
TEL: 0852-36-5116 FAX: 0852-36-5119 e-mail: kikaku@matsue-ct.jp

(出典 松江テクノフォーラム)

(分析結果とその根拠理由)

特別研究の指導は、主査・副査の2人指導体制で行われている。学内での報告会はもとより、学外での発表も積極的に行われ、その発表件数や受賞件数から十分な研究指導がなされていると思われる。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点到に係る状況)

単位認定や修了認定は、規則として定められ、(前掲 資料5-5-③-1) 専攻科履修ガイドブックに記載されている。新入生オリエンテーションにおいて、ガイドブックをもとに説明している。また、成績評価方法については、シラバスに明記され、授業担当教員が説明している。

単位認定、および修了認定は、規則に基づき専攻科委員会で行われ、教員会議で報告されている。

(分析結果とその根拠理由)

単位認定や修了認定は、規則として定められ、専攻科履修ガイドブックに記載されている。新入生オリエンテーションにおいて、ガイドブックをもとに説明し周知が図られている。また、成績評価方法についても、シラバスをもとに授業担当教員が説明し、周知されている。

単位認定、および修了認定は、規則に基づき専攻科委員会でも適正に行われ、教員会議で報告されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程においては、低学年の一般科目での履修内容を基礎とし、学年進行に伴って専門学科ごとに特色ある専門課程を体系立てて編成している。また、教育目標に掲げる、自ら学ぶ姿勢や新しいものを創り出す意欲を助長するよう講義・演習・実験・実習などがバランスよく配置されている。数多く提供される選択科目には、コア科目を学科ごとに設定し、必要な知識や能力を保証する体系としている。

専攻科課程においては、準学士課程との連携を考慮した教育課程となっており、専攻科の教育理念にある「研究開発能力」「専門知識」「職業倫理」および「国際性」を達成するために適切なものになっている。

準学士課程および専攻科課程の共通事項として、教育目標と各授業科目の関連が明確にされて、シラバスには到達目標や評価基準も明記されていることから、教育目標を達成するために適切なものになっている。

(改善を要する点)

専攻科は設置から数年であるので、今後更にカリキュラムの充実や教育改善を意欲的に続けていく必要がある。準学士課程においても、教務委員会・カリキュラム委員会・FD委員会を機能的に運用することで、Plan-Do-Check-Actionのサイクルを常にまわし続けていく必要がある。

(3) 基準5の自己評価の概要

<準学士課程>

低学年の一般科目での履修内容を基礎とし、学年進行に伴って専門学科ごとに特色ある専門課程を体系立てて編成している。教育目標と各授業科目の関連が明確にされていることから、授業内容が教育課程編成の趣旨に沿っており、教育目標を達成するために適切なものになっている。また、本校の創造教育については、専門科目の約4割相当に工夫がなされている。実施には実践教育支援センターの支援体制が整備され、質的向上を目指すためのFD活動も機能している。

インターンシップや各種資格試験も積極的に勧め、単位認定もしている。4年次に8割から9割の学生がインターンシップに参加している。学生の学習意欲向上やキャリア教育に対する観点からも効果があると判断できる。成績評価・進級・卒業認定の規定は組織として策定され、履修ガイダンス、学生ガイドブックおよび学内のホームページにより学生に周知されている。シラバスにより到達目標や評価基準などと合わせて学生は科目担当者からも詳しい説明を受けている。

本校の教育目標では、自らが学ぶ姿勢や意欲など自主性を育てることを目標としている。そのため学生指導においては第1～3学年と第4、5学年とでは異なった取組（教員の朝の連絡会、学年会、学生掲示板、第4、5学年での選択教室制）を行なっている。教員間の連携をもとに下級生の指導体制を強化することは人間の素養向上と第4、5学年生における自主性の育成に繋がっていると考える。

<専攻科課程>

本校の専攻科課程は二つの専攻から構成されており、いずれも準学士課程の各学科を母体に構成されている。教育課程の科目関連図から、準学士課程との連携を重視した教育課程となっており、授業科目は適切に配置され、教育課程の体系性が確保されている。また、授業内容より明らかなように、教育課程は、専攻科課程の教育理念を達成するために適切なものになっている。講義、演習、実験実

習のバランスは適切であると思われる。少人数授業，講義と演習の組合せによる授業，対話・討論型の授業やフィールド型授業も行われており，適切な授業の工夫がなされていると思われる。

他専攻の授業科目の履修，大学や他の高等専門学校専攻科等における授業科目の履修やインターンシップを実施している。特別研究の指導は，主査・副査の2人指導体制で行ない，学内での報告会や学外での発表も積極的に行われ，その発表件数や受賞件数から十分な研究指導ができていると思われる。

単位認定や修了認定は，規則として定められ，専攻科履修ガイドブックに記載されている。新入生オリエンテーションにおいて，周知が図られている。また，成績評価方法も，シラバスに基づき授業担当教員が説明し，周知されている。単位認定や修了認定は，規則に基づき専攻科委員会で適正に行われ，教員会議で報告されている。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

準学士課程では本校の教育目標の「学んで創れるエンジニア」を基に、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について一般科（人文科学科，数理科学科），機械，電気，電子制御，情報，環境・建設工学科で目標が資料のように設定されている。（資料6-1-①-1）

この教育目標に従って、カリキュラムが構成されているし、学生募集も行っている。各学科は教育目標に向かって教育を行っている。この教育目標に相当するカリキュラムを資料2（本校電気工学科の例）のように課程に応じて構成している。（資料6-1-①-2）

平成17年度後期から、学習達成度評価をこの教育目標との対応表を基に、教育目標達成度を成績通知表として評価し、学生に照会している。学生に教育目標達成度の評価を照会することで、カリキュラムの内容が教育目標を満足する内容になっているかを確認する。（資料6-1-①-3）

資料6-1-①-1

一般科（人文科学科，数理科学科）				
aG1：日本語による記述・理解・発表等の基礎能力がある。	aG2：日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。	aG3：外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある	aG4：自然科学に関する基礎的な知識がある。	aG5：社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。
機械工学科				
aM1：機械工学に関する基礎的な専門知識がある。	aM2：モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。	aM3：コンピュータを、機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。	aM4：実験・研究の結果を解析，考察できる基礎能力がある。	
電気				
aE1：電気・電子機器を扱うための基礎的な専門知識がある。	aE2：電気・電子機器を作るための専門的な基礎能力がある。	aE3：コンピュータを用い、情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。	aE4：データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。	
電子制御				
aD1：電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。	aD2：機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。	aD3：制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。	aD4：各分野の知識を、ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。	aD5：データを収集・解析・考察できる基礎能力がある。

情報				
aJ1：コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎的な専門知識がある。	aJ2：コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎的な専門知識がある。	aJ3：コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎的な専門知識がある。	aJ4：データを解析・考察し、説明できる基礎能力がある。	aJ5：コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。
環境建設				
aC1：構造力学，土質力学，水理学，建設材料学，環境工学に関する基礎的な知識がある。	aC3：実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。	aC4：設計製図，情報処理，測量に関する基礎的な技術がある。	aC5：災害を防ぎ，環境を守る技術の基礎的な知識がある。	

(出典 学習ガイド 平成 18 年度版)

資料 6 - 1 - ① - 3

学習達成度

学生番号 氏名

Table with columns for course year (第1学年 to 第5学年), subject name, score, and achievement level (1-5). The table is divided into five sections corresponding to each year.

Summary table with columns: 取得単位数 (Credits), 平均値 (Average), and 達成度 (Achievement). It includes a legend for achievement levels (A, B) and a list of 5 specific criteria for the 'Specialized Course Achievement' section.

(出典 教務委員会)

(2) 専攻科課程

専攻科課程では、前期末及び学年末において、専攻科委員会により各学生の成績状況（平均点）、単位取得の状況、進級の状況、人物的能力を把握・評価している。問題のある学生には、指導教員から指導を行う対策が講じられる。

学生の総合的な達成度は、特別研究を通して評価している。特別研究の進捗状況は2年次6月に開かれる特別研究中間報告会で評価される。また、最終報告会を2年次2月に行い、研究内容・水準の総合的な評価が行われる。（資料6-1-①-4）

平成17年度後期から、教育目標に対する到達度を学生に照会している。

資料6-1-①-4 A

平成17年度 生産・建設システム工学専攻 中間発表会 採点表

参加された教員の皆様へ

以下の各項目について、5段階評価[(不足)←1, 2, 3, 4, 5→(良好)]で採点をお願いします。

No.	氏名	理解度	パワーポイント	発表の分かりやすさ	質疑応答
1					
2					
3					
4					
5					
6					

(出典 専攻科委員会)

資料6-1-①-4 B

平成16年度

専攻科中間発表予稿集

生産・建設システム工学専攻

The Advanced Engineering Faculty
Intermediate Thesis Work Reports

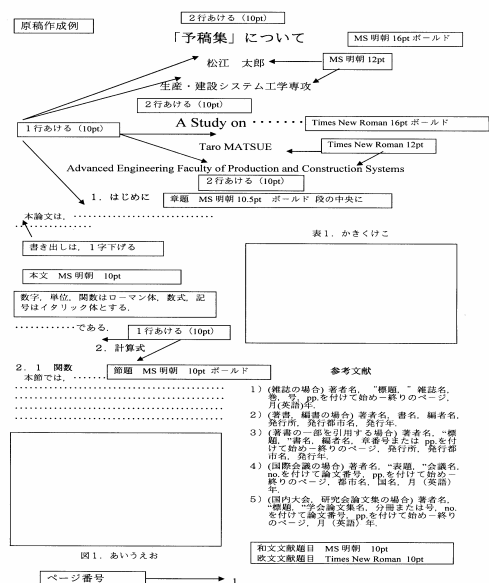
Advanced Production and Construction Systems

日時:平成16年5月21(金) 13時15分~14時50分
会場:652講義室(専攻科棟5F)

国立 松江工業高等専門学校
Matsue National College of Technology

(出典 専攻科委員会)

資料6-1-①-4 C



(出典 専攻科委員会)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

平成17年度は、第5学年生についてこの教育目標とカリキュラムの関係を基に、学生の教育目標に対する取得単位を学生に示し、学生の確認用のアンケートを実施した。このアンケート結果の詳細は観点6-1-④で示すこととするが、卒業時に身に付けた学力、資質・能力は教育目標に対して充分達成していると判断できる。

(2) 専攻科課程

適時、専攻科生に対する状況を把握し、指導教員を通して本人にフィードバックしている。学生の総合的な達成度は、特別研究を通して評価している。教育目標に対する達成状況の結果の詳細については、観点6-1-④で示すこととするが、修了時に身に付けた学力、資質・能力は教育目標に対して充分達成していると判断できる。

観点6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

高専の目的である「職業に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成する」という観点からは、準学士課程卒業後の就職時進学時に必要となる能力を育成する必要がある。単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況については、次の観点6-1-③に示す卒業率がその状況を示していると考えられる。この点については、退学率が近年減少していることから、十分とは言えないが成果が上がってきている。

資格取得の状況について、以下にその状況を示す。本校では、準学士課程卒業後の就職時進学時に推奨される資格については、特別学修単位として単位を与えている。その単位申請がなされた記録から本校の資格取得者の推移を資料1（資料6-1-②-1）に示す。資格としては、日本語（漢字能力検定）、英語（英検、TOEIC）、専門がある。総数は実線（茶）で示すように、年々増加し、平成16年度は約130人がこれらの資格を取得している。

英語資格について更に状況を見ると（資料6-1-②-2）、TOEICの受験者数が増加している。これは本校の教育目標の一つである「外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある」を達成するためにカリキュラムの内容変更したことが考えられる。平成17年度にTOEIC受験者が急増しているのは後援会からの金銭的支援と学校行事化による団体受験の効果である。受験者数の増加によって平均点が低下している点は今後の改善点である。

卒業研究の内容・水準としては、具体的な指標を示すことが難しいので校外での学会発表の件数によって評価する。資料3（資料6-1-②-3）は、準学士課程の卒業研究の中で行われた学外発表の件数の推移である。年度毎に増加傾向にある。この変化は、本校専攻科学生に学外発表が特別研究に義務付けられている影響もあると考えられる。

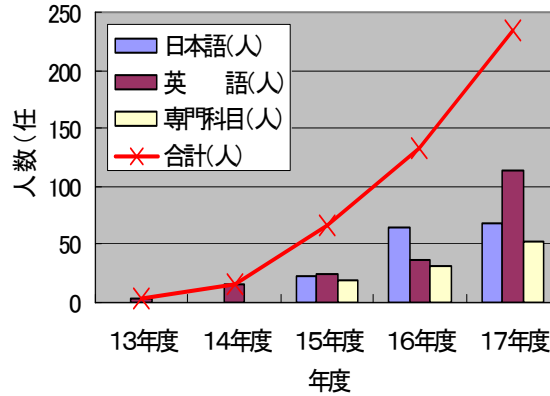
資料6-1-②-1

平成16年度 資格取得単位認定科目一覧表

【4年生】

学科	元号	資格名	科目名	資格取得年月日	認定単位	備考
第一学年	1	漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成13年2月17日	1	
		基礎英語検定	特別学修(基礎英語)	平成13年7月18日	1	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成13年7月18日	1	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成13年7月18日	1	
第二学年	2	TOEIC 205点	特別学修(国際英語)	平成13年8月18日	1	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成14年11月22日	3	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成15年11月21日	3	
		TOEIC 400点	特別学修(国際英語)	平成15年2月19日	2	
第三学年	3	漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成15年2月19日	1	
		TOEIC 400点	特別学修(国際英語)	平成15年11月21日	2	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成15年11月21日	2	
		TOEIC 400点	特別学修(国際英語)	平成15年2月19日	2	
第四学年	4	TOEIC 805点	特別学修(国際英語)	平成15年2月19日	1	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成15年11月21日	1	
		TOEIC 805点	特別学修(国際英語)	平成15年2月19日	4	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成15年2月19日	1	
合計		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成13年7月18日	3	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成13年7月18日	1	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成14年8月18日	1	
		漢字能力検定2級	特別学修(漢字)	平成15年2月19日	1	

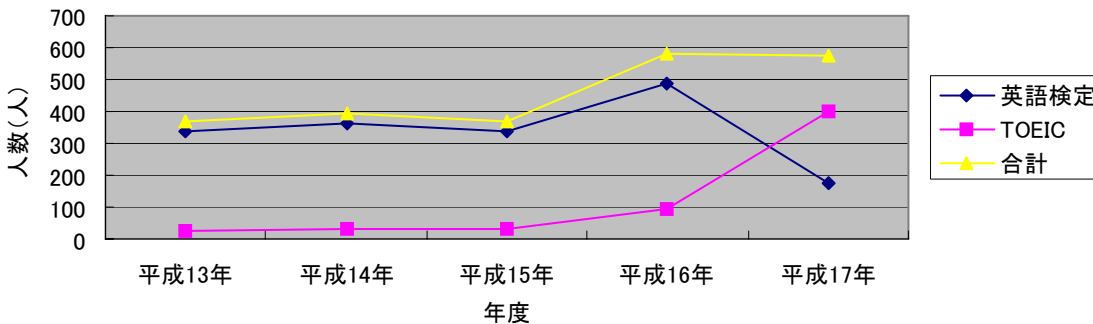
資格取得者の推移



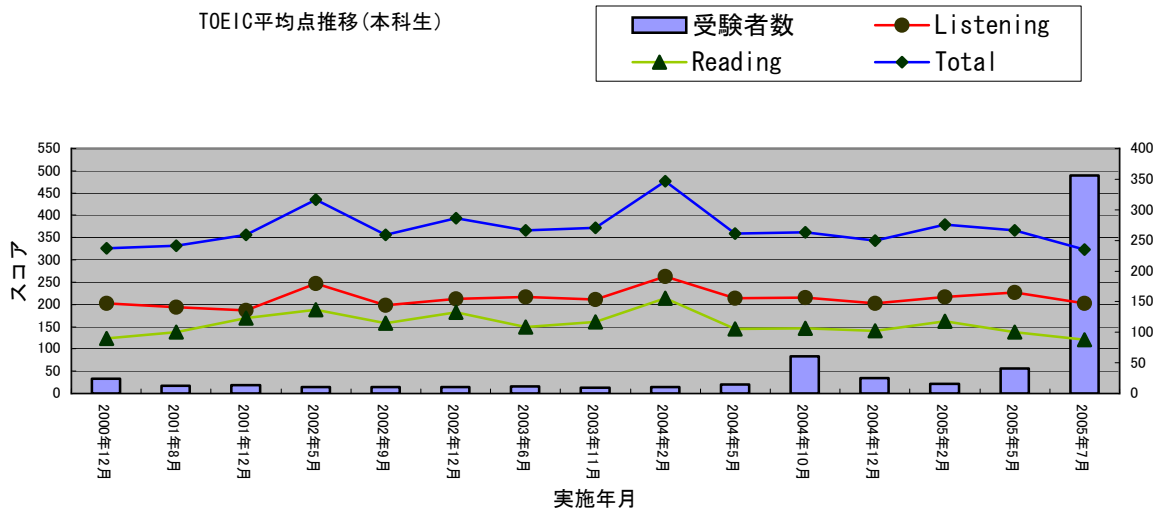
(出典 学生課 作成資料)

資料6-1-②-2

英語資格試験受験者の推移

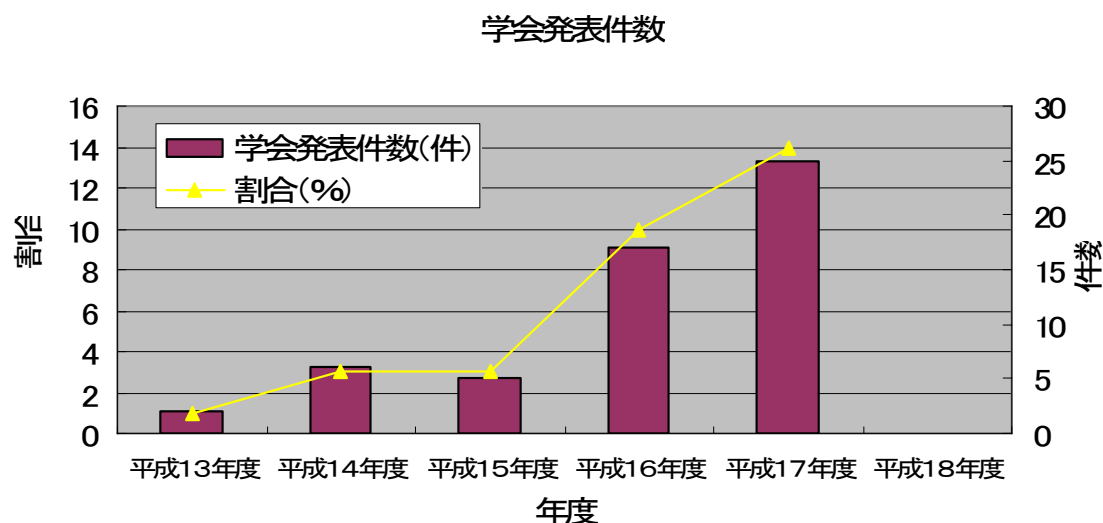


TOEIC平均点推移(本科生)



(出典 教務課 作成資料)

資料 6-1-②-3



(出典 学生課 作成資料)

専攻科課程

専攻科の入学者数に対する修了者数，学位取得者数については，以下のようにまとめられる。平成 14，15 年度における修了者の割合は，90.4%（入学者 21 名中，中途退学 2 名），86.2%（入学者 29 名中，中途退学 3 名，留年者 1 名）である。修了者に対して学位取得率は，現在 100%を維持している。（資料 6-1-②-4）

特別研究の内容や水準を判断する材料として，学外発表の状況や学協会の表彰が上げられる。専攻科生の研究業績を下表に示している。学外発表は専攻科の修了要件として義務付けられているが，多くの学生が修了要件を超えて 2 回以上発表している。また，学協会による受賞数も年々増え，研究の質の向上が伺える。（資料 6-1-②-5）

資料 6-1-②-4

専攻科生の状況

	H14 年度入学生			H15 年度入学生			H16 年度入学生			H17 年度入学者			
	P 専攻	S 専攻	合計	P 専攻	S 専攻	合計	P 専攻	S 専攻	合計	P 専攻	S 専攻	合計	
入学者数	7	14	21	10	19	29	8	16	24	12	22	34	
修了者数	6	13	19*	7	18	25*	7	14	21*	—	—	—	
学位取得者	6	13	19	7	18	25	7	14	21	—	—	—	
進路	就職	4	9	13	7	15	22	5	11	16	—	—	—
	進学	2	4	6	0	3	3	0	2	2	—	—	—
	その他	0	0	0	0	0	0	2	1	3			

【定員 P：8名，S：12名，定員合計 20名】P：生産・建設システム工学専攻，S：電子情報システム工学専攻

H14年度入学生欄 *：中途退学2名

H15年度入学生欄 *：中途退学3名，留年1名（留年1名はH18.3修了）

H16年度入学生欄 *：中途退学1名，除籍1名，留年2名

(出典 学生課 作成資料)

資料 6-1-②-5

専攻科生の研究業績

年度	H14 年度			H15 年度			H16 年度		
	P 専攻	S 専攻	合計	P 専攻	S 専攻	合計	P 専攻	S 専攻	合計
国際会議	0	2	2	0	4	4	0	4	4
口頭発表	7	19	26	19	35	54	20	37	57
技術報告	0	3	3	1	13	14	1	10	11
その他	1	3	3	12	30	42	8	32	40
受賞	2	1	3	1	4	5	2	5	7

P：生産・建設システム工学専攻，S：電子情報システム工学専攻

(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況は、準学士課程の退学率は減少傾向にあるものの、退学率2.4%と高いことから成績不振者の学習支援体制の強化が必要であると考えられる。資格取得の者数の推移と卒業研究と内容・水準を学会発表の推移から判断すると教育の成果や効果が向上傾向にあると考えられる。

(2) 専攻科課程

修了や学位取得の状況、研究活動の状況より明らかなように、教育の成果が十分に上がっていると思われる。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

本校は、進学率33%、就職率67%となっており、進学率が全国高専平均よりもやや低い。(資料 6-1-③-1)

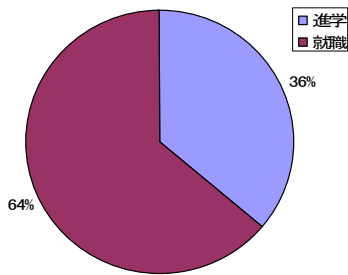
就職については、各年度の本校と全国高専の求人倍率の比較を資料 2 に示す。(資料 6-1-③-2) 平成11年度から平成16年度の間は、機構全体の平均と同様ほぼ10倍の求人倍率となっている。

資料 3 の本校と全国高専との産業別就職者数の推移の比較からは、本校情報工学科設置（平成 4 年）から初の卒業生となる平成 8 年度からサービス業への就職者が増加している。機構全体と比較すると製造業への就職者の割合が低くなっている。(資料 6-1-③-3)

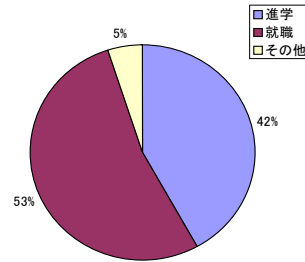
進学率の推移と大学編入と専攻科進学の割合を資料 4 に示す。(資料 6-1-③-4) 機構全体の進学率をやや下回るものの、本校の専攻科設置後進学率は上昇傾向にある。専攻科の進学率の上昇が全体の進学率アップに繋がっている。

資料6-1-③-1

本校と全国高専の就職と進学についての比較



(a) 本校の進路状況 (平成17年度)

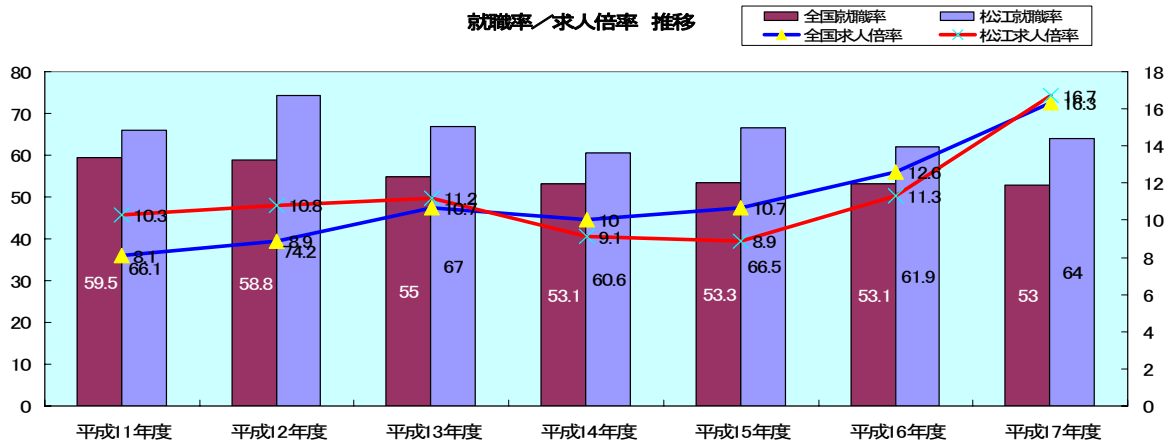


(b) 機構全体の進路状況 (平成16年度)

(出典 学生課 作成資料)

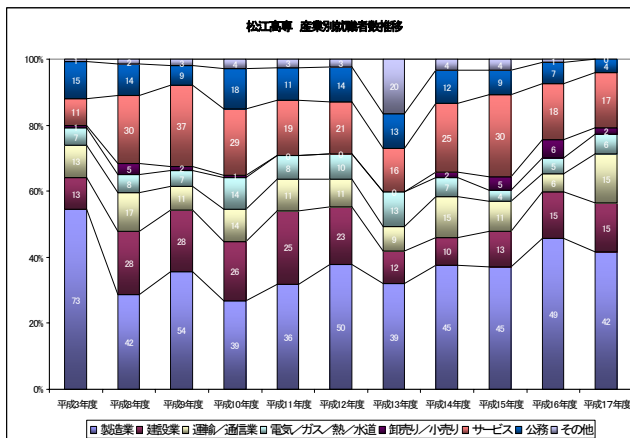
資料6-1-③-2

本校と全国高専の求人倍率の比較

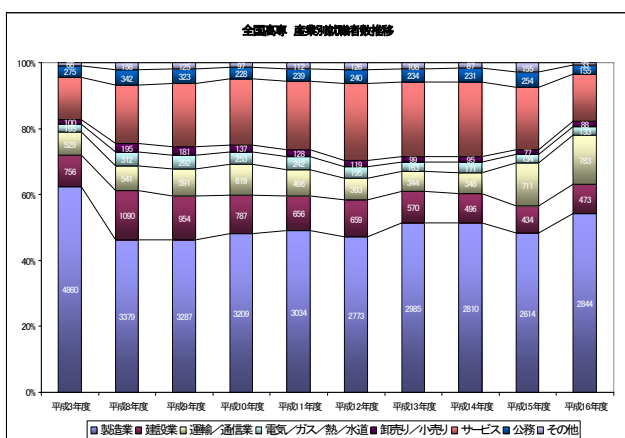


(出典 学生課 作成資料)

資料6-1-③-3 A



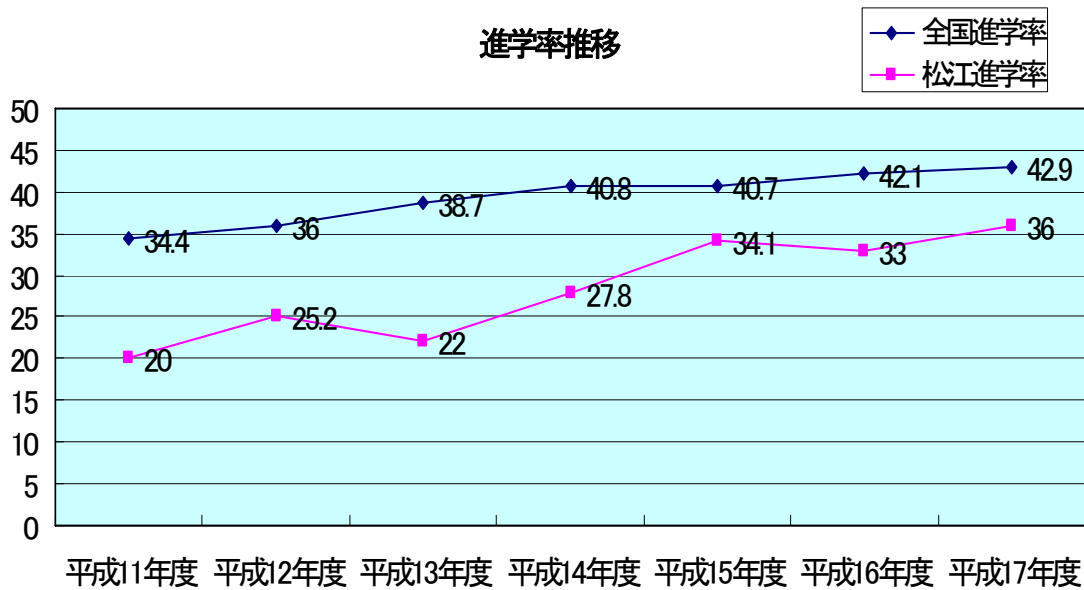
(a) 松江高専 産業別就職者数の推移



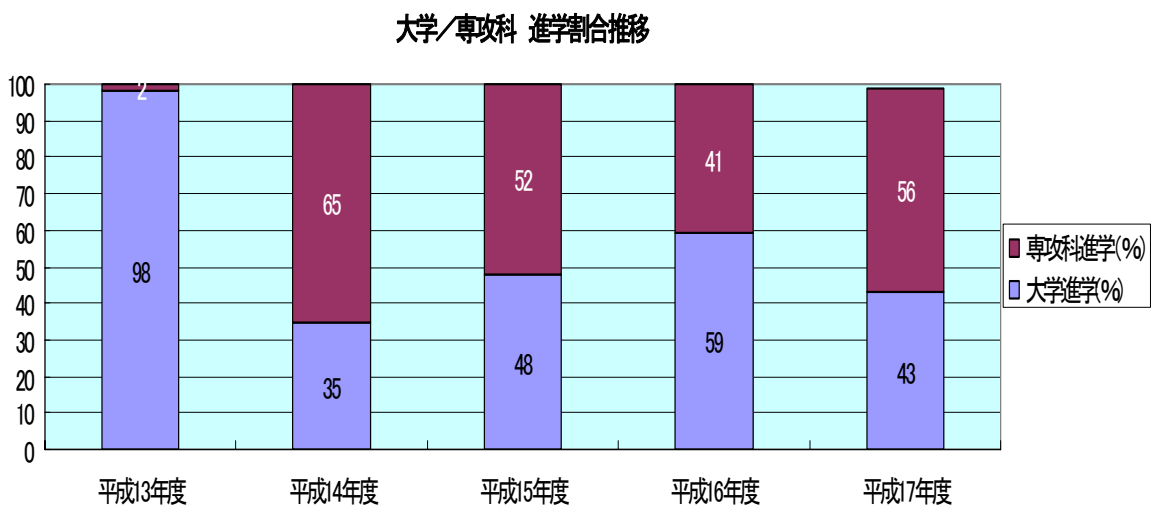
(b) 高専機構 産業別就職者数の推移

(出典 学生課 作成資料)

資料 6 - 1 - ③ - 4 A



(a) 進学率の推移



(b) 進学時の大学編入/専攻科割合

(出典 学生課 作成資料)

(2) 専攻科課程

平成15年度、平成16年度において、44名の学生が就職や進学を決定している。その内訳は、平成15年度、両専攻ともおよそ就職70%、進学30%である。平成16年度は、生産・建設システム工学専攻は就職100%、電子情報システム工学専攻は就職72%、進学17%、その他11%であり、全体では、就職80%、進学12%、その他8%となっている。(資料6-1-③-5)

就職先の産業別内訳は、両年度とも製造業が最も多く、次いでサービス業に就職している。(資料6-1-③-6) 進学については、各大学院へ進学している。

資料6-1-③-5 A

専攻科修了生の進路の内訳

平成15年度 専攻科修了生の進路 (人)

学科	進路	就職	進学	その他	合計
		() 内は割合	() 内は割合	() 内は割合	() 内は割合
生産・建設システム工学専攻		4 (67%)	2 (33%)		6 (100%)
電子情報システム工学専攻		9 (69%)	4 (31%)		13 (100%)
計		13 (68%)	6 (32%)		19 (100%)

専攻科修了生の進路

年度	専攻 進路	生産・建設システム工学専攻	電子情報システム工学専攻
		平成15 (2003)	就職
(株)竹下技術コンサルタント	NECテレネットワークス(株)		
フジキコーポレーション(株)	(株)カンセツ		
(株)前川製作所	(株)島根富士通		
	(株)ジャパンアウトソーシング		
	総合警備保障(株)		
	デンソーテクノ(株)		
	日本クレストロン(株)		
進学	群馬大学大学院		名古屋大学大学院
	鳥取大学大学院		広島大学大学院
			九州工業大学大学院
			奈良先端科学技術大学院大学

(出典 学生課 作成資料)

資料6-1-③-5 B

平成16年度 専攻科修了生の進路 (人)

学科	進路	就職	進学	その他	合計
		() 内は割合	() 内は割合	() 内は割合	() 内は割合
生産・建設システム工学専攻		7 (100%)			7(100%)
電子情報システム工学専攻		13 (72%)	3 (17%)	2(11%)	18(100%)
計		20 (80%)	3 (12%)	2(8%)	25(100%)

年度	専攻 進路	生産・建設システム工学専攻	電子情報システム工学専攻
		平成16 (2004)	就職
川崎重工業(株)	アースサポート(株)		
(株)キグチテクニクス	(株)ジェイ・エム・エス		
島根三洋工業(株)	ジェイズ・コミュニケーション(株)		
日本ファースト証券(株)	セコム(株)		
広島エルピーダメモリ(株)	デンソーテクノ(株)		
国土交通省	鳥取三洋電機(株)		
	(株)日立国際電気サービス		
	日立ハイブリッドネットワーク(株)		
	(株)堀場製作所		
	松江ナカバヤシ(株)		
	松下モータエキスパート(株)		
進学			出雲科学館
			島根大学大学院 (2名)
			広島大学大学院
その他		未定 (2名)	

(出典 学生課 作成資料)

資料 6-1-③-6

専攻科修了生の就職先の産業別内訳

専攻科	修了年度		計
	平成 15 年度	平成 16 年度	
建設業			
製造業	6	14	20
電気・ガス・熱供給・水道業			
情報通信業	1		1
運輸業			
卸売・小売業	1		1
金融・保険業		1	1
サービス業	5	3	8
公務員		1	1
その他		1	1
合 計	13	20	33

(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

進路状況は、ほとんどの卒業生が本校で学んだ知識や技術を生かした進路となっていることを示している。専攻科や大学編入の割合が増加していることは、社会がより高度な技術をもった技術者を要求していることが関連していると考えられる。卒業後の進路状況の実績から判断して、教育の成果は社会に還元されていると考えられる。

(2) 専攻科課程

進路指導委員会を中心とした指導体制のもとに、ほとんどの学生が就職や進学を決め、本校を巣立っている。進路状況から明らかなように、教育の成果が上がっているといえる。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

本校の準学士課程のカリキュラムは観点 6-1-①で示すように各学科の準学士課程教育目標に対応している。本校の退学率の年推移を資料 1 (資料 6-1-④-1) に示す。全体的に減少傾向にあるが、2.4%の退学率は千人の定員の学校では24名の退学者がいることになり、社会的にも大きな問題であると考えられる。島根県公立高校の退学率は、ほぼ1%となっている。3学年での課程修了者を除くと、本校の退学率は約1%であり、高校と同程度とも考えられる。国立大学での退学者数は約6千3百人、休学者は1万8百人である。割合でみると退学率1.6%、休学率2.7%である。(資料 6-1-④-1)

本校の休学率は0.3%程度であり、学年制もその要因であると考えられる。留年生の退学率を資

料6-1-④-2に示す。卒業率の向上を図るためには、低学年での学習支援や留年生の学習支援に対して改善が必要であると考えられる。(資料6-1-④-2)

平成18年2月に実施した満足度アンケートによると、①一般科目の授業(講義形式)では満足(ほぼ満足を含む。「以下同じ」)している者が94.3%、②一般科目の実技科目(物理・化学実験、体育等)では91.3%、③専門科目の授業(講義形式)では95.0%、④専門科目の実験実習では95.0%、⑤卒業研究では93.5%である。(資料6-1-④-3 A~E)

学生側からの学習達成度評価は、平成18年3月に実施した。この評価方法は、卒業生各個人ごとに教育目標到達度表(教育目標に対する到達度を記したもの)をアンケート用紙と同時に配付し、その結果を取り纏めたものである。その内容は、各教育目標ごとに

- | | | |
|---|-------|----------------------|
| 1 | 評価<実力 | : 評価よりも高い実力が身についている。 |
| 2 | 評価=実力 | : 実力をほぼ正しく評価されている。 |
| 3 | 評価>実力 | : 評価ほどには実力が身についていない。 |

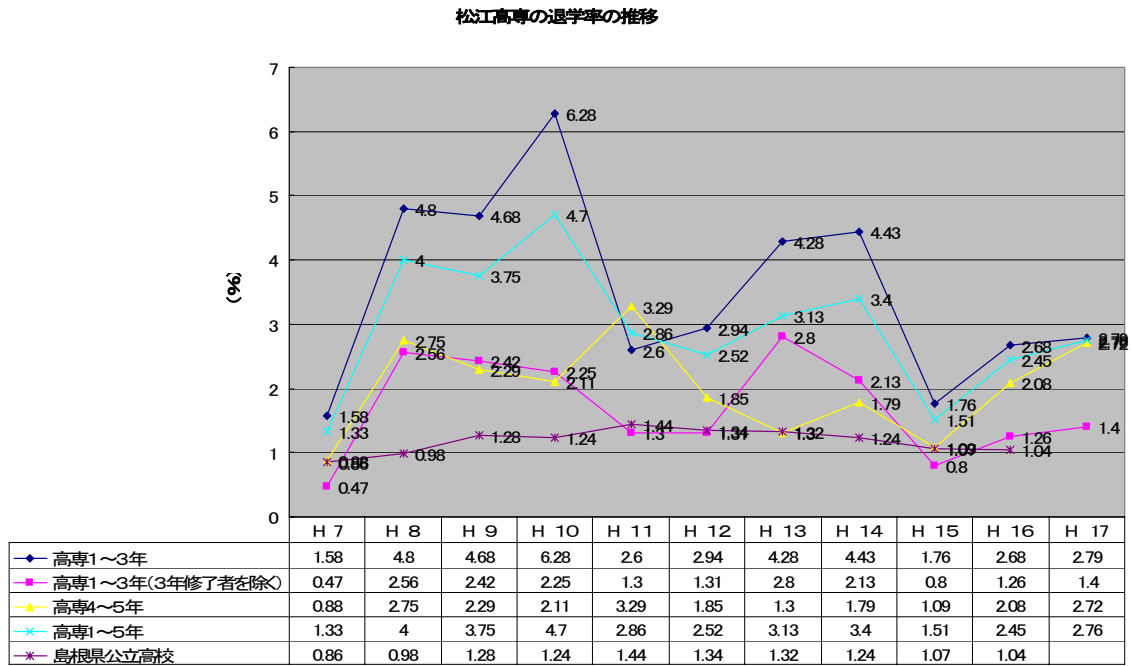
を判断させるものである。(資料6-1-④-4)

結果によると、「評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。」が多数を占める(70.4%~83.3%)が、人文及び数理科学科では、全体として外国語による基礎的なコミュニケーション能力について、評価ほどには実力が身についていないと回答した者が多かった。

専門学科ごとでは、「評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。」と回答した者は、機械83.3%、電気82.3%、電子制御82.2%、情報81.9%、土木83.3%であった。

全体を通して、評価ほどには実力が身についていない理由として自分自身に責任があると回答した者があった。(資料6-1-④-5 A~E)

資料 6 - 1 - ④ - 1



資料 1 本校退学率の推移

(出典 学生課 作成資料)

資料 6 - 1 - ④ - 2

留年生の卒業率

H18.4.1現在

	1年	2年	3年	4年	5年	計	卒業率(%)
H 9	0(0)	2(2)	1(7)	4(5)	0(0)	7(14)	50
H 10	3(4)	0(4)	1(4)	9(14)	0(0)	13(26)	50
H 11	0(3)	1(3)	4(5)	2(5)	0(0)	7(16)	44
H 12	0(0)	2(6)	1(3)	10(11)	0(0)	13(20)	65
H 13	0(1)	2(9)	3(6)	2(2)	0(1)	7(19)	37
計	3(8)	7(24)	10(25)	27(37)	0(1)	47(95)	49
卒業率(%)	38	30	40	73	0	49	
	35			71			

H 14	0(7)(3)	0(2)	1(4)(2)	3(5)	0(0)	4(18)(5)
H 15	0(2)(1)	0(1)	0(7)	1(6)	0(0)	1(16)(1)
H 16	0(1)(1)	0(7)(2)	0(3)(1)	0(17)(13)	0(2)(1)	0(30)(18)
H 17	0(4)(4)	0(4)(4)	0(4)(4)	0(19)(19)	0(12)(12)	0(43)(43)

A (B) (C)

A:留年生(B)のうち卒業した学生数

B:留年生数(退学した学生を除き、最履修をした学生数)

C:留年生(B)のうち在学中の学生数

資料 2 留年生の卒業率

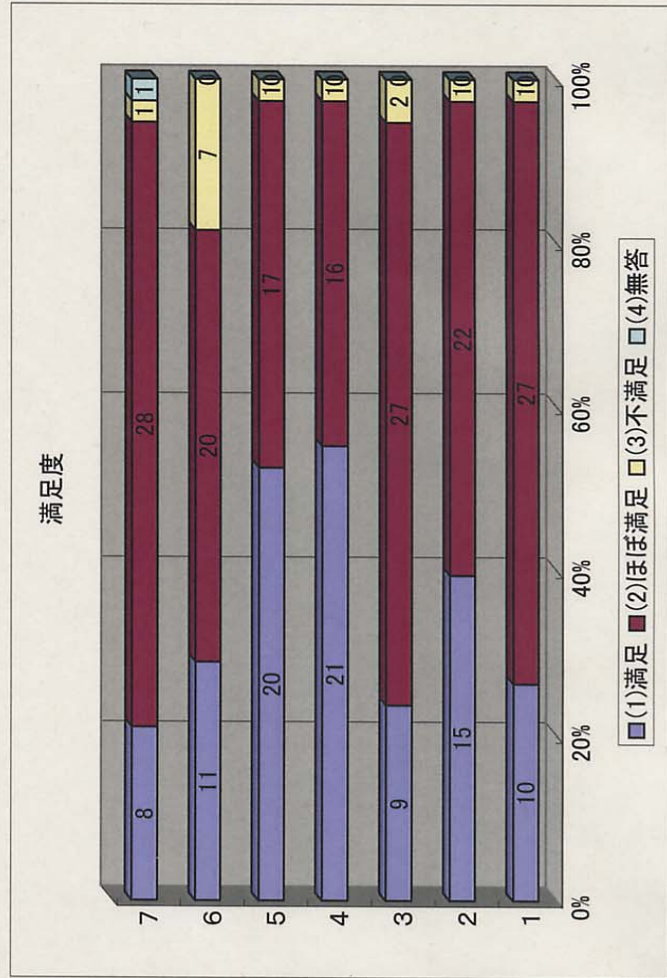
(出典 学生課 作成資料)

資料 6-1-④-3 A

平成17年度準学士卒業予定者「満足度、重要度」アンケート（機械工学科）

平成18年 2月 2日～ 2月22日の間で実施 該当学生数 38 回答数 38

番号	質 問 内 容	(1)満足	(2)ほぼ満足	(3)不満足	(4)無答	備考
1	一般科目の授業（講義形式）について	10	27	1	0	
2	一般科目の実技科目（物理・化学実験、体育等）について	15	22	1	0	
3	専門科目の授業（講義形式）について	9	27	2	0	
4	専門科目の実験実習について	21	16	1	0	
5	卒業研究について	20	17	1	0	
6	本校の施設（建物等）について	11	20	7	0	
7	本校の施設（機器等）について	8	28	1	1	

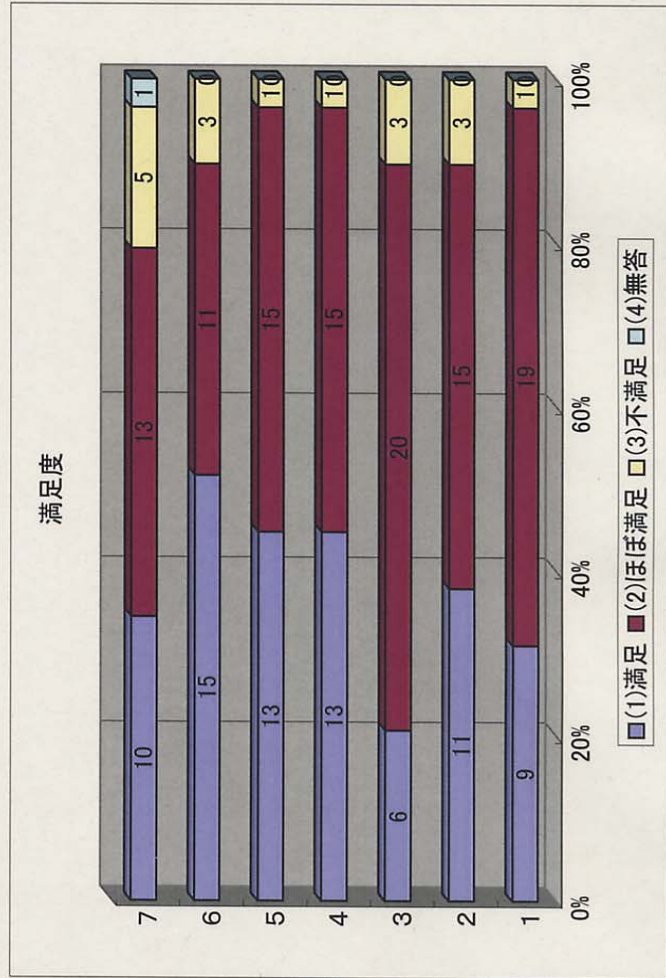


(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-3 B

平成17年度準学士卒業予定者「満足度」アンケート（電気工学科）
 平成18年 2月 2日～ 2月22日の間で実施 該当学生数 32 回答数 29

番号	質問内容	(1)満足	(2)ほぼ満足	(3)不満足	(4)無答	備考
1	一般科目の授業（講義形式）について	9	19	1	0	
2	一般科目の実技科目（物理・化学実験、体育等）について	11	15	3	0	
3	専門科目の授業（講義形式）について	6	20	3	0	
4	専門科目の実験実習について	13	15	1	0	
5	卒業研究について	13	15	1	0	
6	本校の施設（建物等）について	15	11	3	0	
7	本校の施設（機器等）について	10	13	5	1	



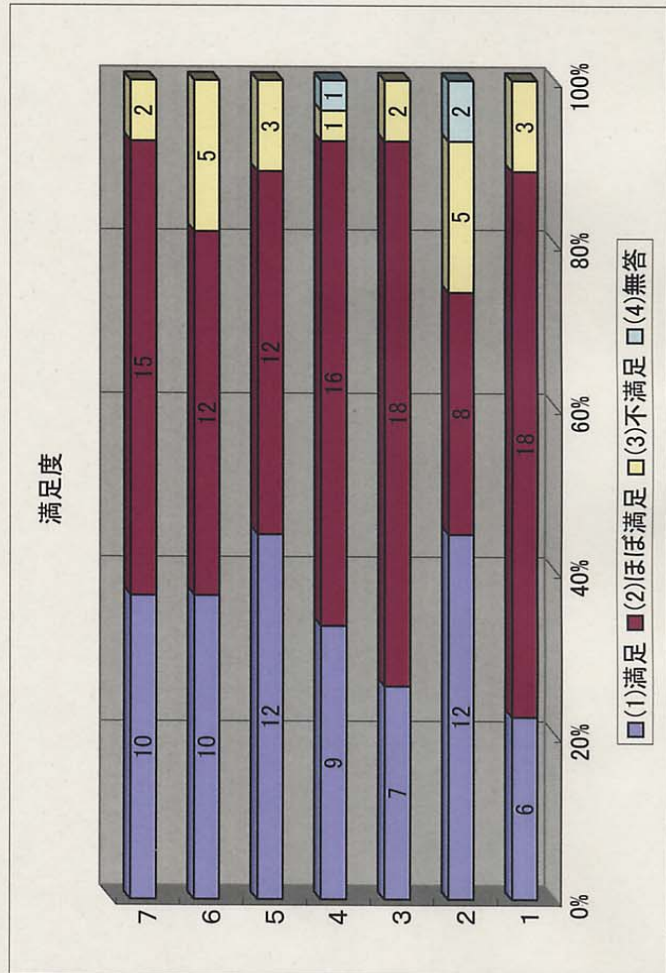
(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-3 C

平成17年度準学士卒業予定者「満足度、重要度」アンケート（電子制御工学科）

平成18年 2月 2日～ 2月22日の間で実施 該当学生数 28 回答数27

番号	質問内容	(1)満足	(2)ほぼ満足	(3)不満足	(4)無答	備考
1	一般科目の授業（講義形式）について	6	18	3		
2	一般科目の実技科目（物理・化学実験、体育等）について	12	8	5	2	
3	専門科目の授業（講義形式）について	7	18	2		
4	専門科目の実験実習について	9	16	1	1	
5	卒業研究について	12	12	3		
6	本校の施設（建物等）について	10	12	5		
7	本校の施設（機器等）について	10	15	2		



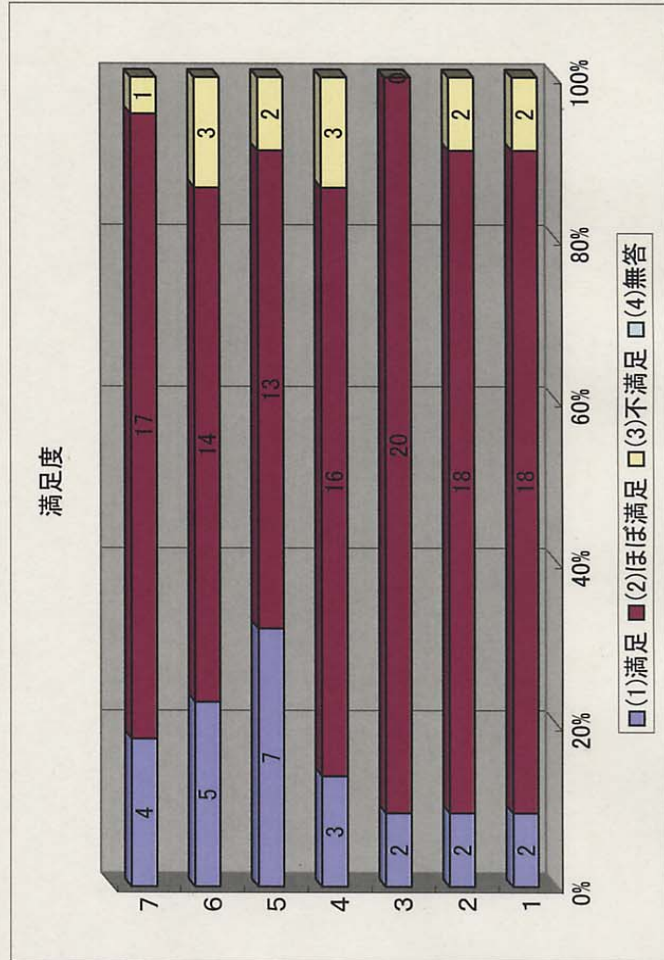
(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-3 D

平成17年度準学士卒業予定者「満足度、重要度」アンケート(情報工学科)

平成18年 2月 2日～2月22日の間で実施 該当学生数 38 回答数22

番号	質問内容	(1)満足	(2)ほぼ満足	(3)不満足	(4)無答	備考
1	一般科目の授業(講義形式)について	2	18	2		
2	一般科目の実技科目(物理・化学実験、体育等)について	2	18	2		
3	専門科目の授業(講義形式)について	2	20	0		
4	専門科目の実験実習について	3	16	3		
5	卒業研究について	7	13	2		
6	本校の施設(建物等)について	5	14	3		
7	本校の施設(機器等)について	4	17	1		



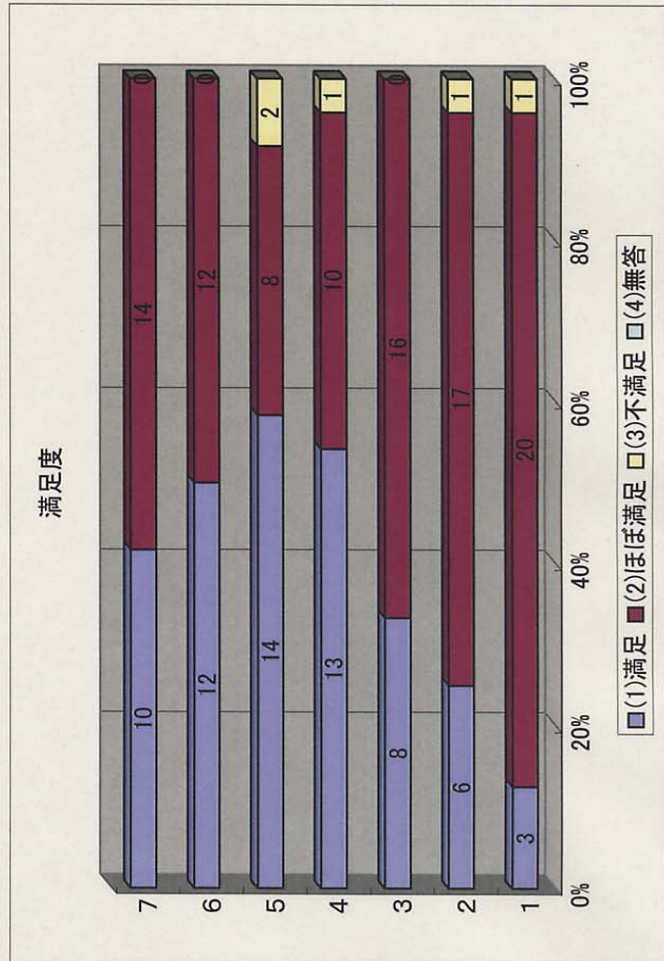
(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-3 E

平成17年度準学士卒業予定者「満足度、重要度」アンケート(土木工学科)

平成18年 2月 2日～2月22日の間で実施 該当学生数 36 回答数 24

番号	質問内容	(1)満足	(2)ほぼ満足	(3)不満足	(4)無答	備考
1	一般科目の授業(講義形式)について	3	20	1		
2	一般科目の実技科目(物理・化学実験、体育等)について	6	17	1		
3	専門科目の授業(講義形式)について	8	16	0		
4	専門科目の実験実習について	13	10	1		
5	卒業研究について	14	8	2		
6	本校の施設(建物等)について	12	12	0		
7	本校の施設(機器等)について	10	14	0		



(出典 学生アンケート 報告)

資料 6-1-④-4 A

平成 18 年 3 月 16 日

学習達成度アンケート（機械）

このアンケートは、本校の教育課程（カリキュラム）を改善するためのものです。各学科のカリキュラムは、各学科の以下に示す教育目標を達成するために、内容と計画にしたがって構成されています。アンケートにご協力をお願いします。

教育目標の達成度は、以下の表記にしたがって記載されています。

（ 高 …………… 中…………… 低 ）
 AAA(100-90 点) → AA(89~80 点) → A(79~70 点) → B(69~60 点) → C(59~50 点)

※ 該当の項目に○印をつけてください。

個人別に作成しました学習到達度確認の上、回答してください。

あなたの学習到達度を確認されましたか？（ 1. はい 2. いいえ）

（ 1 評価<実力 : 評価よりも高い実力が身についている。
 2 評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。
 3 評価>実力 : 評価ほどには実力が身についていない。 ）

※ 教育目標ごとに選択肢の中から該当する項目を選び、○印をつけてください。

【人文科学科・数理科学科教育目標】

1. 日本語による記述・理解・発表等の基礎的な能力がある。

（ 1. 評価<実力 2. 評価=実力 3. 評価>実力 ）
 3. を選択された場合：その原因は以下のどれに該当すると考えられますか
 a. 授業の量的内容が不十分 b. 授業の質的内容が不十分 c. 学年配置が不適切
 d. その他（ ）

2. 日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。

（ 1. 評価<実力 2. 評価=実力 3. 評価>実力 ）
 3. を選択された場合：その原因は以下のどれに該当すると考えられますか
 a. 授業の量的内容が不十分 b. 授業の質的内容が不十分 c. 学年配置が不適切
 d. その他（ ）

3. 外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。

（ 1. 評価<実力 2. 評価=実力 3. 評価>実力 ）
 3. を選択された場合：その原因は以下のどれに該当すると考えられますか
 a. 授業の量的内容が不十分 b. 授業の質的内容が不十分 c. 学年配置が不適切
 d. その他（ ）

（裏面に続く）

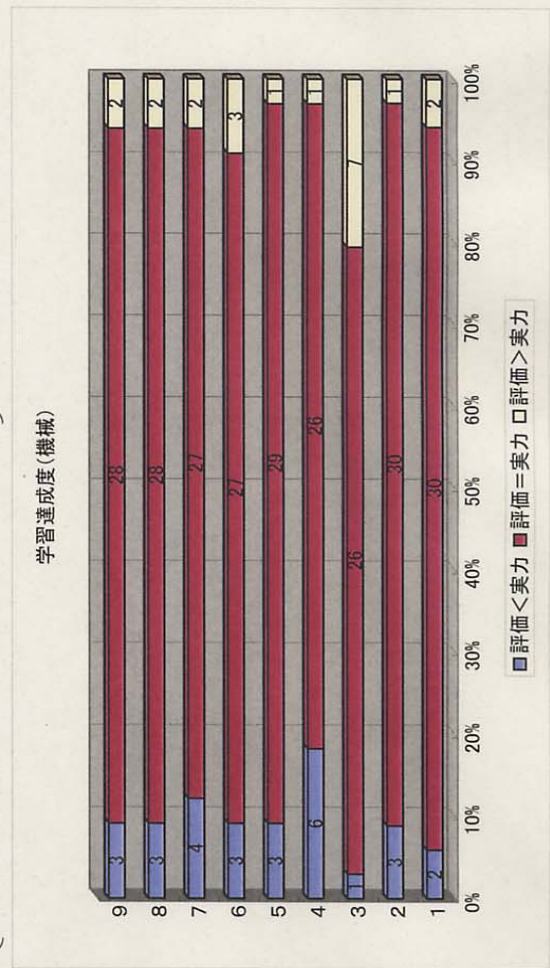
（出典 学生アンケート 報告）

資料 6-1-④-5 A

平成17年度準学士卒業生「学習到達度」アンケート (機械工学科)
 平成18年 3月18日実施 該当学生数 38 回答数 34

番号	質問内容	評価<実力	評価=実力	評価>実力	授業の量的内 容が不十分	授業の質的内 容が不十分	学年配置が不 適切	その他
1	日本語による記述・理解・発表等の基礎的な能力がある。	1	30	2		1		
2	日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。	2	30	1				
3	外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。	3	26	7	1	3		
4	自然科学に関する基礎的な知識がある。	4	26	1				
5	社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。	5	29	1				
6	機械工学に関する基礎的な専門知識がある。	6	27	3		1		
7	モノづくりに必要な基礎的なデザイン能力がある。	7	27	2			2	
8	コンピュータを、機械の設計・製作等に役立てる基礎能力がある。	8	28	2			1	
9	実験・研究の結果を解析、考察できる基礎能力がある。	9	28	2	1			

評価<実力 : 評価よりも高い実力が身についている。
 評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。
 評価>実力 : 評価ほどには実力が身についていない。



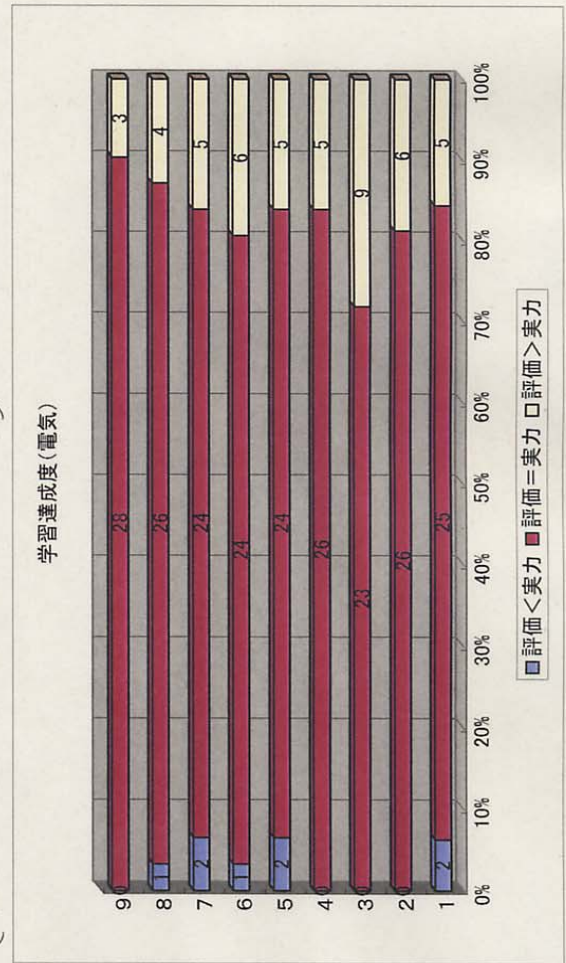
(出典 学生アンケート 報告)

資料 6-1-④-5 B

平成17年度准学士卒業生「学習到達度」アンケート (電気工学科)
 平成18年 3月18日実施 該当学生数 32 回答数 32

教育目標	番号	質問内容	評価結果			評価>実力 の場合の原因		
			評価<実力	評価=実力	評価>実力	授業の量的内 容が不十分	授業の質的内 容が不十分	学年配置が不適切
電気工学科	1	日本語による記述・理解・発表等の基礎的な能力がある。	1	25	5	1	3	1
	2	日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。	2	26	6	3	2	
	3	外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。	3	23	9	2	6	
	4	自然科学に関する基礎的な知識がある。	4	26	5	2	2	
	5	社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。	5	24	5	3	1	
	6	電気・電子機器を扱うための基礎知識がある。	6	24	6	1	3	1
	7	電気・電子機器を作るための基礎能力がある。	7	24	5	1	4	
	8	コンピュータを使い、情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。	8	26	4	2	2	
	9	データを収集・解析・評価するための基礎能力がある。	9	28	3	1	2	

評価<実力 : 評価よりも高い実力が身についている。
 評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。
 評価>実力 : 評価ほどには実力が身についていない。



評価>実力 の場合の原因「その他」

教育目標 1 ・ 自分の問題
 教育目標 6 ・ 全くない

(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-5 C

平成17年度準学士卒業生「学習到達度」アンケート (電子制御工学科)

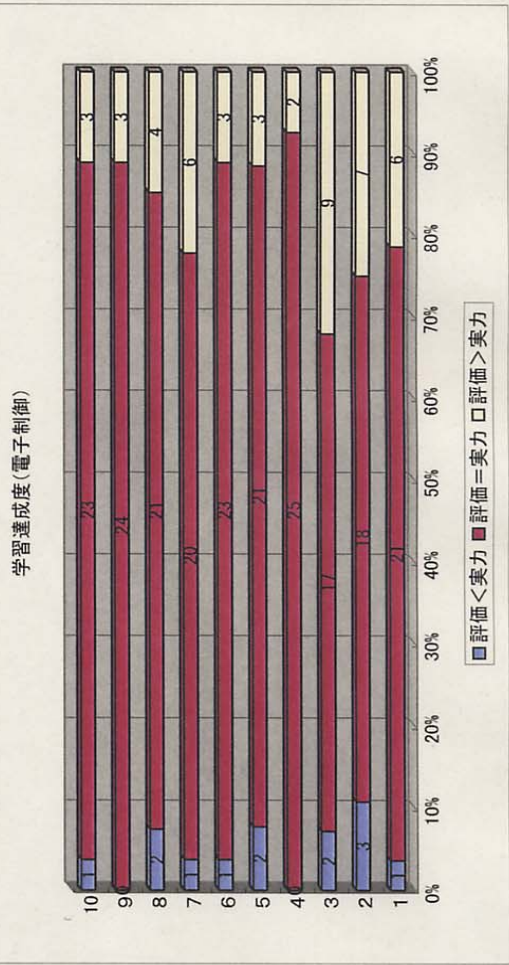
平成18年 3月18日実施 該当学生数 28 回答数 28

教育目標	質問内容	評価<実力			評価=実力			評価>実力			場合の原因
		評価<実力	評価=実力	評価>実力	評価<実力	評価=実力	評価>実力	授業の量的内容が不十分	授業の質的内容が不十分	学年配置が不適切	
電子制御工学科	1 日本語による記述・理解・発表等の基礎的な能力がある。	1	21	6	1	21	6	3	1	1	1
	2 日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。	2	3	18	7	3	18	1	4		2
	3 外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。	3	2	17	9	2	17	5	1	1	2
	4 自然科学に関する基礎的な知識がある。	4	0	25	2	0	25	1	1		
	5 社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。	5	2	21	3	2	21	1	2		
	6 電気・電子分野に関する基礎的な知識がある。	6	1	23	3	1	23	3	2	1	
	7 機械・力学分野に関する基礎的な知識がある。	7	1	20	6	1	20	2	4		
	8 制御・情報分野に関する基礎的な知識がある。	8	2	21	4	2	21	2	2		
	9 各分野の知識を、ものづくりやメカトロニクスに応用する能力がある。	9	0	24	3	0	24	2	1		
	10 データを収集・解析・考察できる基礎的な能力がある。	10	1	23	3	1	23	2	1		

評価<実力 : 評価よりも高い実力が身についている。
 評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。
 評価>実力 : 評価ほどには実力が身についていない。

評価>実力 の場合の原因「その他」

- 教育目標1 ・努力がたりなかった
- 教育目標2 ・勉強不足
- 教育目標2 ・自身の学習不足
- 教育目標3 ・自己責任
- 教育目標3 ・自分のやる気が不十分



(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-5 D

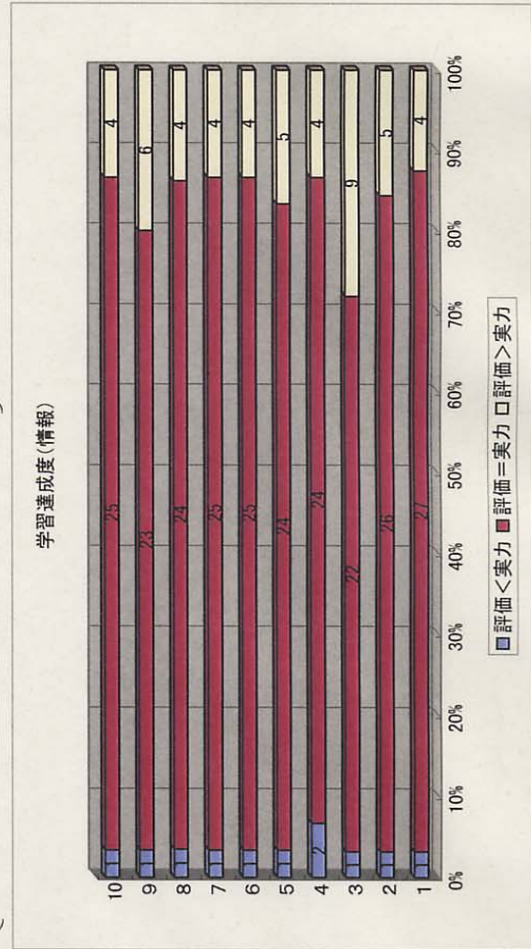
平成17年度準学士卒業生「学習到達度」アンケート（情報工学科）
 平成18年 3月18日実施 該当学生数 38 回答数 32

教育目標	番号	質問内容	評価<実力		評価=実力		評価>実力		その他の原因
			評価<実力	評価=実力	評価<実力	評価=実力	授業の量的内容が不十分	授業の質的内容が不十分	
情報工学科	1	日本語による記述・理解・発表等の基礎的な能力がある。	1	27	4	2			
	2	日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。	2	26	5	3			
	3	外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。	3	22	9	2			1
	4	自然科学に関する基礎的な知識がある。	4	24	4	1			
	5	社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。	5	24	5	1			
	6	コンピュータをつくるハードウェア技術の基礎知識がある。	6	25	4	1			
	7	コンピュータを動かすソフトウェア技術の基礎知識がある。	7	25	4	1			
	8	コンピュータをつなぐネットワーク技術の基礎知識がある。	8	24	4	2			
	9	データを解析・考察し、説明できる基礎能力がある。	9	23	6	1			
	10	コンピュータを用いて情報を収集・活用・発信するための基礎能力がある。	10	25	4	2			

（評価<実力）：評価よりも高い実力が身に付いている。
 評価=実力）：実力をほぼ正しく評価されている。
 （評価>実力）：評価ほどには実力が身に付いていない。

評価>実力 の場合の原因「その他」

教育目標3・勉強不足



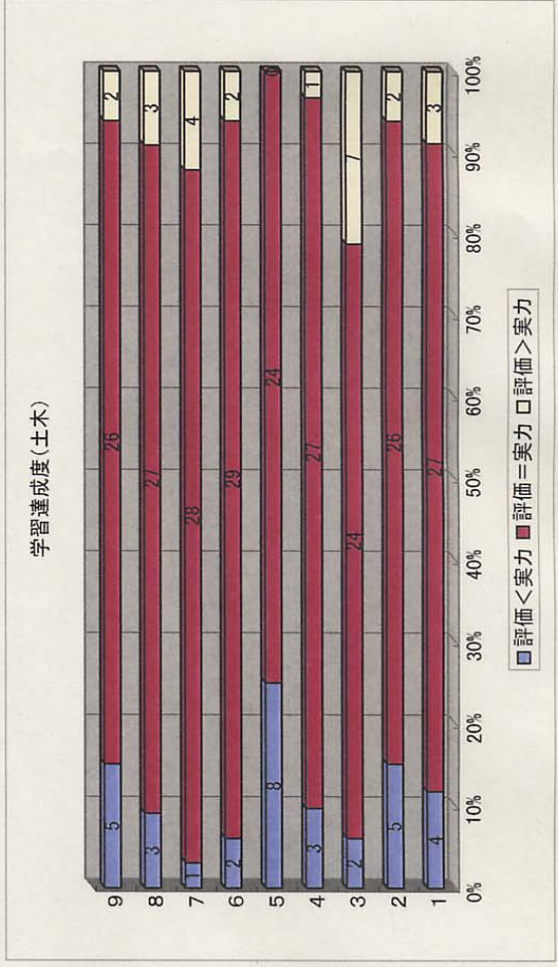
(出典 学生アンケート 報告)

資料 6 - 1 - ④ - 5 E

平成 17 年度 準学士卒業生「学習到達度」アンケート（土木工学科）
 平成 18 年 3 月 18 日 実施 該当学生数 36 回答数 34

番号	質問内容	評価<実力	評価=実力	評価>実力	評価>実力 の場合の原因		
					授業の量的内 容が不十分	授業の量的内 容が不十分 適切	学年配置が不 適切
1	日本語による記述・理解・発表等の基礎的な能力がある。	4	27	3	1	1	
2	日本及び他地域の歴史・文化・社会に関する基礎的な知識がある。	5	26	2	1		
3	外国語による基礎的なコミュニケーション能力がある。	2	24	7	1	2	
4	自然科学に関する基礎的な知識がある。	3	27	1		1	
5	社会生活のための豊かな見識と、健全な心身をもつ。	8	24	0			
6	構造力学、土質力学、水理学、建設材料学、環境工学に関する基礎知識がある。	2	29	2	1		
7	実験や実習を通じて現象の基本構造を解析するための基礎能力がある。	1	28	4	1		
8	設計製図、情報処理、測量に関する基礎技術がある。	3	27	3		1	
9	災害を防ぎ、環境を守る技術の基礎知識がある。	5	26	2			

評価<実力 : 評価よりも高い実力が身についている。
 評価=実力 : 実力をほぼ正しく評価されている。
 評価>実力 : 評価ほどには実力が身についていない。



(出典 学生アンケート 報告)

(2) 専攻科課程

平成 17 年 2 月に実施した満足度アンケートによると、授業においては、一般科目では満足をしている者が 80%，専門共通科目では 80%，専門展開科目では 77%，特別実験では 74%，特別研究では 80%である。満足していない理由としては、課題やレポートによる過重な負担、選択できる授業科目の少なさなどが上げられている。

専攻科の施設については、満足している者が62.5%となっている。満足していない理由としては、室内の空調設備の改善が最も多かった。また、リラクゼーション施設の充実もあげられている。

(資料 6-1-④-6)

平成18年 2 月に実施した教育目標ごとの達成度アンケートによると、5 段階（①達成念 ②ほぼ達成 ③普通 ④あまり達成していない ⑤達成していない）評価で①、②及び③が全体で83.6%となっている。達成度の低い目標は、「外国語を用いて基礎的なコミュニケーションができる」で 57.1%であり、達成度の高い目標は、「社会の要求を解決するための「システムづくり」を考慮することができる」で94.7%であった。（資料 6-1-④-7）

資料 6-1-④-6

2004 年度専攻科満足度アンケート集計表

	一般科目	専門共通科目	専門展開科目	特別実験	特別研究	施設
満足している	5 (14%)	7 (20%)	5 (14%)	11 (31%)	13 (37%)	10 (28.5%)
凡そ満足している	23 (66%)	21 (60%)	22 (63%)	15 (43%)	15 (43%)	12 (34%)
あまり満足していない	5 (14%)	5 (14%)	6 (17%)	6 (17%)	5 (14%)	10 (28.5%)
満足していない	2 (6%)	2 (6%)	1 (3%)	3 (9%)	1 (3%)	2 (6%)
無 回 答	0 (0%)	0 (0%)	1 (3%)	0 (0%)	1 (3%)	1 (3%)
合 計	35 (100%)	35 (100%)	35 (100%)	35 (100%)	35 (100%)	35 (100%)

(出典 学生アンケート 報告)

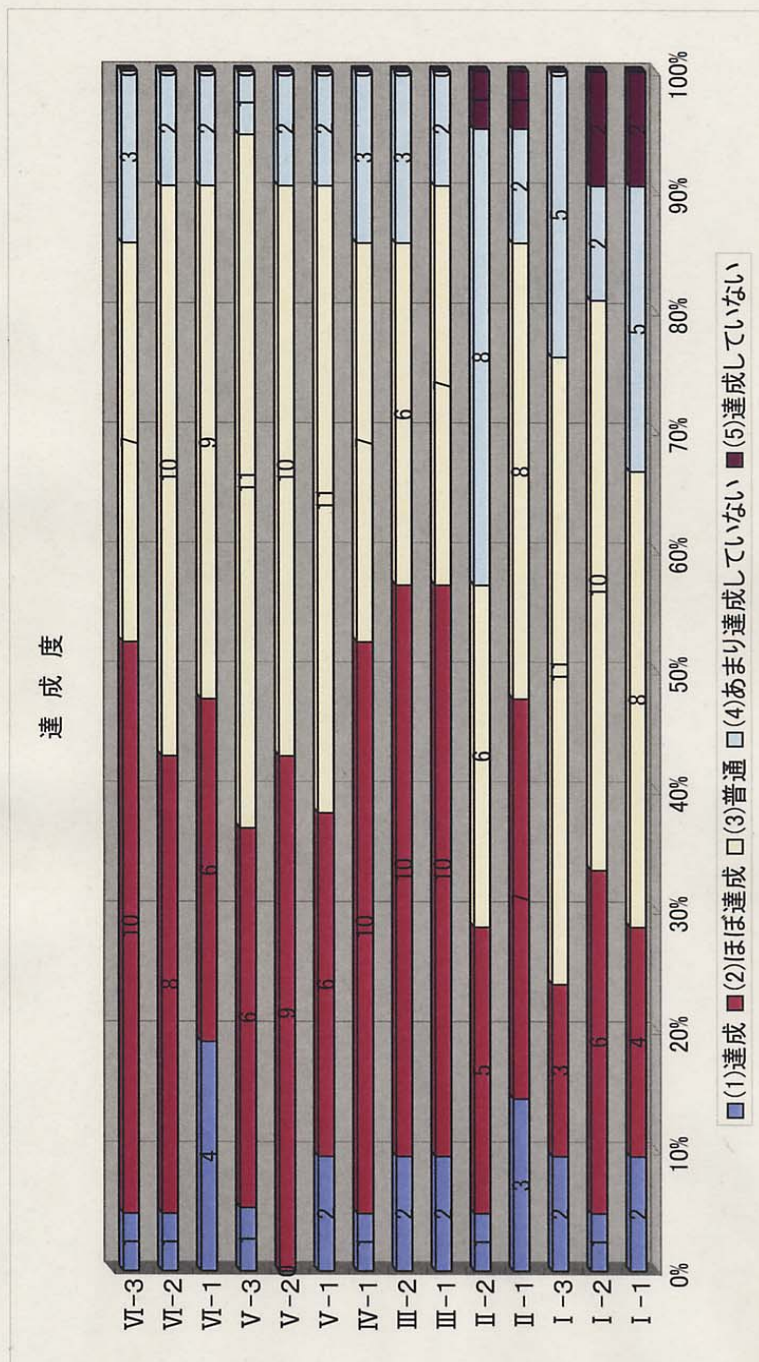
資料 6-1-④-7 A

平成17年度専攻科修了予定者「達成度」アンケート
 平成18年 2月16日～2月22日の間で実施 該当学生数 23 回答数 21

番号	質 問 内 容	(1)達成	(2)ほぼ達成	(3)普通	(4)あまり達 成していない	(5)達成して いない
I-1	日本や地域の文化や社会、歴史に対する理解がある	2	4	8	5	2
I-2	他者の文化や社会、価値観に対する理解がある	1	6	10	2	2
I-3	技術者に必要な数学、自然科学の知識がある	2	3	11	5	0
II-1	きちんとした日本語で記述、発表ができる	3	7	8	2	1
II-2	外国語を用いて基礎的なコミュニケーションができる	1	5	6	8	1
III-1	測定機器やコンピュータを使いこなすことができる	2	10	7	2	0
III-2	実験等のデータを適切に評価、解析、考察できる	2	10	6	3	0
IV-1	自主的な計画に沿って、持続した学習ができる	1	10	7	3	0
V-1	「システムづくり」のための基礎的な工学能力がある	2	6	11	2	0
V-2	実践的な「システムづくり」を考えることができる	0	9	10	2	0
V-3	社会の要求を解決するための「システムづくり」を考えることができる	1	6	11	1	0
M-1	技術が社会や自然環境に与える影響を認識できる	4	6	9	2	0
M-2	論理的な側面から、技術者の行動について考察できる	1	8	10	2	0
M-3	地域や社会とのつながりを意識し、常に専門技術の向上をめざす	1	10	7	3	0

(出典 学生アンケート 報告)

資料6-1-④-7 B



(出典 学生アンケート 報告)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

教育目標に対する学習達成度は、アンケート結果から本校の意図する教育の成果や効果が上がっていると判断できる。ただし、一部について授業の量的内容及び質的内容等改善を要する部分がある。

退学率は近年減少傾向となっているものの、低学年での学習支援や留年生の学習支援のより一層の強化が必要であると考えられる。

(2) 専攻科課程

教育目標に対する達成度は、アンケート結果から本校の意図する教育の成果や効果が上がっていると判断できる。ただし、外国語コミュニケーション能力については、授業の量的・質的内容を改善しなければならない部分がある。

授業については凡そ8割方の専攻科生が満足しており、おおむね授業内容が専攻科生に受け入れられていると思われる。授業に際してのシラバスの充実、FDの実施などが効果を上げていると考えられる。

専攻科棟の施設については、半数以上の者が満足しているが、不満をもつ者も多い。この点については早急に対処する必要がある。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点到に係る状況)

本科卒業生に対しては、本校の教育を一層改善するために、卒業生アンケートを平成17年7、8月に実施した。費用的な問題もあるため、平成15年度、平成10年度、平成5年度卒業生416名に対して調査を行った。学科バランスは、情報工学科の割合が少ないが他の学科はほぼ同じであった。就職者は約全体の7割で、進学者は3割である。

本観点では、本校の教育目標に対する重要度を%で示す。(資料6-1-⑤-1)

資料 6-1-⑤-1

ま：教養，対話力，技術の基礎を身に付け，自己を向上させる姿勢

(A) 教養（1-1 日本や地域の文化，社会，歴史に対する理解がある。1-2 他者の文化や社会，価値観に対する理解がある。1-3 技術者に必要な数学，自然科学の知識がある。）重要な目標と判断 95%

(B) 対話力（2-1 きちんとした日本語で記述，発表ができる。2-2 外国語を用いて基礎的なコミュニケーションができる。）重要な目標と判断 96%

(C) 技術（3-1 測定器やコンピュータを使いこなすことができる。3-2 実験等のデータを適切に評価，解析，考察できる。）重要な目標と判断 100%

(D) 自己の向上（4-1 自主的な計画に沿って，持続した学習ができる。）重要な目標と判断 91%

つ：さまざまな視点から対象を観察し，新たな形を創りあげようとする姿勢

(E) つくる（5-1 「システムづくり」のための基礎的工学能力がある。5-2 実践的な「システムづくり」を考えることができる。5-3 社会の要求を解決するための「システムづくり」を考えることができる。）重要な目標と判断 96%

え：世界市民として，社会に貢献し環境を考え，技術の進化に挑戦する意欲

(F) エンジニア（6-1 技術が社会や自然環境に与える影響を認識できる。6-2 理論的な側面から，技術者の行動について考察できる。6-3：地域や社会とのつながりを意識し，常に専門技術の向上を目指す。）重要な目標と判断 99%

（出典 卒業生アンケート 報告）

以上の結果から，教育目標については，技術者の育成には十分な教育目標であるとの意見が卒業生から出された。総合的には 75%が技術者の育成には十分な教育目標と回答している。その他，後輩へのアドバイス，教員への要望なども調査した。今後の改善に生かして行きたい。

進路先に対しては，「本校本科卒業生又は専攻科修了生に対する事業所の評価，本校の教育目標に対する事業所の意見その他本校に対する要望を把握し，教育水準の向上に資する」ことを主旨・目的として，本科卒業生（平成13～16年度）又は専攻科修了生（平成15～16年度）を採用していた事業所に対して，採用学生の満足度及び期待度に関するアンケートを実施した。

質問内容は，質問表（資料 6-1-⑤-2）（資料 6-1-⑤-3）に示し，その結果は取纏表（資料 6-1-⑤-4）（資料 6-1-⑤-5）として示す。

資料 6-1-⑤-2 A

松江工業高等専門学校「就職先」アンケート 回答（返送）用紙

本科卒業生用

記入方法

選択肢の中から該当すると思われる番号を選び、回答欄に数字を記入してください。

- I 貴事業所の業種区分を選んでください。 回答欄
- (1) 鉱業 (2) 建設業 (3) 製造業 (4) 電気・ガス・熱供給・水道業 (5) 情報通信業
 (6) 運輸業 (7) 卸売・小売業 (8) 金融・保険業 (9) 不動産業 (10) 飲食店、宿泊業
 (11) 医療、福祉 (12) 教育、学習支援業 (13) サービス事業 (14) 公務

- II 松江高専の本科卒業生（平成 13～16 年度）採用実績についてお尋ねします。
 (1) 0 名 (2) 1 名 (3) 2 名 (4) 3 名 (5) 4 名 回答欄

- III 松江高専の本科卒業生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）についてお尋ねします。 回答欄
- (1) 非常に不満 (2) 不満 (3) 普通 (4) 満足 (5) 非常に満足

- IV 松江高専では、『学んで 創れる エンジニア』を目指す人材育成のために、6 項目の教育目標を掲げております。本校の本科卒業生に教育目標に見合うだけの実力がついているかどうかお尋ねします。教育目標 1～6 の各々で、評価してください。
 (1) 非常に不満 (2) 不満 (3) 普通 (4) 満足 (5) 非常に満足

学んで

教養、対話力、技術力の基礎を身につけ、自己を向上させようとする姿勢

- 1 教養 回答欄
- 1-1 日本や地域の文化、歴史に対する理解がある
 1-2 他者の文化や社会、価値観に対する理解がある
 1-3 技術者に必要な数学、自然科学の知識がある
- 2 対話力 回答欄
- 2-1 きちんとした日本語で記述、発表ができる
 2-2 外国語を用いて基礎的なコミュニケーションができる
- 3 技術 回答欄
- 3-1 測定機器やコンピュータを使いこなすことができる
 3-2 実験等のデータを適切に評価、解析、考察できる
- 4 自己の向上 回答欄
- 4-1 自主的な計画に沿って、持続した学習ができる

創れる

さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

- 5 創る 回答欄
- 5-1 「システムづくり」のための基礎的な工学能力がある
 5-2 実践的な「システムづくり」を考えることができる
 5-3 社会の要求を解決するための「システムづくり」を考えることができる

(裏面に続く)

資料 6-1-⑤-2 B

エンジニア

世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

6 エンジニア

回答欄 IV-6:

- 6-1 技術が社会や自然環境に与える影響を認識できる
- 6-2 論理的な側面から、技術者の行動について考察できる
- 6-3 地域や社会とのつながりを意識し、常に専門技術の向上をめざす

V 上記IVの松江高専の教育目標6項目の中で特に重要と思われる項目を挙げてください。

(複数選択可)

回答欄 V:

VI 採用にあたり「英語」の能力を考慮しておられますか。

回答欄 VI:

- (1)考慮している (2)考慮していない

VII 上記VIで、(1)を選択した事業所にお尋ねします。(2)を選択した場合は、次のVIIIに進んでください。

「TOEIC」は、最低何点が必要だとお考えですか。

回答欄 VII:

- (1)300点以上 (2)400点以上 (3)500点以上 (4)600点以上

VIII 採用にあたり「情報処理技術」の能力を考慮しておられますか。回答欄 VIII:

- (1)考慮している (2)考慮していない

IX 上記VIIIで、(1)を選択した事業所にお尋ねします。(2)を選択した場合は、次のXに進んでください。

どの程度の能力が必要だとお考えですか。

回答欄 IX:

- (1)資格は必要ないが、ワープロ・ホームページ作成程度
- (2)(1)以上の専門的な能力(CAD, 表計算など)
- (3)有資格者

なお、(3)を選択された場合は、具体的な資格名を記入願います。()

X 今後、本校からの採用をお考えですか。

回答欄 X:

- (1)採用したい (2)現時点ではわからない (3)採用したくない

最後に高等教育機関としての高専の存在意義、将来あるべき姿等について意見があればお聞かせください。

()

ご協力ありがとうございました。

資料 6 - 1 - ⑤ - 3 A

松江工業高等専門学校「就職先」アンケート 回答（返送）用紙

専攻科修了生用

記入方法

選択肢の中から該当すると思われる番号を選び、回答欄に数字を記入してください。

- I 貴事業所の業種区分を選んでください。 回答欄
- (1) 鉱業 (2) 建設業 (3) 製造業 (4) 電気・ガス・熱供給・水道業 (5) 情報通信業
 (6) 運輸業 (7) 卸売・小売業 (8) 金融・保険業 (9) 不動産業 (10) 飲食店、宿泊業
 (11) 医療、福祉 (12) 教育、学習支援業 (13) サービス事業 (14) 公務

- II 松江高専の専攻科修了生（平成 15～16 年度）採用実績についてお尋ねします。
 (1) 0 名 (2) 1 名 (3) 2 名 (4) 3 名 (5) 4 名 回答欄

- III 松江高専の専攻科修了生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）についてお尋ねします。
 (1) 非常に不満 (2) 不満 (3) 普通 (4) 満足 (5) 非常に満足 回答欄

- IV 松江高専では、『学んで 創れる エンジニア』を目指す人材育成のために、6 項目の教育目標を掲げております。本校の専攻科修了生に教育目標に見合うだけの実力がついているかどうかお尋ねします。教育目標 1～6 の各々で、評価してください。
 (1) 非常に不満 (2) 不満 (3) 普通 (4) 満足 (5) 非常に満足

学んで

教養、対話力、技術力の基礎を身につけ、自己を向上させようとする姿勢

- 1 教養 回答欄
- 1-1 日本や地域の文化、歴史に対する理解がある
 1-2 他者の文化や社会、価値観に対する理解がある
 1-3 技術者に必要な数学、自然科学の知識がある
- 2 対話力 回答欄
- 2-1 きちんとした日本語で記述、発表ができる
 2-2 外国語を用いて基礎的なコミュニケーションができる
- 3 技術 回答欄
- 3-1 測定機器やコンピュータを使いこなすことができる
 3-2 実験等のデータを適切に評価、解析、考察できる
- 4 自己の向上 回答欄
- 4-1 自主的な計画に沿って、持続した学習ができる

創れる

さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲

- 5 創る 回答欄
- 5-1 「システムづくり」のための基礎的な工学能力がある
 5-2 実践的な「システムづくり」を考えることができる
 5-3 社会の要求を解決するための「システムづくり」を考えることができる

(裏面に続く)

資料 6-1-⑤-3 B

エンジニア

世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

6 エンジニア 回答欄 IV-6:

- 6-1 技術が社会や自然環境に与える影響を認識できる
- 6-2 論理的な側面から、技術者の行動について考察できる
- 6-3 地域や社会とのつながりを意識し、常に専門技術の向上をめざす

V 上記IVの松江高専の教育目標6項目の中で特に重要と思われる項目を挙げてください。
(複数選択可) 回答欄 V:

VI 採用にあたり「英語」の能力を考慮しておられますか。 回答欄 VI:
(1)考慮している (2)考慮していない

VII 上記VIで、(1)を選択した事業所にお尋ねします。(2)を選択した場合は、次のVIIに進んでください。
「TOEIC」は、最低何点が必要だとお考えですか。 回答欄 VII:
(1)300点以上 (2)400点以上 (3)500点以上 (4)600点以上

VIII 採用にあたり「情報処理技術」の能力を考慮しておられますか。回答欄 VIII:
(1)考慮している (2)考慮していない

IX 上記VIIで、(1)を選択した事業所にお尋ねします。(2)を選択した場合は、次のXに進んでください。
どの程度の能力が必要だとお考えですか。 回答欄 IX:
(1)資格は必要ないが、ワープロ・ホームページ作成程度
(2)(1)以上の専門的な能力(CAD, 表計算など)
(3)有資格者
なお、(3)を選択された場合は、具体的な資格名を記入願います。()

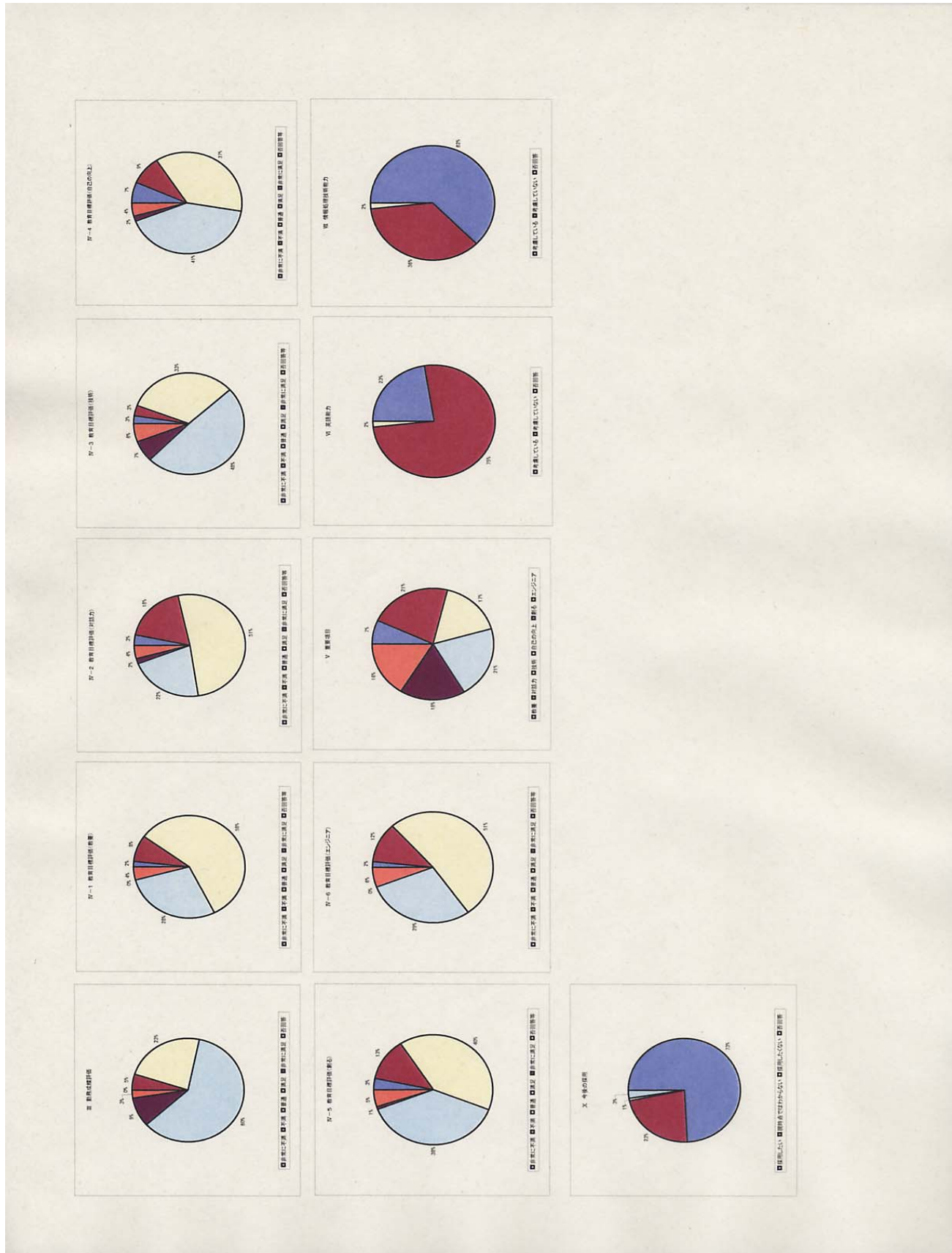
X 今後、本校からの採用をお考えですか。 回答欄 X:
(1)採用したい (2)現時点ではわからない (3)採用したくない

最後に高等教育機関としての高専の存在意義、将来あるべき姿等について意見があればお聞かせください。

()

ご協力ありがとうございました。

資料6-1-⑤-4 B



(出典 進路先アンケート 報告)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

本科卒業生を採用していただいた事業所の教育目標評価満足度は、「1 教養 85.7%」、「2 対話力73.9%」、「3 技術 88.2%」、「4 自己の向上 79.8%」、「5 創る 79.0%」、「6 エンジニア 80.7%」となっており、技術力は評価するものの、ややコミュニケーション能力に欠ける傾向であることがわかる。Vの重要項目からもコミュニケーション能力の重要性を指摘されており、今後のキャリア教育の改善に生かす必要がある。

卒業生アンケートからは、教育目標について、技術者の育成には十分な教育目標であるとの意見が卒業生から出された。総合的には75%が技術者の育成には十分な教育目標と回答している。

(2) 専攻科課程

専攻科修了生を採用していただいた事業所の教育目標評価満足度は、「1 教養 85.7%」、「2 対話力 64.3%」、「3 技術 85.7%」、「4 自己の向上 85.7%」、「5 創る 78.6%」、「6 エンジニア 69.2%」となっており、教養、技術力、及び自己の向上は評価するものの、ややコミュニケーション能力に欠ける傾向であることがわかる。Vの重要項目からもコミュニケーション能力の重要性を指摘されており、本科卒業と同様に今後のキャリア教育の改善に生かす必要がある。

なお、今後、修了生に対して追跡調査を実施する必要がある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育目標の「学んで創れるエンジニア」を基に、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について各学科・各専攻で明確に目標を設定し、目標達成のための体系的なカリキュラムが編成されている。

資格取得者の数、卒業研究や専攻課程の特別研究に関する学会発表件数も増加するなど、成果が得られている。ほとんどの卒業生は本校で学んだ知識や技術を生かした進路となっており、卒業生採用の事業所からは、準学士課程・専攻課程ともに技術力に関する評価は高い。

(改善を要する点)

準学士課程の退学率は減少傾向にあるものの、低学年において高校に比較して高く、成績不振者の学習支援体制の強化が必要である。また、卒業生採用の事業所からはコミュニケーション能力の重要性を指摘されており、今後のキャリア教育の改善に生かしていく必要がある。

(3) 基準6の自己評価の概要

本校の教育目標の「学んで創れるエンジニア」を基に、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について各学科・各専攻で明確に目標を設定している。そして、この目標を達成するための体系的なカリキュラムが編成されている。各科目のシラバスにおいては学習・教育目標との対応や到達目標・評価基準も明記されている。学習の達成度については、学生からの満足度もカリキュラムと教育目標との対応表に基づいて、調査している。

準学士課程の退学率は減少傾向にあるものの、高校に比較して高いことから成績不振者の学習支援体制の強化が必要であると考えられる。資格取得者数の推移、卒業研究の学会発表件数の推移からいずれも増加しており、教育の成果や効果が向上傾向にあると判断できる。専攻科課程においても、修了や学位取得の状況、研究活動の状況より明らかのように、教育の成果が十分に上がっていると思わ

れる。進路状況は、ほとんどの卒業生が本校で学んだ知識や技術を生かした進路となっていることを示し、教育の成果は社会に還元されていると考えられる。専攻科課程においても、進路指導委員会を中心とした指導体制のもとに、ほとんどの学生が就職や進学を決め、教育の成果が上がっているといえる。

準学士課程・専攻科課程共に教育目標に対する学習達成度は、アンケート結果から本校の意図する教育の成果や効果が上がっていると判断できる。一部について授業の量的内容及び質的内容等改善を要する部分があるが、授業に際してのシラバスの充実、FDの実施などが効果を上げていると考えられる。

本校の卒業生を採用していただいた事業所の教育目標評価満足度に関するアンケートからは、技術力は評価するものの、ややコミュニケーション能力に欠ける傾向であるとの評価が伺える。コミュニケーション能力を如何に向上させるか、今後のキャリア教育の改善に生かして行く必要がある。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

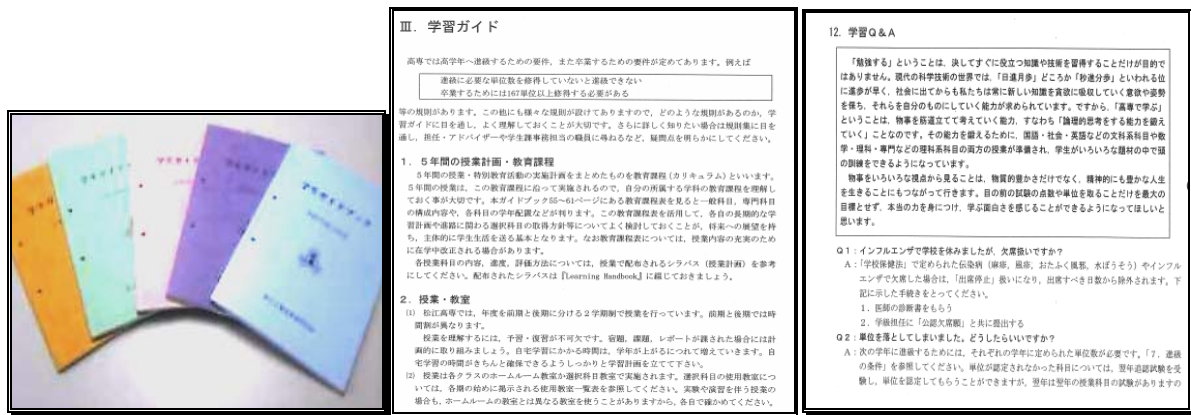
観点7-1-①: 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観念に係る状況)

(1) 準学士課程

学生ガイドブックは、入学生時に学生に配付され、学習上の基本的なガイドを行っている(例:(a)学生ガイドブック, p.5-9)。また、学生の利用の立場に立って、編集がなされている。特に、学生窓口のガイドや学習Q&Aなどは学生の側に立った情報を盛り込んでいる(例:(b)学生ガイドブック, p.5-9)。(資料7-1-①-1)

資料7-1-①-1



資料1 学生ガイドブック写真

(a) 学習ガイドの先頭ページ

(b) 学習Q&A

(出典 学生ガイドブック 平成17年度)

学生ガイドブックは、入学時に配付されるため、入学後にJABEE認定教育プログラムなど学生のための新しい教育システムが構築された場合には、追加の説明資料を配付する必要がある。平成17年度(2005年)には、JABEE学習ガイドを中心に規則の変更点などを明示した学生ガイドブック教務関係補足資料を新入生以外の全ての学生に追加配付した。(資料7-1-①-2)

資料7-1-①-2



資料2 学生ガイドブック教務関係補足資料の写真

資料3 Learning Hand Book

(出典 学生ガイドブック 補足資料)

新入生オリエンテーションにおける履修指導，および副専攻科長や指導教員による学習支援体制が有効に機能している。

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば，自主学習スペース，図書館等が考えられる。）及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

(1) 準学士課程

準学士課程第1～3学年では，最も利用されているのは放課後のクラスルームが利用されている。そのほか校内には，いくつかの自学自習用のスペースが確保されている。（資料7-1-②-1）。図書館は，別棟で建てられていることもあり，夜8時までの開館となっており，寮生も利用できる。夜8時までは，専攻科学生を非常勤職員として任用し，貸出業務等を行っている。（前掲 資料2-1-③-3）

コミュニケーションスペースとしては，学びの庭が最も利用されている。この場所は，2棟と3棟の西側の部分にアーチ状の透明屋根を設けたもので雨天時でも有効利用ができる造りとなっている。（資料7-1-②-1(d)）また，福利厚生施設，保健室及び学生相談室は校舎とは別棟となっている。学生相談室においての相談は，記録に残し，評価，改善に繋げている。（資料7-1-②-2）（前掲 資料2-1-③-2 B）

その他として，自学自習用の参考書の開発も本校で取り組んでいる。（資料7-1-②-3）

資料 7-1-②-1



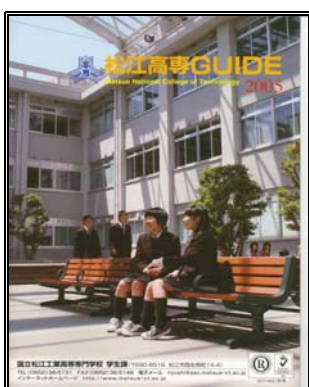
(a) 4 棟 2 階 (420)



(b) 2 棟 2 階 (220)



(c) 専攻科棟 (2, 3 階)



(d) 学びの庭

自学自習スペースとコミュニケーションスペース, 福利厚生



(e) 2 棟 2 階



(f) 図書館 (1 階)

(出典 学生課 作成資料)

資料 7-1-②-3

「高専学生のための入門書」

高校卒業レベルで初めて工学を学ぶ学生を対象とした入門書を各学科毎に本学の教員が中心となって執筆, 出版した。これまでに, 「学生のための初めて学ぶIT情報技術」(平成13年度), 「同基礎材料学」(平成14年度), 「同機械工学」(平成14年度), 「同電気工学」(平成14年度), 「同土木工学」(平成16年度)を日刊工業新聞社から出版し, 特に「IT情報技術」は好評で, 現在初版4刷発売中である。学内ではいずれも教科書として活用している。



「初めて学ぶ」シリーズ 日刊工業新聞社

「高専数学の活用事例集」の編集

研究代表者は, 平成14年3月, 旧国立高等専門学校協会, 第2常置委員会委員長として高専の学生のための実用的な数学の問題集(分野別に合計651題を収録)を編集し, 全国55の国立高専に配布して, 現在多くの高専で活用されている。

(出典 学生課 作成資料)

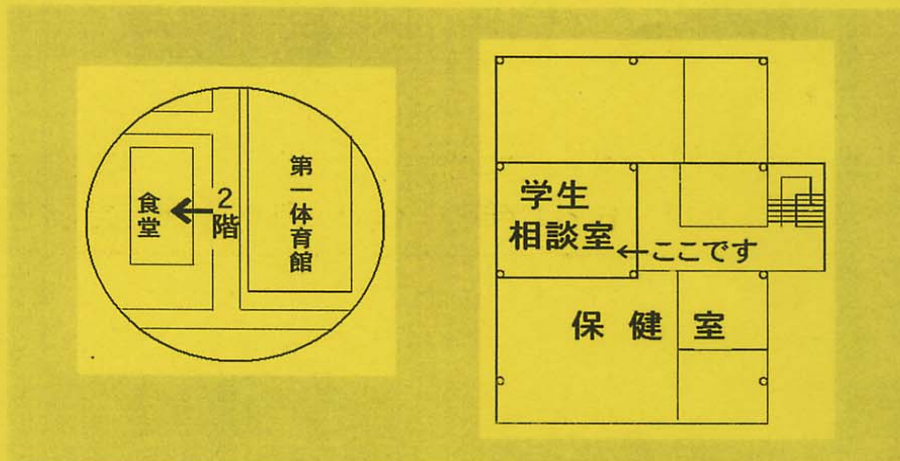
資料7-1-②-2

～癒^{いや}しの場、癒^{いや}しの時～

学生相談室

月曜日	衣笠	保智	先生 (電気)
火曜日	飯島	睦美	先生 (人文)
水曜日	吉田	剛	先生 (電子制御)
木曜日	堀内	匡	先生 (情報)
金曜日	黒田	祐一	先生 (人文)
担当: 午後4時15分～5時15分			

信崎さん (看護師) 高見先生 (カウンセラー) への相談もお待ちしてます



(出典 学生課 作成資料)

(2) 専攻科課程

専攻科生は、通常、学生ラボで自主学習や研究に取り組んでいる。各自にデスクが与えられ、良好な学習環境が提供されている。また、専攻科棟には、各階にコミュニケーションスペースがあり、ミーティング等に利用されている。

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

自主的学習環境及びキャンパス生活環境として、自主学習スペース、図書館、福利厚生施設、保健室及び学生相談室が整備され、効果的に利用されている。

(2) 専攻科課程

学生ラボやコミュニケーションスペースが整備され、有効に利用されている。

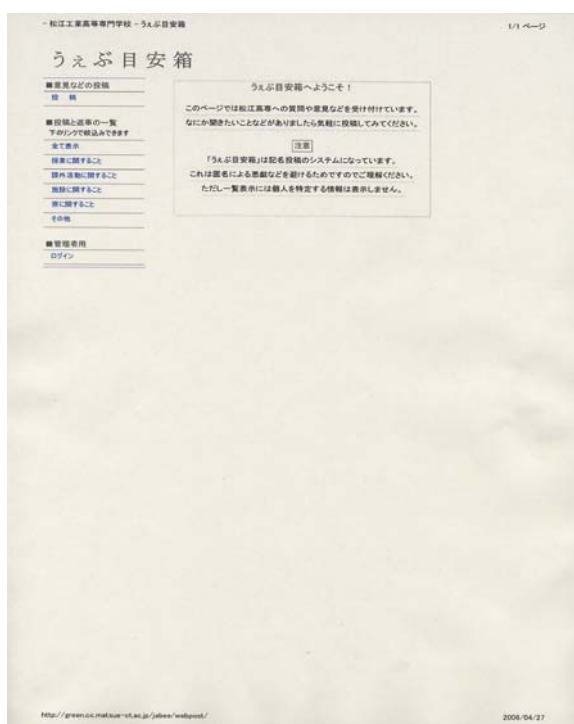
観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

資格試験の単位化については、学生から担任、学年会を通じて要望が提出され、教務委員会と学科で内容が審議され、資格試験の内容が特別学習単位として、組み込まれている。(前掲 資料 5-1-②-1)

特に、英語に関するTOEICの受験については、学校行事として年2回実施している。JABEE基準4.3 学年への支援体制の教育環境に関して、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮するシステムを学内Webに目安箱として設置している。(資料 7-1-③-1)

資料 7-1-③-1



(出典 松江工業高等専門学校 HP)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程第1～3学年では、学級担任や学年会を通じて教務委員会に学生ニーズが提出されるシステムによって学生からのニーズ(資格試験や検定試験受講, 外国留学等に関する学習支援等)を学校が把握する体制が整っている。準学士課程第4～5学年については、アドバイザーから教務委員会へ要望が提出されるシステムと、学生からの声を直接インターネットで受け入れる体制を併用することにより、ニーズが適切に把握されている。

観点7-1-④: 資格試験や検定試験受講, 外国留学のための支援体制が整備され, 機能しているか。

(観点に係る状況)

資格試験については、「学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する規則」(前掲資料5-1-②-1)に示す内容が特別学修単位として認められている。

資格試験や検定試験受講については、各学科(一般科目含む)で受験案内や願書の取り寄せなど学生の受験への便宜が図られている。また、カリキュラムの中にも各学科の資格試験に配慮した講義が開講されている。特に、英語科では、資料1に示すように、平成10年から4回英語検定協会より受験者の多さと成績が評価され表彰を受けている。(資料7-1-④-1)特に、ニーズの高いTOEICについては、準学士課程第4, 5学年が学校行事として年2回受験できる体制を平成17年度より整えた。(資料7-1-④-2)

語学留学については、海外の語学研修プログラムを終了したものに特別学修の単位を与える体制となっている。(前掲 資料5-1-②-1)

後援会の支援を受け、本校英語科がニュージーランド・ワイカット高等技術専門学校と協議を行い、3名の学生が先方の英語研修プログラムを修了した。資料3はその旅程スケジュールである。学生の海外語学研修については、本校英語科教員(外国人教師)の引率を伴った研修であり海外留学の支援となっている。(資料7-1-④-3)

長期の留学についても、「教育上有益と認められる場合、校長は留学を許可することがある。」(平成17年度入学生用学生ガイドブックp.8)と規則上も留学を認める体制をとっている。平成17年度に第5学年の学生が長期の留学を行った。

資料 7-1-④-1

2. 学科などの取り組み Annual Report 2004 一般人文科学科

2.1 一般人文科学科


一般科日本文系は、国語（教員数3名）、社会（教員数2名）、外国語（教員数7名）で構成されています。教科ごとにとり組みについて述べます。

【国語】
国語科では、第3学年までの授業においては国語力の基礎を養うことを目指し、第4学年においてはより実用的なコミュニケーション能力の育成を目標として授業を展開しています。昨年度から始めた作文・小論文の書き方を中心とした授業は、3名の教員が共同で1・2・4年生に展開しました。また、毎年度第3学年後期に行っている「文庫本講読」は、「マシマス・ゴリの失脚」をテキストとしました。

	2級	準2級
平成16年2月	17	36
平成16年6月	11	8
平成16年10月	5	17
計	33	61

最近1年間の漢字検定合格者数

【社会学】
社会学では、現代の社会や環境に対して幅広い知識と教養を身につけ、国際的な視野にたつて自らの見識をもつことのできる学生の育成をめざしています。1年では地理・現代社会、2年では世界史、3年では日本史を学んで基礎的な知識を得、4～5年では経済学・法学・歴史学などでより深い教養を身につけるように科目を配しています。授業では課題プリントの提出を通して、毎時間の理解を助けることと、自ら調べ学ぶ力を養えるようにしています。



【外国語科】
外国語科では、語学教育を通じて国際的に通用するエンジニアの育成を目指しています。今年度は下記の2項目に重点を置いた語学教育を行いました。

1. 各種資格試験の受験の奨励
語学学習の進捗度の測定と資格取得による学習の動機付けを高める目的で英語技能検定(英検)、TOEICの受験を奨励し、多数の学生が受験しました。英検については、多数の合格者を出した功績を認められ、英検協会から平成16年3月に優良団体賞を受賞しました。各試験の結果については次の通りです。

	2級	準2級	3級
H15年度冬	7	23	16
H16年度春	2	43	36
H16年度秋	4	40	15
合格者計	13	106	67

表1. 最近1年間の英検合格者数

	受験者数	平均点
H16・5月	29	351.3
H16・10月	73	360.0
H16・12月	28	339.1
計	129	353.6

表2. TOEICの受験者数と平均点

2. コンサートへの積極的参加
語学学習の成果を試すため、中国南専英弁論大会や英文エッセーコンテスト等コンテストへの参加も積極的に行いました。英語弁論大会では原田の部で1位（J3 平坂善江さん）、スピーチの部では2位（J4 藤原直樹君）という成績を挙げました。

資料 1 (出典 Annual Report 2004)

資料 7-1-④-2

教務委員会より

3. 学校行事としてのTOEIC試験と実力試験の試行
本校を含めた高専卒業生は、社会から高い評価を得ています。その評価の一つが高い求人率（昨年度は11.3倍）です。しかし、大卒生と比較した高専卒業生の就職率として一般的に挙げられているものに、「社会性と実力のなさ」があります。大学受験が無いことがもたらす高専教育の欠点ではありますが、これに代わって、積極的な対策を進め、高専卒業生の欠点を長所に転じる気持ちで改善の努力をしています。英語力に関しては、学生が自らの英語能力を知ることができ、かつ、社会から評価もあるTOEICの試験を、これまで英語科が学生のために実施してまいりました。今年度からはそれをより推進することを目的に学校行事とし、4・5年専攻科生を対象に、今年度7月14日(木)1日28日(木)の午前中に実施する予定となっています。後援会の支援により、TOEIC団体加盟と年会費(10万円)の補助を頂いたことで、受験する学生はこれまでより約千円安(4千円から3千円)受験できるようになりました。TOEICで400以上の成績を取れば、就職時の英語の実力として評価されます。

1～3年生については、TOEICと同じ日程で実力試験を実施する予定です。実力試験は、TOEICの試験時に、1～3年生の学生を対象とし、英語、数学、理科(物理と化学)について実施します。この実力試験は、3年生は2年までに学習した範囲、2年生には1年生の範囲、1年生には、中学を含めた基礎的内容を実施します。単一の学期成績には全く反映しません。基礎力の定着を確認するために実施します。

4. 地域との連携を生かした授業
今年度、地域との連携を考慮した、二つの授業を開設しました。一つは、「地域社会論」で、3年(前期)に開講しています。学生が社会に出て必要とするであろう社会制度、すなわち地方自治、税制、年金制度、介護制度、ボランティア活動、人権論、地域文化などの多岐にわたる分野から、専門の講師を招きオムニバス形式で講義を行っています。もう一つは、「地域産業論」です。近年の技術の高次化及びグローバル化等の周辺環境の変化により、本校の卒業生も県外への就職及び大学編入進学率が高まる傾向にあります。これは、地元優秀な人材の流出となり、地域エンジニアの空洞化につながっていくものと危惧しています。このような中で、現在産業界で活躍している方々を講師にお迎えし、オムニバス形式で本校の道路決定前の学生(本科4年生)に教授する講義とします。これらの講義を通じて、学生の心の中に「この地域社会から求められる技術者像」を創り上げ、彼らのモチベーションを高めることができたと期待しています。オムニバス：いくつかの独立した短編を並べて一つの作品としたもの



5. JABEE受賞準備
JABEE取得は、本校の教育の質の高さを社会に示すものです。平成18年度のJABEE受審に際しては、教員がきちんとした授業や試験を行っていること、学生がしっかりと力を付けていることを証明できるようにしなければなりません。受審準備に当たっては、審査に合格するための対策という観点ではなく、よりよい学校にするための手段と捉えてまいりたいと考えています。

資料 2 (出典 学生課 作成資料)

資料 7-1-④-3

○ フィラデルフィアからの高校生との討論会及び交流会参加希望者募集
国際交流委員会

スワン国際ネットワーク主催のフィラデルフィアからの高校生12名受け入れ事業に松江高専も共催として協力することになりました。つきまして、本プログラムの中のアメリカの高校生との討論会及び交流会に松江高専から参加希望者を募集することになりました。詳しい予定は次の通りです。参加希望者は5月27日(金)までに国際交流委員長 宮下までご連絡ください。

1. 日時 平成17年7月30日(土) 9:00～20:00

2. 内容
討論会(英語で) テーマ:「今、我々が地球にできる無い」
フィラデルフィアからの高校生と安来観光(マイクロボスで移動)
フィラデルフィアからの高校生との交流会(参加料3000円)

3. その他
参加希望者は、6月25日(土)、7月6日(土)に行われる事前研修会に参加することになっています。研修会の内容は、外人教師による英会話レッスンと環境についての勉強会です。

○ ニュージーランド語学研修希望者への語学研修先の紹介について
国際交流委員会

今年度は、国際交流委員会が語学研修希望者を応募して研修を企画することは行いません。語学研修希望者は保護者の了解のもと、個人で海外語学研修を行うことになります。しかし、国際交流委員会は、昨年ニュージーランドを訪問して、本校に送る語学研修交流先を決定していますので、研修希望者には、この研修先を紹介したいと思います。今年ニュージーランドで語学研修を希望している学生は、国際交流委員長宮下まで、5月27日(金)までにご連絡下さい。

(a) 海外語学研修の案内

August 29	Meet Yonago Airport 10:45 a.m. Arrive Nagoya Airport 12:40 p.m. Complete international check in and departure procedures.	Depart flight ANA 1848 11:38a.m. Depart Air NEWAL flight NZ94 6:30 p.m.
August 30	Arrive Auckland Airport 8:20 a.m. Arrive International Student Centre -11:30 a.m. Ask where you should go on the morning of August 31st and at what time. Complete any forms and produce proof of insurance. Ms Richardson will drive the students to home stay houses.	Group will be met by Dean from Wintac who will drive you to Hamilton. Prof. Ivata will call Helen Richardson from the International Student Centre. Tel: +64 77 894 8800 Ext 7904 Free time.
August 31st	Report for assessment test and allocation of classes.	
September 16, Language course and homestay		Remember to ask Ms Richardson to confirm your transport from your homestay home to the airport September 17. Also ask her to confirm what time you must be ready.
September 17	Thakibus will collect you from your homestay -4:30am. Complete check in and international departure procedures.	Arrive Auckland Air NEWAL flight NZ 98 8:45 a.m. Arrive Nagoya Airport 5:15 p.m.
September 18	Check in to Centaur Hotel in Nagoya airport complex. Check in at ANA counter.	Depart Nagoya ANA 1841. 10a.m. Arrive Yonago Airport 11:05 a.m.

(b) 海外語学研修旅程

資料 3

(出典 語学研修プログラム)

(分析結果とその根拠理由)

資格試験や検定試験受講については、一般科目、専門科目で資格試験合格者に特別学修の単位を資格内容に応じて与えるとともに、外国留学のための支援体制が整備され、海外語学研修の案内及び当該語学研修プログラム修了者には単位を与えている。長期の留学についても認める体制があり機能している。以上の状況から、資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能していると判断できる。

観点 7-1-⑤： 特別な学習支援が必要な者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害を持つ学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

留学生の場合には、資料 1 に示すように特に日本語教育の学習支援を本来のカリキュラムとは別に開設している。(資料 7-1-⑤-1) 本校の非常勤講師費用の約 5% を 7 人の留学生に対して使用している。(前掲 資料 3-1-①-3) この他にも、機構本部の留学生支援経費により、日本語の補習授業ならびに、外国人のための日本語検定試験の便宜を図っている。専門科目の補習も本校の教員により必要に応じて実施している。さらに、留学生一人に対して、指導教員とチューターを配属し、きめ細かい対応を行っている。

第 4 学年への編入生の場合には、特に数学の学習範囲が工業高校の内容と差があるために、編入予定者に対して、事前指導を行っている。資料 2 は、18 年度の事前指導予定である。(資料 7-1-⑤-2)

過去には、社会人学生が在学した場合があるが、社会人の場合には、積極的に授業担当教員とのコンタクトがなされ学習に支障はなかった。また、障害をもつ学生の学習支援についてはこれまで前例はない。

資料 7-1-⑤-1

平成 17 年度における外国人留学生の教育課程について

1. 外国人留学生用開設授業科目

機械工学科 第3学年	日本語 2単位
電気工学科 第3学年	日本語 2単位
土木工学科 第3学年	日本語 2単位
測量学	1単位
電気工学科 第4学年	日本語 1単位
情報工学科 第4学年	日本語 1単位
土木工学科 第4学年	日本語 1単位
電気工学科 第5学年	日本語 1単位
情報工学科 第5学年	日本語 1単位
土木工学科 第5学年	日本語 1単位

2. 該当する外国人留学生名

機械工学科第3学年(マレーシア政府派遣留学生)	女	M0561
RAFDAN BT. JAYA YAHAYA		
ラフィダ ビンティ ジャヤ ヤハヤ		
電気工学科第3学年(国費留学生:ヴェトナム)	女	E0581
NGUYEN NGOC THE BICH		
グエン ティー ビック ゴック		
土木工学科第3学年(国費留学生:カンボジア)	男	C0561
IM VIBOLKA		
イム ヴィボルカー		
電気工学科第4学年(国費留学生:インドネシア)	男	E0461
RISKY ANANDA		
リスキー アナンダ		
情報工学科第4学年(国費留学生:ヴェトナム)	男	J0461
NGO SY VIET PHU		
ゴー シー ヴィエト フー		
土木工学科第4学年(国費留学生:ヴェトナム)	女	C0461
BUI THU HANG		
ブイトウ ハン		
電気工学科第5学年(マレーシア政府派遣留学生:マレーシア)	男	E0352
MOHD SHARIZAL BIN MOHD ZIN		
モハマド シャリザル ビン モハマド ジン		
情報工学科第5学年(国費留学生:タイ)	男	J0352
TIPRAPAI KRICHMONTRI		
チップライバイ クリットモントリ		
土木工学科第5学年(国費留学生:ヴェトナム)	男	C0353
DUO HOANG ANH TUAN		
ドゥック ホアン アン トゥアン		

資料 1 留学生のための学習支援

(出典 学生課 作成資料)

資料 7-1-⑤-2

平成 16 年 12 月 日

松江工業高等専門学校教務部長 殿

松江工業高等専門学校
教務主事 福岡 真澄

平成 17 年度編入学生の数学の事前補習授業について(依頼)

貴校下記の学生さんは、来年 4 月、本校 4 年生に編入されることになっています。ついでに、次の日程で数学の事前補習授業を行いますので、当該学生を出席させていただきようご指導方よろしくお願ひいたします。

記

1. 学生氏名 総合電気科 浜崎 弘
機械科 梶原 昇
2. 集合日時 平成 17 年 1 月 17 日(月) 12 時 30 分
3. 集合場所 学生課
受付後、3 階数学研究室(村上研究室)へ
4. 日 程

時 間	1 月 17 日(月)	1 月 18 日(火)	1 月 19 日(水)
8:00~8:30	講 義	講 義	講 義
8:50~10:20		微 分 法	微 分 法
10:35~12:05		微 分 法	微 分 法
昼 休 み	12:30 集合	昼 食	昼 食
13:00~14:30	指数・対数関係	微分法的应用	微分法的应用
14:40~16:10	三角関数・逆三角関数	微分法的应用	微分法的应用
17:30~19:30	夕 食	夕 食	解 散
18:30~19:30	入 浴	入 浴	
19:30~			

5. 別添案内当該学生に手渡していただくようお願いいたします。
6. その他
ご不明の点は、次に厚会してください(月から金 8 時 30 分~17 時の間)
松江工業高等専門学校 一般科目数学主任 村上 TEL 0852-36-5152
学生課専門員 安達 TEL 0852-36-5131

資料 2 編入生のための学習支援(入学事前指導)

(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

特別な学習支援が必要な者として、留学生、編入学生に対しては、学習支援体制が整備され、機能している。しかし、社会人については、これまで1名の入学者があったが特にその必要性がなかったために支援は行っていない。障害者については前例がなく体制が整備されていない。

観点 7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

(1) クラブ活動、学生会活動に対する支援体制

学生会の組織は図のようになっており、学生会準則、学生会会則に従って活動している。(資料 7-1-⑥-1)

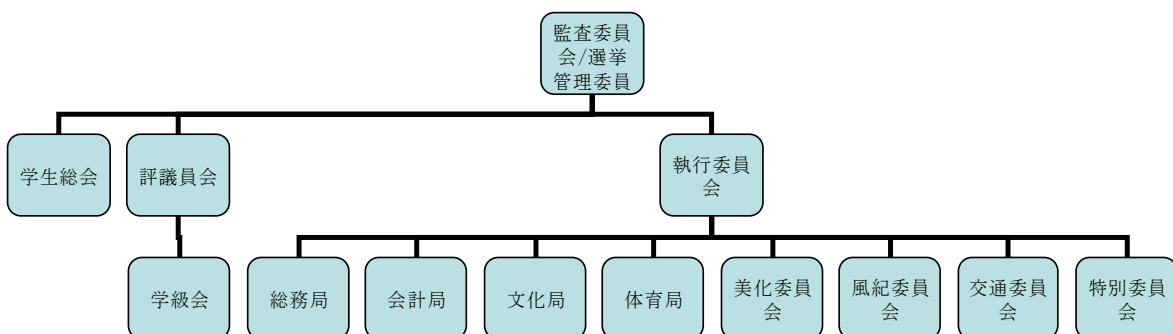
学生会は学校の指導のもとに、学生の自発的な活動を通じて、豊かな人間形成と充実した学生生活を送ることを目的として、学生全員で構成されている。学生会の文化局に文化系の 13 の部・同好会が所属し活動している。また、体育局に体育系の 20 の部・同好会が所属し活動している。各部・同好会の部員数、顧問教員及び結果を別添資料に示す。1,000名の学生のうちの約7割の学生が部活動に参加している。(資料 7-1-⑥-2)、(資料 7-1-⑥-3) また、学校全体の行事である高専祭、体育祭、スポーツデー・クリーンデーなどは学生会が中心となって実施する。(資料 7-1-⑥-4)

学生会及び各クラブ同好会には資料(前掲 資料 7-1-⑥-2)のとおり複数の顧問教員を、技術的な指導が必要な部に対しては外部コーチを配置している。

経済的支援面では、顧問会議で審議して資料のように配分している。(資料 7-1-⑥-5) 各部・同好会の活動費は学生会が原案を作り、学生総会で承認され、執行されている。(資料 7-1-⑥-6)

課外活動施設・設備面では、合宿センターと福利施設があり、年間80日程度当直教員がついて使用されている。また、29人乗りのマイクロバスがあり、対外試合や校外合宿の交通手段として大いに利用されている。

資料 7-1-⑥-1



(出典 学生ガイドブック)

資料7-1-⑥-2

課外活動 部員数及び顧問教員

	所 属 人 数				顧問教員及び外部招聘コーチ	
	14年度	15年度	16年度	17年度		
体 育 局	陸上競技部	27	37	32	41	○森田正利・松本浩介・築谷隆雄
	柔道部	14	17	18	19	○高木健司・高田龍一・中村 元 *永光雅一
	剣道部	15	16	16	18	○高橋 栄・渡邊修治・柴田俊文・名原千絵 *釜田 彰
	テニス部	34	35	37	29	男：○吉田 剛・門脇 健・金子大二郎・幸田憲明 女： 藤井 諭・藤原 豊・天野 順
	ソフトテニス部	28	32	48	47	男： 利光和彦・新野邊幸市・田邊喜一 女：○衣笠保智・福岡久雄・武邊勝道
	バレーボール部	26	27	29	24	○村上 享・高橋 弘 *井山充弘
	バスケットボール部	34	38	44	42	○森山恭行・片山 優・福岡眞澄
	サッカー部	29	25	37	49	○岩田 淳・長澤 潔・堀内 匡 *安食正太
	卓球部	13	22	24	26	○上田 務・浅田 純作
	ボート部	29	30	27	25	○中村賢仁・箕田充志・山根清美・東原哲男 *井上 悟
	高野連野球部	30	19	29	36	○高見昭康・山根繁樹
	高専野球部	17	14	11	12	○松井秀宣・高尾 学・岡本信之・越田高志
	ラグビー部	39	30	39	32	○河原健次・勝部 豊・大屋 誠・本間寛己・箕田充志
	水泳部	25	25	18	26	○飯塚育生・戴 鳳智
	アーチェリー部	23	15	10	19	○藤岡美博・郡原 宏
	ハンドボール部	20	25	27	33	○山崎真克・高橋信雄・恒次秀起 *糸川 薫
	弓道部	41	28	39	31	○今尾浩也・渡部 徹・飯島睦美
	女子バスケットボール部	10	14	17	13	○和田守美穂・寺本敦子・高橋信雄
	女子バレーボール部	17	15	18	14	○宮下眞也・服部真弓・木村一郎
	スキー同好会	5	5	3	3	○宇野和男・高木健司
計	476	469	523	539		
文 化 局	文芸部	11	13	9	11	○板倉邦輔・小島 肇・渡部正気
	写真部	12	14	14	20	○亀谷 均・吉田 剛
	吹奏楽部	44	36	34	30	○鳥谷智文・岡本裕幸・渡部 徹・原 元司・木村一郎
	理科部	5			-	活動休止
	社会奉仕部	9	14	9	13	○黒田祐一・今尾浩也・飯島睦美
	無線部	8	6	15	19	○宮内 肇・門脇 健
	ESS部	7	10	5	6	○服部真弓・マロー・名原千絵
	情報科学研究部	27	23	28	26	○加藤 聡
	ロボット研究部	8	10		9	○堀江克明・本間寛己
	囲碁将棋同好会	16	18	9	7	○河原荘一郎・坪倉公治
	軽音楽同好会	38	35	-	-	活動休止
	郷土研究同好会	5	5		5	○黒田祐一・鳥谷智文・別府俊幸
	数学同好会	13	7		6	○中村 元・勝部 豊
	漫画研究同好会	15	16	16	18	○小島 肇・渡部正気・板倉邦輔
	映画研究部	-	-	-	-	活動休止
	古典音楽同好会	5	5		-	活動休止
	美術同好会	-			11	○岡本裕幸
計	223	212	139	181		

(注1) *印は、外部招聘コーチを示す。

(注2) ○印は、主たる顧問教員を示す。

(出典 学生課 作成資料)

資料7-1-⑥-3

中国地区高専体育大会成績（団体のみ）

年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
主管校	米 子	広 島	松 江	大 島
陸 上	4 位	4 位	優勝	優勝
バスケットボール（男子）	優勝	優勝	優勝	優勝
バスケットボール（女子）	2 位	2 位	優勝	2 位
バレーボール（男子）	×	2 位	2 位	優勝
バレーボール（女子）	優勝	2 位	優勝	優勝
テニス	2 位	×	×	4 位
ソフトテニス	4 位	3 位	3 位	4 位
卓 球	×	×	×	4 位
柔 道	2 位	2 位	2 位	2 位
剣 道	8 位	5 位	4 位	4 位
サッカー	2 位	2 位	2 位	1 位
水 泳	7 位	7 位	6 位	4 位
硬式野球	3 位	3 位	×	×
ハンドボール	3 位	3 位	3 位	2 位
ラグビー	優勝	優勝	優勝	優勝

全国大会成績（全国高専体育大会）

	回	主管校	成 績	
			団 体	個 人
平成14年度	37	一 関	バスケットボール（男子）優勝 バレーボール（女子）優勝	ソフトテニス 湯浅，船津（優勝）
平成15年度	38	鹿児島	バスケットボール（男子）3位	陸上競技 男子三段跳 坂本（3位）
平成16年度	39	沼 津	バスケットボール（男子）2位 バスケットボール（女子）2位 バレーボール（女子）優勝	陸上競技 男子三段跳 坂本（優勝）
平成17年度	40	群 馬	バスケットボール（男子）優勝 バレーボール（男子）優勝 バレーボール（女子）優勝	陸上競技 男子三段跳 坂本（優勝）

（出典 学生課 作成資料）

資料7-1-⑥-5

平成17年度課外活動関係(後援会)予算

項 目	平成17年度	平成16年度		備 考
		(実績)	(内校費)	
全国高専体育大会	4,700,000	4,662,000		15クラブ(交通費全額, 宿泊費50%補助)(2位まで参加できる年, 関東) 18年度近畿, 19年度四国, 20年度北海道の予定
中国高専体育大会	3,000,000	2,550,000	893,350	3会場(大島, 米子, 広島)
対米子定期戦	240,000	240,000	211,050	
高専大会のない部活	1,200,000	1,250,000	175,640	ボート, 弓道, 吹奏楽などへの遠征補助(中国大会に準ずる)
上記大会以外の引率旅費	1,540,000	1,850,000		
合宿当直手当て	240,000	400,000		1泊 3,000円 80日分
高校体育連盟分担金	190,000	321,500		
外部指導者謝金	340,000	340,000	340,000	
公用車運転委託料	1,100,000	1,400,000		(マイクロバスについては 大会・・・1日5,000円・1泊5,000円部負担, 大会以外・・・1日8,000円・1泊8,000円部負担) (ワゴンについては 大会・・・1日2,000円・1泊5,000円部負担, 大会以外・・・1日4,000円・1泊8,000円部負担)
予備費	1,000,000			
課外活動費 計	13,550,000	13,013,500	1,620,040	
部・同好会活動費	1,950,000	1,733,000		平成17年度は登録料, 大会参加費, 部・同好会活動費併せて部・同好会活動費とする。
登録料		450,000		
大会参加費		500,000		(16年度は3大会まで, 上限5万円)
部同好会活動補助		500,000		(16年度分は10部補助, 学生部員数×3000円) 17年度は廃止
遠征費補助	500,000	550,000		高体連遠征補助, 文芸・写真合同合宿他
学生会 計	2,450,000	3,733,000		
合 計	16,000,000	16,746,500	1,620,040	

(注) 各種大会引率の日当は, 1,100円, 宿泊は8,000円(少年自然の家等, 高専の合宿センター等に宿泊の場合は, 4,000円)とする。

学生会

運営費	450,000	570,000		総務局, 文化局, 体育局, 会計局
高専祭	1,400,000	1,680,000		
体育祭		250,000		
卒業記念品	250,000	250,000		
計	2,100,000	2,750,000		

(注) 後援会費の7%予定

(出典 学生課 作成資料)

資料7-1-⑥-6

平成17年度 各部・同好会活動費内訳

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増減額 (△)	備 考
陸上競技部	55,000	98,600	△ 43,600	
柔道部	30,000	49,800	△ 19,800	
剣道部	10,000	16,200	△ 6,200	
硬式テニス部	30,000	72,000	△ 42,000	
ソフトテニス部	40,000	81,000	△ 41,000	
男子バレーボール部	40,000	60,000	△ 20,000	
男子バスケットボール部	55,000	79,500	△ 24,500	
サッカー部	70,000	106,500	△ 36,500	
卓球部	18,000	27,600	△ 9,600	
ボート部	75,000	121,800	△ 46,800	
高野連野球部	66,000	99,660	△ 33,660	
高専野球部	40,000	66,240	△ 26,240	
ラグビー部	70,000	123,300	△ 53,300	
水泳部	20,000	49,800	△ 29,800	
アーチェリー部	10,000	19,500	△ 9,500	
ハンドボール部	30,000	53,400	△ 23,400	
弓道部	40,000	65,400	△ 25,400	
女子バスケットボール部	30,000	46,200	△ 16,200	
女子バレーボール部	30,000	46,200	△ 16,200	
スキー同好会	0	0	0	請求なし
文芸部	18,000	48,300	△ 30,300	
写真部	8,000	24,500	△ 16,500	
吹奏楽部	160,000	225,000	△ 65,000	
理科部	0	0	0	活動休止
社会奉仕部	9,000	20,000	△ 11,000	
無線部	5,000	25,000	△ 20,000	
ESS部	6,000	14,500	△ 8,500	
情報科学研究部	8,000	26,000	△ 18,000	
ロボット研究部	8,000	21,500	△ 13,500	
囲碁将棋同好会	4,000	13,000	△ 9,000	
軽音楽同好会	0	0	0	活動休止
郷土研究同好会	2,000	3,000	△ 1,000	
数学同好会	3,000	3,500	△ 500	
漫画研究同好会	7,000	21,000	△ 14,000	
古典音楽同好会	0	5,000	△ 5,000	活動休止
美術同好会	3,000	0	3,000	
小 計	1,000,000	1,733,000	△ 733,000	
登録料	450,000	500,000	△ 50,000	
大会参加費	500,000	0	500,000	
部同好会遠征費補助	500,000	550,000	△ 50,000	
合 計	2,450,000	2,783,000	△ 333,000	

(出典 学生課 作成資料)

資料 7-1-⑥-4

学校周辺美化活動について

- ・ 活動内容
 - ・ 晴天時…学校周辺の清掃活動
 - ・ 雨天時…校内の美化活動(教室のごみ捨て等)
- ・ 集合場所、時間
 - 八限終了後、学生係前に集合(~17時まで活動)
- ・ 分担表

6月7日M2~5.1-1.学生会①	7月5日J2~5.1-4.学生会④
14日B2~5.1-2.学生会②	12日C2~5.1-5.学生会①
21日D2~5.1-3.学生会③	19日なし
28日学生会	26日なし

※ 全校集会等があれば活動は行わない

質問などがあればE4松浦まで

(出典 学生課 作成資料)

(2) 各種コンテストに対する支援体制

人的支援面では、学生委員会及び学生係に担当教職員を置き、各種コンテストの学内への広報と参加呼びかけを行っている。

参加希望の多いロボットコンテストとプログラミングコンテストについては校内予選を企画し実施している。また、各チームに指導教職員を置き、学生への指導・助言を行っている。(資料7-1-⑥-7)

地区大会及び全国大会の結果を資料に示す。(資料7-1-⑥-8)

経済的支援面では、各種コンテストに資料のような経済的支援を行っている。(資料7-1-⑥-9)

資料 7-1-⑥-7

ロボットコンテスト 校内対決実施要綱

1. 日程 8月9日(土) 10:00~11:30
 講義、試走は事前に各チームで行う。
 10:00 競技開始 (競技時間3分間、スタート前のセッティングタイム1分間)

2. 場所 専科科棟1階

3. 参加チーム (1) 校内対決参加
 (1) E4科棟3号 (2) M1科棟 (3) M2科棟 (4) M3科棟 (5) M4科棟 (6) M5科棟 (7) M6科棟 (8) M7科棟 (9) M8科棟 (10) M9科棟 (11) M10科棟 (12) M11科棟 (13) M12科棟 (14) M13科棟 (15) M14科棟 (16) M15科棟 (17) M16科棟 (18) M17科棟 (19) M18科棟 (20) M19科棟 (21) M20科棟 (22) M21科棟 (23) M22科棟 (24) M23科棟 (25) M24科棟 (26) M25科棟 (27) M26科棟 (28) M27科棟 (29) M28科棟 (30) M29科棟 (31) M30科棟 (32) M31科棟 (33) M32科棟 (34) M33科棟 (35) M34科棟 (36) M35科棟 (37) M36科棟 (38) M37科棟 (39) M38科棟 (40) M39科棟 (41) M40科棟 (42) M41科棟 (43) M42科棟 (44) M43科棟 (45) M44科棟 (46) M45科棟 (47) M46科棟 (48) M47科棟 (49) M48科棟 (50) M49科棟 (51) M50科棟 (52) M51科棟 (53) M52科棟 (54) M53科棟 (55) M54科棟 (56) M55科棟 (57) M56科棟 (58) M57科棟 (59) M58科棟 (60) M59科棟 (61) M60科棟 (62) M61科棟 (63) M62科棟 (64) M63科棟 (65) M64科棟 (66) M65科棟 (67) M66科棟 (68) M67科棟 (69) M68科棟 (70) M69科棟 (71) M70科棟 (72) M71科棟 (73) M72科棟 (74) M73科棟 (75) M74科棟 (76) M75科棟 (77) M76科棟 (78) M79科棟 (79) M80科棟 (80) M81科棟 (81) M82科棟 (82) M83科棟 (83) M84科棟 (84) M85科棟 (85) M86科棟 (86) M87科棟 (87) M88科棟 (88) M89科棟 (89) M90科棟 (90) M91科棟 (91) M92科棟 (92) M93科棟 (93) M94科棟 (94) M95科棟 (95) M96科棟 (96) M97科棟 (97) M98科棟 (98) M99科棟 (99) M100科棟 (100) M101科棟 (101) M102科棟 (102) M103科棟 (103) M104科棟 (104) M105科棟 (105) M106科棟 (106) M107科棟 (107) M108科棟 (108) M109科棟 (109) M110科棟 (110) M111科棟 (111) M112科棟 (112) M113科棟 (113) M114科棟 (114) M115科棟 (115) M116科棟 (116) M117科棟 (117) M118科棟 (118) M119科棟 (119) M120科棟 (120) M121科棟 (121) M122科棟 (122) M123科棟 (123) M124科棟 (124) M125科棟 (125) M126科棟 (126) M127科棟 (127) M128科棟 (128) M129科棟 (129) M130科棟 (130) M131科棟 (131) M132科棟 (132) M133科棟 (133) M134科棟 (134) M135科棟 (135) M136科棟 (136) M137科棟 (137) M138科棟 (138) M139科棟 (139) M140科棟 (140) M141科棟 (141) M142科棟 (142) M143科棟 (143) M144科棟 (144) M145科棟 (145) M146科棟 (146) M147科棟 (147) M148科棟 (148) M149科棟 (149) M150科棟 (150) M151科棟 (151) M152科棟 (152) M153科棟 (153) M154科棟 (154) M155科棟 (155) M156科棟 (156) M157科棟 (157) M158科棟 (158) M159科棟 (159) M160科棟 (160) M161科棟 (161) M162科棟 (162) M163科棟 (163) M164科棟 (164) M165科棟 (165) M166科棟 (166) M167科棟 (167) M168科棟 (168) M169科棟 (169) M170科棟 (170) M171科棟 (171) M172科棟 (172) M173科棟 (173) M174科棟 (174) M175科棟 (175) M176科棟 (176) M177科棟 (177) M178科棟 (178) M179科棟 (179) M180科棟 (180) M181科棟 (181) M182科棟 (182) M183科棟 (183) M184科棟 (184) M185科棟 (185) M186科棟 (186) M187科棟 (187) M188科棟 (188) M189科棟 (189) M190科棟 (190) M191科棟 (191) M192科棟 (192) M193科棟 (193) M194科棟 (194) M195科棟 (195) M196科棟 (196) M197科棟 (197) M198科棟 (198) M199科棟 (199) M200科棟 (200) M201科棟 (201) M202科棟 (202) M203科棟 (203) M204科棟 (204) M205科棟 (205) M206科棟 (206) M207科棟 (207) M208科棟 (208) M209科棟 (209) M210科棟 (210) M211科棟 (211) M212科棟 (212) M213科棟 (213) M214科棟 (214) M215科棟 (215) M216科棟 (216) M217科棟 (217) M218科棟 (218) M219科棟 (219) M220科棟 (220) M221科棟 (221) M222科棟 (222) M223科棟 (223) M224科棟 (224) M225科棟 (225) M226科棟 (226) M227科棟 (227) M228科棟 (228) M229科棟 (229) M230科棟 (230) M231科棟 (231) M232科棟 (232) M233科棟 (233) M234科棟 (234) M235科棟 (235) M236科棟 (236) M237科棟 (237) M238科棟 (238) M239科棟 (239) M240科棟 (240) M241科棟 (241) M242科棟 (242) M243科棟 (243) M244科棟 (244) M245科棟 (245) M246科棟 (246) M247科棟 (247) M248科棟 (248) M249科棟 (249) M250科棟 (250) M251科棟 (251) M252科棟 (252) M253科棟 (253) M254科棟 (254) M255科棟 (255) M256科棟 (256) M257科棟 (257) M258科棟 (258) M259科棟 (259) M260科棟 (260) M261科棟 (261) M262科棟 (262) M263科棟 (263) M264科棟 (264) M265科棟 (265) M266科棟 (266) M267科棟 (267) M268科棟 (268) M269科棟 (269) M270科棟 (270) M271科棟 (271) M272科棟 (272) M273科棟 (273) M274科棟 (274) M275科棟 (275) M276科棟 (276) M277科棟 (277) M278科棟 (278) M279科棟 (279) M280科棟 (280) M281科棟 (281) M282科棟 (282) M283科棟 (283) M284科棟 (284) M285科棟 (285) M286科棟 (286) M287科棟 (287) M288科棟 (288) M289科棟 (289) M290科棟 (290) M291科棟 (291) M292科棟 (292) M293科棟 (293) M294科棟 (294) M295科棟 (295) M296科棟 (296) M297科棟 (297) M298科棟 (298) M299科棟 (299) M300科棟 (300) M301科棟 (301) M302科棟 (302) M303科棟 (303) M304科棟 (304) M305科棟 (305) M306科棟 (306) M307科棟 (307) M308科棟 (308) M309科棟 (309) M310科棟 (310) M311科棟 (311) M312科棟 (312) M313科棟 (313) M314科棟 (314) M315科棟 (315) M316科棟 (316) M317科棟 (317) M318科棟 (318) M319科棟 (319) M320科棟 (320) M321科棟 (321) M322科棟 (322) M323科棟 (323) M324科棟 (324) M325科棟 (325) M326科棟 (326) M327科棟 (327) M328科棟 (328) M329科棟 (329) M330科棟 (330) M331科棟 (331) M332科棟 (332) M333科棟 (333) M334科棟 (334) M335科棟 (335) M336科棟 (336) M337科棟 (337) M338科棟 (338) M339科棟 (339) M340科棟 (340) M341科棟 (341) M342科棟 (342) M343科棟 (343) M344科棟 (344) M345科棟 (345) M346科棟 (346) M347科棟 (347) M348科棟 (348) M349科棟 (349) M350科棟 (350) M351科棟 (351) M352科棟 (352) M353科棟 (353) M354科棟 (354) M355科棟 (355) M356科棟 (356) M357科棟 (357) M358科棟 (358) M359科棟 (359) M360科棟 (360) M361科棟 (361) M362科棟 (362) M363科棟 (363) M364科棟 (364) M365科棟 (365) M366科棟 (366) M367科棟 (367) M368科棟 (368) M369科棟 (369) M370科棟 (370) M371科棟 (371) M372科棟 (372) M373科棟 (373) M374科棟 (374) M375科棟 (375) M376科棟 (376) M377科棟 (377) M378科棟 (378) M379科棟 (379) M380科棟 (380) M381科棟 (381) M382科棟 (382) M383科棟 (383) M384科棟 (384) M385科棟 (385) M386科棟 (386) M387科棟 (387) M388科棟 (388) M389科棟 (389) M390科棟 (390) M391科棟 (391) M392科棟 (392) M393科棟 (393) M394科棟 (394) M395科棟 (395) M396科棟 (396) M397科棟 (397) M398科棟 (398) M399科棟 (399) M400科棟 (400) M401科棟 (401) M402科棟 (402) M403科棟 (403) M404科棟 (404) M405科棟 (405) M406科棟 (406) M407科棟 (407) M408科棟 (408) M409科棟 (409) M410科棟 (410) M411科棟 (411) M412科棟 (412) M413科棟 (413) M414科棟 (414) M415科棟 (415) M416科棟 (416) M417科棟 (417) M418科棟 (418) M419科棟 (419) M420科棟 (420) M421科棟 (421) M422科棟 (422) M423科棟 (423) M424科棟 (424) M425科棟 (425) M426科棟 (426) M427科棟 (427) M428科棟 (428) M429科棟 (429) M430科棟 (430) M431科棟 (431) M432科棟 (432) M433科棟 (433) M434科棟 (434) M435科棟 (435) M436科棟 (436) M437科棟 (437) M438科棟 (438) M439科棟 (439) M440科棟 (440) M441科棟 (441) M442科棟 (442) M443科棟 (443) M444科棟 (444) M445科棟 (445) M446科棟 (446) M447科棟 (447) M448科棟 (448) M449科棟 (449) M450科棟 (450) M451科棟 (451) M452科棟 (452) M453科棟 (453) M454科棟 (454) M455科棟 (455) M456科棟 (456) M457科棟 (457) M458科棟 (458) M459科棟 (459) M460科棟 (460) M461科棟 (461) M462科棟 (462) M463科棟 (463) M464科棟 (464) M465科棟 (465) M466科棟 (466) M467科棟 (467) M468科棟 (468) M469科棟 (469) M470科棟 (470) M471科棟 (471) M472科棟 (472) M473科棟 (473) M474科棟 (474) M475科棟 (475) M476科棟 (476) M477科棟 (477) M478科棟 (478) M479科棟 (479) M480科棟 (480) M481科棟 (481) M482科棟 (482) M483科棟 (483) M484科棟 (484) M485科棟 (485) M486科棟 (486) M487科棟 (487) M488科棟 (488) M489科棟 (489) M490科棟 (490) M491科棟 (491) M492科棟 (492) M493科棟 (493) M494科棟 (494) M495科棟 (495) M496科棟 (496) M497科棟 (497) M498科棟 (498) M499科棟 (499) M500科棟 (500) M501科棟 (501) M502科棟 (502) M503科棟 (503) M504科棟 (504) M505科棟 (505) M506科棟 (506) M507科棟 (507) M508科棟 (508) M509科棟 (509) M510科棟 (510) M511科棟 (511) M512科棟 (512) M513科棟 (513) M514科棟 (514) M515科棟 (515) M516科棟 (516) M517科棟 (517) M518科棟 (518) M519科棟 (519) M520科棟 (520) M521科棟 (521) M522科棟 (522) M523科棟 (523) M524科棟 (524) M525科棟 (525) M526科棟 (526) M527科棟 (527) M528科棟 (528) M529科棟 (529) M530科棟 (530) M531科棟 (531) M532科棟 (532) M533科棟 (533) M534科棟 (534) M535科棟 (535) M536科棟 (536) M537科棟 (537) M538科棟 (538) M539科棟 (539) M540科棟 (540) M541科棟 (541) M542科棟 (542) M543科棟 (543) M544科棟 (544) M545科棟 (545) M546科棟 (546) M547科棟 (547) M548科棟 (548) M549科棟 (549) M550科棟 (550) M551科棟 (551) M552科棟 (552) M553科棟 (553) M554科棟 (554) M555科棟 (555) M556科棟 (556) M557科棟 (557) M558科棟 (558) M559科棟 (559) M560科棟 (560) M561科棟 (561) M562科棟 (562) M563科棟 (563) M564科棟 (564) M565科棟 (565) M566科棟 (566) M567科棟 (567) M568科棟 (568) M569科棟 (569) M570科棟 (570) M571科棟 (571) M572科棟 (572) M573科棟 (573) M574科棟 (574) M575科棟 (575) M576科棟 (576) M577科棟 (577) M578科棟 (578) M579科棟 (579) M580科棟 (580) M581科棟 (581) M582科棟 (582) M583科棟 (583) M584科棟 (584) M585科棟 (585) M586科棟 (586) M587科棟 (587) M588科棟 (588) M589科棟 (589) M590科棟 (590) M591科棟 (591) M592科棟 (592) M593科棟 (593) M594科棟 (594) M595科棟 (595) M596科棟 (596) M597科棟 (597) M598科棟 (598) M599科棟 (599) M600科棟 (600) M601科棟 (601) M602科棟 (602) M603科棟 (603) M604科棟 (604) M605科棟 (605) M606科棟 (606) M607科棟 (607) M608科棟 (608) M609科棟 (609) M610科棟 (610) M611科棟 (611) M612科棟 (612) M613科棟 (613) M614科棟 (614) M615科棟 (615) M616科棟 (616) M617科棟 (617) M618科棟 (618) M619科棟 (619) M620科棟 (620) M621科棟 (621) M622科棟 (622) M623科棟 (623) M624科棟 (624) M625科棟 (625) M626科棟 (626) M627科棟 (627) M628科棟 (628) M629科棟 (629) M630科棟 (630) M631科棟 (631) M632科棟 (632) M633科棟 (633) M634科棟 (634) M635科棟 (635) M636科棟 (636) M637科棟 (637) M638科棟 (638) M639科棟 (639) M640科棟 (640) M641科棟 (641) M642科棟 (642) M643科棟 (643) M644科棟 (644) M645科棟 (645) M646科棟 (646) M647科棟 (647) M648科棟 (648) M649科棟 (649) M650科棟 (650) M651科棟 (651) M652科棟 (652) M653科棟 (653) M654科棟 (654) M655科棟 (655) M656科棟 (656) M657科棟 (657) M658科棟 (658) M659科棟 (659) M660科棟 (660) M661科棟 (661) M662科棟 (662) M663科棟 (663) M664科棟 (664) M665科棟 (665) M666科棟 (666) M667科棟 (667) M668科棟 (668) M669科棟 (669) M670科棟 (670) M671科棟 (671) M672科棟 (672) M673科棟 (673) M674科棟 (674) M675科棟 (675) M676科棟 (676) M677科棟 (677) M678科棟 (678) M679科棟 (679) M680科棟 (680) M681科棟 (681) M682科棟 (682) M683科棟 (683) M684科棟 (684) M685科棟 (685) M686科棟 (686) M687科棟 (687) M688科棟 (688) M689科棟 (689) M690科棟 (690) M691科棟 (691) M692科棟 (692) M693科棟 (693) M694科棟 (694) M695科棟 (695) M696科棟 (696) M697科棟 (697) M698科棟 (698) M699科棟 (699) M700科棟 (700) M701科棟 (701) M702科棟 (702) M703科棟 (703) M704科棟 (704) M705科棟 (705) M706科棟 (706) M707科棟 (707) M708科棟 (708) M709科棟 (709) M710科棟 (710) M711科棟 (711) M712科棟 (712) M713科棟 (713) M714科棟 (714) M715科棟 (715) M716科棟 (716) M717科棟 (717) M718科棟 (718) M719科棟 (719) M720科棟 (720) M721科棟 (721) M722科棟 (722) M723科棟 (723) M724科棟 (724) M725科棟 (725) M726科棟 (726) M727科棟 (727) M728科棟 (728) M729科棟 (729) M730科棟 (730) M731科棟 (731) M732科棟 (732) M733科棟 (733) M734科棟 (734) M735科棟 (735) M736科棟 (736) M737科棟 (737) M738科棟 (738) M739科棟 (739) M740科棟 (740) M741科棟 (741) M742科棟 (742) M743科棟 (743) M744科棟 (744) M745科棟 (745) M746科棟 (746) M747科棟 (747) M748科棟 (748) M749科棟 (749) M750科棟 (750) M751科棟 (751) M752科棟 (752) M753科棟 (753) M754科棟 (754) M755科棟 (755) M756科棟 (756) M757科棟 (757) M758科棟 (758) M759科棟 (759) M760科棟 (760) M761科棟 (761) M762科棟 (762) M763科棟 (763) M764科棟 (764) M765科棟 (765) M766科棟 (766) M767科棟 (767) M768科棟 (768) M769科棟 (769) M770科棟 (770) M771科棟 (771) M772科棟 (772) M773科棟 (773) M774科棟 (774) M775科棟 (775) M776科棟 (776) M777科棟 (777) M778科棟 (778) M779科棟 (779) M780科棟 (780) M781科棟 (781) M782科棟 (782) M783科棟 (783) M784科棟 (784) M785科棟 (785) M786科棟 (786) M787科棟 (787) M788科棟 (788) M789科棟 (789) M790科棟 (790) M791科棟 (791) M792科棟 (792) M793科棟 (793) M794科棟 (794) M795科棟 (795) M796科棟 (796) M797科棟 (797) M798科棟 (798) M799科棟 (799) M800科棟 (800) M801科棟 (801) M802科棟 (802) M803科棟 (803) M804科棟 (804) M805科棟 (805) M806科棟 (806) M807科棟 (807) M808科棟 (808) M809科棟 (809) M810科棟 (810) M811科棟 (811) M812科棟 (812) M813科棟 (813) M814科棟 (814) M815科棟 (815) M816科棟 (816) M817科棟 (817) M818科棟 (818) M819科棟 (819) M820科棟 (820) M821科棟 (821) M822科棟 (822) M823科棟 (823) M824科棟 (824) M825科棟 (825) M826科棟 (826) M827科棟 (827) M828科棟 (828) M829科棟 (829) M830科棟 (830) M831科棟 (831) M832科棟 (832) M833科棟 (833) M834科棟 (834) M835科棟 (835) M836科棟 (836) M837科棟 (837) M838科棟 (838) M839科棟 (839) M840科棟 (840) M841科棟 (841) M842科棟 (842) M843科棟 (843) M844科棟 (844) M845科棟 (845) M846科棟 (846) M847科棟 (847) M848科棟 (848) M849科棟 (849) M850科棟 (850) M851科棟 (851) M852科棟 (852) M853科棟 (853) M854科棟 (854) M855科棟 (855) M856科棟 (856) M857科棟 (857) M858科棟 (858) M859科棟 (859) M860科棟 (860) M861科棟 (861) M862科棟 (862) M863科棟 (863) M864科棟 (864) M865科棟 (865) M866科棟 (866) M867科棟 (867) M868科棟 (868) M869科棟 (869) M870科棟 (870) M871科棟 (871) M872科棟 (872) M873科棟 (873) M874科棟 (874) M875科棟 (875) M876科棟 (876) M877科棟 (877) M878科棟 (878) M879科棟 (879) M880科棟 (880) M881科棟 (881) M882科棟 (882) M883科棟 (883) M884科棟 (884) M885科棟 (885) M886科棟 (886) M887科棟 (887) M888科棟 (888) M889科棟 (889) M890科棟 (890) M891科棟 (891) M892科棟 (892) M893科棟 (893) M894科棟 (894) M895科棟 (895) M896科棟 (896) M897科棟 (897) M898科棟 (898) M899科棟 (899) M900科棟 (900) M901科棟 (901) M902科棟 (902) M903科棟 (903) M904科棟 (904) M905科棟 (905) M906科棟 (906) M907科棟 (907) M908科棟 (908) M909科棟 (909) M910科棟 (910) M911科棟 (911) M912科棟 (912) M913科棟 (913) M914科棟 (914) M915科棟 (915) M916科棟 (916) M917科棟 (917) M918科棟 (918) M919科棟 (919) M920科棟 (920) M921科棟 (921) M922科棟 (922) M923科棟 (923) M924科棟 (924) M925科棟 (925) M926科棟 (926) M927科棟 (927) M928科棟 (928) M929科棟 (929) M930科棟 (930) M931科棟 (931) M932科棟 (932) M933科棟 (933) M934科棟 (934) M935科棟 (935) M936科棟 (936) M937科棟 (937) M938科棟 (938) M939科棟 (939) M940科棟 (940) M941科棟 (941) M942科棟 (942) M943科棟 (943) M944科棟 (944) M945科棟 (945) M946科棟 (946) M947科棟 (947) M948科棟 (948) M949科棟 (949) M950科棟 (950) M951科棟 (951) M952科棟 (952) M953科棟 (953) M954科棟 (954) M955科棟 (955) M956科棟 (956) M957科棟 (957) M958科棟 (958) M959科棟 (959) M960科棟 (960) M961科棟 (961) M962科棟 (962) M963科棟 (963) M964科棟 (964) M965科棟 (965) M966科棟 (966) M967科棟 (967) M968科棟 (968) M969科棟 (969) M970科棟 (970) M971科棟 (971) M972科棟 (972) M973科棟 (973) M974科棟 (974) M975科棟 (975) M976科棟 (976) M977科棟 (977) M978科棟 (978) M979科棟 (979) M980科棟 (980) M981科棟 (981) M982科棟 (982) M983科棟 (983) M984科棟 (984) M985科棟 (985) M986科棟 (986) M987科棟 (987) M988科棟 (988) M989科棟 (989) M990科棟 (990) M991科棟 (991) M992科棟 (992) M993科棟 (993) M994科棟 (994) M995科棟 (995) M996科棟 (996) M997科棟 (997) M998科棟 (998) M999科棟 (999) M1000科棟 (1000)

プロコン2005 校内審査 採点用紙

クラス	代表学生氏名	タイトル	合計	順位
課題部門				
J1	菅野 智之	「ロボットコンテスト」	82	4
J2	菅野 智之	「ロボットコンテスト」	102	1
J3	菅野 智之	「ロボットコンテスト」	88	3
J4	菅野 智之	「ロボットコンテスト」	88	3
J5	菅野 智之	「ロボットコンテスト」	88	3
自由部門				

資料7-1-⑥-8 A

松江高専ロボットコンテスト中国大会・全国大会の最近の結果

回数・年度	地区大会	参加チーム	ロボット名	結果	全国大会月日	参加チーム	ロボット名	結果
第14回 H13年度	徳山	E3	技あり一本	優勝	11.25	E3	技あり一本	準々決勝 敗退
		E5	RAKEX(レイクス)	準優勝				
第15回 H14年度	米子	E4・E3	RUN AWAY 2980		11.24			
		M3・D3	2980					
第16回 H15年度	宇部	E4	十二岐の大蛇		11.23			
		E5	烏賊した奴	中国大会特別賞 (リットワーク スジャパン)				
第17回 H16年度	松江	E3	Under30	特別賞(中電)				
		E4	それいけアルゴン	優勝 中国大会特別賞 (リットワーク スジャパン)	11.28	E4	それいけアルゴン	優勝

松江高専デザコン全国大会の結果

回数	年月日	会場	参加チーム	部門	成績
第1回	平成16年9月3日～5日	石川高専	C3	設計競技部門 構造デザインコンペ ティションセッション	競技2位 石川高専校長賞

(出典 学生課 作成資料)

資料7-1-⑥-8 B

松江高専プログラミングコンテスト全国大会最近の結果

回数	年月日	会場	参加チーム	部門	成績
第12回	平成13年10月13日 ～14日	鶴岡市		課題部門	敢闘賞
				競技部門	
第13回	平成14年10月12日 ～13日	金沢市	J4	自由部門	優秀賞（準優勝）
			J3	競技部門	1回戦敗退
第14回	平成15年10月11日 ～12日	八王子市	J4	自由部門	文部科学大臣賞（最優秀賞）
			J3・2	自由部門	敢闘賞
			J3	課題部門	敢闘賞
				競技部門	
第15回	平成16年10月9日 ～10日	新居浜市	J4・3	課題部門	文部科学大臣賞（最優秀賞）
			J4・3・5	自由部門	優秀賞（準優勝）
			J5・4	競技部門	特別賞（第4位）

松江高専中国英語弁論大会最近の結果

回数	年月日	担当校	部門	参加者	成績
第17回	平成13年11月23日	呉高専	スピーチの部	J2 角田 真一	優勝
				J3 田村 公紀	2位
第18回	平成14年11月22日～23日	徳山高専	暗唱の部	J3 角田 真一	優勝
第19回	平成15年11月21日～22日	宇部高専	暗唱の部	J3 田代 知明	3位
				J2 平坂 華江	5位
			スピーチの部	J5 田村 公紀	優勝
				J3 藤原 直樹	2位
第20回	平成16年11月19日～20日	大島高専	暗唱の部	J3 平坂 華江	優勝
			スピーチの部	J4 藤原 直樹	2位

(出典 学生課 作成資料)

資料7-1-⑥-9					
平成17年度学校広報活動支援経費（後援会）予算					
項目	平成17年度		平成16年度		
	予算額	開催地	実績（後援会）	運営費交付金	開催地
ロボコン	1,440,000	大島	1,481,282	750,000	松江
プロコン	200,000	米子	546,131		新居浜
デザコン	150,000	明石	169,022		石川
英語弁論	60,000	米子	71,280		大島
エコラン	150,000	熊本	10,000		広島
コンピュータ	170,000	宇部	102,195		津山
予備費	30,000				
広報活動費計	2,200,000		2,379,910		

（出典 学生課 作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生会（文化，体育系の部・同好会を含む）の各活動及び各種コンテストへの参加について，顧問教員や外部コーチを配置し，また，直接・間接的に経済的支援を行っている。次のことから，これらの支援が機能していると判断される。

学生会主導で，高専祭（体育祭も含む），学内外の美化活動（週1回），挨拶運動（週1回），スポーツデー（年2回6月と2月）&クリーンデー（年1回2月），リサイクルステーションの管理（毎日）などを活発に行って成果をあげている。

体育系の部も活発に活動し，高専大会や高体連大会等での活躍がめざましい。

文化系については，全ての部，同好会が活発に活動しているとはいえないが，吹奏楽部の活動は活発であり，全国吹奏楽コンクール中国大会に毎年出場している。

各種コンテストへの学生の関心は高く，校内審査は盛況を見せている。ロボットコンテストでは，平成16年度には全国大会で初優勝を成し遂げた。プログラミングコンテストでも平成14年度以後常に全国大会で最優秀賞や優秀賞を獲得している。英語弁論大会でも中国地区で常に1位・2位の成績を残している。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活と経済面の指導・助言については，学生委員会と学生課学生係が教務委員会，寮務委員会，学年会，担任と協力して行っている。（資料7-2-①-1）

1学年から3学年までは，学年会を週1回，教務委員，学生委員，寮務委員，学生相談員も参加して開催し，学年としての横の連携を図り学年で統一した学生指導をしている。また毎日8時30分から10分間教員連絡会を開催し教員間の意思疎通と学生指導の素早い対応を図っている。（前掲 資料5-4-②-1）

学生生活の励みとなるように学生の表彰に関する内規（資料7-2-①-2）を定め，学校生

活における顕著な活動に対して表彰している。(資料 7-2-①-3)

経済面での支援としては、入学料・授業料免除制度や日本学生支援機構の奨学金制度等の周知・助言を行っている。資料に出願状況等を示す。(資料 7-2-①-4)

学生生活を送る上での様々な悩みを相談する場所として学生相談室を設置している。学生相談室は、7名のスタッフからなる。(資料 7-2-①-5)

保健室や教員研究室では随時、平成16年12月からは保健室に隣接した専用の相談室で毎日放課後1時間、1名の教員が交代で対応している。相談件数は資料のとおりである。(資料 7-2-①-6)

その他、平成13年度に職員対象の研修会「カウンセリングマインドを生かした学生指導」、平成16年度に「カウンセラーから見た思春期」を学生相談室主催で開いた。

学外の研究集会の報告会を教員会議の場で行っている。

保健室には、1名の看護師が常勤として勤務し、学生の心身の健康増進、疾病の予防、安全管理に関する情報の提供及びサポートを行っている。その具体的対策を以下に、利用件数を資料にそれぞれ示す。(資料 7-2-①-7)

資料 7-2-①-1 平成17年度 学生委員会・学生係業務分担		
事 項	担 当 教 員	担 当 事 務 員
生活指導(掃除含む)	○山崎・原	遠藤
部活動(合宿含む)	○東原・山崎	遠藤・大久保
生徒指導協議会	○門脇・東原	本田
交通指導	○原(E・J)・門脇(M)・東原(D・C)	遠藤・大久保
授業料免除	○門脇・東原	本田
日本学生支援機構奨学生(旧日本育英会奨学生)	○門脇・東原	大久保
更衣室	○原・和田守	本田

(出典 学生課 作成資料)

資料 7-2-①-2 松江工業高等専門学校学生の表彰に関する内規	
	平成13年1月1日 制 定 平成16年4月1日 最終改正
(趣旨)	
第1条 松江工業高等専門学校学則第37条の規定に基づく本校学生の表彰(以下「表彰」という。)については、この内規の定めるところによる。 (表彰の種類及び対象者並びに選考基準)	
第2条 単年度表彰として、次の各号のとおり表彰する。	
一 優秀成績賞	1カ年間の成績(学年末成績)が優秀(全履修科目のうち、成績評価の「良」が3科目以内で残りがすべて「優」)であった者
二 成績向上賞	学習成績の評定を「優」を4、「良」を3、「可」を2、「不可」を1とする4段階評価によって全履修科目の平均値を求め学習成績の評定(以下「学習成績の評定」という。)とし、前年度と当該年度の学習成績の評定の差が0.5以上向上した者。 原則として在学中1回の表彰とする。ただし、毎年度に向上し続ける者については特別に考慮する。

第3条 通算表彰として、次の各号のとおり表彰する。

一 功労賞

ア 学校行事

学校行事（読書感想文コンクール、校内マラソン大会等）に積極的に参加し、他の学生の模範となる著しい功績をあげた者

イ 学生会活動

学生会役員として企画運営等で指導的役割を果たし、著しい功績をあげた者

ウ 寮生会活動

寮生会役員として企画運営等で指導的役割を果たし、著しい功績をあげた者

エ 課外活動

学校の代表として校外の活動（大会等）に出場し、優秀な成績をあげた者又は団体

(1) 体育大会で全国レベルの競技大会（全国高専体育大会等）において団体優勝又は個人優勝をした者及びこれに準ずる成績をあげた者で、原則として同一部に通算4年以上所属して、その部の発展に大いに貢献した者

(2) 文化関係で校外行事に参加して優秀な成果をあげた者で、原則として同一部に通算4年以上所属して、その部の発展に大いに貢献した者

(3) ロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどの各種コンテストで優秀な成果をあげた者

オ その他、校長が表彰に値すると認めた者

二 善行賞

ア 社会奉仕等において、他の学生の模範となる行為のあった者

イ その他、校長が表彰に値すると認めた者

第4条 随時表彰として、次の各号のとおり表彰する。

一 善行賞

人命救助等で、顕著な功績のあった者

二 特別賞

学内・学外から高い評価を受ける功績をあげた者

第5条 善行賞を除いては、学習態度及び人物に優れており、松江工業高等専門学校学則第38条による停学以上の懲戒を受けていないこと。ただし、単年度表彰については当該年度についての条件とする。

（表彰学生の推薦）

第6条 学級担任、アドバイザー又は指導教員は、表彰に値すると認めた学生がある場合には、学生表彰推薦書（様式1）を学生委員会に提出する。

（表彰学生の選考）

第7条 学生委員会は表彰学生を選考し、校長に推薦する。

（表彰学生の決定）

第8条 校長は、学生委員会の推薦に基づき表彰学生を決定する。

（表彰の方法）

第9条 表彰は、表彰状及び記念品を授与して行う。

（表彰の時期）

第10条 表彰は、卒業時及び始業時に行う。ただし、第4条の表彰については、適時行う。

（事務の処理）

第11条 委員会の事務は、学生課で処理する。

（出典 松江工業高等専門学校 規則集）

資料7-2-①-3

表彰学生数

年度	通算表彰		単年度表彰			学外表彰
	功労賞	皆勤賞	成績優秀賞	向上賞	皆勤賞	
平成13年度	9	17	109	12	177	13
平成14年度	14	19	124	12	97	13
平成15年度	11	9	97	10	131	13
平成16年度	11	6	73	8	68	14
平成17年度	34	7	77	31	26	13

(出典 学生課 作成資料)

資料7-2-①-4

授業料免除出願者数, 採択者数

年度	出願者数	全額	半額
13	167	67	62
14	170	79	48
15	187	99	41
16	234	112	32
17	199	109	16

不採択	家計	成績	その他
38	20	18	
43	29	14	
47	39	8	
90	66	24	
74	47	27	

日本学生支援機構奨学生数

年度	第一種	きぼう21プラン	合計
13	203	1	204 (21%)
14	192	0	192 (19%)
15	210	1	211 (20%)
16	200	1	201 (19%)
17	199	1	200 (19%)

(出典 学生課 作成資料)

資料7-2-①-5



(出典 学生課 作成資料)

資料7-2-①-6

相談件数

相談内容		H13	H14	H15	H16	H17
授業・進路	進路	8	5	7	14	12
	休・退学		2	1	1	
	転科				2	
	留年	5			1	
	授業・勉強	5	10	26	10	18
	課外活動		1	1	7	8
	その他	4	1	9	3	4
小計		22	19	44	38	42
精神衛生	精神衛生	20	25	26	26	22
	対人関係	22	22	15	22	13
	異性関係	26	29	12	8	12
	自己探求	15	3	1	7	26
	その他		3	3	4	5
寮生活		1	2	1		
家庭生活	親子関係		3		9	9
	家族関係	8		4	4	1
経済生活	金銭トラブル					
	交通事故					
	その他	3	2	1	2	
その他				18		17
小計		95	89	81	82	105
合計		117	108	125	120	147

(出典 学生課 作成資料)

資料7-2-①-7 A

保健室利用件数

		13年度	14	15	16	17
学 生	1 学年	206	302	349	251	205
	2 学年	263	230	214	260	181
	3 学年	308	206	214	162	209
	4 学年	167	182	215	99	111
	5 学年	170	165	102	93	65
	専攻科		9	21	15	9
教職員ほか		43	41	53	47	48
計		1157	1135	1168	927	828

(出典 学生課 作成資料)

資料 7-2-①-7 B

胸部 X 線撮影結果

	13 年度	14	15	16	17
対象者	590	621	638	651	262
受診者	583	606	610	638	259
受診率%	93.8	97.5	95.6	98.0	98.9
要精密検査者	2	0	2	3	12

心電図検査結果

	13 年度	14	15	16	17
対象者	206	215	229	226	228
受診者	205	215	219	224	227
受診率%	99.5	100	95.6	99.1	99.6
要精密検査者	6	4	5	4	4

(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

過去 4 年間の授業料免除制度・奨学金制度の運用状況から判断して、学資の支弁が困難な学生に対して積極的に指導し、奨学金制度や授業料免除制度へ出願をする指導体制が機能していることが分かる。

学生相談室には毎年 100 件以上の相談が寄せられ、学生相談室が十分機能していることがわかる。全体としては精神衛生関係の相談件数が多いが、最近の傾向として授業進路関係が増加している。保健室を訪れたこれらの学生に対して、保健室と相談室との連携により即時に対応できる体制が整えられ、より機能的になったと言える。

観点 7-2-②： 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害を持つ学生等が考えられる。）
がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

(観点到に係る状況)

留学生の生活支援については、各学科主任、各学級担任・アドバイザーに加えて、留学生委員会が行っている。留学生委員会が行う日常生活支援は次の 3 点である。（資料 7-2-②-1）

なお、留学生委員会の業務は、平成 17 年度以前は国際交流委員会留学生部会が行っていた。

- (1) 留学生と定期的にミーティングを行い、留学生が直面している問題に対して親身になって相談にのり、問題解決のための手助けをする。
- (2) 3、4 年在籍の留学生に対して日本人学生チュータを配置し、留学生委員会の指導の下、留学生の日常生活支援に努めさせる。（資料 7-2-②-2）
- (3) 留学生による母国照会、地域文化交流、日本人学生との文化交流、ホームステイ事業等の環境整備をし、留学生の日常生活を間接的に支援する。

国際交流委員会は、その活動内容を広く紹介することを目的として広報紙「国際交流 M C T」を発行している。（資料 7-2-②-3）

なお、現在までに支援を要する障害を持った学生が在籍したことは無いが、出入口へのスロープの設置、エレベーターの設置、校舎内のバリアフリー化、障害を持った学生用の便所の設置など、ハード面での支援体制はできている。（資料7-2-②-4）

資料7-2-②-1

留学生部会の業務内容

留学生部会 2005/3/30

前年度2.3月中の業務

1. 東京にて国費留学生と面談。寮の居室写真を見せる。メールアドレスを交換。先輩留学生のアドレスも(了承を得て)知らせておくことよい。
2. 日本人 tutor の選任と指導(昨年度担任に選任してもらう。)
3. 担任教員にはできるだけ各科内の前任者から学習しておいてもらう。

4月来校当初の業務

4. 出迎えとオリエンテーション
5. 挨拶：校長、関係職員(教務主事、寮務主事、担任、教務係、学生係)へ紹介
6. 寮への紹介：寮生活の規則・部屋などの説明・入寮手続き等
7. 当面の行事(入学式・始業式・教科書購入等)の説明、当日の実施指導
8. 日本人 tutor の紹介
9. 写真：学生証 3×2cm→教務係へ 外国人登録 45×35mm2 枚(国費留学生は不要)
10. 印鑑を作らせる(国費留学生は不要)
11. 学校周辺施設の案内(銀行、スーパーマーケット、ホームセンター)
12. 口座開設(印鑑・パスポート必要・国費留学生は必ず郵便局で)
13. 市役所での手続き：外国人登録・国民健康保険

【外国人登録】		申請窓口
入国した場合	入国から 90 日以内	居住地の役所 ・パスポート、写真 2 枚 45×35mm
居住地を変更した場合	変更の日から 14 日以内	居住地の役所 ・外国人登録証(カト)

*外国人登録証は所管入国管理局で作成するため受け取るまで2週間程度かかる

【国民健康保険】		届出に必要なもの
外国人が入国するとき(日本に1年以上滞在見込みの人)	届出が必要な場合	外国人登録証 外国人登録証明書(私費留学生)

*保険料は口座引き落としも可能

14. 生活用品の購入：自転車・布団・(リュック)・歯ブラシ・体操服・運動靴・携帯電話・食材

日常的業務：中期目標達成を念頭に！

15. 学習及び生活に関して、必要な助言・指導を行う。教科担任と連携、学外研修等の引率とアドバイス、各種事務手続きへのアドバイスなど。
16. 日本人学生 tutor に対して、定期的に連絡をとり、適切な指導を行う。Tutor は留学生の家庭教師であり、留学生の学習・研究指導(予習・復習の手伝い)を中心に、日本語指導、日常の世話(学内外の案内、諸手続きのための官公庁への同行、買物、宿舎探しの補助など)を行わせる。
17. 留学生が直面している問題に対して親身になって相談のり、問題解決のための手助けをする。また、留学生が日常生活上の問題について気軽に相談できる窓口として、学生相談室をできるだけ有効利用させる。
18. 留学生による祖国紹介/異文化体験紹介、地域活動/奉仕活動の環境整備をする。また、保護者会などを通じてホームステイ事業を推進する。

その他1：松江高専中期目標(留学生受入れ・留学生交流)の達成

- ・留学生に対する学習指導のサポート
- ・チューターの配置による生活・活動の支援
- ・留学生による地域活動、奉仕活動の環境整備
- ・国際交流協定の締結による私費留学生等の受け入れ
- ・留学生の生活習慣を考慮した寮の整備
- ・留学生による祖国紹介大会の開催、異文化体験の紹介

その他2：入国管理局での更新手続きのアドバイス：入国後2年で更新必要

法務省のホームページ www.moi.go.jp→検索「相談窓口など」→組織「入国管理局」



(出典 国際交流委員会 資料)

資料 7-2-②-2

日本人 tutor 配置表 及び外国人留学生に対する学生相談実施要領

H17年度

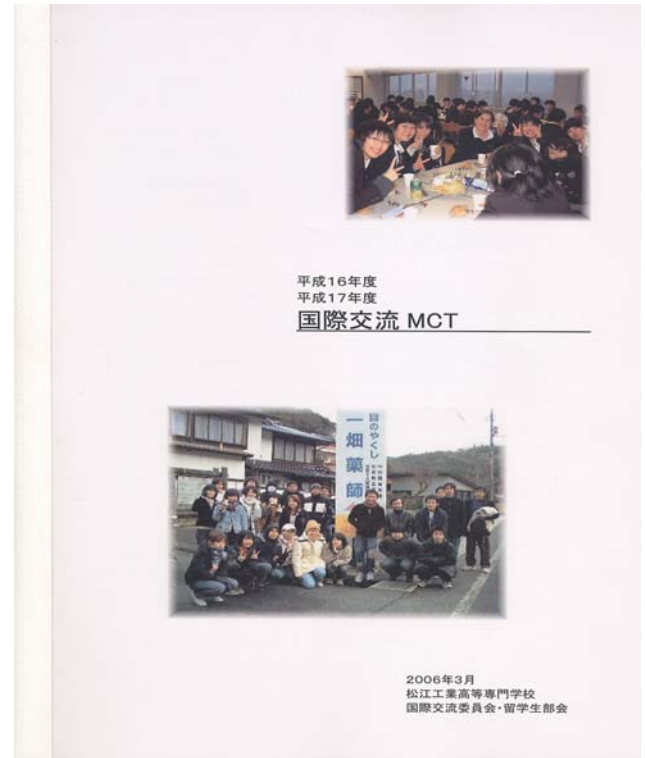
留 学 生		日本人 tutor		指導教員
M0561	マハド ショワザル ビン	マレーシア	M0343 渡部 江梨	鳥谷 Toya
E0561	グエン テー ヒョク コック	ベトナム	E0329 林 紀子	衣笠 Kinugasa
C0561	イム グ'バ'スカー	カンボジア	C0330 花田 幸大	木村 Kimura
E0461	リヌー アンダ	インドネシア	E0216 小竹 慎也	宮下 Miyashita
J0461	ゴーン グ'エスト フー	ベトナム	J0205 金築 拓也	堀内 Horiuchi
C0461	ブイ トウ ハン	ベトナム	C0224 谷山 愛美	浅田 Asada
E0352	マハド ショワザル ビン	マレーシア		飯塚 Itsuka
J0352	サトモトウ ナツアサヒ	タイ		福岡 Fukuoka
C0353	トック トアン ホアン	ベトナム		宇野 Uno

平成17年度外国人留学生に対する学生相談実施要領

- 相談内容
学生相談員は、外国人留学生に対し学習上の援助を行うと共に日常生活上の助言等を行う。
- 実施計画
学生相談員は、一週間に3回程度を実施する。
- 期 間
平成17年4月1日～平成18年3月31日
- 相談場所
本校直野寮及び各ホームルーム等に於いて
- 報 告
学生相談員は、毎月「外国人留学生に対する相談報告書」により指導教員を経て、翌月の5日までに学生課学生係に提出する。
- 謝 金
学生相談員に対し、相談を実施した時間数に基づき、謝金を支給する。

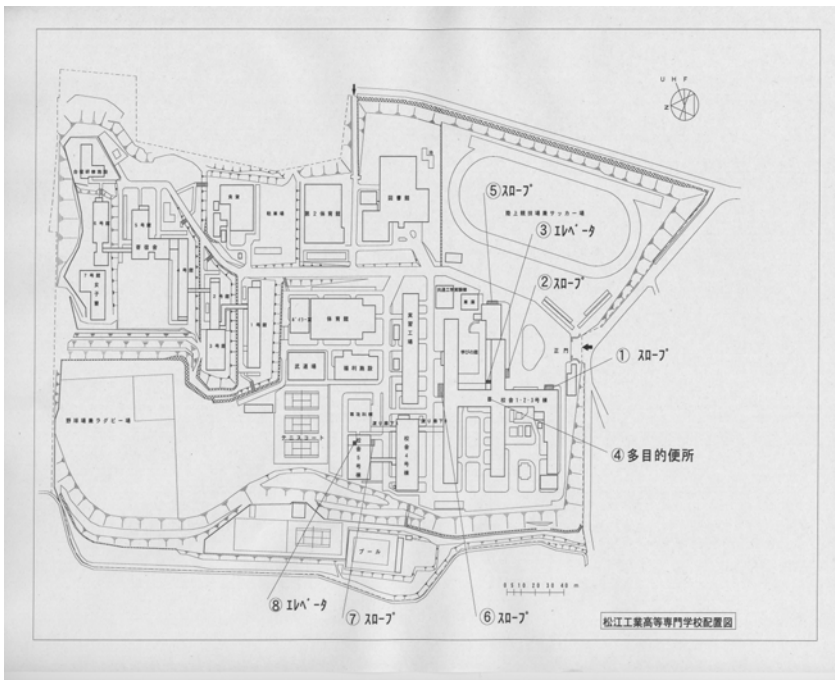
(出典 国際交流委員会 資料)

資料 7-2-②-3



(出典 国際交流委員会 資料)

資料 7-2-②-4 A

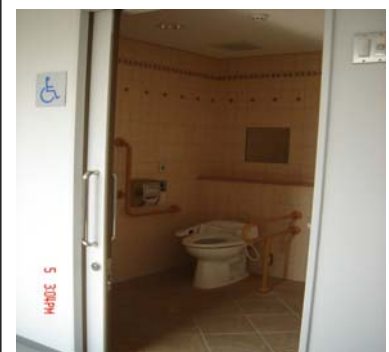


(出典 会計課 作成資料)

資料 7-2-②-4 B



① 校舎1号棟スロープ



④ 校舎2号棟多目的便所

(分析結果とその根拠理由)

留学生には、留学生部会、寮務委員会、学級担任及び日本人学生チュータの協力により、様々な支援をする体制が整備されている。ホームステイ事業については、ホストファミリーを紹介する体制を整えつつあるが、留学生からの希望は意外に少ない。今後も魅力ある交流活動を計画し、間接的に留学生の日常生活支援につなげていきたい。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校には女子寮1棟を含め全7棟が設置されている。学生寮収容定員はほぼ充足されており、平成17年4月5日現在で400名が入寮している。(資料7-2-③-1)

寮食堂、浴場、洗濯機・乾燥機室、補食室、談話室、パソコン室、自習室が設置され、全寮生の使用に供されている。また、寮内居室から校内LANにアクセスでき、かつインターネットへの接続も可能であり、自学自習に役立つ設備もある。

寮務委員会は、寮務主事のもと、寮務主事補、寮務事務職員及び寮母で、寮生の生活指導全般を受け持っている。当直体制は、閉寮時期を除く毎日、男子寮宿直2名、女子寮宿直寮母1名、休日日直男子寮・女子寮各1名、となっており、寮生の夜と昼の健康管理・生活指導にあっている。

(資料7-2-③-2)

一般寮生を学生の側から指導する体制として寮生会を組織し、寮生全員特に低学年寮生の生活を支援している。(資料7-2-③-3) このように、教員、職員、寮生会が連携し寮生全体を支援している。

寮生の日常生活指導については、寮務委員会内で役割を分担すると共に指導原則を定めている。

(資料7-2-③-4)

寮生の学習指導については、数学教員の自発的協力を得て、月に1・2回1年生を対象に夜の数学勉強会を寮生会執行部に補助してもらいながら実施している。これにより、通学生に較べて寮生特に1年寮生の数学の成績が向上している。(資料7-2-③-5)

寮内行事としては、4月に寮生総会、6月に寮祭(ビデオ鑑賞会、野外焼肉パーティ、ビンゴゲームなど)、風呂大掃除、網戸修理、寮周辺清掃、10月に松江市クリーンデー参加、11月に秋のミニ寮祭(フランス料理、写生大会、ビデオ鑑賞会など)、1月に寮長選挙、2月に予餞会などを開催し、寮生活に多様性をもたせている。

資料 7-2-③-1

定員・室数（各号館別）

館名	定員(名)	室数	現員
1号館	90	3人部屋:30室及び自習室30室	73名
2号館	24	3人部屋:8室	24
3号館	68	2人部屋:34室	56
4号館	43	2人部屋:21室、個室:1室	37
5号館	65	2人部屋:32室(留学生15名分含む)、個室:1室	54
6号館	96	2人部屋:48室	94
7号館	女子寮:96	2人部屋:34室、個室:28室(留学生6名分含む)	62
計	482	267室	400名

(出典 寮務委員会 資料)

資料 7-2-③-2

日課

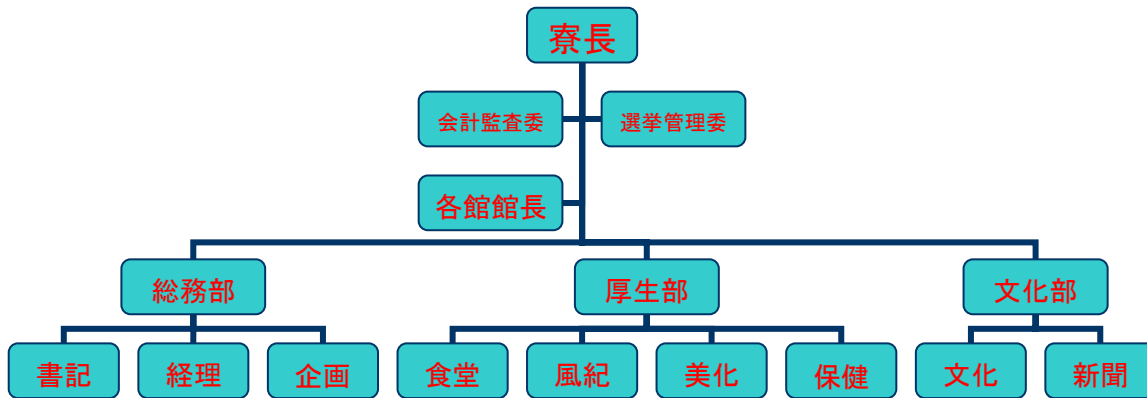
日課	時間及び時刻	備考	
起床	7:30	振鈴及び全館放送	
点呼	7:40	振鈴及び全館放送 点呼不在をした場合は、速やかにその事情を当直教員に報告する。	
朝食	7:40～8:40	休日(授業休講日)は7:50～9:00	左記の時間以外は食事ができない。
昼食	12:05～13:00	休日(授業休講日)は12:00～13:00	

夕食	17:30～19:30	左記の時間以外は食事ができない。	
入浴	17:30～21:30	入浴は左記の時間内に限る。	
自習	20:00～22:00	他の寮生の自習の妨げになる行動は慎む。	
点呼	22:00 21:00【女子】	振鈴及び全館放送 点呼不在をした場合は、事後、速やかにその事情を当直教員に報告する。	
門限	22:00 21:00【女子】	厳守すること。	
消灯	23:30	1・2年生居室消灯	

* 23:00に全館玄関の出入口を閉めます。7号館(女子寮)は21:00に完全施錠します。

(出典 寮務委員会 資料)

資料 7-2-③-3



(出典 学生ガイドブック)

資料 7-2-③-4

平成17年度 寮務委員会役割分担と寮生指導原則

寮務主事 高橋 栄

1. 寮務主事補 役割分担
 - (1) 生活指導関係 森田先生
 - (2) 情報発信関係 今尾先生
 - (3) 寮生会指導関係 河原先生
 - (4) 女子寮生指導関係 寺本先生
2. 寮生指導の原則
 - (1) 低学年と高学年の選択的指導
 - 【1～3年生】暴力・窃盗以外の比較的軽微な規律違反をおかした寮生については、寮内清掃作業や「特別点呼」を含め寮務委員会による厳しい生活指導を行なうが、退寮勧告はせず3年終了時までには寮内で抱えて指導する。しかし、3年生までに処分歴のある寮生については、4年になった時点（前期4月）でいったん退寮とする。
 - 【4年生以上】「点呼」などの日常的な規律については比較的自由にさせるが、車の寮周辺への持ち込みや停学処分を受けるような校則違反を犯した場合は、退寮勧告を行なう。
 - (2) 1～3年生に対する「点呼」の徹底と1～3号館の「消灯」（タイマーによる）の徹底
 - (3) 情報伝達ちらし「かわら版」の活用
 - (4) 「朝の教員連絡会」を利用した担任・アドバイザーとの綿密な情報交換
 - (5) 全館一斉居室点検（前後期1回づつ）の実施
 - (6) 寮生会執行部による「集会」指導の抑制
「集会」は寮務主事の許可のある場合のみ実施させる。

(出典 寮務委員会 資料)

資料7-2-③-5

(数学成績)

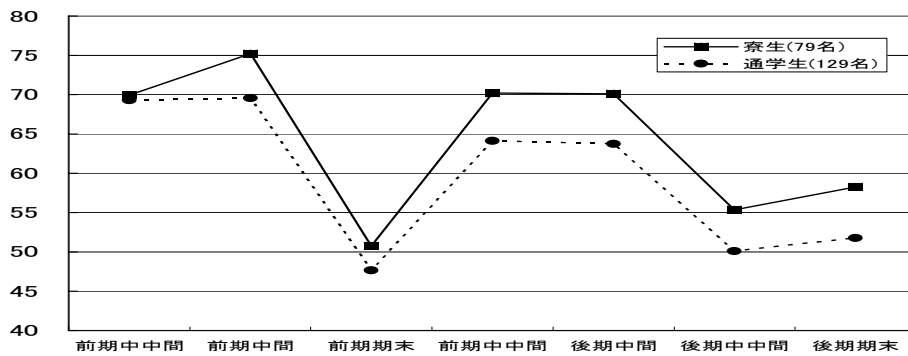


図1 平成13年度基礎数学A

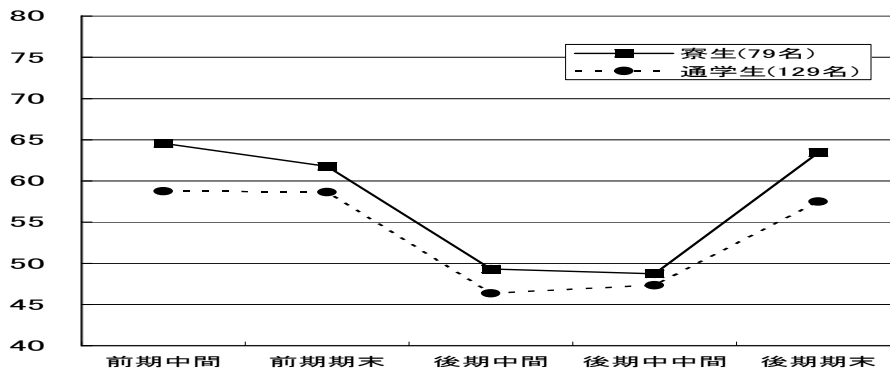


図2 平成13年度基礎数学B

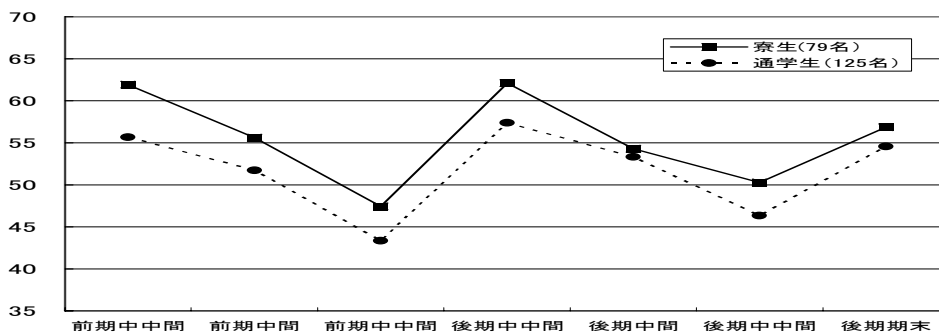


図3 平成14年度微分・積分

表1 平成17年5月現在の1年数学試験結果

	寮生平均点		寮生平均	通学生平均点		通生平均	総合平均
	女	男		女	男		
4月課題	61.2	64.0	63.5	60.2	63.7	63.0	63.2
5月課題	83.5	80.1	80.8	73.6	77.0	76.4	78.3

(出典 寮務委員会 資料)

(分析結果とその根拠理由)

寮生の生活指導や自習支援活動は、寮務委員会が中心となり、毎日の宿日直の教員によって日常的に行われている。寮内での自習の励行や夜の数学勉強会などが学習成績向上に寄与している。

設備面では、男女寮ともに充実しており、学生寮が学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているといえる。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

本校では、学生の進路指導のために、進路指導委員会を設置している。委員会の方針に基づき、各学科、各専攻で進路指導が行われている。また、進路指導委員会のメンバーを中心に関連企業・大学等を訪問し、進路開拓も併せて行っている。(資料7-2-④-1)

準学士課程においては、第4学年の冬休みを利用して、進路調査が行われる。(資料7-2-④-2) この調査をもとに、3月末に学科の進路担当教員(学科長、5年アドバイザー)、保護者、学生との三者面談を行い、具体的な進路の方針を決めている。(資料7-2-④-3)

その後は、進路担当教員が学生との連携を密にして進路決定に当たっている。企業からの求人状況や大学編入学等に関する情報は学内ホームページに掲載され、学生、教職員が自由に閲覧できるようにしている。

低学年の学生に対しては、ホームページや合宿研修等を利用して、学科長、学級担任からの進路指導が行われている。保護者に関しても、保護者会の折、進路に関する助言等が行われている。また、例年、各学科で就職・進学試験報告書を作成し、第3、4学年に対する進路指導も行われている。

学生に対するキャリア教育については、平成17年度、低学年(第1～3学年)は10月、第3、4学年に対しては12月に外来講師を招いて実施し、学生の進路に関する意識の高揚に努めている。(資料7-2-④-5)

専攻科課程においては、1年次12月に専攻科委員会により進路に関するガイダンスが行われている。専攻科長、副専攻科長、学科長、指導教員が中心となり、進路指導に当たっている。また、就職・進学試験報告書による進路指導も準学士課程と同様に行われている。

進路指導に関する事務担当としては、学生課が当たっており、就職・進学活動が円滑に進むよう支援している。

資料7-2-④-1

松江工業高等専門学校進路指導委員会規則

平成13年7月1日 制定
平成18年4月1日 最終改正

(趣旨)

第1条 松江工業高等専門学校(以下「本校」という。)における学生の就職及び進学に関する事項を審議するため進路指導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 就職指導及び就職あっせんに関する事項
- 二 就職開拓に関する事項
- 三 進学に関する事項
- 四 その他就職及び進学に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- 一 教務主事
- 二 専攻科長
- 三 学生主事
- 四 各学科長
- 五 副専攻科長
- 六 5学年アドバイザー
- 七 学生課長

(委員長等)

第4条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、専門学科の学科長の互選とする。
- 3 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、その議長となる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の本校職員を会議に出席させることができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、学生課が処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成13年7月1日から施行する。
- 2 松江工業高等専門学校就職委員会規則(昭和42年4月1日施行)は廃止する。

省 略

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料7-2-④-2

2007年3月卒業予定者の進路希望調査

学 生 番 号 _____
氏 名 _____

A 就 職

(1) 希望する事業所の産業分類 別紙 分類表の産業分類を参照	第一希望	
	第二希望	
(2) 希望する職種 設計・生産管理・研究・セールスエンジニア 保守サービス・現場作業・その他	第一希望	
	第二希望	
(3) 希望する就職地 島根県内・中国(島根県を除く)・四国・京阪神 中央・関東・その他(具体的に)	第一希望	
	第二希望	
(4) 希望事業所のある者 すでに決めている希望事業所名	第一希望	
	第二希望	
(5) 縁故関係によって就職したいと 希望している事業所(自営含む)	事業所名	
	縁故関係者 職 名 _____ 氏名(続柄) _____ ()	

B 進 学 (専攻科・大学・専門学校等)

学 校 名 等	学 部 ・ 学 科 名 等
1	
2	
3	
4	

C その他要望事項等

.....
.....
.....

(出典 学生課 作成資料)

資料7-2-④-3

平成18年3月24日

保 護 者 各 位

松江工業高等専門学校長
宮 本 武 明

進路懇談会の開催について

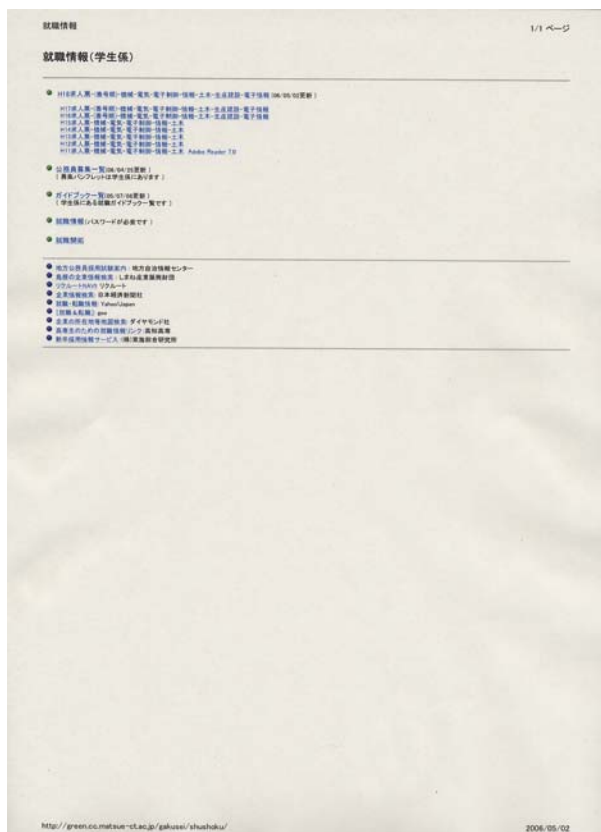
時下ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、来春卒業予定者の進路決定時期が近づいてまいりました。
つきましては、このことについて下記により懇談いたしたく存じますので、
希望の進路先及び就職地区等をあらかじめ御相談の上、本人同伴で御出席ください。
また、本校では、就職につきまして企業等との信頼関係を保つため数社併願
の場合は官公庁・民間企業を問わず内定通知の早い事業所に就職するよう取り
決めていますので、この趣旨を十分御理解いただきたいと存じます。
なお、懇談会当日は同封の「就職について」を熟読の上、御出席いただきます
ようお願いいたします。

記

- 1 日 時 別紙のとおり
(5分前には来室してください。)
- 2 場 所 別紙のとおり

(出典 学生課 作成資料)

資料7-2-④-4



(出典 松江工業高等専門学校 HP)

資料7-2-④-5

平成17年度第3学年研修実施要項

- 1 目 的
この研修会は、修学期間の中間に達した3年生に、これまでの生活や勉学を自己点検・評価させるとともに、学生・卒業生・教官間の交流を通じて、今後の学生生活の充実と将来の進路を考えさせることを目的として実施する。
- 2 期日及び場所
期 日 平成18年1月18日(水)
場 所 松江工業高等専門学校
- 3 対 象
第3学年全員
- 4 日 課 表
8:50 学科長、担任の話(進路説明) 【各教室】
9:30 講演1 【共通 CAD】
講 師 明石高専土木工学科卒業生(昭和60年3月卒業)
日本工営㈱ 広島支店 技術部1課 担当課長
毛 荆 一 成 氏
演 題: 「松江第五大橋道路事業と土木のお仕事」
10:00 講演2 【共通 CAD】
講 師 機械工学科卒業生(平成9年3月卒業)
コベルコ建機エンジニアリング(株) 資料製作部
大 坂 正 裕 氏
演 題: 「社会と学校、世界と日本!」
10:30 講演3 【共通 CAD】
講 師 電気工学科卒業生(平成元年3月卒業)
パナソニックAVCネットワーク社 ITプロダクツ事業部
井 上 剛 志 氏
演 題: 「ものづくりのすすめかた -レッツノート開発秘話」
11:15 討論会(3か所に分かれて各講師の方に質問等を行う) 【共通 CAD, 320 講義室, C3-CR】
12:00 昼食
13:00 工場、会社見学(クラス別)
- 5 参加職員
学級担任: M 鳥谷 E 衣笠 D 堀江 J 和田守 C 木村
学 科 長: M 郡原 E 恒次 D 亀谷 J 岡本 C 宇野
学 生 委 員 会: 東原, (和田守)
事 務 部: 学生係
- 6 携行品
ノート、筆記用具

(出典 学生課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，および専攻科課程ともに，組織的に進路指導が行われている。また，外来講師によるキャリア教育についても実施し，学生の進路意識の高揚に努めている。進路状況から明らかなように，ほぼ全学生が希望の進路に就いており，本校の指導体制は，十分に機能していると思われる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

部活動や各種コンテストにおける支援体制も整備され，スポーツ系部やコンテストにおいては全国優勝するなど，学生と教職員の協力体制が有効に機能している。学内においても，学生会の美化活動，リサイクルステーションの管理によって環境意識も高くなっている。

教務委員，学生委員，寮務委員，学生相談室員も参加して実施される毎週定例の学年会や毎朝の教員連絡会（8時30分から10分程度）の開催により，学生指導に関係がある各委員会と学年会や担任との連携ネットワークができ，情報を共有すると共に迅速な学生指導ができる体制が確立され，機能している。

留学生委員会，寮務委員会，学級担任及び日本人学生チュータの連携により留学生に対する生活面での支援が適切に行われている。

(改善を要する点)

課外活動が活発になればなるほど顧問教員の負担が増加してくる。複数の顧問教員を配置して個々の負担が軽減できるように配慮しているが，さらに基準4に述べたような抜本的解決策が望まれる。

文科系の部活動が一部の部を除いて低調であり，活動を盛り上げるための工夫が必要である。

(3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスは，学習ガイド，Learning Hand Book および修得単位確認簿などを使って適切に実施されている。学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も整備され，機能している。自主的学習環境及び生活支援環境としては，自主学習スペース，図書館，福利厚生施設，保健室および学生相談室が整備され，効果的に利用されている。特に図書館は平日20時まで，土曜日は10時から16時まで開館されるなど自主的学習を助長している。

一般科目や専門科目では資格試験合格者に特別学修の単位を資格内容に応じて与えるとともに，学生からのニーズを学校が把握する体制も整えている。外国留学のための支援体制も整備され，海外留学の案内および規定のプログラム修了者には単位を与えている。

特別な学習支援が必要な留学生や編入学生に対しては，事前指導や日本語教育の学習支援をするなど体制が整備され，機能している。

課外活動に対する支援も有効に機能しており，加入率も高く，また，各種コンテストへの学生の関心は高く，校内審査は盛況を見せている。体育大会やコンテストにおいて全国優勝するなど，成果も現れてきている。学生会の活動も活発になり，美化活動，リサイクルステーションの管理によって環境意識も高くなっている。文化系の部活動は吹奏楽部が特に活発であり，全国吹奏楽コンクール島根県大会，中国大会に毎年出場している。

学生寮が設置され，学校全体で運営に当たっている。寮生の生活指導や自習支援活動は，寮務委員会が中心となり，毎日の宿日直の教員によって日常的に行われている。また，学生相談室には毎

年100件以上の相談が寄せられ、学生相談室が十分機能していることがわかる。学生相談室と保健室との連携により即時に対応できる体制が整えられている。留学生は全員寮生活をしているが、必要に応じて寮務委員会、学級担任、日本人学生tutorの協力を得て対応している。

進路指導については、組織的に指導が行われている。また、外来講師によるキャリア教育についても実施し、学生の進路意識の高揚に努めている。進路状況から、ほぼ全学生が希望の進路に就いており、本校の指導体制は十分に機能していると思われる。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の施設概要は、資料（資料 8-1-①-1～資料 8-1-①-7）に示すように高等専門学校設置基準において必須とする校地・校舎や施設・設備について整備及び管理されている。整備計画等については、平成12年度に作成された「施設長期計画書」（資料 8-1-①-8）に基づいて継続的に整備されている。

土地面積表（資料 8-1-①-6）の用途区分別内訳中「その他」27,095㎡は、則面で全体面積の25.4%を占めている。

施設・設備の有効利用状況や安全性などについては、「施設管理委員会規則」（資料 8-1-①-9）、「施設の有効利用に関する規則」（資料 8-1-①-10）及び「安全管理委員会規則」（資料 8-1-①-11）に基づいて日常的に点検している。

公開機器については、利用案内をホームページに掲載している。（資料 8-1-①-12）

学生実験を行うための施設は、工作機械に一部旧型のものがあるが、ほぼ満足できる施設となっている。機械実習工場は、機械工学科及び電子制御工学科の工作実習に主として使用されているが、教員の研究はもちろんのこと卒業研究や特別研究などにも応えている。

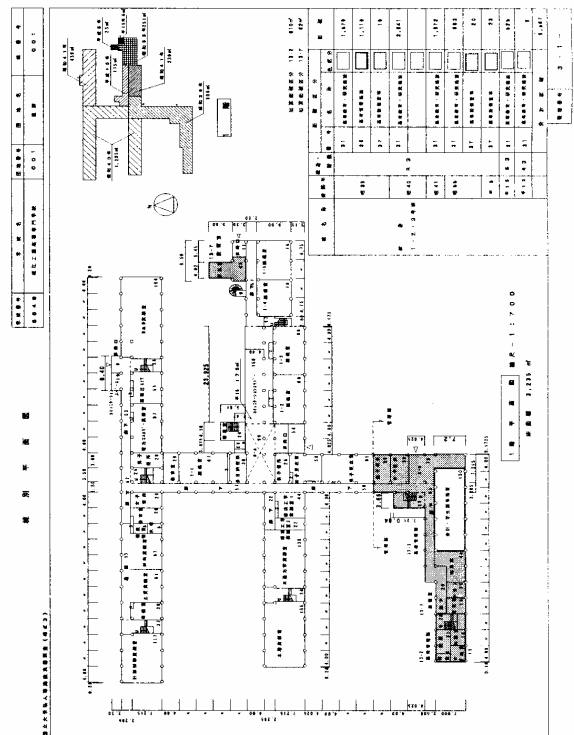
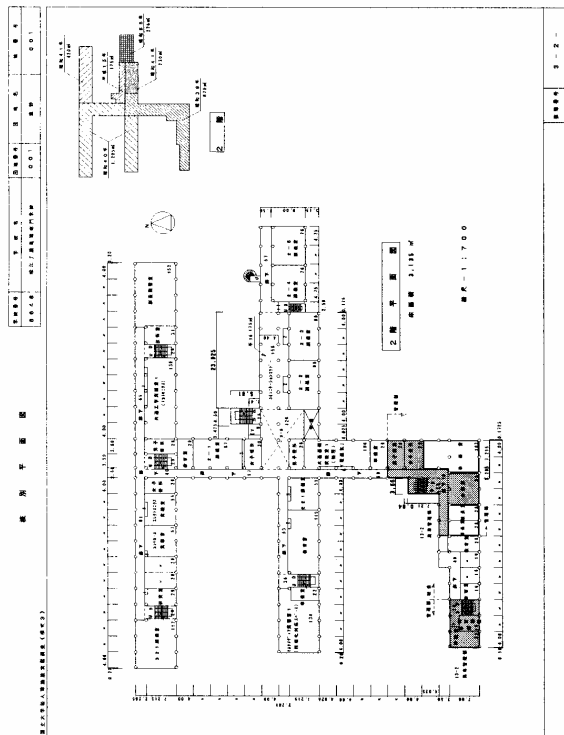
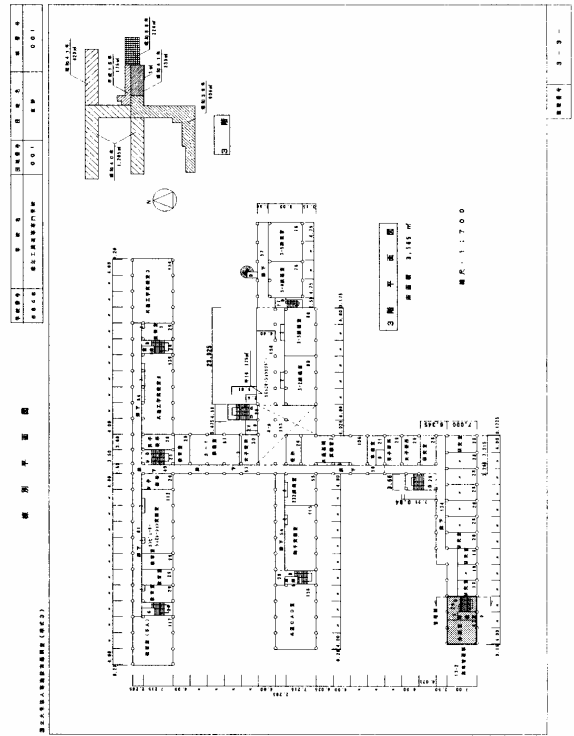
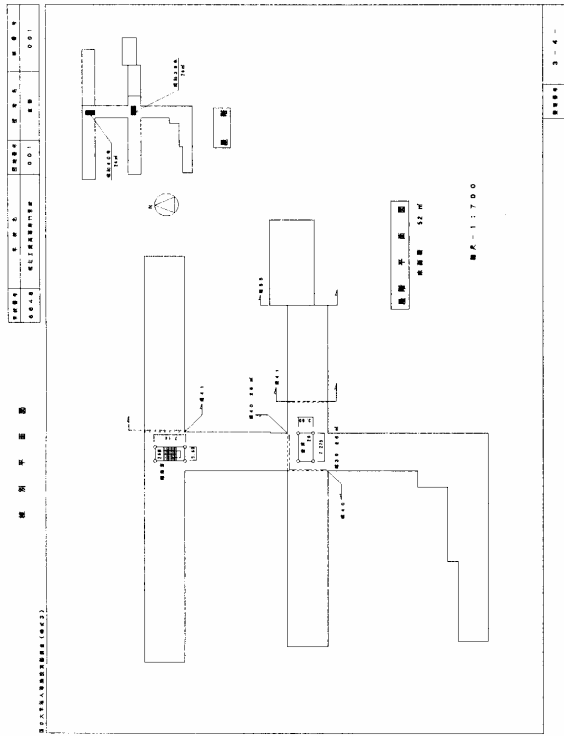
PCワーキングエリアの整備状況については、第1演習室、第3演習室、情報処理実習室それぞれに演習用パソコン48台、カラープリンタ1台を、マルチメディア演習室には演習用パソコン60台、カラープリンタ1台を設置している。すべてのパソコン、カラープリンタがキャンパスLANに接続されており、天井据付の液晶プロジェクタが完備している。

授業利用状況は資料のとおりである。（資料 8-1-①-13）また、授業時間外でつぎのような開放を行っている。（資料 8-1-①-14）

第1演習室・第3演習室	情報処理実習室（教員の監督下で）
平日の放課後 17:15～20:00	平日の放課後 17:15～19:00
情報処理実習室	土日祝日 8:50～19:00

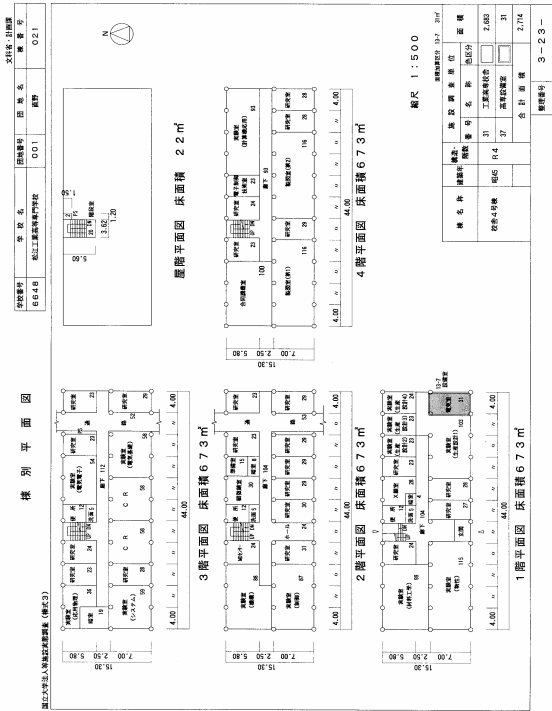
なお、各部屋ごとの有効利用率（稼働率）は、資料（資料 8-1-①-15 A～H）に示すように有効に活用されていると判断される。また、学生に対して施設・設備満足度アンケートを実施したが、その結果からは、不満足率が3.1%～24.8%となっており区分ごとにバラつきがあるものの満足していると判断される。（資料 8-1-①-16）

資料 8-1-①-2



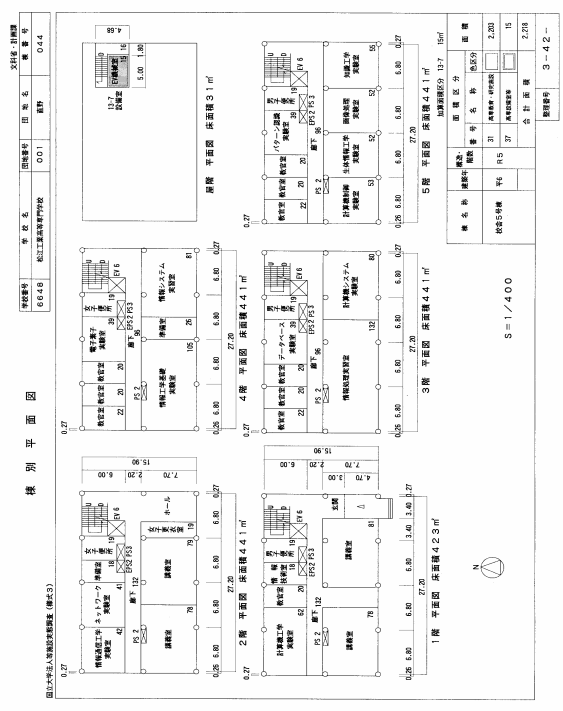
(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-3



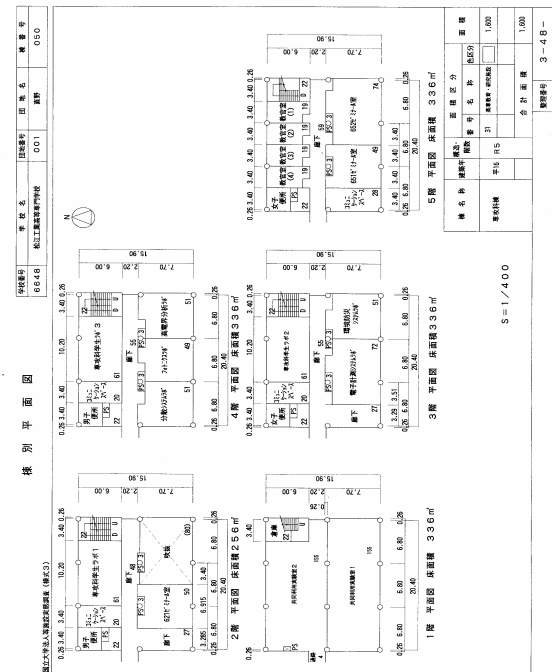
(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-4 A



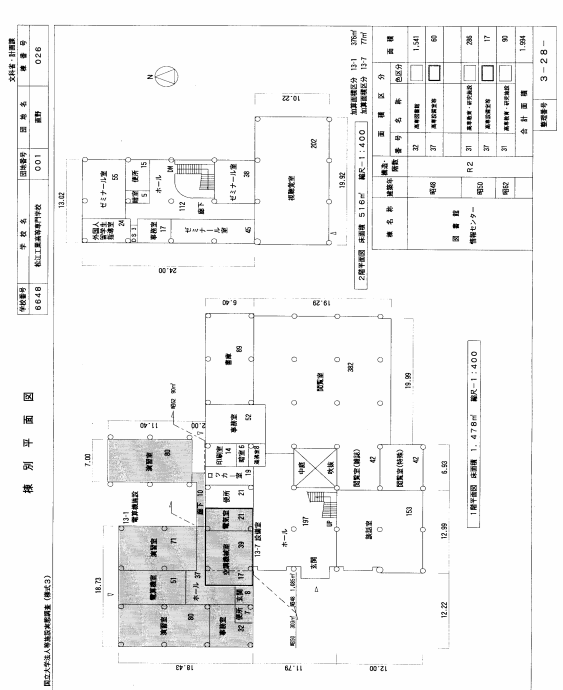
(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-4 B



(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-5



(出典 会計課 作成資料)

資料 8 - 1 - ① - 6

松江工業高等専門学校 土地面積表

団地計	土地面積 計	用途区分別内訳								
		校舎等敷地				屋外運動 場敷地	寄宿舎敷 地	実験実習 地	職員宿舎 地	その他
		校舎敷地	附属病院 敷地	附属研究 所敷地	小 計					
106575	106575	34385	0	0	34385	28385	16710	0	0	27095

校舎等敷地利用状況区分別内訳

建物敷地	緑地・広 場	道 路	駐車場	屋外実用 地	整備予定 地	その他	小 計
19495	4480	7120	610	0	0	2680	34385

(出典 会計課 作成資料)

資料 8 - 1 - ① - 7

所属学科別工具器具備品数及び金額一覧

所属学科	工具器具備品数	金 額	備 考
人文・自然科学科	40	8,076,956	
機械工学科	126	85,520,467	
電気工学科	110	52,633,520	
電子制御工学科	75	22,269,981	
情報工学科	59	11,019,476	
環境・建設工学科	93	48,592,053	
専攻科	4	615,255	
総合情報処理センター	33	24,776,283	
技術室	7	1,121,925	
その他	188	56,785,680	
計	735	311,411,596	

(出典 財務会計システム)

資料 8-1-①-8 A

国立学校施設長期計画書

〔直野団地〕

平成 12 年 7 月

松江工業高等専門学校

目 次

(1) 施設整備の基本方針	1
(2) キャンパス計画図	2, 3
(3) 計画施設配置図	2, 4
(4) 説明資料	5
① 教育・研究体制の概要	5
② キャンパスの概要	7
a. キャンパスの位置図	7, 8
b. キャンパスの現状	7, 9
c. 現状施設配置図	7, 10
③ 施設整備の問題点と課題	11~14
④ キャンパス計画各論	14
⑤ 移転を伴う整備計画説明資料	14, 15
⑥ キャンパスのインフラストラクチャー	14
⑦ 施設利用の考え方	16

(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-8 B

(1) 施設整備の基本方針

1) 教育研究の理念・目標

高専は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする高等教育機関として昭和37年に創立された。工業高専は、工業技術者に必要な、豊かな教養と広い視野をもち、専門に関する基礎的な学力と応用力を身につけるとともに、自ら学習する意欲と力を備えるように教育・指導を行い、大学と補完し合う実践的な高等教育機関である。

松江高専は、昭和39年に4月に創立され、現在に至っている。本校の教育方針としては、次の四つを掲げている。

- ① 本校の使命に鑑み、専門諸学科の基礎理論を確実に習得させ、実験・実習を重んじて高度の技術の積習に努める。
- ② 一般学科の学習を軸として幅広い人間的教養を深化させ、健全な身体を育成して強固な自主性と好学の気風を振興する。
- ③ 語学の学習を強化して、外国語の理解力と表現力を高め、諸外国との技術の交流に遺憾なきを期する。
- ④ 周囲に対する感謝報恩の念と、私利を排し、人を恕する雅量を身に付けさせ、学友師弟相互の接触を暖かくかつ密にし、明朗にして堅実な学風を樹立する。

本校では、このような教育方針の下に、さらに次のような点に主眼を置いた教育を行っている。

(イ) 創造力をつけさせる教育を重視し、研究開発に対応できる能力を持つ技術者を育成する。

(ロ) クラブ活動を通して幅広い年齢の学生と交流することにより豊かな人間性を育成する。

2) キャンパス計画のコンセプト

①人に優しいアカデミックキャンパスの創造

・コミュニケーションスペースの充実

・アメニティー施設の充実

②高度な教育研究を支援する施設環境の確保

・専攻科設置

・共同利用施設の充実

③地域社会と連携した教育環境の確保

・共同研究施設の充実

・公開講座、技術相談等の拠点化

④環境に優しいキャンパスの創造

(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-8 C

- ・自然エネルギーの活用
- ・緑豊かな環境整備

3) 施設整備の目標

教育環境改善計画に基づき現状を見直し、将来を見越した教育研究に対応できる施設整備を行うこととし各施設毎に以下の整備目標を設定している。

(教育研究施設)

- ・教室及び卒業研究室等の狭隘解消、女子学生及びコミュニケーションスペースの確保、共同利用スペースの充実
- ・老朽及び耐震強度不足に伴う改修
- ・身障者対策
- ・専攻科の設置

(図書館・情報センター)

- ・情報化対応に伴い図書館と情報センターの一体化整備
- ・地域開放に伴う身障者対策

(福利厚生施設)

- ・学科増に伴うスペース不足の解消
- (寄宿舎)
- ・女子学生の増加に伴う女子寮の設置

(地域連携施設)

- ・新技術教育研究センターの設置

(2) キャンパス計画図

別図キャンパス計画図による。

(3) 計画施設配置図

別図計画施設配置図による。

(出典 会計課 作成資料)

資料 8-1-①-9

松江工業高等専門学校施設管理委員会規則

(平成 17 年 4 月 1 日 制 定)

(設置)

第 1 条 本校の既存施設を計画的かつ効率的に使用するために、松江工業高等専門学校施設管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 既存施設の使用計画の作成に関する事。
- 二 既存施設の使用状況調査に関する事。
- 三 全校的視点からの既存施設使用の見直し及び再編に関する事。
- 四 その他既存施設に関し必要と認められる事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長が指名した教員若干名
 - 二 その他校長が必要と認める者
- 2 前項に規定する委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条に規定する委員の中から校長が指名する。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を行う。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長は、必要に応じ委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(部会)

第 6 条 委員会に、特別の事項を調査及び審議するために必要があるときは、部会を置くことができる。

- 2 部会に関し必要な事項は委員会が定める。

(事務)

第 7 条 委員会の事務は、会計課において処理する。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 8 - 1 - ① - 10

松江工業高等専門学校施設の有効活用に関する規則

平成 12 年 9 月 28 日 制 定

平成 17 年 4 月 1 日 最終改正

(趣旨)

第 1 条 この規則は、松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）における既存施設の活用状況を把握し、全校的な視点から教育研究の変化に対応した施設使用の再編（施設の有効利用の促進、共用スペースの確保等）を図ることを目的とする。

(施設の調査)

第 2 条 施設管理委員会（以下「委員会」という。）は、その構成員及び事務部関係職員をもって、既存施設の活用状況を把握するため、校内の施設を調査することができる。

(施設使用の再編)

第 3 条 委員会は、調査の結果、施設使用の再編の必要を認めた場合は、関係学科等に事情聴取を行った上で、施設使用の再編計画を作成するものとする。

2 関係学科等は、前項で作成された施設利用の再編計画の実施に努めなければならない。

(雑則)

第 4 条 この規則に定めるもののほか、この規則の運用に関して必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 12 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 8 - 1 - ① - 11

松江工業高等専門学校安全管理委員会規則

(平成 15 年 3 月 1 日 制 定)

第 1 条 本校の教職員・学生等に対して事故及び災害等を防止し、教育研究における安全性の確保を図るため、松江工業高等専門学校安全管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 安全教育に対する対策（防火、防災、危険物取扱い、セキュリティー等に関する教育上の対策）
- 二 学生の安全確保のための対策（課外活動での事故防止、構内交通安全等に関する対策）
- 三 施設の安全管理に関する対策（セキュリティー対策等）
- 四 毒物、劇物及び放射性物質等の安全管理・事故防止に関する対策
- 五 教育研究上の安全管理に対する対策（実験、卒業研究等での安全対策）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事，学生主事及び寮務主事
- 二 各学科及び専攻科の代表 各 1 名
- 三 化学及び衛生工学担当教官
- 四 放射線取扱責任者
- 五 事務部長
- 六 庶務課長，会計課長及び学生課長
- 七 技術室長
- 八 施設係長

2 委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。

第 4 条 委員会は，委員長が招集し，その議長となる。

2 委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，その意見を求めることができる。

第 5 条 委員長は，委員会で審議された事項を校長に報告するものとする。

2 校長は，報告に基づき必要に応じ適切な措置をとるものとする。

第 6 条 委員会に関する事務は，会計課において処理する。

附 則

この規則は，平成 15 年 3 月 1 日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 8 - 1 - ① - 12



(出典 松江工業高等専門学校 HP)

資料 8 - 1 - ① - 13

平成 17 年度前期 第 1 演習室, 第 3 演習室の授業時間割

前期					前期					マルチメディア演習室					情報処理演習室				
第一演習室					第三演習室					マルチメディア演習室					情報処理演習室				
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
P2 情報防災 河部	T-4 基礎情報 加藤		P1 IT-構造 大屋	D4 P02 高橋				C5 水工学 金子		1 D4 総英1宮 下	E4 総英1宮下 C4 総英1宮田	S1 計算力学 高見	EDJ5 プロ書 岡本	P1 環境共 木村	1 E3 計算機 田邊	J4 OS1 福岡	J5 数解 泉	S2 メディア情報 藤井	J3 システム 日野
										2 J4 総英1宮田					2 J1RBW演習	J3 演習 加藤	J5 ソフト 藤井	J4 プロ書 越田	E4 計算機 福岡
P1S1 計算物 中村真		C5 土木計画 宇野			M1 R&D 伊藤			T-5 基礎情報 寺本		3 P2S2 英語学 宮下	C3 情報 木村	J4 総英1 岩田		3 2年 数VB 村上		J3 演習 加藤	J5 ソフト 藤井	J4 プロ書 越田	E4 計算機 福岡
										4 M4 総英1宮下 C4 総英1宮田					4 J3 プロ4 藤井、和田寺	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J2 プロ1 原	J3 計算機 田邊
T-2 基礎情報 次笠	P1S1 リモ-セン 金子	E3 情報3 次笠	C5 水資源 金子		J3 プロ4 和田寺 藤井			T-1 基礎情報 加藤		5 D4 総英1 宮下					5 J4 計算機 福岡	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J2 プロ1 原	J3 計算機 田邊
										6 M4 総英1宮下 C4 総英1宮田					6 J4 計算機 福岡	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J4 ソフト 藤井	
	T-3 基礎情報 真田	E2 情報1 片山				P2 複数シミュ レーション 天野				7 D4 総英1 宮下	M4 総英1 宮下	4年 ビジネス英語 岩田	E4 総英1 宮下		7 J4 計算機 福岡	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J4 ソフト 藤井	
										8 M4 総英1 宮下					8 J4 計算機 福岡	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J4 ソフト 藤井	
										9 M4 総英1 宮下					9 J4 計算機 福岡	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J4 ソフト 藤井	
		D4 構造 大屋			M4 機械工学演 習1 門脇			M4 数値演習1 山根清		10 M4 総英1 宮下					10 J4 計算機 福岡	J3 実験1 渡部	J4 実験3 堀内	J4 ソフト 藤井	

(出典 メディア教育センター)

資料 8 - 1 - ① - 14

第 1 演習室・第 3 演習室における時間外利用状況

年度	月	最大利用人数	年度	月	最大利用人数	年度	月	最大利用人数
平成 16年	4	62	平成 17年	4	23	平成 18年	4	32
	5	43		5	43		5	42
	6	48		6	34			
	7	79		7	58			
	10	29		10	24			
	11	18		11	35			
	12	39		12	49			
	1	32		1	39			
	2	49		2	34			

(出典 メディア教育センター)

資料 8-1-①-15 A

講義室(学年)

名称	面積(m ²)	クラス	人数
211講義室	87	電気3年	45
212講義室	88	電子制御3年	43
213講義室	88	土木3年	44
214講義室	76	情報3年	40
215講義室	76	機械3年	42
221講義室	87	環境建設2年	45
222講義室	88	情報2年	45
223講義室	88	電気2年	43
224講義室	76	電子制御2年	41
225講義室	76	機械2年	42
231講義室	87	1年1組	43
232講義室	89	1年2組	43
233講義室	90	1年3組	43
234講義室	76	1年4組	43
235講義室	76	1年5組	43

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-15 B

講義室(選択科目用)

名称	面積(m ²)/ 収容人数	使用度数(最大5コマ/日)					前期/後期	
		月	火	水	木	金		
視聴覚教室	202/157	2/2	3/4		2/0	1/2		
セミナー室(地域共)	81/20			2/2		1/0		
共通CAD室	130	2/1	3/3	1/0	1/0	2/1		
320講義室	97	1/2	4/3	3/3		3/2		
431講義室(自習室)	45							
434多目的教室	40			0/2		1/0		
441講義室	90	2/2	3/1	3/4	1/0	2/3		
442講義室	54	3/3	3/3	4/4	2/2	3/3		

(続き 有)

名 称	面積(m ²)/ 収容人数	使用度数 (最大5コマ/日) 前期/後期				
		月	火	水	木	金
511講義室	77/57	5/3	2/3	5/5	4/2	2/3
512講義室	81/59	4/4	2/3	4/3	3/5	2/3
521講義室	78/48	4/4	2/3	4/4	3/5	4/3
522講義室	79/44	4/1	1/3	4/5	2/4	2/2
541講義室	81/53	3/0	0/1	3/5	2/3	2/2
621ゼミ室	50/20	2/1	3/2	3/1	1/1	1/1
651ゼミ室	49/24	2/1	3/3	2/2	1/1	1/0
652ゼミ室	74/47	3/3	3/5	2/3	1/0	
230講義室(自習室)	55/20					
220講義室(自習室)	55/20					
ゼミナール室(図書)	45/	体育非常勤控室				
ゼミナール室(図書)	38/	ブラスバンド部楽器収納				
ゼミナール室(図書)	55/	文化系部室				
事務室(図書2F)	17/	学生会事務室				
留学生指導室(図書)	24/	外国人留学生指導室				

(出典 施設管理委員会)

資料8-1-①-15 C

共通実習室, 共通実験室

名 称	面積 (m ²)	使用度数 (最大5コマ/日) 前期/後期				
		月	火	水	木	金
実習工場	674	2/3	0/4	2/4	2/3	2/2
創造演習室	154	3/3	0/4	2/4	3/3	2/2
共通工学実験室1	140	0/1	3/4	0/3	2/2	2/2
共通工学実験室2	140	3/3	4/4	4/2	2/3	3/3
共通工学実験室3	154	2/3	4/3	3/4	2/3	2/3

共通実習室, 共通実験室

名 称	面積 m ²	使用度数 (最大5コマ/日) 前期/後期				
		月	火	水	木	金
共通基礎実験室(物理)	112	0.2/	0.4/	0.2/	0.13/	0.2/
		0.2	0.33	0.46	0.13	0.133
共通基礎実験室(化学)	114	1.0/	0.2/	2.06/	0.066/	1.7/
		1.2	0.93	2.4	0.2	1.93
共通力学実験室	138	3/2	2/3	2/2		2/2

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-15 D

情報処理実習室，製図室

名 称	面積(m ²) /収容人数	使用度数 (最大5コマ/日)					前期/後期	
		月	火	水	木	金		
第1演習室	80/48	2/1	2/2	4/4	4/3	1/2		
第3演習室	80/48	4/0	0/4	3/4	2/3	1/1		
マルチメディア演習室	134/60	3/3	4/3	4/3	3/2	3/1		
情報処理実習室	132/48	4/3	4/4	5/4	2/4	3/3		
製図室	116/40		1/0	4/1	0/1	2/0		

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-15 E

体育施設

名 称	面積 (m ²)	使用度数 (最大5コマ/日)				
		月	火	水	木	金
第1体育館	996	同時に2クラス以下 全コマ数24				
第2体育館	880					
武道場	431					
第1グラウンド	約12000					
第2グラウンド	約8700					
テニスコート	4面					
プール	25m×15m+80					

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-15 F

専門実験室 (M: 機械, E: 電気, D: 電子制御, J: 情報, C: 環境・建設)

名称	面積(m ²)	管轄	使用度数
水理・環境	155	C	卒業研究8名, 特別研究1名, 学生実験4回
環境工学	66	C	卒業研究2名, 特別研究0名, 学生実験3回
計測制御	117	E	卒業研究4名, 特別研究1名, 学生実験0回
土質	61	C	卒業研究3名, 特別研究0名, 学生実験3回
材料	67	C	卒業研究13名, 特別研究2名, 学生実験6回
電力エネルギー	87	E	卒業研究0名, 特別研究0名, 学生実験2回
高電圧	55	E	卒業研究2名, 特別研究1名, 学生実験1回
R&D	194	M	卒業研究11名, 特別研究5名, 学生実験3回
コントロール	57	D	卒業研究4名, 特別研究0名, 学生実験2回
エレクトロニクス	55	D	卒業研究3名, 特別研究0名, 学生実験3回

(続き 有)

コンピュータシミュレーション	1 1 2	E	卒業研究 1 2 名, 特別研究 5 名, 学生実験 2 回
物性	1 1 5	D	卒業研究 4 名, 特別研究 0 名, 学生実験 1 回
材料工学	9 9	M	卒業研究 11 名, 特別研究 0 名, 学生実験 2 回
生産設計 1	1 0 3	M	卒業研究 3 名, 特別研究 0 名, 学生実験 2 回
X線室	2 8	M	卒業研究 8 名, 特別研究 0 名, 学生実験 2 回
生産設計 2	2 3	M	卒業研究 4 名, 特別研究 0 名, 学生実験 0 回
生産設計 3	2 3	M	卒業研究 3 名, 特別研究 1 名, 学生実験 1 回
生産設計 4	2 4	M	卒業研究 3 名, 特別研究 1 名, 学生実験 0 回
制御	8 7	D	卒業研究 4 名, 特別研究 1 名, 学生実験 2 回
システム	5 9	D	卒業研究 2 名, 特別研究 2 名, 学生実験 1 回
電気基礎	5 8	D	卒業研究 8 名, 特別研究 3 名, 学生実験 0 回
電子顕微鏡室	6 2	M	卒業研究 11 名, 特別研究 0 名, 学生実験 1 回
情報通信工学	4 2	E	卒業研究 6 名, 特別研究 2 名, 学生実験 1 回
ネットワーク	4 1	J	卒業研究 4 名, 特別研究 1 名, 学生実験 0 回
計算機システム	8 0	J	卒業研究 9 名, 特別研究 5 名, 学生実験 0 回
データベース	3 9	J	卒業研究 0 名, 特別研究 0 名, 学生実験 1 回
電子計測システム工学	7 2	E	卒業研究 4 名, 特別研究 1 名, 学生実験 0 回
環境防災システム	5 1	C	卒業研究 7 名, 特別研究 5 名, 学生実験 0 回
情報工学基礎	1 0 5	E	卒業研究 7 名, 特別研究 2 名, 学生実験 0 回
電子素子	3 9	J	卒業研究 5 名, 特別研究 0 名, 学生実験 0 回
分散システムラボ	5 1	J	卒業研究 5 名, 特別研究 2 名, 学生実験 0 回
フォトニクスラボ	4 9	D	卒業研究 4 名, 特別研究 1 名, 学生実験 1 回
高電界分析ラボ	5 1	E	卒業研究 4 名, 特別研究 1 名, 学生実験 0 回
計算機制御	5 3	J	卒業研究 3 名, 特別研究 4 名, 学生実験 0 回
生体情報工学	5 2	J	卒業研究 4 名, 特別研究 0 名, 学生実験 1 回
画像処理	5 2	J	卒業研究 4 名, 特別研究 2 名, 学生実験 1 回
パターン認識	5 5	J	卒業研究 3 名, 特別研究 0 名, 学生実験 1 回
知識工学	3 9	J	卒業研究 0 名, 特別研究 0 名, 学生実験 0 回
エネルギー工学実験室	8 8	M	卒業研究 7 名, 特別研究 2 名, 学生実験 2 回

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-15 G
 専攻科学生ラボ (P : 生産・建設システム工学, S : 電子情報システム工学)

名称	面積 (m ²)	収容学生	収容数 (学生数 / 収容人数)
ラボ 1	6 1	P 1, 2	1 9 / 2 0
ラボ 2	6 1	S 2	1 6 / 2 0
ラボ 3	6 1	S 1	2 2 / 2 0

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-15 H

教員室

名称	面積 (m ²)	収容数	名称	面積 (m ²)	収容数	名称	面積 (m ²)	収容数	名称	面積 (m ²)	収容数
131	19	1	132	19	1	133	19	1	134	28	1
135	28	1	136	28	2	137	28	2	138	28	1
139	28	1	140	29	1	211	29	1	220	115	6
221	29	1	230	115	6	231	29	1	311	28	1
321	29	1	322	29	1	323	29	2	324	31	1
			330	117	7	331	29	1	332	29	1
333	29	1	334	29	1	411	27	1	412	28	1
413	23	1	421	31	1	422	30	1	423	29	1
424	29	1	425	29	1	426	29	1	427	23	1
428	23	1	431	28	1	432	29	1	433	23	1
434	23	1	435	23	専攻科長	436	36	1	441	29	1
442	28	1	443	28	1	511	20	1	531	22	1
533	20	1	541	22	1	542	20	1	543	20	1
544	26	1	551	22	1	552	20	1	553	20	1
651	19	1	652	19	1	653	19	1	654	19	1
合計	220	14	合計	568	26	合計	393	17	合計	472	20

(出典 施設管理委員会)

資料 8-1-①-16

学生の施設満足度アンケート

対象：2年生と3年生 時期：平成17年7月28日～8月3日，有効回答数355/386

	A 満足	B ほぼ満足	D 不満足	E 無答	計	備考
Q 1 講義室 (HR を含)	91	205	57	2	355	
Q 2 実験・実習室	108	230	14	3	355	
Q 3 図書館	121	183	46	5	355	
Q 4 体育館 (第 1 及び第 2)	78	188	87	2	355	
Q 5 運動場 (第 1 及び第 2)	81	217	53	4	355	
Q 6 PCワーキングエリア	108	165	60	22	355	
Q 7 保健室 (学生相談室を含)	120	197	11	27	355	
Q 8 食堂 (売店を含)	127	159	47	22	355	
Q 9 情報ネットワーク (インターネットを含)	96	202	34	23	355	
Q 10 クラブ活動施設	38	74	88	155	355	
Q 11 実習工場	31	74	6	19	130	利用学生 168

(出典 学生アンケート 報告)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 選択教室

資料 8-1-①-15 B に示すように、遊休の教室はない。稼働率の低い多目的教室も臨講・補習で使われている。

(2) 実験・実習室

資料 8-1-①-15 C 及び D に示すように、共通部分は技術室の管理で稼働率の平均化が図られている。

(3) 製図室

資料 8-1-①-15 D に示すように、曜日によって偏りがあるが、機械工学科が主として使う関係で空きが発生している。

(4) 体育施設

資料 8-1-①-15 E に示すように、種目と天候によって施設を使い分けて使用されている。

(5) 専門科目の実験室

資料 8-1-①-15 F に示すように、学科により複数の教員が共同で使用する場合と単独で使用する場合がある。

(6) 教員室

資料 8-1-①-15 H に示すように、35歳以下の教員は集合教員室に配置されているが、その年齢以上の教員数名が一人用教員室の空きを待っている。

(7) PCワーキングエリア

資料 8-1-①-13 により、授業における PCワーキングエリアについては、71% (114時間/60時間×100) の稼働率となっている。後期の時間割についてもほぼ同様な時間数である。このことから、授業・演習・実験について PCワーキングエリアが有効活用されているものと判断できる。さらに、資料 8-1-①-14 に第 1 演習室、第 3 演習室における放課後の時間外利用者数 (同時最大利用人数) を示す。

近年はパソコンを購入している学生も多くなってきたが、演習室における時間外利用によって演習室が有効利用されていることがわかる。また、情報処理実習室については、情報工学科の学生を中心に第 1 演習室・第 3 演習室以上の稼働率で時間外利用が行われている。プログラミングコンテストへの参加チームは、主として情報処理実習室を利用した開発を行っており、授業以外での利用においても着実な実績をあげているものと推測できる。

施設や設備について、現時点では問題は生じていないが、老朽化や技術の進歩などに計画的に対応していく必要がある。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

(1) 情報ネットワークの整備状況

① キャンパス LAN の状況

本校キャンパス LAN 構成図 (資料 8-1-②-1) に示すとおり、幹線を Gigabit Ethernet とし、支線を Fast Ethernet というネットワーク構成とした。体育館など一部利用できない建屋があるものの、校内の全ての教室、教員室、実験室、事務室をカバーしている。また、学生寮の

4～7号館の各居室にもネットワークコンセントを設置するなど、学生に対するサービスについても配慮したネットワーク構成としている。

② インターネット回線の状況

本校ネットワーク外部回線構成図（資料8-1-②-2）示すとおり、平成17年7月1日より、SuperSINET広島大学ノードへ50Mbpsの回線速度での接続とした。SuperSINET故障時には、4Mbpsで民間プロバイダ回線への迂回が可能なネットワーク構成としている。また、インターネット回線の他に、最大50MbpsでSuperCSI（中国四国インターネット協議会）の加盟組織との間で遠隔授業、遠隔講演、ネットワーク実験等が可能となっている。さらに、JGN2（情報通信研究機構が全国に設置している実験・研究用ギガビットネットワーク）経由での遠隔授業、遠隔講演、ネットワーク実験も同じく最大50Mbpsで利用可能となっている。

(2) ネットワーク管理スタッフ

現在、メディア教育センター内の情報ネットワーク委員会でネットワーク管理を行っている。現時点で、情報ネットワーク委員会は教員4名、技術職員2名、事務職員1名の合計7名の構成となっている。

(3) 情報ネットワークのセキュリティ

本校では、資料（資料8-1-②-3）のように、キャンパスLAN～インターネット間にファイアウォールを設置している。このファイアウォール上では、Opengateというネットワーク認証システムを導入しており、インターネット上で松江高専の校内ユーザが反社会的な活動を行うのを抑制している。

インターネットサーバについては、ファイアウォール外（非武装地帯：DMZ）に設置した。したがって、校内ユーザのアカウントが登録されたサーバ類がインターネット上から直接見えないようになっている。また、サーバOSとして評価の高いFreeBSDを全面的に採用し、不要なネットワークアプリケーションを動作させていないのはもちろん、セキュリティパッチを随時適用したセキュリティ管理を行っている。侵入検知システムも完備しており、インターネット上で悪意を持ったユーザ（クラッカー）からの攻撃の影響を最小限に食い止めるシステム構成としている。また、ファイアウォール上では校内ユーザのインターネット上での活動を逐一記録している。さらに、学生が成績管理ファイルなど不適切な情報にアクセスできないようなしくみを提供している。

ネットワーク認証システムの導入時に導入に対する学生・教職員アンケートを行った。（資料8-1-②-4）

(4) 教育内容・方法、学生のニーズとの対応

本校では、インターネットを活用した教育を広く行っている。

① 教育・研究についての情報収集・共有・交換

② 高専間、高専と大学間での遠隔授業・遠隔講演、遠隔ゼミ、遠隔特別研究発表会、e-learningなど

③ ネットワークについての教育・研究活動

④ 就職、進学情報の取得

といった目的から、インターネットを利用する上での情報モラルについても実際に体験可能な場として活用している。ネチケットや情報倫理については第1学年の「情報基礎」において2時間、第5学年における技術者倫理（技術論）において4時間程度教育を行っている。

(5) 情報ネットワークの有効利用

インターネット回線については、校舎のみならず寮からも積極的に利用が行われている。

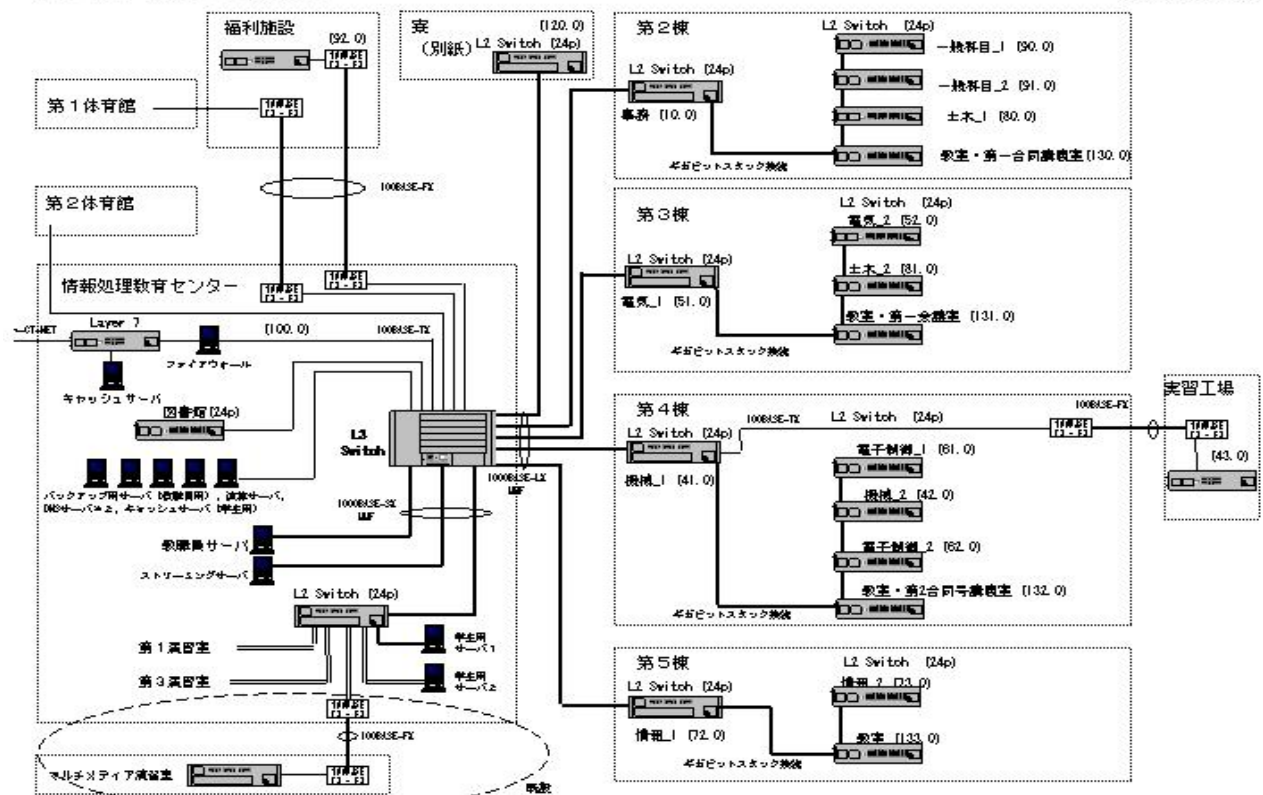
資料（資料 8-1-②-5）に本校のファイアウォールを通過するパケット流量を、資料（資料 8-1-②-6）に本校寮内ネットワークからキャンパスLANに流れるパケット流量を示す。インターネットが勤務時間帯、授業時間帯で有効に活用されていることがわかる。また、寮からのトラフィックは4Mbpsに制限されていることが資料によりわかる。さらに、平成16年度に行った遠隔授業実験についての新聞記事を示し、（資料 8-1-②-7）授業アンケートの質問項目及び結果を示す。（資料 8-1-②-8）。

資料 8-1-②-1

キャンパス LAN 構成図

松江高専・校内LAN構成図

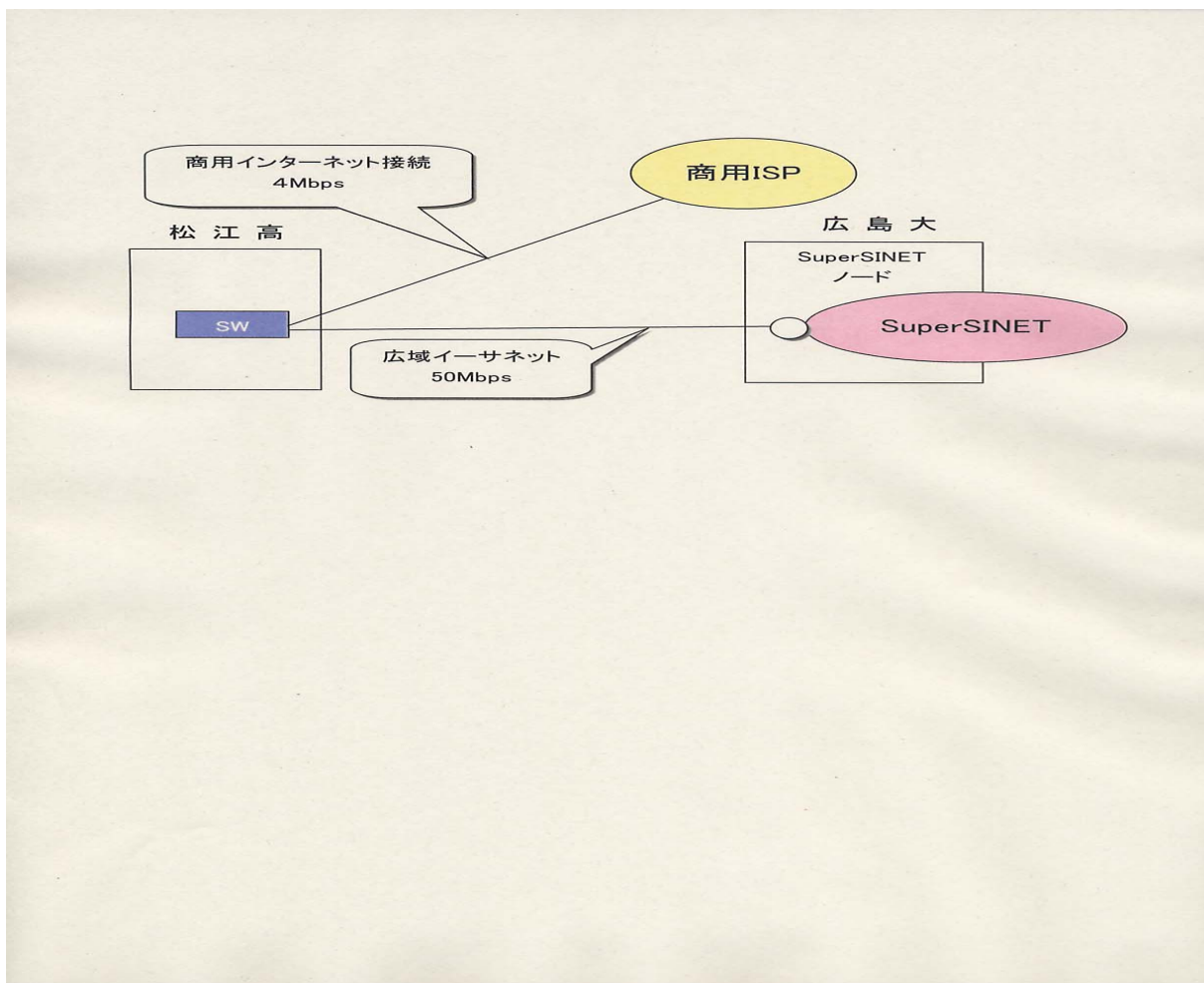
2001.11.29 作成



(出典 メディア教育センター)

資料 8-1-②-2

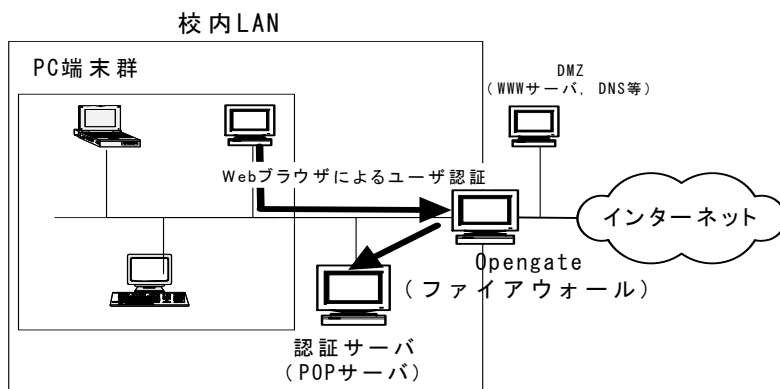
ネットワーク外部回線構成図



(出典 メディア教育センター)

資料 8-1-②-3

ファイアウォール構成



(出典 メディア教育センター)

資料 8-1-②-4

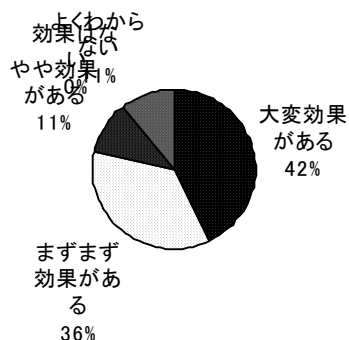
質問事項

- 1 ネットケットをどこで学んだか
 選択肢 「授業」, 「著作権法について開いた全校集会」, 「直野寮で配布したネチケット資料」, 「独学」, 「意識したことがない」, 「その他」
- 2 ネットワーク認証システムがユーザのインターネット上での活動をすべて記録していることを知っていたか
 選択肢 「知っていた」, 「知らなかった」
- 3 ネットワーク認証システムが, 松江高専の中から行われる違法行為を防ぐ効果があるかの3点である。
 選択肢 「大変効果がある」～「効果はない」, 「よくわからない」の5つ

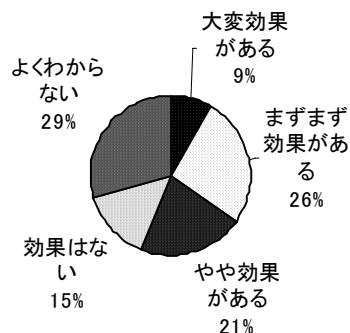
サンプル数

教員 30名 学生 430名 (2年以上)

質問事項 3 の結果 (教員)



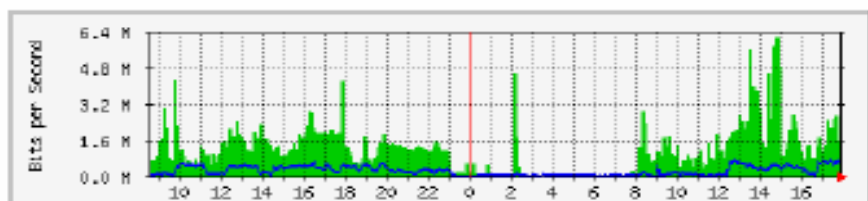
質問事項 3 の結果 (学生)



(出典 メディア教育センター)

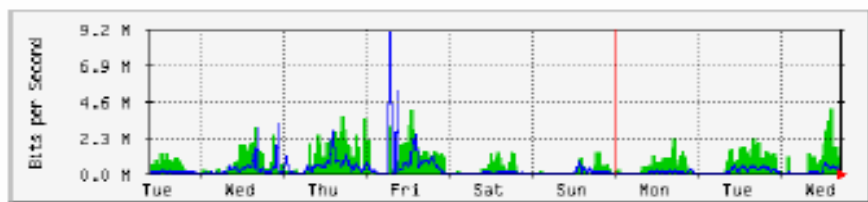
資料 8-1-②-5

ファイアウォール上のトラフィック情報

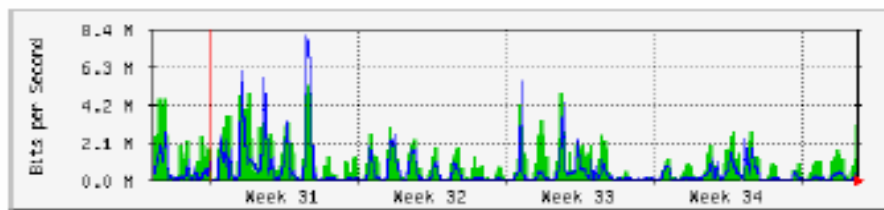


Max In: 6196.2 kb/s (6.2%) Average In: 1096.1 kb/s (1.1%) Current In: 898.2 kb/s (0.9%)
 Max Out: 752.4 kb/s (0.8%) Average Out: 273.4 kb/s (0.3%) Current Out: 535.6 kb/s (0.5%)

Weekly Graph (30 Minute Average)

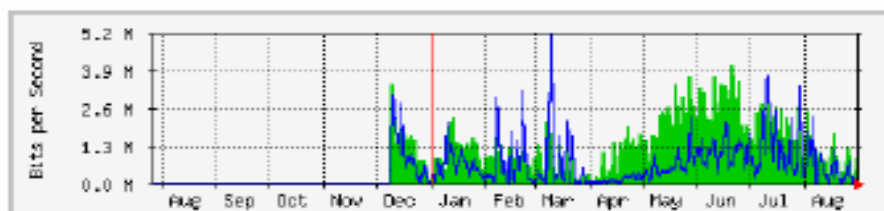


Max In: 4221.4 kb/s (4.2%) Average In: 738.6 kb/s (0.7%) Current In: 1827.4 kb/s (1.8%)
 Max Out: 8977.9 kb/s (9.0%) Average Out: 301.3 kb/s (0.3%) Current Out: 633.0 kb/s (0.6%)



Max In: 5329.6 kb/s (5.3%) Average In: 939.5 kb/s (0.9%) Current In: 3143.1 kb/s (3.1%)
 Max Out: 8026.8 kb/s (8.0%) Average Out: 524.2 kb/s (0.5%) Current Out: 456.7 kb/s (0.5%)

Yearly Graph (1 Day Average)



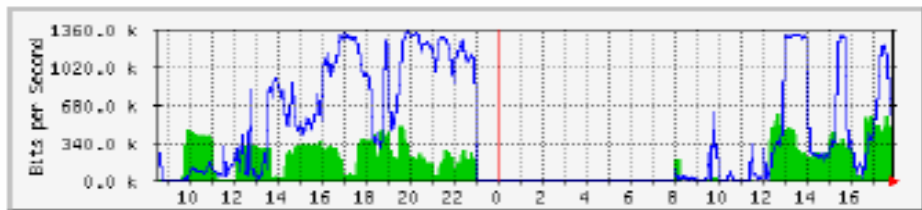
Max In: 4141.0 kb/s (4.1%) Average In: 1380.5 kb/s (1.4%) Current In: 884.8 kb/s (0.9%)
 Max Out: 5144.7 kb/s (5.1%) Average Out: 749.9 kb/s (0.7%) Current Out: 247.5 kb/s (0.2%)

(出典 メディア教育センター)

資料 8-1-2-6

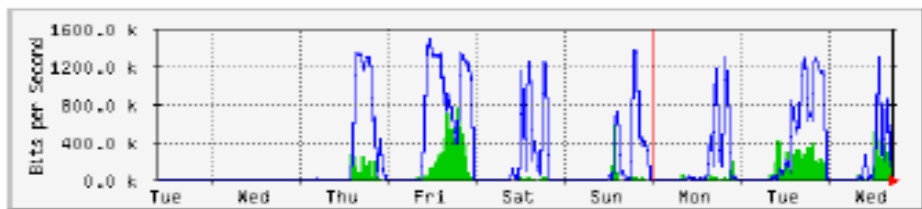
寮内 LAN~キャンパス LAN 間のトラフィック情報

「Daily」 Graph (5 Minute Average)

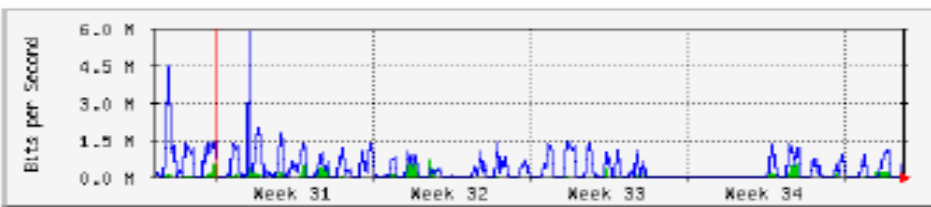


Max In: 610.8 kb/s (0.1%) Average In: 158.2 kb/s (0.0%) Current In: 503.0 kb/s (0.1%)
 Max Out: 1336.1 kb/s (0.1%) Average Out: 403.6 kb/s (0.0%) Current Out: 503.0 kb/s (0.1%)

「Weekly」 Graph (30 Minute Average)

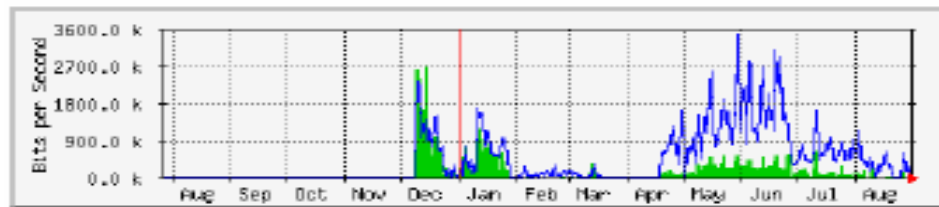


Max In: 779.4 kb/s (0.1%) Average In: 58.6 kb/s (0.0%) Current In: 494.1 kb/s (0.0%)
 Max Out: 1498.7 kb/s (0.1%) Average Out: 242.4 kb/s (0.0%) Current Out: 894.8 kb/s (0.1%)



Max In: 753.6 kb/s (0.1%) Average In: 54.2 kb/s (0.0%) Current In: 294.7 kb/s (0.0%)
 Max Out: 5826.7 kb/s (0.6%) Average Out: 340.9 kb/s (0.0%) Current Out: 784.1 kb/s (0.1%)

「Yearly」 Graph (1 Day Average)



Max In: 2734.4 kb/s (0.3%) Average In: 214.7 kb/s (0.0%) Current In: 136.3 kb/s (0.0%)
 Max Out: 3473.7 kb/s (0.3%) Average Out: 633.5 kb/s (0.1%) Current Out: 398.1 kb/s (0.0%)

(出典 メディア教育センター)

資料 8-1-②-7

遠隔授業実験報道記事 山陰中央新報 (2004年12月27日(月)朝刊)

松江高専

ネット

で遠隔授業実験

広島市立大

映像、音がリアル

最新の通信技術学ぶ



松江高専(松江市西生馬町、宮本武明校長)で二十六日、コンピューターネットワークを利用した遠隔授業の実験があった。広島県にある

大学とインターネット回線をつなぐ、最新技術で圧縮した映像や音声を通信して、進歩しい技術を学んだ。

冬季の集中講義の一環で、NTTの臨時ネットで、電気工学や情報工学、トワークを構築、同大の科の四三人が参加。広河野英太郎情報処理センターの四三人が参加。広島市立大(広島市)とのタイ助手が指導した。

授業では最新のテレビ会議システムを介し、互いの映像や音声を双方向で通信。高専の学生は、広島市立大の研究室からリアルタイムで電送される高品質の映像や音声を体験し、情報伝達の技術を学習した。

同高専電子制御工学科五年の山端一輝さん(19)は「映像や音声がリアルで、瞬時に届き、驚いた。ネットワーク通信にはさまざまな可能性があり、今後、ソフト開発などの勉強をしたい」と話した。

同高専は、実験成果を踏まえ、遠隔地での講演会やセミナーにもネットワーク技術を応用したいとの意向だ。

広島市立大から電送されるリアルタイム映像を体験しながら、ネットワーク技術を学ぶ松江高専生

遠隔授業実験報道記事 朝日新聞 (2004年12月27日(月)朝刊)

松江高専で遠隔授業実験

「テレビ会議」通し 仕組み・意義学ぶ

松江高専(松江市西生馬町)の松江工業高等専門学校(宮本武明校長)で26日、コンピューターネットワークを使った遠隔授業実験があった。生徒たちは、大画面に映し出された広島市立大学の学生を通じて実験の仕組みや意義を学んだ。

実験は、電気工学、電子制御工学、情報工学の3科の学生約40人が参加する「ネットワーク技術」の授業の一環として実施された。松江高専



は、県外の大学や高専の授業を受けられるよう、遠隔地にいる人たちとやり取りできるテレビ会議システムを導入を検討している。

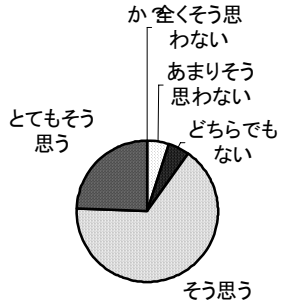
この日、生徒たちは広島市立大情報処理センターの河野英太郎助手の指導を受け、広島県内17大学が参加する専用ネットワークにテレビ会議システムで接続。画面に現れた同大情報科学研究科の学生が説明する、遠隔地にいる人たちと映像や音声をやり取りする技術に聞き入っていた。

電子制御工学科5年の梶谷健(さん)は「音声や映像がきれいで、新鮮な感じがした。将来的には中高校生も使うべきだ」と思ったと話した。

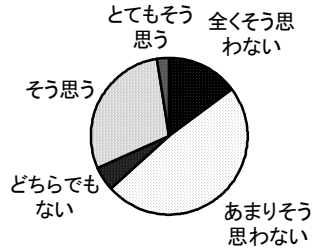
(出典 山陰中央新報、朝日新聞)

資料 8 - 1 - ② - 8 B

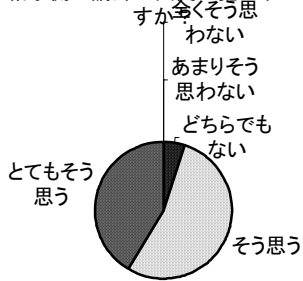
(1) 相手側の音声は聞き取りやすかったですか



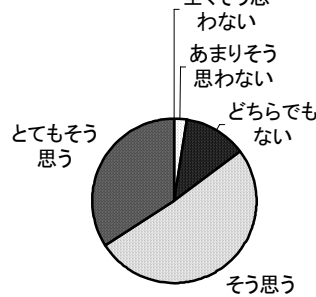
(2) 音声のずれは気になりましたか？



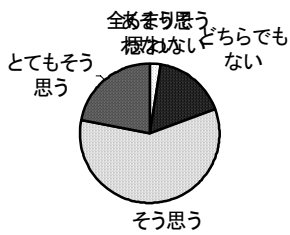
(3) 相手側の講師の画質は見やすかったですか



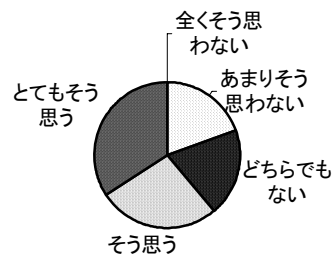
(4) 相手側の講師の画質は滑らかでしたか？



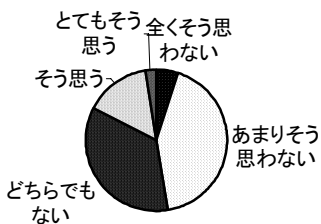
(5) 資料(パワーポイント)は見やすかったですか？



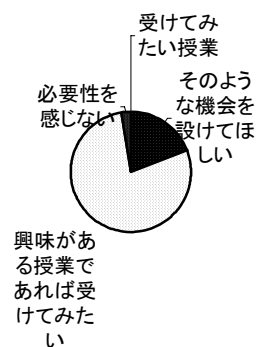
(6) Plycom社の機器とHDTV相当の伝送の画質の違いがわかりましたか？



(8) 通常の対面授業に比べて質問しやすいと感じますか？



(10) 他大学, 他高専で行なわれている特殊な授業を遠隔授業で受講することについてどう思いますか？



資料 8-1-②-8 C

設問 11 の結果

- ・思っていた以上に滑らかで驚いた（6）
- ・初めてのことでおもしろかった（3）
- ・専門分野の第一人者の講話を受けることができるとすばらしい
- ・パワーポイントの資料はもう少しわかりやすくしてほしい
- ・博士課程の学生さんの話が詳しくてすごかった
- ・マウスカーソルが追いにくかった
- ・いろいろなことに活用できるとおもしろい
- ・川上さんが照れすぎ
- ・遠隔合唱などクオリティが高く驚いた
- ・合唱を行なう意味がわからない。TV 中継との違いは？
- ・遠隔授業で用いられるソフトについて
- ・コミュニケーションがとれそう
- ・内容が難しく理解できなかった
- ・月食等地域に密着した内容も多く良かった。
- ・普通の授業とは違って新鮮だった
- ・インフラが発達するまで待てない。日常的に遠隔授業が受けられるようになれば良い
(出典 メディア教育センター 学生アンケート 報告)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 情報ネットワークの整備状況

① キャンパスLANの状況

現時点で、最速とは言えないものの平均的なネットワーク構成となっている。一部ネットワークが利用できない建屋については、今後何らかの形で整備を検討したい。現時点ではとくに学生や教職員からも要望は寄せられておらず、ほぼ満足のいく運用ができているものとする。

② インターネット回線の状況

従来のインターネット回線（11Mbps）に比べ、通信速度の上でかなりの改善が図られた。また、インターネットの利用のみならず、遠隔授業、遠隔講演、マルチメディアコンテンツ送信、ネットワーク実験の目的を達成するために、十分な帯域を確保している。本校では全国高専の中でも屈指のインターネット（外部ネットワーク回線）環境を確保しつつ、コストは30%以上もの節約を達成した。

(2) ネットワーク管理スタッフ

ネットワーク管理は、教員 2 名、技術職員 2 名の合計 4 名で行っている。いずれもインターネット上で実用に耐えるサーバを自力で構築・管理・運用が可能な教職員であり、適材適所への教員配置を行っている。

(3) 情報ネットワークのセキュリティ

情報ネットワークのセキュリティ対策はほぼ完全に達成されている。ネットワーク認証システ

ムの導入に対するアンケートの結果から、何らかの効果を認めている人数の割合を比較してみると、教員側は90%を超える割合で効果があると判断している。一方、学生は56%程度にとどまった。これは、アンケートでも指摘されたファイアウォール上での設定上の問題と考えられたため、アンケート直後に、ネットワーク認証に関してシステムの修正を行った。

導入しているネットワーク認証システムは校内ユーザのインターネット利用についてモラルハザードを防止する効果があるものとする。

(4) 教育内容・方法，学生のニーズとの対応

教育内容・方法，学生のニーズとの対応については，教育上の不都合は発生していない。また，(5)の分析結果でも示したように，H16年度には遠隔授業実験を行い，学生から概ね好評となる結果を得た。

(5) 情報ネットワークの有効利用

資料8-1-②-5に本校のファイアウォールを通過するパケット流量を，資料8-1-②-6に寮内ネットワークからキャンパスLANに流れるパケット流量を示す。インターネットが勤務時間帯，授業時間帯で有効に活用されていることがわかる。また，寮からのトラフィックは4Mbpsに制限されていることがわかる。

さらに，資料8-1-②-7に平成16年度に行った遠隔授業実験についての新聞記事を示し，資料8-1-②-8に授業アンケート結果を示す。この結果から，情報ネットワークが正規の授業のみならず，遠隔授業などの先端的な利用においても有効に活用されていることがわかる。

観点 8-2-①： 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館の状況について。蔵書冊数は平成 17 年度当初で約 6 万 4 千冊である。これは教員の研究室に置いてある図書を含んだ数字である。分類ごとの内訳は資料の通りである。(資料 8-2-①-1)

また購入している学術雑誌は平成 17 年度で約 50 種類である (資料 8-2-①-2)。また研究紀要等は 386 種類が登録されている。外国雑誌は 3 種類である。(資料 8-2-①-2)

視聴覚資料については，ビデオ 391，DVD 135 があり，ビデオ用 3 台，DVD 用 4 台の再生機が図書館に設置してあり，開館中の視聴が可能である。(資料 8-2-①-3)

利用状況については，年間 245 日の開館で入館者数は約 6 万 5 千人，1 日あたりの入館者数は 265 人である。貸出冊数は年間約 6000 冊，そのうち自然科学・工学が 38%を占めている。(資料 8-2-①-4)

学内のパソコンからは図書館ホームページ上の検索システムが利用でき，書名・著者名等での検索が可能である。図書館内にも検索用のパソコンが 4 台設置されている。

資料 8-2-①-1

蔵書冊数

平成 17 年 4 月 1 日現在

区 分		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	計
図書の冊数	和書	5482	1698	3880	3656	11560	19702	396	1554	1939	9021	58888
	洋書	207	38	50	89	2473	1055	1	40	711	570	5234
	計	5689	1736	3930	3745	14033	20757	397	1594	2650	9591	64122
分類別割合 (%)		8.9	2.7	6.1	5.8	21.9	32.4	0.6	2.5	4.1	15.0	100

利用状況

平成 16 年度

入館者数 (人)	開館日数 (日)	貸出図書数 (冊)										
		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	計
65333	245	475	170	64	199	505	1792	6	128	104	2594	6037
分類別割合 (%)		7.9	2.8	1.1	3.3	8.4	29.7	0.1	2.1	1.7	43.0	100

(出典 図書委員会)

資料 8-2-①-2
(平成 16 年度)

蔵書冊数	64122	冊	うち洋書	5234	冊
総数	441	種	うち外国語	60	種
総数	1182	冊	うち洋書	96	冊
			うち購入数	1037	冊
受入数合計	230	種	うち購入数	69	種
受入数合計	7	種	うち購入数	4	種
			うち外国語	0	種

(出典 図書委員会)

資料 8-2-①-3
視聴覚資料等 (平成 16 年度)

	ビデオ	DVD	CD	その他
所蔵数	391	135	0	0
年間受入数	3	47	0	0
館内視聴用再生機の台数	7	4	0	0

(出典 図書委員会)

資料 8-2-①-4
図書館利用者数・貸出図書数の推移

年 度	H 1 2	H 1 3	H 1 4	H 1 5	H 1 6
入館者数 (人)	61290	49055	48370	66290	65333
貸出冊数 (冊)	3195	2388	3397	3893	6037

(出典 図書委員会)

(分析結果とその根拠理由)

自然科学・工学関係の図書は約 3 万 4 千冊で、蔵書全体の 54%を占めている。高専の蔵書数として数的には十分に整備されているといえる。

利用状況については、過去数年間で利用者数・貸出者数とも増加しており、有効に活用されているといえる。ただし、自然科学・工学関係図書の蔵書数割合 54%に対し、貸出冊数の割合は 38%と低くなっているが、これはこうした図書に発行年次の古いものが含まれているためと考えられる。特に工学系の専門書は寿命が短く、数年で古くなってしまいうため、貸出需要に答えられないと考えられる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

各施設が基準に基づき整備及び管理されている。実験室の共同利用、あるいは、集合教員室を設けるなど、限られた施設が有効に活用されている。情報ネットワークは、校内の全ての教室、教員室、実験室、事務室から利用できるよう整備されて、活用されている。また、セキュリティ管理も適切に行われている。図書館は利用者数・貸出者数とも増加しており、有効に活用されている。

(改善を要する点)

ネットワーク管理を行っている情報ネットワーク委員会の構成員は、いずれも専任ではない。そのため、予期せぬネットワーク障害の発生時には担当者へ大きな負担が生じている状況にあり、今後の対策が必要である。また、図書館については、発注した図書を図書館や研究室に実際に配備するまでの時間短縮の要望がある。図書検索システムの改良も含めて、教育研究への一層のサービス向上に努めていく必要がある。また、設備の老朽化や機器の技術的な進歩は避けられず、常に現状を把握しつつ、将来計画を実施していかなければならない。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の施設概要は、高等専門学校設置基準において必須とする校地・校舎や施設・設備について整備及び管理されている。整備計画等については、「施設長期計画書」に基づいて継続的に整備されている。また、施設・設備の有効利用状況や安全性などについては、「施設管理委員会規則」、「施設の有効利用に関する規則」及び「安全管理委員会規則」に基づいて日常的に点検している。施設や設備について、現時点では問題は生じていないが、今後設備の老朽化は避けられず、将来の発展および現状を見極めつつ、計画の確実な実行が望まれる。

全校的共通実験室、実験室の共同利用、あるいは、集合教員室を設けるなど各施設の有効利用率（稼働率）は高く、有効に活用されている。また、学生への施設・設備満足度アンケート結果から、不満足率はバラつきがあるものの概ね満足している状況が読み取れる。

情報ネットワークは、体育館など一部利用できない建屋があるものの、校内の全ての教室、教員室、実験室、事務室をカバーしている。また、学生寮の4～7号館の各居室にもネットワークコンセントを設置するなど、学生に対するサービスについても配慮したネットワーク構成としている。ネットワーク管理については、メディア教育センター内の情報ネットワーク委員会で効率的な運用がなされている。ファイアウォール上では、ネットワーク認証システムを導入し、セキュリティ管理を行っている。さらに、教職員が利用するサーバと学生が利用するサーバを完全分離し、不適切な情報にアクセスできないようなしくみを提供している。第1学年や第5学年における授業で情報倫理教育も行っている。

図書館には自然科学・工学関係の図書を中心に教育研究上必要な資料が整備され、過去数年間は利用者数・貸出者数とも増加しており、有効に活用されているといえる。発注図書の処理システムの見直しや図書検索システムの改善をしつつ、維持拡大に努めている。

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されている。特に、平成 16, 17 年度については、全ての成績評価データが電子ファイルまたは資料(紙)で管理保管されている。

観点 9-1-②： 学生の意見の聴取(例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。)が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

平成16年度卒業予定者に対しては平成17年2月に、平成17年度卒業予定者に対しては平成18年2月に満足度アンケートを実施した。内容は時系列による調査が必要であることから同内容とした。平成18年2月の調査は、観点6-1-④で述べているので本観点では平成17年2月に実施した結果を述べる。(資料9-1-②-1 A~D)

結果は、一般科目講義では、73%が満足、専門科の授業では、66%が満足、専門科実験実習では83%が満足している。卒業研究については82%が満足している。施設、設備面では、約7割が満足している。JABEE関係については、70%が関心を持っていることがわかる。総合して満足度を平均してみると73%が満足していることになる。改善点についての意見についても、可能な点について改善を行う必要がある。

問1：一般科目の授業(講義形式)に満足・・・・・・・・・・73%が満足

意見・要望 英語教育の充実、合同講義の問題等など

問2：一般科実技科目(物理・化学、体育等)に満足・・・・・・70%が満足

意見・要望 実験が少ない、5年体育の授業の開講希望など

問3：専門科目の授業(講義形式)に満足・・・・・・・・・・66%が満足

意見・要望 開設科目増の希望、授業改善など

問4：専門科実験実習(講義形式)に満足・・・・・・・・・・83%が満足

意見・要望 授業改善、卒研に集中したいなど

問5：卒業研究に満足・・・・・・・・・・82%が満足

意見・要望 指導教員の指導に問題など

問6：本校の施設(建物等)に満足・・・・・・・・・・65%が満足

意見・要望 改修部分以外の部分の改修要望など

問7：本校の設備(機器等)に満足・・・・・・・・・・71%が満足

意見・要望 冷暖房設備の運用についての改善など

(平均72.8%)

資料9-1-②-1 A

H16 松江高专満足度アンケート結果

教務委員会
平成17年2月1日
各学科卒業発表会で実施

1

問1:一般科目の授業(講義形式)について

A: 満足している
B: ほぼ満足している
C: あまり満足していない
D: 満足していない

A+B: 73%

2

問1:一般科目の授業(講義形式)について(不満者の意見)

3

問2:一般科目の授業(物理・化学実験、体育)について

A: 満足している
B: ほぼ満足している
C: あまり満足していない
D: 満足していない

A+B: 70%

4

問2:一般科目の授業(物理・化学実験、体育)について(不満者の意見)

5

問3:専門科目の授業(講義形式)について

A: 満足している
B: ほぼ満足している
C: あまり満足していない
D: 満足していない

A+B: 66%

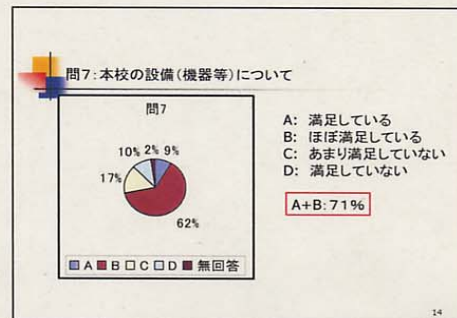
6

資料9-1-②-1 C

問6:本校の施設(建物等)について(不満者の意見)

満足している、満足していない、不満、不満の理由、その他

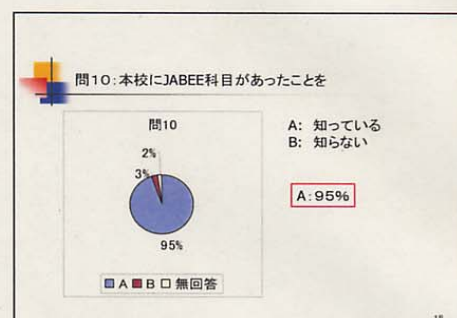
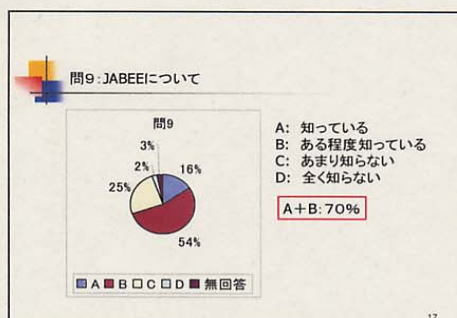
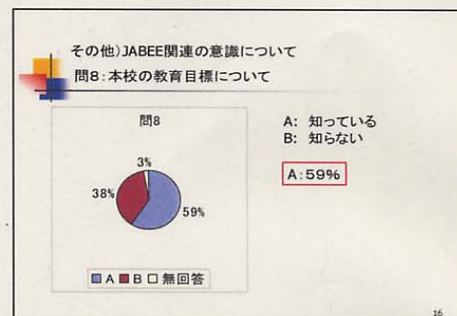
13



問7:本校の設備(機器等)について(不満者の意見)

満足している、満足していない、不満、不満の理由、その他

15



(分析結果とその根拠理由)

平成16年度卒業生に対する満足度結果と平成17年度卒業生に対する満足度結果を比較してみると

	平成16年度	平成17年度
・ 一般科目の授業（講義形式）に満足	73%	94%
・ 一般科目の実技科目（物理・化学，体育等）に満足	70%	91%
・ 専門科目の授業（講義形式）に満足	66%	95%
・ 専門科目の実験実習に満足	83%	95%
・ 卒業研究に満足	82%	94%

となっている。アンケートでは，不満足 of 具体的意見も調査しており問題点については，更に改善に繋げていく必要がある。

観点 9-1-③： 学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

(1) 卒業生アンケート

卒業生アンケートについては，観点 6-1-5 で述べているので，本観点では「本校の教育目標」以外の部分について述べる。（資料 9-1-③-1）

本校で受講した授業内容について以下の授業科目の授業時間が，十分に確保されていたかについて結果を報告する。

- ① 数学・自然科学系の講義，専門の講義，専門の実験実習が確保されていた・・・87%
- ② 人文科学，社会科学系の講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72%
- ③ 情報処理系処理やコンピュータの基礎知識に関する科目・・・・・・・・59%
- ④ 創造的な問題解決能力の育成に関する科目（卒業研究含む）・・・・58%
- ⑤ 卒業研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84%
- ⑥ 日本語による記述力・口頭発表能力に関する科目，語学教育・・・・45%
- ⑦ 倫理，経済，安全に関する系統的学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56%
- ⑧ 校外実習経験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67%
- ⑨ 松江高専の授業内容を社会的な水準に照らして，十分だったと思われませんか。

十分であったという回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82%

以上の欠課，発表能力，語学に授業時間が不足しているとの認識が卒業生にある。

(2) 就職先アンケート

就職先アンケートについては，観点 6-1-5 で述べているので，本観点では就職先企業等の意見について述べる。（資料 9-1-③-2）

資料9-1-③-1 A

卒業生JABEEアンケート結果報告

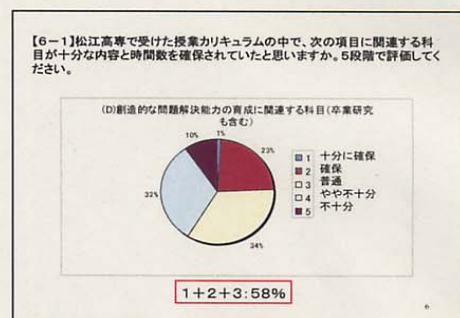
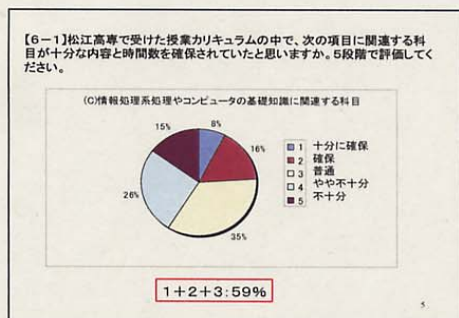
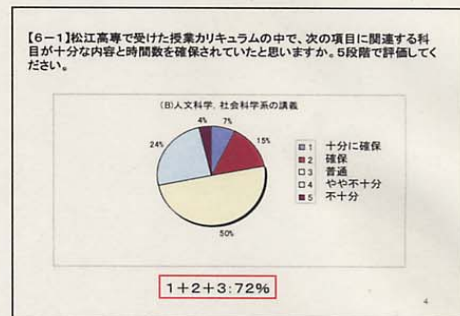
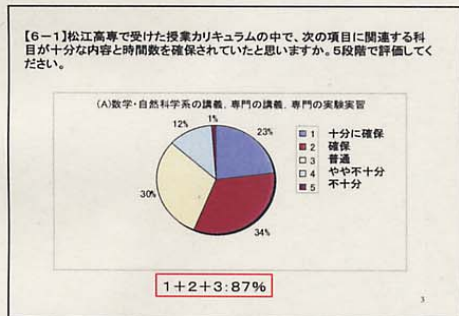
調査時期:2005.7

1

アンケート調査の対象者

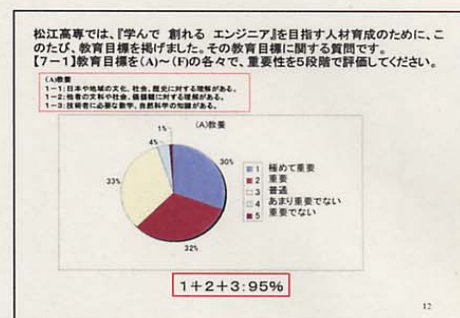
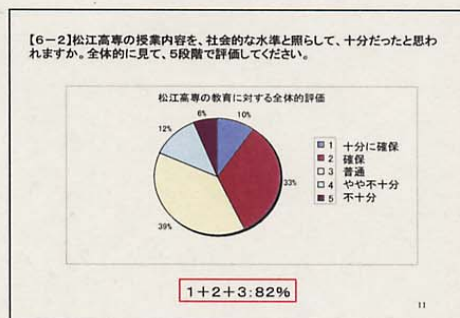
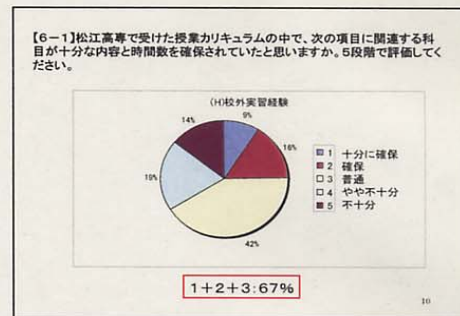
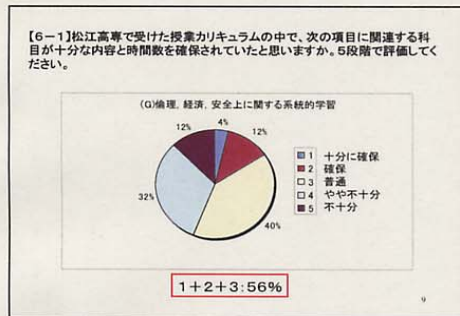
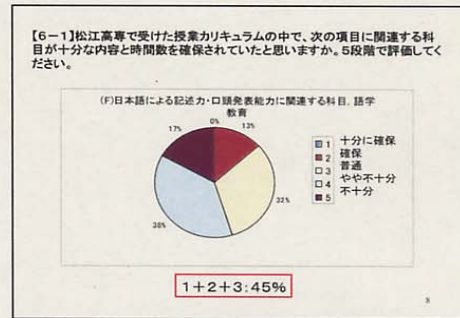
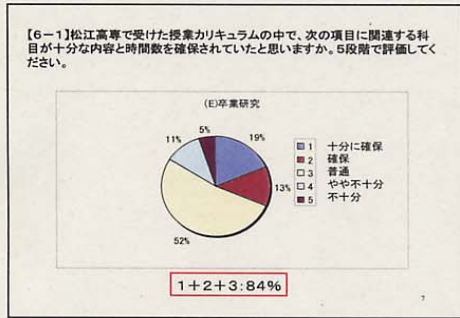
アンケート機関	項目	調査対象者数	有効回答数	有効回答率
1	松江高専卒業生を相手とする人	47	47	100%
	松江高専卒業生を相手とする人	47	47	100%
2	松江高専の卒業生科を相手とする人	11	11	100%
	松江高専の卒業生科を相手とする人	11	11	100%
3	松江高専卒業生の進路先を相手とする人	11	11	100%
	松江高専卒業生の進路先を相手とする人	11	11	100%
4	進路先の職種を相手とする人	11	11	100%
	進路先の職種を相手とする人	11	11	100%
5	進路先で業務が異なることを相手とする人	11	11	100%
	進路先で業務が異なることを相手とする人	11	11	100%

2



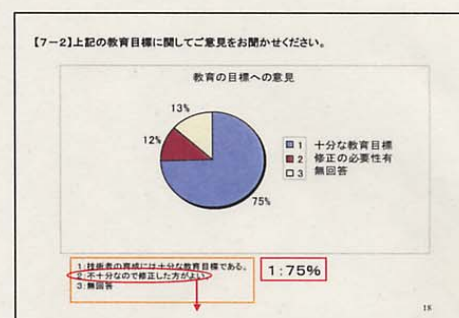
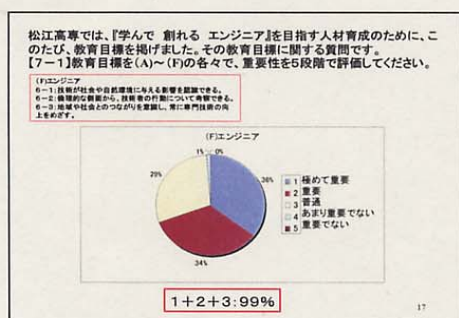
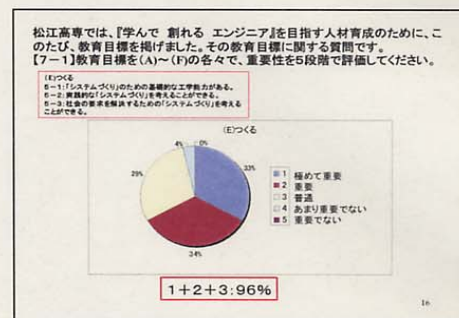
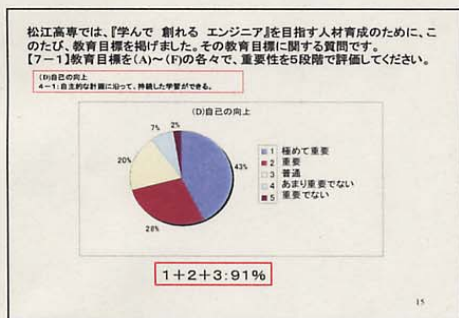
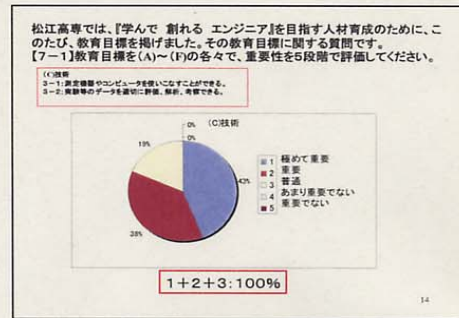
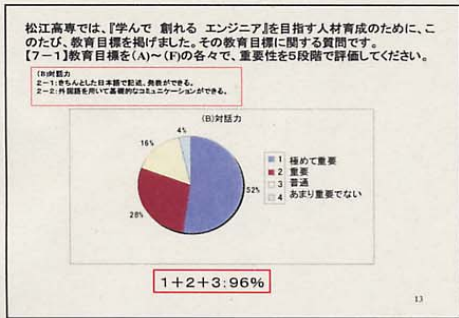
(出典 卒業生アンケート 報告)

資料9-1-③-1 B



(出典 卒業生アンケート 報告)

資料9-1-③-1 C



(出典 卒業生アンケート 報告)

資料 9-1-③-2 A

「高等教育機関としての高専の存在意義，将来あるべき姿等について」の自由記述（本科）

申し訳ございませんが、貴校より当社へ入社された方については、在籍期間が1ヶ月程度であった為、特に彼個人の評価を致しかねます。未記入の項目がありますが御了承ください。

研究・学問的な技術習得に固執するのではなく、より実用・実益的な技術を習得する場であってほしい。

4大より2年若い、専門的な教育がなされている。

実践的知識を持った人材を送り出してほしい。

“ものづくり”の原点となる工学的な知識の習得を望む。

日本のスペシャリストたるエンジニアを育成する為、もっと自然科学の基礎をしっかりと教育していただきたい。「水素を酸化するとどうなる？」といった質問の意を解さないなど、一言でいえばものを知らない学生（新卒者）が増えています。ゆとり教育とは一線を画し、向上心のある人物を育ててください。

今回の調査対象者は、既に退職しているため回答できかねます。

「TOEIC」は、高専 500, 大学 600, 文系 700以上必要。「情報処理技術」は、PCレベルと思う。使えることはMUST→エントリーで確認できる。（インターネット）

即戦力を求めやすい傾向があるが、先を見た基礎力と創造力及び挑戦する心が大切と感じます。即戦力だけに求めているのは、個性や特性が欠ける。島根の若い力を生かし活かして欲しい。

専門基礎知識・技術をしっかりと修得し、実務応用への発展力を身に付けてください。

入社後、専門知識を身に付ける上で土台となる基礎学力、現場で欠かせないコミュニケーション能力、そして向上心をしっかりと養える教育をよろしくお願い致します。

資質の高い若い生徒に、就業の意識を高められることも重要かと考えます。当社では高専生を高く評価しており、企業の人材として、より人間性のあるプロアクティブな人材を求めます。貴校からは毎年採用させて頂きたく考えております。

技術の分野においては、他学歴卒者よりも秀で、自信を持った卒業生を社会へ送り出して頂きたいです。

機械、電気等専門分野の基礎知識・学力の向上を期待します。

今までは採用にあたり「英語」の能力を特段考慮してはおりませんでしたが、今後は考慮しなければならない環境になって来ています。外資（ドイツ）100%の当社においては、国際間コミュニケーションは英語が共通語となっており、特に研究・技術部門業務従事者は英語でコミュニケーションができること、英語の読解力、英語文章力が必須条件となってきています。採用した人の中から選抜して、入社後、英語Trainingをしていただいておりますが、入社時にTOEIC 500点以上あればTOEIC 650点（当社が求めるTOEIC最低ライン）へより早く到達することができるものと考えております。

最新のスキルを身につけ社会に出て即戦力として活躍できる人材を育成していただきたい。

専門分野に特化することも重要ですが、「松江」に限らず基礎的な教養なくしては、せっかくの専門分野が死んでしまいかねません。ぜひ、総合的な人材育成を目指してください。

平成17年6月30日付け依願退職のため、未記入の項目があります。

地域経済の発展に寄与できる人材の育成

資料9-1-③-2 B
やや理屈・理論が先行しがち、早く企業文化にとけ込み協調性を発揮することが望ましい。但し、大企業の研究開発等に従事する場合はこの限りでない。
平成18年4月の採用については、残念ながら貴校卒業予定者はいらっしゃいませんが、引き続き専門分野に強みを持ち、かつ幅広く視野を持たれる人材の採用を行っていきたいと考えております。今後の採用についても、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
環境を向上させるシステム等の専門知識を習得する教育
コミュニケーション能力、応対マナーなどのスキルupを望みます。
4年生大学と比べ技術系の基礎の単位が多く、実践向きであり満足している。但し、輸出立国を担う若者として英語力にもう少し力を注いだ教育を望みます。
独法化スタートより高専では様々な活動、取組みにより自校の差別化をされています。その一端が進学校化、最近良く耳にする機会があります。少子化が現実直面しているこの時期、難しい局面だと思います。そんな中弊社は、高専の学生の採用に関しては最優先で探りたいと考えています。進学・就職と進路は違いますが送り出す学校側は、学生に勉強であれば知識で、又就職で仕事に就く人には働く事により社会に貢献しているという喜びを“感じる人”にして送り出してほしいと願います。
「学んで、創れる、エンジニア」良いと思います。
中央都市、大企業への就職を求める学生は相当の自己向上心があり、又訓練も受ける。地元就職希望者には甘えと、自己革新力、努力姿勢に不十分な学生が多見されると想像する。
大学に行く人よりも早い段階から専門知識が身につけられる場であるので、その柔軟な発想力を生かすような教育環境を形成していただければと思います。
中学卒業時より将来の職業ジャンル選択を迫られる優秀な人材が結集している所が高専の特色と思います。つまり自己適正判断が早く向上心の高い学生が集まっていると思います。技術革新が早く、技術修得スピードを要求する企業においては、最適の人材と考えます。産業への適正導入を進める為、インターンシップ複数年度も考慮されてはいかがでしょうか。
エンジニアとして、求められる要求項目を期間内に結果が出せる様にする事。及び自分の意見を常に持ち（含む予測）理論に基づく考え方が出来る事の教育を望みます。採用にあたり「英語」の能力を考慮しているが、「TOEIC」の点数については現時点では絶対的な基準ではなく受験者間での相対的な比較要素として試しています。
工業高校よりも2～3歩上等の位置付けと認識している。たまたま当社入社者が悪かったか？地元中小企業にも優秀な学生を送り出してもらいたい。
情報処理の資格を持つか持たないかが、今、技術力判断の目安とされているので、資格取得に力を入れていただきたい。PLC, UNIX, JAVA等のスペシャリストを育てる方向づけも必要ではないかと思われる。
専門的かつ、より実践的な教育が行える教育機関であってほしい。
島根県内に限っては、大学の工学部（電子制御システム工学科、材料プロセス工学科（機械設計））が比較的近年開設された後発組なので、技術の円熟度の高い高専に期待する所が大きい。ロボットコンテストでの優秀な成績に代表されるような何かの頂点を極め、オリジナリティ溢れる発想を持ち、具体化できる学生を輩出してほしい。
近年は専門学校が台頭してきており、高専ならではの特色をもった学生の輩出が必要だと思います。基礎学力を持ち得ながら自ら考え、行動できるような人材を求めています。

資料9-1-③-2 C
全国共通科目のレベルアップは当然必要と思うが、地域に密着した技術の開発（例えば島根なら自然と共存できる産業の開発）等を目指してほしい。
高い技術の知識を修得できること。並びに、枠にとらわれることなく幅広い視点を持ち、何事にも積極的に取り組める意欲を持った人材を育成していただけること。又、コミュニケーション能力も様々な学生生活での経験を通じて高めていただける機関として期待しています。
採用にあたり「英語」能力は、余り考慮していないが教育科目には必要である。5年間の一貫教育により学生の技術に対する意識は高いものがあり、意欲をもって取り組んでいます。又、社会への適応能力に秀れていますので技術力を徐々に発揮してくれるものと成長と活躍を期待しています。
5年間の一貫教育で平均した教養、技術力を身につけコミュニケーションの高い人に育てていただきたい。
「学んで、創れる、エンジニア」に共感致します。そのためにも、リビングやPC、TV画面を越えた広い視野を提供することで、学生諸君の職業観を豊かに育てていただきたいと思ひます。
「高等教育機関としての高専の存在意義、将来あるべき姿等について」の自由記述（専攻科）
日本企業の採用が従前の新規学卒一括採用システムから多様な採用形態に移行しつつあります。この中で企業の人事制度は、人中心から仕事中心に変わってくることでしょう。今まで以上に即戦力が求められる時代になります。ですから、きめ細かい技術教育に長け、そのノウハウを持っている高専に対する期待は益々高まると思ひます。課題としては、企業がグローバル化のスピードを速めていますので、海外の教育機関に負けないレベルにまで向上・維持していくことだと考えます。
高専に進む学生はハッキリとした目標意識を持って取組み企業に就職後、短期間の教育で戦力になっております。弊社にも多数の高専卒が入社しており貴重な人材に育っております。今後も多くの優秀な人材を育てる機関として期待します。
向上意欲が旺盛で自立心が高い学生の育成をよろしくお願ひします。
専門性、実技の高い教育機関として地元根付いた学校を望む。
全国共通科目のレベルアップは当然必要と思うが、地域に密着した技術の開発（例えば島根なら自然と共存できる産業の開発）等を目指してほしい。
（出典 卒業生アンケート 報告）

（分析結果とその根拠理由）

(1) 卒業生アンケート

学外関係者として卒業（修了）生の意見調査がアンケートの形で実施されている。「松江高専の授業内容を社会的な水準に照らして、十分だったと思ひれますか」の問いについては、アンケート調査を行った82%の卒業生が肯定している。ただし、発表能力、語学に授業時間が不足しているとの認識が卒業生にあることが判明した。カリキュラム内容教育の状況に関する自己点検・評価にフィードバック（改善）については、現在進行中である。

その他、後輩へのアドバイス、教員への要望なども調査した。今後の改善に生かして行きたい。

(2) 就職先アンケート

採用にあたり英語能力、情報処理技術能力を考慮する事業所が増えつつあることが自由意見から考察される。

Vの重要項目からコミュニケーション能力の重要性を、VIIIの情報処理技術能力の考慮具合から情報処理技術能力の重要性をそれぞれ指摘されていること。並びに卒業生アンケートから語学教育及びコンピュータ基礎知識の授業時間が不十分であると指摘されていることから語学教育及び情報処理教育の改善が今後必要であると思われる。専攻科修了生を採用していただいた事業所の勤務成績評価満足度は、78.6%であった。改善が必要と思慮される事項は本科卒業生と同様である。

これらの状況から、本校ではTOEICの受験を学校行事として取り入れ、得点により特別学修として単位認定を行っている。また、情報処理技術者試験を始め各種資格試験もまた特別学修として単位認定を行うことで学生の学習意欲の向上と共に、社会からの要請を教育へ反映させている。

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点到に係る状況）

本校では各種の評価を、教育の計画、実践、評価、改善（Plan/Do/Check/Action）について組織的に支援する教育点検システム（以下「PDCA」という。）を整備し、各種委員会が連携して実行に移している。（資料9-1-④-1）（資料9-1-④-2）

教員の教育に関する評価は、学生による評価と教員相互による評価、教員による自己評価の三つの方法で行っている。それらの評価を総合して、国専協に表彰教員を推薦している。

学生による評価は、「教育に熱心な先生」「分かりやすく教えてくれる先生」「勉強の意義を良く教えてくれる先生」「人生に夢を抱かせてくれる先生」「部・サークルの指導、生活指導に熱心な先生」の観点から、すべての学生が一般科目および他学科の教員5名以内、自分の所属学科の教員3名以内をあげるものであり、平成15年度より実施している。

教員相互による評価は、各教員が「教育に熱心な教員」を1名挙げるものであり、平成15年度より実施している。

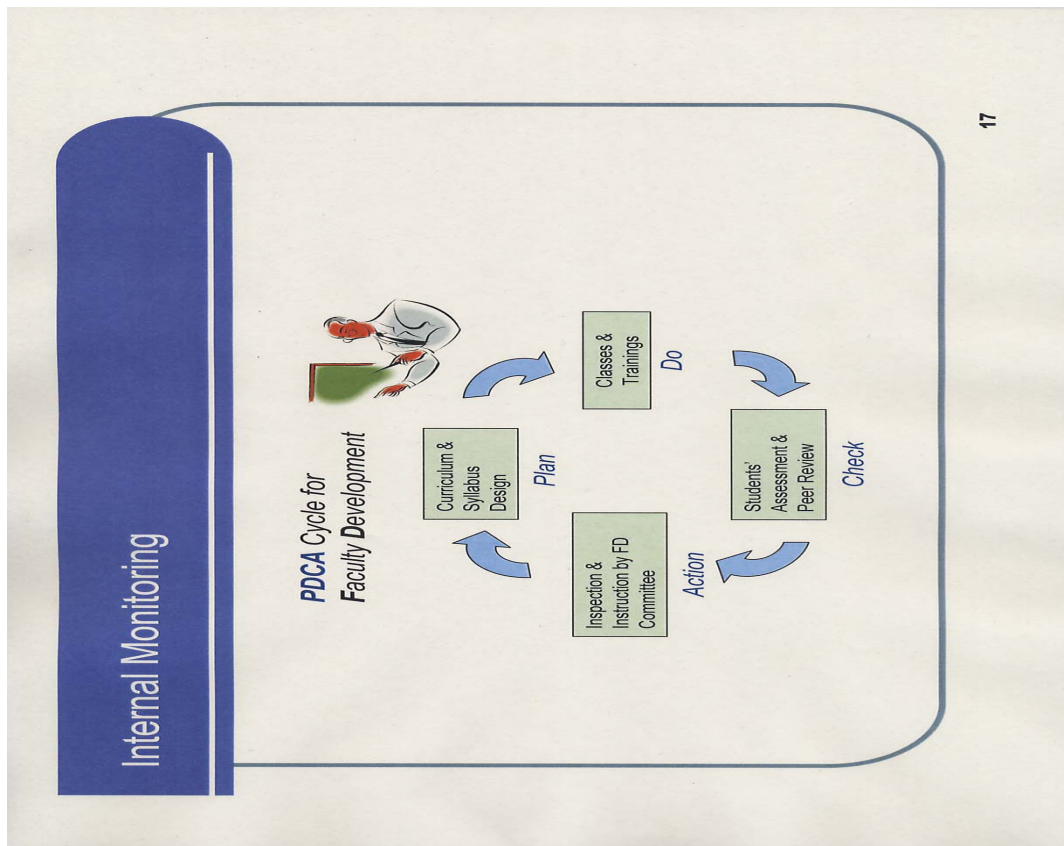
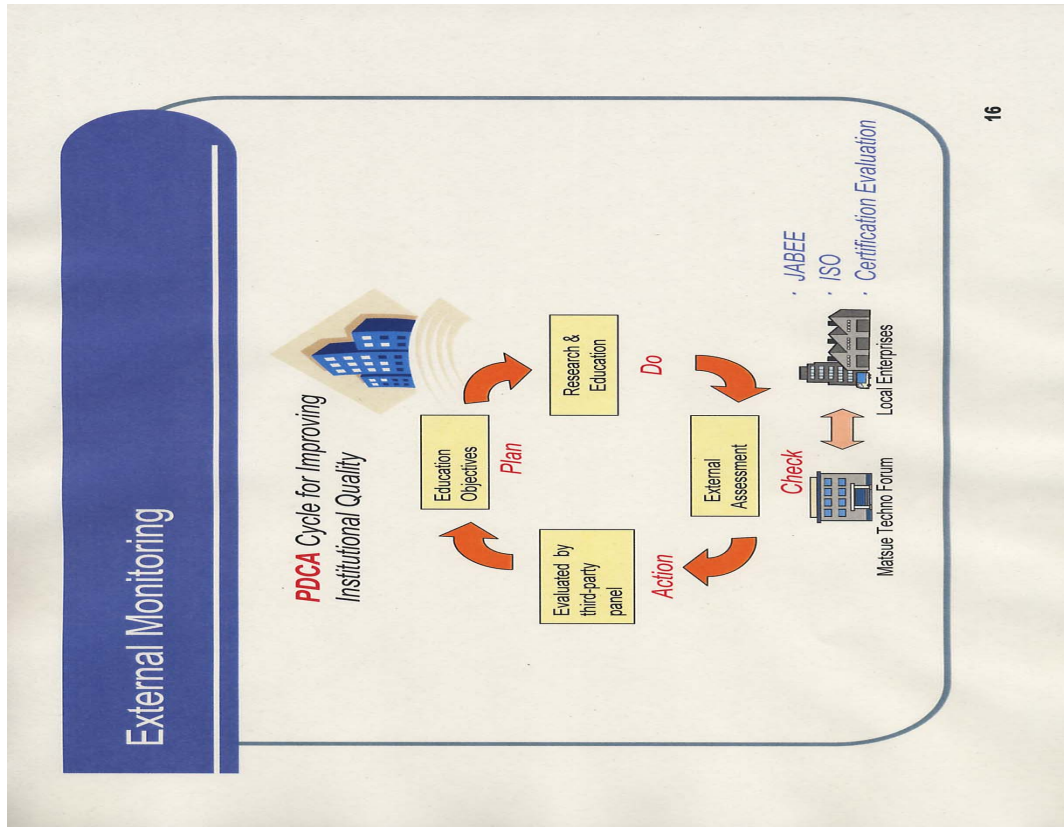
教員による自己評価は、評価項目に従って記入し得点を書き込むものである。

なお、平成17年度より「年間職務の自己評価」としてより総合的、客観的に評価できるように様式が整えられた。

学習・教育目標の設定、学習・教育目標達成度の評価方法・評価基準等の適切さに対する社会の要求については、専攻科修了生や準学士課程卒業生に対するアンケート（平成16、17年度に実施）並びに企業に対するアンケート（平成17年に実施）により点検している。

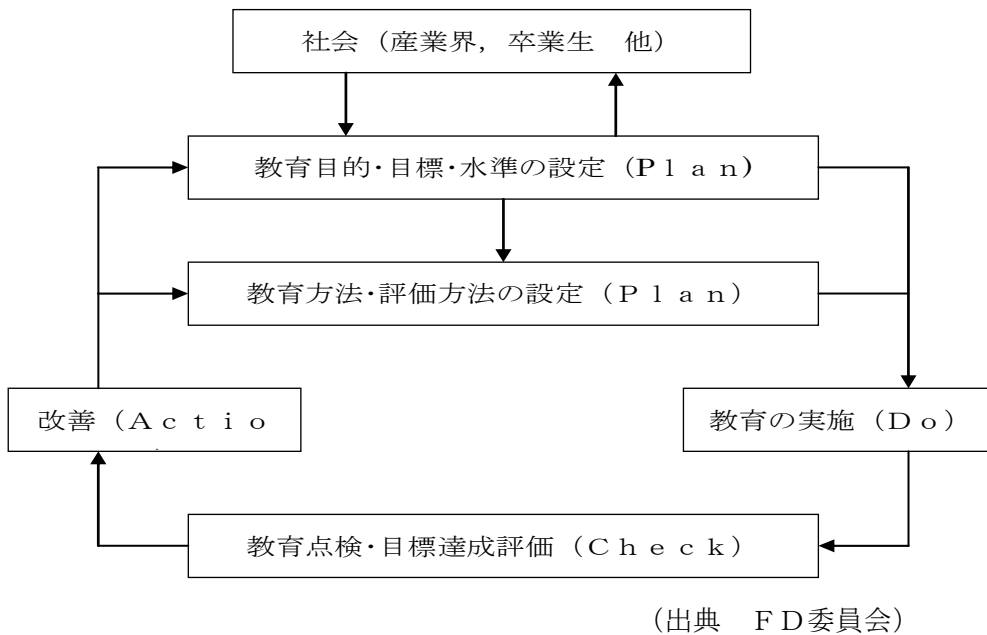
また、運営評議会（平成17年3月開催）、松江工業高等専門学校と地域産業界等が技術交流等を深めることにより、地域産業と文化、並びに松江高専の教育・研究の発展に寄与することを目的に設立された松江テクノフォーラム、学生の保護者で構成される後援会、準学士課程卒業生及び専攻科修了生で構成される同窓会からは、各総会等を通じてさまざまな意見を取り入れている。

資料9-1-④-1 A



(出典 FD委員会, OECD 高等政策レビュー説明資料)

資料9-1-④-1 B



資料9-1-④-2 A

FD推進のために

1. FD推進のために

- JABEE・第三者評価
 - ・ともにFDの推進状況が重要ポイント
 - ・教育機関として、
- P(Plan)--D(Do)--C(Check)--A(Action)
 - が機能していることを証明する必要性
 - ・各高専の弱点がFD
 - ・ISOの考え方・方法を準用すればOK
 - (点検の重用性、証拠の整備—嫌われるFD)

2. P-D-C-Aに必要なもの

- (ISO)から学ぶこと
 - ・スパイラルアップの必要性—学科長の協力
 - ・点検、証拠の整備の重要性—嫌われるFD
 - ・手順の確立と全構成員への周知
 - マニュアル、手順書、プログラム表の整備
 - C-Aが機能していることの証明
 - (改善の強制力—嫌われるFD)

3. P(Plan)

- ・シラバス(計画を知る第一の証拠資料)
- ・具体的な記述—点検可能
- ・PlanについてもP-D-C-Aを機能させ、その証明をする必要
 - シラバスの内容チェック、様式の評価など
- ・FDの年間計画(プログラム)策定の必要性
 - 授業の点検、改善計画、改善の証明、
 - プログラム自体の評価の手法など

4. D(Do)

- ・授業の実施(点検と改善の手順が必要)
- ・試験の実施(点検と改善の手順が必要)
- ・成績評価(点検と改善の手順が必要)
- ・授業・試験・評価の証明(提出データ)
 - シラバス、教科書、試験問題、答案、成績評価詳細、小テスト、レポート・作品、授業評価
- ・JABEE:レベルの証明中心(証明は厳しい)

資料 9-1-④-2 B

FD推進のために

- ・ 第三者評価:より網羅的(学校の授業充実への姿勢を見る)

5 ④ C(Check)

- ・ 最もわずらわしく、ほとんど経験のない分野
- ・ P-D-C-Aの根幹をなす部分
- ・ もれなく点検する必要
- ・ そこで必要な制度が「授業点検教員」制度

6 ④ 「授業点検教員」制度とは

- ・ 各授業に「授業担当教員」と「授業点検教員」
- ・ 役割
 - シラバスの点検(P)
 - 試験問題の点検、授業視察(D)
 - 学生アンケートにコメント、提出資料の点検(C)
 - 年度末に担当教員が記入する授業改善計画書の点検(A)

7 ④ A(Action)

- ・ 授業の点検・評価(自己+他者)と見直し
 - 特に必要なもの(判定者と判定基準)
 - 改善計画
- ・ FD活動の点検・評価とプログラム見直し
- ・ 報告書

8 ④ FD推進のメリット

- ・ 授業の改善
 - 学生の落ち着きと実力アップ
- ・ 資料提出
 - レポートの様式、評価方法の適正化
(最初は大変でも、慣れれば授業改善に直結)
 - 評価の迅速化、評価への異議の減少
- ・ 改善姿勢
 - 学生へのアピール

教員連絡会配布資料

2

(出典 教員連絡会 配付資料)

(分析結果とその根拠理由)

評価結果を教育の質の向上、改善に結び付けるシステムが整備されている。教育課程の改善を進めるとともに、教員個々の技術力の向上も進んでいる。

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

(1) 授業アンケート

平成 12 年度より学生による授業アンケートを実施してきたが、平成 15 年度より授業アンケート結果に対して、各担当教員が分析および今後の改善策を記入する形式とした。また、平成 17 年度は授業点検教員がその授業に対するコメントを記入するようにして、より多角的に授業を評価・改善するようにしている。(資料 9-1-⑤-1) (資料 9-1-⑤-2)

(2) 公開授業・保護者参観

平成 15 年度から授業公開週間を設け、各教員が相互に授業を参観するようにしてきたが、平成 17 年度より各教員がおおむね 3 年に 1 回以上公開授業を行うこととし、批評会の実施と報告書の提出を義務付けた。また、平成 15 年度から年 1 回の保護者参観を実施している。(資料 9-1-⑤-3) (資料 9-1-⑤-4)

(3) FD チェックシート

平成 16 年度からは 1～3 年の全授業を対象に、授業時間の遵守、授業の分かりやすさ、板書・資料の分かりやすさ、学生の取り組みを学生(日直)に点検させる FD チェックシートを実施している。月間のクラスごとの統計を開示(インナーweb およびクラス掲示)しフィードバックしている。平成 17 年度からは、評価の低い項目があった授業すべてについて授業担当の教員にも告知することでフィードバックしている。(資料 9-1-⑤-5 資料 5-2-②-2 を再掲)

資料 9-1-⑤-1

平成 17 年度 授業アンケート (多テーマ実験・実習用)
FD 委員会/専攻科委員会

授業科目名	
学科(専攻)名	M・E・D・J・C P・S 学年()年

学生の皆さんへ
この授業アンケートは、本校の授業をより良いものにするために、皆さんの意見を聞くものです。(成績には一切関係ありません。)下記の項目に対して、該当する番号に○を付けてください。なお、この授業アンケートの集計結果は学内情報ページ上に公開する予定です。授業アンケートの信頼性を高めるためにも、責任を持って記入してください。

授業担当の先生へ
アンケート記入中は、学生の記述内容を見ないでください。また、アンケートを集める際には、並び順で学生が特定できないようにシャッフルしてください。アンケートを授業点検教員に渡して集計してもらってください。

授業点検教員の先生へ
アンケート集計後、アンケートは授業担当教員にお返しください。

5	4	3	2	1
とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない

記述欄について	テーマ名を記入してください。当てはまるものがない場合は「なし」と記入
①全体として自分はこの科目に熱心に取り組んだ。	5 4 3 2 1
②指導書は役に立った。	5 4 3 2 1
③実験機器・設備は十分に用意されていた。	5 4 3 2 1
④自分が最も熱心に取り組んだテーマ	
⑤教員の取り組み姿勢が良いと感じたテーマ	
⑥改善の必要があると感じたテーマ	
⑦レポート等のフィードバックが不十分なテーマ	
⑧総合的に判断して、この科目に満足している。	5 4 3 2 1

⑧の項目に関連して、実験・実習に関する具体的な改善内容などあれば自由に書いてください。その他、授業に関する希望・感想・意見などあれば自由に書いてください。(建設的な意見をお願いします)

(出典 FD 委員会)

資料 9-1-⑤-2

平成 17 年度 前期授業アンケート 集計用紙 (講義用)

教員名	点検教員→授業担当教員→FD 委員→FD 委員長
前期参観授業教	公開授業

授業②科目名	
科目コード	
対象クラス	
受講人数	

授業アンケートの質問項目と集計結果のグラフ

①学生自身の取り組み姿勢	②説明・内容の分かりやすさ	③学生の理解度の確認
④板書・資料の分かりやすさ	⑤教員の話し方	⑥授業内容とシラバスとの一致
⑦実験機器の備忘状況	⑧授業への満足度	⑨授業改善の必要性

授業②の各項目平均

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
系列	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

授業点検教員記入欄 (授業参観、公開授業とアンケート結果を勘案してコメントを記入) | 記入者:

授業担当教員記入欄① (授業で工夫した点、特記事項を記入)

授業担当教員記入欄② (各項目の結果や学生の意見、教員のコメント等を統合して、今後の授業への取り組みを記入)

(出典 FD 委員会)

資料9-1-⑤-3

公開授業実施報告書 (授業実施教員 → FD委員 → REDICに保存)

公開授業日	科目名	実施クラス	受講人数
授業実施教員	点検教員名	学科長	空欄のままにしてください
寄せられた主な意見			
改善すべき点			
出席者名			
合計 ()名			

(出典 FD委員会)

資料9-1-⑤-4

保護者参観日 アンケート用紙

本日は授業参観日にお出かけいただきありがとうございました。今後の授業の進め方の参考にしたいと思っておりますので、お手紙で守が、以下のアンケートにお答えください。

5 授業の出席を記入する欄は、次のようにご記入ください。

5 : 本席より () 席 1 : 非常用 2 : やや悪い 3 : 普通 4 : やや悪い

参観日	参観者名	クラス	質問1 教員の授業に対する態度を感じましたか?	質問2 教員の授業の進行(進捗、授業、資料など)はどうか?	質問3 学生の授業に対する関心の高さはどうか?	質問4 この授業で教員が身につけたことは何か?
例	2年の理学	Dは教員	4	2	3	個別指導や平日で授業が足りていない、多くの学生に授業に集中してもらいたい、授業の進め方や資料など、その授業がどうなっているのかの感想があった。
1						
2						
3						

そのほかお気づきのことがあればご記入ください。

ご記入ありがとうございました。

(出典 FD委員会)

資料9-1-⑤-5

学生によるFDチェックシート (平成 年 月 日 ~ 月 日)

●FDチェックシート記入のお願い

学力向上には、教員によるFD(授業内容・方法の改善)推進と、学生の主体的な学習が不可欠です。松江専専では組織的にFD推進を行っていますが、学生による自らの授業評価を教員のFDに活用したいと思っておりますので記入への協力をお願いします。また、授業評価と同時に、クラス全体が主体的に学習に取り組んでいたか評価し、今後の取組みに役立ててください。

●記入の仕方

か、クラス全体の授業の取組みが熱心であったかについて評価し、該当欄に○を付けて下さい。また、必要に応じてコメント欄にコメントを記入して下さい。

日	クラス	開始時間	授業終了	授業内容(教書・資料)	話し方	学生の取組	コメント		
1	1・2・3・4・5	1時間通り	1分足りなかった			1.熱心	授業の改善のために何か		
2	M・E・D・J・C	2遅れた	2分足りなかった			2.普通	コメントがあれば書いて		
3		3早かった	3分足りなかった			3.熱心でない	ください		
日	時間	科目名	担当者	開始時間	授業終了	授業内容(教書・資料)	話し方	学生の取組	コメント
記入例	英語III	生島先生		① 2 3 分	① ② 3 分	① ② 3 1 ② 3 1 ② 3 1 ② 3	1 ② 3 1 ② 3	1 ② 3	授業の学が小さくて嫌みに
月	1-2			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	3-4			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	5-6			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	7-8			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
火	1-2			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	3-4			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	5-6			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	7-8			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
水	1-2			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	3-4			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	5-6			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	7-8			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
木	1-2			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	3-4			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	5-6			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	7-8			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
金	1-2			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	3-4			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	5-6			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		
	7-8			1 2 3 分	1 2 3 分	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3	1 2 3		

※全曜日の担当者は集計欄に○の合計数を記入してください。

(出典 FD委員会)

(分析結果とその根拠理由)

学生の要望については、学生による授業アンケートが毎年実施されており、集計結果は各教員に通知されるとともに、校内web上に公開している。平成17年度からは1～3年の全授業のFDチェックシートの評価の低いものは、授業担当の教員に通知しており、授業アンケートよりすばやい軌道修正が可能となっている。

観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

本校教員の研究活動は調査・研究を主たる目的とする研究のみならず、教育方法の質の改善を目的とする研究活動にも取り組んでいる。

教員の研究活動全般の状況については、選択評価事項Aで詳しく述べるが、各教員の専門分野における研究成果の一部は、準学士課程5学年の卒業研究や専攻科課程の特別研究として実施されているほか、関連分野の講義に生かされている。(資料9-1-⑥-1) 学生は研究を通じて専門知識と周辺知識を高めるとともに論文作成能力やプレゼンテーション能力を高めていく。その結果は、国際会議や学会口頭発表に成果としてあらわれる。(資料9-1-⑥-2)

平成18年度大学教育の国際化推進プログラム(海外先進研究実践支援)に応募し、採択された「IT活用による教育研究の高度化と国際化ーオープンソースLMSの効果的活用とXHTMLエディタ開発に関する研究ー」は、時間、場所に束縛されず外国語学習ができる教材開発によりTOEICの得点上昇やアンケートの結果から指摘されているコミュニケーション能力の向上に繋がるものと期待されている。(資料9-1-⑥-3)

また、本校においては、FD委員会及びJABEE委員会からの指示により教員個人データを作成している。このデータ項目の中に「授業担当者としての適正」欄を設け、教員自らが担当授業科目として適切であることを具体的な根拠(授業内容に関連した教育実績、研究業績、実務経験、著書、作品、特許、社会活動などの概要)をあげてその適正さを記述している。本制度から教員自ら研究業績が教育の質の改善に寄与しているかを自己評価している。

資料 9-1-⑥-1 A

授業科目名	特別研究	科目コード	
科目区分	専門別開科目・必修	履修年次・学期	2006・S2/P2・通年
単位数	1.6 (2年次1.2)	オフィスアワー	
担当教員名	専攻教員	授業点検教員名	調査教員
教育プログラムの学習・教育目標との対応	4: 自主的な計画に沿って、持続した学習ができる 5-2: 実践的な「システムづくり」を考案することができる 5-3: 社会の要求を解決するための「システムづくり」を考案することができる	JABEE 科目区分	専門工学
授業概要	特別研究：調査研究、実験計画・実施、システム開発・解析、など各指導教員と選んだ研究テーマについて、2学期に跨り、研究計画を立案し、研究を自主的に進めてゆく。研究活動を通じて問題発見・問題解決能力を身に付け、多面的に物事を観察できる広い視野、新たなシステムを形成する能力を育成する。研究成果を学内・学外へと発表することにより、プレゼンテーション能力ならびにコミュニケーション能力を養う。 エンジニアリングデザイン：専門分野における問題発見・解決法提案能力を身につけるためエンジニアリングデザインを実施する。選択した問題を解決するための作品を製作し、ポスターセッション形式による発表会を開催する。		
到達目標	研究能力 1. 計画的、自主的に研究を進めることができる。 2. 研究結果を論文として適切にまとめることができる。 3. 研究結果を論理的に考察し、論述することができる。 4. 研究に関して適切に発表することができる。 5. 研究結果を学外（学会、研究会など）で発表する。 エンジニアリングデザイン能力 6. 専門分野における問題を発見し、解決法の提案ができる 7. 提案した解決法を、わかりやすくプレゼンテーションできる		
成績評価方法・評価基準	1. 指導教員が研究状況を評価する（10%） 2. 研究論文より指導教員（10%）、調査教員（5%）の割合で評価する。 3. 研究論文より指導教員（20%）、調査教員（10%）の割合で評価する。 4. 中間報告会（10%）および特別研究報告会（20%）とし、当日公聴した教員の平均点で評価する。報告会の欠席は不合格とする。詳細項目は、予稿の選取、プレゼンテーションのわかりやすさ、質疑に対する応答の的確さとして、それぞれ1:1:1の割合で評価する。 5. 1回以上の学外発表を合格条件とする。評価点には含まない。 6. エンジニアリングデザインにおける作品発表を行わない者は不合格とする。製作した作品は、担当アドバイザーが評価する（5%）。 7. エンジニアリングデザイン発表会を公聴した教員の平均点で評価する（10%）。作品、プレゼンテーションのわかりやすさについて1:1の割合で評価する。		

(出典 専攻科 シラバス)

資料 9-1-⑥-1 B

授業計画・内容	
エンジニアリングデザイン 第1回	ガイダンス・テーマ選定 課題を提示し、解決法を考案する
第2～6回	作品製作 解決法を実現するための作品を製作する。
第7回	作品発表会 ポスターセッション形式にて、製作した作品についてプレゼンテーション
特別研究	発表会予定 2年前期 中間報告会 2年後期 特別研究報告会（学内、スライドセッション） 特別研究報告会（公開、ポスターセッション）

(出典 専攻科 シラバス)

資料 9-1-⑥-2 A

4. 学生の状況および活動 Annual Report 2005 本科生研究業績および受賞者一覧

4.8 本科生研究業績および受賞者一覧

機械工学科
独立行政法人国立高等専門学校機構「創造性を育む卒業研究」推薦 大森 圭輔、落谷 真大：角形スプライン歯切り用ホブに関する研究 ポスターセッション推薦(第5回しまね新技術創出セミナー、平成18年2月) 大森 圭輔、落谷 真大：角形スプライン歯切り用ホブに関する研究 安藤 亮：垂直型ダリウス風車の性能改善に関する研究
電気工学科
平成17年度電気・情報関連学会中国支部第56回連合大会 電気学会中国支部奨励賞受賞 大井川 寛：2次元PEA装置によるパケッ 電荷の測定 桑原康太：陸上競技スプリントにおける急加速走と緩加速走の比較 独立行政法人国立高等専門学校機構「創造性を育む卒業研究」推薦 藤川信次：線-平板電極系におけるPEA信号の数値解析 ポスターセッション推薦(第5回しまね新技術創出セミナー、平成18年2月) 藤川信次：線-平板電極系におけるPEA信号の数値解析 山本健一：冷凍機の前処理装置の開発
電子制御工学科
平成17年度電気・情報関連学会中国支部第56回連合大会 電気学会中国支部奨励賞受賞 齋木 典保：大型つばを用いたBi系超電導二次単結晶の育成 原 将士：窒素-酸素雰囲気焼結によるBi-2223相超電導体の高品質化 独立行政法人国立高等専門学校機構「創造性を育む卒業研究」推薦 周藤雄太、永島信也：岩がきの非破壊検査法に関する研究 ポスターセッション推薦(第5回しまね新技術創出セミナー、平成18年2月) 末清雅人：部分溶融法によるSm系超電導体の試作 野津史朗、曾田真史、山根利佳：立上り介助システムの研究開発 一実用化を目指して－ 第3回最先端技術・材料の開発に関する研究会 原将士、齋木典保、末清雅人、松木直人：窒素-酸素雰囲気焼結によるBi-2223相超電導体の作製と臨界電流密度の向上 齋木典保、原将士、末清雅人、松木直人：大型Bi系超電導二次単結晶育成における一次単結晶の粒度とつばの大きさの関係 松木直人、齋木典保、原将士、末清雅人：化学溶液法Bi系超電導厚膜の溶融条件依存性 電気情報関連学会中国支部第56回連合大会 齋木典保、原将士、末清雅人、松木直人：大型つばを用いたBi系超電導二次単結晶の育成 末清雅人、齋木典保、松木直人、原将士：溶融凝固法によるSm系超電導体の試作 松木直人、齋木典保、原将士、末清雅人：化学溶液法によるBi系超電導厚膜の試作

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 B

4. 学生の状況および活動 Annual Report 2005 本科生研究業績および受賞者一覧

原将士、齋木典保、末清雅人、松木直人：窒素-酸素雰囲気焼結によるBi-2223相超電導体の高品質化

情報工学科
独立行政法人国立高等専門学校機構「創造性を育む卒業研究」推薦 仙田祐一：コンクリート異常判別アルゴリズムに関する研究 ポスターセッション推薦(第5回しまね新技術創出セミナー、平成18年2月) 西脇修平、浅野智之、船越雄大：携帯端末を用いたバス利用サポートシステムの開発 松田徹也：時間情報を利用した地理情報システム Akashic Navigator
環境・建設工学科
独立行政法人国立高等専門学校機構「創造性を育む卒業研究」推薦 周藤将司：漢方劣化の診断手法に関する基礎的研究 ポスターセッション推薦(第5回しまね新技術創出セミナー、平成18年2月) 周藤将司：漢方劣化の診断手法に関する基礎的研究 安部佑希香：合併後の松江市における防災意識の地域特性

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 C

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

4.10 専攻科生研究業績および受賞者一覧

生産・建設システム工学専攻

論文集論文

木村一郎, 寺本敦子, 小畑めぐみ, 細田 尚: 連結系汽水湖に遡上する高塩分水塊の挙動とその制御に関する基礎的研究. 水工学論文集. 第 50 巻, 2006 年 2 月

国際会議

- C. Yasui, M. Nagamitu, R. Takata, M. Ohya, S. Sato, T. Nonaka: Examination of ASR in Waste Waste Glass Materials, Proceedings of The 30th Conference on OWCS, Singapore, pp.499-504, August 2005
D. Kaneko, T. Itohara, M. Ohnishi, T. Ishiyama: Early warning method for rice production using remote sensing and meteorological data - Photosynthetic Crop Production Index -, Sustainable Development and Planning, Bologna, Italy, 2, pp.815-824, September 2005
J. Asada, M. Ohya, R. Matsubayashi, N. Harada, R. Takata, M. Naito, M. Waga, T. Katada: Proposal of an Immediate Action Support System to Operate in Real Time During Disaster. Proceedings of the International Symposium on Management System for Disaster Prevention (ISMD 2006), Kochi, Japan, March 2006
M. Ohya, J. Asada, N. Harada, R. Matsubayashi, M. Hara, R. Takata, M. Naito, M. Waga, T. Katada: Disaster Information-gathering System using Cellular Phones with A Global Positioning System. Proceedings of the International Symposium on Management System for Disaster Prevention (ISMD 2006), Kochi, Japan, March 2006

口頭発表(学協会等)

- 永光雅一, 高田龍一, 佐藤周之, 野中賢博: リン吸着型コンクリートの植生基盤材としての転用効果に関する基礎的研究. 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要旨集. pp.425-426, 2005 年 5 月
安食正太, 大屋 誠, 松崎清彦, 麻生裕彦: 島根県における既設耐震性橋梁の実態調査. 第 57 回土木学会中国支部研究発表会要旨集. pp.523-524, 2005 年 5 月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅一, 野中賢博: 幾何学的なモルタルの性能に及ぼす影響. 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要旨集. pp.449-450, 2005 年 5 月
安井千尋, 高田龍一, 永光雅一: 各種微粉末による ASR 抑制効果に関する基礎的研究. 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要旨集. pp.463-464, 2005 年 5 月
吉村拓哉, 高田龍一, 安井千尋: 人口砂を利用したモルタルの強度特性に関する基礎的研究. 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要旨集. pp.463-464, 2005 年 5 月
小畑めぐみ, 木村一郎, 松崎 健, 寺本敦子, 園野結貴: 湖に遡上する高塩分水塊の挙動に関する数値解析的研究. 土木学会中国支部第 57 回研究発表会発表要旨集. 2005 年 5 月
金子大二郎, 糸原俊彦: GMS 日射量と世界気象データを用いた光合成型殺菌生産指標の中国への試験的適用. システム農学 2005 年度春季シンポジウム - 一般研究発表会要旨集. pp.68-69, 2005 年 5 月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅一, 野中賢博: 発泡珪藻土微粉末のコンクリートへの有効利用に関する基礎的研究. 平成 17 年度農業土木学会大会講演要旨集. pp.578-579, 2005 年 8 月
木村一郎, 小畑めぐみ, 松崎 健, 寺本敦子, 細田 尚: 連結系汽水湖に遡上する高塩分水塊の挙動とその制御について. 日本流体力学学会年会 2005 講演論文集. 2005 年 8 月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅一, 野中賢博, 佐藤周之: 無機質微粉末による ASR 抑制効果に関する

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 D

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

検討. 土木学会第 60 回年次学術講演会要旨集. pp.7-8, 2005 年 9 月
大屋 誠, 松崎清彦, 麻生裕彦, 安食正太: 島根県内のさび安定化補助処理された耐震性橋梁の離岸距離とさびの関係. 平成 17 年度全国大会第 60 回年次学術講演会. CD-ROM. 1-017, 2005 年 9 月

小畑めぐみ, 木村一郎, 松崎 健, 寺本敦子, 園野結貴: 湖に遡上する高塩分水塊の挙動とその制御に関する数値解析. 土木学会第 60 回年次学術講演会講演要旨集. CD-ROM. 2005 年 9 月
高田龍一, 安井千尋, 永光雅一, 野中賢博: 鏡筒ダスト人口砂を利用したモルタルの強度特性に関する検討. 第 60 回農業土木学会中国四国支部講演会要旨集. pp.97-99, 2005 年 10 月
利光和彦, 春木 渉, 大野真一, 大屋裕二, PIV によるつば付きディフューザ風車後流の渦構造解析. 日本機械学会第 83 期流体力学部門講演会. 講演 CD-ROM 版論文集. No.1818. 平成 17 年 10 月
武藤道雄, 大屋 誠, 松崎清彦, 安食正太, 古川貴士, 麻生裕彦: 耐震性鋼橋梁における腐食と付着塩分組成の関係. Proceedings of the 15th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics 2005. pp.157-160, 2005 年 12 月

木村一郎, 小畑めぐみ, 寺本敦子, 細田 尚: 連結系汽水湖に遡上する塩水挙動に関する数値解析. 第 19 回数値流体力学シンポジウム講演論文集. CD-ROM. 2005 年 12 月

小畑めぐみ, 木村一郎, 寺本敦子, 園野結貴: 湖に遡上する高塩分水塊の運動特性とその制御法に関する検討. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.3-4, 平成 18 年 1 月

永光雅一, 高田龍一, 佐藤周之, 野中賢博: リン吸着型コンクリートの植生効果に関する検討. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.9-10, 平成 18 年 1 月

高田龍一, 安井千尋, 永光雅一, 野中賢博, 佐藤周之: ASR の抑制に関する基礎的研究. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.11-12, 平成 18 年 1 月

浅田純作, 大屋 誠, 松林 良, 原田直明, 内藤正彦: 広域広域のための即時対応行動支援システムの開発. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.19-20, 平成 18 年 1 月

浅田純作, 宇野和男, 大屋 誠, 金巻正文: 松江市における耐震診断普及の阻害要因と危機意識との関連分析. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.21-22, 平成 18 年 1 月

原田直明, 松林 良, 大屋 誠, 浅田純作, 高田龍一, 片岡敏孝, 内藤正彦, 和賀正光: 災害時における情報収集システムの開発. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.23-24, 平成 18 年 1 月

大屋 誠, 武藤道雄, 松崎清彦, 安食正太, 古川貴士: 付着塩分量による耐震性橋梁の腐食環境評価. 平成 17 年度 第 2 回 土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会. pp.25-26, 平成 18 年 1 月

利光和彦, 大野真一, 春木 渉: PIV によるコンパクトタイプ風車後流の渦れ場構造. 日本機械学会中国四国支部講演会講演論文集. No.301. 平成 18 年 3 月

高尾 学, 岩成太朗, 加藤 慎, 泉 大樹, 本多将和: 面状軸タービンによる呼吸装置計測. 日本機械学会中国四国支部第 44 期総会・講演会講演論文集. 2006 年 3 月

高尾 学, 利光和彦, 春木 渉, 安藤 亮, 栗原 剛史: 案内羽根を有する直線直交直動風車に関する研究. 日本機械学会中国四国支部第 44 期総会・講演会講演論文集. 2006 年 3 月

その他(研究交流会・イベント・セミナー等)

永光雅一: リン吸着型コンクリートの植生基盤材としての転用効果に関する基礎的研究. 平成 17 年

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 E

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 土木・建築部門. pp.9-10. 平成 17 年 4 月

安井千尋: 各種微粉末による ASR 抑制効果に関する基礎的研究. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 土木・建築部門. pp.11-12. 平成 17 年 4 月

安食正太: 島根県における既設耐震性橋梁の実態調査. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 土木・建築部門. pp.15-16. 平成 17 年 4 月

原田直明: GPS 付携帯端末を利用した災害情報収集システムの開発. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 土木・建築部門. pp.29-30. 平成 17 年 4 月

小畑めぐみ: 閉鎖性水域の環境動態モデルに関する数値解析スキームの検討. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 土木・建築部門. pp.45-46. 平成 17 年 4 月

栄 天徳: 宍道湖におけるヤマトシジミの生態に及ぼす風波の影響. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 土木・建築部門. pp.53-54. 平成 17 年 4 月

春木 渉: つば付きディフューザ風車後流の渦構造解析. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 機械部門. pp.1-2. 平成 17 年 4 月

岩成太朗: フラップによる呼吸量計測. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 機械部門. pp.3-4. 平成 17 年 4 月

西川晴雄: CFD および PLIF による衝撃波を伴う極超音速燃焼流れ場の解明. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 機械部門. pp.13-14. 平成 17 年 4 月

東 剛史: 案内羽根ピッチ角制御による電力発電用遠心タービンの性能改善. 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会予稿集. 機械部門. pp.15-16. 平成 17 年 4 月

糸原俊彦: 水資源節約時代のための殺菌生産指標 CPI のモデリング. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

小畑めぐみ: Numerical Simulation of Environmental Characteristics in a Closed Water Basin. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

栄 天徳: Relation between Spatial Distribution of Corbicula Japonica and Wind Waves in Lake Shinji. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

西川晴雄: CFD および PLIF による衝撃波を伴う極超音速燃焼流れ場の解明. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

春木 渉: PIV によるつば付きディフューザ風車後流の渦構造解析. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

安井千尋: 炭ガスを原料とするアルカリ骨材反応特性とその抑制方法の検討. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

池田聖司: 常時観測による安来平野の地盤変動特性の推定. 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション. 平成 18 年 2 月

受賞

金巻正文: 優秀発表賞
平成 17 年度土木学会中国支部研究発表会(平成 17 年 5 月; 呉高专)

原田直明: 優秀発表賞
平成 17 年度土木学会中国支部研究発表会(平成 17 年 5 月; 呉高专)

小畑めぐみ: 優秀発表賞

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 F

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

平成 17 年度土木学会中国支部研究発表会(平成 17 年 5 月; 呉高专)

電子情報システム工学専攻

国際会議
Y. Takahashi, M. Koike, S. Fujii: Development of Ubiquitous Historical Learning System. Proceedings of the 2005 International Conference on Active Media Technology, p.272, May 2005

T. Katoh, T. Tsukutani, Y. Sumi, M. Higashimura, Y. Fukui: Versatile Current-Mode Translinear-C Biquadratic Circuit. Proceedings of The 2005 International Technical Conference on Circuits, Systems, Computers and Communications. Vol.1, pp.11-12, July 2005

T. Tsukutani, Y. Sumi, S. Edasaki, M. Higashimura, Y. Fukui: Electronically Tunable Current-Mode OTA-C Oscillator. Proceedings of The 2005 International Technical Conference on Circuits, Systems, Computers and Communications. Vol.3, pp.1021-1022, July 2005

現在 嶋ジェイ・エム・エス

S. Fujii, Y. Takahashi, H. Fukuda: Development of Ubiquitous Historical Tour Supporting System. 9th International Conference on Knowledge-Based Intelligent Information and Engineering Systems. pp.412-417, September 2005

T. Tsukutani, Y. Sumi, S. Iwanari, Y. Fukui: Novel Current-Mode Biquad Using MO-CCICs and Grounded Capacitors. Proceedings of The 2005 IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems. pp.433-436, December 2005

H. Hayashida, F. Dai, Y. Fujihara: Fundamental Study of Dielectric Elastomer as Artificial Muscle. Proceedings of The 11th International Symposium on Artificial Life and Robotics. on CD-ROM, January 2006

T. Nakamura, F. Dai, Y. Fujihara: Research on Autonomous Mobile Robot for Visually Handicapped Humans. Proceedings of The 11th International Symposium on Artificial Life and Robotics. on CD-ROM, January 2006

技術研究報告

加藤 龍也, 築谷隆雄, 鷲見育亮, 副井 裕: 特性可変型カレントコンペアによる電流モードバイパス回路の実現. 第 7 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文集. pp.47-48. 平成 17 年 11 月

岡村一俊, 亀谷 均: CO2 を利用した非接触呼吸計測法に関する研究. 第 7 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム論文集. pp.109-110. 平成 17 年 11 月

山田拓介, 加藤 龍也, 堀内 匡: 古文書を対象にした文字認識に関する研究. 電子情報通信学会技術研究報告. 平成 18 年 3 月

口頭発表(学協会等)

野嶋直也: 視覚ナビゲーションを用いた自律移動ロボット搭載マニピュレータの研究. 第 32 回日本経営工学会学生論文発表会. 平成 18 年 3 月

根坂康博: 受動歩行を利用した歩行ロボットの試作. 第 32 回日本経営工学会学生論文発表会. 平成 18 年 3 月

福高貞斗, 真田充志, 恒次秀起, 栗原勇次, 田中博一: LED を用いた花の成長システム. 平成 17 年度電気学会産業応用部門大会. Y-64. 平成 17 年 9 月

栗原勇次, 真田充志, 橋谷和昭, 松本康隆, 川中 学, 米田和彦: 水質監視システムの開発. 平成 17 年度電気学会産業応用部門大会. Y-67. 平成 17 年 9 月

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 G

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

谷口雅康, 堀内 匡, 原 元司: 最適化手法と対話処理を用いた時間割編成システム, 平成 17 年度工学・工業教育研究講演会講演論文集, pp.488-489, 平成 17 年 9 月
 栗原勇次, 斎藤 満, 箕田充志, 稲若和昭, 松本康隆, 川中 学, 米田和彦: 河川における水質監視システム平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部連合大会, p.492 平成 17 年 10 月
 福島志斗, 栗原勇次, 為石 徹, 箕田充志, 恒次秀起, 田中博一: 花の成長促進のための LED を用いた補光システム, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部連合大会, p.489 平成 17 年 10 月
 曾田隆平, 恒次秀起: 光配線ボードの光結合系に関する基本検討, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.469, 平成 17 年 10 月
 岩田 徹, 恒次秀起: マイクロキャピラリーを用いたプラスチック光ファイバ接続技術の基本検討, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.470, 平成 17 年 10 月
 藤井 諭, 中田圭亮, 中村直人, 井川 勉, 橋本匡史: 学習サイクルを支援する e-Learning の提案, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.248-249, 平成 17 年 10 月
 中田圭亮, 中村直人, 井川 勉, 藤井 諭: 学習サイクルを支援する e-Learning における携帯端末アプリケーションの開発, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.246-247, 平成 17 年 10 月
 中村直人, 中田圭亮, 藤井 諭: コミュニケーションシステムの評価と PDA への応用, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.250-251, 平成 17 年 10 月
 三浦由佳, 青山博一, 藤井 諭: Java3D を用いた実空間環境学習システムの開発, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.252-253, 平成 17 年 10 月
 築谷隆雄, 岩成祥吾, 鷺見育亮, 副井 裕: CCIC-C による電流モードバイカッド回路に関する一考察, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.12, 平成 17 年 10 月
 加藤龍也, 築谷隆雄, 鷺見育亮, 副井 裕: CCIC と接地キャパシタによる電流モードバイカッド特性の実現, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.13, 平成 17 年 10 月
 谷口雅康, 堀内 匡, 原 元司: 最適化手法と対話処理を用いた時間割編成システムの構築, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, p.108, 平成 17 年 10 月
 陶山早紀, 山崎真真, 堀内 匡: くずし字解読のための Web 教材の開発, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, pp.106-107, 平成 17 年 10 月
 森山裕介, 加藤 聡, 堀内 匡: 古文書を対象にした文字認識に関する基礎的考察, 平成 17 年度電気・情報関連学会中国支部第 56 回連合大会講演論文集, pp.370-371, 平成 17 年 10 月
 谷口雅康, 堀内 匡, 原 元司: 最適化手法と対話処理を用いた時間割編成システムの提案, 第 14 回計測自動制御学会中国支部学術講演会論文集, pp.124-125, 平成 17 年 11 月
 森山裕介, 加藤 聡, 堀内 匡: 古文書を対象にした文字認識システムに関する基礎的考察, 第 14 回計測自動制御学会中国支部学術講演会論文集, pp.168-169, 平成 17 年 11 月
 岡村一俊, 谷谷 均: 非接触呼吸計測法に関する基礎研究, 第 14 回計測自動制御学会中国支部学術講演会論文集, pp.210-211, 平成 17 年 11 月
 栗原勇次, 為石 徹, 箕田充志, 恒次秀起, 福島志斗: LED を用いた花の補光システム, 平成 17 年度第 2 回土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会, pp.7-8, 平成 18 年 1 月
 箕田充志, 栗原勇次, 斎藤 満: 水質監視システムの開発, 平成 17 年度 第 2 回土木学会中国支部島根会 研究・事例報告会, pp.17-18, 平成 18 年 1 月
 野畑眞伍, 藤原 豊: 視覚サーボを用いた自律移動マニピュレータの研究, 日本経営工学会卒業論

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 H

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

文発表会予稿集, pp.11-12, 平成 18 年 3 月
 根波康博, 藤原 豊: 受動歩行を利用した歩行ロボットの試作, 日本経営工学会卒業論文発表会予稿集, pp.15-16, 平成 18 年 3 月
 太田和宏, 福岡久雄: 携帯電話を用いたネットワーク認証システム, 情報処理学会第 68 回全国大会, 平成 18 年 3 月
 その他 (研究交流会・イベント・セミナー等)
 森山裕介: 古文書を対象にした文字認識に関する基礎的検討, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.1-2, 平成 17 年 4 月
 三島由莉: JPE データの周波数成分による特徴抽出法の提案, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.9-10, 平成 17 年 4 月
 原 直哉: 侵入検知システムによるファイアウォールログ記録システムの構築, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.21-22, 平成 17 年 4 月
 奥田博平: USB インターフェース地磁気センサの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.41-42, 平成 17 年 4 月
 浅野大介: 音響分析による映像機の再生ピッチ抽出法の提案, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.67-68, 平成 17 年 4 月
 三浦由佳: Java3D を用いた実空間環境学習システムの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.71-72, 平成 17 年 4 月
 中村直人: e-Learning を支援するコミュニケーションシステムの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.73-74, 平成 17 年 4 月
 宇都宮千佳: 論理回路用 CAI システムの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.75-76, 平成 17 年 4 月
 米田健香子: 松江高専 e-Campus プロジェクトへ Web 履修確認システムの活用へ, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.77-78, 平成 17 年 4 月
 陶山早紀: コンピュータを用いたくずし字解読教材の開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.79-80, 平成 17 年 4 月
 野畑眞伍: 視覚サーボによる自律移動ロボット搭載マニピュレータの運動制御, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.93-94, 平成 17 年 4 月
 中村孝宏: 画像処理を用いたファジィ制御による飛行船自律システムの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.95-96, 平成 17 年 4 月
 根波康博: 二足歩行ロボットの ZMP による歩行特性, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.97-98, 平成 17 年 4 月
 土肥 充: ファジィ推論による調光制御, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 情報・制御部門, pp.99-100, 平成 17 年 4 月
 林田淳一: 人工筋肉の基礎的研究, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.19-20, 平成 17 年 4 月
 石倉規雄: 大容量磁場電流の高精度制御に関する研究, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.27-28, 平成 17 年 4 月
 金坂俊二: 校内案内ロボットの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.31-32, 平成 17 年 4 月

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-⑥-2 I

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

福田恭兵: 二足歩行ロボットの動作プログラムの作成, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.33-34, 平成 17 年 4 月
 安斎康宏: 車椅子のまま乗り降りできる電動原動機付自転車の開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.35-36, 平成 17 年 4 月
 岩田 徹: マイクロキャピラリーを用いたプラスチック光ファイバ接続技術の基本検討, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.37-38, 平成 17 年 4 月
 岩成祥吾: MO-CCIC と接地変動素子による電流モードバイカッド回路, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.39-40, 平成 17 年 4 月
 加藤龍也: Translinear-C による電流モードバイカッド回路, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.41-42, 平成 17 年 4 月
 門脇 弘: 室内環境モニタリングシステムの開発, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.71-72, 平成 17 年 4 月
 岡村一俊: CO2 を利用した非接触呼吸計測法に関する研究, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.73-74, 平成 17 年 4 月
 赤名武志: 温度センサー付き IC タグの実験報告, 平成 17 年度中国四国地区高等専門学校専攻科研究交流会予稿集, 電気・電子部門, pp.79-80, 平成 17 年 4 月
 高橋秀祐, 中田圭亮: コピュタスな歴史学習支援ソフト, 第 4 回キャンパスベンチャーグランプリ CHUGOKU, 平成 17 年 12 月
 青山孝次: ボータプラットフォームカウンタの開発, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 赤名武志: センサ付き RF タグを用いた簡易温度計システム, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 浅野大介: 音響分析による映像機の再生ピッチ抽出法, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 岩田 徹: A Fundamental Study on POF Connection Technology using Micro-Capillary, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 岩成祥吾: Versatile Current-mode Biquad using MO-CCICs and Grounded Capacitors, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 門脇 弘: 室内環境モニタリングシステムの開発, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 金坂俊二: 校内案内ロボットの開発, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 谷口雅康: 最適化手法と対話処理を用いた時間割編成システムに関する研究, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 中村直人: A Study on a Distance Learning System Used Sharing and Non-Sharing of Information, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 野畑眞伍: Autonomous Mobile Manipulator using Visual Servoing, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 林田淳一: 人工筋肉の基礎研究, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 福田恭兵: Motion Program for a Humanoid Robot, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月

(出典 Annual Report 2005)

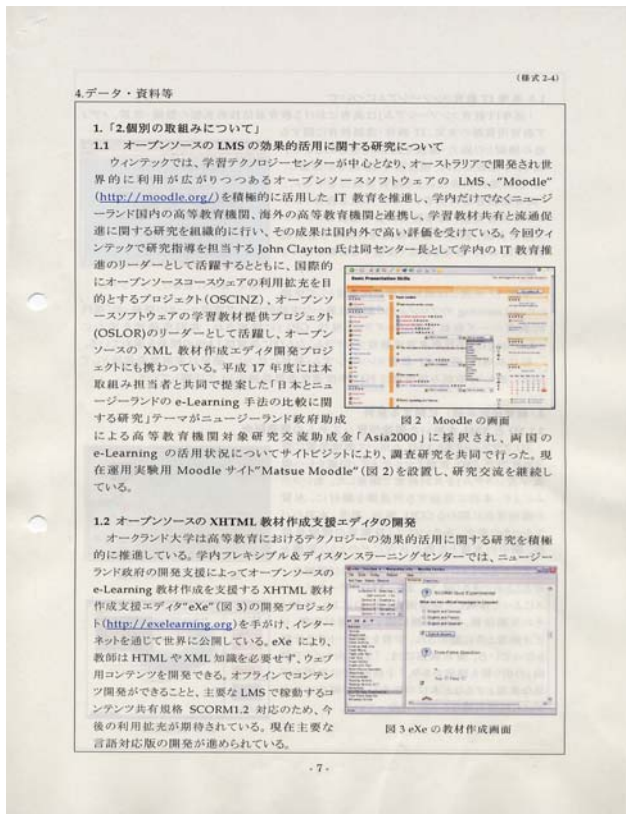
資料 9-1-⑥-2 J

4. 学生の状況および課外活動 Annual Report 2005 専攻科研究業績および受賞者一覧

オン, 平成 18 年 2 月
 三浦由佳: Development of a System for Learning Ecology about Lake Shinji Constructed by Java3D, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 三島由莉: JPEG データの周波数成分による特徴抽出法の提案, 第 5 回しまね新技術創出セミナーポスターセッション, 平成 18 年 2 月
 受賞
 高橋秀祐, 中田圭亮: 情報部門 佳作
 第 4 回キャンパスベンチャーグランプリ CHUGOKU (平成 17 年 12 月)
 根波康博: 研究発表賞
 日本経営工学会中国四国支部学生研究発表会 (平成 18 年 3 月; 近畿大学)
 野畑眞伍: 研究発表賞
 日本経営工学会中国四国支部学生研究発表会 (平成 18 年 3 月; 近畿大学)

(出典 Annual Report 2005)

資料 9-1-6-3 A



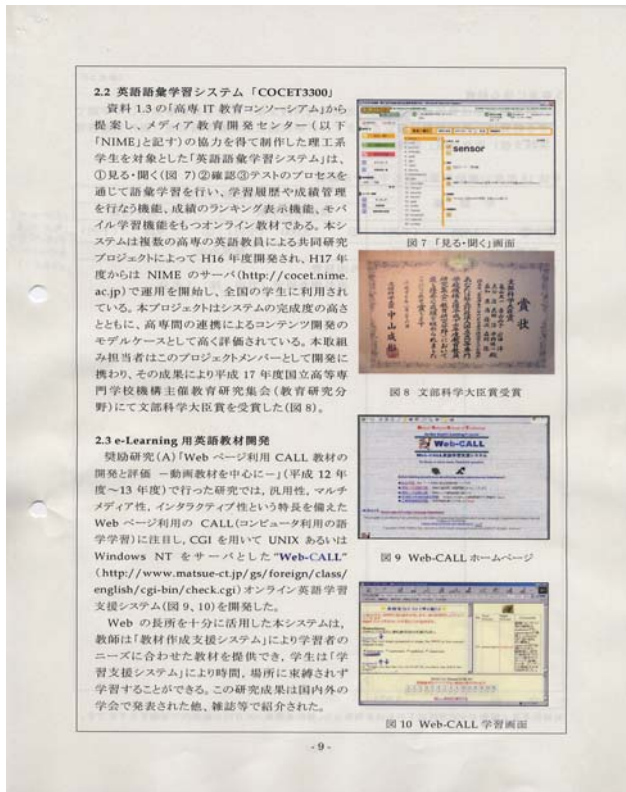
(出典 H18 国際化推進プログラム申請書)

資料 9-1-6-3 B



(出典 H18 国際化推進プログラム申請書)

資料 9-1-6-3 C



(出典 H18 国際化推進プログラム申請書)

(分析結果とその根拠理由)

教員個々における専門分野の研究活動，専攻科特別研究における学生を交えた研究活動，外部からの依頼による受託研究・共同研究等の研究活動それぞれの研究成果が，本校の教育方法，授業内容の改善及び新規テーマ創出に繋がっている。

教員アンケート（前掲 資料 1-2-①-7）の質問事項中，「研究活動が教育の質の改善に寄与していると思いますか。」についての集計結果をみると，49名の回答のうち「思う」と回答した者38名，「思わない」と回答した者10名，無答者1名となっている。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて，組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

本校は教員の資質向上を図るとともに，教育改善を審議・実行するために「松江工業高等専門学校FD委員会規則」を制定している。（資料 9-2-①-1）

FD委員会は，FD活動が円滑かつ体系的に実効あるものとして運用されるように次のような手順書を定めている。（資料 9-2-①-2 A～G）また，作業のスムーズに実施できるように年間FDプログラム表を作成している。（資料 9-2-①-3）

- (1) 授業点検手順書
- (2) 授業アンケート実施・集計手順書
- (3) 公開授業実施手順書
- (4) 成績資料提出手順書
- (5) FDプログラム見直し手順書
- (6) 要望・苦情処理手順書

なお，各授業担当教員は，授業点検教員の点検を受けた試験問題，成績算出根拠資料詳細等の資料を提出することになっており，厳正で客観的な達成度評価となっている。また，本科ではほとんどの授業で中間試験が実施されており，全教員が参加する試験成績検討会で達成度の点検がなされるシステムとなっている。さらに学科でも当該学科に所属する学生の間試験の状況を把握するようにしている。

資料 9 - 2 - ① - 1

松江工業高等専門学校 F D 委員会規則

平成 16 年 6 月 1 日 制 定

平成 18 年 4 月 1 日 最終改正

(目的)

第 1 条 松江工業高等専門学校の教員の資質向上を図るとともに、教育改善に関する事項を審議するため、F D 委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 授業改善及び学力向上につながる方策の検討に関する事
- 二 シラバス、講義、実験、実習、試験、成績評価の評価、審査、改善に関する事。
- 三 J A B E E 認定、外部評価及び第三者評価に際して、前二号の対応に関する事。
- 四 学生による授業評価に関する事。
- 五 授業公開及び教員相互による授業参観に関する事。
- 六 各種研修会に関する事。
- 七 その他必要な事項に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 一般科目及び各学科の代表委員
- 三 学生課長

2 前項第二号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任の期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、校長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第 5 条 委員会に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、副校長(教務主事)が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 6 月 1 日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料9-2-①-2 A

松江高専FD運用マニュアル

2004/2/22	制定
	改訂

1. この「松江高専FD運用マニュアル」は、松江高専のFD活動が円滑かつ体系的に実効あるものとして運用されるように定めるものである。
2. この「松江高専FDマニュアル」とそれに付随する各手順書は、松江高専の教職員・学生・保護者に公開され、「松江高専FD見直し手順書」に従って年度ごとに見直しされなければならない。
3. 松江高専のFD活動の運用とそれに付随する手順は、Plan（計画）→Do（実行）→Check（点検）→Action（見直し）の流れに沿ったものでなければならない。
4. 松江高専のFD活動は、次の点を満たすように実行されなければならない。
 - ア) FD委員長は年間のFDプログラムを策定し、「松江高専FDプログラム表」として年度当初の教員会議で配布する。FDプログラム表にはイ) からク) までの事項を必ず掲載するものとする。
 - イ) すべての授業に「授業点検教員」を設ける。学科長は、各授業の「授業点検教員」を学科のFD委員に報告する。FD委員長は「授業点検教員登録簿」を作成し、インナーweb上に公開する。「授業点検教員」の責務と権限は「授業点検手順書」に定める。
 - ウ) 学期に1回授業アンケートを実施し、インナーweb上に公開する。授業アンケートの実施手順は、「授業アンケート実施手順書」に定める。「授業アンケート用紙」「授業アンケート集計用紙」の様式は別に定める。
 - エ) 1から3学年においては授業アンケートとは別途に、「FDチェックシート」により学生からの授業点検・観察を継続的に行い、一週間ごとにその結果をクラスに掲示する。「FDチェックシート」の様式は別に定める。
 - オ) 年に1回保護者参観日を設け、実施する。
 - カ) 学期に1回公開授業を実施し、批評会を開催する。公開授業と批評会の実施手順は、「公開授業実施手順書」に定め、「公開授業実施計画書」を作成するものとする。「公開授業参観報告書」「公開授業実施報告書」の様式は別に定める。
 - キ) 成績評価の資料は、主要なものを提出しなければならない。資料提出の手順は、「資料提出手順書」に定める。「資料提出チェック用紙」の様式は別に定める。
 - ク) FDプログラムの見直しは、毎年度末に行わなければならない。見直しの手順は、「FDプログラム見直し手順書」に定める。
 - ケ) 学生・保護者等からの授業に対する要望や要求に対しては、速やかに対応し、FD委員長が必要と認めたものに対しては、授業の特別視察を行う。要望や要求の対応手順は、「授業に対する要望・苦情処理手順書」に定める。「授業改善要求書」「特別視察報告用紙」の様式は別に定める。
5. 「松江高専FDマニュアル」とそれによって作成される手順書、関連する文書は、ファイル名の最初に「04_08」のように年度・月を付し、文書の改訂が記録されなければならない。

手順書:「FDプログラム見直し手順書」「授業点検手順書」「公開授業実施手順書」
「資料提出手順書」「要望・苦情処理手順書」

関連する文書:「松江高専FDプログラム表」「授業アンケート用紙」「授業アンケート集計用紙」
「授業視察報告書」「公開授業実施計画書」「公開授業参観報告書」「公開授業実施報告書」
「シラバス様式」「資料提出チェック用紙」「意見・要望・苦情報告書/回答書」
「授業特別視察報告書」「授業点検教員登録簿」「第三者評価受審用資料のファイルの付け方」

資料 9 - 2 - ① - 2 B

授業点検手順書

2004/2/22	制定
	改訂

1. すべての授業に「授業点検教員」を設ける。「授業点検教員」は、対象の授業の担当教員以外の同一学科の教員があたる。ただし、同一シラバスの授業を複数の教員で実施している場合で、他に「点検教員」の適任者が得られない場合は、授業担当教員の一人を「授業点検教員」としてもよい。
2. 学科長は、各授業の「授業点検教員」を選任し、FD委員長に報告する。FD委員長は、「授業点検教員登録簿」を作成し、インナーweb上に公開する。
3. 授業点検教員は、対象の授業と授業担当教員に対して以下の点検を行い、助言を与えるものとする。
 - ア) 「シラバス様式」に従ってシラバスが作成されているか、具体的に記述されているか、到達目標が客観的に計ることができるようなものかを点検する。「シラバス様式」は、別途FD委員会で定める。
 - イ) 定期試験問題をシラバスの内容と照合し、問題の適合性を点検する。(試験問題作成教員は、問題作成、問題点検の教員名を適合とされた試験問題に明記する。)
 - ウ) 対象の授業担当教員の授業を視察する。視察の報告は、当該授業の「授業アンケート集計用紙」の「視察コメント欄」に記入することで行うものとする。「授業アンケート集計用紙」の様式は、別途FD委員会で定める。
 なお、一授業の視察をもって他の授業の視察を行ったことにしてもよい。
 また、授業点検教員が授業視察を行えない場合は、他の教員を指名して代行させなければならない。
 この場合も、一授業の視察をもって他の授業の視察を行ったことにしてもよい。
 - エ) 対象の授業の「授業アンケート」の集計を行い、「授業視察コメント」を記入し、FD委員を通してFD委員長に報告する。「授業アンケート」の実施手順は、別途「授業アンケート実施・集計手順書」に定める。「授業アンケート用紙」の様式は、別途FD委員会で定める。
 - オ) 対象の授業の成績資料を「資料提出チェック用紙」に従って点検する。

関連する手順書:「授業アンケート実施・集計手順書」

関連する文書:「授業点検教員登録簿」「シラバス様式」「授業視察コメント記入用紙」

「授業アンケート用紙」「授業アンケート集計用紙」「資料提出チェック用紙」

資料 9-2-①-2 C

授業アンケート実施・集計手順書

2004/2/22	制定
	改訂

1. 授業アンケートは学期に 1 回実施する。
2. 授業アンケートは、原則として最終授業時に授業担当教員が実施する。
3. 授業アンケートは、教員の授業の仕方、学生の取り組み、授業への満足度、シラバスに書かれた目標に対する到達度を点検する項目を含まなければならない。また、原則として教員個々の授業に対するアンケートでなければならない。同一授業を複数の教員で実施したり、習熟度別授業を行ったりしている場合でも、教員が特定できるようにしなければならない。「授業アンケート」の様式は、別途 F D 委員会で定める。
4. 授業アンケートの集計は、授業点検教員が行う。授業点検教員は、「授業アンケート集計用紙」に所定の事項と「授業視察コメント」を記入し、F D 委員を通して F D 委員長に報告する。「授業アンケート集計用紙」の様式は、別途 F D 委員会で定める。
5. 授業担当教員は、F D 委員長より示された「授業アンケート集計用紙」の内容に対して自己点検を行い、コメントを所属学科の F D 委員を通して F D 委員長に提出する。
6. F D 委員長は、授業担当教員のコメントを「授業アンケート集計用紙」に追加し、インナーweb上に公開する。

関連する手順書: 授業点検手順書

関連する文書: 「授業アンケート用紙」「授業アンケート集計用紙」「授業視察コメント記入用紙」

資料 9-2-①-2 D

公開授業実施手順書

2004/2/22	制定
	改訂

1. すべての教員は、3年に1回以上公開授業を行い、授業の点検を受けなければならない。
2. 学科長は、前項を満たすように配慮し、学期ごとに2名の教員を指名し、公開授業の計画を立て、「公開授業実施計画書」をFD委員長に提出する。「公開授業実施計画書」の様式は、別途FD委員会で定める。
3. FD委員長は、「公開授業実施計画書」を教職員に公開する。
4. 公開授業は、他学科の教員にも公開されなければならない。
5. すべての教員は、学期に1回以上公開授業を参観し、速やかに「公開授業参観報告書」に記入し、所属学科のFD委員を通してFD委員長に提出する。「公開授業参観報告書」の様式は、別途FD委員会で定める。
6. 各学科のFD委員は、公開授業の批評会を開催する。
7. 公開授業を行った教員は、「公開授業参観報告書」と批評会での意見をもとに「公開授業実施報告書」を所属学科のFD委員を通してFD委員長に提出する。「公開授業実施報告書」の書式は、別途FD委員会で定める。
8. FD委員長は、「公開授業参観報告書」、「公開授業実施報告書」をインナーweb上に公開する。

関連する文書:「公開授業実施計画書」「公開授業参観報告書」「公開授業実施報告書」

資料 9 - 2 - ① - 2 E

成績資料提出手順書

2004/2/22	制定
	改訂

1. 授業の成績資料は、評価の客観性・公正さを証明するために、すべて提出することを原則とする。
2. 提出する資料は、JABEE 受審用と第三者評価受審用に分けて提出する。
JABEE 受審用の資料は、紙の資料で提出する。
第三者評価受審用の資料は、電子化されたファイルで提出する。
3. JABEE 受審用に提出する資料は、次の通りとする。
 - ① 教科書（配布資料・実験指導書も含む）
 - ② シラバス
 - ③ 最終成績表
 - ④ 成績評価詳細（最終成績の計算式がわかるもの）
 - ⑤ 定期試験問題（配点の明記されたもの）、60点台の答案すべて（60点台がない場合は、最低レベルの答案2部）
 - ⑥ 模範解答
 - ⑦ 実験実習、卒研、特別研究レポート（優れたレポート1部）。実験実習、卒研、特別研究（全てのレポートを箱に）
 - ⑧ 卒業研究、特別研究コンタクトタイム表
 - ⑨ 小テスト・レポート等（問題の内容、実施日資料）。小テスト・レポート等（提出状況、得点資料）。小テスト・レポート（典型的な解答2通）
 - ⑩ 作品等（実物または写真）
 - ⑪ その他（60点台評価の資料）。その他（20%を超える配分をした資料）
 - ⑫ 授業評価
4. 第三者評価受審用に提出する資料は、次の通りとする
 - ① シラバス
 - ② 最終成績表
 - ③ 成績評価詳細（最終成績の計算式がわかるもの）
 - ④ 定期試験問題（配点の明記されたもの）、定期試験全答案
 - ⑤ 模範解答
 - ⑥ 実験実習、卒研、特別研究レポート（優れたレポート1部）
 - ⑦ 卒業研究、特別研究コンタクトタイム表
 - ⑧ 小テストの解答全て・全てのレポート等
 - ⑨ 作品等
 - ⑩ その他（全ての資料）。その他（20%を超える配分をした資料全て）
 - ⑪ 授業評価
5. 第三者評価受審用提出資料のファイル名の付け方は、別途定める「第三者評価受審用資料のファイルの付け方」に従う。
6. 授業担当教員は提出する成績資料をそろえ、「資料提出チェック用紙」の自己点検欄に点検結果を記入し、授業点検教員に提出する。「資料提出チェック用紙」の様式は別途FD委員会で定める。
7. 授業点検教員は、「資料提出チェック用紙」の点検教員点検欄に点検結果を記入し、所属学科のFD委員に提出する。

資料 9 - 2 - ① - 2 F

8. FD委員は、「資料提出チェック用紙」のFDチェック欄に点検結果を記入し、FD委員長に提出する。
9. FD委員長は、提出された資料に重大な不備がある場合、再提出を要求できる。

関連文書:「第三者評価受審用資料のファイルの付け方」「資料提出チェック用紙」

FDプログラム見直し手順書

2004/2/22	制定
	改訂

1. 松江高専FDのプログラムは、毎年度末にFD委員会で見直しを行わなければならない。
2. 年度末以外にも、プログラムの見直しの必要性が生じた場合は、FD委員会が見直しを行う。
3. プログラムの見直しの際には、次の点を考慮するものとする。
 - ア) 授業アンケート結果の向上が見られたか
 - イ) 「松江高専FD運用マニュアル」と各手順書に従って運用され、点検されたか
 - ウ) 各種様式の妥当性
 - エ) FD活動に対する意見
4. プログラムの見直しは、「松江高専FD運用マニュアル」、各手順書、様式すべてにわたって行われなければならない。
5. プログラムの見直しによって改訂された、「松江高専FDマニュアル」、各手順書、様式は、速やかに教職員に周知されなければならない。
6. FD委員長が年間のFDプログラムを策定する際には、プログラムの見直しをふまえなければならない。

関連文書:「松江高専FD報告書」

資料 9 - 2 - ① - 2 G

要望・苦情処理手順書

2004/2/22	制定
	改訂

1. この手順書は、松江高専の授業、HR活動、課外活動、FD活動全般、その他FDが担当すべき学生・保護者・教職員の意見・要望・苦情に対する対応を定めるものである。
2. 教職員は、前項にかかわる意見を受け付けた場合、必ずFD委員またはFD委員長に報告する。
3. 報告を受けたFD委員は、「意見・要望・苦情報告書／回答書」に記入し、FD委員長に報告する。「意見・要望・苦情報告書／回答書」の書式は別途FD委員会で定める。
4. 学生・教職員は、直接「意見・要望・苦情申立書／回答書」に記入し、FD委員長に提出してもよい。「意見・要望・苦情報告書／回答書」の書式は別途FD委員会で定める。
5. FD委員長は、「意見・要望・苦情報告書／回答書」が提出されたら、関係者へのインタビューを行い、必要と認めた場合は授業の「特別視察」を行う。その結果を「特別視察報告用紙」に記入し、「意見・要望・苦情報告書／回答書」と共にインナーweb上に公開する。「特別視察レポート用紙」の様式は別途FD委員会で定める。
6. 1から3年生までの各授業担当教員と学生の対話は、「シャトルカード」を利用するものとする。「シャトルカード」の様式は別途FD委員会で定める。

関連する文書:「意見・要望・苦情報告書／回答書」「特別視察報告用紙」「シャトルカード」

資料 9 - 2 - ① - 3

2005年度 松江高専FDプログラム表 (○:予定、●:実施済み、実施不十分△、実施せず×)

	3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
教員相互	授業点検教員の選定(学科長)	○																								
	FD授業点検教員の登録(FD)	○																								
	授業視察(点検教員)			←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←		
	授業視察レポート提出(点→FD)																									
	公開授業実施計画書(学科長)					○																				
	公開授業(各学科2名)					○																				
	公開授業参観レポート提出(各教員→FD)					○																				
	批評会実施(学科長、議事録必要)																									
	中間試験問題チェック(授→点→授)																									
	中間試験																									
	期末試験問題チェック(授→点→授)																									
	期末試験																									
	シラバス提出(授→点→FD)																									
	シラバスチェック(FD→授)																									
	シラバスアップロード・印刷(授)																									
学生	授業アンケート実施																									
	授業アンケート集計(点)																									
	授業視察コメント記入(点→FD)																									
	授業担当者コメント記入(授→FD)																									
	実力試験・TOEIC																									
	FDチェックシートの集計とフィード																									
	保護者参観																									
	成績資料提出(授→点→FD)																									
	成績資料点検(FD)																									
	FD報告書(前年度)																									
臨時	授業改善要望・要求																									
	特別授業視察																									
	研修会・講演会																									
FD委員会	プログラム、手順書、様式の見直し																									
	プログラム表の策定																									

(出典 FD委員会 作成)

(分析結果とその根拠理由)

教育の質の向上や授業改善にとって必要な評価や研修等がFD委員会により計画され実施されている。学生、教員相互、保護者・第三者等の様々な角度から教育に関する評価を定期的に受けている。また、外部講師による特別講演会等も適宜開催し、常に教員としての意識の高揚と啓発、スキルアップのための活動が適切に行われている。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

本校においては、FD委員会が平成14年度後期に組織され、(規則化は平成16年度)平成12年度から教務委員会が行ってきた学生による授業アンケートの実施とフィードバックを担当することとなった。また、教員相互による授業参観、保護者対象の授業参観、公開授業等を実施し、授業の改善・点検システムに繋げてきた。

平成16年度からは1～3学年の全授業を対象に、授業時間の遵守、授業の分りやすさ、板書・資料の分りやすさ、学生の取組み状況の各項目を、学生(日直者)に点検させるFDチェックシートを実施し、クラス毎に取り纏めた月間の統計結果を開示しフィードバックしている。平成17年度からは、評価の低い項目があった授業全てについて授業担当の教員にも告知することで授業の改善・点検システムに繋げている。

平成17年度からは、全ての授業に授業点検教員を設け、シラバス・試験問題・授業を点検する仕組みとしている。さらに3年に1回以上の公開授業の実施を義務づけ、批評会を実施し報告することで教育の質の向上と継続化を図っている。

教員研修会は、平成17年度より中間試験成績についての分析と対策の検討会を実施している。また、外部から講師を招いてFD研修会も年1回以上実施するようにしている。

(分析結果とその根拠理由)

学生による授業アンケートもさることながら、教員相互によるチェック体制の構築、研修会の内容充実等常に教育の質の向上が継続的に展開できている。

なお、教職員アンケート(前掲 資料1-2-①-7)の質問事項中、「本校のFDが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いていると思いますか。」についての集計結果をみると、76名の回答のうち「思う」と回答した者65名、「思わない」と回答した者11名となっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育の状況を点検・評価するシステムが整備されており、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価が適切に実施できる体制となっている。様々な角度から教育に関する評価を定期的に受けている。常に教員のスキルアップのための活動が適切に行われている。

1～3学年の全授業が学生により「FDチェックシート」を使って行われ、授業担当教員のすばやい軌道修正が可能となっている。卒業生・就職先・運営評議会・産学連携組織・後援会・同窓会など、多様な観点から本校の教育を点検・評価できる体制になっている。

FD活動の円滑かつ体系的な運用はFD委員会を中心に行われ、運用マニュアルを基に教育の質の

向上や授業改善が継続的に行われている。

(改善を要する点)

点検システムや改善システムは比較的近年整備されたものであり、点検・評価の結果をどのように有効に生かしていくのが、今後の課題である。

(3) 基準9の自己評価の概要

教育の状況を点検・評価するシステムが整備されており、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価が適切に実施できる体制となっている。教育の質の向上や授業改善にとって必要な評価や研修等はFD委員会により計画され実施されている。学生、教員相互、保護者・第三者等の様々な角度から教育に関する評価を定期的に受けている。また、外部講師による特別講演会等も適宜開催し、常に教員としての意識の高揚と啓発、スキルアップのための活動が適切に行われている。

学生の要望については、授業アンケートが毎年実施されており、結果は各教員に通知されるとともに、学内Web上に公開している。さらに、第1～3学年の全授業が学生により「FDチェックシート」を使って行われ、授業担当教員に結果を通知し、すばやい軌道修正が可能となっている。また、卒業予定者に対して本校の教育に対する満足度アンケートや評価に対するアンケートなどを実施し、全体的な教育の点検・評価も行っている。

就職先アンケートも実施し、本校の教育に対する評価を点検している。アンケート結果からは概ね肯定的な評価が得られているが、指摘された不満な項目に対する教育方法の改善やカリキュラム改定へどのような形で生かしていくべきなのか、今後の課題である。一部はすでにTOEIC受験の学校行事化や特別学修としての単位認定、情報処理技術者試験を始め各種資格試験の単位認定などを行うことで、学生の学習意欲の向上と共に、社会からの要請を教育へ反映させている。さらに、運営評議会、産学連携組織「松江テクノフォーラム」、保護者で構成される後援会や卒業生で構成される同窓会などからは、各総会等を通じてさまざまな意見を取り入れている。

教員に関する評価は、学生による評価、教員相互による評価、教員による自己評価など多面的に行っている。また、公開授業や公開授業週間での保護者参観、批評会などを通して、自己研鑽に努めている。教員個々における専門分野の研究や学生を交えた研究、あるいは受託研究・共同研究等の活動の成果は、本校の教育方法、授業内容の改善及び新規テーマ創出に繋がっている。

FD活動の円滑かつ体系的な運用はFD委員会を中心に行われている。FD委員会では、授業点検、アンケートなど様々な手順書を定めており、運用マニュアルを基に教育の質の向上や授業改善につとめている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の資産については、文部科学省から出資された土地及び建物・設備等を有している。(資料10-1-①-1)

教育活動等を遂行するために有している資産のうち実験機器等の一部には、経年劣化のため性能が陳腐化したものもあり計画的な機器更新を図る必要がある。また、先端技術を応用した実験教育を実現するための機器の導入も望まれるところである。施設については、校舎の改修、新技術教育研究センターの新営や図書館と総合情報処理センターを統合しメディア教育センターとするなど整備を計画している。(資料10-1-①-2)

また債務に関しては、独立行政法人移行後、従来の国立学校特別会計による予算配分から収支差補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置になり、授業料等の諸収入及び独立行政法人国立高等専門学校機構(以下、「機構」という。)から配分される運営費交付金に基づき、運営の合理化、効率化を図りながら予算を配分し計画的な執行を行っている。(資料10-1-①-3)

資料10-1-①-1

固定資産一覧

区 分		13年度末	14年度末	15年度末	16年度末	17年度末
土 地	面積(m ²)	106,575	106,575	106,575	106,575	106,906
	金額(百万円)	2,481	2,481	2,481	2,664	2,667
建 物	面積(延m ²)	30,717	30,732	32,654	32,690	32,779
	金額(百万円)	2,225	2,239	3,443	2,865	2,611
構築物	金額(百万円)	323	324	304	213	162
雑 船	数量(台)	10	8	9	9	9
	金額(百万円)	2	2	2	1	1
車両運搬具	数量(台)	5	6	6	4	4
	金額(百万円)	13	14	14	4	3
工具器具備品	数量(台)	434	431	634	110	131
	金額(百万円)	857	827	341	118	106

(出典 固定資産一覧)

資料 10-1-①-2		施設整備状況一覧
年 月 日	整 備 状 況	
昭和39年	3月20日	校舎、寄宿舍第1期工事竣工
昭和40年	3月20日	校舎、寄宿舍第2期工事竣工
昭和41年	3月20日	校舎、体育館、寄宿舍第3期工事竣工
	8月31日	運動場、テニスコート、バレーコート等屋外体育施設工事竣工
	11月1日	校地造成、校舎新築竣工式を挙行
昭和42年	3月29日	学校食堂新営工事竣工
昭和43年	3月20日	武道場新営工事竣工
昭和44年	1月7日	寄宿舍、食堂増築工事竣工
	1月31日	敷地造成工事竣工
	2月25日	寄宿舍増築工事竣工
昭和45年	3月25日	生産機械校舎、実習工場増築、寄宿舍増築工事竣工
	10月31日	野球場兼サッカー場新設工事竣工
昭和47年	12月20日	低学年寄宿舍増改築工事竣工
昭和48年	11月16日	図書館新営工事竣工
昭和49年	3月25日	合宿研修施設新営工事竣工
昭和50年	2月27日	電子計算機室新営工事竣工
昭和51年	2月10日	寄宿舍渡廊下新営工事竣工
	3月31日	生活排水処理施設新設工事竣工
昭和53年	3月25日	第二運動場造成工事竣工
	3月30日	共同溝改修工事(第一期工事)竣工
	12月9日	第二体育館新営工事竣工
昭和54年	1月30日	共同溝改修工事(第二期工事)竣工
	10月16日	寄宿舍食堂増築工事竣工
昭和55年	3月25日	校舎増築工事竣工
	12月20日	テニスコート工事竣工
昭和56年	3月20日	福利施設新営工事竣工
昭和58年	3月23日	基幹整備(給水管改修第1期)工事竣工
昭和59年	1月20日	基幹整備(給水管改修第二期)工事竣工
	3月31日	基幹整備(擁壁その他)工事竣工
	12月25日	正門改修工事竣工
昭和61年	3月20日	寄宿舍新営工事竣工
昭和62年	3月16日	電子計算機室増築工事竣工
	3月25日	寄宿舍改修工事竣工
平成3年	3月27日	合併処理施設(三次処理)新設工事竣工
平成6年	2月10日	情報工学科棟新営工事竣工
	8月29日	プール新営(更新)その他工事竣工
平成8年	2月29日	基幹整備(情報ネットワーク)工事竣工
平成14年	1月30日	寄宿舍7号館(女子寮)新営工事竣工
平成16年	3月16日	専攻科棟新営工事竣工
		校舎改修工事(1期)竣工
平成18年	10月31日	寄宿舍3号館耐震改修工事竣工予定
平成19年	1月15日	校舎改修工事(2期)竣工予定

(出典 会計課 作成資料)

資料 10-1-①-3

貸借対照表(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本科目金額
[資産の部]	5,715,162,975	[負債の部]	338,149,174
流動資産	158,033,244	流動負債	197,938,207
現金及び預金	156,585,143	運営費交付金債務	0
現金	0	授業料債務	0
当座預金	0	承継剰余金債務	0
普通預金	156,585,143	預り施設費	0
定期預金	0	預り補助金等	206,070
その他預金	0	預り寄附金	25,278,310
有価証券	0	前受委託研究費等	2,010,000
有価証券	0	前受委託事業費等	0
受取手形	0	短期借入金	0
受取手形	0	1年以内返済予定長期借入金	0
未収学生納付金収入	338,400	未払金	156,853,803
未収学生納付金収入	338,400	未払消費税等	0
棚卸資産	928,763	未払費用	10,318,175
未成研究支出金	928,763	給与	3,590,155
未成事業支出金	0	法定福利費	99,178
貯蔵品	0	賃借料	1,140,509
未収入金	0	水道光熱費	3,422,817
未収入金	0	未払利息	0
前減金	0	その他未払費用	2,065,516
前減金	0	前受金	0
前払費用	67,243	預り金	3,271,849
前払費用	67,243	科学研究費	0
法定福利費	15,453	社労保険料	87,700
未経過賃借料	0	源泉所得税等	2,308,400
未経過保険料	51,790	職員宿舍賃付料	0
未経過支払利息	0	その他預り金	875,749
その他の前払費用	0	前受収益	0
未収収益	0	前受利息	0
未収収益	0	その他前受収益	0
短期貸付金	0	引当金	0
短期貸付金	0	賞与引当金	0
その他の流動資産	113,695	修繕引当金	0
仮払金	0	損害補償損失引当金	0
仮払消費税	0	その他の引当金	0
旅費仮払	0	その他の流動負債	0
立替金	113,695	仮受金	0
その他流動資産	0	その他の流動負債	0
徴収不能引当金	0	固定負債	140,210,967
徴収不能引当金	0	資産見返負債	140,210,967
貸倒引当金	0	資産見返運営費交付金等	78,769,350
貸倒引当金	0	資産見返授業料	78,769,350
固定資産	5,557,129,731	資産見返補助金等	0
有形固定資産	5,556,333,469	資産見返寄附金	2,434,134
建物	3,084,263,602	資産見返物品受贈額	4,628,650
建物	2,068,517,900	建設仮勘定見返運営費交付金等	46,183,123
建物附属設備	1,015,745,702	建設仮勘定見返授業料	0
建物減価償却累計額	-473,441,636	建設仮勘定見返施設費	0
構築物	289,355,297	建設仮勘定見返補助金等	7,749,000
構築物減価償却累計額	-127,440,124	建設仮勘定見返寄付金	0
機械装置	0	特許権仮勘定見返運営費交付金等	0
機械装置減価償却累計額	0	長期預り金補助金等	446,710
船舶	1,567,734	長期預り金寄附金	0
船舶減価償却累計額	-962,575	長期前受委託研究費等	0
車両運搬具	6,517,494	長期前受委託事業費等	0
車両運搬具減価償却累計額	-3,736,981	長期借入金	0
工具器具備品	175,131,297	長期未払金	0
工具器具備品減価償却累計額	-69,286,639	引当金	0
土地	2,666,617,000	退職給付引当金	0
建設仮勘定	7,749,000	追加退職給付引当金	0
その他の有形固定資産	0	その他の引当金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	その他の固定負債	0
無形固定資産	791,299	[資本の部]	5,376,522,060
特許権	0	資本金	6,023,173,100
借地権	0	政府出資金	6,023,173,100
実用新案権	0	その他出資金	0
意匠権	0	資本剰余金	-646,651,040
ソフトウェア	0	資本剰余金	16,329,710
電話加入権	216,000	資本剰余金施設費	13,796,710
その他の無形固定資産	0	資本剰余金運営費交付金	0
著作権	0	資本剰余金授業料	0
特許権仮勘定	575,299	資本剰余金補助金等	0
投資その他の資産	4,963	資本剰余金寄附金	2,317,000
投資有価証券	0	資本剰余金目的積立金	0
長期貸付金	0	資本剰余金繰上	216,000
長期前払費用	4,963	その他の資本剰余金	0
未収財源措置予定額	0	損益外固定資産除売却差額	-49,354,284
敷金・保証金	0	利益剰余金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	前中期目標期間繰越積立金	0
その他の投資その他の資産	0	目的積立金	0
[本支店勘定]	-491,741	教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	0
[本支店]機構本部	-491,741	目的積立金	0
		目的積立金	0
		目的積立金	0
		積立金	0
		当期末処分利益	0
		繰越欠損金	0
		当期末処理損失	0
		その他の有価証券評価差額金	0
資産科目合計金額	5,714,671,234	負債・資本科目合計金額	5,714,671,234

(出典 平成17年度貸借対照表)

(分析結果とその根拠理由)

平成 16 年 4 月 1 日の独立行政法人化に伴い、旧国有財産台帳記載分の土地、建物、設備については、全て出資金として引き継がれている。

起債は機構が一括して行うため、本校独自の債務はない。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

機構本部から配分される運営費交付金・施設整備費補助金等の確保に加えて、奨学交付金、共同研究、受託研究、科学研究費補助金等の獲得により経常的収入を確保することとしている。自己収入は全国の高専では本校が初めてである ISO14001 の認証取得や学校説明会、外部への積極的な広報活動で本校の特色を進展させることで安定した授業料等の収入を確保しており、また、外部資金についても安定した収入を得ている。(資料10-1-②-1) (資料10-1-②-2) (資料10-1-②-3) (資料10-1-②-4) (資料10-1-②-5) (資料10-1-②-6)

資料 10-1-②-1

収入・支出計画

収入

(単位:千円)

区 分	金 額					
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	計
運営費交付金	1,213,208	1,126,063	1,161,470	1,134,242	1,045,255	5,680,238
施設整備費補助金	19,819	12,123	330,355	0	0	362,297
国立大学財務経営センター施設費交付金	0	14,543	62,050	15,000	15,000	106,593
自己収入	228,298	283,848	286,223	286,000	286,000	1,370,369
授業料及び入学金検定料収入	217,449	272,422	276,578	276,500	276,500	1,319,449
財産処分収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	10,849	11,426	9,645	9,500	9,500	50,920
産学連携等研究収入及び寄付金収入	59,564	50,417	53,360	53,360	53,360	270,061
今年度収入額	40,908	27,776	27,000	27,000	27,000	149,684
前年度繰越額	18,656	22,641	26,360	26,360	26,360	120,377
計	1,520,889	1,486,994	1,893,458	1,488,602	1,399,615	7,789,558

支出

区 分	金 額					
	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	計
業務費	1,441,506	1,409,910	1,447,693	1,420,242	1,331,255	7,050,606
教育研究経費	1,298,107	1,296,913	1,335,804	1,309,472	1,221,592	6,461,888
一般管理費	143,399	112,997	111,889	110,770	109,663	588,718
施設整備費	19,819	26,666	392,405	15,000	15,000	468,890
産学連携等研究経費及び寄付金事業	59,564	50,418	53,360	53,360	53,360	270,062
今年度事業費	36,923	24,058	27,000	27,000	27,000	141,981
次年度繰越額	22,641	26,360	26,360	26,360	26,360	128,081
計	1,520,889	1,486,994	1,893,458	1,488,602	1,399,615	7,789,558

注)平成16年度の運営費交付金に前倒徴収分の授業料を含む

注)入学料には翌年度入学生入学料免除分を含む

注)教育研究費には人件費を含む

(出典 収入・支出計画)

資料10-1-②-2 A

平成17年度 中学校主催の進学説明会の予定と本校出席教員

月日	曜日	中学校名	時間帯	時間	出席教員	昨年の出席教員
6月16日	木曜日	出雲南中	11:00-11:20	20	高橋信雄	高橋信雄
		浜田一中	11:50-12:10	20	山根繁樹	高田龍一
		出雲一中	13:50-14:10	20	松井秀宣	昨年なし
		本庄中	14:50-15:10	20	和田守美穂	鳥谷智文
6月20日	月曜日	大社中	9:25-10:00	35	高橋信雄	昨年なし
6月21日	火曜日	温泉津中	11:20-11:40	20	大屋 誠	昨年なし
		大東中	15:15-15:30	15	高見昭康	衣笠保智
6月22日	水曜日	瑞穂中	10:20-10:35	15	鳥谷智文	渡部 徹
		旭丘中	午後	・	原 元司	岩田 淳
6月23日	木曜日	浜田二中	9:30-10:00	30	高橋信雄	高橋信雄
		湖南中	12:40-13:00	20	岩田 淳	村上 享
		隠岐島後	午後	30	河原健次	河原健次
		伯太中	14:20-14:35	15	渡部 徹	松井秀宣
6月24日	金曜日	隠岐島前	午前	30	河原健次	河原健次
		湖東中	10:30-10:50	20	岩田 淳	大屋 誠
		浜田三中	11:15-11:35	20	衣笠保智	昨年なし
		宍道中	14:30-14:50	20	藤岡美博	松本浩介
		東出雲中	15:10-15:30	20	高田龍一	森田正利
6月29日	水曜日	邑智中	11:10-11:30	20	今尾浩也	昨年なし
		松江二中	12:20-12:40	20	村上 享	箕田充志
6月30日	木曜日	河南中	10:20-10:40	20	山根繁樹	別府俊幸
		浜山中	午後	・	藤岡美博	別府俊幸
7月1日	金曜日	安来二中	10:50-11:10	20	衣笠保智	原 元司
7月4日	月曜日	斐川東中生徒	来校9:00-10:00	60	広報委員会	
		松江四中	13:30-13:50	20	森田正利	大屋 誠
		仁多中	14:35-14:50	15	松本浩介	昨年なし
7月5日	火曜日	広瀬中	10:10-10:30	20	村上 享	山根繁樹
		安来一中	14:15-14:30	15	森田正利	村上 享
7月7日	木曜日	鹿島中	11:25-11:45	20	大屋 誠	山根繁樹
		大和中	11:40-12:00	20	高橋信雄	藤岡美博
		島根中	11:40-12:00	20	山根繁樹	渡部 徹
		松江三中	14:30-14:50	20	山根繁樹	鳥谷智文
		玉湯中	13:45-14:05	20	高尾 学	高尾 学
		加茂中	16:00-16:20	20	高尾 学	堀内 匡
7月8日	金曜日	八雲中	9:10-9:30	20	別府俊幸	高橋信雄
		木次中	10:40-11:00	20	別府俊幸	山崎真克
		附属中	13:30-13:40	10	鳥谷智文	森田正利
7月12日	火曜日	安来三中	12:30-12:50	20	大屋 誠	原 元司
		美保関中	13:40-13:55	15	衣笠保智	衣笠保智
7月13日	水曜日	松江一中	15:00-15:15	15	村上 享	松本浩介
9月6日	火曜日	光中	14:00-14:30	30	和田守美穂	高橋信雄
		台風の為中止				

9月29日	木曜日	美都中 真砂中	14:00-14:20	20	高尾 学	昨年なし
9月30日	金曜日	八束中 湖北中	11:30-11:50 11:50-12:05	20 15	高橋信雄 山根繁樹	堀内 匡 高尾 学
10月5日	水曜日	斐川東中	13:00-13:25	25	村上 享	昨年なし
10月6日	木曜日	平田中保護者	来校9:00-10:00	60	山根・高橋	・
10月21日	金曜日	出雲三中	12:10-12:35	25	藤岡美博	福間真澄
10月25日	火曜日	斐川西中	14:45-15:15	30	高橋信雄	山崎真克

(出典 広報委員会 資料)

資料 10-1-②-2 B

公開講座 Extension lectures

◎ 平成17年度実施状況 2005 enforcement condition

No.	講座名 Course Name	対象 Participants	開講期間 Period	参加人数 Number
1	CALS/ECのためのIT講習会	市民一般	9/5, 9/16	23
2	機械工作法における金属加工技術	市町村職員	12/2	5

学校開放事業 Wider Community Access to College

◎平成17年度実施状況 2005 enforcement condition

No.	事業名 Project Name	対象 Participants	開講期間 Period	参加人数 Number
1	小・中学生のためのロボット工作	小学生	7/18	91
		中学生		10
2	中学生のための電子工作 ～光センサーを使った自動走行ロボット～	小学生	7/23	7
		中学生		5
3	チャレンジ！電子工作	中学生	8/9～11	22
4	作って遊べるロボット工作 ～マイコンを使った自走ロボット～	中学生	8/12	10
5	竹とんぼを作って飛行機が飛ぶわけを学ぼう	小学校高学年	8/20	14
6	金属加工に挑戦しよう！	小学校高学年	8/20	14
7	手作りメカ工房「ミニロボコンにチャレンジ」	小学校高学年	8/22～24	20
8	メカニクス・レボリューションズ3 ～町の鍛冶屋・たたいて作ろうレターオープナー～	小学校高学年	11/20	4
		中学生		
9	メカニクス・レボリューションズ4 ～”ウルトラライトプレーン”を作ろう～	小学校高学年	11/20	4
		中学生		

出張授業, 出展・展示 Tutor Pupils at their homes, Exhibition

◎平成17年度実施状況 2005 enforcement condition

No.	出展内容 Exhibition	期日 Dates	展示会名 Name of Exhibition
1	親子で紙製の橋を製作	7/17	生馬小親子活動
2	風力・波カタービン展示, ロボコンマシン展示	8/6・7	島根エネルギーフェスタ(くにびきメッセ)
3	紙ブーメラン作成教室, 目玉のおやじ(自動追尾カメラ)展示	8/5・6	青少年のための科学の祭典(出雲科学館)
4	エコランマシン展示, ロボコンマシン展示, プロコン作品展示	8/20	松江市ペットボトルロケット大会(松江市宮陸上競技場)
5	ロボコンマシン実演, 各学科研究パネル展示	10/2	環境フェスティバルin はまだ(島根県立大学)
6	ロボコンマシン実演	10/8	松江市子ども遊びのフェスティバル(松江市総合体育館)
7	エコランマシン展示, 立上り介助システム展示	11/5・6	中海ものづくりフェスタ(くにびきメッセ)
8	紙ブーメラン作成教室, ロボコンマシン展示	11/6	川津小学校ファミリーフェスタ(川津小学校)
9	ロボットコンテスト実演, エコランマシン展示, ロボコンマシン展示, プロコン作品の展示, 立上り介助システム展示, 二足歩行ロボット, 人工筋肉の展示	11/12・13	21世紀出雲産業見本市2005(出雲ドーム)
10	ロボコンマシン展示	11/13	名尾が丘祭り(生馬公民館)
11	ロボコンマシン実演及びパネルディスカッション	12/1	ものづくり・ひとづくり地域フォーラムin島根(ホテル一畑)
12	「トランジスタを使って工作をしよう」(フクロウランプの作成)の実施	12/6	松江市立本庄中学校への出張授業(本庄中学校)
13	可搬設置型モニタリングシステム展示	12/8・9	中国四国ブロック産学官連携ビジネスショウ(岡山県体育館桃太郎アリーナ)
14	ロボコンマシン展示	12/11	松江ボランティアフェスティバル2005(松江市総合福祉センター)



学校開放事業「手作りメカ工房－ミニロボコンにチャレンジ－」 学校開放事業「中学生のための電子工作」

資料 10-1-②-3

民間との共同研究受入状況（平成13年度～平成17年度）

平成13年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(有)アイナス	5,500,000	飛行船自律航行システムの開発
(株)ワコムアイティ	700,000	液晶ペンタブレットを使用したユーザインターフェースの研究
トーワ(株)	400,000	視覚障害者用歩行誘導システムの開発
菱農エンジニアリング(株)	999,600	多目的自動販売機の簡易通信システムの開発
(株)メディアトーク	1,100,000	GPSによる災害情報収集のための研究
(株)メディアトーク	1,000,000	告知放送通信端末の開発
(株)中島製作所	750,000	糸綴じカレンダー製本機の開発(縫い目が表に出ないカレンダー仕様)
合 計	10,449,600	

平成14年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(有)ハートフル・ウィング	600,000	副音声と映像を同期させるための速度調整装置の開発
清和鐵工(株)	150,000	精密小型歯車へのホーニング加工法の適用
アイム(株)	1,000,000	「Web教材配信システム」の開発
合 計	1,750,000	

平成15年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(株)ツチヨシ産業	1,000,000	コンクリートに対する鑄造ダストの影響研究
(株)日西テクノプラン	500,000	クサビ型アンカーの開発
合 計	1,500,000	

平成16年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(株)ミシマ	250,000	生物脱臭を用いたエネルギー循環型臭気分解装置の開発に関する研
だんだん	200,000	インターネットを用いたヴァーチャル建築システムの開発
(株)創生館	200,000	機械振動エネルギー回収技術の開発(その基礎的理論的研究)
(株)創生館	200,000	機械振動エネルギー回収技術の開発(その実用化研究)
(株)イズコン	300,000	発泡廃ガラス粉体の有効活用に関する研究
(株)コスモブレイン	210,000	交通量自動カウントシステムの開発
大福工業(株)	1,000,000	廃石膏を利用した人工砂のコンクリート骨材としての有効利用の検討
(株)環境保全サービス	210,000	ガラスレットの処理方法がモルタルの性能に及ぼす影響に関する研究
豊橋技術科学大学	400,000	豊橋技科大卒業高専教員と豊橋技科大との連携による技科大・高専の
豊橋技術科学大学	100,000	豊橋技科大と3高専連携による広域WAN対応のグリッドシステムの基
合 計	3,070,000	

平成17年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(有)エヌイーワークス	300,000	蚊発生技術に関する研究
山建プラント(株)	200,000	「エコアス」における舗装厚低減効果の実証
山建プラント(株)	300,000	無機系固化材の開発
松江土建(株)	3,000,000	湖底面検出器システムの開発
(株)BEC	250,000	「加圧遠心ポンプ」の開発
たてぬい建設事業(協)	525,000	鑄物系副産物のレディーミクストコンクリートへの適応性についての研究

㈱ツチケン	1,000,000	廃瓦を骨材としたコンクリート二次製品の研究開発
㈱海洋生物栽培センター	100,000	貝類の冷凍前処理技術の開発
島根県	636,450	監視システム用太陽光発電システムの開発
浜田化学㈱	250,000	廃棄食用油脂燃料の燃焼特性に関する研究
㈱計画技術研究所松江事務所	200,000	AM情報伝達装置の電力消費に関する研究
合 計	6,761,450	

(出典 会計課 作成資料)

資料 10-1-②-4

受託研究受入状況（平成13年度～平成17年度）

平成13年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
石見神代神楽上府社中	130,000	石見神楽演目「大江山」で用いる大蜘蛛のリモートコントロール化
関西ティー・エル・オー(株)	1,060,500	多糖類繊維材料ならびに多糖類-アパタイトハイブリッドの分子設計
マツダ(株)	195,000	ギャホーニングの噛合いシミュレーションに関する研究
(独)産業技術総合研究所	500,000	各種セラミックスの誘電特性に関する研究
合 計	1,885,500	

平成14年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
関西ティー・エル・オー(株)	673,050	多糖類繊維材料ならびに多糖類-アパタイトハイブリッドの分子設計
(財)しまね産業振興財団	19,900,000	可搬型定点水質環境モニタリングシステムの開発
合 計	20,573,050	

平成15年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(財)しまね産業振興財団	18,028,000	可搬型定点水質環境モニタリングシステムの開発
三重県	332,000	環境動態シミュレーションモデルの開発
(財)しまね産業振興財団	1,090,000	環境計測のための水面上定位置停止制御システムの開発
(財)しまね産業振興財団	1,100,000	可変ピッチ案内羽を有する波力発電用ラジアルタービンの開発
合 計	20,550,000	

平成16年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
(財)しまね産業振興財団	17,012,000	可搬型定点水質環境モニタリングシステムの開発
三重県	350,000	環境動態シミュレーションモデルの開発
(財)しまね産業振興財団	1,100,000	閉鎖性水域における湖水の流動特性を利用した水質改善システムの提
(財)しまね産業振興財団	1,300,000	環境に優しい河川用小型浚渫装置の開発
(財)しまね産業振興財団	1,500,000	ICタグによる冷凍・解凍技術の開発
(財)しまね産業振興財団	2,400,000	シジミ自動選別装置の開発
合 計	23,662,000	

平成17年度

研究の相手方	受入額(円)	研究 題 目
三重県	350,000	環境動態シミュレーションモデルの開発
(財)しまね産業振興財団	1,500,000	冷凍二枚貝の製造のための前処理装置の開発
(財)しまね産業振興財団	1,500,000	携帯端末を用いたバス利用サポートシステムの開発
(財)しまね産業振興財団	803,250	革新的高含水有機性廃棄物の固液一括処理システムの開発
邑三建設(株)	60,000	モルタル充填鋼管の曲げ強度に関する研究
(財)しまね産業振興財団	1,912,000	いわがきの生育度検査装置の開発
合 計	6,125,250	

(出典 会計課 作成資料)

資料 10-1-②-5

奨学寄附金受入状況（平成13年度～平成17年度）

平成13年度

寄附の相手方	受入額(円)	案 件 名
(財)中部電力基礎技術研究所	1,000,000	箕田充志研究助成金
(株)サンエイエンジニアリング	1,000,000	岡本裕幸研究助成金
(株)ジャパンアウトソーシング	150,000	亀谷均研究助成金
第一コンサルタント(株)	50,000	米村一研究助成金
アイム(株)	300,000	藤井諭研究助成金
(有)福庭鉄工所	50,000	郡原宏研究助成金
(株)ツチケン	500,000	上田・宇野研究助成金
(財)マツダ財団	1,250,000	福間真澄研究助成金
(財)日本建設情報総合センター	2,000,000	高田龍一研究助成金
(株)ジャパンアウトソーシング	150,000	亀谷均研究助成金
セントラルコンサルタント(株)	500,000	浅田純作研究助成金
堀内 匡	250,000	堀内匡研究助成金
清和鉄工(株)	75,000	和田守美穂研究助成金
合 計	7,275,000	

平成14年度

寄附の相手方	受入額(円)	案 件 名
(財)中国電力技術研究財団	200,000	今尾浩也研究助成金
(社)中国建設弘済会	1,942,000	高田龍一研究助成金
(財)松江観光開発公社	2,209,565	別府俊幸研究助成金
(株)竹下技術コンサルタント	300,000	上田・宇野研究助成金
(株)サンエイエンジニアリング	500,000	岡本裕幸研究助成金
清和鐵工(株)	500,000	郡原宏研究助成金
(財)岩谷直治記念財団	500,000	箕田充志研究助成金
(株)ツチケン	500,000	上田・宇野研究助成金
(株)ミック	10,000	利光和彦研究助成金
(有)香川建設	500,000	浜野浩幹研究助成金
藤井 諭	100,000	藤井諭研究助成金
(株)イズコン	200,000	高田龍一研究助成金
日本国土開発・戸田建設共同企業体中電	50,000	浜野浩幹研究助成金
(有)三研テクノクリエイト	200,000	浜野浩幹研究助成金
ヒカワ精工(株)	50,000	坪倉公治研究助成金
(株)アルファ・テン	50,000	技術室研究助成金
(社)日本鉄鋼連盟	400,000	大屋誠研究助成金
(有)イーディオ	350,000	別府俊幸研究助成金
(有)ティーエム二十一	150,000	岡本裕幸研究助成金
具志 孝	20,000	技術室研究助成金
(財)岩谷直治記念財団	1,500,000	箕田充志研究助成金
島根県東部建築試験センター	600,000	浜野浩幹研究助成金
(株)日立製作所	700,000	高尾学研究助成金
合 計	11,531,565	

平成15年度		
寄附の相手方	受入額(円)	案件名
(株)清和鐵工	250,000	川見昌春技官研究助成金
(財)油空圧機器技術振興財団	1,000,000	高尾学研究助成金
(株)竹下技術コンサルタント	300,000	上田・宇野研究助成金
(有)三研テクノクリエイト	200,000	浜野浩幹研究助成金
松井 秀宣	40,000	松井秀宣研究助成金
(有)イーディオ	180,000	別府俊幸研究助成金
黒田 祐一	50,000	黒田祐一研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	藤岡美博研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	箕田充志研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	高尾学研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	堀内匡研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	渡部徹研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	加藤聡研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	浅田純作研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	柴田俊文研究助成金
松江テクノフォーラム	100,000	中村賢仁研究助成金
松江テクノフォーラム	40,000	鳥谷智文研究助成金
松江テクノフォーラム	30,000	山根 繁樹研究助成金
松江テクノフォーラム	30,000	山崎 真克研究助成金
(株)計画技術研究所松江事務所	50,000	小堀 康功研究助成金
(株)計画技術研究所松江事務所	50,000	堀内 匡研究助成金
松江テクノフォーラム	60,000	大屋 誠研究助成金
ヒカワ精工(株)	150,000	渡部 紘一研究助成金
(株)建設技術研究所中部支社	500,000	木村 一郎研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	870,000	松江工業高等専門学校研究助成金
別府 俊幸	200,000	別府俊幸研究助成金
(有)ハートフル・ウィング	280,000	飯塚 育生研究助成金
(社)日本鉄鋼連盟	400,000	大屋 誠研究助成金
(株)イズコン	250,000	高田 龍一研究助成金
アイム(株)	250,000	藤井 諭研究助成金
福岡 久雄	100,000	福岡 久雄研究助成金
小堀 康功	100,000	小堀 康功研究助成金
応用技術(株)	3,000,000	木村 一郎研究助成金
(株)ウエスコ島根支社	50,000	河原 莊一郎研究助成金
堀内 匡	150,000	堀内 匡研究助成金
林 芳信	300,000	大屋 誠研究助成金
合 計	9,780,000	

平成16年度		
寄附の相手方	受入額(円)	案件名
(株)清和鐵工	100,000	技術室研究助成金
アイム(株)	250,000	藤井 諭研究助成金
(株)竹下技術コンサルタント	300,000	宇野・上田研究助成金
(社)日本鉄鋼連盟	400,000	高田龍一研究助成金
(株)サンエイエンジニアリング	200,000	岡本裕幸研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	3,900,000	松江工業高等専門学校教育・研究助成金

(株)ツチヨシ産業	400,000	大屋 誠研究助成金
学生主事 岡本信之	1,462,437	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
山根 繁樹	40,000	山根繁樹研究助成金
松井 秀宣	150,000	松井秀宣研究助成金
高尾 学	167,000	高尾 学研究助成金
松江高専バスケットボールOB会	100,000	森山恭行助成金
アイム(株)	250,000	藤井 諭研究助成金
(株)三研テクノクリエイト	200,000	高田龍一研究助成金
全国高専ロボコン2004中国大会事務局	149,000	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	2,000,000	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
高尾 学	200,000	高尾 学研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	大屋 誠研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	利光和彦研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	箕田充志研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	今尾浩也研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	新野邊幸市研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	堀内 匡研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	福間眞澄研究助成金
松江テクノフォーラム	20,000	亀谷 均研究助成金
松江工業高等専門学校事務部長 大坂	1,161,999	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
別府 俊幸	103,000	別府俊幸研究助成金
山崎 真克	40,000	山崎真克研究助成金
全国高専ロボコン2004中国大会事務局	120,000	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
原 元司	40,000	原 元司研究助成金
(有)岩崎目立加工所	100,000	高見昭康研究助成金
アイム(株)	250,000	藤井 諭研究助成金
全国高専ロボコン2004中国大会事務局	573,000	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
大屋 誠	400,000	大屋 誠研究助成金
全国高専ロボコン2004中国大会事務局	709,494	松江工業高等専門学校教育・研究助成金
本多 将和	50,000	技術室研究助成金
(社)日本鉄鋼協会	200,000	新野邊幸市研究助成金
合 計	14,175,930	

平成17年度

寄附の相手方	受入額(円)	案 件 名
衣笠 保智	105,000	衣笠保智研究助成金
武邊 勝道	400,000	武邊勝道研究助成金
(株)サンエイエンジニアリング	500,000	岡本裕幸研究助成金
高尾 学	100,000	高尾 学研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	1,000,000	松江工業高等専門学校教育研究助成金
宮本 武明	100,000	松江工業高等専門学校教育研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	2,000,000	松江工業高等専門学校教育研究助成金
山建プラント(株)	200,000	高田龍一研究助成金
飯塚 育生	1,340,000	松江工業高等専門学校教育研究助成金
高尾 学	400,000	高尾 学研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	2,700,000	松江工業高等専門学校教育研究助成金
(株)竹下技術コンサルタント	300,000	宇野和男研究助成金
(株)BEC	250,000	高尾 学研究助成金

(有)山陰ネッカリッチ	80,000	門脇 健研究助成金
高尾 学	200,000	高尾 学研究助成金
森山設計事務所 森山 茂	100,000	岡本裕幸研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	400,000	松江工業高等専門学校教育研究助成金
高尾 学	200,000	高尾 学研究助成金
浜田化学(株)	250,000	門脇 健・本間寛己研究助成金
(株)BEC	150,000	高尾 学研究助成金
(株)ウエスコ	500,000	大屋 誠研究助成金
島根県産業教育振興会	35,000	本間寛己研究助成金
岩田 淳	100,000	岩田 淳研究助成金
ウェブロイド	30,000	岡本裕幸研究助成金
松江工業高等専門学校後援会	1,708,000	松江工業高等専門学校課外教育及び教育研究助成金
東原 哲男	30,000	ロボコン大会助成金
源 憲治	710,548	学生支援助成金
ヒカワ精工(株)	1,000,000	機械工学科研究助成金
合 計	14,888,548	

(出典 会計課 作成資料)

資料 10-1-②-6

科学研究費補助金採択状況（平成13年度～平成17年度）

平成13年度

申請	採択	研究代表者	研究種目	研究課題	交付額(円)
36	5	河原庄一郎 (土木工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	土砂斜面上の落石の運動および衝撃力に及ぼす地盤特性の影響	700,000
		福間 眞澄 (電気工学科)	基盤研究(C)(一般)	新エネルギー機器用高温電気絶縁材料の絶縁性能評価装置の開発	1,000,000
		岩田 淳	奨励研究(A)	Webページ利用CALL教材の開発と評価	500,000
		箕田 充志	奨励研究(A)	極低温領域の固体/冷媒界面における放	1,500,000
		渡部 徹 (情報工学科)	奨励研究(A)	ニューラルネットワークを用いた点字翻訳システムの構築	1,900,000
合 計					5,600,000

平成14年度

申請	採択	研究代表者	研究種目	研究課題	交付額(円)
40	10	金子大二郎 (土木工学科)	基盤研究(B)(一般)	水ストレス下の水稻生育の分光スペクトル観測室内制御実験と穀物生産指標の開発ー中国・インドの水稻収量の衛星監視法に関する技術開発ー	3,100,000
		福間 眞澄 (電気工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	新エネルギー機器用高温電気絶縁材料の絶縁性能評価装置の開発	700,000
		今尾 浩也 (電子制御工学科)	基盤研究(C)(一般)	超大型Bi系超伝導単結晶を用いた電流密度の向上	1,900,000
		箕田 充志 (電気工学科)	若手研究(B) (継続課題)	極低温領域の固体/冷媒界面における放電特性	700,000
		渡部 徹	若手研究(B)	ニューラルネットワークを用いた点字翻訳シ	300,000
		山崎 真克 (一般人文科学科)	若手研究(B)	顕昭著作を中心とした院政期歌論書・歌合判詞のデータベース化	500,000
		衣笠 保智 (電気工学科)	若手研究(B)	高品質通話を提供する騒音抑圧法の開発	700,000
		堀内 匡 (情報工学科)	若手研究(B)	データマイニング手法の導入による遺伝的アルゴリズム高性能化	1,200,000
		大屋 誠 (土木工学科) *豊橋技術科学大学 で申請	若手研究(B)	粘弾塑性を考慮した鉄筋コンクリートシェル の耐力に関する研究	1,900,000
		岩田 淳 (一般人文科学科)	若手研究(B)	CALLにおける動画WBT教材の効果的な利用	1,000,000
合 計					12,000,000

平成15年度					
申請	採択	研究代表者	研究種目	研究課題	交付額(円)
63	19	金子大二郎 (土木工学科)	基盤研究(B)(一般) (継続課題)	水ストレス下の水稻生育の分光スペクトル観測室内制御実験と穀物生産指標の開発ー中国・インドの水稻収量の衛星監視法に関する技術開発ー	2,100,000
		福岡 眞澄 (電気工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	新エネルギー機器用高温電気絶縁材料の絶縁性能評価装置の開発	800,000
		今尾 浩也 (電子制御工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	超大型Bi系超伝導単結晶を用いた電流密度の向上	900,000
		藤井 諭 (情報工学科)	基盤研究(C)(一般)	地方素材を生かした歴史・環境学習支援システムの開発と評価	1,300,000
		高橋 信雄 (電子制御工学科)	基盤研究(C)(一般)	高調波を抑制する電力変換機器の開発	800,000
		亀谷 均 (電子制御工学科)	基盤研究(C)(一般)	往復流タービンを用いた新型往復流対応流量計の研究開発	1,300,000
		山崎 真克 (一般人文科学科)	若手研究(B) (継続課題)	顕昭著作を中心とした院政期歌論書・歌合判詞のデータベース化	400,000
		齋藤 明德 (機械工学科) * 東京農工大学で申請	若手研究(B)	5軸制御マシニングセンタの運動精度測定方法の開発	1,700,000
		衣笠 保智 (電気工学科)	若手研究(B) (継続課題)	高品質通話を提供する騒音抑圧法の開発	600,000
		堀内 匡 (情報工学科)	若手研究(B) (継続課題)	データマイニング手法の導入による遺伝的アルゴリズム高性能化	1,100,000
		木村 一郎 (土木工学科) * 四日市大学で申請	若手研究(B)	良好なワンド環境創出のための水制設置法に関する水理学的研究	600,000
		大屋 誠 (土木工学科)	若手研究(B) (継続課題)	粘弾塑性を考慮した鉄筋コンクリートシェル の耐力に関する研究	500,000
		岩田 淳 (一般人文科学科)	若手研究(B) (継続課題)	CALLにおける動画WBT教材の効果的な利用	900,000
箕田 充志 (電気工学科)	若手研究(B)	極低温電気絶縁に与える冷媒流動と電荷蓄積現象	1,400,000		
内村 和弘 (技術室)	奨励研究	自動ドアを使ったマイコン制御実験用教材の開発および試作	240,000		

	岡田 康 (技術室)	奨励研究	ホストファイアウォールによるセキュアなメールサーバの構築	240,000
	具志 孝 (技術室)	奨励研究	微風で高い電圧を発生可能な風力発電機作成	160,000
	小松原祐二 (技術室)	奨励研究	廃瓦の「コンクリート用骨材」としての適合性に関する検討実験	240,000
	福田 恭司 (技術室)	奨励研究	産業廃棄物を利用した軟弱地盤の安定処理	240,000
合 計				15,520,000

平成16年度

申請	採択	研究代表者	研究種目	研究課題	交付額(円)
64	16	金子大二郎 (環境・建設工学科)	基盤研究(B)(一般) (継続課題)	水ストレス下の水稻生育の分光スペクトル観測室内制御実験と穀物生産指標の開発ー中国・インドの水稻収量の衛星監視法に関する技術開発ー	700,000
		福間 真澄 (電気工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	新エネルギー機器用高温電気絶縁材料の絶縁性能評価装置の開発	500,000
		藤井 諭 (情報工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	地方素材を生かした歴史・環境学習支援システムの開発と評価	1,600,000
		高橋 信雄 (電子制御工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	高調波を抑制する電力変換機器の開発	500,000
		亀谷 均 (電子制御工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	往復流タービンを用いた新型往復流対応流量計の研究開発	700,000
		木村 一郎 (環境・建設工学科)	基盤研究(C)(一般)	閉鎖性水域にける流動と水質の定量予測に向けての数値解析モデルの最適化	1,100,000
		河原 荘一郎 (環境・建設工学科)	基盤研究(C)(一般)	土砂斜面上の落石の運動および衝撃力に及ぼす地盤条件の影響	700,000
		利光 和彦 (機械工学科)	基盤研究(C)(一般)	衝撃風洞を用いた超音速燃焼流れのPIV計測に関する研究	2,800,000
		堀内 匡 (情報工学科)	若手研究(B) (継続課題)	データマイニング手法の導入による遺伝的アルゴリズム高性能化	1,100,000
		大屋 誠 (土木工学科)	若手研究(B) (継続課題)	粘弾塑性を考慮した鉄筋コンクリートシェル の耐力に関する研究	600,000
		岩田 淳 (一般人文工学科)	若手研究(B) (継続課題)	CALLにおける動画WBT教材の効果的な利用	200,000
		箕田 充志 (電気工学科)	若手研究(B) (継続課題)	極低温電気絶縁に与える冷媒流動と電荷蓄積現象	900,000

	齋藤 明德 (機械工学科)	若手研究(B)	5軸制御マシニングセンタの加工精度補償に関する研究	2,200,000
	高尾 学 (機械工学科)	若手研究(B)	往復流対応型マイクロタービンによる低負荷型呼吸量センシング法に関する研究	800,000
	中村 賢仁 (一般自然科学科)	若手研究(B)	非等方熱伝導に起因する降着円盤の不安定性に関する磁気流体数値実験	800,000
	川見昌春 (技術室)	奨励研究	組込みIT技術学習のための基盤実験用教材の開発と試作	660,000
合 計				15,860,000

平成17年度

申請	採択	研究代表者	研究種目	研究課題	交付額(円)
66	17	福間 眞澄 (電気工学科)	基盤研究(B)(一般)	空間電荷分布測定技術を応用した長時間分解能電荷顕微鏡の開発	3,100,000
		木村 一郎 (環境・建設工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	閉鎖性水域にける流動と水質の定量予測に向けての数値解析モデルの最適化	700,000
		河原 荘一郎 (環境・建設工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	土砂斜面上の落石の運動および衝撃力に及ぼす地盤条件の影響	800,000
		利光 和彦 (機械工学科)	基盤研究(C)(一般) (継続課題)	衝撃風洞を用いた超音速燃焼流れのPIV計測に関する研究	1,000,000
		森田 正利 (人文科学科)	基盤研究(C)(一般)	短距離折返し走における折返し動作に関する基礎的研究	1,700,000
		原 元司 (情報工学科)	基盤研究(C)(一般)	教育用オープンプラットフォームの構築に関する研究	1,700,000
		藤井 諭 (情報工学科)	基盤研究(C)(一般)	3Dとマルチリンガルの教材を持つユビキュタスE-Learningの開発	1,000,000
		飯島 睦美 (人文科学科)	基盤研究(C)(一般)	英語言語運用能力育成場面におけるメタファーの効果的利用	1,900,000
		黒田 祐一 (人文科学科)	基盤研究(C)(一般)	地籍図を利用した明治初期の詳細な地図の作成に関する研究	400,000
		福岡 久雄 (情報工学科)	基盤研究(C)(一般)	2値無記憶拡大情報源に対するコンパクト符号の構造に関する研究	900,000
		箕田 充志 (電気工学科)	若手研究(B) (継続課題)	極低温電気絶縁に与える冷媒流動と電荷蓄積現象	500,000
		中村 賢仁 (数理科学科)	若手研究(B) (継続課題)	非等方熱伝導に起因する降着円盤の不安定性に関する磁気流体数値実験	500,000
		高尾 学 (機械工学科)	若手研究(B) (継続課題)	往復流対応型マイクロタービンによる低負荷型呼吸量センシング法に関する研究	700,000

	和田守 美穂 (情報工学科)	若手研究(B)	音響分析を用いた映画の副音声同期化システムの開発	500,000
	寺本 敦子 (環境・建設工学科)	若手研究(B)	砂州形状特性が低水時の流路構造に及ぼす影響に関する研究	1,800,000
	山本 誠司 (技術室)	奨励研究	斐伊川流域の砂鉄分布および「たたら」の再考	460,000
	岡田 康 (技術室)	奨励研究	ネットワーク認証システムを用いたキャンパスワイド無線LANシステム	750,000
合 計				18,410,000

(出典 会計課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

全国 55 高専で一つの法人（機構）を構成しており，この機構を通じて国からの財政的な支援を受けることになっているため，継続した活動基盤は保証されていると判断される。

科学研究費補助金，企業等からの外部資金については継続的に獲得しており，特に科学研究費補助金は全高専のトップレベルの採択件数である。

また，文部科学省が公募した平成 17 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」の 6 つのテーマの一つ「地域活性化への貢献（地元密着型）」に応募し，採択されたことは，厳しい競争の中で本校の取り組みが評価されたものである。（資料 10-1-②-7）

資料 10-1-②-7

平成 17 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」の「地域活性化への貢献（地元密着型）」事業経費申請書類

4 事業に係る経費

(1) 平成 17 年度の申請経費

申請額		申請額の内訳	
		補助金基準額	その他の経費
① + ② 14,600 (千円)		① 10,000 (千円)	② 4,600 (千円)
経費区分	金額(千円)	積算内訳	
< 設備備品費 >	8,300	【設備備品費】 <ul style="list-style-type: none"> ● 恒温槽 (1式×3,500千円) ● 電源 (1式×3,000千円) ● オシロスコープ (4式×200千円) ● コンピュータ (5台×200千円) 【申請書 6 頁 8 ~ 11 行関連】 【申請書 7 頁 13 ~ 16 行関連】 【申請書 8 頁 17 ~ 20 行関連】 【申請書 9 頁 16 ~ 19 行関連】 【申請書 10 頁 9 ~ 12 行関連】	
< 旅費 >	2,000	【国内旅費】 <ul style="list-style-type: none"> ● 発表旅費 (10回×60千円) ● 実施調査費 (10回×60千円) ● 講師旅費 (10回×40千円) ● 会議旅費 (10回×40千円) 【申請書 6 頁 8 ~ 11 行関連】 【申請書 7 頁 13 ~ 19 行関連】 【申請書 8 頁 17 ~ 22 行関連】 【申請書 9 頁 7 ~ 12, 16 ~ 19, 35 ~ 38 行関連】 【申請書 10 頁 9 ~ 12 行関連】 【申請書 11 頁 13 ~ 24 行関連】	
< 人件費 >	400	【謝金】 <ul style="list-style-type: none"> ● 講演料 (15回×20千円) ● 会議出席謝金 (10回×10千円) 【申請書 6 頁 13 ~ 14 行関連】 【申請書 7 頁 17 ~ 19 行関連】 【申請書 9 頁 7 ~ 12 行関連】 【申請書 11 頁 13 ~ 24 行関連】	

< 事業推進費 >	3,900	【会議費】 <ul style="list-style-type: none"> ● 第三者評価会議 (5回×20千円) 【申請書9頁35～38行関連】 【消耗品費】 (単価100千円以下) <ul style="list-style-type: none"> ● ソフトウェア一式 (500千円) ● アンプ, コンバータ (800千円) ● 電子部品一式 (900千円) ● 機械加工一式 (800千円) ● 関係図書一式 (300千円) ● 化学薬品一式 (300千円) ● 報告書・資料作成費 (200千円) 【申請書6頁8～11行関連】 【申請書7頁13～16行関連】 【申請書8頁17～20行関連】 【申請書9頁16～19行関連】 【申請書10頁9～12行関連】
< その他 >	0	なし
合 計	14,600	

※大学改革推進等補助金による補助事業として申請できる経費は、大学改革推進事業の遂行に必要な経費に限定されます。(「大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)取扱要領」参照)

(2) 事業全体に係る申請予定額

年 度	17年度	18年度	19年度	20年度	合 計
申請額 (千円)	14,600	14,000	14,000		42,600

(3) 経費措置の状況

なし

(出典 平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」関連資料)

観点10-2-①: 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針等とその目的を達成するための財務上の要件を規定し関係者に明示したものが「松江工業高等専門学校の中期計画(抜粋)」である。(資料10-2-①-1)

本校の中期計画作成にあたっては「独立行政法人国立高等専門学校機構中期計画・年度計画」を踏まえたうえで、本校独自の目標設定を加味して策定したものである。

教育研究活動の活性化等のため、各学科、教員等からの申請により予算を重点配分する学内競争的資金の導入により教育研究経費の重点化を行い、予算の有効な配分に努めている。予算は校長の教育研究方針のもと、企画総務委員会が中心となり予算原案を作成し、学校協議会、予算委員会で意見を聞き、最終的に運営委員会で承認決定される。

収入、支出のバランスについては、四半期毎に「職員基本給所要額調」を作成し、これまでの支出実績と今後の所要額見込、及びこれまでの収入実績と今後の収入見込を機構本部に報告することにより収支のバランスを考慮しながら適正な執行に努めている。

また、予算書は会計課のホームページで全教職員に公開されており、追加予算等、常に新しい情報を掲載し更新をしている。（資料10-2-①-2）

施設整備計画については、「国立学校施設長期計画書（平成12年7月）」を冊子として取りまとめた上で関係教職員に配布した。（資料10-2-①-3 資料8-1-①-8の再掲）

なお、校舎改修に関連して施設長期計画に基づき「教育環境改善計画（平成14年12月策定、平成18年1月改定）」を作成し、改修のフロアプランについては、学内ホームページで全教職員に公開している。

資料 10-2-①-1

松江工業高等専門学校中期計画（抜粋）

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置**1 外部からの教育研究資金その他の自己収入の増加のための措置****○外部からの教育研究資金その他自己収入の増加に関する具体的方策**

- (a) 科学研究費補助金その他補助事業費などの外部資金の獲得を積極的に目指す。
- (b) 地域との産学官連携を教職員が一体となって取り組み、共同研究費及び受託研究費の獲得に努める。
- (c) 松江工業高等専門学校の活動状況や教員の研究業績などを積極的に PR し、奨学寄付金の獲得に努める。
- (d) 受託試験の積極的な受け入れ態勢を確立し、自己収入の確保に努める。
- (e) 公開講座、出前授業及び体育館などの施設解放などを積極的に行い、自己収入の確保に努める。
- (f) その他、自己収入の獲得の方策を検討し、自己収入の確保に努める。

2 経費の抑制及び資産の管理の改善のための措置**○管理的経費の抑制に関する具体的方策**

- (a) 外部への委託が可能な業務の見直しを行い、アウトソーシングを図る。
- (b) 既存の経費節減対策委員会の機能強化を図り、リユース、リサイクル活動の推進、資源の効率的使用、ゴミの減量化及び契約方法の見直しや省エネ物品の購入などにより経費削減を推進する。
- (c) 学生への環境に関する教育の一環としての教室、廊下などの清掃実施による管理的経費の節減を推進する。

○資産の適正な管理に関する具体的方策

- (a) 設備の配置や設置場所などの見直しを行い、有効活用のための積極的な取り組みを行う。
- (b) 資産の安全、有効かつ長期利用のため、定期的な点検を行う。
- (c) リスクを未然に防ぐための組織の整備を行い、資産の保全に努める。

(出典 松江工業高等専門学校 中期計画 抜粋)

資料 10-2-①-2 A

平成17年度当初予算配分

平成17年度当初予算配分について

平成17年6月24日

校長 裁定

1. 平成17年度当初予算配分の原則について

(イ) 収入総額（運営費交付金＋自己収入）13.18億円（内人件費10.53億円）

(ロ) 物件費 2.64億円（含施設維持管理経費など）

（うち教育経費 約3.1千万，研究経費約 3.9千万，計 約7千万円）

※上記の7千万円の中から教育研究に係る光熱水料等を支払うことになる。

2. 学科への配分の基本方針

以下の基本方針に基づき、各学科ごとに予算を配分し、各学科内の配分は各学科で決定する。（ただし、予め学科内の配分内訳を会計課総務係に提出する。）

(イ) 基礎経費（旅費含む）

① 各教員は一律 9万円とする。

（物件費と旅費の区分は行わないが、予め使用内訳を会計課総務係に提出する。）

② 技術職員は一律3万円とし、別途「事業報告書」作成経費（10万円）を考慮する

③ 新任教員は特別経費（初度調弁費）として助教授30万円、助手10万円を別途配分する。

(ロ) 実験・実習経費

① 教務委員会で各学科（実習工場運営経費含む）の要求を取りまとめて、企画総務室に要求書を提出し、企画総務室が配分額（案）を作成する。

② 専攻科特別実験・実習経費は、専攻科長が要求を取りまとめて、企画総務室に要求書を提出し、企画総務室が配分額（案）を作成する。

上記の予算経理は、専攻科、一般学科は学生課教務係で行い、それ以外の学科は実践教育支援センターで行う。

（検討課題）

○ 教科内容の再検討。不足分は受益者（学生）負担も視野に入れて検討して欲しい。

○ 学科毎に実験実習の性格、内容も異なるが、あまりに大きなアンバランスが生じる場合は、実験実習のシラバスの変更を検討して欲しい。

(ハ) 卒研指導費 （単価3万円×186名※休学者1名除く＝558万円）

○ 5年生の学生数に応じた総額を各学科に配分。

教員への再配分は研究内容並びに教員の外部資金能力に応じて学科内の合議で決定すること。

(二) 専攻科充実費 (単価10万円×56名※休学者1名除く=560万円)。

○ 専攻科充実の重要性に鑑み、予算を重点配分するものである。

専攻科生の学生数に応じた総額を専攻科に配分。

3. 特別研究費(プロジェクト研究)＋校長裁量経費

(イ) 一定額はプロジェクト用特別研究経費とし、申請に基づいて審査し、重点配分する。

(地域共同テクノセンター主催で成果発表会を行う。)

(ロ) 残額は臨時的経費として校長が用途を決定する。

4. 事項指定経費の配分

事項指定経費の配分は、前年度実績を考慮うえ、一定額を控除して配分する。

(例)

○ 図書館経費 → ○○○円 図書館

○ ネットワーク経費 → ○○○円 情報ネットワーク委員会

○ 教育研究設備維持運営費 → ○○○円 機器整備委員会

.

5. 各種委員会等への配分

(イ) 委員会経費は、経常経費と特別経費に分けて配分する。

(ロ) 各委員会から企画総務室に要求書(特別事業は事業計画書を添付)を提出し、企画総務室が配分額(案)を作成する。

(例)

学内設置委員会経費

申請 → 査定 → 配分額決定

○ 国際交流委員会

○ ISO委員会

○ JABEE委員会

.

6. その他

(イ) 後援会経費(企画支援経費)関係

企画総務室で(案)を作成し、校長の了承を得て、後援会総会に提出する。

(ロ) 内部監査委員会の設置(常設とする。)

○ 監査項目: 会計課総務係に提出の支出伝票

○ 年1~2回実施

○ 委員: 校長, 高田, 松井, 福岡, 堀江, 箕田

(オブザーバー 小松原)

(出典 平成17年6月24日 運営委員会・予算委員会)

資料 10-2-①-2 B

平成17年度学内予算配分書

H17.6.24
運営委員会・予算委員会
平成17年度 松江工業高等専門学校事業費 学内予算配分書

(単位:千円)

予算項目	事業費 予算額	過不足額 (補填額)	学内予算 配分額	委任経理金 又は分担金	配分総額	備 考
物件費合計	219,450	0	219,450	500	219,950	
教育研究費(業務一般経費)	70,046					
教育研究実施経費			25,070		25,070	別紙
校長裁量経費			11,660		11,660	別紙 ※予備費 5,660千円を計上
固定の維持費(光熱水料)			27,650		27,650	H17所要額39,500千円×70%
非常勤講師旅費			456		456	H17所要額(交通費実費のみ) 予算残額329千円講師経費充当
学生支援経費			6,956		6,956	別紙
寄宿舎経費・学寮運営経費			2,100	0	2,100	完全収入見合経費
委員会経費(教育・研究)			1,795	500	2,295	別紙 経費1,795千円
非常勤講師手当人件費充当分	△ 735				0	
寄宿舎非常勤人件費充当分	△ 6,500				0	人件費(非常勤職員)へ充当
小 計	62,811	△ 12,876	75,687	0	76,187	
教育研究費(事項指定)	29,735					
大型設備維持運営費			4,750		4,750	別紙
学生厚生補導経費			3,496	0	3,496	別紙
インターネット			0		0	追加配分事項
留学生経費			781		781	当初配分額
入試経費			2,119		2,119	H17所要額
公開講座実施経費			765		765	完全収入見合経費
教育特別設備費			0		0	要求により配分
高専教育充実設備費			0		0	追加配分事項
教員研修等経費(内地)			963		963	当初配分額
在外研究員等旅費			0		0	
高度情報推進経費			5,143		5,143	別紙
保健管理費			1,036		1,036	別紙
小 計	29,735	10,682	19,053	0	19,053	
教育研究費合計	92,546	△ 2,194	94,740	500	95,240	
教育研究支援経費(事項指定)	16,096					
図書館維持費			1,552		1,552	別紙
学生用図書購入費			1,111		1,111	別紙
附属施設支援経費(ネットワーク)			10,994		10,994	別紙
固定の維持費(光熱水料)			1,975		1,975	H17所要額39,500千円×5%
校長裁量経費			0		0	
図書館非常勤人件費充当分	△ 1,184	△ 720	0		0	人件費(非常勤職員)へ充当
教育支援経費合計	14,912	△ 720	15,632	0	15,632	
一般管理費(業務一般経費)	26,428					
管理運営費			21,600		21,600	H17所要額
校長裁量経費			5,000		5,000	予備費 収入引当金等
委員会経費(管理・運営)			5,936	0	5,936	別紙 委任経理金
小 計	26,428	△ 6,108	32,536	0	32,536	
一般管理費(事項指定経費)	102,249					
会議出席等旅費			6,200		6,200	H17所要額
職員厚生経費			811		811	当初配分額
校長裁量経費			2,300		2,300	予備費 旅費等
職員宿舍維持費			3,078		3,078	H17所要額(固定資産税、維持管理費等)
赴任旅費			599		599	当初配分額
自動車関係経費			1,670		1,670	H17所要額
固定の維持費(光熱水料)			9,875		9,875	H17所要額39,500千円×25%
燃料費			1,580		1,580	H17所要額
事務電算機械化経費			7,315		7,315	別紙
施設維持管理費			22,340		22,340	別紙
業務委託及び保守等経費			20,200		20,200	H17所要額
下水道受益者負担金			574		574	H17所要額
人件費充当分	△ 13,639	不足分へ充当				人件費(非常勤職員)へ充当
小 計	88,610	12,068	76,542	0	76,542	
一般管理費合計	115,038	5,960	109,078	0	109,078	
共通の事業経費(機構本部留保分)	△ 3,046					
一般管理費(事項指定)から補填						
小 計	△ 3,046	△ 3,046	0		0	
共通の事業経費(機構本部留保分)	△ 3,046	△ 3,046	0		0	
人件費合計	1,098,589	0	1,098,589	0	1,098,589	
常勤教職員	968,090		968,090		968,090	
退職手当	85,172		85,172		85,172	
休職者給与	329		329		329	
非常勤講師(物件費から組替)	22,166		22,901		22,901	講師経費21,738千円+旅費残329千円+職員経費残99千円+物件735千円
医員手当(学校医)(物件費から組替)	774		774		774	H17所要額774千円 残額99千円を非常勤講師へ充
非常勤職員	0		21,323		21,323	
非常勤講師(物件費より充当)	735					物件費より補填 735千円
非常勤職員(物件費より充当)	21,323					物件費より補填 21,323千円
総 合 計	1,318,039	0	1,318,039	500	1,318,539	

(出典 平成17年6月24日 運営委員会・予算委員会)

資料 10-2-①-3

国立学校施設長期計画書

〔直野団地〕

平成12年7月

松江工業高等専門学校

目 次

(1) 施設整備の基本方針	1
(2) キャンパス計画図	2, 3
(3) 計画施設配置図	2, 4
(4) 説明資料	5
①教育・研究体制の概要	5
②キャンパスの概要	7
a. キャンパスの位置図	7, 8
b. キャンパスの現状	7, 9
c. 現状施設配置図	7, 10
③施設整備の問題点と課題	11~14
④キャンパス計画各論	14
⑤移転を伴う整備計画説明資料	14, 15
⑥キャンパスのインフラストラクチャー	14
⑦施設利用の考え方	16

(1) 施設整備の基本方針

1) 教育研究の理念・目標

高専は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする高等教育機関として昭和37年に創立された。工業高専は、工業技術者に必要な、豊かな教養と広い視野をもち、専門に関する基礎的な学力と応用力を身につけるとともに、自ら学習する意欲と力を備えるように教育・指導を行い、大学と補完し合う実践的な高等教育機関である。

松江高専は、昭和39年に4月に創立され、現在に至っている。本校の教育方針としては、次の四つを掲げている。

- ① 本校の使命に鑑み、専門諸学科の基礎理論を確実に習得させ、実験・実習を重んじて高度の技術の練磨に努める。
- ② 一般学科の学習を軸として幅広い人間的教養を深化させ、健全な身体を育成して強固な自主性と好学の気風を振興する。
- ③ 語学の学習を強化して、外国語の理解力と表現力を高め、諸外国との技術の交流に遺憾なきを期する。
- ④ 周囲に対する感謝報恩の念と、私利を排し、人を恕する雅量を身に付けさせ、学友師弟相互の接触を暖かくかつ密にし、明朗にして堅実な学風を樹立する。

本校では、このような教育方針の下に、さらに次のような点に主眼を置いた教育を行っている。

- (イ) 創造力をつけさせる教育を重視し、研究開発に対応できる能力を持つ技術者を育成する。
- (ロ) クラブ活動を通して幅広い年齢の学生と交流することにより豊かな人間性を育成する。

2) キャンパス計画のコンセプト

- ① 人に優しいアカデミックキャンパスの創造
 - ・ コミュニケーションスペースの充実
 - ・ アメニティー施設の充実
- ② 高度な教育研究を支援する施設環境の確保
 - ・ 専攻科設置
 - ・ 共同利用施設の充実
- ③ 地域社会と連携した教育環境の確保
 - ・ 共同研究施設の充実
 - ・ 公開講座、技術相談等の拠点化
- ④ 環境に優しいキャンパスの創造
- ⑤ 自然エネルギーの活用
- ⑥ 緑豊かな環境整備

3) 施設整備の目標

教育環境改善計画に基づき現状を見直し、将来を見越した教育研究に対応できる施設整備を行うこととし各施設毎に以下の整備目標を設定している。

(教育研究施設)

- ⑦ 教室及び卒業研究室等の狭隘解消、女子学生及びコミュニケーションスペースの確保、共同利用スペースの充実
- ⑧ 老朽及び耐震強度不足に伴う改修
- ⑨ 身障者対策
- ⑩ 専攻科の設置

(図書館・情報センター)

- ・ 情報化対応に伴い図書館と情報センターの一体化整備
- ・ 地域開放に伴う身障者対策

(福利厚生施設)

- ・ 学科増に伴うスペース不足の解消

(寄宿舎)

- ・ 女子学生の増加に伴う女子寮の設置

(地域連携施設)

- ・ 新技術教育研究センターの設置

(2) キャンパス計画図

別図キャンパス計画図による。

(3) 計画施設配置図

別図計画施設配置図による。

(出典 国立学校施設長期計画書)

(分析結果とその根拠理由)

収入見込、支出見込を的確に把握することで、収支のバランスは適正に保たれている。教育研究活動の活性化のため、学内競争的資金の導入など予算の有効な配分に努めている。予算は、学校協議会、運営委員会、予算委員会で周知徹底されている。さらに、予算書は会計課のホームページで全教職員に公開されており、追加予算など常に新しい情報に更新をし、収支のバランスを考慮しながら適正な執行に努めている。

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

予算に基づく計画的な執行を念頭において常に予算の把握をしている。また、教員に対しては、年に数回執行残額を通知することにより、適切な予算計画と経費支出に繋がっていると認識しており、支出超過は生じていない。(資料10-2-②-1)

資料 10-2-②-1

損益計算書(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

勘定科目表示名称	金額	勘定科目表示名称	金額
[経常費用]	1,471,124,285	[経常収益]	1,471,124,285
業務費	1,353,156,350	[経常収益]運営費交付金収益	1,093,207,971
教育・研究経費	201,649,358	[経常収益]授業料収益	256,852,000
消耗品費	54,857,299	[経常収益]授業料収益]授業料収益	256,895,800
備品費	24,740,714	[経常収益]授業料収益]講習料収益	156,200
印刷製本費	3,617,862	[経常収益]入学金収益	21,825,900
水道光熱費	24,535,838	[経常収益]検定料収益	7,741,600
旅費交通費	20,374,513	[経常収益]受託研究等収益	11,796,700
通信運搬費	400,323	[経常収益]受託研究収益	6,125,250
賃借料	9,137,132	共同研究収益	5,671,450
車両燃料費	168,473	[経常収益]受託事業等収益	0
福利厚生費	286,020	[経常収益]補助金等収益	11,572,935
保守費	1,190,328	[経常収益]寄附金収益	11,543,621
修繕費	16,901,480	[経常収益]施設費収益	16,050,493
広告宣伝費	210,000	[経常収益]資産見返負債戻入	30,818,579
諸会費	198,635	資産見返運営費交付金等戻入	6,145,055
支払報酬	1,925,132	資産見返補助金等戻入	173,866
奨学費	13,724,100	資産見返寄附金等戻入	929,726
減価償却費	19,696,367	資産見返物品受贈額戻入	23,569,932
貸倒損失	117,300	特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0
雑費	9,567,842	[経常収益]財務収益	2,112
教育研究支援費	29,406,214	受取利息	2,112
消耗品費	4,862,101	その他の財務収益	0
水道光熱費	1,916,910	[経常収益]雑益	9,712,374
通信運搬費	7,654,038	財産貸付料収入	9,711,264
賃借料	166,930	文献複写料	1,110
保守費	34,421	物品受贈益	0
修繕費	8,008,556	債権受贈益	0
諸会費	37,000	承継剰余金債務戻入	0
減価償却費	6,556,458	その他の雑益	0
雑費	169,800	[経常収益]合計	0
受託研究費	11,796,700	経常利益	0
謝金	177,000	[臨時損失]	0
旅費交通費	957,110	[臨時損失]固定資産除却損	0
物件費	10,644,740	[臨時損失]固定資産売却損	0
その他の受託研究費	17,850	[臨時損失]災害損失	0
教員人件費	699,324,520	[臨時損失]その他の臨時損失	0
常勤教員給与	676,443,989	[臨時損失]合計	0
常勤教員給与	453,292,141	[臨時利益]	0
常勤教員賞与	178,237,679	[臨時利益]固定資産売却益	0
常勤教員退職給付費用	34,695,276	[臨時利益]貸倒引当金戻入	0
常勤教員法定福利費	10,218,893	[臨時利益]徴収不能引当金戻入	0
非常勤教員給与	22,880,531	[臨時利益]退職給付引当金戻入	0
非常勤教員給与	22,766,700	[臨時利益]資産見返負債戻入	0
非常勤教員法定福利費	113,831	資産見返運営費交付金等戻入	0
職員人件費	410,979,558	資産見返補助金等戻入	0
常勤職員給与	390,826,574	資産見返寄附金戻入	0
常勤職員給与	229,466,256	資産見返物品受贈額戻入	0
常勤職員賞与	80,044,698	[臨時利益]その他引当金戻入	0
常勤職員退職給付費用	76,208,708	[臨時利益]その他の臨時利益	0
常勤職員法定福利費	5,106,912	[臨時利益]合計	0
非常勤職員給与	20,152,984	[当期純利益(純損失)]	0
非常勤職員給与	17,510,359	[目的積立金取崩額]	0
非常勤職員賞与	894,523	[当期総利益(総損失)]	0
非常勤職員退職給付費用	64,530		
非常勤職員法定福利費	1,683,572		
一般管理費	117,967,935		
一般管理費	117,967,935		
消耗品費	13,723,223		
備品費	2,168,857		
印刷製本費	1,130,925		
水道光熱費	9,423,633		
旅費交通費	11,621,800		
通信運搬費	3,964,588		
賃借料	5,493,126		
車両燃料費	48,265		
福利厚生費	576,735		
保守費	10,513,069		
修繕費	36,778,944		
損害保険料	54,950		
広告宣伝費	51,250		
行事費	132,300		
諸会費	242,600		
諸謝金	138,000		
支払手数料	191,520		
租税公課	1,061,835		
減価償却費	4,565,754		
雑費	16,086,561		
財務費用	0		
財務費用	0		
支払利息	0		
その他の財務費用	0		
雑損	0		
雑損	0		
[経常費用]合計	0		

(出典 損益計算書)

(分析結果とその根拠理由)

適正な予算管理がなされている。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

前述のとおり、教育研究活動の活性化等のため重点配分される教育・研究の費用については、運営委員会で承認された後、予算を各科に配分している。プロジェクト経費については、校長裁量として各学科、教員等からの申請により配分決定を行っている。(資料10-2-③-1)

資料10-2-③-1

校長裁量経費(プロジェクト)

H17.8.24

事 項	予算額 (千円)	備 考
校長裁量経費(プロジェクト)	6,000	
プロジェクト	2,224	下記プロジェクト採択者一覧
校長裁量研究奨励費へ組替	3,300	配分は別添シート(研究奨励費)による
校長裁量予備費へ組替	476	

プロジェクト採択一覧

分 類	代表者	金額(千円)	研究テーマ
地域	新野邊幸一	684	真砂砂鉄を利用した鉄鋼材料に対する機能性たたら被膜の開発
地域	小松原祐二	540	コンクリート供試体用クラッシャー(粉砕機)の開発研究
教育	村上 亨	500	高専における数学教育の改善-松江高専における授業実践を通して-
教育	岩田 淳	500	TBLT理論に基づくWBT英語プレゼンテーション教育教材開発
合 計		2,224	

(出典 校長裁量採択結果)

(分析結果とその根拠理由)

校長のリーダーシップのもと教育研究活動の活性化を図るために競争的環境を設け、研究の質の向上等に応じた有効な配分がなされている。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専自体の財務諸表の公表の予定はない。(資料10-3-①-1)

資料 10-3-①-1

高専機構会計規則（第 44 条抜粋）

（年度末決算）

第 44 条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度 5 月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

（出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則）

（分析結果とその根拠理由）

機構本部が全国高専を集計した連結決算として公表している。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

独立行政法人通則法第 39 条により、会計監査人による監査が明確に規定されているとともに（資料 10-3-②-1）、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第 45 条により会計機関の義務及び責任並びに内部監査を明確に規定している。（資料 10-3-②-2）

外部監査としては、会計検査院による会計実地検査及び監査法人による各監査（期首・期中・決算）が今後予定されている。

また、本校においては内部監査委員会を常設しており、会計経理についてその事態を把握し、これが常に適正かつ効率的に執行されるよう毎年内部監査を実施している。（資料 10-3-②-3）

委員構成（校長，教授（3名），助教授（2名），オブザーバー 技術室長）

資料10-3-②-1

独立行政法人通則法（会計監査に関する条文抜粋）

（会計監査人の監査）

第三十九条 独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

（会計監査人の選任）

第四十条 会計監査人は、主務大臣が選任する。

（会計監査人の資格）

第四十一条 株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律（昭和四十九年法律第二十二号）第四条（第二項第二号を除く。）の規定は、第三十九条の会計監査人について準用する。この場合において、同法第四条第二項第一号中「第二条」とあるのは、「独立行政法人通則法第三十九条」と読み替えるものとする。

（会計監査人の任期）

第四十二条 会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする

（会計監査人の解任）

第四十三条 主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- 二 会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
- 三 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（出典 独立行政法人通則法 平成11年法律第103号）

資料10-3-②-2

高専機構会計規則（第45条抜粋）

（内部監査）

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

- 2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

（出典 独立行政法人国立高等専門学校機構規則）

資料 10-3-②-3

監査事項一覧

平成17年7月13日(水)

会計規則	・総勘定元帳等の整理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	13条・会計事務取扱規則第8条	
	・総勘定元帳及び補助簿における関係勘定科目の残高との照合	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	14条	
	・予算実施計画の作成の有無	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	17条・会計事務取扱規則第10条	委任事項
	・予算実施計画に基づく契約担当役及び出納命令役への通知	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	18条	委任事項
	・預金口座又は貯金口座の名義(出納命令役)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	19条	
	・収入金の収納即支払いへの充当の有無	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	23条	
	・収納金の払い込みに対する督促状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	24条・出納事務取扱規則第8条	
	・不良債権の処理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	25条・出納事務取扱規則第9条	
	・支払金の領収証書及びその他の証拠書類の徴収・整理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	27条・会計事務取扱規則第7条	
	・前金払いの適否(前払い可能な経費等)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	28条・会計事務取扱規則第15条	
	・仮払いの適否(仮払い可能な経費等)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	29条・会計事務取扱規則第16条	
	・固定資産の管理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	31条	
	・契約方法の適否(一般競争・指名競争・随意契約)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	32条～34条・契約取扱規則6条～14条	
	・予定価格の適切な算定	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	36条・契約事務取扱規則16条～17条	
	出納事務取扱規則	・口座開設・廃止の手続き状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	3条
・現金、預金通帳等の保管状況		【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	4条	
・収入金の請求、領収、収納場所の状況		【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	6条	
・小切手の取扱状況		【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	12条	
・証拠書類の綴裏、保管状況(日付順・番号順)		【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	16条	
契約事務取扱規則	・見積書の徴収状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	18条	
	・入札の公告の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	19条	
	・検査調査の作成の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	45条	
	・代価の支払の約定の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	54条	

(出典 内部監査報告)

(分析結果とその根拠理由)

規則に基づき内部監査が実施されていることから、適正に会計監査が行われていると考える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育研究活動の活性化のため、学内競争的資金の導入など予算の有効な配分に努めている。また、科学研究費補助金、企業等との共同研究などの外部資金獲得にも努め、努力の成果が現れてきている。

(改善を要する点)

今後、運営交付金の減額や中期計画における効率化に対応するためには、外部資金による自己収入確保が重要になる。こうした中、科学研究費補助金の採択率の引き上げや、企業等からの外部資金になど継続的に獲得できるよう、一層の努力が必要である。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校の学習・教育目標を達成するための教育研究活動を円滑に支えるための資産(土地、建物、設備)を有している。また、高専機構からの運営費交付金の配分により、継続した活動基盤が保証されていると判断される。

配分された運営費交付金等は、学内競争的資金の導入により教育研究活動を活性化させるなど、有効な配分が行われている。外部資金の獲得（科学研究費補助金，共同研究，受託研究，奨学寄附金）にも積極的に取り組み，さらに，文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」などの競争的資金へも積極的に申請している。

予算は，学校協議会，運営委員会，予算委員会で周知徹底され，さらに予算書等は会計課の学内ホームページで全教職員に公開されている。追加予算などの新しい情報に随時更新されて，収支のバランスを考慮しながら適正な執行に努めている。内部監査委員会が，財務諸表，支出伝票により，年1～2回適正な財務会計処理が行われていることを確認している。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

学校教育法第70条の7により、校長及び教授などの役割が明記されており、運営・校務などに関する重要事項は校長が決定することになっている。本校の運営にあたっては「組織」を編成し、(資料11-1-①-1) 管理運営にあたっては「松江工業高等専門学校運営組織規則」(資料11-1-①-1)を規定し、役割を明確にするとともに効果的な意思決定が行える体制をとっている。

意思決定のプロセスとして、校長の下に「学校協議会」(前掲 資料2-2-①-1に規則掲載)及び「運営委員会」(前掲 資料2-2-①-2に規則掲載)を設置し、教育課程を含め学校全体の諸課題の検討・調整にあたっている。

校務の円滑な運営を図るため、2名の副校長を配置している。1名は企画総務室長の兼任、1名は教務主事の兼任としている。

学校教育法施行規則に規定されている教務主事、学生主事及び寮務主事は主事業務を掌理するとともに校長補佐(教務主事を除く。)として管理運営に参画している。専攻科を掌理する専攻科長も主事と同様に校長補佐として管理運営に参画している。

学校運営全ての案件は学校協議会、運営委員会での協議を経て校長が最終決断を行い教員会議で周知徹底する体制となっている。また校長から特に諮問された事項の計画立案及び点検・評価作業を行うために、副校長のもとに企画総務室を設置している。

校長の職務は、学校教育法及び「独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則」に規定されている。

副校長(企画総務室長)の職務については、「企画総務室規則」(前掲 資料2-2-①-3)に規定し、企画総務室会議のほかに「学校協議会」、「予算委員会」、「自己点検・評価委員会」、「将来計画検討委員会」、「教員人事構想委員会」に参画し、担当分野の役割を担っている。

教務主事は副校長を兼務するとともに、「教務委員会」等教務関連の委員会を、学生主事は「学生委員会」等学生関連の委員会を、寮務主事は「寮務委員会」を、専攻科長は研究分野を含め「専攻科委員会」を、それぞれ束ね、校長の運営方針等が具体的施策に反映できるように、それぞれ責任を持って校長を補佐している。

資料 11-1-①-1

組 織
Organization

職員数及び博士学位取得者数

Numbers of Staff Members and Doctors

平成 18年5月1日現在 As of May 1 2006

	教 育 職 員 Teaching Staff						事務系職員 Administrative Staff	合 計 Total
	校 長 President	教 授 Professor	助 教 授 Associate Professor	講 師 Lecturer	助 手 Research Associate	計 Total		
定 員 Establishment	1	35	33		8	77	50	127
現 員 Present Number	1	31	33	4	8	77	48	125
博 士 Number holding Doctoral Degrees	1	22	19	4	7	53		

学校運営組織図

Organization Chart



各種委員会
Committees

将来計画検討委員会 Future Planning & Analysis Committee	教務委員会 Academic Affairs Committee	JABEE委員会 JABEE Committee	防火対策委員会 Fire Prevention Committee
自己点検・評価委員会 Self Inspection and Evaluation Committee	学生委員会 Students Affairs Committee	国際交流委員会 International Affairs Committee	環境汚染等防止対策委員会 Environmental Pollution Prevention Committee
予算委員会 Budget Committee	寮務委員会 Dormitory Affairs Committee	留学生委員会 International Student Affairs Committee	マルチメディア教育委員会 Multimedia Education Committee
広報委員会 Public Bulletin Committee	専攻科委員会 Advanced Engineering Faculty Committee	図書委員会 Library Committee	情報ネットワーク委員会 Information Network Committee
施設管理委員会 Facilities Management Committee	AO委員会 Admissions Committee	機器整備委員会 Equipment Maintenance Committee	その他委員会 Other Committees
本科入試委員会 College Course Entrance Examination Committee	カリキュラム委員会 Curriculum Committee	安全衛生委員会 Safety and Sanitation Committee	
専攻科入試委員会 Advanced Course Entrance Examination Committee	FD委員会 Faculty Development Committee	安全管理委員会 Safety Management Committee	

資料 11-1-①-2

松江工業高等専門学校運営組織規則

(平成18年4月1日制定施行)

第1章 総則

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第3項及び第6項並びに松江工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第11条の規定に基づき、松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）の内部組織に関する事項を定め、校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

第2章 校長

第2条 学校教育法第70条の7第3項及び独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条第2項の規定に基づき、本校の運営・校務等に関する重要事項は校長が決定する。

- 2 前項の決定に当たって、必要と認める場合には、本規則第18条で定める学校協議会、運営委員会又は各種委員会等を開催して、意見を聴取する。
- 3 校長に事故があるとき、又は、校長が欠けたときは、本規則第4条第1項で定める副校長が代理し、その職務を行う。なお、代理する順位は、教育担当の副校長を第一順位とし、管理運営担当の副校長を第二順位とする。

第3章 教員の所属

第3条 本規則で教員とは、学則第8条第1項のうち教授、助教授、講師及び助手をいう。

- 2 本校に、学則第7条第1項で定める学科並びに人文科学科及び数理科学科（以下「学科」という。）を置き、教員はいずれかの学科に属するものとする。

第4章 副校長

第4条 本校に、教育担当の副校長及び管理運営担当の副校長を置き、教授の中から校長が任命する。ただし、教育担当の副校長は教務主事をもって充てる。

- 2 副校長は、校長の命を受け、校長とともに校務の円滑な運営を図る。
- 3 副校長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第5章 校長補佐

第5条 本校に、校長補佐を置き、学則第9条第1項で定める学生主事及び寮務主事並びに本規則第9条第1項で定める専攻科長をもって充てる。

- 2 校長補佐は、校長の命を受け、校長の職務を補佐する。

第6章 校長特別補佐

第6条 本校に、校長特別補佐を置くことができる。

- 2 校長特別補佐に関し必要な事項は、別に定めるところによる。

第7章 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補

第7条 本校に、学則第9条第1項で定める教務主事、学生主事及び寮務主事（以下「主事」という。）のもとに、当該主事を補佐するため、それぞれ教務主事補、学生主事補及び寮務主事補（以下「主事補」という。）を若干名置き、当該主事の推薦に基づき、校長が任命する。

- 2 主事補の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 主事に事故があるとき、又は、主事が欠けたときは、校長が指名した当該主事補が代理し、その職務を行う。

第8章 学科長

第8条 本校の各学科に学科長を置き、当該学科の教授又は助教授の中から、校長が任命する。

- 2 学科長は、当該学科の管理運営を総括するとともに、他の学科及び施設等相互の連絡調整に当たる。
- 3 学科長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第9章 専攻科長

第9条 本校に、専攻科に関する事項を掌理するため、専攻科長を置き、校長が専攻科を担当する教授の中から任命する。

2 専攻科長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 専攻科長に事故があるとき、又は、専攻科長が欠けたときは、校長が指名した副専攻科長が代理し、その職務を行う。

第10章 副専攻科長

第10条 専攻科の専攻毎に、専攻科長の職務を助け、専攻の運営に関する事項を総括するため、副専攻科長を置く。

2 副専攻科長は、当該専攻を担当する教授又は助教授の中から、専攻科長の推薦に基づき、校長が任命する。

3 副専攻科長の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第11章 学内組織

第11条 本校に、次の各号に掲げる組織を置く。

- 一 企画総務室
- 二 地域共同テクノセンター
- 三 メディア教育センター
- 四 実践教育支援センター
- 五 環境センター
- 六 学生相談室

2 前項の各組織に、当該組織の管理運営事項を掌理させるため、組織の長を置き、校長が教授又は助教授の中から任命する。

3 第1項の組織に関し必要な事項は、別に定めるところによる。

第12章 学級担任・アドバイザー・学年主任

第12条 本校の第1学年から第3学年までの各学級に学級担任を、第4学年から第5学年までの各学級にアドバイザーを置き、本科の教授、助教授又は講師の中から校長が任命する。

2 学級担任は、学級の運営、教育指導及び生活指導に当たる。

3 アドバイザーは、当該学級の学生への諸連絡並びに修学上の助言及び進路相談等に関することに当たる。

4 学級担任及びアドバイザーの任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第13条 本校に、学年毎に学年主任を置き、各学年の学級担任又はアドバイザーの互選に基づき、校長が任命する。

2 学年主任は、主事及び学科長等と連絡調整のうえ、当該学年の運営に関することを掌理するとともに、担当する学年の学級担任又はアドバイザーの連絡調整に当たる。

3 学年主任の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第13章 顧問教員

第14条 本校に、学生の課外活動を指導するため顧問教員を置き、教員の中から校長が任命する。

2 顧問教員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

第14章 管理運営・校務の委任

第15条 本校の管理運営・校務のうち、教務に関する事項（専攻科長の所掌に属するものを除く。）は、教務主事にその実施を委任する。

2 本校の管理運営・校務のうち、学生の厚生補導に関する事項（寮務主事の所掌に属するものを除く。）は、学生主事にその実施を委任する。

3 本校の管理運営・校務のうち、寄宿舍における学生の厚生補導に関する事項は、寮務主事にその実施を委任する。

4 本校の管理運営・校務のうち、専攻科の管理運営及び教務に関する事項は、専攻科長にその実施を委任する。

第16条 本校の管理運営・校務のうち、事務に関する事項は、事務部長にその実施を委任する。

2 事務部長に事故があるとき、又は、事務部長が欠けたときは、課長が代理し、その職務を行う。
 なお、代理する順位は、庶務課長を第一順位、会計課長を第二順位、学生課長を第三順位とする。

第17条 本校の管理運営・校務のうち、第15条から前条までに掲げた事項以外の事項で校長が特に命じる事項については、管理運営担当の副校長にその実施を委任する。

2 管理運営担当の副校長に事故があるとき、又は、管理運営担当の副校長が欠けたときは、校長が指名した校長補佐が代理し、その職務を行う。

第15章 委員会等

第18条 本校に、次の各号に掲げる委員会等を置く。

- 一 運営評議会
- 二 学校協議会
- 三 運営委員会
- 四 教員会議
- 五 将来計画検討委員会
- 六 自己点検・評価委員会
- 七 予算委員会
- 八 広報委員会
- 九 情報公開委員会
- 十 施設管理委員会
- 十一 AO委員会
- 十二 本科入試委員会
- 十三 専攻科入試委員会
- 十四 カリキュラム委員会
- 十五 教務委員会
- 十六 学生委員会
- 十七 寮務委員会
- 十八 専攻科委員会
- 十九 進路指導委員会
- 二十 国際交流委員会
- 二十一 留学生委員会
- 二十二 FD委員会
- 二十三 J A B E E 委員会
- 二十四 図書委員会
- 二十五 機器整備委員会
- 二十六 安全衛生委員会
- 二十七 安全管理委員会
- 二十八 防火対策委員会
- 二十九 環境汚染等防止対策委員会
- 三十 放射線障害防止委員会
- 三十一 知的財産委員会
- 三十二 教員人事構想委員会
- 三十三 教員選考委員会
- 三十四 地域共同テクノセンター運営委員会
- 三十五 メディア教育センター運営委員会
- 三十六 マルチメディア教育委員会
- 三十七 情報ネットワーク委員会
- 三十八 実践教育支援センター運営委員会
- 三十九 外部資金受入審査会
- 四十 寄附金受入れの審査会
- 四十一 事務電算化委員会
- 四十二 経費節減対策推進委員会
- 四十三 職員レクリエーション委員会
- 四十四 学生支援機構松江工業高等専門学校委員部

2 前項以外に、校務の円滑な運営を図るため、各種委員会等を置くことができる。

3 第1項の各委員会等に関し必要な事項は、別に定めるところによる。

第16章 委員会等の定足数

第19条 本校の委員会等の定足数は、当該委員会等における委員総数の二分の一以上とする。

2 委員会等の議事は、議長を含め出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第17章 その他

第20条 本規則に定めるもののほか必要な事項は、別に定めるところによる。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

(分析結果とその根拠理由)

本校の最高責任者である校長の責務は多岐にわたるため、副校長2名（企画総務室長、教務主事）及び校長補佐3名（学生主事、寮務主事及び専攻科長）が校長の職務を分担するとともに、校長を補佐している。

専門的事項の立案・検討・調整などのために、各種の委員会がおかれている。これら委員会のうち主要な委員会の委員長は、校長、副校長或いは校長補佐が務めることとし、校長の運営方針等が具体的施策に反映できるように、また委員会等での審議結果が責任を持って実施できることとしている。

校長が校務全体を把握し、リーダーシップが発揮できるよう、校長、副校長、校長補佐、事務部長及び各課長で構成される学校協議会を定期的に開催している。学校協議会は、校長が職務を行うにあたり、意見聴取、方針などの周知、情報共有の役割を果たしている。

以上のことから、校長、副校長、各主事、専攻科長及び委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える体制となっている。

観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

本校では、校務を迅速・的確に処理するため、より高度な組織づくりを目指して継続的に改善を行い、適切に対応してきた。

学校協議会、運営委員会、企画総務室会議、教務委員会、学生委員会、寮務委員会、専攻科委員会は、月1回程度は会議を開催し、課題解決に対応している。各委員会の所掌内容は、委員会一覧表（資料11-1-②-1）のとおりであり、校務分担は教員会議で確認されている。（資料11-1-②-2）

学校協議会では、運営委員会の議題を含む学校運営上の諸課題について協議するとともに、特に人事及び予算事項について事前協議している。

また、運営委員会では、学校の管理運営に関する事項、教育研究活動の施策方針に関する事項、予算配分案や予算執行に関する事項等、学校運営上重要な事項について学内の意見を聴取するとともに、運営方針等の周知、情報共有の役割を果たしている。

なお、情報共有の手段として、運営委員会の議事概要を全教員に知らせている。

企画総務室会議では中・長期目標及び同計画の策定、新規事業、地域・社会に対する貢献事業の企画立案、「システム技術」教育プログラム点検、教育点検評価などの検討を行っている。

このほか、各種委員会については、各委員会規則により審議事項が明確化されている。これらの委員会は、本校の教育、研究、社会貢献、運営等の進展や社会の変化等から生じる諸課題に適切に対応するため、適宜委員会の新設・廃止を行い、学校運営の中で適切な機能を果たすよう見直しを行ってきた。

本校の事務部は、校長の下で教育研究の遂行に必要とされる全ての事務処理を行うため、事務部長の下、庶務、会計、学生の3課及び技術室から構成されている。技術室には技術専門員、技術専門職員、技術職員を配置している。（前掲 資料3-3-①-2）

事務組織並びに事務部長、課長、技術室長等の職務内容及び各課の分掌事務は、「松江工業高等専門学校事務組織規則」（資料11-1-②-3）で定めている。また、各課に置く各係等の事務分掌は、「松江工業高等専門学校事務分掌規則」（資料11-1-②-4）で定めている。

技術室の位置付けは、「松江工業高等専門学校実践教育支援センター規則」（資料11-1-②-5）及び「松江工業高等専門学校実践教育支援センター運営委員会規則」（資料11-1-②-6）で定めている。技術室の職務内容は、「松江工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する内規」（前掲 資料3-3-①-3）で定めている。

事務部では、事務部長及び3課長による部課長連絡会を設けるとともに、事務部として、校長、副校長及び校長補佐に十分な助言ができるよう、運営委員会の開催前に、係長以上の事務職員による事務連絡会を開催し、議題の確認、情報・意見交換を行っている。

資料 11-1-②-1 A

松江工業高等専門学校各種委員会一覧表

番号	委員会名(規則名)	所掌事項	組織(構成員)
1	運営評議会	1 教育・研究及び管理・運営等に関し、 広く学外の有識者から意見を求める。	1 外部評議員 2 校長 3 各主事 4 企画総務室長 5 専攻科長 6 各学科長 7 事務部長、各課長
2	学校協議会	1 運営協議	1 校長 2 企画総務室長 3 専攻科長 4 各主事 5 事務部長、各課長
3	運営委員会	1 管理・運営	1 校長 2 企画総務室長、専攻科長 3 各主事 4 各学科長 5 地域共同テクノセンター長 6 メディア教育センター長 7 広報委員長 8 事務部長 9 各課長 10 技術室長
4	教員会議	1 学生の教育及び厚生補導 2 教員の研究	1 校長 2 教授、助教授、常勤講師、助手
5	将来計画検討委員会	1 組織、運営及び施設等に関する将来計画	1 校長 2 企画総務室長 3 各主事 4 専攻科長 5 各学科長 6 図書館長 7 メディア教育センター長 8 地域共同テクノセンター長 9 事務部長
6	自己点検・評価委員会	1 自己点検・評価の基本方針、実施基準、 実施方法等の策定 2 自己点検・評価の実施及び結果の公表	1 校長 2 企画総務室長 3 専攻科長 4 各主事、学生相談室長 5 各学科長 6 広報委員長 7 メディア教育センター長 8 地域共同テクノセンター長 9 事務部長
7	予算委員会	1 校長が別に定める予算編成方針に基 づく当初予算配分案の作成	1 校長 2 企画総務室長 3 各主事 4 専攻科長 5 地域共同テクノセンター長 6 事務部長、会計課長
8	広報委員会	1 広報誌 2 ホームページ	1 校長指名若干名 2 庶務課長
9	情報公開委員会	1 情報公開に係る規則の制定及び改廃 2 情報公開の実施体制 3 開示・不開示の判断基準 4 行政文書の開示・不開示 5 開示実施手数料の減額又は免除 6 行政文書の管理	1 各主事 2 専攻科長 3 各学科長 4 事務部長、各課長
10	施設管理委員会	1 既存施設の使用計画作成 2 既存施設の使用状況調査 3 全学視点からの既存施設使用の見直し 及び再編	1 校長指名の教員 若干名
11	AO委員会	1 本科の入試方法改善 2 学生募集の広報 3 オープンキャンパス 4 学校説明	1 教務主事 2 校長が指名する教員 若干名 3 学生課長
12	本科入試委員会	1 本科入学者の募集 2 本科入学試験	1 校長 2 教務主事 3 AO委員会委員長 4 各学科の代表 5 学生課長
13	専攻科入試委員会	1 専攻科入学者の募集 2 専攻科入学試験	1 校長 2 専攻科長 3 副専攻科長 2名 4 専攻科長、副専攻科長の所属しない 学科の担当者 5 学生課長
14	教務委員会	1 教育課程の編成及び実施 2 授業計画 3 学生の転学、転科、退学等身分 4 学生の修学指導、成績	1 教務主事 2 教務主事補 3 学生課長

(出典 庶務課 作成資料)

資料 11-1-②-1 B

		5 教務の行事	
15	学生委員会	1 学生の生活指導及び福利厚生 2 学生会の指導 3 入学科及び授業料の免除 4 学生の表彰及び懲戒 5 厚生補導の行事	1 学生主事 2 学生主事補 3 学生課長
16	寮務委員会	1 施設、設備及びその使用 2 入寮及び退寮 3 防災安全 4 保健衛生 5 食堂 6 寮生の生活指導及び福利厚生 7 寮生会の指導 8 寄宿料の免除等	1 寮務主事 2 寮務主事補 3 専攻科代表1名 4 学生課長
17	専攻科委員会	1 教育課程の編成及び実施 2 授業計画 3 入試方法の改善 4 学生の休学、復学、退学、留学等身分 5 学生の学業成績 6 教育及び研究	1 専攻科長 2 教務主事 3 副専攻科長 4 専攻科担当教員若干名 5 学生課長
18	カリキュラム委員会	1 カリキュラムの作成、変更、実施 2 各科目の内容、科目相互関係調整 3 授業科目体系の整備、改善 4 「システム技術」教育プログラムにおける各科目間の連携、教育効果改善	1 教務主事 2 各学科代表 3 学生課長
19	進路指導委員会	1 就職指導及び就職斡旋 2 就職開拓 3 進学	1 専攻科長 2 教務主事 3 各学科長 4 副専攻科長 5 5学年アドバイザー 6 学生課長
20	国際交流委員会	1 外国の大学との学術交流協定 2 外国の大学等からの教職員及び学生の受入 3 外国の大学等への教職員及び学生の派遣 4 学術の情報及び研究資料の交換	1 校長が指名する教員 若干名 2 庶務課長、会計課長
21	留学生委員会	1 外国人留学生の教育課程 2 留学生の厚生補導 3 留学生の宿舍等必要な施設	1 各主事 2 校長指名の教員 若干名 3 学生課長
22	FD委員会	1 授業改善及び学力向上の方策検討 2 シラバス、講義、実験、実習、試験、成績評価の評価・審査・改善 3 JABEE認定、外部評価等の第2号対応 4 学生による授業評価 5 授業公開及び教員相互の授業参観 6 各種研修会	1 教務主事 2 各学科代表 3 学生課長
23	J A B E E委員会	1 「教育プログラム」の問題点及び対処方法の調査・検討 2 「教育プログラム」の実施 3 認定審査に向けた自己点検書 4 認定審査に向けた準備指導 5 実地審査対応	1 専攻科長 2 教務主事 2 各学科代表 3 学生課長、庶務課長
24	図書委員会	1 図書の選定、収集 2 図書館の利用 3 図書館活動 4 研究紀要の編集、発行 5 その他図書館運営	1 図書館長 2 各学科代表 3 専攻科代表1名 4 庶務課長
25	機器整備委員会	1 教育研究のための機器の整備、管理 2 その他必要事項	1 地域共同テクノセンター長 2 学科の代表（人文科学科を除く）各1名 3 その他校長が認める者
26	安全衛生委員会	1 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策 2 教職員の健康の保持増進を図るため	1 総括責任者として校長が指名した者 2 衛生管理者として校長が指名した者 3 安全管理者として校長が指名した

(出典 庶務課 作成資料)

資料 11-1-②-1 C

		<p>の基本となるべき対策</p> <p>3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るもの</p>	<p>技術室長</p> <p>4 衛生管理担当者として校長が指名した庶務課長</p> <p>5 安全管理担当者として校長が指名した会計課長</p> <p>6 産業医として校長が指名した者</p>
27	安全管理委員会	<p>1 安全教育に対する対策</p> <p>2 学生の安全確保のための対策</p> <p>3 施設の安全管理に関する対策</p> <p>4 毒物、劇物及び放射性物質等の安全管理・事故防止に関する対策</p> <p>5 教育研究上の安全管理に対する対策</p>	<p>1 各主事</p> <p>2 各学科及び専攻科の代表 各1名</p> <p>3 化学及び衛生工学担当教員</p> <p>4 放射線取扱責任者</p> <p>5 事務部長, 各課長</p> <p>6 技術室長, 施設係長</p>
28	防火対策委員会	<p>1 消防計画及び実践</p> <p>2 防火に関する諸規則の制定・改廃</p> <p>3 防火施設設備に関する計画, 改善強化</p> <p>4 防火思想の普及及び高揚と訓練計画</p>	<p>1 校長 2 事務部長, 各課長</p> <p>3 各主事 4 専攻科長</p> <p>5 各学科長</p>
29	環境汚染等防止対策委員会	<p>1 汚水及び廃液の排出及び処理</p> <p>2 環境汚染等の防止のための諸施設</p>	<p>1 各主事 2 専攻科長</p> <p>3 各学科長</p> <p>4 化学及び衛生工学担当教員</p> <p>5 事務部長, 会計課長</p>
30	放射線障害防止委員会	<p>1 放射線障害防止についての事項調査及び審査</p>	<p>1 教務主事 2 専攻科長</p> <p>3 各学科長 4 放射線取扱責任者</p> <p>5 事務部長, 各課長</p>
31	知的財産委員会	<p>1 特許性及び経済性評価並びに帰属の予備的判断</p> <p>2 知的財産の権利化手続</p>	<p>1 地域共同テクノセンター長</p> <p>2 専攻科長</p> <p>3 発明者が所属する学科長</p> <p>4 事務部長</p>
32	教員人事構想委員会	<p>1 教員候補者に要請される専門分野の基本方針</p> <p>2 教員候補者募集の具体的方法</p> <p>3 その他教員人事の必要事項</p>	<p>1 校長 2 企画総務室長</p> <p>3 専攻科長 4 教務主事</p> <p>4 企画総務室長, 専攻科長, 教務主事の所属しない学科から校長が指名する者</p>
33	教員選考委員会	<p>1 教員の選考</p>	<p>1 企画総務室長 2 専攻科長</p> <p>3 関連する学科長 4 校長が指名する教員 若干名</p>
34	地域共同テクノセンター運営委員会	<p>1 センターの運営に関する必要事項</p>	<p>1 センター長 2 副センター長</p> <p>3 産学連携室長 4 機器整備委員長</p>
35	メディア教育センター運営委員会	<p>1 センターの管理・運営</p> <p>2 その他必要事項</p>	<p>1 センター長 2 副センター長</p> <p>3 センター員 4 専攻科代表1名</p>
36	マルチメディア教育委員会	<p>1 マルチメディア教育及び研究支援</p> <p>2 マルチメディア教育に関するコンピュータシステムの構築・運用・管理</p> <p>3 マルチメディア教育の推進</p> <p>4 新しいノウハウの開発・研究・公開</p> <p>5 その他委員会が認める業務</p>	<p>1 校長任命者</p>
37	情報ネットワーク委員会	<p>1 情報処理に関する教育, 研究支援</p> <p>2 コンピュータ及び情報ネットワークの構築・運用・管理</p> <p>3 情報ネットワークを利用した情報検索及び情報公開</p> <p>4 情報ネットワークを利用した事務処理支援</p> <p>5 コンピュータ及びネットワークセキュリティシステムの構築・運用・管理</p> <p>6 情報倫理教育を含めたりテラシー教育支援</p> <p>7 新しいノウハウの開発・研究・公開</p> <p>8 その他委員会が認める業務</p>	<p>1 校長任命者</p>
38	実践教育支援センター運営委員会	<p>1 実践教育支援センターの管理運営</p> <p>2 その他必要事項</p>	<p>1 センター長 2 技術室長</p> <p>3 主査 4 その他校長が認める者</p>
39	外部資金受入審査会	<p>1 共同研究の受入れ</p> <p>2 受託研究の受入れ</p>	<p>1 校長 2 教務主事</p> <p>3 当該学科長 4 地域共同テクノ</p>

(出典 庶務課 作成資料)

資料 11-1-②-1 D

		3 奨学寄附金の受入れ	センター長 5 事務部長
40	寄附金受入審査会	1 寄附金受入審査	1 校長 2 教務主事 3 学生主事 4 学生主事 5 当該学科長 6 事務部長
41	事務電算化委員会	1 事務電算化の構想 2 事務用電算機の機種選定 3 関係国立学校間の連絡調整 4 事務電算化に係る情報収集 5 電算処理要員の養成及び知識の普及	1 事務部長 2 各課長 3 庶務, 総務, 教務各係長
42	経費節減対策推進委員会	1 経費削減の推進及び実効性の確保 2 経費削減対策の進行管理, 調査及び指導	1 専攻科長 2 各学科長 3 図書館長 4 メディア教育センター長 5 地域共同テクノセンター長 6 事務部長, 各課長 7 技術室長
43	職員レクリエーション委員会	1 職員のレクリエーション活動の円滑な運営	1 庶務課長, 会計課長 2 各学科から選出された教員 各1名 3 庶務課・会計課から選出された職員 各1名 4 学生課から選出された職員 2名
44	学生支援機構松江工業高等専門学校委員部	1 奨学生の推薦 2 奨学金の交付 3 奨学生の補導及び調査 4 学生支援機構との連絡	1 校長 2 学生委員会委員

(出典 庶務課 作成資料)

資料 11-1-②-2 A

平成18年度校務分担

1. 学校協議会(兼企画委員会)
 - 委員長 校長 委員 企画総務室長(副校長) 教務主事(副校長)
 - 専攻科長(校長補佐) 学生主事(校長補佐) 業務主事(校長補佐) 事務部長 三課長
2. 運営委員会(兼拡大予算委員会)
 - 委員長 校長 委員 企画総務室長 専攻科長 三主事 各学科長
 - 地域共同テクノセンター長 メディア教育センター長
 - 広報委員長 事務部長 三課長 技術室長
3. 予算委員会
 - 委員長 校長 委員 企画総務室長(企画) 教務主事(教育) 専攻科長(研究)
 - 地域共同テクノセンター長(産学連携) 学生主事(学生)
 - 業務主事(寮) 事務部長 会計課長
4. 企画総務室
 - 室長 高橋信雄 副室長 教務主事 専攻科長
 - JABEE委員会 委員長 別府俊幸 委員 教務主事 中村賢仁 利光和彦
 - 今尾浩也 原 元司 金子大二郎 学生課長 庶務課長
 - 評価担当委員会 委員長 企画総務室長 委員 三主事 藤原 豊
 - 別府俊幸 事務部長 三課長 専門員
 - イベント担当 委員長 藤岡美博 副委員長 衣笠保智
 - 委員 山根繁樹 松本浩介 田邊喜一 柴田俊文
5. 専攻科長 別府俊幸 副専攻科長 利光和彦
 - 専攻科委員会 委員長 専攻科長 委員 教務主事 副専攻科長 鳥谷智文
 - 松本浩介 原 元司 木村一郎 学生課長
6. 教務主事 福岡 真澄
 - 教務委員会 委員長 教務主事
 - 主事補 勝部 豊 渡部 徹 岩田 淳(※在外転出の場合、
 - 宮下真也) 学生課長
 - カリキュラム委員会 委員長 福岡真澄 委員 鳥谷智文 村上 享
 - 藤岡美博 衣笠保智 幸田恵明 堀内 匡
 - 木村一郎 学生課長
 - FD委員会(研修会担当兼任) 委員長 利光和彦 委員 教務主事 高橋 崇
 - 高木健司 宮内 聖 今尾浩也 堀内 匡
 - 高田龍一 学生課長
 - AO委員会(学校説明担当兼任) 委員長 飯島睦美 委員 教務主事
 - 山根繁樹 村上 享 藤岡美博 衣笠保智 学生課長

(出典 教員会議 配付資料)

資料 11-1-②-2 B

7. 学生主事 東原哲男
 - 学生委員会 委員長 東原哲男
 - 主事補 河原荘一郎 和田守美穂 高尾 学 山崎真克(10月~)
 - 学生課長
- 学生会顧問
8. 業務主事 宇野和男
 - 業務委員会 委員長 業務主事
 - 主事補 森田正利 今尾浩也 中村賢仁 学生課長
9. 学科長
 - 人文科学科 宮下真也 数理学科科 勝部 豊 機械工学科 門脇 健
 - 電気工学科 飯塚育生 電子制御工学科 亀谷 均
 - 情報工学科 藤井 諭 環境・建設工学科 金子大二郎
10. 教員人事構想委員会
 - 委員長 校長 委員 企画総務室長 専攻科長 教務主事
 - 一般 勝部 豊 高橋 崇 専門 郡原 宏 藤井 諭
 - 宇野和男
11. 教員選考委員会
 - 委員長 企画総務室長(校長代理) 委員 専攻科長 関連する学科長
 - オブザーバー:校長
12. 本科入試委員会
 - 委員長 校長 委員 教務主事(委員長代理) AO委員長 各学科長
 - 学生課長
13. 専攻科入試委員会
 - 委員長 校長 委員 専攻科長(委員長代理) 副専攻科長 鳥谷智文
 - 松本浩介 原 元司 木村一郎 学生課長
14. 進路指導委員会
 - 委員長 学科長の互選 委員 教務主事 専攻科長 学生主事 各学科長
 - 副専攻科長 5年アドバイザー 学生課長
15. 地域共同テクノセンター
 - センター長 高田龍一(現代GP担当)
 - 副センター長 福岡久雄(人材育成担当) 産学連携室長 亀谷 均
 - センター員 鳥谷智文 高尾 学 箕田充志 松本浩介 越田高志 大屋 誠
 - 久間英樹 川見昌春 コーディネーター(県商工労働部主幹)
 - センター運営委員会 委員長 センター長 委員 副センター長
 - 産学連携室長 センター員 機器整備委員長
 - 機器整備委員会 委員長 飯塚育生 委員 地域共同テクノセンター長
 - 中村賢仁 新野達幸市 亀谷 均 加藤 聡
 - 大屋 誠

(出典 教員会議 配付資料)

資料 11-1-②-2 C

16. 広報委員会
 - 委員長 山根繁樹 副委員長 飯島睦美 委員 松本浩介 渡邊修治
 - 武邊勝道 本間寛己 バトリシア・マロー 庶務課長
17. 実践教育支援センター
 - センター長 教務主事 センター員 技術室
 - センター運営委員会 委員長 センター長 委員 技術室長 主査
18. メディア教育センター
 - センター長 藤井 諭 副センター長(図書委員長) 黒田祐一
 - マルチメディア教育委員長 情報ネットワーク委員長
 - 図書委員会 委員長(図書館長) 黒田祐一 委員 高橋 崇 吉田 剛
 - マルチメディア教育委員会 委員長 岩田 淳 委員 大屋 誠
 - 情報ネットワーク委員会 委員長 原 元司 委員 中村賢仁 天野 順
 - 衣笠保智
19. 学生相談室
 - 室長 吉田 剛 副室長 黒田祐一 相談員 飯島睦美 堀内 匡
 - 衣笠保智 信崎輝子(看護師)
20. 国際交流委員会
 - 委員長 藤原 豊 副委員長 宮下真也 委員 バトリシア・マロー
 - 岩田 淳 戴 鳳智 庶務課長 学生課長
21. 留学生委員会
 - 委員長 恒次秀起 副委員長 服部真弓 委員 三主事 バトリシア・マロー
 - 田邊喜一 戴 鳳智 学生課長
22. 環境センター
 - センター長 東原哲男 副センター長 恒次秀起 淺田純作
 - センター員 松本浩介 大屋 誠
23. 施設管理委員会
 - 委員長 飯塚育生 委員 藤岡美博 大屋 誠
24. 安全衛生委員会
 - 委員長 恒次秀起 信崎輝子(看護師) 技術室長 庶務課長 会計課長
 - 内田 靖(産業医) 東原哲男 今尾浩也 新野達幸市 武邊勝道 原 誠治
 - 奥原真哉

25. 学級担任(1~3年)及びアドバイザー(4, 5年) ○印学年主任

第1学年	学科学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
1組○松井秀彦	機械	○森山恭行	坪倉公治	渡部正気	天野 順
2組 鳥谷智文	電気	岡本信之	渡邊修治	恒次秀起	宮内 肇
3組 高橋 弘	電子制御	幸田恵明	○服部真弓	藤原 豊	○長澤 深
4組 高木健司	情報	堀内 匡	田邊喜一	○越田高志	岡本裕幸
5組 中村 元	環境・建設 (4年以上土木)	村上 享	大屋 誠	河原荘一郎	淺田純作

(出典 教員会議 配付資料)

資料 11-1-②-3

松江工業高等専門学校事務組織規則

昭和41年4月1日 制定

平成17年4月1日 最終改正

第1章 総則

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第1号）第5条第6項、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第9条第3項及び松江工業高等専門学校学則に基づき、松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務を定めることを目的とする。

第2章 事務組織

第2条 本校に事務部を置く。

2 事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。

第3条 庶務課に情報処理室及び次の係を置く。

庶務係

企画調査係

人事係

学術情報係

第4条 会計課に次の係を置く。

総務係

出納係

用度係

施設係

第5条 学生課に技術室及び次の係を置く。

教務係

学生係

寮務係

第6条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け、本校の事務を処理する。

第7条 庶務課、会計課及び学生課にそれぞれ課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

第7条の2 庶務課に専門員を置く。

2 専門員は、上司の命を受け、課等の所掌事務のうち専門知識又は経験を必要とする特定分野の事務を処理するとともに専門的見地から上司を補佐する。

第7条の3 学生課に技術専門員を置くことができる。

2 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

第7条の4 学生課に学務担当専門職員及び技術専門職員を置く。

2 学務担当専門職員は、上司の命を受け、学務に関する専門知識又は経験を必要とする事務を処理する。

3 技術専門職員は、技術室の業務を処理する。

第8条 庶務課、会計課及び学生課の各係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第9条 庶務課、会計課及び学生課の各係に主任を置くことができる。

2 主任は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

第3章 所掌事務

第10条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。

二 機密に関すること。

三 儀式その他の会議に関すること。

四 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。

五 内地研究員及び海外先進教育研究実践支援プログラム等による外国への派遣に関すること。

六 外国の大学等との交流に関すること。

七 学術団体との連絡に関すること。

八 渉外に関すること。

- 九 公文書類の接受，発送，編集及び保管に関する事。
- 十 公印の管守に関する事。
- 十一 科学研究費等，その他学術研究費に関する事。
- 十二 民間等との共同研究及び受託研究に関する事。
- 十三 研究助成に関する事。
- 十四 広報活動に関する事。
- 十五 中期目標・中期計画に関する事。
- 十六 知的財産に関する事。
- 十七 発明に関する事。
- 十八 公開講座に関する事。
- 十九 メディア教育センターの事務に関する事。
- 二十 地域共同テクノセンターの事務に関する事。
- 二十一 情報公開に関する事。
- 二十二 情報セキュリティーに関する事。
- 二十三 個人情報に関する事。
- 二十四 職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関する事。
- 二十五 職員の給与及び諸手当に関する事。
- 二十六 職員の定員に関する事。
- 二十七 職員の研修及び勤務評定に関する事。
- 二十八 職員の健康管理，福祉，身分証明及び災害補償に関する事。
- 二十九 共済組合の長期給付及び退職手当に関する事。
- 三十 栄典，表彰に関する事。
- 三十一 人事記録に関する事。
- 三十二 図書館資料の受入並びに整理及び保存等に関する事。
- 三十三 図書館資料の閲覧，貸出等利用に関する事。
- 三十四 研究紀要及び文献等の交換に関する事。
- 三十五 事務用電子計算機に関する事。
- 三十六 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 三十七 自動車の維持及び運用に関する事。
- 三十八 校内警備取締りに関する事。
- 三十九 その他，他の課の所掌に属しない事務を処理する事。

第11条 会計課においては，次の事務をつかさどる。

- 一 予算及び決算に関する事。
- 二 債権の管理に関する事。
- 三 物品の管理に関する事。
- 四 会計の監査に関する事。
- 五 支出及び契約に関する事。
- 六 預り金及び有価証券に関する事。
- 七 所得税等の徴収に関する事。
- 八 不動産の管理及び処分に関する事。
- 九 土地，建物の借入に関する事。
- 十 職員の宿舎に関する事。
- 十一 科学研究費の経理に関する事。
- 十二 受託研究等外部資金に関する事。
- 十三 共済組合（長期給付を除く。）に関する事。
- 十四 土地，建物及び工作物の整備復旧に関する事。
- 十五 土地，建物及び工作物の維持保全に関する事。
- 十六 学校環境の整備保全に関する事。
- 十七 労働安全衛生業務に関する事。
- 十八 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十九 その他会計経理及び営繕に関する事務を処理する事。

第12条 学生課においては，次の事務をつかさどる。

- 一 入学者の選抜に関する事。
- 二 学生の修学指導に関する事。
- 三 教育課程の編成及び授業に関する事。
- 四 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- 五 学生の学籍に関する事。
- 六 学生の実習に関する事。

- 七 ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- 八 学生の課外活動に関する事。
- 九 学生及び学生団体の指導監督に関する事。
- 十 学生に対する奨学金、授業料等免除及び徴収猶予に関する事。
- 十一 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- 十二 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- 十三 学生に対する職業指導及び就職のあっせんに関する事。
- 十四 学生の諸届及び諸証明に関する事。
- 十五 学生の生活指導及び生活相談に関する事。
- 十六 学生の安全管理に関する事。
- 十七 学生の表彰及び懲戒に関する事。
- 十八 学生旅客運賃割引証に関する事。
- 十九 学生寮の管理運営に関する事。
- 二十 学生の入退寮に関する事。
- 二十一 寮生の指導監督に関する事。
- 二十二 寮食堂の管理運営に関する事。
- 二十三 独立行政法人日本学生支援機構の事務に関する事。
- 二十四 独立行政法人日本スポーツ振興センターの事務に関する事。
- 二十五 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 二十六 その他教務、学生補導、寮務及び技術室の事務に関する事。

第13条 各課各係及び技術室における事務分掌は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和47年4月1日から施行する。
- 2 昭和41年4月1日から施行の松江工業高等専門学校事務組織規則は、廃止する。

・・・略・・・

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-②-4

松江工業高等専門学校事務分掌規則

昭和43年1月1日 制定施行

平成17年4月1日 最終改正

(目的)

第1条 この規則は、松江工業高等専門学校事務組織規則第13条の規定に基づき、松江工業高等専門学校事務部各課各係及び技術室における所掌事務の分掌を定めることを目的とする。

(事務分掌)

第2条 専門員は、次の事務をつかさどる。

- 一 学校運営の企画及び調査に係る専門的事項に関する事。
- 二 自己点検及び自己評価に係る専門的事項に関する事。
- 三 中期目標・中期計画の作成に関する事。
- 四 訟務に関する事。
- 五 その他課の所掌事務のうち、重要な調査、企画及び連絡調整に関する事。

第3条 庶務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 学校の事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- 二 儀式、会議その他諸行事に関する事。
- 三 学則、その他諸規則の制定及び改廃に関する事。
- 四 公印の管守に関する事。
- 五 公文書類の收受、発送に関する事。
- 六 公文書類の整理保存に関する事。
- 七 日誌及び沿革誌等の記録保存に関する事。
- 八 渉外に関する事。
- 九 職員の身分証明その他、他の係に属しない証明に関する事。
- 十 職員の健康管理及び福利厚生に関する事。
- 十一 職員の勤務時間及び休暇等に関する事。
- 十二 宿直、日直に関する事。
- 十三 職員の出張に関する事。
- 十四 秘書事務に関する事。
- 十五 郵便切手類の受払に関する事。
- 十六 内地研究員に関する事。
- 十七 海外先進教育研究実践支援プログラム等による外国への派遣に関する事。
- 十八 情報公開に関する事。
- 十九 個人情報に関する事。
- 二十 自動車の維持及び運用に関する事。
- 二十一 校内の警備取締りに関する事。
- 二十二 校内の清掃に関する事。
- 二十三 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 二十四 その他、他の係に属しないこと。

第4条 企画調査係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 地域共同テクノセンターが行う技術相談及び各種講演会等に関する事。
- 二 民間等との共同研究及び受託研究の受入れに関する事。
- 三 外国の大学等との交流に関する事。
- 四 研究助成の受入れに関する事。
- 五 科学研究費、その他学術研究費に関する事。
- 六 寄附金の受入れに関する事。
- 七 学校の広報活動に関する事。
- 八 公開講座に関する事。
- 九 知的財産の管理に関する事。
- 十 発明に関する事。
- 十一 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十二 その他企画調査に関する事。

第5条 人事係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 職員の任免、分限、懲戒及び服務等に関する事。
- 二 職員の給与及び諸手当の決定に関する事。
- 三 職員の定員及び級別定数に関する事。
- 四 人事記録に関する事。

- 五 職員の勤務評定に関する事。
- 六 職員の研修に関する事。
- 七 職員の兼業に関する事。
- 八 職員の栄典及び表彰に関する事。
- 九 職員の労働者保険及び雇用保険に関する事。
- 十 退職手当に関する事。
- 十一 共済組合の長期給付に関する事。
- 十二 職員の労働安全衛生（教育）に関する事。
- 十三 労働組合に関する事。
- 十四 財産形成貯蓄に関する事。
- 十五 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十六 その他人事に関する事。

第6条 学術情報係は、次の事務をつかさどる。

- 一 メディア教育センターが行う会議、その他所掌事務に関する事。
- 二 事務用電子計算機に関する事。
- 三 情報セキュリティーに関する事。
- 四 情報処理室に関する事。
- 五 図書を購入、受入れ、整理及び保管に関する事。
- 六 図書の閲覧、貸出しに関する事。
- 七 研究紀要に関する事。
- 八 文献等の交換に関する事。
- 九 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十 その他図書に関する事。

第7条 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 会計課の所掌事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- 二 会計機関の命免に関する事。
- 三 予算の要求に関する事。
- 四 予算の配分及び経理並びに決算に関する事。
- 五 支出及び契約の確認に関する事。
- 六 旅費及び謝金の支出に関する事。
- 七 財産の寄付及び借入に関する事。
- 八 職員の宿舎に関する事。
- 九 防災に関する事。
- 十 共済組合（長期給付を除く。）に関する事。
- 十一 会計の監査に関する事。
- 十二 受託研究の契約に関する事。
- 十三 民間等との共同研究の契約に関する事。
- 十四 労働安全衛生業務に関する事。
- 十五 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十六 その他会計課の他の係に属しないこと。

第8条 出納係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 債権の管理に関する事。
- 二 収入及び支出に関する事。
- 三 給与及び退職手当等の支出に関する事。
- 四 給与及び諸手当等の支払に関する事。
- 五 所得税等の徴収に関する事。
- 六 現金及び有価証券の出納保管に関する事。
- 七 収入、支出の決算に関する事。
- 八 共済組合の出納に関する事。
- 九 預り金の処理に関する事。
- 十 科学研究費等の経理及び委任経理に関する事。
- 十一 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十二 その他出納に関する事。

第9条 用度係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 物品の購入、修繕及び役務等の支出負担行為に関する事。
- 二 物品の管理に関する事。
- 三 光熱水料及び電話料の経理に関する事。
- 四 物品の売払及び貸付に関する事。

- 五 物品の寄付受入れに関する事。
- 六 競争参加資格審査に関する事。(用度係の所掌事務に属するもの。)
- 七 科学研究費等の契約に関する事。
- 八 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 九 その他用度に関する事。

第10条 施設係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 営繕工事の契約及び支出に関する事。
- 二 施設整備に係る計画、設計・積算及び施工管理に関する事。
- 三 施設・設備の計画及び維持保全に関する事。
- 四 不動産の管理及び処分に関する事。
- 五 競争参加資格審査に関する事。(施設係の所掌事務に属するもの。)
- 六 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 七 その他施設に関する事。

第11条 学務担当の専門職員は、次の事務をつかさどる。

- 一 入学者の選抜に係る専門的事項に関する事。
- 二 学生の修学指導に係る専門的事項に関する事。
- 三 教育課程の編成及び授業に係る専門的事項に関する事。
- 四 学生の課外活動に係る専門的事項に関する事。
- 五 学生の就職に係る企画、立案及び連絡調整に関する事。
- 六 その他課の所掌事務のうち、重要な調査、企画及び連絡調整に関する事。

第12条 技術室においては、学科、メディア教育センター及び実習工場の次の業務をつかさどる。

- 一 実験及び実習の技術指導に関する事。
- 二 実験室、メディア教育センター及び実習工場の機器類の保安全管理に関する事。
- 三 実験・実習用諸材料の準備及び保管に関する事。
- 四 実験及び実習の安全確保に関する事。
- 五 教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に関する事。
- 六 教育研究の支援に関する事。
- 七 技術の継承及び保存に関する事。
- 八 技術研修の調査研究、企画及び連絡調整に関する事。
- 九 所掌業務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十 その他技術室に関する事。

第13条 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 学生課の所掌事務に関し、総括し及び連絡調整すること。
- 二 教育課程の編成及び授業に関する事。
- 三 学生の募集及び入学者の選抜に関する事。
- 四 学生の入学、退学、転学、留学、休学及び卒業に関する事。
- 五 学生の進級及び卒業の認定に関する事。
- 六 学生の学業成績並びに定期試験等に関する事。
- 七 学生の指導要録の整理記録及び保管に関する事。
- 八 学生の修学における諸行事の編成に関する事。
- 九 学生の校外実習に関する事。
- 十 教科書及び教材に関する事。
- 十一 学生の諸届及び諸証明に関する事。
- 十二 ファカルティ・ディベロップメントに関する事。
- 十三 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十四 その他教務に関する事。
- 十五 その他学生課の他の係に属しないこと。

第14条 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 学生の生活指導及び生活相談に関する事。
- 二 学生の課外教育に関する事。
- 三 学生会その他学生団体の指導に関する事。
- 四 学生の厚生施設の管理運営に関する事。
- 五 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- 六 独立行政法人日本スポーツ振興センターの事務及び学生の安全管理に関する事。
- 七 学生に対する就職指導及び就職のあっせんに関する事。
- 八 独立行政法人日本学生支援機構及びその他奨学金に関する事。
- 九 入学科、授業料の免除及び徴収猶予に関する事。
- 十 学生の表彰及び懲戒に関する事。

- 十一 学生の集会、掲示及び印刷物の配付に関する事。
- 十二 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関する事。
- 十三 外国人留学生に関する事。
- 十四 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十五 その他学生の厚生補導に関する事。

第15条 寮務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 寄宿舍（寮）の施設・設備の保全等に関する事。
- 二 学生の入寮及び退寮に関する事。
- 三 寮生の生活指導及び生活相談に関する事。
- 四 寮生の健康管理に関する事。
- 五 寮生の安全管理に関する事。
- 六 寮の宿日直に関する事。
- 七 寄宿料の免除及び徴収猶予に関する事。
- 八 寮食堂の管理運営に関する事。
- 九 寮生会の指導に関する事。
- 十 所掌事務の調査統計及び諸報告に関する事。
- 十一 その他寮務に関する事。

附 則

この規則は、昭和43年1月1日から施行する。

．．．略．．．

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 11-1-②-5

松江工業高等専門学校実践教育支援センター規則

平成14年4月1日 制定

平成17年4月1日 最終改正

(設置)

第1条 松江工業高等専門学校に、教育及び研究に対する技術支援を行うため、松江工業高等専門学校実践教育支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

第2条 センターは、技術に関する専門的業務を円滑かつ効果的に処理するとともに、技術職員（施設系の技術職員を除く。以下同じ。）の能力及び資質の向上を図り、もって教育研究支援体制の充実に努めることを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 教育及び研究に対する技術支援の基本計画の策定に関すること。
- 二 技術の継承及び保存並びに技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施等に関すること。
- 三 学生の実験、実習、卒業研究の技術指導及び安全確保に関すること。
- 四 教育及び研究に対する技術支援に関すること。
- 五 技術資料の作成、保管及び提供等に関すること。
- 六 機器等の保守・管理並びに災害防止に関すること。
- 七 所掌業務の調査統計及び諸報告に関すること。
- 八 その他センターの技術分野について必要な事項に関すること。

(組織)

第4条 センターは、センター長及び技術室をもって組織する。

- 1 センター長は教務主事をもって充て、センターの業務を統轄する。
- 2 技術室は、センターの業務を遂行する。
- 3 第一技術班は、第3条の業務のうち機械系に関する業務を分掌し遂行する。
- 4 第二技術班は、第3条の業務のうち電気、電子及び情報系に関する業務を分掌し遂行する。
- 5 第三技術班は、第3条の業務のうち土木系に関する業務を分掌し遂行する。

(センター運営委員会)

第5条 センターの運営に関し、必要事項を審議するため、松江工業高等専門学校実践教育支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - 一 センター長
 - 二 技術室長
 - 三 主査
 - 四 その他校長が必要と認める者
- 3 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 5 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させることができる。

(センターの利用)

第6条 センターの利用に関して必要な事項は、別に定める。

(センターの事務)

第7条 センターの事務は、技術室において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、センターに必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 松江工業高等専門学校テクノ教育支援センター規則（平成14年4月1日制定）は、廃止する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 11-1-②-6

松江工業高等専門学校実践教育支援センター運営委員会規則

平成14年4月1日 制定
平成17年4月1日 最終改正

(趣旨)

第1条 松江工業高等専門学校実践教育支援センター規則第7条第2項の規定に基づき、この規則を定める。

(審議事項)

第2条 松江工業高等専門学校実践教育支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 実践教育支援センターの管理運営に関すること。
- 二 その他必要と認められる事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 技術室長
- 三 主査
- 四 その他校長が必要と認める者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、技術室において処理する。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 松江工業高等専門学校テクノ教育支援センター運営委員会規則（平成14年4月1日制定）は、廃止する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営上の諸課題を審議・検討するため課題の性質に応じ各種委員会が設置されており、各委員会の任務・審議事項などは、各委員会の設置規則により定められている。

主要な委員会の委員長は、校長、副校長及び校長補佐が務めており、また、委員会における審議・検討内容は必要に応じ、個別に校長に報告されるとともに、運営委員会に報告されている。このように、校長のリーダーシップの下、各委員会が役割を適切に分担し、円滑な校務運営がなされている。

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校は、機構が設置・運営する高等専門学校である。このため、機構の理事長、役員会などが定めた規則等と、それを受けて本校が定めた規則及び内規等により、校務運営及び事務処理を行っている。

本校が定めている規則などは、平成16年4月の機構設立に伴い、それまでの規則などを見直し、規則の改正及び制定を行った。

現在、管理運営の諸規則を含め100件の規則（資料11-1-③-1）、48件の内規等（資料11-1-③-2）を整備している。これらの規則等については、本校のホームページに掲載し、教職員が利用しやすいようにしている。

資料 11-1-③-1

規則 目次

平成18年4月1日 現在

学則

01 松江工業高等専門学校学則

組織・運営

02 松江工業高等専門学校運営組織規則

03 松江工業高等専門学校専攻科規則

04 松江工業高等専門学校企画総務室規則

05 松江工業高等専門学校学校協議会規則

06 松江工業高等専門学校運営委員会規則

07 松江工業高等専門学校専攻科委員会規則

08 松江工業高等専門学校自己点検・評価規則

09 松江工業高等専門学校運営評議会規則

10 松江工業高等専門学校広報委員会規則

11 松江工業高等専門学校将来計画検討委員会規則

12 松江工業高等専門学校教員会議規則

13 松江工業高等専門学校事務組織規則

14 松江工業高等専門学校事務分掌規則

15 松江工業高等専門学校安全管理委員会規則

16 松江工業高等専門学校安全衛生委員会規則

17 松江工業高等専門学校経費節減対策推進委員会規則

18 松江工業高等専門学校職員レクリエーション委員会規則

19 松江工業高等専門学校情報公開委員会規則

20 松江工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則

21 松江工業高等専門学校ホームページ運営規則

22 松江工業高等専門学校事務電算化委員会規則

23 松江工業高等専門学校訪問外国人研究者規則

24 松江工業高等専門学校内地研究員派遣規則

25 松江工業高等専門学校放射線障害防止管理規則

26 松江工業高等専門学校放射線障害防止委員会規則

27 松江工業高等専門学校環境汚染等防止対策委員会規則

28 松江工業高等専門学校防火管理規則

29 松江工業高等専門学校防火対策委員会規則

30 松江工業高等専門学校外部資金受入審査会規則

31 松江工業高等専門学校知的財産規則

32 松江工業高等専門学校庁舎管理規則

33 松江工業高等専門学校寄宿舍規則

34 松江工業高等専門学校施設の有効活用に関する規則

35 松江工業高等専門学校施設管理委員会規則

36 松江工業高等専門学校教務委員会規則

- 37 松江工業高等専門学校学生委員会規則
- 38 松江工業高等専門学校寮務委員会規則
- 39 松江工業高等専門学校留学生委員会規則
- 40 松江工業高等専門学校進路指導委員会規則
- 41 松江工業高等専門学校職業紹介業務運営規則
- 42 松江工業高等専門学校職業紹介業務に係る個人情報適正管理委員会
- 43 独立行政法人日本学生支援機構松江工業高等専門学校委員部規則
- 44 松江工業高等専門学校学生相談室規則
- 45 松江工業高等専門学校本科入試委員会規則
- 46 松江工業高等専門学校専攻科入試委員会規則
- 47 松江工業高等専門学校J A B E E委員会規則
- 48 松江工業高等専門学校F D委員会規則
- 49 松江工業高等専門学校カリキュラム委員会規則
- 50 松江工業高等専門学校国際交流委員会規則
- 51 松江工業高等専門学校予算委員会規則
- 52 松江工業高等専門学校A O委員会規則

庶務

- 53 松江工業高等専門学校文書処理規則
- 54 松江工業高等専門学校公印規則
- 55 松江工業高等専門学校職員の休暇、超過勤務等の取扱いに関する規則
- 56 松江工業高等専門学校職員の健康安全管理細則
- 57 松江工業高等専門学校当直規則
- 58 松江工業高等専門学校名誉教授称号授与規則
- 59 松江工業高等専門学校公開講座規則
- 60 松江工業高等専門学校技術専門官・技術専門職員選考規則
- 61 松江工業高等専門学校教員人事構想委員会規則
- 62 松江工業高等専門学校教員選考規則

会計

- 63 松江工業高等専門学校契約担当役等の補助者の任命に関する規則
- 64 松江工業高等専門学校授業料等の徴収事務取扱規則
- 65 松江工業高等専門学校金庫看守規則
- 66 松江工業高等専門学校不動産監守規則
- 67 松江工業高等専門学校不動産一時使用規則
- 68 松江工業高等専門学校会計監査実施規則
- 69 松江工業高等専門学校電気保安規則
- 70 松江工業高等専門学校受託研究取扱規則
- 71 松江工業高等専門学校寄附金委任経理事務取扱規則
- 72 松江工業高等専門学校共同研究取扱規則
- 73 松江工業高等専門学校毒物及び劇物取扱規則
- 74 松江工業高等専門学校物品管理事務取扱規則

教務・学生

- 75 松江工業高等専門学校学生準則
- 76 学業成績評価並びに課程修了及び卒業の認定等に関する規則
- 77 松江工業高等専門学校入学料免除及び徴収猶予取扱規則
- 78 松江工業高等専門学校授業料及び寄宿料の免除等に関する規則
- 79 松江工業高等専門学校研究生規則
- 80 松江工業高等専門学校聴講生等規則
- 81 松江工業高等専門学校科目等履修生規則
- 82 松江工業高等専門学校外国人留学生規則
- 83 外国の高等学校又は大学への留学に関する規則
- 84 松江工業高等専門学校寄宿舎宿日直規則
- 85 松江工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
- 86 松江工業高等専門学校産業教育内地留学生規則
- 87 松江工業高等専門学校学生会準則
- 88 松江工業高等専門学校学生会会則
- 89 松江工業高等専門学校寮生会会則

メディア教育センター

- 90 松江工業高等専門学校メディア教育センター規則
- 91 松江工業高等専門学校メディア教育センター運営委員会規則
- 92 松江工業高等専門学校図書委員会規則
- 93 松江工業高等専門学校情報ネットワーク委員会規則
- 94 松江工業高等専門学校マルチメディア教育委員会規則
- 95 松江工業高等専門学校図書館規則
- 96 松江工業高等専門学校図書館文献複写規則
- 地域共同テクノセンター
- 97 松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則
- 98 松江工業高等専門学校機器整備委員会規則
- 実践教育支援センター
- 99 松江工業高等専門学校実践教育支援センター規則
- 100 松江工業高等専門学校実践教育支援センター運営委員会規則

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 11-1-③-2

内規等目次

平成18年4月1日 現在

庶務

- 01 松江工業高等専門学校事務系職員採用選考内規
- 02 松江工業高等専門学校当直者勤務心得
- 03 松江工業高等専門学校守衛服務内規
- 04 出張命令取扱内規
- 05 松江工業高等専門学校自動車運用管理内規
- 06 松江工業高等専門学校における技術職員の組織等に関する内規
- 07 松江工業高等専門学校電気自動車管理内規
- 08 松江工業高等専門学校名誉教授称号授与規則の運用に関する内規
- 09 パーキングゲートシステムの取扱いについて
- 10 松江工業高等専門学校自動車運用管理内規の運用について
- 11 松江工業高等専門学校教員選考手続きについて
- 12 松江工業高等専門学校校内規則等取扱要領
- 13 事務部連絡会に関する申合せ
- 14 松江工業高等専門学校産学官連携コーディネーター取扱要領
- 15 松江工業高等専門学校における事務系非常勤職員の取扱いについて
- 16 非常勤講師の採用に関する取扱いについて
- 17 松江工業高等専門学校イベント担当専門部会内規

会計

- 18 松江工業高等専門学校旅費支給内規
- 19 松江工業高等専門学校旅費受領代理人払の事務取扱要領
- 20 松江工業高等専門学校授業料等の督促要領
- 21 松江工業高等専門学校債権発生等通知事務取扱要領
- 22 松江工業高等専門学校事務電子計算機使用内規
- 23 特別管理産業廃棄物等管理基準
- 24 松江工業高等専門学校経費節減対策実施要領
- 25 松江工業高等専門学校経費節減対策推進委員会要領
- 26 構内安全監視システムの取扱いについて
- 27 入退館管理システムの取扱いについて
- 28 科学研究費補助金取扱要項

教務・学生

- 29 松江工業高等専門学校再入学の出願及び選考に関する内規
- 30 松江工業高等専門学校学生の表彰に関する内規
- 31 松江工業高等専門学校合宿研修施設使用内規
- 32 松江工業高等専門学校就職事務取扱要領
- 33 松江工業高等専門学校休業期間中の生活心得
- 34 松江工業高等専門学校交通安全心得
- 35 松江工業高等専門学校課外活動用スキー使用心得
- 36 松江工業高等専門学校校内施設の課外使用心得

- 37 松江工業高等専門学校体育施設，器具使用心得
- 38 松江工業高等専門学校ゼミナール室，視聴覚室使用心得
- 39 松江工業高等専門学校福利施設使用内規
- 40 松江工業高等専門学校寮生避難要領
- 41 松江工業高等専門学校マイクロバス使用内規
- 42 松江工業高等専門学校入学料免除及び徴収猶予選考基準
- 43 松江工業高等専門学校PCワーキングエリア利用内規
- 44 「システム技術」教育プログラムにおける他の教育機関等において修得した授業科目及び単位等の取扱要領
- 45 J A B E E 基準修得のための授業科目の履修に関する内規
- 46 専攻科の終了要件に関する内規
- 47 松江工業高等専門学校学生会細則
- 48 松江工業高等専門学校寮生会細則

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

(分析結果とその根拠理由)

本校では，平成16年4月の機構の設立に伴い，規則等を全面的に見直すとともに，その後も必要に応じ，所要の改正などを行っている。

以上のことから，管理運営の諸規則等が整備されている。

観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では，本校の教育・研究及び管理・運営等に関し，広く学外の有識者から意見を求めるため，「松江工業高等専門学校運営評議会規則」（資料11-2-①-1）を平成17年1月に制定し，教育に関し広くかつ高い識見を有する外部有識者を校長が委嘱し，現在まで運営評議会を1回開催した。

この運営評議会は，平成17年3月に開催され，本校の現状や機構の中期目標・中期計画等に関する各種資料を配付して，校長から概要説明を行った後，全体討論が行われた。運営評議会の討論内容は，資料のとおり議事録として取り纏められている。（資料11-2-②-2）

この運営評議会での外部有識者からの提言・意見を本校の教育・研究，学校運営の改善・改革にどのように反映すべきかについて検討しているところである。

資料 11-2-①-1

松江工業高等専門学校運営評議会規則

(平成17年1月25日 制 定)

(設置)

第1条 松江工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の教育・研究及び管理・運営等に関し、広く学外の有識者から意見を求めるため、松江工業高等専門学校運営評議会(以下「運営評議会」という。)を置く。

(評議員)

第2条 運営評議会の評議員は、本校の職員以外で、教育に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱する。

2 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、校長が必要と認めるときは、評議員の任期を2年未満とすることができる。

3 評議員に欠員が生じた場合の補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第3条 運営評議会は、必要に応じて開催する。

2 運営評議会に、議長を置き、評議員の互選によりこれを定める。

3 議長は、運営評議会の会務を総理する。

4 運営評議会は、評議員の2分の1以上の出席をもって成立する。

5 運営評議会には、本校から次の各号に掲げる者を出席させる。

- 一 校長
- 二 教務主事、学生主事及び寮務主事
- 三 企画総務室長
- 四 専攻科長
- 五 各学科長
- 六 事務部長
- 七 庶務課長、会計課長及び学生課長

6 議長が必要と認めるときは、運営評議会に評議員及び前項に掲げる者以外の者を出席させ、意見を求めることができる。

(事務)

第4条 運営評議会に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、運営評議会の運営に関し必要な事項は、運営評議会が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年1月25日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 11-2-①-2

第1回松江工業高等専門学校運営評議会議事録

日 時 平成17年3月10日(木) 14:00～17:30

場 所 松江工業高等専門学校特別会議室

出席者 評議員 高等教育機関
 高安 克己 氏 (島根大学理事(副学長))
 地域教育関係
 坪内 孝満 氏 (坪内グループ法人会会長)
 地方自治体
 岩城 広次 氏 (財団法人しまね産業振興財団専務理事)
 産業界
 稲塚 公郎 氏 (松江土建株式会社代表取締役社長)
 本校OB (C5期卒)
 小笠原正景 氏 (おがさわら法律事務所弁護士)

本 校 宮本武明校長
 藤原 豊副校長 (企画総務室長)
 築谷隆雄副校長 (専攻科長)
 福間眞澄教務主事
 岡本信之学生主事
 高橋 栄寮務主事
 宮下眞也一般人文科学科長
 高木健司一般自然科学科長
 郡原 宏機械工学科長
 恒次秀起電気工学科長
 亀谷 均電子制御工学科長
 岡本裕幸情報工学科長
 宇野和男環境・建設工学科長
 大坂 豊事務部長
 藤井純朗庶務課長
 赤澤正人会計課長
 源 憲治学生課長

欠席者 本 校 山崎 肇技術室長

日 程 14:00 委嘱状交付式
 14:03 開会 校長挨拶

本校出席者紹介
 評議員自己紹介
 日程及び資料説明
 議長選出

- 14:10 松江高専概要説明
- ・高専の最近の状況等
 - ・松江高専の管理運営組織と財政状況
 - ・教務関係・J A B E E 事項
 - ・学生関係事項
 - ・寮務関係事項
 - ・専攻科関係事項
- 15:10 中期計画について
- 15:35 休憩
- 15:50 教育・研究環境視察
- 16:25 全体討論・提言
- 17:20 評議員による講評
- 17:40 閉会 校長謝辞

(出典 松江工業高等専門学校運営評議会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、外部有識者の意見などを受ける場として、運営評議会を設けている。

平成17年3月に行われた運営評議会での提言・意見は、自己点検・評価委員会等の関連委員会において検討を開始したところである。

以上のことから、外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されるシステムは整備されており、提言内容を教育・研究、学校運営の改善・改革にどのように反映させていくかについて、運営評議会後の各委員会において対処している。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点到係る状況)

本校では平成9年に「松江工業高等専門学校自己点検・評価規則」（資料11-3-①-1）を制定し、継続的かつ組織的に教育活動の現状把握から改善方策まで取り組んでいる。平成6年12月に「松江工業高等専門学校の現状と課題－自己点検・自己評価－」（資料11-3-①-2）を、平成10年7月に「自己点検・評価報告書」（資料11-3-①-3）を発行した。

平成14年3月には、外部評価委員を委嘱し第1回目の外部評価委員会を開催した。その評価対象資料は「松江工業高等専門学校外部評価委員会－外部評価資料集－」（資料11-3-①-4）として、評価結果は、平成14年6月に「外部評価報告書－『学んで創れるエンジニア』－」（資料11-3-①-5）として学外に公表した。

また、平成18年2月には、第2回目の外部評価委員会を開催した。その評価対象資料は「松江工業高等専門学校自己点検・自己評価書」（資料11-3-①-6）として、評価結果は平成18年3月に「外部評価報告書」（資料11-3-①-7）として学外に公表した。

なお、平成6年12月の「松江工業高等専門学校の現状と課題－自己点検・自己評価－」、平成10年7月の「自己点検・評価報告書」、平成14年6月の「外部評価報告書－『学んで創れるエンジニア』－」、平成18年2月の「松江工業高等専門学校自己点検・自己評価書」は、本校ホームページ上に掲載し広く社会に公表している。（資料11-3-①-8）

平成15年度には、次年度から始まる国立高専の法人化に伴って、「中期計画」（資料11-3-①-9）を策定した。平成16年度の法人化初年度から、自己点検・評価委員会で年度ごとに中期計画に基づく本校の活動状況を点検評価している。

資料 11-3-①-1

松江工業高等専門学校自己点検・評価規則

平成 9年4月1日 制 定
平成 18年4月1日 最終改正

（趣旨）

第1条 この規則は、松江工業高等専門学校（以下「本校」という。）が高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）第3条に規定する自己点検・評価を実施するため、必要な事項を定めるものとする。

（委員会）

第2条 本校に、次に掲げる事項を審議するため、自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 一 自己点検・評価の基本方針、実施基準、実施方法等の策定に関すること。
- 二 自己点検・評価の実施及び結果の公表に関すること。
- 三 その他自己点検・評価に関し必要な事項

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 企画総務室長
- 三 専攻科長
- 四 教務主事，学生主事，寮務主事及び学生相談室長
- 五 各学科長
- 六 広報委員長
- 七 メディア教育センター長
- 八 地域共同テクノセンター長
- 九 事務部長
- 十 その他校長が必要と認める者

2 前項第十号の委員の任期は校長がその都度定める。

3 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

（会議）

第4条 委員会は、委員長が召集し、議長は委員長をもってこれに充てる。

2 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させることができる。

（実施組織）

第5条 自己点検・評価の具体的な実施方策の企画及び検討、資料収集及び分析、報告書作成の実務等を行う組織は、次の各号のとおりとする。

- 一 各学科
- 二 委員会が指定する各委員会及び各センター
- 三 事務部

（自己点検・評価結果の公表）

第6条 自己点検・評価の結果は、定期的に報告書を作成し、公表するものとする。

(プロジェクトの設置)

第7条 認証評価、外部評価及び運営評議会を円滑に実施するため、プロジェクトを置くことができる。

2 プロジェクトの実施組織については、企画総務室長がその都度定める。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規定に定めるもののほか、委員会に必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年5月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 11-3-①-2

松江工業高等専門学校の現状と課題
- 自己点検・自己評価 -

平成6年12月

松江工業高等専門学校

(出典 自己点検・自己評価書)

資料 11-3-①-3

自己点検・評価報告書

平成10年7月

松江工業高等専門学校

(出典 自己点検・自己評価書)

資料 11-3-①-4

松江工業高等専門学校外部評価委員会
外部評価資料集



平成14年3月4日(月)

松江工業高等専門学校

(出典 外部評価資料集)

資料 11-3-①-5

外部評価報告書

—「学んで創れるエンジニア」育成のために—



平成14年6月

松江工業高等専門学校

(出典 外部評価報告書)

資料 11-3-①-6

松江工業高等専門学校
自己点検・自己評価書



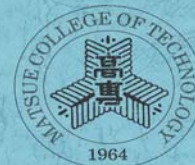
平成18年2月

松江工業高等専門学校

(出典 自己点検・自己評価書)

資料 11-3-①-7

第2回 外部評価報告書

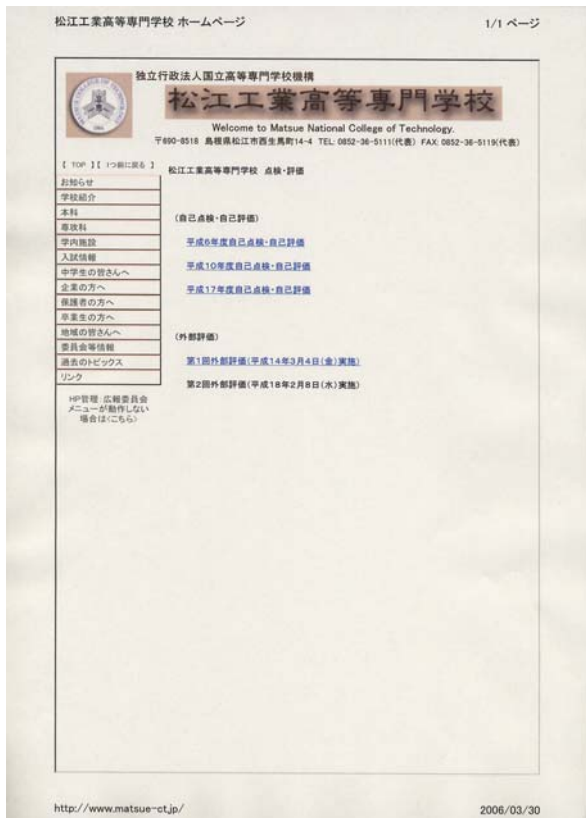


平成18年3月

松江工業高等専門学校

(出典 外部評価報告書)

資料 11-3-①-8



(出典 松江高専 HP)

資料 11-3-①-9

「中期計画」

松江工業高等専門学校

(出典 中期計画)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、現在までに自己点検・評価に関する報告書を2冊、外部評価報告書を2冊公表した。従来から自己点検・評価の体制を整備し、改革改善に取り組んでいる。

観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

(観点到に係る状況)

外部評価委員会による第三者評価を受け、平成14年6月に報告書を公表するとともに、教員会議に報告された。その提言・意見は外部評価委員会に出席した各委員会委員長が所掌分野に該当する部分の提言・意見を持ち帰りフィードバックして検討し改善に結び付けている。

平成16年度の法人化に伴い中期目標・中期計画の策定が必要になり、企画総務室で検討を重ね本校の「中期計画」を取り纏めた。また、機構が公表している機構の中期目標・中期計画の年度ごとの進捗状況に関しては、企画総務室が該当する委員会の状況を収集のうえ、本校の進捗状況について取り纏めている。

(分析結果とその根拠理由)

第三者評価での提言・意見が組織的にフィードバックされている。第三者評価での提言・意見をどのように解決し、その後どう措置したかについては、論点整理の後、各委員会で対処しているが、改善結果を報告書として取り纏めるまでには至っていない。

今後、評価結果が確実にフィードバックされ、その後の措置が目的達成にどのように結び付いたか更に検証する努力が必要である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学校協議会、運営委員会、教員会議及び各種委員会等の管理運営体制及び事務組織が機能的に整備され、校長のリーダーシップの下、効果的な意思決定が行われている。また、校長を補佐する体制として、副校長・校長補佐が配置され、複雑多岐に渡る校務運営の課題に適切に対応している。また、各種委員会には、事務部長をはじめ事務職員も加わっており、校長を支援する体制が整っている。

外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されるシステムは整備されており、提言内容を教育・研究、学校運営の改善・改革に反映させていく方策について各委員会において検討している。

(改善を要する点)

外部有識者による評価での提言・意見が組織的にフィードバックされて、検討されているが、その後の措置が目的達成にどのように結び付いたか更に検証する努力が必要である。

(3) 基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するための組織として、専門的事項の立案・検討・調整などのために、各種の委員会がおかれている。校長が最高責任者として意思決定を行うための補佐体制として、副校長2名（企画総務室長、教務主事）、校長補佐3名（学生主事、寮務主事及び専攻科長）を置いている。主要な委員会の委員長は、校長、企画総務室長、教務主事、学生主事、寮務主事及び専攻科長が務め、校長の運営方針等が具体的施策に反映できるように、また委員会等での審議結果が責任を持って実施できる体制をとっている。また、校長、副校長、校長補佐、事務部長及び各課長を含めて学校協議会を構成し、学校運営の重要案件の処理に当たって、校長を適切に補佐している。

実際の管理運営に当たっては、内部組織の諸規則も整備され、学内の各部門における多岐に渡る課題が企画・実行される体制が整い、適切に機能している。また、事務部においても、常に各種委員会等に参画し、学校運営への支援体制を有効に機能させている。学内Webでの情報公開や教員会議・事務部連絡会などで重要な事項は周知され、全教職員が情報を共有すると共に、管理運営に対する意識の向上を図っている。

外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されるシステムとして、平成6年から4年ごとに「自己点検・自己評価書」に基づく第三者評価を行い、さらに、平成16年度の法人化後からは、中期計画に基づく本校の活動状況を「運営評議会」で点検評価する体制は整備された。点検・評価の結果は報告書にまとめられ、学内外へ公表されている。これらの自己点検・評価の結果や提言を踏まえ、関係する各委員会において再検討し、教育・研究や学校運営の改善・改革へ結びつけている。

IV 選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校は、平成14年度に専攻科が設置され、従来に増して教員の研究活動に対する比重が高まり、専攻科の学生の特別研究あるいは準学士課程の学生卒業研究に反映されるような研究活動の充実が不可欠となった。一方、平成16年度の高専の独立行政法人化にともなって、研究シーズを背景とした地域貢献も重要な位置付けを占めるにいたっている。

以上の視点から、教育に貢献でき、地域社会にも貢献できる教員の研究ポテンシャルの高さが必要となってきた。これを受け学内の基礎的研究成果をさらに発展させ、地域の特性と地域企業のニーズを的確に捉え、工業技術等の研究開発を学科の枠を越えて推進するために次のとおり研究に関する目標及び方針を策定している。

【松江高専における研究に関する目標・方針】

本校の教育目標を達成するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。

このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

組織としては、本校における新技術・高度技術の教育研究機能の充実を図り、地域との連携交流による研究開発を推進することを目的として「地域共同テクノセンター」を設置し、産学官交流の拠点として、地域企業との交流に関する学外諸団体との連絡窓口として、民間機関との共同研究等を通して地域への技術的貢献を積極的に行い、地域社会の発展に貢献することを目指す。また、本校と地域企業とで構成する本校を支援するための外部組織として「松江テクノフォーラム」を設置し、本校と地域産業界との交流を深めることにより、地域と地域産業の活性化を目指すと同時に本校における教育、研究が向上発展することを目指す。

また、これらの連携を通して実践的技術者を育成する観点から、教員個々人が独自に進めてきた基礎的研究をさらに発展させ、地域の特性に密着した研究テーマを卒業研究や特別研究のテーマに取り入れ、教育・研究の活性化・高度化を図り、その成果等を教育研究・教育方法に反映させる。

選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

平成16年4月から施行されている独立行政法人国立高等専門学校機構法には、「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」が目的と定められており、その業務として、学生の教育だけでなく「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究を実施すること、及びその他の機構以外の者との連携により教育研究活動を行うこと。」及び「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。」が規定されている。本校ではその趣旨に基づき、社会との連携及び国際交流に関する目標・方針を定めている。

【松江高専における社会との連携及び国際交流に関する目標・方針】

本校では、社会・地域に貢献できる創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニアを教育理念として掲げている。このことから教育研究活動において、地域のニーズに即した課題に積極的に取り組み、成果を地域社会に還元するとともに、本校学生に校外実習等の機会を積極的に提供し、実践的技術力の向上と社会性の養成につとめる。また、本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる。国際交流についても留学生を積極的に受け入れるとともに本校学生の海外研修を推進する。

上記以外に、本校は

- ・ 平成17年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムの「地域活性化への貢献（地元密着型）」に申請し採択された。この内容の一部は、地域活性化に貢献することをひとつの目的としている。
- ・ NHKアイデア対決ロボットコンテストに早期より参加し、平成16年度には全国大会優勝するなど好成績を挙げてきた。このため、県内各地よりロボットの実演や、実験指導の依頼が多い。これは地域小・中学校などの科学への興味を喚起することと、本校情報の周知を目的としている。
- ・ 全国プログラミングコンテストで、平成15,16年度に文部科学大臣賞を受賞するなど好成績を収め、その一部のシステム内容は地域企業から実用化に向けて支援を受けている。これは、地域活性化に貢献することをひとつの目的としている。

選択的評価事項A

研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校は教育理念「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」に基づいて、教育目標「『学んで 創れる エンジニア』の育成」を掲げている。目標は「教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」を持ったエンジニアの育成をめざしている。この目標の達成には教員が常に最新の教育や研究の動向を把握し、継続的に自らの向上に努めることが欠かせない。そのため、本校では「自己研鑽（研究）に関する目標・方針」を定め（資料 A-1-①-1 本評価事項の目的を再掲）この方針に対応して全学的な研究体制、研究支援体制を作り、実施している。研究活動を推進する学内機関としては、平成14年4月に設置された専攻科の存在が大きい。そのため、校長補佐3名のうち1名を専攻科長とし、その役割は専攻科の充実を図るとともに、本校全体の研究活動の充実を図る役割を担っている。さらに、専攻科は電子情報システム工学専攻と生産・建設システム工学専攻の2専攻があり、専門とする分野が異なるため、それぞれの専攻に副専攻科長2名を置く体制をとっている。

また、地域と連携しながら研究活動などを推進する目標として、「社会との連携及び国際交流に関する目標・方針」を定めている。（資料 A-1-①-2）平成8年に設置した地域共同テクノセンター（旧称；新技術教育研究センター）はこの方針を実現するための中核となる学内組織である。地域共同テクノセンターでは、学科の枠を超えた研究活動の推進、また、地域社会との産官学連携を基本とした研究の推進を行い、共同研究をはじめとする学外資金導入の促進を図っている。（資料 A-1-①-3）

地域共同テクノセンターは、産学連携室、技術相談・支援担当、研究開発・支援担当のほかに、①材料開発部門、②生産システム部門、③計測制御部門、④環境・建設部門、⑤情報・通信部門の5つの部門を設けている。地域共同テクノセンターには、センター長、副センター長、産学連携室長を配置している。センターの運営には、この三名のほかにセンター員や機器整備委員長を加えて的確な企画・運営に努めている。センター員の中には、平成16年度から地元自治体の協力により「産学コーディネーター」を客員講師として迎えており、共同研究など非常に大きな推進力となっている。

研究の企画・実施にあたっては、学科間の壁が低いという高専の特徴を生かした教員間の連携によるプロジェクト研究に対してプロジェクト研究費の配分やプロジェクト研究助成制度などの施策を進めている。（資料 A-1-①-4）また、各教員への基礎研究費の配分においては、専攻科の特別研究や準学士課程の卒業研究指導の実績に見合う配分を行うなど、徹底した研究活動充実のための施策をとっている。そのほかにも、技術的な支援体制として、技術職員からなら実践教育支援センターがあり、ここでは教育のみならず、研究の支援も行う体制になっている。

教員の研究業績や各種学会・研究会の委員などの対外的研究活動については、教育・研究活動年報として毎年発行している「Annual Report」に詳しく掲載している。

表紙

（資料 A-1-①-5）

教員の研究テーマ (資料 A-1-①-6) A～G

各種学会・研究会委員 (資料 A-1-①-7) A～C

資料 A-1-①-1

【松江高専における研究に関する目標・方針】

本校の教育目標を達成するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。

このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

(出典 学校要覧 2006)

資料 A-1-①-2

【松江高専における社会との連携及び国際交流に関する目標・方針】

本校では、社会・地域に貢献できる創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニアを教育理念として掲げている。このことから教育研究活動において、地域のニーズに即した課題に積極的に取り組み、成果を地域社会に還元するとともに、本校学生に校外実習等の機会を積極的に提供し、実践的技術力の向上と社会性の養成につとめる。また、本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる。国際交流についても留学生を積極的に受け入れるとともに本校学生の海外研修を推進する。

(出典 学校要覧 2006)

資料 A-1-①-3

松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

平成17年4月1日 制定
平成18年4月1日 最終改正

(目的)

第1条 松江工業高等専門学校に、新技術・高度技術の教育研究機能の充実を図り、地域との技術交流による研究開発を推進するため、学内共同利用教育研究施設として、松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第2条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学外との共同研究，受託研究等の実施に関すること。
- 二 地域社会への技術指導，情報サービスの提供に関すること。
- 三 学内共同研究の推進に関すること。
- 四 技術講演会，技術講演に関すること。
- 五 卒業研究の支援等に関すること。
- 六 教育研究のための機器の計画，利用に関すること。
- 七 その他センターが必要と認める業務に関すること。

(組織)

第3条 センターに、前条に掲げる業務を処理するため、次の室，担当及び部門を置く。

- 一 産学連携室
- 二 技術相談・支援担当
- 三 研究開発・支援担当
- 四 材料開発部門
- 五 生産システム部門
- 六 計測制御部門
- 七 環境・建設部門
- 八 情報・通信部門

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 産学連携室長
- 四 その他校長が必要と認める者

(センター長，副センター長及び産学連携室長)

第5条 センター長，副センター長及び産学連携室長は，校長が任命する。

- 2 センター長は，センターの業務を掌握する。
- 3 副センター長及び産学連携室長は，センター長を補佐する。
- 4 センター長，副センター長及び産学連携室長の任期は2年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

(センター員)

第6条 第4条第四号の職員（以下「センター員」という。）は校長が任命する。

- 2 センター員はセンターの業務にあたる。
- 3 センター員の任期は1年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第7条 センターの運営に関し，必要な事項を審議するため，松江工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - 一 第4条に掲げる者
 - 二 機器整備委員長
- 3 運営委員会は，センター長が招集し，その議長となる。
- 4 運営委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させることができる。

(機器整備委員会)

第8条 教育研究のための機器の整備，管理に関し必要な事項を審議するため，松江工業高等専門学校機器整備委員会（以下「機器整備委員会」という。）を置く。

- 2 機器整備委員会に関する規則は、別に定める。
 (センターの利用)
 第9条 センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。
 (センターの事務)
 第10条 センターの事務は、庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
 2 松江工業高等専門学校新技術教育研究センター規則(平成8年10月16日制定)及び松江工業高等専門学校新技術教育研究センター運営委員会規則(平成8年10月16日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 A-1-①-4

松江工業高等専門学校産学官連携コーディネーター取扱要領

平成16年4月14日 校長裁定
 平成17年4月 1日 最終改正

(趣旨)

第1 この要領は、松江工業高等専門学校(以下「本校」という。)における民間等との共同研究・受託研究(以下「共同研究等」という。),技術相談等の産学官連携事業を活性化する産学官連携コーディネーター(以下「コーディネーター」という。)を受け入れる場合の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(職務)

第2 コーディネーターは、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 地方自治体、試験研究機関及び民間企業等(以下「地方自治体等」という。)のニーズ、技術相談に基づく共同研究等の企画・立案・調整に関すること
- 二 本校の研究シーズの広報に関すること
- 三 共同研究に向けての研究会の開催に関すること
- 四 その他産学官連携の推進に関すること

(委嘱等)

第3 コーディネーターの委嘱は、地域共同テクノセンター運営委員会の推薦に基づき、校長が行う。

2 コーディネーターの委嘱手続は、別紙様式により本人へ通知するものとする。

3 任期は1年以上1年以内とする。ただし、必要がある場合は延長し、又は短縮することが出来る。

(報告)

第4 コーディネーターは、毎月、月末までに当月の職務の内容について、地域共同テクノセンター長に報告するものとする。

(秘密の保持)

第5 コーディネーターは、第2に定める職務を遂行する過程で知り得た地方自治体等及び本校の経営上又は技術上の秘密を第三者に開示、漏洩してはならない。さらに、自己又は第三者の利益のために利用してはならない。

(施設等の利用)

第6 コーディネーターは、職務遂行上必要がある場合には、本校の施設、設備等を利用することができる。

(客員教授等)

第7 校長は、必要に応じて、コーディネーターに客員教授又は客員助教授の名称を委嘱期間中付与することができる。

(雑則)

第8 この要領に定めるもののほか、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

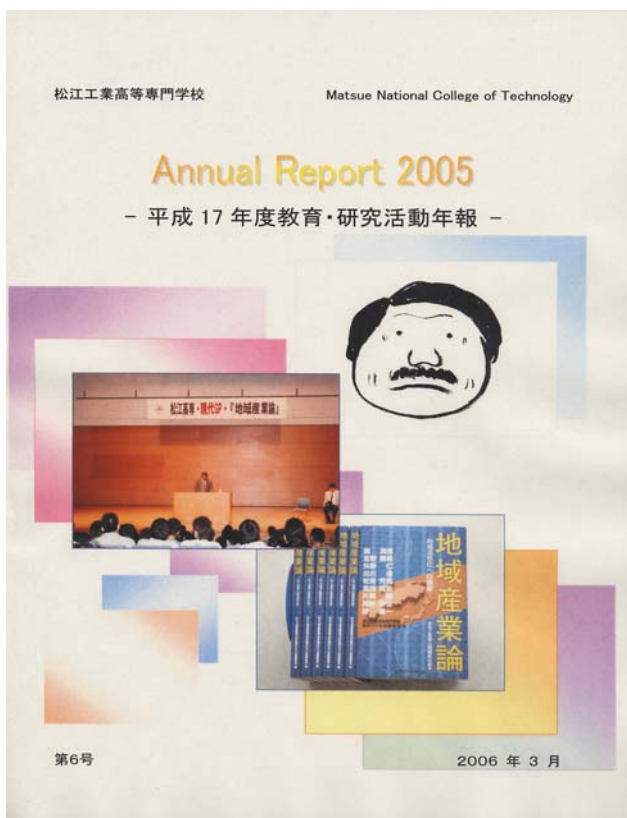
この要領は、平成16年4月14日から施行する。

附 則

この要領は、平成17年4月1日から施行する。

(出典 松江工業高等専門学校 規則集)

資料 A-1-①-5



(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 A

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1 教員の専門分野と研究紹介

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
河原 健次	教授 (体育)		保健・体育	① スポーツにおける全身反応時間についての研究 ② ラグビー・ゲームの研究 ③ 運動と心拍数の研究
高橋 栄	教授 (英語)		アメリカ文学 英語教育	① ジョン・スタインベック作品論 ② シャーウッド・アンダンソン作品論 ③ コミュニカティブ・アプローチ論
松井 秀宜	助教授 (国語)		国文学 漢文学	① 中世世伝説話 ② 作文・長編小説読解教育
黒田 祐一	助教授 (社会)	理学修士	地理学	① 地名の分布と特色 ② 『出雲国風土記』地名 ③ 環境認識と地名
宮下 慎也	助教授 (英語)	教育学 修士	認知言語学 語用論 英語教育	① 語用論的視点からみた英語研究 ② 認知心理学的研究 ③ 言語の伝達機能を重視した英語教育 ④ 英語映画教育
森山 恭行	助教授 (体育)		保健・体育	① エキスパートボールの指導について ② 古武術に学ぶ効率的な身体運用方法について
森田 正利	助教授 (体育)	体育学 修士	保健・体育	① 折り返し走に関する基礎的研究 ② 短距離走における疾走フォームに関する縦断的研究
飯島 睦美	助教授 (英語)	文学修士 (英語教育)	英語教育 英語学	① 英語科教育法 ② 認知言語学的視点からの言語教育 ③ 英語学
山根 繁樹	助教授 (国語)	修士 (文学)	日本近代文学	① 日野啓三作品の研究 ② 1980年代以降の日本文学についての研究
岩田 淳	助教授 (英語)	修士 (文学)	英語教育 アメリカ文学	① マルチメディアを利用した英語教育 ② CALL 教材開発 ③ Tennessee Williams 作品研究
鳥谷 智文	助教授 (社会)	修士 (文学)	日本史	① 奈良時代・平安時代における儀礼の特性 ② 島根県の歴史 ③ たたら製鉄史の研究 ④ 社会科教育
Patricia Murrow	助教授 (英語)	理学修士	英語教育 比較文化論	① Language Teaching methodologies and curriculum development ② Environmental Impact Assessment
服部 真弓	助教授 (英語)		英語教育 英語学	① 英語辞書学 ② 英語科教育法
山崎 真克	助教授 (国語)	修士 (文学)	和歌文学	① 院政・鎌倉期和歌及び歌論の研究 ② 和歌・歌論資料のデータベース化に関する研究
名原 千絵	助手 (英語)		英語教育	① 英語映画教育 ② 英語学

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 B

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1.2 数理科学科

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
勝部 豊	教授 (数学)	理学博士	位相幾何学	① リー群の右向多様体への作用についての研究 ② 基礎学力育成のための工学学習カリキュラムについて
岡本 信之	教授 (数学)	教育学 修士	代数学 数学教育	① Semigroup ② 数学教育におけるコンピュータの活用について ③ 数学に対する情意的特性について
東原 哲男	教授	理学博士	気相化学反応	① 炭化水素の燃焼中に生成する窒素酸化物(NOx)の生成機構 ② 炭化水素の熱分解及び酸化反応機構の研究
高木 健司	助教授 (物理)		流体工学	① 分岐損失の研究 ② 直管出口付近の管内流れ
中村 元	助教授 (数学)	博士 (理学)	関数解析学	① Banach 空間の幾何学的研究 ② 半線型半群の感分可能性に関する研究
高見 昭康	助教授 (数学)	博士 (工学)	計算力学 数学教育	① 連続体構造物の形状最適化解析システムの研究開発 ② 数学教育におけるコンピュータの活用について ③ 習熟度別授業展開における課題と展望について
中村 賢仁	助教授	博士 (理学)	宇宙物理学	① 降着円盤ガスの流体力学的研究 ② 磁気流体数値実験
村上 亨	助教授 (数学)	修士 (教育学)	統計学 数学教育	① 数学教育におけるコンピュータの活用について ② 統計教育の新たな役割について ③ 習熟度別授業展開における課題と展望について
高橋 弘	講師 (数学)	博士 (理学)	確率過程論	① ランダムな環境中の確率過程について ② 自己相似性を持つ確率過程について
武蔵 勝道	助手	博士 (理学)	地質学 地球化学	① 奥出雲地域の土壌の化学組成 ② 中海・宍道湖へのヘドロ分析 ③ 鉄鋼橋梁に付着した塩分組成と土質の関係

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 C

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1.3 機械工学科

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
渡部 正気	教授	工学博士	材料力学 機械材料	① 耐腐蝕、耐食、耐熱材の破壊機構と強度評価 ② 拡散処理による機能性被膜の開発
坪合 公治	教授	博士 (工学)	機械要素 機械工作	① 歯車の歯げり強度および面圧強度に関する研究 ② 歯車の歯げり疲労強度の AE 特性 ③ ギヤホーニングに関する研究
郡原 宏	教授	博士 (工学)	機械要素	① 円弧歯形フェースギヤに関する研究 ② 角形スプライン歯切り用ホブ二重に関する研究
門脇 健	助教授	工学修士	内燃機関 熱流体工学	① スターリングエンジンの試作研究 ② 曲がり管路内流れに関する研究 ③ 多成分燃料油滴列の蒸発燃焼に関する研究
利光 和彦	教授	博士 (工学)	熱流体工学 航空宇宙推進工学	① 高効率風車の開発研究 ② PIV 計測の複雑熱流体流れへの適用 ③ 予混合乱流炎に関する研究
天野 順	助教授	工学修士	材料力学	① X線残留応力測定に関する研究 ② マニピュレータの最適設計に関する研究
高尾 学	助教授	博士 (工学)	流体工学	① 管開口端から放出される衝撃騒音の低減法 ② 放電発音空気タービンの開発 ③ 往復型型インクロータービンによる呼気量計測
藤岡 美博	助教授	博士 (工学)	計測・制御工学	① 振動環境下での質量計測 ② 変動的2足歩行に関する研究
山根 清美	助教授	博士 (工学)	トライロジー 流体力学	① 分子気体潤滑に関する研究 ② 分子液体潤滑に関する研究
新野盛幸市	助手	博士 (工学)	金属材料	① ナタン系軽金属耐熱材料の開発
本間寛己	助手	博士 (工学)	熱工学 伝熱工学	① 吸着冷凍サイクルの高効率化に関する研究 ② 廃食油混合燃料の燃焼特性に関する研究

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 D

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1.4 電気工学科

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
梁谷 隆雄	教授	博士(工学)	通信工学 電子回路	① アナログ・デジタル信号処理 ② 能動回路網の合成に関する研究
恒次 秀起	教授	博士(工学)	光通信工学 マイクロエレクトロニクス工学	① 光通信機能部品の研究 ② ヒューマンコミュニケーションの研究
福岡 眞澄	教授	博士(工学)	電気・電子材料工学	① 空間電荷分布測定技術に関する研究
別府 俊幸	教授	博士(医学) 博士(工学)	計測・制御工学	① ソーラーボートの研究 ② ソーラーカーの開発 ③ 電動車椅子の研究
宮内 肇	助教授	工学修士	電力工学	① 絶縁材料内部の空間電荷分布と絶縁破壊についての研究
箕田 充志	助教授	博士(工学)	高電圧工学 電気・電子材料工学 電力工学	① 極低温における電気絶縁設計に関する研究 ② 大型ヘリカルコイルの電気絶縁設計に関する研究 ③ 環境モニタリングシステムに関する研究 ④ 高電圧の利用に関する研究
衣笠 保智	講師	博士(工学)	信号処理 電子回路	① 適応デジタルフィルタに関する研究 ② 能動フィルタの散乱行列に基づく構成法に関する研究
渡邊 修治	講師	博士(工学)	パワーエレクトロニクス	① 並列型大容量電圧発生用電圧のデジタル制御に関する研究 ② 電力系に対する障害電流補償に関する研究 ③ ソフトスイッチング技術応用に関する研究
片山 優	助手	博士(学術)	制御工学	① PID制御系の高度化・知能化に関する研究

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 E

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1.5 電子制御工学科

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
吉田 剛	教授	工学博士	計測・制御工学	① 角速度センサを用いたクレーンの振れ角制御
飯倉 邦輔	教授		機械材料	① ステンレス鋼の熱処理
堀江 克明	教授		機械システム 自動化技術	① 福祉機器の開発(姿勢変換・移動サポート技術) ② 機械振動エネルギー回収技術の開発 ③ からくり人形の機構に関する研究
藤原 豊	教授	博士(工学)	経営工学	① 経営工学における最適化問題に関する研究 ② 人工筋肉を用いたアクチュエータの開発 ③ 二足歩行ロボットに関する研究 ④ 福祉型モバイルロボットの開発
高橋 信雄	教授	博士(工学)	電力工学 電子機器工学	① 高調波対策を考慮した電子安定器の開発 ② フジイ理論による調波制御 ③ 水質環境計測のための観測船制御システムの開発
亀谷 均	教授	工学博士	計測工学 光応用計測	① 非接触計測技術に関する研究 ② 呼吸量計測に関する研究 ③ CTに関する研究
長澤 潔	助教授	工学修士	制御工学 ロボティクス マイクロニクス	① マイクロマシンのダイナミクス解析 ② 非線形現象の解析とコントロール ③ ロボット用触覚センサの開発と応用研究
今尾 浩也	助教授	博士(工学)	超電導工学 電気・電子材料工学	① Bi系酸化物超電導バルク体の高品質化 ② Bi系酸化物超電導結晶の大型化 ③ 酸化物超電導体表面への電極形成
松本 浩介	助教授	博士(工学)	超伝導工学 電気・電子材料工学	① 超伝導/強磁性材料における超伝導特性研究 ② 高酸化物超伝導薄膜に関する研究
幸田憲明	助教授	博士(工学)	ソフトコンピューティング 電子機器工学	① 強化学習による運動最適化に関する研究 ② ワイヤレスセンサネットワークの研究
戴 鳳智	助手	博士(工学)	制御・情報工学	① Fuzzy control と画像処理による飛行船の自律航行 ② Neuro-Fuzzy とパターン認識による自律移動ロボットの制御

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 F

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1.6 情報工学科

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
岡本 裕幸	教授	博士(工学)	画像情報工学	① 個人識別システムの開発 ② 物体追跡システムの開発 ③ 学生実験用画像処理システムの開発
藤井 諭	教授	技術士(情報処理部門) 博士(情報学)	情報工学	① 遠隔教育システムの研究開発 ② 3D 仮想空間に関する研究 ③ e-Learning におけるデータベースシステムの研究
福岡 久雄	教授	博士(工学)	情報工学	① 分散コンピューティングシステムに関する研究 ② データ圧縮符号に関する研究
越田 高志	助教授	技術士(情報工学部門) 博士(工学)	情報システム工学	① 分散情報システムに関する研究 ② B2B 及び Web サービスシステムに関する研究 ③ データベース連動型設計/生産自動化システムに関する研究
原 元司	助教授	博士(工学)	情報ネットワーク	① ネットワーク認証システムに関する研究 ② 教育用オープンプラットフォーム環境構築に関する研究 ③ 負荷分散型ルーティングに関する研究
堀内 匡	助教授	博士(工学)	知能情報学	① 進化的計算による最適化に関する研究 ② 機械学習・パターン認識の応用に関する研究 ③ Web データベースの応用に関する研究
田邊 喜一	助教授	博士(工学)	画像情報工学	① 画像処理による瞬目の自動計測に関する研究 ② 視覚・運動系反応に基づく認知過程の評価に関する研究
渡部 徹	講師	博士(工学)	知能情報学	① ニューラルネットワークに関する研究 ② 点字翻訳の自動化に関する研究 ③ 指紋照合システムに関する研究
和田守美穂	講師	博士(工学)	知能情報学	① 音声・音声認識を用いたシステムの開発 ② 音声、音響信号を対象としたデジタル信号処理に関する研究
加藤 聡	助手	修士(情報科学)	知能情報学	① ニューラルネットワークによる多次元データの分類 ② パターン認識の理論と応用

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-6 G

5. 研究活動 Annual Report 2005 教員の専門分野と研究紹介

5.1.7 環境・建設工学科(土木工学科)

氏名	職名	学位	専門分野	研究テーマ
上田 務	教授	工学修士	土木環境システム	① 各種資材を利用した水の浄化 ② 有機性廃泥の分解再利用 ③ 土壌内部での汚濁物質の動向
金子大二郎	教授	博士(工学)	水圏環境学 都市環境学 リモートセンシング	① 衛星を用いた穀物生産量予測法の開発 ② 都市の熱環境の衛星観測と CO ₂ 排出量影響の評価 ③ 水田の CO ₂ 固定と CH ₄ 排出量の推定
宇野 和男	教授		土木環境システム 土木計画学	① 土木計画のための地域分析 ② 水環境の多変量解析 ③ 産業廃棄物を活用した構生実験
高田 龍一	教授	農学博士	環境材料学 材料工学 生物資源工学	① コンクリートの凍結融解劣化診断手法に関する研究 ② 炭ガラスに起因するアルカリ骨材反応の抑制方法に関する研究 ③ 未利用資源のコンクリートへの有効利用に関する研究 ④ 機能性コンクリートの開発(植生コンクリート等)
小島 肇	教授		土木材料 コンクリート工学	① 山砂(花崗岩類の風化堆積土から製造)を用いたコンクリートの性質について ② 鈣塩処理を用いたコンクリートの性質について
河原莊一郎	助教授	博士(工学)	土質工学 地盤工学 土木施工	① 地盤地盤の地震動と地震被害に及ぼす影響に関する研究 ② 土砂斜面の土石の運動に関する研究 ③ 落石墜上上の数秒級衝撃への落石の衝撃応答に関する研究
淺田 純作	助教授	博士(工学)	災害社会学 地域計画	① 災害時における即時対応の効率化に関する研究 ② 住民の地域に対する住み良さを感に関する研究 ③ 社会活動が災害関連生態系に与える影響の予測モデル構築に関する研究
木村 一郎	助教授	博士(工学)	水理学 河川工学 数値流体力学	① 良好な水環境創出のための水制御装置に関する水理学的研究 ② 柱状構造物周辺の乱流組織構造に関する数値解析的研究 ③ 閉鎖性水域の環境動態予測モデルの開発 ④ 開水路乱流の非線形解析モデルに関する研究
大屋 誠	講師	博士(工学)	構造工学 災害社会学	① 鉄筋コンクリートシェル構造物の耐力推定に関する研究 ② 既設耐震性構築に関する研究 ③ 旧工による防災システム構築に関する研究
柴田 俊文	助手	博士(工学)	構造工学 衝撃工学 計算工学	① 局所変形を考慮した構造物の衝撃解析 ② 杭の横方向地震反力係数の逆解析 ③ EFGM による水-土連成解析
寺本 敦子	助手	博士(工学)	河川環境工学 河川工学	① 河道変遷に関する研究 ② 砂州地形と低水路形成に関する研究 ③ 河道特性が及ぼす流域破堤過程への影響の検討

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-7 A

研究活動	Annual Report 2005	教員の活動状況
5.4 教員の活動状況		
5.4.1 学協会委員		
校長		
宮本武明 国立高等専門学校機構 教育・FD委員会、学生支援委員会、委員 セルロース学会名誉会長 繊維学会名誉会員 武漢大学東湖分校（中国）名誉教授		
人文科学科		
岩田 淳 高専IT教育コンソーシアム、中国地区運営委員、運営委員会委員長補佐 IT教育支援協議会、情報連絡委員会委員		
鳥谷智文 相良英輔先生退職記念論集刊行委員会、委員(2005.11～) 鳥根史学会、幹事(2006.2～)		
数理工学		
高橋 弘 American Mathematical Society, Mathematical Reviews, Reviewer (2005)		
機械工学科		
郡原 宏 (社)日本機械学会 2005年度(第83期)校閲委員(2005.4～2006.3) 精密工学会中国四国支部 2005年度評議員		
高尾 学 ターボ機械協会、ハイブリッド発電技術分科会委員		
電気工学科		
築谷隆雄 電子情報通信学会、基礎・境界ソサイエティ論文誌、査読委員 (2005.4～2006.3) International Journal of Electronics, Reviewer (2005) International Journal of Electronics and Communications, Reviewer (2005) Computers and Electrical Engineering, Reviewer (2005) Circuits, Systems and Signal Processing, Reviewer (2005) IEE Proceedings on Circuits, Devices and Systems, Reviewer (2005) ETRI Journal, Reviewer (2005) Analog Integrated Circuits and Signal Processing, Reviewer (2006)		

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-7 B

研究活動	Annual Report 2005	教員の活動状況
恒次秀起 電子情報通信学会、ソサイエティ論文誌、査読委員 (2005.4～2006.3) 電子情報通信学会、電子通信用語(基礎編)小委員会、委員 (2005.4～2006.3)		
衣笠保智 電子情報通信学会、和文論文誌、査読委員 (2005.4～2006.3) International Conference on Communications, Circuits, and Systems, Reviewer (2005)		
渡邊修治 電気学会、ソフトウェア技術とその実用化動向調査専門委員会、委員(2005.4～) 電気学会、産業応用部門誌(論文誌D, D1グループ)、査読委員(2005.10～)		
電子制御工学科		
藤原 豊 日本経営工学会、中国四国支部評議員 (2005.4～2006.3)		
高橋信雄 照明学会、中国支部評議員 (2004.4～2006.3) IEEE Proceedings Electric Power Applications, Reviewer (2005.4～2006.3)		
今尾清也 日本技術者教育認定機構技術者教育プログラム認定・審査員 (2005.8～2006.4) 最先端技術・材料の開発に関する研究会、幹事 (2005.4～2006.3)		
松本浩介 最先端技術・材料の開発に関する研究会、委員 (2005.4～2006.3)		
飯 風智 International Journal of Artificial Life and Robotics, Reviewer (2005)		
情報工学科		
岡本裕幸 精密工学会、論文査読委員 (2004.4～2006.3)		
藤井 諭 教育システム情報学会中国支部、幹事 (2004.4～2005.3)		
越田高志 A Special Issue of Journal of Information Systems and e-Business Management, Reviewer (2005)		
原 元司 電気学会、電子・情報・システム部門誌、論文委員 (2005.4～2006.3)		
堀内 正 電気学会、電子・情報・システム部門誌、査読委員 (2005.7～2006.3) システム制御情報学会、論文誌、査読委員 (2005.7～2005.9) 情報処理学会、論文誌「数理モデル化と応用」、査読委員 (2005.8～2006.3) 日本応用数理学会、論文誌、査読委員 (2006.2～2006.3)		
田邊喜一		

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-①-7 C

研究活動	Annual Report 2005	教員の活動状況
電子情報通信学会、和文論文誌D-1、査読委員 (2005.8～2005.9)		
環境・建設工学科		
高田龍一 日本コンクリート工学会、中国支部常任委員 (2005.8～) 日本コンクリート工学会、資源の有効利用とエネルギーの削減に関する研究委員会、委員 (2005.11～) 農業土木学会、材料施工研究部会、幹事 (2005.4～) 農業土木学会、土地改良施設に関する性能および機能検討委員会、委員 (2005.4～) 土木学会、土木学会中国支部島根会、幹事長(2005.4～)		
河原庄一郎 土木学会中国支部、技術相談員 (2005.4～2006.3) 地盤工学会中国支部、論文報告集「地盤と建設」、査読委員 (2005.4～2006.3)		
浅田純作 土木学会、流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会、幹事 (2004.4～2006.3)		
木村一郎 土木学会、応用力学委員会、乱流研究小委員会、委員 (2005.4～2006.3) 土木学会、水工学委員会、基礎水理部会、委員 (2005.4～2006.3) 土木学会、中国支部幹事会、幹事、(2005.4～2006.3) 土木学会、中国支部、瀬戸土木遺産選考委員会、島根県ブロック代表委員、(2005.4～2006.3) 土木学会論文集、査読委員 (2005.6～2006.1) 日本流体力学会、学会誌「ながれ」編集委員 (2005.4～2005.5) 3rd International Conference on Scour and Erosion, Amsterdam, Advisory board member (2005.10～) Journal of Hydrosience and Hydraulic Engineering, Reviewer (2005) Fluid Dynamics Research, Reviewer (2005.7～2006.2) 国土技術研究センター、河床変動システム検討会、メンバー (2005.4～2006.3)		
大屋 誠 土木学会、土木学会中国支部島根会、事務局 (2005.4～)		
柴田俊文 土木学会、構造物の性能照査型耐衝撃設計に関する研究小委員会、委員 (2005.4～) 土木学会、応用力学委員会計算力学小委員会、委員 (2005.4～)		
寺本敦子 土木学会、水工学委員会、河川部会、委員 (2005.9～)		

(出典 Annual Report 2005)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育理念に基づいた教育目標『学んで 創れる エンジニア』の育成に沿った研究や地域貢献に関して「自己研鑽（研究）に関する目標・方針」や「社会との連携及び国際交流に関する目標・方針」を定めている。実施にあたっては、専攻科や地域共同テクノセンターを中心にして研究の推進や支援体制を整えている。

プロジェクト研究費や研究助成制度などの施策を進め、学科の壁の少ない高専の利点を活かした効果的な研究費の配分を行うことで、限られた研究経費と人員の中で、研究活動の活性化が図られている。

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

自己点検・自己評価書（資料 A-1-②-1）の表1に最近5カ年間の教員による研究成果などの発表状況を示している。全教員数79名を分母に考えると、1人あたり査読論文、国際会議での発表が3年で2報程度、学会発表は、年間3報程度の発表となっている。これらの中には教員単独のものもあるが、専攻科生、卒研生の発表によるものも多く含まれている。専攻科が設置された平成14年度以降の学会発表件数が大きく伸びていることからうかがえる。表2に専攻科生による研究成果発表状況を示している。特に、専攻科生に対しては2カ年間に最低1回の学外発表を修了要件としているが、そのほとんどが各種学会で発表しており、2カ年で2回程度の発表を行っている。このように、専攻科の充実が本校の研究ポテンシャルの向上に大きく貢献している。図1に本校教員の学位取得状況を示している。近年、博士号の学位取得が急増している。研究に対する意識レベルの高まりと専攻科生への指導資格などがこうした傾向を生み出していると考えられる。

図2は科学研究費の申請および採択の状況を示している。平成13年度以降、申請件数、採択件数、交付額のいずれも大きく伸びてきている。研究費は、従来のように与えられるものでなく、自らが確保するという姿勢が根付いてきたものと考えられ、研究ポテンシャルの向上には非常に有意義な傾向であるととらえられる。

図3から図6は、共同研究をはじめとする外部資金導入の推移、さらには技術相談件数の推移を示している。いずれも13年度以降、飛躍的に増加している。このことは、地域共同テクノセンターを中心とした活動から生まれたものが多く、地域貢献に対する意識の高まりととらえることができ、地域貢献の面からも研究ポテンシャルの高まりが計り知れる。

「Annual Report」に研究成果発表状況（資料 A-1-②-2）、会議の開催協力（資料 A-1-②-3）、受賞状況（資料 A-1-②-4）、外部研究費受入状況（資料 A-1-②-5）及び活動状況一覧（資料 A-1-②-6）を掲載している。

平成17年度には文部科学省が助成公募した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の「地域活性化への貢献（地域密着型）」部門へ地域共同テクノセンターが中心となって応募し、「地域ニーズ対応型教育の実践」の取り組みが採択を受けることとなった。この取り組みは、地域ニーズを専攻科の特別研究や本科の卒業研究に取り込んだ地域密着型研究と、地域にゆかりのある産業界の第1線で活躍されている方を講師に招き、基礎学問と地域産業との接点を学生を中心に講義をいただく「地域産業論」の2本の柱からなっている。地域密着型研究の1例を資料（資料 A-1-②-7）に示す。この採択は、本校の研究シーズを基礎にした地域貢献に対する期待が高く評価されたものと考えられる。

資料 A-1-②-1 A

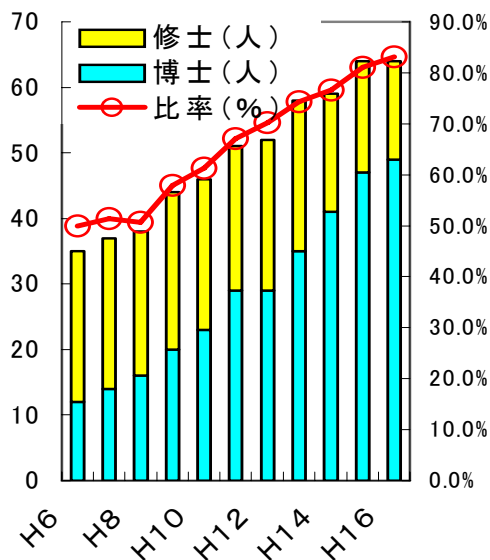
表1 最近5カ年の研究成果等の発表状況

年度	著書	査読論文	国際会議	学会発表
平成12年度	9	41	20	56
平成13年度	5	36	38	93
平成14年度	4	34	32	137
平成15年度	4	56	50	196
平成16年度	6	49	57	200

表2 専攻科生の研究成果等の発表

年度	H14年度	H15年度	H16年度
国際会議	2	4	4
口頭発表	26	54	57
技術報告	3	14	11
その他	3	42	40
専攻科生の受賞	3	5	7

図1 教員の学位取得状況



(出典 松江工業高等専門学校 自己点検・自己評価書 平成18年)

資料 A-1-②-1 B

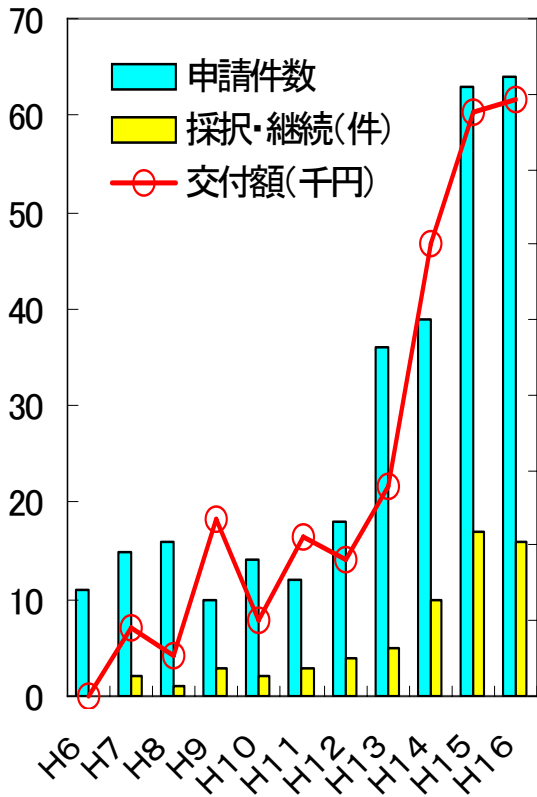


図2 文部科学省化学研究費補助金の推移

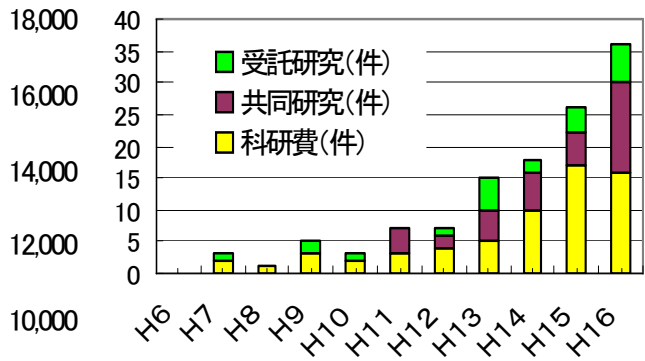


図3 共同研究等の件数の推移

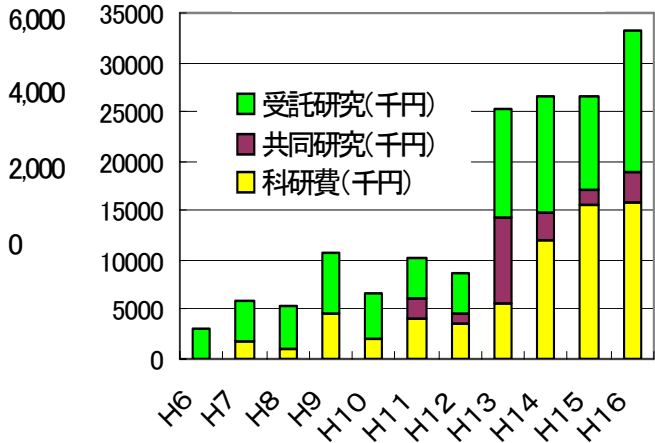


図4 共同研究等の金額の推移

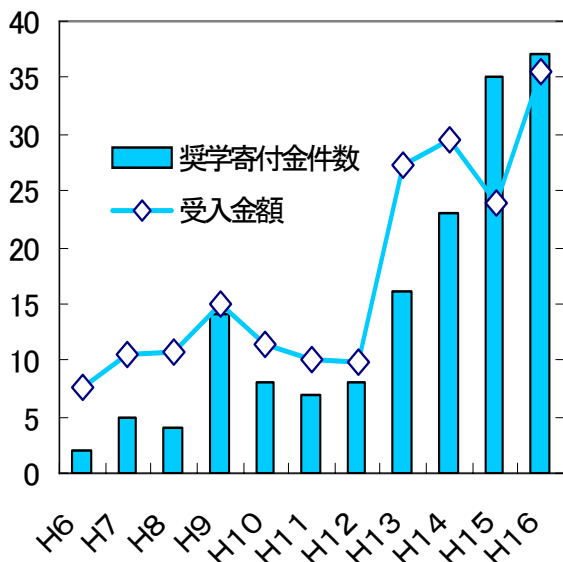


図5 奨学寄付金の推移

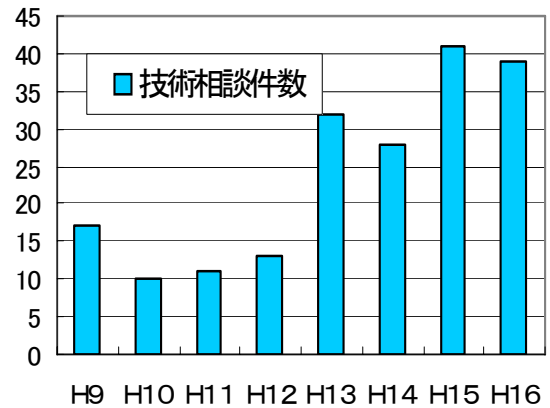


図6 技術相談件数の推移

(出典 松江工業高等専門学校 自己点検・自己評価書 平成18年)

資料 A-1-②-2

5. 研究活動 Annual Report 2005 研究業績

5.2 研究業績

5.2.1 学位取得状況

学位	校長	人文	数理	機械	電気	電子制御	情報	環境・建設	計
博士	1	0	7	11	9	8	9	8	53
修士	—	8	2	0	1	1	1	1	14
現員	1	15	10	11	10	11	10	11	79

5.2.2 学科別研究成果発表状況

	著書	査読論文	国際会議	学会発表	その他	特許	計
人文科学科	3	3 (+2)	7 (+1)	7 (+2)	7		20 (+5)
数理科学科		4 (+2)		13 (+4)	1		18 (+6)
機械工学科		11 (+4)	14 (+1)	24 (+5)	8 (+2)		57 (+12)
電気工学科	3	5 (+1)	9 (+3)	36 (+15)	3 (+7)	1	57 (+26)
電子制御工学科	1	5 (+1)	7 (+6)	11 (+4)			24 (+11)
情報工学科	3	4 (+2)	5 (+2)	51 (+20)			63 (+24)
環境・建設工学科	1	7 (+3)	11 (+5)	35 (+10)	6 (+2)		60 (+20)
実践教育支援センター		(+1)	(+2)	1 (+6)	(+1)		1 (+10)
合計	11	39 (+16)	46 (+20)	178 (+66)	25 (+12)	1	300 (+114)

共著者が複数数学科にまたがる場合は、第一著者の所属する学科で1件をカウントした。その場合、第一著者以外の学科では外数（+数字）で件数を示した。

■研究成果発表の分類については、以下の通りとする。

1. 著書
2. 査読論文:学術雑誌における発表(解説論文を含む)
3. 国際会議:国際会議、国際シンポジウムなどにおける発表
4. 学会発表:国内の学会等における口頭発表、ポスター発表(技術研究報告を含む)
5. その他:上記以外の発表(研究紀要を含む)
6. 特許

■個人の研究業績については、第一著者でない場合でも、学科内外を問わず全て業績リストに記載した。単著のものは、所属の記載を省略した。

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-3 A

研究活動 Annual Report 2005 教員の活動状況

5.4.2 会議の開催協力

人文科学科

機械工学科

利光和彦
日本機械学会中国四国支部第44期総会・講演会、座長・フェロー賞審査員(2006.3)

高尾 学
日本機械学会第83期流体工学部門講演会、代表オーガナイザー・座長・優秀講演審査員(2005.11)
エトピア科学に関する国際シンポジウム、実行委員(2005.8)

電気工学科

電子制御工学科

高橋信雄
平成16年度電気・情報関連学会中国支部連合大会、優秀論文発表審査員(2005.10)

亀谷 均
第14回計測自動制御学会中国支部学術講演会、実行委員(2005.11)

今尾浩也
日本物理学会中国支部・四国支部、応用物理学会中国四国支部、2005年度支部学術講演会、実行委員(2005.7)
日本物理学会中国支部・四国支部、応用物理学会中国四国支部、2005年度支部学術講演会、座長(2005.7)
平成17年度電気・情報関連学会中国支部連合大会、座長・優秀論文発表審査員(2005.10)

松本浩介
日本物理学会中国支部・四国支部、応用物理学会中国四国支部、2005年度支部学術講演会、実行委員(2005.7)
日本物理学会中国支部・四国支部、応用物理学会中国四国支部、2005年度支部学術講演会、座長(2005.7)

戴 鳳習
Member of the Local Arrangement Committee for the International Symposium on Artificial Life and Robotics (人工生命とロボット)国際シンポジウム運営委員会委員、AROB11th(2006.1)

幸田 憲明
第14回計測自動制御学会中国支部学術講演会、座長(2005.11)

情報工学科

堀内 匡
第14回計測自動制御学会中国支部学術講演会、実行委員(2005.11)
第14回計測自動制御学会中国支部学術講演会、座長(2005.11)

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-3 B

研究活動 Annual Report 2005 教員の活動状況

環境・建設工学科

高田龍一
農業土木学会中国・四国支部講演会、座長(2005.10)
土木学会中国支部島根会、研究・事例報告会(2006.1)
しまね呼吸材研究会、顧問(2005, 12)
粉炭研究会(2005, 12)

浅田 純作
土木学会中国支部島根会、研究・事例報告会、座長(2006.1)

木村一郎
日本流体学会 年会 2005、オーガナイザー(2005.8)
第19回数値流体力学シンポジウム、実行委員(2005.12)
第19回数値流体力学シンポジウム、座長(2005.12)

大園 誠
土木学会中国支部島根会、研究・事例報告会、事務局(2006.1)
平成17年度土木学会中国支部研究発表会、座長(2005.5)

柴田俊文
土木学会中国支部島根会、研究・事例報告会、事務局(2006.1)

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-4

研究活動 Annual Report 2005 教員の活動状況

5.4.3 受賞・研究員

受賞

岩田 淳(人文科学科)
平成17年度国立高等専門学校機構主催教育研究会(教育研究分野)文部科学大臣賞

今尾浩也(電子制御工学科)
平成17年度中国・四国工学教育協会賞(2005.7)

渡部 徹(情報工学科)
高専向けの情報基礎教育教科書を作成して情報処理教育の発展に尽くしたとして表彰(2005.8)

堀内 匡(情報工学科)
平成17年度電気学会電子・情報・システム部門大会優秀論文発表賞(2005.9)

文部科学省在外研究員

柴田俊文(環境・建設工学科)
アメリカ合衆国 Northwestern University, EFGM による水～土連成解析(2005.3~2005.9)

共同研究員

山崎 真克(人文科学科)
国文学文献資料調査員「河本家種古有文館・萩市立図書館における国文学文献資料の調査」(2005.4~2006.3)
国文学研究資料館
栗田充志(電気工学科)
LHD 複合電気絶縁系における絶縁信頼性の向上(2004.4~2005.3)
文部科学省核融合科学研究所

学位取得状況

藤井 諭(情報工学科)、静岡大学、2005年9月、博士(情報学)
「使用状況に合わせたインタフェースと教材を提供する学習支援システムの研究」

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-5 A

5. 研究活動 Annual Report 2005 外部研究費受入

5.3.1 文部科学省科学研究費補助金

区分	基礎研究(B) (一般)		基礎研究(C) (海外学術調査)		基礎研究(C) (学術調査)		萌芽的研究		若手研究(A)		若手研究(B)		奨励研究		合計
	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	
18年度	0	0(1)		31(8)			2	0	1	0	19(2)	12	2	65(41)	
17年度		2	1		32(6)			1	0	1	0	19(2)	11	2	66(6)
16年度	0	0(1)	1	0	28(3)	1	0	5	0	1	0	15(3)	13	1	64(7)

申請数には継続申請は含まない。()内の数字は、外数で継続を示す。採択数には前年度で申請したものは含まない。

採択者

研究代表者	研究課題	研究種目	交付額(千円)
福岡 眞澄 (電気工学科)	空間電荷分布測定技術に応用した高時間分解能電荷顕微鏡の開発	基礎研究(B)	3,100
木村 一郎 (機械・建設工学科)	閉鎖性水域における流動と水質の定量子測に向けての数値解析モデルの最適化	基礎研究(C) (継続課題)	700
河原住 一郎 (機械・建設工学科)	土砂斜面土の落下の運動および衝撃力に及ぼす地盤条件の影響	基礎研究(C) (継続課題)	800
利光 和彦 (機械工学科)	衝撃風洞を用いた超音速燃焼流のPIV計測に関する研究	基礎研究(C) (継続課題)	1,900
森田 正利 (人文工学科)	短距離折返し走における折返し動作に関する基礎的研究	基礎研究(C)	1,700
原 元司 (情報工学科)	教育用オープンプラットフォームの構築に関する研究	基礎研究(C)	1,700
藤井 諭 (情報工学科)	3Dとマルチリンガルの教材を持つユビキタスe-Learningの開発	基礎研究(C)	1,000
船島 結実 (人文工学科)	英語言語運用能力育成場面におけるメタファーの効果的利用	基礎研究(C)	1,900
黒田 祐一 (人文工学科)	地籍図を利用した明治初期の詳細な地図の作成に関する研究	基礎研究(C)	400
福岡 久雄 (情報工学科)	2次元記憶拡大情報源に対するコンパクト符号の構造に関する研究	基礎研究(C)	900
箕田 亮志 (電気工学科)	極低温電気絶縁に与える冷媒流動と電荷蓄積現象	若手研究(B) (継続課題)	500

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-5 B

5. 研究活動 Annual Report 2005 外部研究費受入

中村 賢仁 (数理科学科)	非等方熱伝導に起因する降着円盤の不安定性に関する磁気流(継続課題)	若手研究(B)	500
高尾 学 (機械工学科)	往復対応型マイクロロータリンによる低負荷型呼吸量センシング法に関する研究	若手研究(B) (継続課題)	700
和田守 美穂 (情報工学科)	音響分析を用いた映画の副音声同期化システムの開発	若手研究(B)	500
寺本 敦子 (電気工学科)	砂州形状特性が低水時の流路構造に及ぼす影響に関する研究	若手研究(B)	1,800
山本 誠司 (技術室)	豊川流域の砂鉄分布および「たたら」の再考	奨励研究	460
岡田 康 (技術室)	ネットワーク認証システムを用いたキャンパスワイド無線LANシステム	奨励研究	750
17件			計 18,410

5.3.2 共同研究 (2005年4月～2006年2月)

研究担当者	研究名	共同研究企業	研究経費(千円)
中村 賢仁 高木 健司 (電気工学科)	紅発生技術に関する研究	菊エスイーワークス	300
高田 龍一 (機械・建設工学科)	「エコアス」における塗装厚低減効果の実証	山建プラント㈱	200
木村 一郎 (機械・建設工学科)	環境動態シミュレーションモデルの開発 (「三重県地域結集型共同研究事業」に係る研究。地域結集型共同研究事業:独立行政法人科学技術振興機構)	(財)三重県産業支援センター	0
高田 龍一 (機械・建設工学科)	無機系固化材の開発	山建プラント㈱	300
高尾 学 (機械工学科)	「加圧遠心ポンプ」の開発	㈱BEC	250
竜宮 均 (電子制御工学科)	湖底面検出器システムの開発	松江土建㈱	3,000
高田 龍一 (機械工学科)	廃物系前処理物のレディミキストコンクリートへの適応性についての研究	たてのい建設事業協同組合	525
箕田 亮志 (電気工学科)	貝類の冷凍前処理技術の確立	南海洋生物栽培センター	100
高田 龍一* 大屋 誠* 小松原祐二* (*共同研究代表者) (*2技術室)	廃瓦のコンクリート二次製品の研究開発	㈱ツチケン ㈱チコン	1,000
高橋 信雄 (電子制御工学科)	監視システム用太陽光発電システムの開発	高橋根	636
門脇 健 (機械工学科)	廃食用油燃料の燃焼特性に関する研究	浜田化学㈱	250
別府 俊幸 (電気工学科)	AM情報伝達装置の電力消費に関する研究	㈱計画技術研究所 松江事務所	200
計 12件			計 6,761

*「環境動態シミュレーションモデルの開発」については、同名の委託研究経費に基づく共同研究

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-5 C

5. 研究活動 Annual Report 2005 外部研究費受入

5.3.3 委託研究 (2005年4月～2006年2月)

受入教員	研究名	委託者	受入金額(千円)
木村 一郎 (機械・建設工学科)	環境動態シミュレーションモデルの開発 (「三重県地域結集型共同研究事業」に係る研究。地域結集型共同研究事業:独立行政法人科学技術振興機構)	三重県	350
恒次 秀起* 箕田 亮志* 小松原祐二* 山本 誠司* (*1 電気工学科) (*2 技術室)	革新的高含水有機性廃棄物の固液一括処理システムの開発 (地域共生コンソーシアム共同研究事業:経済産業省)	(財)しまね産業振興財団	803
和田守 美穂 (情報工学科)	携帯端末を用いたバス利用サポートシステムの開発	(財)しまね産業振興財団	1,500
箕田 亮志 (電気工学科)	冷凍二枚貝の製造のための前処理装置の開発	(財)しまね産業振興財団	1,500
大屋 誠 柴田 俊文 (機械・建設工学科)	モルタル充填鋼管の曲げ強度に関する研究	邑三建設㈱	60
竜宮 均 (電子制御工学科)	いむがきの生育度検査装置の開発	(財)しまね産業振興財団	1,912
計 6件			計 6,125

5.3.4 奨学寄附金 (2005年4月～2006年2月)

受入教員	研究名	寄付者	受入金額(千円)
衣笠 保智 (電気工学科)	衣笠保智講師に対する研究助成	衣笠 保智	105
武徳 勝道* 高谷 晋文* (*1 数理工学科) (*2 人文工学科)	武徳勝道助手、高谷晋文助教に対する研究助成	武徳 勝道	400
岡本 裕幸 (情報工学科)	岡本教授に対する研究助成	㈱サンエイレンジ ニアリング	500
松江工業高等専門学校	課外教育助成	松江工業高等専門学校後援会	1,000
高尾 学 (機械工学科)	高尾 学に対する研究助成	高尾 学	100
松江工業高等専門学校	松江工業高等専門学校教育助成	松江工業高等専門学校後援会	2,000
松江工業高等専門学校	松江高専教育研究助成	宮本 武明	100
高田 龍一 (機械・建設工学科)	高田教授に対する研究助成	山建プラント㈱	200
高尾 学 (機械工学科)	高尾助教授に対する研究助成	㈱BEC	250
宇野 和男 (機械・建設工学科)	宇野教授に対する研究助成	㈱下桂精工システム	300
高尾 学	高尾 学に対する研究助成	高尾 学	400

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-5 D

5. 研究活動 Annual Report 2005 外部研究費受入

(機械工学科)	施設整備助成	姫塚 育生	1,340
松江工業高等専門学校	課外教育助成及び教育・研究助成	松江工業高等専門学校後援会	2,700
門脇 健 (機械工学科)	門脇 健教授に対する研究助成	㈱山屋 ネットリッチ	80
高尾 学 (機械工学科)	高尾 学に対する研究助成	高尾 学	200
岡本 裕幸 (情報工学科)	岡本裕幸教授に対する研究助成	森山設計事務所	100
松江工業高等専門学校	松江工業高等専門学校教育・研究助成	松江工業高等専門学校後援会	400
高尾 学 (機械工学科)	高尾 学に対する研究助成	高尾 学	200
門脇 健 本間 寛己 (機械工学科)	門脇 健教授・本間寛己助手に対する研究助成	浜田化学㈱	250
高尾 学 (機械工学科)	高尾助教授に対する研究助成	㈱BEC	150
大屋 誠 (機械・建設工学科)	大屋講師に対する研究助成	㈱ウエスコ	500
本間 寛己 (機械工学科)	本間寛己助手に対する研究助成	島根県産業教育振興会	35
岩田 淳 (人文工学科)	岩田 淳助教に対する研究助成	岩田 淳	100
岡本 裕幸 (情報工学科)	岡本裕幸教授に対する研究助成	ウエブロイド	30
松江工業高等専門学校	課外教育助成及び教育・研究助成	松江工業高等専門学校後援会	1,708
松江工業高等専門学校	口笛コン大会に対する助成	萩原 哲男	30
松江工業高等専門学校	学生支援に対する助成	薫 憲治	710
機械工学科教員	機械工学科に対する研究助成	ヒカワ精工㈱	1,000
計 28件			計 14,888

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-6 A

研究活動 Annual Report 2005 教員の活動状況

5.4.4 最近3年間の活動状況一覧

年度	著書	査読論文	国際会議	学会発表	その他	特許	計
平成17年度	9	56	64	233	34	1	348
平成16年度	6	49	57	200	27	5	348
平成15年度	4	56	50	196	23	4	333

文部科学省科学研究費補助金採択

年度	件数	内訳	受入金額(千円)
平成17年度	17	基礎研究(B):1件, 基礎研究(C):9件, 若手研究(B):5件 奨励研究:2件	18,410
平成16年度	16	基礎研究(B):1件, 基礎研究(C):7件, 若手研究(B):7件 奨励研究:1件	15,860
平成15年度	19	基礎研究(B):1件, 基礎研究(C):5件, 若手研究(B):8件 奨励研究:5件	15,520

共同研究

年度	件数	受入金額(千円)
平成17年度	12	6,761
平成16年度	14	3,070
平成15年度	5	1,500

受託研究

年度	件数	受入金額(千円)
平成17年度	6	6,125
平成16年度	6	23,660
平成15年度	4	20,550

奨学寄付金

年度	件数	受入金額(千円)
平成17年度	28	14,888
平成16年度	37	14,175
平成15年度	35	9,530

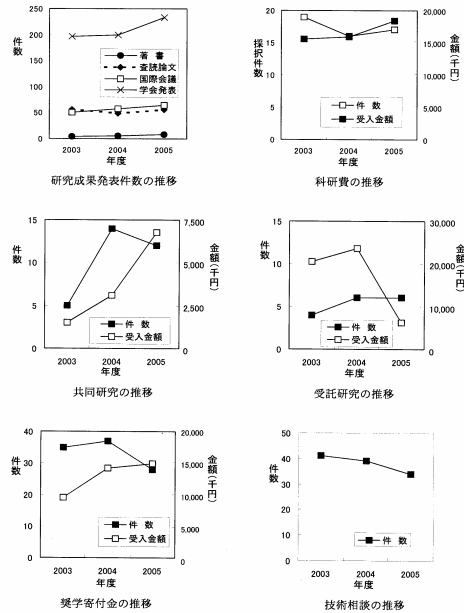
技術相談

年度	件数
平成17年度	34
平成16年度	39
平成15年度	41

(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-6 B

研究活動 Annual Report 2005 教員の活動状況



(出典 Annual Report 2005)

資料 A-1-②-7

・「大和しじみの選別システム」	・「地域産業廃棄物の有効利用」
・「花き育苗システム」	・「地域防災・まちづくり」
・「地域文化である“たたら製鉄”」	・「集落排水処理システム」
・「水産資源加工システム」	・「地域におけるエネルギー供給システム」
・「水浄化システム」	・「環境モニタリングシステム」

表3 実施テーマ例

(出典 松江工業高等専門学校 自己点検・自己評価書 平成18年)

(分析結果とその根拠理由)

科学研究費補助金は、ここ数年、申請件数、採択件数、交付額のいずれも大きく伸びてきている。また、共同研究をはじめとする外部資金導入や技術相談件数も飛躍的に増加している。地域共同テクノセンターを中心とした活動から生まれたものが多く、地域貢献に対する意識が高まり成果が上がってきていると考えられる。研究費は、従来のように与えられるものでなく、自らが確保するという姿勢が根付き、教育や地域貢献のいずれの面においても限られた経費とマンパワーのもとで研究成果をあげてきている。

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

観点9-1-4で分析したように、本校ではFDの一環として、教育に対する評価体制が構築されている。全科目を対象とした学生アンケートや公開授業を行い教育の透明性を確保している。こうした、P-D-C-Aサイクルは、教育のみならず研究さらには学校運営全体にも取り入れており、学内に学外構成員からなる運営評議会を設置し、常に外部有識者の意見を取り入れながら研究活動についても改善を図っている。

さらには、第三者評価機関として外部評価委員会を設け、地域社会の意見を取り入れながら研究活動の充実に努めている。

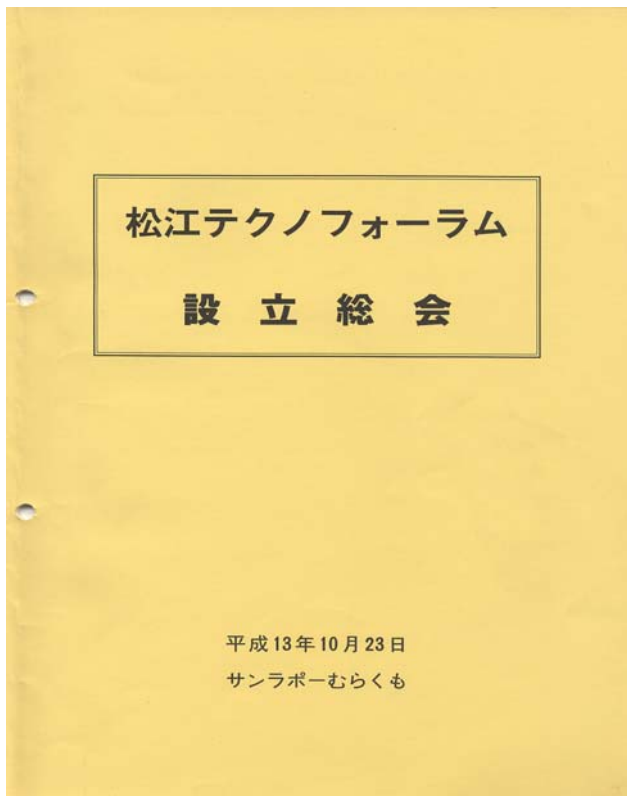
その他、学内措置の一部として次に掲げる項目の取り組みを行っている。

- ① 内地研究員制度を活用し、毎年1名の内地留学を進めている。
- ② 在外研究員制度を活用し、毎年1名の海外留学を進めている。
- ③ プロジェクト研究制度を取り入れ、研究に対する意欲と優れたアイデアを持つ教員に対して、通常の研究費とは別にプロジェクト研究費の配分を行っている。
- ④ 専攻科生に対して、学会発表の際の旅費の補助を行っている。
- ⑤ 専攻科の特別研究や本科の卒業研究の指導教員に対して、指導の人数に対応したメリハリのある研究費の配分方法を取っている。

学外においては、本校教員と地域企業で構成する産学連携組織である「松江テクノフォーラム」を平成13年度に立ち上げ、産学共同研究の母体となるよう、セミナーやシーズ講演会の開催など活発な活動を展開している。(資料 A-1-③-1)、(資料 A-1-③-2)、(資料 A-1-③-3)

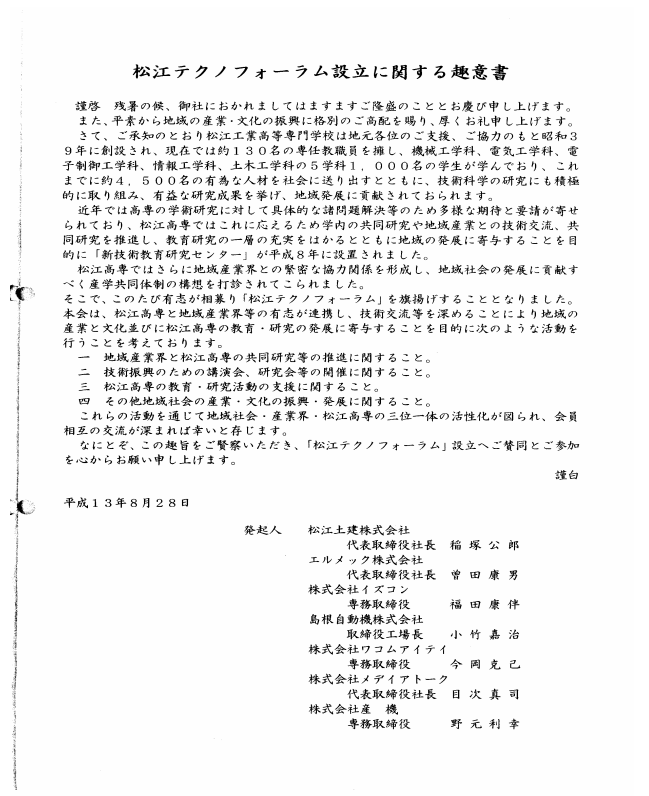
また、教員の研究業績や各種学会・研究会の委員などの対外的研究活動について個人の教育・研究活動が詳しく公開される「Annual Report」の発行は、教員間、学科間の切磋琢磨に大きく貢献している。

資料 A-1-③-1



(出典 庶務課 作成資料)

資料 A-1-③-2



(出典 庶務課 作成資料)

資料 A-1-③-3



(出典 庶務課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

運営評議会、外部評価委員会などによる学校全体のチェック体制、教育・研究活動の年報「Annual Report」発行による個人や学科の研究活動チェックなどが実施され、体制が整備されつつある。専攻科学生の研究活動の充実を含めて、近年は十分な研究成果が得られていることから、研究等の改善を図る体制は有効に機能していると考えられる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育理念に基づいた教育目標『学んで 創れる エンジニア』の育成に沿った研究や地域貢献に関して、専攻科や地域共同テクノセンターを中心にして研究の推進や支援体制を整えている。研究費の配分方法の見直しなど限られた経費とマンパワーのもとで成果を上げる体制を整えている。その結果、科学研究費補助金や共同研究をはじめとする外部資金導入など、近年は大きく伸びてきている。また、現代GP「地域ニーズ対応型教育の実践—地域活性化への貢献(地元密着型)」の採択など、研究や地域貢献のいずれの面においても成果が得られてきている。

(改善を要する点)

特に改善する点はないが、地元との連携を密にし、継続して地域への支援を続けていくことが必要である。

(3) 選択的評価事項の自己評価の概要

本校の教育理念に基づいた教育目標『学んで 創れる エンジニア』の育成に沿った研究や地域貢献に関して、専攻科や地域共同テクノセンターを中心にして研究の推進や支援体制を整えている。プロジェクト研究費や研究助成制度などの施策を進め、限られた研究経費と人員の中で、研究活動の活性化が図られている。

科学研究費補助金や共同研究をはじめとする外部資金導入、あるいは技術相談件数など、申請件数、採択件数、交付額のいずれも近年は大きく伸びてきている。地域共同テクノセンターを中心とした活動が、教員の意識の高まりとともに成果に結びついてきていると考えられる。また、現代GP「地域ニーズ対応型教育の実践—地域活性化への貢献(地元密着型)」の採択に見られるように、研究や地域貢献のいずれの面においても限られた経費とマンパワーのもとで成果をあげてきている。また、教育・研究活動の年報「Annual Report」発行による個人や学科の研究活動チェックなどが教員間の切磋琢磨に結びつき、専攻科学生の研究活動の充実を含めて、研究成果が増えつつあり、研究等の改善を図る体制は有効に機能していると考えられる。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

独立行政法人国立高等専門学校機構法には、学生の教育だけでなく「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究を実施すること、及びその他の機構以外の者との連携により教育研究活動を行うこと。」及び「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。」が規定されている。本校ではその趣旨に基づき、社会との連携及び国際交流に関する目標・方針（前掲 資料A-1-①-2）を定め、「本校が有する知的財産を活用した公開講座や工学の芽を育む学校開放事業、あるいは、理工系教育推進事業の支援など多角的に地域の発展につとめる。」としている。

本校では、正規課程の学生以外に以下の事業等を行っている。

(1) 地域社会活動

- ① 地域の人々のために生涯学習の機会提供及び職業人のリフレッシュ教育の一環として公開講座を実施している。公開講座は、公開講座規則に従い各学科において企画し、そのテーマを企画総務室会議で審議・決定している。（資料 B-1-①-1）、（資料 B-1-①-2）
- ② 小・中学生が普段できない活動を体験する機会を提供したり、実験等を通して理工系分野の魅力を広く社会に紹介するために地域の小・中学生を対象として、学校開放事業や本校教員が小・中学校に出向いて行う公開授業（出前授業）をそれぞれ実施している。（資料 B-1-①-3）
- ③ 学校を取り巻く社会に対して専門的分野の紹介・還元を目的とした展示及び講演・演習をそれぞれ実施している。（資料 B-1-①-4）、（資料 B-1-①-5）
- ④ 専門分野の関連企業への貢献として技術相談を実施している。（資料 B-1-①-6）
- ⑤ 教員によっては、個々の専門性を生かして審議会等の委員を務めている。（資料 B-1-①-7）、（資料 B-1-①-8）
- ⑥ 環境・建設工学科では、学科レベルで島根県土木部との間で「包括的連携・協力に関する協定書」を締結している。目的は、諸地域課題への的確な対応、土木及び環境に関連する技術の教育・学術研究及び開発機能の向上を図るとともに地域の活性化、人材育成に寄与することである。（資料 B-1-①-9）

(2) 授業開放

授業科目を学生以外の者に開放するシステムとして、高等専門学校設置基準第21条をうけ科目等履修生規則及び聴講生規則を規定し、要望に応じている。

(3) 施設開放

外部から施設使用の申し出があった時には、その目的、規模等を精査・確認のうえ本校の行事に差し支えない場合に限り許可をしている。

なお、図書館については積極的に外部へ開放している。

(4) 現代GPプログラムでの公開講座

平成17年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに、本校の取組名称「地域ニーズ

対応型教育の実践」が、テーマ番号1「地域活性化への貢献（地元密着型）」に採択された。本取組みは、「地域密着型研究開発テーマの実施」と「地域産業論の開講」の二つの大きなテーマから成り立っている。地域産業論は正規課程学生のみならず、地域企業・地域社会への教育効果が期待できるカリキュラムを構築することで新たな学校の役割を模索し、地域のエンジニアも含め、将来地域で活躍できる優秀なエンジニアをより多く育成するため、実践的知識を学習できることが可能な新たな地域活性化のための教育モデルを構築したものである。（資料 B-1-①-10）、（資料 B-1-①-11）、（資料 B-1-①-12）（資料 B-1-①-13）

資料 B-1-①-1

松江工業高等専門学校公開講座規則

昭和59年4月1日 制定
平成16年4月1日 最終改正

（趣旨）

第1条 松江工業高等専門学校学則第56条第2項の規定に基づき、この規則を定める。

（目的）

第2条 公開講座は、本校の教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会における文化の向上に資することを目的とする。

（開設時期及び時間等）

第3条 公開講座は、授業に支障のない、時期に開設する。

2 公開講座は、本校の諸施設を使用して行う。ただし、必要がある場合は、本校外で実施することができる。

（講師）

第4条 公開講座の講師は、本校の職員とし、校長が任命する。ただし、必要がある場合は、本校外から講師を委嘱することができる。

（修了証書）

第5条 公開講座において、所定の時間の3分の2以上出席した者には、修了証書を授与することができる。

（講習料）

第6条 講習料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校規則第35号）に基づき定められた額とする。

2 講習料は、公開講座の受講申込みを受理するとき徴収するものとする。

3 既納の講習料は、返還しない。

（庶務）

第7条 公開講座の事務は、庶務課において処理する。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。

……略……

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（出典 松江工業高等専門学校 規則集）

資料 B-1-①-2

6. 地域・社会活動 Annual Report 2005 公開講座

6.1 公開講座

講座名	期日 時間数	講師	受講対象者	受講 者数	会場
CALS/ECのためのIT講習会	9/9・16 5時間	大屋 誠	市民一般	23	本校
機械工作法における金剛加工技術	12/2 6時間	郡原 宏・坪倉公治 山本誠司・本多将和 泉 大樹・奥原真哉	市町村職員	5	本校
トランジスタを使って工作しよう	12/6 3時間	渡邊 隆治・菅田充 志・片山 優	本庄中学校 2年生	27	本庄 中学校

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-3

6. 地域・社会活動 Annual Report 2005 学校開放

6.2 学校開放事業

事業名	期日	講師	分類	会場
小・中学生のためのロボット工作	7/18	別府俊幸・菅田充志・ 衣笠保智・渡邊修治・ 川島久明	学校開放事業	本校
中学生のための電子工作 ～光センサーを使った 自動走行ロボット～	7/23	高橋信雄・高尾 学	学校開放事業	サンワ 木 次
チャレンジ！電子工作	8/9～11	川島久明・川見昌泰・ 内村和弘・岡田 康・ 池田総一郎	学校開放事業	本校
作って遊べるロボット工作 ～マイコンを使った自走ロボット～	8/12	高橋信雄・松本浩介・ 幸田憲明	学校開放事業	本校
竹とんぼを作って飛行機が飛ぶわけを 学ぼう	8/20	福田恭司・岡田 康 池田総一郎・奥田誠一 高尾 学	学校開放事業	本校
金属加工に挑戦しよう！	8/20	山本誠司・本多将和・ 泉 大樹	学校開放事業	本校
手作りメカ工房 「ミニロボコンにチャレンジ」	8/22～24	吉田 剛・板倉邦輔・ 堀江克明・亀谷 均・ 今尾浩也	学校開放事業	本校
メカニクス・レボリューションズ3 ～町の鍛冶屋・たいてい作ろう レター・ブザー～	11/20	新野邊幸市・山本誠司・ 福田恭司・泉 大樹	学校開放事業	本校
メカニクス・レボリューションズ4 ～"ウルトラライトプレーン"を作ろう～	11/20	高尾 学・藤岡美博	学校開放事業	本校

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-4

6. 地域・社会活動 Annual Report 2005 展示

6.3 展示

展示題目	期日	出展者	展示会名(会場)
親子で紙製の橋を製作	7/17	環境・建設工学科	生馬小親子活動
風力・波力タービン展示、ロボコ ンマン展示	8/6・7	機械工学科 電気工学科	島根エネルギーフェスタ (くにびきメッセ)
紙ブーメラン作成教室、目玉のお やし(自動追尾カメラ)展示	8/5・6	機械工学科 情報工学科	青少年のための科学の祭典 (出雲科学館)
エコランマン展示、ロボコマン ション展示、プロコン作品展示	8/20	機械工学科 電気工学科 情報工学科	松江市ペットボトルロケット大会 (松江市宮路競技場)
立上り介助システム展示、実演	9/1・2・3	電子制御工学科	第20回リハビリテーション工学 カンファレンス(佐賀市文化会館)
ロボコマンシン実演、各学科研究 パネル展示	10/2	電気工学科	環境フェスティバル in はまだ (島根県立大学)
ロボコマンシン実演	10/8	電気工学科	松江市子ども遊びのフェスティバル (松江市総合体育館)
エコランマン展示、立上り介助 システム展示	11/5・6	機械工学科 電子制御工学科	中海ものづくりフェスタ (くにびきメッセ)
紙ブーメラン作成教室、ロボコ マン展示	11/6	機械工学科 電気工学科	川津小学校ファミリーフェスタ (川津小学校)
ロボットコンテスト実演(米子高 専と対戦)、エコランマン展示、 ロボコマンシン展示、プロコン作 品の展示、立上り介助システム展 示、二足歩行ロボット、人工筋肉 の展示	11/12・13	機械工学科 電気工学科 情報工学科 電子制御工学科 環境・建設工学科	21世紀出雲産業見本市 2005 (出雲ドーム)
ロボコマンシン展示	11/13	電気工学科 ロボット研究部	名尾が丘祭り(生馬公民館)
ロボコマンシン実演及びパネルデ ィスセッション	12/1	電気工学科	ものづくり・ひとづくり地域フェ スティバル in 島根(ホテル一畑)
「トランジスタを使って工作をし よう」の実施	12/6	電気工学科	松江市立本庄中学校への出張授業 (本庄中学校)
可搬設置型モニタリングシステム 展示	12/8・9	菅田充志	中国四国ブロック産学官連携ビジ ネスショー (岡山県体育館 桃太郎アリーナ)
ロボコマンシン展示	12/11	電気工学科	松江ボランティアフェスティバル 2005 (松江市総合福祉センター)

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-5 A

6. 地域・社会活動 Annual Report 2004 講演・講習

6.4 講演・講習

事業名(会場)	期日	講師
山陰中央新報社 SUN-IN ぶんちん会講演「地域産業と技術(高専)教育」	5/24	宮本武明
松江東ロータリー講演「高専と地域社会の共生」	6/2	宮本武明
(協)島根県農工組合創立67周年記念講演会講演「環境と先端技術」(農工会館)	6/21	宮本武明
創生館研究セミナー「松江高専における産学連携の取り組み」(松江市ホテル実道湖)	6/24	高田龍一
島根県における歴史的特徴—近世後期におけるたたら製鉄の経営や松平不昧時代における雷電などの雲州力士を通して—(島根大学、松江市)	7/5	山谷智文
斐川町立斐川東中学校 PTA 教育講演会講演「自立した学生の育成を目指して—一親離れ、子離れのすずめ—(斐川東中学校)	7/14	宮本武明
出雲教育事務所管内小中学校教頭会研修大会講演「高専の法人化と活性化」—トップクラスの国立高専を目指して—(島根県立浜山体育館)	8/25	宮本武明
Asia 2000 Research Presentation, "Recent Developments in Teaching English within the Japanese Education System and Aspects of the Computerized Learning System Developed at MCT" (Waikato Institute of Technology, New Zealand)	9/2	岩田淳
株式会社藤原精工所講演「災害に強い「まちづくり」」(藤原精工所)	10/4	大屋 誠
株式会社藤原精工所講演「初めて学ぶ新素材」(藤原精工所)	10/6	新野邊幸市
中国建設技術交流会「河川・湖沼における水環境問題への数値シミュレーションによるアプローチ」(出雲市、ビッグハート出雲)	10/7	木村 一郎
平成17年度中国・四国地区高等学校校長教育研究協議会講演「活力ある学校の運営について」(サンラボ・むらくも)	10/13	宮本武明
農業農村整備事業研究会講習会「松江高専の新しい動き」(松江市、東急イン)	10/28	高田龍一
ふくやま文学館友の会文学講座「『向う側』を目指し、佇む者たち」(ふくやま文学館、福山市)	12/10	山根繁樹
粉砕灰研究会「粉砕灰のコンクリート添加材としての利用について」(宇クノ・アークしまね)	12/22	高田龍一
移動公民館講演「地名から見た鹿島」(松江市鹿島町佐陀宮内・宮内集会所)	1/25	黒田祐一

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-5 B

6. 地域・社会活動	Annual Report 2004	講演・講習
長期インターンシップシナリオ基礎講演「地域ニーズ対応型教育の実践-松江高等の取り組み-」(長野市, ネルバルク NAGANO)	1/26	高田龍一
移動公民館講演「地名から見た鹿島」(松江市鹿島町佐陀本郷・峯谷集会所)	1/27	黒田祐一
松江商工会議所 議員例会講演「大学と高等 - 高等と地域社会の共生 -」(松江商工会議所)	1/27	宮本武明
まつえ市民大学校・環境カレッジ「地域から発信「産・学・官」の取り組みから」(松江ステックビル, 松江市男女共同参画センター研修室)	2/2	高田龍一
第5回中国超高速ネットワーク連絡協議会(JGN II・ICTフォーラム)講演「JGN IIの活用事例と今後のJGN II利用研究の取組みについて」(松江市, 松江テルサ)	2/2	原 元司
地域密着型地域活性化シンポジウム「ブレ研究を活用した地域の活性化」(松江高等における地域連携)(西小牧市, グランドホテルニュー王子)	2/3	高田龍一
第5回しまね新技術創出セミナー講演「しまねの未来と松江高等」(島根県民会館)	2/17	宮本武明
産学官連携懇談会「松江高等における産学連携の取組み」(松江市, ホテル一畑)	3/22	高田龍一
第1回海洋エネルギーシンポジウム2006(OE2006)講演(佐賀大学海洋エネルギー研究センター)	3/27	高尾 学

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-6 A

地域・社会活動	Annual Report 2005	技術相談
6.5 技術相談		
氏名	相談事項	相談者
飯塚育生	TDR(時間領域解析)に関する相談	株式会社ニッポー鳥根工場
大屋 誠	プレキャスト基礎の設計に関する相談	(株)創生館
大屋 誠	CALS/ECと電子納品について	(株)藤原鐵工所
岡本裕幸	家庭用ビデオ自動追尾装置の開発	森山設計事務所
門脇 健 本間寛己	A重油試験	山陰ネットワーク
門脇 健 本間 寛己	発電機に関する相談	安達商会発電機
門脇 健 本間 寛己	エンジンの燃費向上について	ダイヤモンドコート
小島 肇	地盤固化材を混入した時の設計 CBR について	(株)トクヤマ
柴田俊文	ボール基礎用プレキャストコンクリートの開発	(株)創生館
高田龍一	廃瓦のコンクリートへの利用	石州セメント, 柴尾瓦
高田龍一	廃瓦のコンクリートへの利用の際の耐久性	極東工業
高田龍一	コンクリート舗装の収縮抑制	山陰建設工業
高田龍一	粉塵灰の混和材としての利用	山陰スプリット工業
高田龍一	珪物ダストの充填材としての利用	電気化学工業
高田龍一	人工砂の養生温度	ツチヨシ産業
高田龍一	中国寒冷地におけるコンクリートの表面処理	日本製鉄工業
高田龍一	コンクリート水路の有効利用	佐藤組
高田龍一	珪物スラグの骨材利用	たてぬい工業組合
高田龍一	廃ガラスの加工処理	環境保全センター
高田龍一	コンクリートの表面処理方法	山陰ペイント
高田龍一	コンクリート橋のアルカリ骨材反応	木次土木建築事務所
高田龍一	コンクリートの温度ひび割れ	ショーボンド工業
高田龍一 大屋 誠 小松原祐二	廃瓦のコンクリートへの利用	ツチケン, ランコン
高田龍一 箕田充志 (地域共同テクノ センター主催)	石州瓦に関する研究事業	石州瓦工業組合及び組合に 加盟する瓦メーカー
高見 昭康	帯巻用インサートチップの数値解析	岩崎日立加工所

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-6 B

地域・社会活動	Annual Report 2005	技術相談
新野邊章市	電子部品の品質調査	株式会社ニッポー鳥根工場
藤井諭	Ruby 言語の技術者育成方法について	(財)ふるさとしまね定住財団・ ジョブカフェ鳥根
福岡久雄	温度センサー付 IC タグのケータリング事業への適用	(株)マルシエマシナリー
福岡久雄	携帯電話を用いた史跡案内システム	(株)バイタルリード
福岡久雄	温度センサー付 IC タグのボタン輸送への適用	(財)しまね産業振興財団
箕田充志	冷凍員の処理技術	海洋生物栽培センター
箕田充志	土器破片の計測	武蔵野オフィス
箕田充志	雷に関する相談	大亜工業株式会社
箕田充志 (地域共同テクノ センター主催)	風力発電に関すること	三和電工(株)
箕田充志 高尾学 山根清美 幸田憲明	椎茸の自動収穫	板橋木工所
箕田充志 高田龍一 本間寛己 (地域共同テクノ センター主催)	水素吸蔵合金アクチュエータについて	(株)藤原鐵工所
山根清美 箕田充志 高尾学 高田龍一 (地域共同テクノ センター主催)	山間地の水流を利用した発電の可能性についての相談	足立組

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-7 A

地域・社会活動	Annual Report 2004	地域委員
6.6 地域委員		
人文科学科		
河原健次 鳥根県ラグビーフットボール協会副会長(2005.4~2006.3) (財)鳥根県体育協会常任理事(2005.4~2006.3) 同普及委員長(2005.4~2006.3) 鳥根県学校体育研究会副会長(2005.4~2006.3) 文部科学大臣体育功労者・優良団体表彰審査委員 鳥根県保健体育優良学校審査会委員 松江ラグビースクール校長(2005.4~2006.3)		
森山 泰行 鳥根県バスケットボール協会理事長(2002.4~2007.3)		
飯島睦美 鳥根県スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール運営指導委員会, 委員, 副委員長(2003.9~2006.3) 松江市民生活環境保全審議会, 委員(2005.10~2007.10)		
鳥谷智文 松江地区租税教育推進協議会構成員(2005.4~2006.3) 田儀櫻井家たたら製鉄関連遺跡調査委員(2005.~2005.3) 櫻井家文書調査委員(2005.4~2006.3)		
数理科学科		
岡本信之 鳥根県教育会 副会長(2005.4~2006.3) 高木健司 鳥根県自然環境保全審議会委員(2005.8~2007.8) 高見昭康 鳥根県高等学校野球連盟理事・監事(2005.4~2006.3)		
東原哲男 独立行政法人国立高等専門学校機構 環境報告書作成に係るワーキンググループ 委員長(2005.11~2006.3)		
機械工学科		
高尾 学 松江テクノフォーラム, 事務局長(2005.6~2006.5) 本間寛己		

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-7 B

6. 地域・社会活動	Annual Report 2004	地域委員
財団法人しまね産業振興財団, 熱対策技術研究会, オブザーバー (2005.8~2006.3)		
電気工学科		
別府俊幸 松江テクノフォーラム, 理事 (2003.4~2006.3)		
宮内 肇 島根県公害審査委員候補者(2005.1~2005.12)		
葉田充志 松江テクノフォーラム, 事務局員 (2005.6~2006.5)		
出雲科学アカデミー, 講師 (2005.8)		
中国電力エネルギーアドバイザー (2006.2~2007.1)		
電子制御工学科		
松本浩介 松江テクノフォーラム, 事務局員 (2005.6~2006.5)		
島根県上競技協会情報処理部, 副部長 (2005.4~2006.3)		
堀江克明 松江テクノフォーラム, 理事 (2004.6~2005.5)		
情報工学科		
藤井 諭 古代出雲歴史博物館情報システム構築者選定審査委員会, 委員 (2005.4~2006.3)		
松江市民の健康増進の取組みを目的としたコンソーシアム結成準備委員会, 委員 (2005.4~2006.3)		
(社)島根県情報産業協会, 顧問 (2005.4~2006.3)		
福岡久雄 松江テクノフォーラム, 理事 (2005.4~2006.3)		
原 元司 (財)しまね産業振興財団, しまねe-講習提案競技審査会, 審査委員 (2005.4)		
島根県ギガビットネットワーク連絡協議会委員 (2006.2~2007.3)		
環境・建設工学科		
上田 務 島根グリーン製品認定委員会, 委員 (2004.7~2006.4)		
松江市水道事業経営問題研究会, 委員 (2004.12~2006.11)		
島根県廃棄物処理施設設置検討委員会, 委員 (2005.4~2007.3)		
島根県労働安全審査委員候補者(2005.9~2007.8)		
宍道湖流域下水道終末処理場当維持管理業務総合評価審査委員会, 委員(2005.12~2006.3)		
金子大二郎 島根県地方港湾審議会 会長 (2005.11~2006.10)		
島根県公共事業再評価委員会, 委員 (2005.4~2007.3)		
宇野和男		

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-7 C

6. 地域・社会活動	Annual Report 2004	地域委員
島根県開発審査会, 会長 (2005.4~2006.3)		
島根県松江第五大橋道路景観検討委員会, 委員長(2005.9~2006.3)		
松江都市計画審議会, 委員 (2005.4~2006.3)		
高田 龍一 島根/チキナス産業技術共創委員会, 委員(2005.1~2006.3)		
島根県警科学捜査研究所, 顧問, (2004.4~2006.3)		
(財)道路保全技術センター中国支部, 道路防災ドクター (2005.4~2006.3)		
島根県産業技術センター運営協議会, 委員(2004.5~2006.3)		
松江テクノフォーラム, 理事 (2003.4~2006.3)		
しまね建設 CALS/EC 研究会, 会長 (2003.4~2006.3)		
河原庄 一郎 島根県事業認定審議会, 委員 (2005.4~2006.3)		
島根県廃棄物処理施設設置検討委員会, 専門委員 (2005.4~2006.3)		
江津市公共下水道事業地処理施設環境安全管理委員会, アドバイザー (2005.4~2006.3)		
(財)道路保全技術センター中国支部, 道路防災ドクター (2005.4~2006.3)		
浅田 純作 しまね景観賞審査委員会 審査委員(2005.4~2006.3)		
島根県景観アドバイザー, アドバイザー (2005.4~2006.3)		
松江市公共交通体系検討委員会, 委員 (2005.4~2006.3)		
島根県農業農村整備事業環境情報協議会, 委員 (2005.4~2006.3)		
しまね建設 CALS/EC 研究会, 委員 (2006.4~2006.3)		
NPO 法人社会技術研究所, 理事 (2006.4~2006.3)		
木村 一郎 大橋川まちづくり検討委員会, 委員 (2005.11~2007.11)		
松江市景観審議会, 委員 (2005.8~2007.6)		

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-8

6. 地域・社会活動	Annual Report 2004	課外活動に関する教員の活動状況
6.7 課外活動に関する教員の活動状況		
委 員		
山崎 真克 (人文科学科)		
島根県ハンドボール協会 (理事) (2005.4~2006.3)		
高見 昭康 (数理科学科)		
島根県高等学校野球連盟理事, 監事 (2005.4~2006.3)		
今尾 浩也 (電子制御工学科)		
島根県弓道連盟 (理事(審査担当)) (2004.4~2006.3)		
松江市弓道連盟 (常任理事) (2005.4~2006.3)		
松江弓友会 (理事) (2005.4~2006.3)		
島根県高等学校体育連盟 (弓道専門部理事) (2005.4~2006.3)		
島谷智文 東部地区吹奏楽祭運営委員 (2005.6)		
第46回全日本吹奏楽コンクール島根県大会運営委員 (2005.7)		
第49回全日本吹奏楽コンクール中国大会運営委員 (2005.8)		
金管アンサンブル「ザ・リアルプラス」演奏会実行委員 (2006.1)		
東原新男 島根県ボート協会 (理事) (2005.4~2006.3)		
藤原 豊 松江市テニス協会 (顧問, 監事) (2004.4~2006.4)		
和田守 美穂 (情報工学科)		
島根県バスケットボール協会(理事)(2005.4~2006.3)		
原 元司 (情報工学科)		
第46回全日本吹奏楽コンクール中国大会運営委員 (2005.8)		
松江市テニス協会 (顧問, 監事) (2004.4~2006.4)		
大塚 誠 (環境・建設工学科)		
島根県ラグビーフットボール協会(理事)(2004.4~2006.3)		
木村 一郎 (環境・建設工学科)		
第46回全日本吹奏楽コンクール中国大会運営委員 (2005.8)		

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-9

包括的連携・協力に関する協定書

鳥取県土木部と松江工業高等専門学校環境・建設工学科は、相互の発展に資するため、次とおり包括連携協定を締結する。

(目的)

第1条 本協定は、地域課題への的確な対応、土木及び環境に関連する技術の教育・学術研究及び開発機能の向上を図るとともに、学生の若い力を地域づくりに活かすなど、地域の活性化、人材の育成に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 鳥取県土木部と松江工業高等専門学校環境・建設工学科は次の事項について連携・協力するものとする。

- (1) 地域の土木及び環境技術に関する共同研究の推進
- (2) 土木技術及び地域防災教育に関する普及・啓蒙活動
- (3) 建設産業人材の育成
- (4) 教職員・学生による地域の各種活動への参画の推進
- (5) その他前条の目的を達成するために必要と認められる連携及び協力

(期間)

第3条 本協定の有効期間は、協定締結日から1年間とする。ただし、鳥取県土木部と松江工業高等専門学校環境・建設工学科のいずれかからも改定の手入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(協議)

第4条 本協定に定めるもののほか、連携及び協力の具体的事項及びその他必要な事項については、鳥取県土木部と松江工業高等専門学校環境・建設工学科が協議して別に定めるものとする。

本協定締結の証として本書を2通作成し、署名押印の上、各々1通を保有するものとする。

平成18年(2006年)3月29日

鳥取県松江府殿町1番地
鳥取県



土木部長 伊藤慶幸

鳥取県松江市西生原町14番地4
独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校



宇野和

環境・建設工学科長

(出典 環境・建設工学科)

資料 B-1-①-10

平成17年8月5日

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の採択

内容

松江工業高等専門学校は、文部科学省が公募した平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」の6つのテーマの一つ「地域活性化への貢献（地元密着型）」に応募した。現代GP全体では509件の応募があったが、そのうち地元密着型が一番多く、160件であった。

現在、昨年度にスタートした特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）と上記現代GPは、国公私立大学を通じた競争原理に基づいて優れた取組を選定し、重点的な財政支援を行うプログラムである。この度、本校へ採択の通知があり8月5日発表がなされた。

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）について

文部科学省では、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とした「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」を平成16年度より実施している。特色GPは対象に大学・短大のみであるが、現代GPは今年度より高等専門学校も申請可能となった。

採択状況

- ・ 地元密着型の現代GPでは、中国・四国地区の高専では初めてで唯一の採択
- ・ 島根県では大学・高専を通じて初めての採択
- ・ 本年度「地域活性化への貢献」部門では、中国・四国地区で唯一の採択（昨年度 岡山大学）

取組内容

松江工業高等専門学校が申請した教育プログラムでは、地域自治体と密に連携をとり、テーマに地域問題を扱うことで、地域活性化に寄与し、学生の創造性、実践的知識をはぐくむ教育の高度化を行うことを目的とする。本プログラムは二つの先進的な取組みから成っている。学生の卒業研究などに、地域産業界や地域社会の技術的な地域ニーズを取上げることにより、地元密着型の実践教育を実施し、本校の教育の活性化と高度化を推進すると同時に地域の活性化に貢献する。

二つ目は、学生のみならず、地域企業・地域社会への教育的効果が期待できるカリキュラムを構築することで新たな学校の役割を模索する。地域のエンジニアも含め、将来地域で活躍できる優秀なエンジニアをより多く育成するため、実践的知識を学習できることが可能な新たな授業「地域産業論」を開講する。プログラムで得られた成果をもとに、地域活性化のための教育モデルを構築する。

(出典 庶務課 作成資料)

資料 B-1-①-11 A

「地域産業論」では、産業界・学術研究分野を代表する講師を招き、講演をお聞きしてきた。全ての講演が地域産業活性化につながる示唆に富み、これからの必要とされる技術者像を強くイメージできるものであった。

文科省が資金支援

ロボコン/日本の技術継承
3児兄弟組み立て挑戦

(山陰中央新報 2005年8月6日)

(山陰中央新報 2005年3月6日) 地域の子供たちの工学への興味をひく

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-11 B

【資料3】研修プログラム内容
エンジニアリングデザイン (Engineering Design)・ESP 短期集中研修は、全て英語を媒体とする研修となる。内容は以下の通りで、2ヶ月間の研修において講義・演習を繰り返しながら、習得していく。

① Engineering Design Process の内容と指導方法

1. Problem identification
2. Gathering of information and data
3. Preliminary solution ideas
4. Modeling and analysis
5. Testing
6. Decision
7. Specification
8. Implementation

② ESP: 技術者に必要とされるコミュニケーション能力の指導方法
Improvement of presentation skills, logic and logical expression, professional wiring and pronunciation, fluency, speaking, and other English and communication skills needed by professional engineers on the job.

【資料4】これまでの取り組みと成果

産業界 乗降案内支援ソフト
路線へ入って実地実験

卒業研究をはじめとする学生の取り組みが地域・社会で高く評価されている。地域・社会のニーズ・問題点を取り上げ、取り組む姿勢は特筆に値する。

(山陰中央新報 2006年1月29日)

(山陰中央新報 2005年2月16日)

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-11 C

「環境設備コンテスト」
電動車いす用ボウリング
障がい者施設に設備寄付

中四国地区英語弁論大会 英語検定協会団体表彰

しまね 大賞2005受賞

探検 高専学生

(山陰中央新報 2005年10月10日) (山陰中央新報 2005年11月30日)

(山陰中央新報 2006年1月1日) (山陰中央新報 2005年12月15日)

(山陰経済ウイークリー 2004年6月1日) (山陰中央新報 2005年8月10日)

科研費選択率の高さと続く教科書作成は、松江高専教員の研究者としての資質の高さと、教材作成能力の高さを示すものである。

(出典 Annual Report 2005)

資料 B-1-①-12

平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定取組の概要及び選定理由

大学等名	松江工業高等専門学校		整理番号	1-146
テーマ番号	1	テーマ名	地域活性化への貢献（地元密着型）	
取組名称	地域ニーズ対応型教育の実践			
取組担当者名	環境・建設工学科 教授 高田 龍一			
(取組の概要)				
<p>本教育プログラムは地域自治体と密に連携をとり、テーマに地域問題を扱うことで、地域活性化に寄与し、学生の創造性、実践的知識をはぐくむ教育の高度化を行うことを目的とする。</p> <p>本教育プログラムは2つの先進的な取組みから成っている。学生の卒業研究などに、地域産業界や地域社会の技術的な地域ニーズを取上げることにより、地域密着型の実践教育を実施し、本校の教育の活性化と高度化を推進すると同時に地域の活性化に貢献する。</p> <p>2つ目は、学生のみならず、地域企業・地域社会への教育的効果が期待できるカリキュラムを構築することで新たな学校の役割を模索する。地域のエンジニアも含め、将来地域で活躍できる優秀なエンジニアをより多く育成するため、実践的知識を学習できることが可能な新たな授業「地域産業論」を開講する。プログラムで得られた成果をもとに、地域活性化のための教育モデルを構築する。（松江・出雲圏）</p>				
(選定理由)				
<p>この取組みは、高専が地域ニーズに基盤をおき発展すべきことを、正面切って取上げたという点で高く評価できます。その意味で、地域活性化への貢献（地元密着型）という本プロジェクトに一つの見本ともいえる提案となっています。人材と産業の流出、地域企業の開発能力不足など、全国の地方に共通した問題を解決するために、高専がいかに貢献すべきかを示したお手本ともいってもよいでしょう。</p> <p>学生が積極的に参加する地域密着型研究開発テーマは、シジミの選別など地元産業に直接貢献するものといえます。又、地域産業論は、学生にとっても、地元の方々にも、今後の問題を考える上で、指針を与えるものと思います。</p> <p>本申請とは直接関係はありませんが、科学研究費補助金の採択が急上昇しているのも松江高専のアクティビティを示すものといえましょう。</p>				

(出典 庶務課 作成資料)

資料 B-1-①-13

『地域産業論』日程及び講師一覧

回	講義月日	講師名	講義名	所属等
1	H17年10月 7日	関 満博	地域産業論①（開講）	一橋大学大学院商学研究科 教授
2	10月14日	吉野 勝美	21世紀を支える基盤技術：身の回りの物質・性質から画期的な機能デバイスへ①	大阪大学名誉教授 島根大学客員教授
3	10月21日	吉野 勝美	21世紀を支える基盤技術：身の回りの物質・性質から画期的な機能デバイスへ②	大阪大学名誉教授 島根大学客員教授
4	10月28日	矢野 仁	企業が望む若手技術者 ～世界に通用する県内企業の紹介～	島根県産業創出プロフェッサー 元シャープ 常務取締役
5	11月11日	出川 通	MOT（技術経営）の必要性と具体的考え方	早稲田大学客員教授 (株)テクノ・インテグレーション代表取締役
6	11月18日	松見 芳男	マーケットを念頭に置いたR&D	伊藤忠商事(株)執行役員 先端技術戦略室長
7	11月25日	富田 眞治	コンピュータシステムの今後の展開	京都大学情報学研究科 教授
8	12月 2日	出川 通	MOT（技術経営）の最新状況と実践的応用	早稲田大学客員教授 (株)テクノ・インテグレーション代表取締役
9	12月 9日	片岡 勝	私が育てた社会企業家	島根大学客員教授 市民バンク代表
10	12月16日	片岡 勝	ベンチャービジネス論	島根大学客員教授 市民バンク代表
11	H18年 1月13日	尾野 幹也	地域振興と技術開発①	島根県産業技術センター所長 元三菱マテリアル副社長
12	1月20日	谷 義一	知的財産活用戦略	谷・阿部特許事務所長 弁理士
13	1月27日	谷 義一	演習問題（特許申請等）	谷・阿部特許事務所長 弁理士
14	2月 3日	尾野 幹也	地域振興と技術開発②	島根県産業技術センター所長 元三菱マテリアル副社長
15	2月10日	関 満博	地域産業論②（閉講）	一橋大学大学院商学研究科 教授

(出典 庶務課 作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、1)地域社会活動としての公開講座や学校開放事業、2)授業開放としての履修生や聴講生制度、3)施設開放などを計画的に開催している。特に、本校に限っての特筆すべき事項として、現代G Pの地域産業論の公開講座としての地域への公開は、その目的から本校が地域活性化に貢献できる新たな教育モデルである。

**観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。**

(観点に係る状況)

公開講座、学校開放事業及び公開授業（出前授業）の受講者については、資料（前掲 10-1-②-2 B）のとおりである。アンケート結果を資料（資料 B-1-②-1）に示す。独立行政法人化後、小・中学生が対象の事業は学校開放事業とし、一般人が対象の事業は公開講座として分けて実施してきた。両事業は共に、アンケート結果からは参加者に満足してもらっていることが分かる。小学生が対象の事業は、平成16年ロボットコンテストで全国優勝をしたことが島根県内で松江高専の知名度を押し上げ、参加希望者が急激に伸びた。定員を設けているが、可能な限り希望者を全員受け入れるよう努力している。

小・中学生を対象とした学校開放事業への参加者を数多く集めるためには、日程の設定が重要な要素になっていると考えられる。ほとんどの学校開放時事業は夏休みを中心に行うが、中学校の場合には前半では中学生の島根県内・中国地方規模の体育大会も多く開催される。また、小・中学生共に、夏休みの後半では二学期の準備で学校開放事業参加への気持ちが削がれる傾向がある。

公開講座、学校開放授業及び出前授業の実施については、各学科と広報委員会（平成18年度からは企画総務室のイベント担当専門部会）が連携しながら企画・実施に取り組み、実施後には事務部の庶務課企画調査係が一括して取りまとめ、広報委員会とともにその成果を分析するとともに、点検・評価を次回以降の取組に反映させている。

現代G Pの地域産業論については、毎回正規学生が約200名、正規学生以外の一般の人や企業人が松江テクノフォーラムを通じ毎回5～15名聴講している。この講座の内容は、地元新聞社が発行する「山陰経済ウィークリー」誌へ毎週掲載され、大きな反響を呼んだ。（資料 B-1-②-2）また、講義内容の詳録は一冊の本にまとめられ、好評を得ている。島根県内のある企業においては、新入社員研修で全員に配布されるなど、有効に利用され、一年目ではあるが大きな成果に結びつつある。（資料 B-1-②-3）

資料 B-1-②-1 A

アンケート結果(作って遊べるロボット工作)

1.あなたの学年は？	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小?	中1	中2	中3	中?	
2.今までのあなたの「ものづくり」経験は？	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	?
・ブラモデル工作の回数	2	1		1		3		1				2
・ブラモデル以外の工作の回数	2	1	1	1		4						1
3.あなたは今回の事業をどうして知りましたか？	a.ちらし・ポスター		b.高専HP		c.家族から聞いて		d.友人から聞いて		e.その他			
	6		1		3							
4.この事業への参加は自分から希望しましたか？	a.ポスター等で興味をもった		b.友人から聞いて		c.先生にすすめられた		d.親にすすめられた		e.その他			
	6				1		2		1		かかってにきめた	
5.参加してどうでしたか？	a.大変満足		b.満足		c.特になし		d.不満		e.大変不満			
	2		5		2							
6.講師の指導はどうでしたか？	a.丁寧でよかった		b.特になし		c.厳しかった							
	7		2									
7.これからもこのような事業が開催されたら参加したいですか？	a.参加したい		b.参加したくない		c.内容による							
	7		2									

アンケート結果(中学生のための電子工作)

1.あなたの学年は？	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
2.今までのあなたの「ものづくり」経験は？	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上
・ブラモデル工作の回数	1	1	2	1	1	1		1			4
・ブラモデル以外の工作の回数	1		3			4		2			2
3.あなたは今回の事業をどうして知りましたか？	ちらし・ポスター		高専HP		家族に聞いて		友人にきいて		その他		
	7		2		1		1		1		他の講座に参加して知った
4.この事業への参加は自分から希望しましたか？	ポスター等で興味をもった		友人から聞いて		先生にすすめられた		親にすすめられた		その他		
	6		1				3		2		自分で決めた
5.参加してどうでしたか？	大変満足		満足		特になし		不満		大変不満		
	8		3		1						
6.講師の指導はどうでしたか？	丁寧でよかった		特になし		厳しかった						
	10		2								
7.これからもこのような事業が開催されたら参加したいですか？	参加したい		参加したくない		内容による						
	12										

アンケート結果(小中学生のためのロボット工作)

1.あなたの学年は？	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小?	中1	中2	中3	中?	
2.今までのあなたの「ものづくり」経験は？	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	?
・ブラモデル工作の回数	11	19	8	10	5	8	2	2		1	29	5
・ブラモデル以外の工作の回数	16	7	7	5	7	17	4	2	1	1	19	11
3.あなたは今回の事業をどうして知りましたか？	a.ちらし・ポスター		b.高専HP		c.家族から聞いて		d.友人から聞いて		e.その他			
	70		5		17		7					
4.この事業への参加は自分から希望しましたか？	a.ポスター等で興味をもった		b.友人から聞いて		c.先生にすすめられた		d.親にすすめられた		e.その他			
	46		6				42		5			
5.参加してどうでしたか？	a.大変満足		b.満足		c.特になし		d.不満		e.大変不満			
	76		21		2							
6.講師の指導はどうでしたか？	a.丁寧でよかった		b.特になし		c.厳しかった							
	91		7		1							
7.これからもこのような事業が開催されたら参加したいですか？	a.参加したい		b.参加したくない		c.内容による							
	97				2		したいときはする。					

(出典 松江工業高等専門学校 自己点検・自己評価書)

資料 B-1-②-1 B

アンケート結果(手作りメカ工房～ミニロボコンにチャレンジ！～)

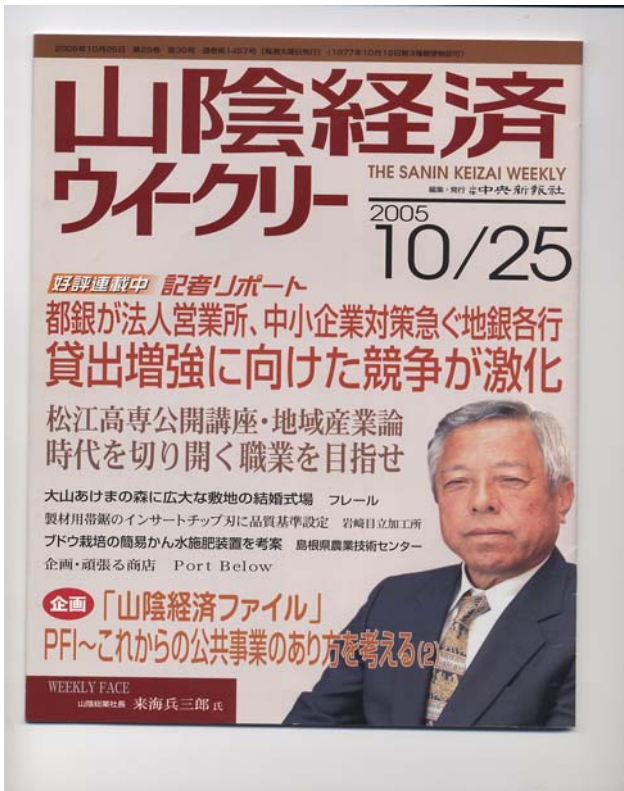
1.あなたの学年は？	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小？	中1	中2	中3	中？		
2.今までのあなたの「ものづくり」経験は？	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	？	
・プラモデル工作の回数	3	1	2	1	2	1		2			8		
・プラモデル以外の工作の回数	1	1		2	1	2	2				9	2	
3.あなたは今回の事業をどうして知りましたか？	a.ちらし・ポスター		b.高専HP		c.家族から聞いて		d.友人から聞いて		e.その他				
	16				1		3						
4.この事業への参加は自分から希望しましたか？	a.ポスター等で興味をもった		b.友人から聞いて		c.先生にすすめられた		d.親にすすめられた		e.その他				
	12		3				4						
5.参加してどうでしたか？	a.大変満足		b.満足		c.特になし		d.不満		e.大変不満				
	12		8										
6.講師の指導はどうでしたか？	a.丁寧でよかった		b.特になし		c.厳しかった								
	16		4										
7.これからもこのような事業が開催されたら参加したいですか？	a.参加したい		①ロボット	②電子工作	③コンピュータ	④プログラミング	⑤金属加工	⑥飛行機	⑦電気	⑧地球環境	⑨建物構造	⑩化学実験	
	20		19	14	9	6	5	5	5	4	3	13	
	b.参加したくない									⑪物理実験	⑫語学	⑬歴史	⑭その他
										5	1	3	0

アンケート結果(金属加工に挑戦しよう！)

1.あなたの学年は？	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小？	中1	中2	中3	中？	
2.今までのあなたの「ものづくり」経験は？	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上	？
・プラモデル工作の回数	4	2	1	1		2				1	3	
・プラモデル以外の工作の回数	4			1		3	1				5	
3.あなたは今回の事業をどうして知りましたか？	a.ちらし・ポスター		b.高専HP		c.家族から聞いて		d.友人から聞いて		e.その他			
	11		1		2							
4.この事業への参加は自分から希望しましたか？	a.ポスター等で興味をもった		b.友人から聞いて		c.先生にすすめられた		d.親にすすめられた		e.その他			
	7						7					
5.参加してどうでしたか？	a.大変満足		b.満足		c.特になし		d.不満		e.大変不満			
	7		6		1							
6.講師の指導はどうでしたか？	a.丁寧でよかった		b.特になし		c.厳しかった							
	13		1									
7.これからもこのような事業が開催されたら参加したいですか？	a.参加したい		b.参加したくない		c.内容による							
	12				2		武器づくり(鉄で)、また今回と同じようなものを作るなら					

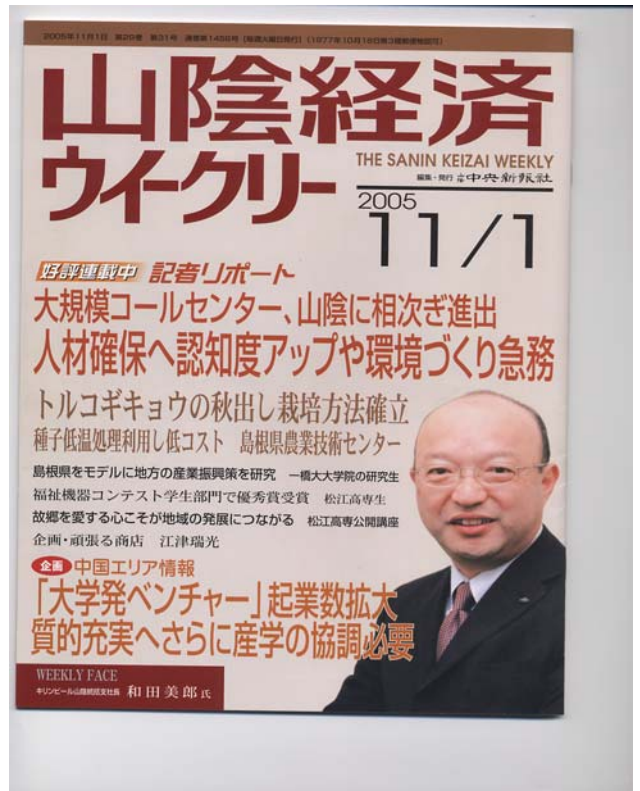
(出典 松江工業高等専門学校 自己点検・自己評価書)

資料 B-1-②-2 A



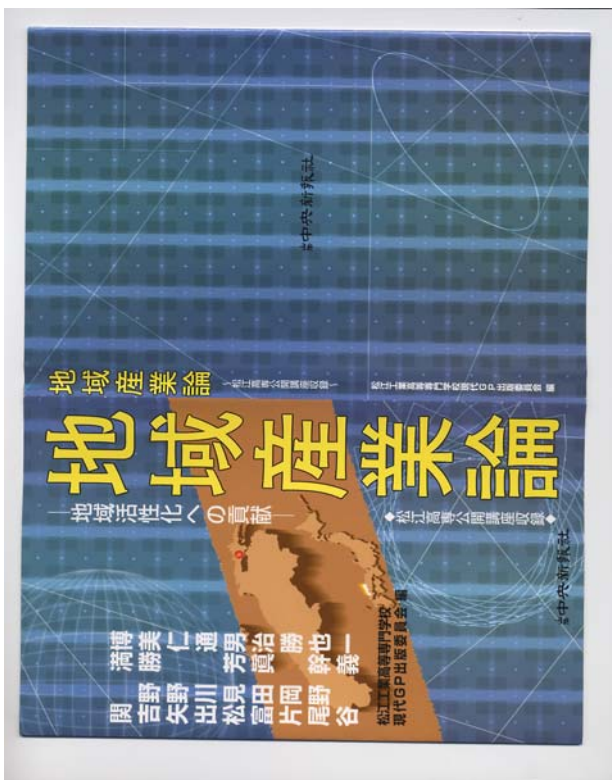
(出典 山陰経済ウイクリー)

資料 B-1-②-2 B



(出典 山陰経済ウイクリー)

資料 B-1-②-3



出典 「地域産業論」表紙

(分析結果とその根拠理由)

学校開放事業や公開講座についての満足度アンケートは毎回実施し、その結果を担当部署の広報委員会（平成18年度からはイベント担当専門部会）において継続的に分析を行い、次年度の実施計画に反映させている。

アンケート結果からみると参加者のほぼ全員が大変満足又は満足と答えている。全体的に活動の成果は長い眼でみななければその結果が判断できない事項もあるが、改善のためのシステムがあり、機能していると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

小中学生を対象とした学校開放事業は、最近では定員を大幅に超す受講希望者があり、終了後のアンケート結果からも満足してもらっていることが分かる。学校開放事業や公開講座については専門部会で要望などを次年度の計画へ反映させている。また、現代GPのプロジェクトに基づく「地域産業論」の公開は、高専の新しい地域貢献の可能性を示している。

(改善を要する点)

現在まで行ってきた事業については、概ね良好な回答を得ているが、小中学校へこちらから出かけていく出張授業の試みは、緒についた段階であり、今後の発展が必要である。

(3) 選択的評価事項の自己評価の概要

本校の教育理念に基づいて定めている「社会との連携及び国際交流に関する目標・方針」に沿って、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、1)地域社会活動としての公開講座や学校開放事業の開催、2)履修生や聴講生を受け入れる体制、3)施設開放などを積極的に行っている。学校開放事業などは、近年定員を超す受講希望があり、地域にその価値を認められている。また、現代GPで採択された「地域ニーズ対応型教育の実践」プログラムの一つの柱である、人材育成のための「地域産業論」を公開講座として地域へも公開し、地域活性化に貢献できる新たな教育モデルを作りつつあることは特筆すべきことである。

各種イベントでは満足度アンケートを実施し、その結果を担当部署の広報委員会（平成18年度からはイベント担当専門部会）において継続的に分析を行い、次年度の実施計画に反映させている。

今後は、小中学校へこちらから出かけていく出張授業の試みを整備拡大していく努力をし、一層地域社会へ貢献したい。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

